五 十 音 順 索 引

5

5－FU軟膏5%協和（5%1g） 212
5mcgチロナミン錠（5μg1錠） 128
5mgセルシン錠（5mg1錠） 1

A

ATP腸溶錠20mg「AFP」（20mg1錠） 190

S

SG配合顆粒（1g） 14

あ

アイピーディカプセル100（100mg1カプセル） 238
アイベータ配合点眼液（1mL） 50
アイミクス配合錠HD（1錠） 67
アイラミド配合懸濁性点眼液（1mL） 51
アクテムラ皮下注162mgオートインジェクター（162mg 0．9mL1キット） 271
アサコール錠400mg（400mg1錠） 116
アジレクト錠0．5mg（0．5mg1錠） 22
アジレクト錠1mg（1mg1錠） 22
アスタット軟膏1%（1%1g） 160
アスパラカリウム散50%（50%1g） 167
アスパラカリウム錠300mg（300mg1錠） 167
アスペノンカプセル20（20mg1カプセル） 62
アスベリン散10%（10%1g） 99
アスベリン錠10（10mg1錠） 99
アスベリンシロップ0．5%（0．5%10mL） 99
アゼルニジピン錠16mg「日医工」（16mg1錠） 68
アゾルガ配合懸濁性点眼液（1mL） 51
アダプチノール錠5mg（5mg1錠） 51
アダラートCR錠10mg（10mg1錠） 79
アダラートCR錠20mg（20mg1錠） 80
アダラートCR錠40mg（40mg1錠） 80
アダリムマブBS皮下注40mgペン0．4mL「CTNK」（40mg0．4mL1キット） 190
アダリムマブBS皮下注80mgペン0．8mL「CTNK」（80mg0．8mL1キット） 191
アーチスト錠10mg（10mg1錠） 68
アーチスト錠2．5mg（2．5mg1錠） 69
アテキュラ吸入用カプセル低用量（1カプセル） 103
アテディオ配合錠（1錠） 69
アデムパス錠1．0mg（1mg1錠） 89
アーテン錠（2mg）（2mg1錠） 22
アドエア100ディスカス28吸入用（28ブリスター1キット） 103
アドエア125エアゾール120吸入用（12．0g1瓶） 103
アドエア250ディスカス60吸入用（60ブリスター1キット） 104
アドエア500ディスカス60吸入用（60ブリスター1キット） 105
アドエア50エアゾール120吸入用（12．0g1瓶） 105
アドシルカ錠20mg（20mg1錠） 89
アトーゼット配合錠LD（1錠） 84
アドナ錠30mg（30mg1錠） 169
アトモキセチン錠10mg「トーワ」（10mg1錠） 28
アトモキセチン錠5mg「トーワ」（5mg1錠） 28
アトラント軟膏1%（1%1g） 160
アナストロゾール錠1mg「トーワ」（1mg1錠） 221
アニュイティ100μgエリプタ30吸入用（30吸入1キット） 106
アノーロエリプタ30吸入用（30吸入1キット） 99
アピドラ注ソロスター（300単位1キット） 139
アフィニトール錠5mg（5mg1錠） 222
アフタッチ口腔用貼付剤25μg（25μg1錠） 116
アヘンチンキ「タケダ」（10%1mL） 276
アポハイドローション20%（20%1g） 50
アミサリン錠125mg（125mg1錠） 62
アミティーザカプセル24μg（24μg1カプセル） 115
アムロジンOD錠5mg（5mg1錠） 80
アメナリーフ錠200mg（200mg1錠） 262
アモバン錠7．5（7．5mg1錠） 1
アリセプトD錠10mg（10mg1錠） 40
アリセプトD錠3mg（3mg1錠） 41
アリセプトD錠5mg（5mg1錠） 41
アーリーダ錠60mg（60mg1錠） 222
アリドネパッチ27．5mg（27．5mg1枚） 42
アリドネパッチ55mg（55mg1枚） 42
アルダクトンA錠25mg（25mg1錠） 66
アルドメット錠250（250mg1錠） 70
アルピニー坐剤50（50mg1個） 15
アルファカルシドールカプセル1．0μg「BMD」（1μg1カプセル） 166
アレグラ錠30mg（30mg1錠） 239
アレグラ錠60mg（60mg1錠） 239
アレサガテープ8mg（8mg1枚） 239
アレジオンLX点眼液0．1%（0．1%1mL） 51
アレジオン錠20（20mg1錠） 239
アレジオン点眼液0．05%（0．05%1mL） 52
アレロック顆粒0．5%（0．5%1g） 240
アロマシン錠25mg（25mg1錠） 223
アンジュ21錠（（21日分）1組） 148
アンプラーグ錠100mg（100mg1錠） 170

い

イオウ・カンフルローション「東豊」（10mL） 161
イクスタンジ錠40mg（40mg1錠） 223
イクセロンパッチ13．5mg（13．5mg1枚） 43
イーケプラ錠250mg（250mg1錠） 5
イトラコナゾール錠100mg「日医工」（100mg1錠） 267
イトリゾールカプセル50（50mg1カプセル） 268
イニシンク配合錠（1錠） 182
イノラス配合経腸用液（10mL） 168
イフェクサーSRカプセル37．5mg（37．5mg1カプセル） 29
イフェクサーSRカプセル75mg（75mg1カプセル） 29
イフェンプロジル酒石酸塩錠20mg「トーワ」（20mg1錠） 90

イブランス錠125mg（125mg1錠） 224
イブランス錠25mg（25mg1錠） 224
イミグラン点鼻液20（20mg0．1mL1個） 78
イミダフェナシンOD錠0．1mg「トーワ」（0．1mg1錠） 149
イリボー錠5μg（5μg1錠） 117
イルトラ配合錠LD（1錠） 70
イルベサルタン錠100mg「DSPB」（100mg1錠） 71
インテバンクリーム1%（1%1g） 154
インフリーカプセル100mg（100mg1カプセル） 15
インライタ錠1mg（1mg1錠） 224
インライタ錠5mg（5mg1錠） 225

う

ヴォトリエント錠200mg（200mg1錠） 226
ヴォリブリス錠2．5mg（2．5mg1錠） 90
ウプトラビ錠0．2mg（0．2mg1錠） 90
ウプトラビ錠0．4mg（0．4mg1錠） 91
ウリアデック錠40mg（40mg1錠） 180
ウルソ錠100mg（100mg1錠） 116
ウルティブロ吸入用カプセル（1カプセル） 100

え

エアゾリンD1（1g） 154
エイベリス点眼液0．002%（0．002%1mL） 52
エクセグラン散20%（20%1g） 6
エクメット配合錠HD（1錠） 182
エクメット配合錠LD（1錠） 183
エクラー軟膏0．3%（0．3%1g） 155
エクロックゲル5%（5%1g） 50
エストリール錠1mg＊（持田）（1mg1錠） 133
エタネルセプトBS皮下注25mgシリンジ0．5mL「MA」（25mg0．5mL1筒） 193
エックスフォージ配合錠（1錠） 71
エナジア吸入用カプセル高用量（1カプセル） 106
エナジア吸入用カプセル中用量（1カプセル） 106
エネーボ配合経腸用液（10mL） 168
エバステルOD錠10mg（10mg1錠） 240
エパデールS600（600mg1包） 171
エパデールS900（900mg1包） 171
エピペン注射液0．15mg（0．15mg1筒） 129
エピペン注射液0．3mg（0．3mg1筒） 129
エピレオプチマル散50%（50%1g） 6
エプクルーサ配合錠（1錠） 263
エフメノカプセル100mg（100mg1カプセル） 133
エペリゾン塩酸塩錠50mg「トーワ」（50mg1錠） 48
エベレンゾ錠100mg（100mg1錠） 193
エベレンゾ錠20mg（20mg1錠） 194
エベレンゾ錠50mg（50mg1錠） 194
エリザス点鼻粉末200μg28噴霧用（5．6mg1瓶） 59
エルカルチンFF錠250mg（250mg1錠） 195
エンタイビオ皮下注108mgペン（108mg0．68mL1キット） 117
エンドキサン錠50mg（50mg1錠） 212
エンレスト錠200mg（200mg1錠） 91

お

オキサロールローション25μg／g（0．0025%1g） 162
オゼックス細粒小児用15%（150mg1g） 260
オテズラ錠10mg（10mg1錠） 195
オテズラ錠20mg（20mg1錠） 196
オテズラ錠30mg（30mg1錠） 196
オパルモン錠5μg（5μg1錠） 171
オプスミット錠10mg（10mg1錠） 92
オフロキサシンゲル化点眼液0．3%「わかもと」（0．3%1mL） 52
オメプラール錠20（20mg1錠） 109
オラペネム小児用細粒10%（100mg1g） 252
オルベスコ200μgインヘラー56吸入用（11．2mg3．3g1キット） 107
オルベスコ50μgインヘラー112吸入用（5．6mg6．6g1キット） 107
オルミエント錠2mg（2mg1錠） 196

か

ガスコン錠40mg（40mg1錠） 108
ガスターD錠20mg（20mg1錠） 109
ガスモチン散1%（1%1g） 117
ガスモチン錠5mg（5mg1錠） 118
ガスロンN・OD錠2mg（2mg1錠） 110
カソデックス錠80mg（80mg1錠） 226
ガチフロ点眼液0．3%（0．3%1mL） 52
カデュエット配合錠4番（1錠） 93
ガナトン錠50mg（50mg1錠） 118
カナリア配合錠（1錠） 183
カバサール錠1．0mg（1mg1錠） 23
ガバペン錠200mg（200mg1錠） 6
ガバペン錠400mg（400mg1錠） 7
カボメティクス錠20mg（20mg1錠） 227
カボメティクス錠60mg（60mg1錠） 227
ガランタミンOD錠4mg「日医工」（4mg1錠） 43
カルタンOD錠500mg（500mg1錠） 93
カルデナリン錠2mg（2mg1錠） 71

き

キックリンカプセル250mg（250mg1カプセル） 94
キネダック錠50mg（50mg1錠） 197
キプレス細粒4mg（4mg1包） 240
キンダベート軟膏0．05%（0．05%1g） 155

く

グラアルファ配合点眼液（1mL） 53
クラシエ桂枝加苓朮附湯エキス細粒（1g） 245
クラシエ柴胡桂枝湯エキス細粒（1g） 245

クラシエ小柴胡湯エキス細粒（1g） 245
クラシエ猪苓湯エキス細粒（1g） 245
クラシエ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス細粒（1g） 245
クラシエ防風通聖散料エキス細粒（1g） 246
グラセプターカプセル0．5mg（0．5mg1カプセル） 198
グラセプターカプセル1mg（1mg1カプセル） 198
クラビット錠500mg（500mg1錠(レボフロキサシンとして)） 261
クラビット点眼液1．5%（1．5%1mL） 53
グラマリール錠25mg（25mg1錠） 44
クラリシッド錠200mg（200mg1錠） 254
クラリス錠50小児用（50mg1錠） 255
クラリチンレディタブ錠10mg（10mg1錠） 240
グランダキシン錠50（50mg1錠） 1
グリベンクラミド錠2．5mg「トーワ」（2．5mg1錠） 184
グルベス配合錠（1錠） 184
クレストール錠5mg（5mg1錠） 84
グレースビット錠50mg（50mg1錠） 261
クレナフィン爪外用液10%（10%1g） 269
クレメジン速崩錠500mg（500mg1錠） 176
クロミッド錠50mg（50mg1錠） 140

け

ケアロードLA錠60μg（60μg1錠） 94
ケイキサレートドライシロップ76%（76%1g） 94
ケタスカプセル10mg（10mg1カプセル） 241
ケフラール細粒小児用100mg（100mg1g） 252
ケフレックスカプセル250mg（250mg1カプセル） 252

こ

コスパノンカプセル40mg（40mg1カプセル） 49
コソプト配合点眼液（1mL） 53
コデインリン酸塩錠20mg「第一三共」（20mg1錠） 276
コートン錠25mg（25mg1錠） 130
ゴナトロピン注用5000単位（5000単位1瓶） 122
ゴナールエフ皮下注ペン450（450国際単位0．75mL1筒） 123
コニール錠4（4mg1錠） 81
コメリアンコーワ錠100（100mg1錠） 81
コールタイジン点鼻液（1mL） 59
コルヒチン錠0．5mg「タカタ」（0．5mg1錠） 180
コレチメント錠9mg（9mg1錠） 118
コレバイン錠500mg（500mg1錠） 85
コンサータ錠18mg（18mg1錠） 30
コンサータ錠27mg（27mg1錠） 30
コントミン糖衣錠25mg（25mg1錠） 31
コンバントリン錠100mg（100mg1錠） 272
コンプラビン配合錠（1錠） 172
コンベック軟膏5%（5%1g） 155

さ

サアミオン錠5mg（5mg1錠） 94
ザイザル錠5mg（5mg1錠） 241
ザイティガ錠250mg（250mg1錠） 228
サイトテック錠100（100μg1錠） 110
ザイロリック錠100（100mg1錠） 180
サインバルタカプセル30mg（30mg1カプセル） 31
ザガーロカプセル0．5mg（0．5mg1カプセル） 140
ザクラス配合錠HD（1錠） 72
ザジテン点鼻液0．05%（6．048mg8mL1瓶） 59
ザジテンドライシロップ0．1%（0．1%1g） 241
ザラカム配合点眼液（1mL） 53
サラジェン顆粒0．5%（5mg1包） 119
サラゾピリン坐剤500mg（500mg1個） 260
サルタノールインヘラー100μg（0．16%13．5mL1瓶） 100
ザルティア錠2．5mg（2．5mg1錠） 150
サンコバ点眼液0．02%（0．02%5mL1瓶） 54
サンリズムカプセル50mg（50mg1カプセル） 63

し

シアノコバラミン点眼液0．02%「杏林」（0．02%5mL1瓶） 54
シアリス錠20mg（20mg1錠） 150
ジクアスLX点眼液3%（3%5mL1瓶） 54
シグマート錠5mg（5mg1錠） 81
ジゴシン散0．1%（0．1%1g） 61
ジゴシン錠0．25mg（0．25mg1錠） 61
ジフルカンカプセル100mg（100mg1カプセル） 269
シベノール錠100mg（100mg1錠） 63
シベノール錠50mg（50mg1錠） 63
シムビコートタービュヘイラー60吸入（60吸入1キット） 107
ジャドニュ顆粒分包360mg（360mg1包） 176
ジャドニュ顆粒分包90mg（90mg1包） 177
静注用フローラン0．5mg（0．5mg1瓶） 95
静注用フローラン専用溶解液（50mL1瓶） 95
ジルテック錠10（10mg1錠） 242
シンフェーズT28錠（(28日分)1組） 149
シンメトレル錠50mg（50mg1錠） 23

す

スージャヌ配合錠（1錠） 185
スチックゼノールA（10g） 155
スチバーガ錠40mg（40mg1錠） 228
ステロネマ注腸3mg（3．95mg1個） 130
ストロカイン錠5mg（5mg1錠） 47
スピリーバ吸入用カプセル18μg（18μg1カプセル） 100
スピール膏M（25平方cm1枚） 161
ズファジラン錠10mg（10mg1錠） 82
スプレキュア点鼻液0．15%（15．75mg10mL1瓶） 141

せ

セイブル錠50mg（50mg1錠） 185
セキソビット錠100mg（100mg1錠） 141

ゼジューラ錠100mg（100mg1錠） 229
セディール錠10mg（10mg1錠） 1
セパゾン錠1（1mg1錠） 2
ゼビアックスローション2%（2%1g） 154
セファドール錠25mg（25mg1錠） 60
ゼフィックス錠100（100mg1錠） 263
セフジニルカプセル100mg「日医工」（100mg1カプセル） 253
セフゾンカプセル100mg（100mg1カプセル） 253
ゼポラスパップ40mg（10cm×14cm1枚） 155
セルセプトカプセル250（250mg1カプセル） 199
セルタッチパップ70（10cm×14cm1枚） 156
セルニルトン錠（1錠） 150
セルベックスカプセル50mg（50mg1カプセル） 110
セルベックス細粒10%（10%1g） 111
セレジストOD錠5mg（5mg1錠） 44
セレニカR錠200mg（200mg1錠） 7
セレニカR錠400mg（400mg1錠） 8
セレベント50ディスカス（50μg60ブリスター1キット） 100
セロクラール錠20mg（20mg1錠） 96
ゼンタコートカプセル3mg（3mg1カプセル） 119

そ

ソグルーヤ皮下注10mg（10mg1．5mL1キット） 123
ソグルーヤ皮下注5mg（5mg1．5mL1キット） 124
ゾビラックス錠200（200mg1錠） 263
ソマバート皮下注用10mg（10mg1瓶（溶解液付）） 141
ソマバート皮下注用15mg（15mg1瓶（溶解液付）） 142
ソリクア配合注ソロスター（1キット） 186
ソリターT配合顆粒3号（4g1包） 168

た

ダイアート錠30mg（30mg1錠） 66
タイケルブ錠250mg（250mg1錠） 230
タガメット錠200mg（200mg1錠） 111
タクロリムスカプセル0．5mg「VTRS」（0．5mg1カプセル） 200
タケルダ配合錠（1錠） 172
タチオン錠100mg（100mg1錠） 177
タナトリル錠5（5mg1錠） 72
タプコム配合点眼液（1mL） 54
タプロス点眼液0．0015%（0．0015%1mL） 55
ダーブロック錠2mg（2mg1錠） 201
ダーブロック錠4mg（4mg1錠） 201
タリオン錠10mg（10mg1錠） 242
タリムス点眼液0．1%（0．1%5mL1瓶） 55

ち

チアトンカプセル10mg（10mg1カプセル） 48
チガソンカプセル10（10mg1カプセル） 166
チクロピジン塩酸塩錠100mg「サワイ」（100mg1錠） 173
チモプトール点眼液0．5%（0．5%1mL） 55
沈降炭酸カルシウム「ケンエー」（10g） 114

つ

ツイミーグ錠500mg（500mg1錠） 186
ツートラム錠100mg（100mg1錠） 15
ツムラ茵ちん蒿湯エキス顆粒（医療用）（1g） 246
ツムラ温経湯エキス顆粒（医療用）（1g） 246
ツムラ乙字湯エキス顆粒（医療用）（1g） 246
ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒（医療用）（1g） 246
ツムラ桂枝加芍薬湯エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ桂枝湯エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ香蘇散エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ五積散エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ呉茱萸湯エキス顆粒（医療用）（1g） 247
ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒（医療用）（1g） 248
ツムラ酸棗仁湯エキス顆粒（医療用）（1g） 248
ツムラ四物湯エキス顆粒（医療用）（1g） 248
ツムラ小建中湯エキス顆粒（医療用）（1g） 248
ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）（1g） 248
ツムラ桃核承気湯エキス顆粒（医療用）（1g） 249
ツムラ女神散エキス顆粒（医療用）（1g） 249
ツムラ人参湯エキス顆粒（医療用）（1g） 249
ツムラ半夏白朮天麻湯エキス顆粒（医療用）（1g） 249
ツムラ麻黄湯エキス顆粒（医療用）（1g） 249
ツムラ麻黄附子細辛湯エキス顆粒（医療用）（1g） 250
ツムラ麻子仁丸エキス顆粒（医療用）（1g） 250
ツムラ抑肝散加陳皮半夏エキス顆粒（医療用）（1g） 250
ツムラ竜胆瀉肝湯エキス顆粒（医療用）（1g） 250
ツムラ六味丸エキス顆粒（医療用）（1g） 250

て

ティーエスワン配合OD錠T20（20mg1錠（テガフール相当量）） 212
ティーエスワン配合OD錠T25（25mg1錠（テガフール相当量）） 213
ティーエスワン配合カプセルT20（20mg1カプセル（テガフール相当量）） 215
ティーエスワン配合カプセルT25（25mg1カプセル（テガフール相当量）） 216
ティーエスワン配合顆粒T20（20mg1包（テガフール相当量）） 217
ティーエスワン配合顆粒T25（25mg1包（テガフール相当量）） 218
ディオバン錠160mg（160mg1錠） 72
ディオバン錠80mg（80mg1錠） 73
ディナゲスト錠0．5mg（0．5mg1錠） 142
ディビゲル1mg（1mg1包） 134
ディレグラ配合錠（1錠） 242
デエビゴ錠5mg（5mg1錠） 44
テオドール錠100mg（100mg1錠） 101
デカドロン錠4mg（4mg1錠） 131
テクスメテン ユニバーサル クリーム0．1%（0．1%1g） 156
テグレトール細粒50%（50%1g） 8

テグレトール錠100mg（100mg1錠） 9
デザレックス錠5mg（5mg1錠） 243
デソパン錠60mg（60mg1錠） 142
デタントール0．01%点眼液（0．01%1mL） 55
テトラミド錠10mg（10mg1錠） 32
テノーミン錠50（50mg1錠） 64
デパケンR錠200mg（200mg1錠） 10
デパス錠0．5mg（0．5mg1錠） 32
デベルザ錠20mg（20mg1錠） 186
デュオトラバ配合点眼液（1mL） 56
デュファストン錠5mg（5mg1錠） 134
デュロテップMTパッチ2．1mg（2．1mg1枚） 276
デュロテップMTパッチ4．2mg（4．2mg1枚） 277
デュロテップMTパッチ8．4mg（8．4mg1枚） 278
テリボン皮下注28．2μgオートインジェクター（28．2μg1キット） 128
テルネリン錠1mg（1mg1錠） 49
テレミンソフト坐薬2mg（2mg1個） 115

と

トビエース錠4mg（4mg1錠） 151
トビエース錠8mg（8mg1錠） 151
トピナ錠100mg（100mg1錠） 10
トブラシン点眼液0．3%（3mg1mL） 56
トフラニール錠10mg（10mg1錠） 33
ドボネックス軟膏50μg／g（0．005%1g） 162
ドボベットゲル（1g） 162
ドボベット軟膏（1g） 163
ドボベットフォーム（1g） 163
トラディアンス配合錠AP（1錠） 187
トラバタンズ点眼液0．004%（0．004%1mL） 56
ドラール錠15（15mg1錠） 2
トランサミン散50%（50%1g） 169
トリテレン・カプセル50mg（50mg1カプセル） 66
トリプタノール錠25（25mg1錠） 33
トルカプ錠160mg（160mg1錠） 231
トルカプ錠200mg（200mg1錠） 232
ドルナー錠20μg（20μg1錠） 173

な

ナウゼリン錠10（10mg1錠） 119
ナゾネックス点鼻液50μg56噴霧用（5mg10g1瓶） 59
ナパゲルン軟膏3%（3%1g） 156

に

ニコチネルTTS10（（17．5mg）10平方cm1枚） 273
ニコチネルTTS20（（35mg）20平方cm1枚） 274
ニコチネルTTS30（（52．5mg）30平方cm1枚） 274
ニゾラールローション2%（2%1g） 160
ニトロダームTTS25mg（（25mg）10平方cm1枚） 82
ニトロールスプレー1．25mg（163．5mg10g1瓶） 82
ニバジール錠4mg（4mg1錠） 73
ニフラン点眼液0．1%（0．1%1mL） 56
ニュベクオ錠300mg（300mg1錠） 232
ニューロタン錠50mg（50mg1錠） 73

ね

ネイリンカプセル100mg（100mg1カプセル） 270
ネオキシテープ73．5mg（73．5mg1枚） 151
ネオドパストン配合錠L100（1錠） 24
ネオドパストン配合錠L250（1錠） 24
ネシーナ錠25mg（25mg1錠） 187

の

ノベルジン顆粒5%（5%1g） 177
ノベルジン錠25mg（25mg1錠） 178
ノルスパンテープ5mg（5mg1枚） 16
ノルディトロピン フレックスプロ注 10mg（10mg1キット） 124
ノルディトロピン フレックスプロ注 5mg（5mg1キット） 125
ノルバスク錠2．5mg（2．5mg1錠） 82
ノルバデックス錠20mg（20mg1錠） 232

は

バイアグラ錠50mg（50mg1錠） 152
ハイゼット錠25mg（25mg1錠） 164
ハイパジールコーワ点眼液0．25%（0．25%1mL） 57
ハイペン錠200mg（200mg1錠） 17
ハイボン錠20mg（20mg1錠） 166
バクスミー点鼻粉末剤3mg（3mg1瓶） 143
バップフォー錠10（10mg1錠） 152
パナルジン錠100mg（100mg1錠） 174
バファリン配合錠A81（81mg1錠） 174
パフセオ錠150mg（150mg1錠） 202
バラクルード錠0．5mg（0．5mg1錠） 264
パラミヂンカプセル300mg（300mg1カプセル） 17
パリエット錠10mg（10mg1錠） 111
パリエット錠5mg（5mg1錠） 112
ハルシオン0．25mg錠（0．25mg1錠） 2
ハルナールD錠0．2mg（0．2mg1錠） 153
パルミコート200μgタービュヘイラー112吸入（22．4mg1瓶（200μg）） 108
ハルロピテープ16mg（16mg1枚） 25
ハルロピテープ8mg（8mg1枚） 25

ひ

ピオグリタゾンOD錠30mg「NS」（30mg1錠） 187
ビオチン散0．2%「ホエイ」（0．2%1g） 167
ビオフェルミンR錠（1錠） 109
ビ・シフロール錠0．5mg（0．5mg1錠） 26
ピーゼットシー糖衣錠2mg（2mg1錠） 33
ビタメジン配合カプセルB25（1カプセル） 167
ヒダントール錠25mg（25mg1錠） 11
ピートル顆粒分包250mg（250mg1包） 96

ビビアント錠20mg（20mg1錠） 202
ビブラマイシン錠100mg（100mg1錠） 256
ピメノールカプセル50mg（50mg1カプセル） 64
ビラノア錠20mg（20mg1錠） 243
ヒルドイドソフト軟膏0．3%（1g） 169
ヒルドイドフォーム0．3%（1g） 169
ヒルドイドローション0．3%（1g） 170
ヒルナミン錠（5mg）（5mg1錠） 34
ビレーズトリエアロスフィア120吸入（120吸入1キット） 108

ふ

ファムビル錠250mg（250mg1錠） 264
フィアスプ注 フレックスタッチ（300単位1キット） 143
フィコンパ錠4mg（4mg1錠） 11
ブイタマークリーム1%（1%1g） 163
ブイフェンド錠50mg（50mg1錠） 257
フェアストン錠40（40mg1錠） 233
フェノバール錠30mg（30mg1錠） 3
フェブリク錠10mg（10mg1錠） 181
フェブリク錠20mg（20mg1錠） 181
フェマーラ錠2．5mg（2．5mg1錠） 233
フェルビナクテープ70mg「EMEC」（10cm×14cm1枚） 156
フェロミア錠50mg（鉄50mg1錠） 168
フェントステープ1mg（1mg1枚） 279
フェントステープ2mg（2mg1枚） 280
フェントステープ6mg（6mg1枚） 282
フオイパン錠100mg（100mg1錠） 202
フォルテオ皮下注キット600μg（600μg1キット） 129
プラケニル錠200mg（200mg1錠） 203
プラスチベース（10g） 273
プラビックス錠75mg（75mg1錠） 175
フランドルテープ40mg（40mg1枚） 83
フリウェル配合錠LD「モチダ」（1錠） 137
フリバスOD錠75mg（75mg1錠） 153
フリュザクラカプセル1mg（1mg1カプセル） 234
フリュザクラカプセル5mg（5mg1カプセル） 234
フルツロンカプセル200（200mg1カプセル） 219
ブルフェン錠200（200mg1錠） 17
フルメトロン点眼液0．02%（0．02%1mL） 57
プレタールOD錠100mg（100mg1錠） 175
プレタールOD錠50mg（50mg1錠） 176
プレディニンOD錠25（25mg1錠） 203
プレディニンOD錠50（50mg1錠） 204
プレドネマ注腸20mg（20mg1個） 131
プレマリン錠0．625mg（0．625mg1錠） 135
プレミネント配合錠LD（1錠） 74
プログラフカプセル0．5mg（0．5mg1カプセル） 204
フロジン外用液5%（5%1mL） 161
プロセキソール錠0．5mg（0．5mg1錠） 135
フロセミド細粒4%「EMEC」（4%1g） 67
プロタノールS錠15mg（15mg1錠） 61
プロトピック軟膏0．03%小児用（0．03%1g） 163
ブロプレス錠4（4mg1錠） 74
ブロプレス錠8（8mg1錠） 75
プロペシア錠1mg（1mg1錠） 143
フロベン顆粒8%（8%1g） 18
プロマックD錠75（75mg1錠） 113
ブロモクリプチン錠2．5mg「F」（2．5mg1錠） 26
フロモックス錠100mg（100mg1錠） 254
フロリネフ錠0．1mg（0．1mg1錠） 132

へ

ベガモックス点眼液0．5%（0．5%1mL） 57
ペキロンクリーム0．5%（0．5%1g） 161
ベザトールSR錠200mg（200mg1錠） 85
ベージニオ錠100mg（100mg1錠） 235
ベージニオ錠150mg（150mg1錠） 235
ベージニオ錠50mg（50mg1錠） 236
ベストロン点眼用0．5%（5mg1mL（溶解後の液として）） 57
ベセルナクリーム5%（5%250mg1包） 270
ベタニス錠50mg（50mg1錠） 153
ベネット錠17．5mg（17．5mg1錠） 206
ベネット錠75mg（75mg1錠） 206
ヘパリンカルシウム皮下注5千単位／0．2mLシリンジ「モチダ」（5000単位0．2mL1筒） 170
ヘパリン類似物質外用スプレー0．3%「日医工」（1g） 170
ヘパリン類似物質クリーム0．3%「日医工」（1g） 170
ベピオゲル2．5%（2．5%1g） 164
ベプシドカプセル25mg（25mg1カプセル） 220
ベプシドカプセル50mg（50mg1カプセル） 221
ベムリディ錠25mg（25mg1錠） 265
ペリアクチン散1%（1%1g） 238
ベリキューボ錠10mg（10mg1錠） 96
ベリキューボ錠5mg（5mg1錠） 96
ペルサンチン錠25mg（25mg1錠） 83
ヘルベッサーRカプセル100mg（100mg1カプセル） 83
ペンタサ顆粒94%（94%1g） 120
ペンタサ坐剤1g（1g1個） 120
ペンタサ錠500mg（500mg1錠） 120
ペンタサ注腸1g（1g1個） 121
ベンリスタ皮下注200mgオートインジェクター（200mg1mL1キット） 207

ほ

ホクナリンテープ2mg（2mg1枚） 101
ボノサップパック400（1シート） 258
ボノテオ錠50mg（50mg1錠） 207
ボノピオンパック（1シート） 259
ポラキス錠3（3mg1錠） 154
ボラザG軟膏（1g） 149

ポリフル錠500mg（500mg1錠） 121
ボルタレンSRカプセル37．5mg（37．5mg1カプセル） 18
ボルタレンゲル1%（1%1g） 157
ボルタレンサポ12．5mg（12．5mg1個） 19
ボルタレンサポ25mg（25mg1個） 19
ボルタレンサポ50mg（50mg1個） 20
ボルタレン錠25mg（25mg1錠） 20
ボレー外用液1%（1%1mL） 161
ボンゾール錠100mg（100mg1錠） 143
ポンタールシロップ3．25%（3．25%1mL） 21

ま

マイザークリーム0．05%（0．05%1g） 157
マイスタン錠10mg（10mg1錠） 12
マイスリー錠10mg（10mg1錠） 3
マイスリー錠5mg（5mg1錠） 4
マヴィレット配合錠（1錠） 265
マクサルトRPD錠10mg（10mg1錠） 79
マスーレッド錠5mg（5mg1錠） 207
マスーレッド錠75mg（75mg1錠） 208
マーズレンS配合顆粒（1g） 113
マーデュオックス軟膏（1g） 164
マリゼブ錠12．5mg（12．5mg1錠） 188
マンジャロ皮下注10mgアテオス（10mg0．5mL1キット） 144
マンジャロ皮下注12．5mgアテオス（12．5mg0．5mL1キット） 144
マンジャロ皮下注15mgアテオス（15mg0．5mL1キット） 145
マンジャロ皮下注2．5mgアテオス（2．5mg0．5mL1キット） 145
マンジャロ皮下注5mgアテオス（5mg0．5mL1キット） 145
マンジャロ皮下注7．5mgアテオス（7．5mg0．5mL1キット） 146

み

ミオナール錠50mg（50mg1錠） 49
ミグシス錠5mg（5mg1錠） 97
ミコンビ配合錠BP（1錠） 76
ミティキュアダニ舌下錠10000JAU（10000JAU1錠） 243
ミティキュアダニ舌下錠3300JAU（3300JAU1錠） 243
ミニプレス錠0．5mg（0．5mg1錠） 76
ミニリンメルトOD錠120μg（120μg1錠） 126
ミニリンメルトOD錠240μg（240μg1錠） 127
ミニリンメルトOD錠60μg（60μg1錠） 127
ミノマイシン顆粒2%（20mg1g） 257
ミラペックスLA錠0．375mg（0．375mg1錠） 27
ミラペックスLA錠1．5mg（1．5mg1錠） 27
ミルラクト細粒50%（50%1g） 114

む

ムコスタ錠100mg（100mg1錠） 113
ムコソルバンLカプセル45mg（45mg1カプセル） 98
ムコソルバン錠15mg（15mg1錠） 98
ムコダイン錠250mg（250mg1錠） 98

め

メイラックス錠1mg（1mg1錠） 4
メインテート錠5mg（5mg1錠） 64
メキシチールカプセル100mg（100mg1カプセル） 65
メジコン散10%（10%1g） 97
メジコン錠15mg（15mg1錠） 98
メスチノン錠60mg（60mg1錠） 48
メタルカプターゼカプセル100mg（100mg1カプセル） 178
メチコバール錠500μg（0．5mg1錠） 166
メトピロンカプセル250mg（250mg1カプセル） 273
メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠2．5mg「F」（2．5mg1錠） 135
メノエイドコンビパッチ（1枚） 137
メバロチン錠10（10mg1錠） 86
メプチンキッドエアー5μg吸入100回（0．0143%2．5mL1キット） 101
メプチン錠50μg（0．05mg1錠） 102
メプチンミニ錠25μg（0．025mg1錠） 102
メラトベル顆粒小児用0．2%（0．2%1g） 45
メリスロン錠6mg（6mg1錠） 60

も

モディオダール錠100mg（100mg1錠） 34
モビコール配合内用剤LD（6．8523g1包） 115
モーラステープ20mg（7cm×10cm1枚） 157
モーラスパップXR120mg（10cm×14cm1枚） 157

や

ヤーズ配合錠（1錠） 138
ヤーズフレックス配合錠（1錠） 138

ゆ

ユーエフティE配合顆粒T150（150mg1包(テガフール相当量)） 219
ユーゼル錠25mg（25mg1錠） 179
ユニコン錠200（200mg1錠） 102
ユベラNカプセル100mg（100mg1カプセル） 97
ユベラ軟膏（1g） 158
ユリノーム錠50mg（50mg1錠） 181

よ

ヨクイニンエキス散「コタロー」（1g） 250

ら

ラクツロースシロップ65%「タカタ」（65%1mL） 209
ラジカット内用懸濁液2．1%（2．1%1mL） 45
ラシックス錠40mg（40mg1錠） 67
ラジレス錠150mg（150mg1錠） 76
ラスビック錠75mg（75mg1錠） 262
ラニラピッド錠0．05mg（0．05mg1錠） 62
ラベプラゾールNa錠10mg「AA」（10mg1錠） 113

ラミクタール錠100mg（100mg1錠） 12
ラミクタール錠25mg（25mg1錠） 13
ラミシールクリーム1%（1%1g） 161
ラミシール錠125mg（125mg1錠） 270
ランタス注ソロスター（300単位1キット） 146

り

リウマトレックスカプセル2mg（2mg1カプセル） 209
リオベル配合錠HD（1錠） 188
リオベル配合錠LD（1錠） 189
リオレサール錠5mg（5mg1錠） 49
リザベンカプセル100mg（100mg1カプセル） 244
リザベン点眼液0．5%（25mg5mL1瓶） 58
リスパダールOD錠1mg（1mg1錠） 35
リスパダールOD錠2mg（2mg1錠） 35
リスパダール細粒1%（1%1g） 36
リズミック錠10mg（10mg1錠） 97
リスモダンR錠150mg（150mg1錠） 65
リドメックスコーワクリーム0．3%（0．3%1g） 158
リドメックスコーワローション0．3%（0．3%1g） 158
リバゼブ配合錠LD（1錠） 86
リバロOD錠2mg（2mg1錠） 86
リピトール錠10mg（10mg1錠） 87
リフヌア錠45mg（45mg1錠） 108
リベルサス錠14mg（14mg1錠） 147
リベルサス錠3mg（3mg1錠） 147
リベルサス錠7mg（7mg1錠） 147
リボトリール錠0．5mg（0．5mg1錠） 14
リポバス錠5（5mg1錠） 87
リーマス錠200（200mg1錠） 37
リリカカプセル150mg（150mg1カプセル） 45
リルテック錠50（50mg1錠） 46
リレンザ（5mg1ブリスター） 266
リンヴォック錠15mg（15mg1錠） 209
リンヴォック錠7．5mg（7．5mg1錠） 210
リンゼス錠0．25mg（0．25mg1錠） 121
リンデロンーDP軟膏（0．064%1g） 158
リンデロンーVG軟膏0．12%（1g） 159
リンデロン坐剤1．0mg（1mg1個） 132
リンデロン錠0．5mg（0．5mg1錠） 132

る

ル・エストロジェル0．06%（0．06%1g） 136
ルコナック爪外用液5%（5%1g） 271
ルジオミール錠10mg（10mg1錠） 37
ルセフィ錠2．5mg（2．5mg1錠） 189
ルトラール錠2mg（2mg1錠） 136
ルナベル配合錠ULD（1錠） 139
ルパフィン錠10mg（10mg1錠） 244
ルボックス錠25（25mg1錠） 38
ルミガン点眼液0．03%（0．03%1mL） 58
ルリッド錠150（150mg1錠） 256

れ

レイボー錠100mg（100mg1錠） 46
レイボー錠50mg（50mg1錠） 47
レキサルティOD錠2mg（2mg1錠） 38
レクタブル2mg注腸フォーム14回（48mg30．8g1瓶） 122
レザルタス配合錠HD（1錠） 77
レスキュラ点眼液0．12%（0．12%1mL） 58
レスミット錠5（5mg1錠） 4
レスリン錠25（25mg1錠） 40
レニベース錠5（5mg1錠） 77
レバミピド懸濁性点眼液2%「参天」（2%5mL1瓶） 58
レベトールカプセル200mg（200mg1カプセル） 266
レボフロキサシン点眼液0．5%「日点」（0．5%1mL） 58
レミニールOD錠12mg（12mg1錠） 47
レルパックス錠20mg（20mg1錠） 79
レルミナ錠40mg（40mg1錠） 148
レンドルミン錠0．25mg（0．25mg1錠） 4

ろ

ロイケリン散10%（10%1g） 220
ロキソニン錠60mg（60mg1錠） 21
ロキソニンテープ100mg（10cm×14cm1枚） 159
ロキソニンテープ50mg（7cm×10cm1枚） 159
ロキソニンパップ100mg（10cm×14cm1枚） 159
ロコアテープ（10cm×14cm1枚） 160
ローコール錠20mg（20mg1錠） 88
ロサルヒド配合錠LD「ニプロ」（1錠） 78
ロスーゼット配合錠LD（1錠） 88
ロトリガ粒状カプセル2g（2g1包） 89
ロンサーフ配合錠T15（15mg1錠(トリフルリジン相当量)） 237
ロンサーフ配合錠T20（20mg1錠(トリフルリジン相当量)） 237

わ

ワイパックス錠0．5（0．5mg1錠） 5
ワゴスチグミン散(0．5%)（0．5%1g） 48

薬 効 分 類 別 目 次

薬効分類別目次

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1 神経系及び感覚器官用医薬品 1
1．1 中枢神経系用薬 1
1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤 1
1．1．3 抗てんかん剤 5
1．1．4 解熱鎮痛消炎剤 14
1．1．6 抗パーキンソン剤 22
1．1．7 精神神経用剤 28
1．1．9 その他の中枢神経系用薬 40
1．2 末梢神経系用薬 47
1．2．1 局所麻酔剤 47
1．2．3 自律神経剤 48
1．2．4 鎮けい剤 48
1．2．5 発汗剤，止汗剤 50
1．3 感覚器官用薬 50
1．3．1 眼科用剤 50
1．3．2 耳鼻科用剤 59
1．3．3 鎮暈剤 60

2 個々の器官系用医薬品

2 個々の器官系用医薬品 61
2．1 循環器官用薬 61
2．1．1 強心剤 61
2．1．2 不整脈用剤 62
2．1．3 利尿剤 66
2．1．4 血圧降下剤 67
2．1．6 血管収縮剤 78
2．1．7 血管拡張剤 79
2．1．8 高脂血症用剤 84
2．1．9 その他の循環器官用薬 89
2．2 呼吸器官用薬 97
2．2．2 鎮咳剤 97
2．2．3 去たん剤 98
2．2．4 鎮咳去たん剤 99
2．2．5 気管支拡張剤 99
2．2．9 その他の呼吸器官用薬 103
2．3 消化器官用薬 108
2．3．1 止しゃ剤，整腸剤 108
2．3．2 消化性潰瘍用剤 109
2．3．3 健胃消化剤 114
2．3．4 制酸剤 114
2．3．5 下剤，浣腸剤 115
2．3．6 利胆剤 116
2．3．9 その他の消化器官用薬 116
2．4 ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む） 122
2．4．1 脳下垂体ホルモン剤 122
2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤 128
2．4．5 副腎ホルモン剤 129
2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤 133
2．4．8 混合ホルモン剤 137
2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） 139
2．5 泌尿生殖器官及び肛門用薬 148
2．5．4 避妊剤 148
2．5．5 痔疾用剤 149
2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬 149
2．6 外皮用薬 154
2．6．3 化膿性疾患用剤 154
2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤 154
2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤 160
2．6．6 皮ふ軟化剤（腐しょく剤を含む。） 161
2．6．7 毛髪用剤（発毛剤，脱毛剤，染毛剤，養毛剤） 161
2．6．9 その他の外皮用薬 162
2．9 その他の個々の器官系用医薬品 164
2．9．0 その他の個々の器官系用医薬品 164

3 代謝性医薬品

3 代謝性医薬品 166
3．1 ビタミン剤 166
3．1．1 ビタミンA及びD剤 166
3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。） 166
3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。） 167
3．1．9 その他のビタミン剤 167
3．2 滋養強壮薬 167
3．2．2 無機質製剤 167
3．2．5 たん白アミノ酸製剤 168
3．3 血液・体液用薬 169
3．3．2 止血剤 169
3．3．3 血液凝固阻止剤 169
3．3．9 その他の血液・体液用薬 170
3．9 その他の代謝性医薬品 176
3．9．2 解毒剤 176
3．9．4 痛風治療剤 180
3．9．6 糖尿病用剤 182
3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品 190

4 組織細胞機能用医薬品

4 組織細胞機能用医薬品 212
4．2 腫瘍用薬 212
4．2．1 アルキル化剤 212
4．2．2 代謝拮抗剤 212
4．2．4 抗腫瘍性植物成分製剤 220
4．2．9 その他の腫瘍用薬 221
4．4 アレルギー用薬 238
4．4．1 抗ヒスタミン剤 238
4．4．9 その他のアレルギー用薬 238

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品 245
5．2 漢方製剤 245
5．2．0 漢方製剤 245
5．9 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品 250

5．9．0 その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品 250

6 病原生物に対する医薬品

6 病原生物に対する医薬品 252
6．1 抗生物質製剤 252
6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの 252
6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの 254
6．1．5 主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの 256
6．1．7 主としてカビに作用するもの 257
6．1．9 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む。） 258
6．2 化学療法剤 260
6．2．1 サルファ剤 260
6．2．4 合成抗菌剤 260
6．2．5 抗ウイルス剤 262
6．2．9 その他の化学療法剤 267
6．3 生物学的製剤 271
6．3．9 その他の生物学的製剤 271
6．4 寄生動物用薬 272
6．4．2 駆虫剤 272

7 治療を主目的としない医薬品

7 治療を主目的としない医薬品 273
7．1 調剤用薬 273
7．1．2 軟膏基剤 273
7．2 診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 273
7．2．2 機能検査用試薬 273
7．9 その他の治療を主目的としない医薬品 273
7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品 273

8 麻薬

8 麻薬 276
8．1 アルカロイド系麻薬（天然麻薬） 276
8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬 276
8．2 非アルカロイド系麻薬 276
8．2．1 合成麻薬 276

本　文

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1．1 中枢神経系用薬

1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤

5mgセルシン錠（5mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1124017F4049
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ジアゼパム
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】9.7円/1T
【標榜薬効】マイナートランキライザー

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．神経症の不安・緊張・抑うつ
2．うつ病の不安・緊張
3．心身症(消化器疾患，循環器疾患，自律神経失調症，更年期障害，腰痛症，頸肩腕症候群)の身体症候・不安・緊張・抑うつ
4．下記の筋緊張の軽減
脳脊髄疾患に伴う筋痙攣・疼痛
5．麻酔前投薬
【用法用量】成人 1回2～5mg 1日2～4回 内服(外来 1日15mg以内)。
小児 下記量 1日1～3回 分割 内服。
3歳以下 1日1～5mg。
4～12歳 1日2～10mg。
筋痙攣 成人 1回2～10mg 1日3～4回 内服。
適宜増減。
麻酔前投薬 成人 1回5～10mg 就寝前又は術前 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。
3．リトナビル(HIVプロテアーゼ阻害剤)，ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性(薬物依存)，離脱症状(各頻度不明)(痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等)。
2．刺激興奮，錯乱(各頻度不明)。
3．呼吸抑制(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 眠気，ふらつき，眩暈，歩行失調，頭痛，失禁，言語障害，振戦，霧視，複視，多幸症
肝臓 黄疸
血液 顆粒球減少，白血球減少
循環器 頻脈，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，便秘，口渇
過敏症 発疹
その他 倦怠感，脱力感，浮腫
(表終了)

アモバン錠7．5（7．5mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1129007F1026
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ゾピクロン
【メーカー】製)サノフィ 販)田辺三菱製薬 販)中外製薬 販)日医工 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】11.8円/1T
【標榜薬効】睡眠障害改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．不眠症
2．麻酔前投薬
【用法用量】不眠症
成人 1回7．5～10mg 就寝前 内服。
適宜増減，10mgまで。
麻酔前投薬
成人 1回7．5～10mg 就寝前又は術前 内服。
適宜増減，10mgまで。
注意
効能共通
1．少量(高齢者は1回3．75mg)から開始。肝障害では3．75mgから開始。増量時は10mgまでとし，症状の改善に伴い減量。
不眠症
2．就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・エスゾピクロンに過敏症の既往。
2．重症筋無力症。
3．急性閉塞隅角緑内障。
4．本剤で睡眠随伴症状(夢遊症状等)の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性(頻度不明)(薬物依存)，離脱症状(振戦，痙攣発作，不眠等)。
2．呼吸抑制(頻度不明)，炭酸ガスナルコーシス。
3．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等)，黄疸。
4．精神症状(頻度不明)，意識障害(頻度不明)(幻覚，せん妄，錯乱，悪夢，易刺激性，攻撃性，異常行動等)。
5．一過性前向性健忘(頻度不明)，もうろう状態(0．06%)，睡眠随伴症状(夢遊症状等)(頻度不明)。
6．アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 ふらつき，眠気，頭重，頭痛 不快感，眩暈等 錯感覚
肝臓 ALTの上昇 ASTの上昇，AI－Pの上昇
腎臓 蛋白尿 BUNの上昇
血液 白血球減少，ヘモグロビン減少，赤血球減少 血小板減少
消化器 口中のにがみ(8．06%)，口渇 嘔気，食欲不振，口内不快感，胃部不快感等 消化不良
過敏症 発疹 掻痒症
骨格筋 だるさ 倦怠感 脱力感等の筋緊張低下症状
その他 転倒
(表終了)

グランダキシン錠50（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1124026F1022
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】トフィソパム
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】8.2円/1T
【標榜薬効】自律神経調整剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の心悸亢進，発汗，頭痛・頭重，倦怠感等の自律神経症状
更年期障害・卵巣欠落症状，自律神経失調症，頭部・頸部損傷
【用法用量】成人 1回1錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
依存性 薬物依存
精神神経系 眠気，眩暈・ふらつき，不眠，頭痛 不安，焦燥，抑うつ症状，手足のふるえ，しびれ等
消化器 口渇，腹痛，悪心・嘔吐，便秘 食欲不振，下痢等
過敏症 発疹 掻痒感，発熱，顔面浮腫等
肝臓 AST・ALTの上昇等
その他 脱力感，動悸 倦怠感，血圧上昇，ほてり，乳房痛，乳汁分泌，月経異常
(表終了)

セディール錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1129008F2035
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】タンドスピロンクエン酸塩
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】15.5円/1T
【薬価収載日】2007/06/15

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【標榜薬効】セロトニン作動性抗不安剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○神経症の抑うつ，恐怖
○心身症（自律神経失調症，本態性高血圧症，消化性潰瘍）の身体症候，抑うつ，不安，焦燥，睡眠障害
【用法用量】成人　1日30mg　1日3回　分割　内服。
適宜増減，1日60mgまで。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
2．セロトニン症候群（頻度不明）（興奮，ミオクロヌス，発汗，振戦，発熱等）。
3．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，強度の筋強剛，不随意運動，発汗，頻脈等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 眩暈，ふらつき，頭痛，頭重，不眠 振戦，パーキンソン様症状 悪夢
肝臓　AST，ALT，γ－GTPの上昇 AI－Pの上昇
循環器系　動悸 頻脈，胸内苦悶
消化器系　悪心，食欲不振，口渇，腹部不快感，便秘 嘔吐，胃痛，胃のもたれ，腹部膨満感，下痢
過敏症　発疹，蕁麻疹，掻痒感
その他　倦怠感，脱力感，気分不快，四肢のしびれ，目のかすみ 悪寒，ほてり（顔面紅潮，灼熱感等），多汗（発汗，寝汗等），BUNの上昇，尿中NAGの上昇，好酸球増加，CKの上昇 浮腫
（表終了）

セパゾン錠1（1mg1錠）

外　内服　流通
精3

【YJコード】1124014F1038
【薬効分類】1．1．2　催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】クロキサゾラム
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)第一三共
【薬価】5.9円/1T
【標榜薬効】マイナートランキライザー

■効能効果・用法用量

【効能効果】○神経症の不安・緊張・抑うつ・強迫・恐怖・睡眠障害
○心身症（消化器疾患，循環器疾患，更年期障害，自律神経失調症）の身体症候・不安・緊張・抑うつ
○術前の不安除去
【用法用量】神経症の不安・緊張・抑うつ・強迫・恐怖・睡眠障害，心身症の身体症候・不安・緊張・抑うつ
成人　1日3～12mg　1日3回　分割　内服。
適宜増減。
術前の不安除去
0．1～0．2mg／kg　術前　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．刺激興奮（頻度不明），不眠等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気（10．7%），ふらつき（9．1%），眩暈，運動失調，頭痛・頭重，舌のもつれ 見当識障害，不眠，焦燥感，立ちくらみ，視覚異常，嗜眠状態，多弁，振戦 意欲減退 －
肝臓 － － AST上昇 ALT上昇
循環器 － 動悸，低血圧 － －
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，口渇 便秘，胃部不快感 下痢，腹痛 －
過敏症 － 発疹 － 掻痒感
骨格筋 倦怠感，脱力感 － － －
その他 － 性欲減退，尿失禁 － 頻尿
（表終了）

ドラール錠15（15mg1錠）

外　内服　流通
精3

【YJコード】1124030F1029
【薬効分類】1．1．2　催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】クアゼパム
【メーカー】製)久光製薬　販)田辺三菱製薬　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】43.5円/1T
【薬価収載日】1999/08/13
【標榜薬効】睡眠障害改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．不眠症
2．麻酔前投薬
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
不眠症 成人　1回20mg　就寝前　内服。適宜増減，1日最高30mg。
麻酔前投薬 手術前夜　成人　1回15～30mg　就寝前　内服。適宜増減，1日最高30mg。
（表終了）
注意
効能共通
1．少量から開始。増量時は30mgまでとし，症状の改善に伴い減量。
不眠症
2．就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。
4．睡眠時無呼吸症候群。
5．リトナビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
3．呼吸抑制，炭酸ガスナルコーシス（各頻度不明）。
4．精神症状（幻覚，妄想等），意識障害，思考異常，勃起障害，興奮，運動失調，運動機能低下，錯乱，協調異常，言語障害，振戦（各頻度不明）。
5．一過性前向性健忘，もうろう状態（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気・傾眠 ふらつき，頭重感 眩暈，頭痛，ぼんやり感 抑うつ，神経過敏，健忘，不眠，昏迷，心悸亢進，尿失禁，歩行異常，リビドー減退，感情鈍麻，魔夢，多幸感，不安，運動過多，知覚異常，味覚倒錯，口内乾燥
肝臓　AST，ALT，LDHの上昇 肝機能障害，黄疸
消化器　口渇，悪心，食欲不振，胃痛，腹痛 嘔気・嘔吐，消化不良，下痢，便秘，口臭
過敏症　発疹
骨格筋　倦怠感 下肢倦怠感，膝脱力等の筋緊張低下症状
眼　眼瞼浮腫（眼痛） 眼の異常，視力異常
耳　耳鳴
皮膚　掻痒
その他　発汗 無力，疲労，悪寒，排尿困難，尿閉，ほてり，潮紅
（表終了）

ハルシオン0．25mg錠（0．25mg1錠）

外　内服　流通
精3

【YJコード】1124007F2026
【薬効分類】1．1．2　催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】トリアゾラム
【メーカー】製)ファイザー　販)カビ・ファルマシア
【薬価】7.8円/1T
【標榜薬効】睡眠導入剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．不眠症
2．麻酔前投薬
【用法用量】不眠症
成人　1回0．25mg　就寝前　内服。高度不眠症　0．5mgまで。適宜増減，高齢者　1回0．125～0．25mgまで。
麻酔前投薬
手術前夜 成人　1回0．25mg　就寝前　内服。必要時　0．5mgまで。
注意
効能共通
1．眠気，眩暈，ふらつき，健忘等が用量依存的にあらわれるので，少量（1回0．125mg以下）から開始。増量時は0．5mgまでとし，症状の改善に伴い減量。
不眠症
2．就寝直前に服用。健忘の報告があるので，薬効消失前に活動を開始する可能性がある時は服用しない。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤に過敏症の既往。
2. 急性閉塞隅角緑内障。
3. 重症筋無力症。
4. 下記の投与患者
イトラコナゾール，ポサコナゾール，フルコナゾール，ホスフルコナゾール，ボリコナゾール，ミコナゾール，HIVプロテアーゼ阻害剤(アタザナビル硫酸塩，ダルナビル エタノール付加物，ホスアンプレナビルカルシウム水和物，リトナビル，ロピナビル・リトナビル)，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル フマル酸，コビシスタット含有製剤，エファビレンツ。
5. 本剤で睡眠随伴症状(夢遊症状等)の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 薬物依存(頻度不明)，離脱症状(頻度不明)(痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等)。
2. 精神症状(頻度不明)(刺激興奮，錯乱，攻撃性，幻覚，妄想，激越等)。
3. 呼吸抑制(頻度不明)，炭酸ガスナルコーシス。
4. 一過性前向性健忘(0．12%)，もうろう状態(0．05%)，睡眠随伴症状(夢遊症状等)(頻度不明)。
5. 肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)。
6. ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(発疹，血管性浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気(14．3%)，ふらつき(9．0%)，頭重(5．1%)，頭痛(4．2%)，眩暈(2．9%)，協調運動失調(1．1%) 舌のもつれ，耳鳴，焦燥感，霧視 不安，不眠，不快感，言語障害，見当識障害，意識混濁，視覚異常(散瞳，羞明，眼精疲労)，多夢，魔夢，知覚減退，転倒，多幸症，鎮静
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
消化器 下痢 口渇，心窩部不快感，食欲不振，悪心・嘔吐，腹痛 便秘
循環器 動悸，胸部圧迫感 血圧上昇，血圧降下
過敏症 発疹，掻痒
骨格筋 倦怠感(11．1%) 脱力感等の筋緊張低下症状
その他 味覚変化 皮下出血，尿失禁，便失禁，尿閉，CK上昇
(表終了)

フェノバール錠30mg（30mg1錠）

外 内服 流通
劇 精3 ハイリスク

【YJコード】1125004F1023
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】フェノバルビタール
【メーカー】製)藤永製薬 販)第一三共
【薬価】10.4円/1T
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】催眠・鎮静・抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○不眠症
○不安緊張状態の鎮静
○てんかんの痙攣発作
強直間代発作(全般痙攣発作，大発作)，焦点発作(ジャクソン型発作含む)
○自律神経発作，精神運動発作
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
不眠症 成人 1回30～200mg 就寝前 内服。適宜増減。
不安緊張状態の鎮静 成人 1日30～200mg 1日1～4回 分割 内服。適宜増減。
てんかんの痙攣発作 成人 1日30～200mg 1日1～4回 分割 内服。適宜増減。
自律神経発作，精神運動発作 成人 1日30～200mg 1日1～4回 分割 内服。適宜増減。
(表終了)
注意
不眠症
就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・バルビツール酸系化合物に過敏症。
2. 急性間欠性ポルフィリン症。
3. ボリコナゾール，タダラフィル(肺高血圧症)，マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，イサブコナゾニウム，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，ニルマトレルビル・リトナビル，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)(発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等)。
2. 過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，離脱症状(不安，不眠，痙攣，悪心，幻覚，妄想，興奮，錯乱，抑うつ状態等)。
4. 顆粒球減少(頻度不明)，血小板減少(頻度不明)。
5. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)。
6. 呼吸抑制(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様発疹，麻疹様発疹，中毒疹様発疹
血液 血小板減少，巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 眠気，アステリキシス，眩暈，頭痛，せん妄，昏迷，鈍重，構音障害，知覚異常，運動失調，精神機能低下，興奮，多動
消化器 食欲不振
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全，低カルシウム血症
内分泌系 甲状腺機能検査値(血清T4値等)の異常
その他 血清葉酸値の低下，ヘマトポルフィリン尿，発熱
(表終了)

マイスリー錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1129009F2021
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ゾルピデム酒石酸塩
【メーカー】製)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】26.9円/1T
【薬価収載日】2000/11/17
【標榜薬効】入眠剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症(統合失調症，躁うつ病に伴う不眠症除く)
注意
不眠症の原疾患を確定後投与。統合失調症，躁うつ病に伴う不眠症には有効性なし。
【用法用量】成人 1回5～10mg 就寝直前 内服。高齢者 1回5mgから開始。
適宜増減，1日10mgまで。
注意
1. もうろう状態，睡眠随伴症状(夢遊症状等)が用量依存的にあらわれるので，少量(1回5mg)から開始。増量時は10mgまでとし，症状の改善に伴い減量。
2. 就寝直前に服用。健忘の報告があるので，薬効消失前に活動を開始する可能性がある時は服用しない。
3. 高齢者 少量(1回5mg)から開始，1回10mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝障害。
3. 重症筋無力症。
4. 急性閉塞隅角緑内障。
5. 本剤で睡眠随伴症状(夢遊症状等)の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(薬物依存(頻度不明))，離脱症状(0．1～5%未満)(反跳性不眠，いらいら感等)。
2. 精神症状(せん妄(頻度不明)，錯乱(0．1～5%未満)，幻覚，興奮，脱抑制(各0．1%未満)，意識レベルの低下(頻度不明)等)，意識障害。
3. 一過性前向性健忘(0．1～5%未満)，もうろう状態(頻度不明)，睡眠随伴症状(夢遊症状等)(頻度不明)，死亡含む重篤な自傷・他傷行為，事故等。
4. 呼吸抑制(頻度不明)，炭酸ガスナルコーシス。
5. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 ふらつき，眠気，頭痛，残眠感，頭重感，眩暈，不安，悪夢，気分高揚 錯視 しびれ感，振戦
血液 白血球増多，白血球減少
肝臓 ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，LDH上昇
腎臓 蛋白尿

1 神経系及び感覚器官用医薬品

消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛 下痢 口の錯感覚，食欲亢進
循環器 動悸
過敏症 発疹，掻痒感
骨格筋 倦怠感，疲労，下肢脱力感 筋痙攣
眼 複視 視力障害，霧視
その他 口渇，不快感 味覚異常，転倒
（表終了）

マイスリー錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1129009F1025
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ゾルピデム酒石酸塩
【メーカー】製)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】17.5円/1T
【薬価収載日】2000/11/17
【標榜薬効】入眠剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症（統合失調症，躁うつ病に伴う不眠症除く）
注意
不眠症の原疾患を確定後投与。統合失調症，躁うつ病に伴う不眠症には有効性なし。
【用法用量】成人 1回5～10mg 就寝直前 内服。高齢者 1回5mgから開始。
適宜増減，1日10mgまで。
注意
1．もうろう状態，睡眠随伴症状（夢遊症状等）が用量依存的にあらわれるので，少量（1回5mg）から開始。増量時は10mgまでとし，症状の改善に伴い減量。
2．就寝直前に服用。健忘の報告があるので，薬効消失前に活動を開始する可能性がある時は服用しない。
3．高齢者 少量（1回5mg）から開始，1回10mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝障害。
3．重症筋無力症。
4．急性閉塞隅角緑内障。
5．本剤で睡眠随伴症状（夢遊症状等）の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（薬物依存（頻度不明）），離脱症状（0．1～5%未満）（反跳性不眠，いらいら感等）。
2．精神症状（せん妄（頻度不明），錯乱（0．1～5%未満），幻覚，興奮，脱抑制（各0．1%未満），意識レベルの低下（頻度不明）等），意識障害。
3．一過性前向性健忘（0．1～5%未満），もうろう状態（頻度不明），睡眠随伴症状（夢遊症状等）（頻度不明），死亡含む重篤な自傷・他傷行為，事故等。
4．呼吸抑制（頻度不明），炭酸ガスナルコーシス。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 ふらつき，眠気，頭痛，残眠感，頭重感，眩暈，不安，悪夢，気分高揚 錯視 しびれ感，振戦
血液 白血球増多，白血球減少
肝臓 ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，LDH上昇
腎臓 蛋白尿
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛 下痢 口の錯感覚，食欲亢進
循環器 動悸
過敏症 発疹，掻痒感
骨格筋 倦怠感，疲労，下肢脱力感 筋痙攣
眼 複視 視力障害，霧視
その他 口渇，不快感 味覚異常，転倒
（表終了）

メイラックス錠1mg（1mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1124029F1026
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ロフラゼプ酸エチル
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】10.4円/1T
【標榜薬効】持続性心身安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．神経症の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
2．心身症（胃・十二指腸潰瘍，慢性胃炎，過敏性腸症候群，自律神経失調症）の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
【用法用量】成人 1日2mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．ベンゾジアゼピン系薬剤に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（0．1%未満）（薬物依存），離脱症状（5%未満）（痙攣発作（0．1%未満），せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想（各0．1～5%未満）等）。
2．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
3．幻覚（頻度不明）。
4．呼吸抑制（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 ふらつき，眩暈，頭がボーッとする，頭痛，舌のもつれ，しびれ感，霧視 言語障害（構音障害等），味覚倒錯，いらいら感，複視，耳鳴，不眠 健忘
消化器 口渇，嘔気，便秘，食欲不振，腹痛 下痢，胃痛，口内炎，胸やけ，心窩部痛
肝臓 ALT，AST上昇 肝機能障害，γ－GTP，LDH上昇
血液 好酸球増多，白血球減少 貧血
泌尿器 頻尿，残尿感
過敏症 発疹，皮膚掻痒感
骨格筋 倦怠感，脱力感，易疲労感，筋弛緩
その他 発赤，性欲減退，ウロビリノーゲン陽性，冷感，いびき
（表終了）

レスミット錠5（5mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1124021F2166
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】メダゼパム
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】5.9円/1T
【標榜薬効】抗不安剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○神経症の不安・緊張・抑うつ
○心身症（消化器疾患，循環器疾患，内分泌系疾患，自律神経失調症）の身体症候・不安・緊張・抑うつ
【用法用量】成人 1日10～30mg 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（0．1%未満）（薬物依存），離脱症状（0．1～5%未満）（痙攣発作（0．1%未満），せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹等
精神神経系 眠気 ふらつき，眩暈，歩行失調，頭重 気分昂揚感，調節障害，振戦，しびれ，浅眠多夢，言語障害
肝臓 黄疸，AI－P上昇
血液 貧血，白血球減少
循環器 発汗，熱感，のぼせ
消化器 食欲不振，便秘，下痢，悪心・嘔吐，胸やけ，胃腸障害，口渇
骨格筋 筋弛緩，易疲労感等の筋緊張低下症状
その他 尿蛋白 浮腫，性欲への影響，生理異常
（表終了）

レンドルミン錠0．25mg（0．25mg1錠）

外 内服 流通
精3

【YJコード】1124009F1223
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ブロチゾラム
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】10.6円/1T

1　神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】睡眠導入剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症，麻酔前投薬
【用法用量】適宜増減。成人　下記のように投与。
不眠症
1回0．25mg　就寝前　内服。
麻酔前投薬
手術前夜　1回0．25mg　就寝前　内服。
麻酔前 1回0．5mg　内服。
注意
不眠症 就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌
【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（0．1%）（AST，ALT，γ－GTP上昇等），黄疸（頻度不明）。
2．一過性前向性健忘，もうろう状態（頻度不明）。
3．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（不眠，不安等）。
4．呼吸抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 残眠感・眠気，ふらつき，頭重感，眩暈，頭痛 不穏，興奮，気分不快，立ちくらみ，いらいら感 せん妄，振戦，幻覚，悪夢
肝臓　AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの上昇
循環器　軽度の脈拍数増加
消化器　嘔気，悪心，口渇，食欲不振 下痢
過敏症　発疹 紅斑
骨格筋 だるさ，倦怠感 下肢痙攣
その他　発熱，貧血 尿失禁，味覚異常
（表終了）

ワイパックス錠0．5（0．5mg1錠）
外　内服　流通
精3

【YJコード】1124022F1067
【薬効分類】1．1．2　催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ロラゼパム
【メーカー】製)ファイザー　販)アステラス製薬　販)武田薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】マイナートランキライザー
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇神経症の不安・緊張・抑うつ
〇心身症（自律神経失調症，心臓神経症）の身体症候・不安・緊張・抑うつ
【用法用量】成人　1日1～3mg　1日2～3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．刺激興奮（頻度不明），錯乱（頻度不明）。
3．呼吸抑制（他のベンゾジアゼピン系化合物）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 0．1～3%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 ふらつき，眩暈，立ちくらみ，頭重，頭痛，不眠 頭部圧迫感，耳鳴，歩行失調，複視，霧視，舌のもつれ等
循環器 動悸 血圧低下
肝臓　肝機能異常
消化器 悪心，下痢，便秘，食欲不振，口渇，胃部不快感 嘔吐，胃部膨満感，上腹部痛，胸焼け等
過敏症　掻痒感，発疹 浮腫・血管性浮腫，呼吸困難
その他　倦怠感，脱力感
（表終了）

1．1．3　抗てんかん剤

イーケプラ錠250mg（250mg1錠）
外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1139010F1024
【薬効分類】1．1．3　抗てんかん剤
【一般名】レベチラセタム
【メーカー】製)ユーシービージャパン　販)大塚製薬
【薬価】69.3円/1T
【薬価収載日】2010/09/17
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）
他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人
1日1000mg　1日2回　分割　内服。適宜増減，1日3000mgまで。増量は2週間以上あけて　1日1000mg以下ずつ。
小児
4歳以上　1日20mg／kg　1日2回　分割　内服。適宜増減，1日60mg／kgまで。増量は2週間以上あけて　1日20mg／kg以下ずつ。体重50kg以上　成人と同量。
注意
1．強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用。単独投与での臨床試験は未実施。
2．成人腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。成人血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え，血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。この用法・用量はシミュレーション結果によることから，患者ごとに用法・用量を調節。小児腎機能障害 程度により，投与量・投与間隔を調節。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）≧80 ≧50－＜80 ≧30－＜50 ＜30 透析中の腎不全 血液透析後の補充量
1日量（mg）1000～3000 1000～2000 500～1500 500～1000 500～1000
通常量 1回500mg1日2回 1回500mg1日2回 1回250mg1日2回 1回250mg1日2回 1回500mg1日1回 250mg
最高量 1回1500mg1日2回 1回1000mg1日2回 1回750mg1日2回 1回500mg1日2回 1回1000mg1日1回 500mg
（表終了）
3．重度の肝機能障害 肝臓でのクレアチン産生が低下しており，クレアチニンクリアランス値からでは腎機能障害の程度を過小評価する可能性，より低用量から開始，慎重に観察しながら用法・用量を調節。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ピロリドン誘導体に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．重篤な血液障害（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，好中球減少，血小板減少）。
4．重篤な肝障害（肝不全，肝炎（各頻度不明）等）。
5．膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
6．精神症状（易刺激性，錯乱，焦燥，興奮，攻撃性等），自殺企図（各1%未満）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
8．急性腎障害（頻度不明）。
9．悪性症候群（頻度不明）（発熱，筋強剛，血清CK上昇，頻脈，血圧の変動，意識障害，発汗過多，白血球の増加等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈（10．4%），頭痛（11．8%），不眠症，傾眠（27．9%）感覚鈍麻，気分変動，振戦，易刺激性，痙攣，抑うつ 激越，健忘，注意力障害，幻覚，運動過多，記憶障害，錯感覚，思考異常，平衡障害，感情不安定，異常行動，協調運動異常，怒り，ジスキネジー，不安，体位性眩暈，睡眠障害，緊張性頭痛，精神病性障害，パニック発作，せん妄 錯乱状態，敵意，気分動揺，神経過敏，人格障害，精神運動亢進，舞踏アテトーゼ運動，嗜眠，てんかん増悪，強迫性障害
眼　複視，結膜炎 霧視，眼精疲労，眼掻痒症，麦粒腫
血液 好中球数減少 貧血，血中鉄減少，鉄欠乏性貧血，血小板数減少，白血球数増加，白血球数減少
循環器　心電図QT延長，高血圧
消化器 腹痛，便秘，下痢，胃腸炎，悪心，口内炎，嘔吐，齲歯 歯肉炎，痔核，胃不快感，歯痛 消化不良，口唇炎，歯肉腫脹，歯周炎
肝臓　AI－P増加 肝機能異常

1 神経系及び感覚器官用医薬品

泌尿・生殖器 膀胱炎，尿中ブドウ糖陽性，尿中血陽性，尿中蛋白陽性，月経困難症 頻尿
呼吸器 鼻咽頭炎（30．2%），咽喉頭疼痛，上気道の炎症 気管支炎，咳嗽，鼻漏，咽頭炎，インフルエンザ，鼻炎 鼻出血，肺炎
代謝・栄養 食欲不振
皮膚 湿疹 皮膚炎，掻痒症，発疹，ざ瘡 脱毛症，単純ヘルペス，帯状疱疹，白癬感染 多形紅斑，血管性浮腫
筋骨格系 背部痛 肩痛，筋肉痛，筋骨格硬直，関節痛 頸部痛，四肢痛，筋力低下
感覚器 耳鳴 回転性眩暈
その他 倦怠感，発熱，体重減少 血中トリグリセリド増加，胸痛，体重増加 無力症，疲労，末梢性浮腫，抗痙攣剤濃度増加 事故による外傷（皮膚裂傷等）
（表終了）

精神病様症状，幻覚・妄想状態，幻視・幻聴，被害念慮，離人症，意識障害，平衡障害 行動異常，不機嫌，睡眠障害，しびれ感
眼 複視・視覚異常，眼振 眼痛
消化器 食欲不振（11．0%），悪心・嘔吐 胃痛・腹痛，流涎，下痢 口渇，便秘 口内炎，しゃっくり
血液 白血球減少 貧血，血小板減少 好酸球増多，顆粒球減少
腎・泌尿器 排尿障害・失禁，蛋白尿 頻尿，血尿，結晶尿，BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 倦怠・脱力感，体重減少，ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇 発熱，発汗減少，胸部圧迫感，浮腫 動悸，味覚異常，喘鳴，乳腺腫脹，代謝性アシドーシス・尿細管性アシドーシス，高アンモニア血症，CK上昇，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等），抗核抗体の陽性例，血清カルシウム低下
（表終了）

エクセグラン散20%（20%1g）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139005B1048
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ゾニサミド
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】29.9円/1g
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】部分てんかん・全般てんかんの下記発作型
部分発作
単純部分発作（焦点発作（ジャクソン型含む），自律神経発作，精神運動発作）
複雑部分発作（精神運動発作，焦点発作）
二次性全般化強直間代痙攣（強直間代発作（大発作））
全般発作
強直間代発作（強直間代発作（全般痙攣発作，大発作））
強直発作（全般痙攣発作）
非定型欠神発作（異型小発作）
混合発作（混合発作）
【用法用量】成人 最初 1日ゾニサミド100～200mg 1日1～3回 分割 内服。
以後1～2週ごと増量，1日200～400mgまで漸増 1日1～3回 分割 内服。
1日最高600mg。
小児 最初 1日2～4mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
以後1～2週ごと増量，1日4～8mg／kgまで漸増 1日1～3回 分割 内服。
1日最高12mg／kg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．再生不良性貧血，無顆粒球症，赤芽球癆（各頻度不明），血小板減少（1%未満）。
4．急性腎障害（頻度不明）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
6．重篤な肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
8．腎・尿路結石（頻度不明）（腎仙痛，排尿痛，血尿，結晶尿，頻尿，残尿感，乏尿等）。
9．発汗減少に伴う熱中症（頻度不明）（体温上昇，顔面潮紅，意識障害等）。
10．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
11．幻覚，妄想，錯乱，せん妄等の精神症状（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹・掻痒感
皮膚 多形紅斑，脱毛
精神神経系 眠気（24．3%），運動失調（12．7%），無気力・自発性低下，精神活動緩慢化 記銘・判断力低下，易刺激性・焦燥，抑うつ・不安・心気，頭痛・頭重，不随意運動・振戦，感覚異常，眩暈，構音障害

エピレオプチマル散50%（50%1g）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139001B1031
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】エトスクシミド
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】25.1円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】てんかん小発作治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】定型欠神発作（小発作），小型（運動）発作［ミオクロニー発作，失立（無動）発作，点頭てんかん（幼児痙縮発作，BNS痙攣等）］
【用法用量】成人 1日0．9～2g（エトスクシミド 450～1000mg） 1日2～3回 分割 内服。
小児 1日0．3～1．2g（エトスクシミド 150～600mg） 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な血液障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．Stevens－Johnson症候群（頻度不明）（発熱，皮膚・粘膜の発疹，紅斑，壊死性結膜炎等）。
2．SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，筋肉痛，関節痛，リンパ節腫脹，胸部痛等）。
3．再生不良性貧血，汎血球減少（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹，光線過敏症
血液 白血球減少，好酸球増多，顆粒球減少
精神神経系 頭痛，眠気，眩暈，疲労感，多幸感，妄想，運動失調，幻覚 抑うつ，夜驚，焦燥多動，攻撃性
眼 羞明
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，腹痛，下痢 胃痙攣
その他 しゃっくり
（表終了）

ガバペン錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139007F1022
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ガバペンチン
【メーカー】製)富士製薬工業 販)ファイザー
【薬価】24.6円/1T
【薬価収載日】2006/09/15
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）への抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人・13歳以上の小児 初日 ガバペンチン 1日600mg，2日目 1日1200mg 1日3回 分割 内服。3日目以降 維持量 1日1200～1800mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減，1日最高2400mg。
3～12歳の幼・小児 初日 ガバペンチン 1日10mg／kg，2日目 1日20mg／kg 1日3回 分割 内服。3日目以降 維持量 3～4歳の幼児 1日40mg／kg，5～12歳の幼・小児 1日25～35mg／kg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最高50mg／kg。いずれの時期も，成人・13歳以上の小児の投与量まで。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

注意
1. 他の抗てんかん薬と併用して使用。
2. 投与初期に傾眠，ふらつき等の発現に注意しながら用量を調節。
3. 1日3回投与の時，各投与間隔は12時間まで。
4. 腎機能障害の成人 下表のクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）≧60 30～59 15～29 5～14
1日量（mg／日）600～2400 400～1000 200～500 100～200
初日 1回200mg 1日3回 1回200mg 1日2回 1回200mg 1日1回 1回200mg 1日1回
維持量 1回400mg 1日3回 1回300mg 1日2回 1回300mg 1日1回 1回300mg 2日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回200mg2日に1回を考慮）
維持量 1回600mg 1日3回 1回400mg 1日2回 1回400mg 1日1回 1回300mg 2日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回200mg2日に1回を考慮）
最高投与量 1回800mg 1日3回 1回500mg 1日2回 1回500mg 1日1回 1回200mg 1日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回300mg2日に1回を考慮）
（表終了）
5. 成人血液透析患者 クレアチニンクリアランスが5mL／分以上の時，上記に加え，血液透析後に本剤200mgを追加。
クレアチニンクリアランスが5mL／分未満の時，初日に200mgを単回投与し，血液透析後に本剤1回200・300・400mgを追加（それぞれクレアチニンクリアランス60mL／分以上の患者の1回400・600・800mg1日3回投与に相当）。この用法・用量は，48時間ごとに4時間血液透析した時のシミュレーション結果による。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 急性腎障害（頻度不明）。
2. 皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害等の臓器障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
4. 肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
6. アナフィラキシー（頻度不明）（血管性浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 3%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，浮動性眩暈，頭痛 痙攣，てんかん増悪，失調，会話障害，感覚減退，記憶障害，振戦，体位性眩暈，易刺激性，錯乱状態，神経過敏，不眠，不安，感情不安定，激越，攻撃性，チック 運動障害，幻覚，ミオクローヌス，意識消失
眼 複視 眼振，眼の異常感，霧視 弱視，視覚異常
皮膚 脱毛，発疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒 多形紅斑
消化器 悪心，嘔吐，上腹部痛，食欲減退，食欲不振，便秘，消化不良，下痢，流涎過多，食欲亢進
血液 白血球数減少，白血球数増加，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，好中球数減少，好塩基球数増加，単球数増加，好酸球数増加，血小板数減少
循環器 高血圧，動悸
泌尿・生殖器 尿失禁，尿蛋白増加，勃起機能不全 性欲変化，射精障害，無オルガズム症
肝臓 AST増加，ALT増加，AlーP増加，γ－GTP増加
その他 CK増加，サイロキシン減少，抗核因子陽性 倦怠感，関節痛，胸痛，発熱，無力症，顔面浮腫，回転性眩暈，呼吸困難，背部痛，体重増加，鼻炎，耳鳴，異常歩行，LDH増加，尿酸減少，血糖増加，血糖減少，転倒・転落，鼻咽頭炎 血管浮腫，浮腫，膵炎，低ナトリウム血症
（表終了）

ガバペン錠400mg（400mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139007F3025
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ガバペンチン
【メーカー】製)富士製薬工業 販)ファイザー
【薬価】40.9円/1T
【薬価収載日】2006/09/15
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）への抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人・13歳以上の小児 初日 ガバペンチン 1日600mg，2日目 1日1200mg 1日3回 分割 内服。3日目以降 維持量 1日1200～1800mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減，1日最高2400mg。
3～12歳の幼・小児 初日 ガバペンチン 1日10mg／kg，2日目 1日20mg／kg 1日3回 分割 内服。3日目以降 維持量 3～4歳の幼児 1日40mg／kg，5～12歳の幼・小児 1日25～35mg／kg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最高50mg／kg。いずれの時期も，成人・13歳以上の小児の投与量まで。
注意
1. 他の抗てんかん薬と併用して使用。
2. 投与初期に傾眠，ふらつき等の発現に注意しながら用量を調節。
3. 1日3回投与の時，各投与間隔は12時間まで。
4. 腎機能障害の成人 下表のクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）≧60 30～59 15～29 5～14
1日量（mg／日）600～2400 400～1000 200～500 100～200
初日 1回200mg 1日3回 1回200mg 1日2回 1回200mg 1日1回 1回200mg 1日1回
維持量 1回400mg 1日3回 1回300mg 1日2回 1回300mg 1日1回 1回300mg 2日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回200mg2日に1回を考慮）
維持量 1回600mg 1日3回 1回400mg 1日2回 1回400mg 1日1回 1回300mg 2日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回200mg2日に1回を考慮）
最高投与量 1回800mg 1日3回 1回500mg 1日2回 1回500mg 1日1回 1回200mg 1日1回（クレアチニンクリアランスが5mL／分に近い患者では，1回300mg2日に1回を考慮）
（表終了）
5. 成人血液透析患者 クレアチニンクリアランスが5mL／分以上の時，上記に加え，血液透析後に本剤200mgを追加。
クレアチニンクリアランスが5mL／分未満の時，初日に200mgを単回投与し，血液透析後に本剤1回200・300・400mgを追加（それぞれクレアチニンクリアランス60mL／分以上の患者の1回400・600・800mg1日3回投与に相当）。この用法・用量は，48時間ごとに4時間血液透析した時のシミュレーション結果による。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 急性腎障害（頻度不明）。
2. 皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害等の臓器障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
4. 肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
6. アナフィラキシー（頻度不明）（血管性浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 3%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，浮動性眩暈，頭痛 痙攣，てんかん増悪，失調，会話障害，感覚減退，記憶障害，振戦，体位性眩暈，易刺激性，錯乱状態，神経過敏，不眠，不安，感情不安定，激越，攻撃性，チック 運動障害，幻覚，ミオクローヌス，意識消失
眼 複視 眼振，眼の異常感，霧視 弱視，視覚異常
皮膚 脱毛，発疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒 多形紅斑
消化器 悪心，嘔吐，上腹部痛，食欲減退，食欲不振，便秘，消化不良，下痢，流涎過多，食欲亢進
血液 白血球数減少，白血球数増加，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，好中球数減少，好塩基球数増加，単球数増加，好酸球数増加，血小板数減少
循環器 高血圧，動悸
泌尿・生殖器 尿失禁，尿蛋白増加，勃起機能不全 性欲変化，射精障害，無オルガズム症
肝臓 AST増加，ALT増加，AlーP増加，γ－GTP増加
その他 CK増加，サイロキシン減少，抗核因子陽性 倦怠感，関節痛，胸痛，発熱，無力症，顔面浮腫，回転性眩暈，呼吸困難，背部痛，体重増加，鼻炎，耳鳴，異常歩行，LDH増加，尿酸減少，血糖増加，血糖減少，転倒・転落，鼻咽頭炎 血管浮腫，浮腫，膵炎，低ナトリウム血症
（表終了）

セレニカR錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139004G2039
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【メーカー】製)興和 販)田辺三菱製薬 販)日研化学 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】10.9円/1T
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤

1　神経系及び感覚器官用医薬品

【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
〇躁病・躁うつ病の躁状態の治療
〇片頭痛発作の発症抑制
注意
片頭痛発作の発症抑制
1．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1回400～1200mg　1日1回　内服。適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1回400～800mg　1日1回　内服。適宜増減，1日1000mgまで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．重篤な肝障害。
2．カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3．尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2．高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3．溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4．急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5．間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満）。
7．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8．脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚　脱毛
精神神経系 眩暈，傾眠 頭痛，不眠，振戦 失調，不穏，視覚異常，感覚変化，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，胃部不快感 口内炎，食欲不振，腹痛，下痢 便秘，食欲亢進
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
血液 貧血，白血球減少 低フィブリノーゲン血症，好酸球増多 血小板凝集能低下
過敏症 発疹
泌尿器 夜尿・頻尿　血尿，尿失禁
生殖器　月経異常（月経不順，無月経），多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 高アンモニア血症，体重増加 倦怠感，浮腫 鼻血，口渇，歯肉肥厚，発熱，カルニチン減少
（表終了）

セレニカR錠400mg（400mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1139004G3027
【薬効分類】1．1．3　抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【メーカー】製)興和　販)田辺三菱製薬　販)日研化学　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】17.4円/1T
【薬価収載日】2006/07/07
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
〇躁病・躁うつ病の躁状態の治療
〇片頭痛発作の発症抑制
注意
片頭痛発作の発症抑制
1．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1回400～1200mg　1日1回　内服。適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1回400～800mg　1日1回　内服。適宜増減，1日1000mgまで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．重篤な肝障害。
2．カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3．尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2．高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3．溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4．急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5．間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満）。
7．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8．脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚　脱毛
精神神経系 眩暈，傾眠 頭痛，不眠，振戦 失調，不穏，視覚異常，感覚変化，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，胃部不快感 口内炎，食欲不振，腹痛，下痢 便秘，食欲亢進
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
血液 貧血，白血球減少 低フィブリノーゲン血症，好酸球増多 血小板凝集能低下
過敏症 発疹
泌尿器 夜尿・頻尿　血尿，尿失禁
生殖器　月経異常（月経不順，無月経），多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 高アンモニア血症，体重増加 倦怠感，浮腫 鼻血，口渇，歯肉肥厚，発熱，カルニチン減少
（表終了）

テグレトール細粒50%（50%1g）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1139002C1082
【薬効分類】1．1．3　抗てんかん剤
【一般名】カルバマゼピン
【メーカー】製)サンファーマ　販)田辺三菱製薬　販)ノバルティスファーマ
【薬価】22.2円/1g
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】向精神作用性てんかん・躁状態治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作[強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）]

1 神経系及び感覚器官用医薬品

○躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
○三叉神経痛
【用法用量】精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作 強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
成人 最初 1日カルバマゼピン200～400mg 1日1～2回 分割内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。小児 1日100～600mg 分割 内服。
躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
成人 最初 1日カルバマゼピン200～400mg 1日1～2回 分割内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。
三叉神経痛
成人 最初 1日カルバマゼピン200～400mgから開始（1日600mgまで） 分割 内服。症状により 1日800mgまで。小児 適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・三環系抗うつ剤に過敏症の既往。
2. 重篤な血液障害。
3. 第II度以上の房室ブロック，高度の徐脈（50拍／分未満）。
4. ボリコナゾール，タダラフィル（アドシルカ），リルピビリン，マシテンタン，チカグレロル，グラゾプレビル，エルバスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，ダルナビル・コビシスタット，アルテメテル・ルメファントリン，ドラビリン，イサブコナゾニウム，カボテグラビル，ソホスブビル・ベルパタスビル，レジパスビル・ソホスブビル，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドの投与患者。
5. ポルフィリン症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 再生不良性貧血，汎血球減少，白血球減少，無顆粒球症，貧血，溶血性貧血，赤芽球癆，血小板減少（各頻度不明）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，眼充血，顔面の腫脹，口唇・口腔粘膜・陰部の糜爛，皮膚・粘膜の水疱，多数の小膿疱，紅斑，咽頭痛，掻痒，全身倦怠感等）。
3. SLE様症状（頻度不明）（皮膚症状（蝶形紅斑等），発熱，関節痛，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4. 過敏症症候群（頻度不明）（発熱，発疹，リンパ節腫脹，関節痛，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現，肝脾腫，肝機能障害等の臓器障害を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルス再活性化。
5. 肝機能障害（胆汁うっ滞性，肝細胞性，混合型，肉芽腫性），黄疸（各頻度不明），劇症肝炎等。
6. 重篤な腎障害（急性腎障害（間質性腎炎等）（頻度不明））。
7. PIE症候群，間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，喀痰，好酸球増多，肺野の浸潤影）。
8. 血栓塞栓症（頻度不明）（肺塞栓症，深部静脈血栓症，血栓性静脈炎等）。
9. アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，循環不全，低血圧，呼吸困難等）。
10. うっ血性心不全，房室ブロック，洞機能不全，徐脈（各頻度不明）。
11. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
12. 無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
13. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，白血球の増加，血清CK（CPK）の上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 － 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹，掻痒症 光線過敏症，蕁麻疹，潮紅 血管炎，血管浮腫，呼吸困難
皮膚 － － － 色素沈着，ざ瘡，丘疹，多形結節性紅斑，紫斑，多毛，苔癬様角化症，爪の障害（爪甲脱落症，爪の変形，爪の変色等）
筋骨格系 － 筋脱力 筋痙攣，関節痛，筋痛 －
血液 － リンパ節腫脹 － ポルフィリン症，巨赤芽球性貧血，白血球増多，好酸球増多症，網状赤血球増加症
肝臓 ALT，AI－P，γ－GTPの上昇 AST上昇 － －
腎臓 － 蛋白尿，BUN，クレアチニンの上昇 頻尿 乏尿，尿閉，血尿
精神神経系 ふらつき，眠気，眩暈 注意力・集中力・反射運動能力等の低下，立ちくらみ，抑うつ，頭痛・頭重，脱力，倦怠感，興奮，運動失調，不随意運動（振戦，アステリキシス等），言語障害 錯乱 幻覚（視覚，聴覚），せん妄，知覚異常，インポテンス，末梢神経炎，口顔面ジスキネジー，舞踏病アテトーゼ，麻痺症状，攻撃的行動，激越，意識障害，鎮静，記憶障害
眼 － 複視，霧視 調節障害，眼振 異常眼球運動（眼球回転発作），水晶体混濁，結膜炎，眼圧上昇
心血管系 － 血圧低下 血圧上昇 不整脈，刺激伝導障害
消化器 － 食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，下痢，口渇 － 膵炎，口内炎，舌炎，腹痛，大腸炎
内分泌，代謝系 － － － ビタミンD・カルシウム代謝異常（血清カルシウムの低下等），甲状腺機能検査値の異常（T4値の低下等），血清葉酸値低下，女性化乳房，乳汁漏出，プロラクチン上昇，低ナトリウム血症，骨軟化症，骨粗鬆症，高血糖
その他 － 発熱，味覚異常，浮腫，発汗，体重増加 感冒様症状（鼻咽頭炎，咳嗽等）聴覚異常（耳鳴，聴覚過敏，聴力低下，音程の変化等），脱毛，コレステロール上昇，トリグリセリド上昇，CK（CPK）上昇，体液貯留，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等），CRP上昇
（表終了）

テグレトール錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139002F2026
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】カルバマゼピン
【メーカー】製）サンファーマ 販）田辺三菱製薬 販）ノバルティスファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】1992/07/10
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】向精神作用性てんかん・躁状態治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作［強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）］
○躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
○三叉神経痛
【用法用量】精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作 強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
成人 最初 1日200～400mg 1日1～2回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。
小児 1日100～600mg 分割 内服。
躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
成人 最初 1日200～400mg 1日1～2回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。
三叉神経痛
成人 最初 1日200～400mgから開始（1日600mgまで） 分割 内服。症状により 1日800mgまで。小児 適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・三環系抗うつ剤に過敏症の既往。
2．重篤な血液障害。
3．第II度以上の房室ブロック，高度の徐脈（50拍／分未満）。
4．ボリコナゾール，タダラフィル（アドシルカ），リルピビリン，マシテンタン，チカグレロル，グラゾプレビル，エルバスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，ダルナビル・コビシスタット，アルテメテル・ルメファントリン，ドラビリン，イサブコナゾニウム，カボテグラビル，ソホスブビル・ベルパタスビル，レジパスビル・ソホスブビル，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドの投与患者。
5．ポルフィリン症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，汎血球減少，白血球減少，無顆粒球症，貧血，溶血性貧血，赤芽球癆，血小板減少（各頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，眼充血，顔面の腫脹，口唇・口腔粘膜・陰部の糜爛，皮膚・粘膜の水疱，多数の小膿疱，紅斑，咽頭痛，掻痒，全身倦怠感等）。
3．SLE様症状（頻度不明）（皮膚症状（蝶形紅斑等），発熱，関節痛，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4．過敏症症候群（頻度不明）（発熱，発疹，リンパ節腫脹，関節痛，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現，肝脾腫，肝機能障害等の臓器障害を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルス再活性化。
5．肝機能障害（胆汁うっ滞性，肝細胞性，混合型，肉芽腫性），黄疸（各頻度不明），劇症肝炎等。
6．重篤な腎障害（急性腎障害（間質性腎炎等）（頻度不明））。
7．PIE症候群，間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，喀痰，好酸球増多，肺野の浸潤影）。
8．血栓塞栓症（頻度不明）（肺塞栓症，深部静脈血栓症，血栓性静脈炎等）。
9．アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，循環不全，低血圧，呼吸困難等）。
10．うっ血性心不全，房室ブロック，洞機能不全，徐脈（各頻度不明）。
11．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
12．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
13．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，白血球の増加，血清CK（CPK）の上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 ― 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹，掻痒症 光線過敏症，蕁麻疹，潮紅 血管炎，血管浮腫，呼吸困難
皮膚 ― ― ― 色素沈着，ざ瘡，丘疹，多形結節性紅斑，紫斑，多毛，苔癬様角化症，爪の障害（爪甲脱落症，爪の変形，爪の変色等）
筋骨格系 ― 筋脱力 筋痙攣，関節痛，筋痛 ―
血液 ― リンパ節腫脹 ― ポルフィリン症，巨赤芽球性貧血，白血球増多，好酸球増多症，網状赤血球増加症
肝臓 ALT，AI－P，γ－GTPの上昇 AST上昇 ― ―
腎臓 ― 蛋白尿，BUN，クレアチニンの上昇 頻尿 乏尿，尿閉，血尿
精神神経系 ふらつき，眠気，眩暈 注意力・集中力・反射運動能力等の低下，立ちくらみ，抑うつ，頭痛・頭重，脱力，倦怠感，興奮，運動失調，不随意運動（振戦，アステリキシス等），言語障害 錯乱 幻覚（視覚，聴覚），せん妄，知覚異常，インポテンス，末梢神経炎，口顔面ジスキネジー，舞踏病アテトーゼ，麻痺症状，攻撃的行動，激越，意識障害，鎮静，記憶障害
眼 ― 複視，霧視 調節障害，眼振 異常眼球運動（眼球回転発作），水晶体混濁，結膜炎，眼圧上昇
心血管系 ― 血圧低下 血圧上昇 不整脈，刺激伝導障害
消化器 ― 食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，下痢，口渇 ― 膵炎，口内炎，舌炎，腹痛，大腸炎
内分泌，代謝系 ― ― ― ビタミンD・カルシウム代謝異常（血清カルシウムの低下等），甲状腺機能検査値の異常（T4値の低下等），血清葉酸値低下，女性化乳房，乳汁漏出，プロラクチン上昇，低ナトリウム血症，骨軟化症，骨粗鬆症，高血糖
その他 ― 発熱，味覚異常，浮腫，発汗，体重増加 感冒様症状（鼻咽頭炎，咳嗽等） 聴覚異常（耳鳴，聴覚過敏，聴力低下，音程の変化等），脱毛，コレステロール上昇，トリグリセリド上昇，CK（CPK）上昇，体液貯留，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等），CRP上昇
（表終了）

デパケンR錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139004G2063
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【メーカー】㈱協和キリン
【薬価】11.3円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
2．躁病・躁うつ病の躁状態の治療
3．片頭痛発作の発症抑制
注意
片頭痛発作の発症抑制
1．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1日400～1200mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1日400～800mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減，1日1000mgまで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．重篤な肝障害。
2．カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3．尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2．高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3．溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4．急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5．間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
7．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8．脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 貧血，白血球減少，好酸球増多 低フィブリノーゲン血症 血小板凝集能低下
精神神経系 傾眠，失調，眩暈，頭痛 不眠，不穏，感覚変化，振戦 視覚異常，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振 胃部不快感，腹痛，下痢，食欲亢進 口内炎，便秘
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
皮膚 脱毛
過敏症 発疹
泌尿器 血尿，夜尿・頻尿 尿失禁
生殖器 月経異常（月経不順，無月経），多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 倦怠感，高アンモニア血症，体重増加 鼻血，口渇，浮腫 歯肉肥厚，発熱，カルニチン減少
（表終了）

トピナ錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139008F2023
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】トピラマート
【メーカー】㈱協和キリン
【薬価】76.1円/1T
【薬価収載日】2007/09/21
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）への抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人
トピラマート 1回50mgから開始 1日1～2回 内服。以後，1週間以上あけて漸増し 維持量 1日200～400mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日最高600mg。
小児
2歳以上 トピラマート 1日1mg／kgから開始 2週間以上あけて 1日2mg／kgに増量。以後，2週間以上あけて 1日2mg／kg以下ずつ漸増し 維持量 1日6mg／kg 内服。
適宜増減，1日最高9mg／kg又は600mgのいずれか少ない投与量まで。いずれも1日2回 分割 内服。
注意
1．投与開始は，成人には1日1回50mgから開始又は増量幅を1日50mgに低減を考慮（成人てんかんを対象とした試験で，開始量及び増量幅の低減で，投与初期の有害事象発現率が低下したとの報告あり（外国））。
2．他の抗てんかん薬と併用して使用。
3．腎機能障害（クレアチニンクリアランスが70mL／分未満）本剤は主に腎臓より排泄されるため，投与量を半量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．続発性閉塞隅角緑内障，急性近視（頻度不明）（視力の急激な低下，眼痛等）。
2．腎・尿路結石（2．3%）（腎仙痛，腹部痛等）。
3．代謝性アシドーシス（1．8%）（過換気，不整脈，昏睡等，疲労，食欲不振等）。
4．乏汗症，高熱（0．3%）（発汗減少，体温上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 5～10%未満 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠（30．3%），眩暈，摂食異常 しびれ感，頭痛，思考力低下 会話障害，不安，易刺激性，抑うつ，歩行異常，不眠，記憶力低下，妄想，幻覚，振戦，味覚異常，動作緩慢，眼振，痙攣・てんかん増悪，筋緊張，自殺企図，気分不良，平衡障害，感覚異常，躁状態，思考異常，協調運動異常，多動，昏迷，認知障害 錯乱，離人症，興奮
消化器 腹痛，悪心，便秘，下痢，嘔吐，腹部不快感，口内炎，胃腸炎，歯肉腫脹 鼓腸放屁，嚥下障害，唾液分泌過多，便失禁
代謝・栄養 血中重炭酸塩減少，電解質（カリウム，カルシウム，リン，ク

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ロール，ナトリウム）異常 トリグリセリド上昇，血中アンモニア値上昇，血中コレステロール増加，総蛋白減少 低血糖
眼 複視，視覚異常，眼痛，視力低下，羞明，眼精疲労，涙液減少
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの上昇） ウロビリノーゲン陽性，胆石症
血液 白血球分画異常，白血球減少，貧血，血小板減少，白血球増加 プロトロンビン量増加，鼻出血
腎臓・泌尿器 尿沈渣陽性，血尿，尿蛋白陽性，頻尿，尿中リン増加，尿失禁
循環器 胸痛，心電図異常，起立性低血圧，動悸 徐脈，血圧上昇
呼吸器 呼吸困難，咳嗽，鼻炎
皮膚 発汗減少 発疹，脱毛，皮膚炎，多汗，多毛 脂漏
感覚器 耳鳴，聴力低下
筋骨格 筋肉痛，関節痛，四肢重感，筋痙攣
内分泌 月経異常 乳房痛
その他 体重減少（21．3%） 倦怠感 発熱，CK上昇，脱力，浮腫，口渇，熱感，四肢冷感，体重増加 悪寒，性欲減退，体臭
（表終了）

ヒダントール錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1132002F1029
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】フェニトイン
【メーカー】製)藤永製薬 販)第一三共
【薬価】11.9円/1T
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○てんかんの痙攣発作
強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
焦点発作（ジャクソン型発作含む）
○自律神経発作
○精神運動発作
【用法用量】成人 1日200～300mg 1日3回 分割 毎食後 内服。
小児 下記量 1日3回 分割 毎食後 内服。
適宜増減。
学童 100～300mg。
幼児 50～200mg。
乳児 20～100mg。
注意
眼振，構音障害，運動失調，眼筋麻痺等の発現時，至適有効量まで漸減。用量調整には，血中濃度の測定。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ヒダントイン系化合物に過敏症。
2．タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，エンシトレルビル，ニルマトレルビル・リトナビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ソホスブビル，レジパスビル・ソホスブビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビル，レナカパビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，関節痛，肺炎，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，単球性白血病，血小板減少，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
5．劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（肺臓炎）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7．悪性リンパ腫，リンパ節腫脹（各頻度不明）。
8．小脳萎縮（頻度不明）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
10．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
11．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，筋強剛，不随意運動，発汗，頻脈等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹
血液 巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 不随意運動（ジスキネジア，舞踏病アテトーゼ，アステリキシス等），ニューロパシー，眩暈，運動失調，注意力・集中力・反射運動能力等の低下，頭痛，神経過敏，不眠，痙攣・てんかん増悪
眼 複視，視覚障害，眼振，白内障
消化器 歯肉増殖，悪心・嘔吐，便秘
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全
内分泌系 甲状腺機能検査値（血清T3，T4値等）の異常，高血糖
その他 発熱，多毛，血清葉酸値の低下，CK上昇，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等）
（表終了）

フィコンパ錠4mg（4mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139014F2029
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ペランパネル水和物
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】319.7円/1T
【薬価収載日】2016/05/25
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）
他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】部分発作（二次性全般化発作含む）
単剤療法
成人・4歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，2週間以上あけて 2mgずつ漸増。維持量 1日1回4～8mg。
2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高8mg。
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，1週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回4～8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
4歳以上12歳未満の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，2週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回4～8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
強直間代発作
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，1週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
注意
1．強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用して使用。
2．本剤の代謝を促進する抗てんかん薬（カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトイン）との併用で本剤の血中濃度低下の可能性，投与中にカルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトインを投与開始又は中止時は，慎重に症状を観察し，必要に応じ1日最高12mgを超えない範囲で用量の変更を行う。
3．軽度・中等度の肝機能障害 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服，以後2週間以上あけて 2mgずつ漸増。2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，軽度の肝機能障害には1日最高8mg，中等度の肝機能障害には1日最高4mg。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の肝機能障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
精神症状（易刺激性（6．8%），攻撃性（3．5%），不安（1．5%），怒り（1．1%），幻覚（幻視，幻聴等）（0．6%），妄想（0．3%），せん妄（頻度不明）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症
精神神経系 浮動性眩暈（35．4%），傾眠（19．8%） 頭痛，運動失調，平衡障害，構語障害，痙攣 振戦，気分動揺，感覚鈍麻，嗜眠，過眠症，感情不安定，気分変化，神経過敏，健忘，記憶障害，異常行動，錯乱状態，睡眠障害，錯感覚，自殺企図，注意力障害，精神運動亢進，協調運動異常，てんかん増悪，自殺念慮，多幸気分
消化器 悪心，嘔吐 腹部不快感，腹痛，下痢，口内炎，便秘，流涎過

1 神経系及び感覚器官用医薬品

多
肝臓 肝機能異常，γ－GTP増加，AST増加，ALT増加
血液 貧血，低ナトリウム血症，好中球減少症
眼 複視 眼振，霧視
筋骨格 筋力低下，筋肉痛 関節痛
その他 疲労，体重増加，回転性眩暈，歩行障害，食欲減退，食欲亢進 心電図QT延長，異常感，倦怠感，尿中蛋白陽性，体重減少，不規則月経，鼻出血，転倒，酩酊感，挫傷，無力症，発熱，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，尿失禁 上気道感染
（表終了）

マイスタン錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1139006F2024
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】クロバザム
【メーカー】製)住友ファーマ 販)アルフレッサファーマ
【薬価】24.8円/1T
【薬価収載日】2000/05/02
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかんで下記発作型の抗てんかん薬との併用
（1）．部分発作 単純部分発作，複雑部分発作，二次性全般化強直間代発作
（2）．全般発作 強直間代発作，強直発作，非定型欠神発作，ミオクロニー発作，脱力発作
【用法用量】成人 1日10mgから開始 内服。
適宜漸増。
維持量 1日10～30mg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減，1日最高40mg。
小児 1日0．2mg／kgから開始 内服。
適宜漸増。
維持量 1日0．2～0．8mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減，1日最高1mg／kg。
注意
他の抗てんかん薬と併用して使用。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．呼吸抑制（頻度不明）。
3．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気・傾眠（38．6%），ふらつき・眩暈（10．9%） 構音障害，無気力，不機嫌，失調，情動不安 ぼんやり感，焦燥，筋緊張低下，易刺激性，行動異常，多動，頭重感，酩酊感，想起力低下，精神活動減退，軽躁状態，発揚状態，浮遊感，気分高揚，注意力低下，活動低下，不眠，意欲低下 妄想，意識障害，振戦，不随意運動，幻覚，不穏，攻撃性
眼 複視 眼振，眼のかすみ，眼痛
呼吸器 喀痰増加，気道分泌過多，喘鳴
消化器 唾液分泌過多，食欲不振 嘔気，嘔吐，便秘，胃腸障害，胃部不快感，下痢 嚥下障害，腹痛
血液 白血球減少，好酸球増加 血小板減少
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P上昇等の肝機能検査値異常
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
皮膚 発疹，かゆみ，湿疹
その他 倦怠感 脱力感，体重増加，疲労感，尿失禁，胸痛，肩の重圧感，心窩部痛 転倒，浮腫，脱毛，発熱，尿閉，女性化乳房
（表終了）

ラミクタール錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139009F4020
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ラモトリギン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】72.6円/1T
【薬価収載日】2008/12/12
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤・双極性障害治療薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．てんかん患者の下記発作の単剤療法
部分発作（二次性全般化発作含む）
強直間代発作
定型欠神発作
2．他の抗てんかん薬で効果不十分なてんかん患者の下記発作に対する抗てんかん薬との併用療法
部分発作（二次性全般化発作含む）
強直間代発作
Lennox－Gastaut症候群の全般発作
3．双極性障害の気分エピソードの再発・再燃抑制
注意
定型欠神発作
1．15歳以上の有効性・安全性は未確立のため，15歳未満で治療を開始し，15歳以降も継続して使用する時には，有益性が危険性を上回る時のみ投与。
双極性障害の気分エピソードの再発・再燃抑制
2．双極性障害の気分エピソードの急性期治療への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】てんかん
成人
1．単剤療法（部分発作（二次性全般化発作含む）及び強直間代発作）
最初2週間 1日25mg 1日1回 内服。
次の2週間 1日50mg 1日1回 内服。
5週目 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
以後 1～2週間ごと 1日最大100mgずつ漸増。
維持量 1日100～200mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ 1日400mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウム併用時
最初2週間 1回25mg 隔日 内服。
次の2週間 1日25mg 1日1回 内服。
以後1～2週間ごと 1日25～50mgずつ漸増。
維持量 1日100～200mg 1日2回 分割 内服。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時（注1）
3－（1）．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤（注2）を併用時
最初2週間 1日50mg 1日1回 内服。
次の2週間 1日100mg 1日2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大100mgずつ漸増。
維持量 1日200～400mg 1日2回 分割 内服。
3－（2）．3－（1）以外の薬剤（注3）を併用時 単剤療法に従う。
小児
1．単剤療法（定型欠神発作）
最初2週間 1日0．3mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
次の2週間 1日0．6mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大0．6mg／kgずつ漸増。
維持量 1日1～10mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大0．6mg／kgずつ，1日200mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウム併用時
最初2週間 1日0．15mg／kg 1日1回 内服。
次の2週間 1日0．3mg／kg 1日1回 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大0．3mg／kgずつ漸増。
維持量 1日1～5mg／kg（本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤（注2）との併用時） 1日2回 分割 内服。
1日1～3mg／kg（本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤（注2）との非併用時） 1日2回 分割 内服。
1日最大200mg。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時（注1）
3－（1）．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤（注2）を併用時
最初2週間 1日0．6mg／kg 1日2回 分割 内服。
次の2週間 1日1．2mg／kg 1日2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大1．2mg／kgずつ漸増。
維持量 1日5～15mg／kg 1日2回 分割 内服。
1日最大400mg。
3－（2）．3－（1）以外の薬剤（注3）を併用時 バルプロ酸ナトリウム併用時に従う。
双極性障害への気分エピソードの再発・再燃抑制
1．単剤療法 成人 最初の2週間 1日25mg 1日1回 内服。次の2週間 1日50mg 1日1～2回 分割 内服。5週目 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。6週目以降 維持量 1日200mg 1日1～2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ，1日400mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウムを併用時 成人 最初の2週間 1回25mg 隔日 内服，次の2週間 1日25mg 1日1回 内服，5週目 1日50mg 1日1～2回 分割 内服。6週目以降 維持量 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大50mgずつ，1日200mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時（注1）
3－（1）．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤（注2）との併用時
成人 最初2週間 1日50mg 1日1回 内服，次の2週間 1日100mg 1日2回 分割 内服，5週目 1日200mg 1日2回 分割 内服。6週目 1日300mg 1日2回 分割 内服，7週目以降 維持量 1日300～400mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ，1日400mgまで。いずれも1日2回 分割 内服。
3－（2）．3－（1）以外の薬剤（注3）を併用時 単剤療法に従う。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

(注1)本剤のグルクロン酸抱合への影響が不明な薬剤の併用療法では，バルプロ酸ナトリウム併用時の用法・用量。
(注2)本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 フェニトイン，カルバマゼピン，フェノバルビタール，プリミドン，リファンピシン，ロピナビル・リトナビル配合剤。
(注3)本剤のグルクロン酸抱合に影響を及ぼさない薬剤 アリピプラゾール，オランザピン，ゾニサミド，ガバペンチン，シメチジン，トピラマート，プレガバリン，リチウム，レベチラセタム，ペランパネル，ラコサミド。
注意
効能共通
1．発疹等の皮膚障害の発現率は，定められた用法・用量を超えた投与時に高く，併用する薬剤の組み合わせに注意し，用法・用量を遵守。体重換算等で調節した用量に一致する錠剤の組み合わせがない時は，調節した用量に最も近くて超えない量になるよう投与。
2．併用する薬剤は下記の通り分類。本剤のグルクロン酸抱合に対する影響が不明な薬剤による併用療法では，バルプロ酸ナトリウム併用時の用法・用量。
(1)．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 フェニトイン，カルバマゼピン，フェノバルビタール，プリミドン，リファンピシン，ロピナビル・リトナビル配合剤。
(2)．本剤のグルクロン酸抱合に影響を及ぼさない薬剤 アリピプラゾール，オランザピン，ゾニサミド，ガバペンチン，シメチジン，トピラマート，プレガバリン，リチウム，レベチラセタム，ペランパネル，ラコサミド。
3．発疹等の皮膚症状で投与中止時，有益性が危険性を上回る時以外は再投与しない。再投与にあたり，いかなる理由で投与を中止しても，維持量より低い用量から漸増。投与中止から本剤の消失半減期の5倍の期間(バルプロ酸ナトリウムを併用時は約350時間，バルプロ酸ナトリウムを併用せず本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤を併用時は約65時間(外国)，バルプロ酸ナトリウムも本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤も非併用時は約170時間)を経過時は，初回量から用法・用量に従い再開することを推奨。
4．投与中に，本剤のグルクロン酸抱合を阻害・誘導する薬剤を投与開始・中止時は，本剤の用量調節を考慮。
各種てんかん治療
5．定型欠神発作以外の小児てんかん 他の抗てんかん薬と併用して使用。
6．小児てんかん 投与初期(1～2週)に体重換算した1日量が1～2mgの範囲内の時は2mg錠を隔日に1錠服用。体重換算した1日量が1mg未満の時は本剤を服用しない。体重変化を観察し，必要時用量の変更を行う。2～6歳の小児は維持量の上限付近の用量が必要な時あり。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(0．5%)，多形紅斑(頻度不明)(発熱，眼充血，顔面の腫脹，口唇・口腔粘膜・陰部の糜爛，皮膚・粘膜の水疱，紅斑，咽頭痛，掻痒，全身倦怠感等)。
2．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，顔面浮腫，血液障害(好酸球増多，白血球増加，異型リンパ球の出現)，臓器障害(肝機能障害等))，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．再生不良性貧血(頻度不明)，汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)。
4．血球貪食症候群(頻度不明)(発熱，発疹，神経症状，脾腫，リンパ節腫脹，血球減少，高フェリチン血症，高トリグリセリド血症，肝機能障害，血液凝固障害等)。
5．肝炎，肝機能障害，黄疸(0．1%)。
6．無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)，重篤な症状を伴う無菌性髄膜炎の再発。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 脱毛
全身症状 発熱，疲労，疼痛
精神神経系 傾眠(15%)，眩暈 頭痛，不眠，不安・焦燥・興奮，てんかん発作回数の増加 易刺激性，運動障害，失調，振戦，幻覚，眼振，攻撃性 平衡障害，チック，錯乱，パーキンソン症状の悪化，錐体外路症状，舞踏病アテトーゼ，悪夢
消化器 胃腸障害(嘔気・嘔吐，下痢等) 食欲不振
肝臓 肝機能検査値異常
血液 白血球減少，好中球減少，貧血 血小板減少，リンパ節症 低ガンマグロブリン血症
眼 複視 霧視，結膜炎
筋骨格系 背部痛，関節痛
その他 ループス様反応
(表終了)

ラミクタール錠25mg（25mg1錠）
外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139009F3024
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ラモトリギン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】28.3円/1T
【薬価収載日】2008/12/12
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤・双極性障害治療薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．てんかん患者の下記発作の単剤療法
部分発作(二次性全般化発作含む)
強直間代発作
定型欠神発作
2．他の抗てんかん薬で効果不十分なてんかん患者の下記発作に対する抗てんかん薬との併用療法
部分発作(二次性全般化発作含む)
強直間代発作
Lennox－Gastaut症候群の全般発作
3．双極性障害の気分エピソードの再発・再燃抑制
注意
定型欠神発作
1．15歳以上の有効性・安全性は未確立のため，15歳未満で治療を開始し，15歳以降も継続して使用する時には，有益性が危険性を上回る時のみ投与。
双極性障害の気分エピソードの再発・再燃抑制
2．双極性障害の気分エピソードの急性期治療への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】てんかん
成人
1．単剤療法(部分発作(二次性全般化発作含む)及び強直間代発作)
最初2週間 1日25mg 1日1回 内服。
次の2週間 1日50mg 1日1回 内服。
5週目 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
以後 1～2週間ごと 1日最大100mgずつ漸増。
維持量 1日100～200mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ 1日400mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウム併用時
最初2週間 1回25mg 隔日 内服。
次の2週間 1日25mg 1日1回 内服。
以後1～2週間ごと 1日25～50mgずつ漸増。
維持量 1日100～200mg 1日2回 分割 内服。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時(注1)
3－(1)．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤(注2)を併用時
最初2週間 1日50mg 1日1回 内服。
次の2週間 1日100mg 1日2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大100mgずつ漸増。
維持量 1日200～400mg 1日2回 分割 内服。
3－(2)．3－(1)以外の薬剤(注3)を併用時 単剤療法に従う。
小児
1．単剤療法(定型欠神発作)
最初2週間 1日0．3mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
次の2週間 1日0．6mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大0．6mg／kgずつ漸増。
維持量 1日1～10mg／kg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大0．6mg／kgずつ，1日200mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウム併用時
最初2週間 1日0．15mg／kg 1日1回 内服。
次の2週間 1日0．3mg／kg 1日1回 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大0．3mg／kgずつ漸増。
維持量 1日1～5mg／kg(本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤(注2)との併用時) 1日2回 分割 内服。
1日1～3mg／kg(本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤(注2)との非併用時) 1日2回 分割 内服。
1日最大200mg。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時(注1)
3－(1)．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤(注2)を併用時
最初2週間 1日0．6mg／kg 1日2回 分割 内服。
次の2週間 1日1．2mg／kg 1日2回 分割 内服。
以後1～2週間ごと 1日最大1．2mg／kgずつ漸増。
維持量 1日5～15mg／kg 1日2回 分割 内服。
1日最大400mg。
3－(2)．3－(1)以外の薬剤(注3)を併用時 バルプロ酸ナトリウム併用時に従う。
双極性障害への気分エピソードの再発・再燃抑制
1．単剤療法 成人 最初の2週間 1日25mg 1日1回 内服。次の2週間 1日50mg 1日1～2回 分割 内服。5週目 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。6週目以降 維持量 1日200mg 1日1～2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ，1日400mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
2．バルプロ酸ナトリウムを併用時 成人 最初の2週間 1回25mg 隔日 内服，次の2週間 1日25mg 1日1回 内服，5週目 1日50mg 1日1～2回 分割 内服。6週目以降 維持量 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大50mgずつ，1日200mgまで。いずれも1日1～2回 分割 内服。
3．バルプロ酸ナトリウムの非併用時(注1)
3－(1)．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤(注2)との併用時
成人 最初2週間 1日50mg 1日1回 内服，次の2週間 1日100mg 1日2回 分割 内服，5週目 1日200mg 1日2回 分割 内服。6週目 1日300mg 1日2回 分割 内服，7週目以降 維持量

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1日300～400mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最大100mgずつ，1日400mgまで。いずれも1日2回分割 内服。
3－(2)．3－(1)以外の薬剤(注3)を併用時 単剤療法に従う。
(注1)本剤のグルクロン酸抱合への影響が不明な薬剤の併用療法では，バルプロ酸ナトリウム併用時の用法・用量。
(注2)本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 フェニトイン，カルバマゼピン，フェノバルビタール，プリミドン，リファンピシン，ロピナビル・リトナビル配合剤。
(注3)本剤のグルクロン酸抱合に影響を及ぼさない薬剤 アリピプラゾール，オランザピン，ゾニサミド，ガバペンチン，シメチジン，トピラマート，プレガバリン，リチウム，レベチラセタム，ペランパネル，ラコサミド。
注意
効能共通
1．発疹等の皮膚障害の発現率は，定められた用法・用量を超えた投与時に高く，併用する薬剤の組み合わせに注意し，用法・用量を遵守。体重換算等で調節した用量に一致する錠剤の組み合わせがない時は，調節した用量に最も近くて超えない量になるよう投与。
2．併用する薬剤は下記の通り分類。本剤のグルクロン酸抱合に対する影響が不明な薬剤による併用療法では，バルプロ酸ナトリウム併用時の用法・用量。
(1)．本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 フェニトイン，カルバマゼピン，フェノバルビタール，プリミドン，リファンピシン，ロピナビル・リトナビル配合剤。
(2)．本剤のグルクロン酸抱合に影響を及ぼさない薬剤 アリピプラゾール，オランザピン，ゾニサミド，ガバペンチン，シメチジン，トピラマート，プレガバリン，リチウム，レベチラセタム，ペランパネル，ラコサミド。
3．発疹等の皮膚症状で投与中止時，有益性が危険性を上回る時以外は再投与しない。再投与にあたり，いかなる理由で投与を中止しても，維持量より低い用量から漸増。投与中止から本剤の消失半減期の5倍の期間(バルプロ酸ナトリウムを併用時は約350時間，バルプロ酸ナトリウムを併用せず本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤を併用時は約65時間(外国)，バルプロ酸ナトリウムも本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤も非併用時は約170時間)を経過時は，初回量から用法・用量に従い再開することを推奨。
4．投与中に，本剤のグルクロン酸抱合を阻害・誘導する薬剤を投与開始・中止時は，本剤の用量調節を考慮。
各種てんかん治療
5．定型欠神発作以外の小児てんかん 他の抗てんかん薬と併用して使用。
6．小児てんかん 投与初期(1～2週)に体重換算した1日量が1～2mgの範囲内の時は2mg錠を隔日に1錠服用。体重換算した1日量が1mg未満の時は本剤を服用しない。体重変化を観察し，必要時用量の変更を行う。2～6歳の小児は維持量の上限付近の用量が必要な時あり。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(0．5%)，多形紅斑(頻度不明)(発熱，眼充血，顔面の腫脹，口唇・口腔粘膜・陰部の糜爛，皮膚・粘膜の水疱，紅斑，咽頭痛，掻痒，全身倦怠感等)。
2．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，顔面浮腫，血液障害(好酸球増多，白血球増加，異型リンパ球の出現)，臓器障害(肝機能障害等))，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．再生不良性貧血(頻度不明)，汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)。
4．血球貪食症候群(頻度不明)(発熱，発疹，神経症状，脾腫，リンパ節腫脹，血球減少，高フェリチン血症，高トリグリセリド血症，肝機能障害，血液凝固障害等)。
5．肝炎，肝機能障害，黄疸(0．1%)。
6．無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)，重篤な症状を伴う無菌性髄膜炎の再発。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 脱毛
全身症状 発熱，疲労，疼痛
精神神経系 傾眠(15%)，眩暈 頭痛，不眠，不安・焦燥・興奮，てんかん発作回数の増加 易刺激性，運動障害，失調，振戦，幻覚，眼振，攻撃性 平衡障害，チック，錯乱，パーキンソン症状の悪化，錐体外路症状，舞踏病アテトーゼ，悪夢
消化器 胃腸障害(嘔気・嘔吐，下痢等) 食欲不振
肝臓 肝機能検査値異常
血液 白血球減少，好中球減少，貧血 血小板減少，リンパ節症 低ガンマグロブリン血症
眼 複視 霧視，結膜炎
筋骨格系 背部痛，関節痛
その他 ループス様反応
(表終了)

リボトリール錠0．5mg（0．5mg1錠）
外 内服 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1139003F1040
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】クロナゼパム
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬
【薬価】9.6円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．小型(運動)発作[ミオクロニー発作，失立(無動)発作，点頭てんかん(幼児痙縮発作，BNS痙攣等)]
2．精神運動発作
3．自律神経発作
【用法用量】成人・小児
初回量 1日0．5～1mg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日2～6mg 1日1～3回 分割 内服。
乳・幼児
初回量 1日0．025mg／kg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日0．1mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性(頻度不明)，離脱症状(痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等)。
2．呼吸抑制(0．1%未満)，睡眠中の多呼吸発作(0．1～5%未満)。
3．刺激興奮，錯乱等(各頻度不明)。
4．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気(24．7%)，ふらつき(15．6%) 眩暈，運動失調，神経過敏(不機嫌，興奮等)，無気力，情動不安定，筋緊張低下，頭痛，構音障害，不眠，もうろう感，振戦 頭重，行動異常，筋緊張亢進，知覚異常，寡動(活動低下，運動抑制等) 意識障害，運動過多，注意力低下，眩暈，しびれ，歩行異常，不安，幻覚，うつ状態，攻撃的反応
呼吸器 喘鳴 咳 呼吸困難，気道分泌過多，喀痰増加
眼 複視 目がかすむ，羞明
消化器 唾液増加(流涎等)，食欲不振，悪心，嘔吐，嚥下障害，便秘 口内炎，下痢，吃逆，食欲亢進，口渇 腹痛
泌尿器 尿失禁，排尿困難
血液 血小板減少，好酸球増多，白血球減少，貧血
肝臓 AST，ALTの上昇，LDH，γ－GTP，AI－Pの上昇
過敏症 発疹 過敏症状
その他 脱力，倦怠感，体重減少 ほてり(熱感，顔面潮紅)，発熱，いびき，月経不順 性欲減退，疲労，体重増加
(表終了)

1．1．4 解熱鎮痛消炎剤

SG配合顆粒（1g）
外 内服 流通

【YJコード】1149116D1033
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】7.5円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】感冒の解熱，耳痛，咽喉痛，月経痛，頭痛，歯痛，症候性神経痛，外傷痛
【用法用量】成人 1回1g 1日3～4回 内服。
1～2g 頓服。追加は4時間以上あける。
適宜増減，1日最高4g。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・ピラゾロン系薬剤(スルピリン等)・アミノフェノール系薬剤(アセトアミノフェン等)に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。
3．重篤な肝障害。

■副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【副作用】重大な副作用
1. 血小板減少，溶血性貧血（各頻度不明）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，呼吸困難，血圧低下等）。
5. 重篤な喘息発作（頻度不明）の誘発。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7. 間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8. 劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，紅斑，掻痒
血液 血小板減少，顆粒球減少，溶血性貧血
肝臓 肝機能障害
腎臓 腎障害
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，食欲不振，腹部膨満感，胃不快感，便秘，下痢，口内炎
精神神経系 眠気，ふらつき，眩暈，頭痛，しびれ感
その他 発汗，熱感，全身倦怠感，脱力感，肩こり
（表終了）

アルピニー坐剤50（50mg1個）

外 外用 流通

【YJコード】1141700J1029
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製)久光製薬 販)エスエス製薬
【薬価】20.9円/1個
【標榜薬効】小児用解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】小児の解熱・鎮痛
【用法用量】乳・幼・小児 1回10～15mg／kg 直腸内挿入。投与間隔は4～6時間以上，1日総量60mg／kgまで。適宜増減，成人量まで。
注意
1．1回量の目安
（表開始）
体重（kg） アセトアミノフェン（mg） 50mg製剤（個） 100mg製剤（個） 200mg製剤（個）
5 50－75 1－1．5 0．5 －
10 100－150 2－3 1－1．5 0．5
20 200－300 － 2－3 1－1．5
30 300－450 － － 1．5－2
（表終了）
2．「小児の解熱・鎮痛」の効能・効果は1回最大500mg，1日最大1500mg。
（注）本剤は小児用解熱鎮痛剤。
3．急性疾患に本剤を使用時は，長期投与を避ける（5日以内）。
4．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
5．総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時，アセトアミノフェンが含まれている場合は，併用を避ける。
6．アスピリン喘息・その既往 1回最大300mg以下。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な肝機能障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．喘息発作の誘発（頻度不明）。
5．顆粒球減少症（頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満 頻度不明
血液 血小板減少
過敏症 発疹 チアノーゼ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，軟便，便意
（表終了）

インフリーカプセル100mg（100mg1カプセル）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1145005M1020
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】インドメタシン ファルネシル
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】10.7円/1C
【標榜薬効】組織活性型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群
【用法用量】成人 1回200mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜増減。
注意
1．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
2．投与量の増加とともに吸収率が低下するので，1日400mgを超えて投与時，臨床上の有用性を確認し使用。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重篤な心機能不全。
6．重篤な高血圧症。
7．重篤な膵炎。
8．本剤の成分・インドメタシン・サリチル酸系化合物（アスピリン等）に過敏症。
9．アスピリン喘息・その既往。
10．妊婦・妊娠の可能性。
11．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（冷汗，顔面蒼白，呼吸困難，血圧低下等）。
2．消化管穿孔，消化管出血，消化管潰瘍，出血性大腸炎，腸管の狭窄・閉塞，潰瘍性大腸炎（各頻度不明）。
3．血液障害（再生不良性貧血（頻度不明），溶血性貧血（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）等）。
4．皮膚障害（頻度不明）（皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症）。
5．喘息発作（頻度不明）等の急性呼吸障害。
6．腎障害（急性腎障害（頻度不明），ネフローゼ症候群（頻度不明）等），高カリウム血症（0．1%未満），低アルブミン血症（頻度不明）。
7．肝機能障害（0．1～5%未満），黄疸（頻度不明）。
8．昏睡，錯乱（各頻度不明）。
9．性器出血（頻度不明）。
10．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃部不快感，胃痛，下痢，腹痛，食欲不振，口内炎，胸やけ，胃重感，便秘，胃腸症状，胃炎，嘔吐 口渇，腹部膨満感，舌炎，おくび，口唇炎 舌苔
血液 貧血，好酸球増多等 皮下出血
皮膚 脱毛
過敏症 発疹，掻痒 紅斑 血管浮腫
感覚器 耳鳴，味覚異常，眼の充血，羞明 霧視等の視覚異常，角膜混濁，網膜障害
腎臓 BUNの上昇 血中クレアチニンの上昇，尿量減少，血尿，蛋白尿
肝臓 AST，ALTの上昇等 AI－P，LDHの上昇等
精神神経系 眩暈，ふらつき 頭痛，眠気，しびれ感 痙攣，振戦，抑うつ，不眠，意識障害
循環器 動悸，血圧上昇
その他 浮腫 倦怠感，ほてり，頻尿，発熱，胸痛，低体温 高血糖，鼻出血，発汗
（表終了）

ツートラム錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1149038G3022
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】トラマドール塩酸塩
【メーカー】製)日本臓器製薬

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価】83.7円/1T
【薬価収載日】2020/11/25
【標榜薬効】慢性疼痛・がん疼痛持続性鎮痛剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
慢性疼痛
疼痛を伴う各種癌
注意
慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人　1日100～300mg　1日2回　分割　内服。適宜増減，1回200mg　1日400mgまで。
注意
製剤共通
1．初回量
1回50mgから開始。他のトラマドール塩酸塩経口剤から切りかえ時は，経口剤の1日量，鎮痛効果・副作用を考慮して，本剤の初回量を設定。
2．投与間隔
1日2回，朝，夕に内服。
3．増量・減量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。増量・減量の目安は，1回50mg，1日100mgずつ行う。
4．癌疼痛増強時の臨時追加投与
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突出痛の発現時は，直ちにトラマドール塩酸塩即放性製剤の臨時追加投与を行い鎮痛を図る。臨時追加投与の1回量は，定時投与中の1日量の1／8～1／4。トラマドール塩酸塩の1日総量は400mgまで。
5．投与の継続
慢性疼痛 投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
6．投与の中止
(1)．退薬症候を防ぐために漸減。
(2)．癌疼痛で，1日の定時投与量が300mgで鎮痛効果が不十分となった時，投与中止し，モルヒネ等の強オピオイド鎮痛剤への変更を考慮。その場合，定時投与量の1／5の経口モルヒネを初回量の目安とする。また，経口モルヒネ以外の強オピオイド鎮痛剤に変更時は，経口モルヒネとの換算で投与量を求める。
7．高齢者
75歳以上では，血中濃度が高い状態で持続し，作用・副作用が増強するおそれ，1日300mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．12歳未満の小児。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．アルコール，睡眠剤，鎮痛剤，オピオイド鎮痛剤，向精神薬による急性中毒。
4．MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後14日以内。
5．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
6．治療による管理が不十分なてんかん。
7．高度な腎機能障害，高度な肝機能障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，気管支痙攣，喘鳴，血管神経性浮腫等)。
2．呼吸抑制(頻度不明)。
3．痙攣(頻度不明)。
4．依存性(頻度不明)(耐性，精神的依存，身体的依存)，退薬症候(激越，不安，神経過敏，不眠症，運動過多，振戦，胃腸症状，パニック発作，幻覚，錯感覚，耳鳴等)。
5．意識消失(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心(41．6%) 便秘(38．1%) 嘔吐(15．3%) 食欲減退 腹部不快感 消化不良，胃炎，腹部膨満感，下痢，胃食道逆流性疾患，上腹部痛，口内炎，出血性胃炎，口唇炎，口角口唇炎 口の錯感覚，胃腸音異常，口内乾燥，腹痛，おくび，イレウス
精神神経系 傾眠(20．3%) 浮動性眩暈(10．3%) 頭痛 回転性眩暈，振戦，不眠症，耳鳴，味覚不全，感覚鈍麻，頭部不快感，片頭痛，体位性眩暈，錯感覚，せん妄，不安 睡眠障害，健忘，幻覚，鎮静，悪夢，落ち着きのなさ，活動性低下，異常行動，無感情，不快気分，不随意性筋収縮，記憶障害，ジスキネジー，眼振，疲労，気分変動，うつ病，頭重感，激越，抑うつ気分，両手のしびれ感，ふらつき感，不快感，協調運動異常，失神，錯乱，精神運動亢進，錯覚，言語障害
呼吸器　呼吸困難，口腔咽頭痛，咽喉乾燥，口腔咽頭不快感，発声障害
循環器　動悸，高血圧，ほてり 不整脈，蒼白，胸内苦悶，頻脈，徐脈，血圧上昇，血圧低下，起立性低血圧
血液凝固系　好中球数増加 ヘマトクリット減少，血小板減少，好酸球増加・減少，リンパ球減少，ヘモグロビン減少，赤血球減少，白血球増加
肝臓　肝機能異常，ALT増加，AST増加，LDH増加 AI－P増加，ビリルビン増加
皮膚　掻痒症，多汗症 湿疹，発疹，薬疹，冷汗，蕁麻疹，寝汗
腎臓・尿路系　排尿困難 尿中血陽性，尿中ブドウ糖陽性，膀胱炎，頻尿，尿閉，血中クレアチニン増加，尿量減少 尿蛋白陽性，BUN増加，夜間頻尿
代謝異常　血中尿酸増加，脱水 トリグリセリド増加
その他 口渇(6．9%) 倦怠感，CK増加 末梢性浮腫，異常感，胸部不快感，体重減少 熱感，視力障害，背部痛，疼痛，霧視，散瞳，無力症，関節痛，四肢痛，筋骨格硬直，易刺激性，悪寒，発熱，冷感，視調節障害，心電図QT延長，浮腫，転倒
(表終了)

ノルスパンテープ5mg（5mg1枚）

外　外用　流通
劇　精2

【YJコード】1149704S1020
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ブプレノルフィン
【メーカー】製)ムンディファーマ　販)久光製薬
【薬価】1579.1円/1枚
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記に伴う慢性疼痛の鎮痛
(1)．変形性関節症
(2)．腰痛症
注意
1．非オピオイド鎮痛剤の投与を含む保存的治療では鎮痛効果不十分の患者で，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する日常生活動作障害を有する変形性関節症及び腰痛症に伴う慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人　初回量　5mg　7日ごと　前胸部，上背部，上腕外部又は側胸部に貼付。
適宜増減，20mgまで。
注意
1．初回貼付時
(1)．初回貼付72時間後までブプレノルフィンの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要する。必要時，他の治療の併用を考慮。
(2)．他のオピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時は，使用していたオピオイド鎮痛剤の鎮痛効果の持続時間を考慮して，本剤の貼付を開始。高用量(経口モルヒネ換算量80mg／日超)のオピオイド鎮痛剤から切りかえた時は，鎮痛効果不十分のおそれ，注意。
2．貼付方法
血中濃度上昇のおそれ，毎回貼付部位を変え，同じ部位に貼付時は，3週間以上あける。
3．増量
本剤貼付開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調節。鎮痛効果が得られない時は，5～10mgずつ貼りかえ時に増量。
4．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
5．投与の継続
本剤貼付開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性について検討。
6．投与の中止
(1)．退薬症候を防ぐために漸減。
(2)．他のオピオイド鎮痛剤に変更時は，本剤剥離後24時間以上あける。ブプレノルフィンのμオピオイド受容体への親和性は他のオピオイド鎮痛剤より強いため，切りかえ直後には他のオピオイド鎮痛剤の鎮痛効果が得られない可能性，注意。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な呼吸抑制状態・呼吸機能障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制，呼吸困難(頻度不明)。
2．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
3．依存性(頻度不明)(薬物依存)，禁断症状(不安，不眠，興奮，胸内苦悶，嘔気，振戦，発汗等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　過敏症(口腔咽頭腫脹，舌腫脹等)
血液　貧血，リンパ球数減少
精神神経系 浮動性眩暈，頭痛，傾眠(30．3%) 不安，不眠症 不快気分，気分動揺，落ち着きのなさ，うつ病，神経過敏，リビドー減退，感覚鈍麻，味覚異常，蟻走感，振戦，片頭痛 錯乱状態，感情不安定，激越，離人症，多幸気分，幻覚，悪夢，精神病性障害，離脱症候群，錯感覚，注意力障害，協調運動異常，構語障害，記憶障害，失神，痙攣，攻

1 神経系及び感覚器官用医薬品

撃性
感覚器 回転性眩暈 流涙増加，眼乾燥，頭位性回転性眩暈，耳鳴 霧視，縮瞳
循環器 動悸，ほてり 頻脈，高血圧，潮紅，徐脈，低血圧 狭心症，血管拡張，起立性低血圧
呼吸器 あくび 鼻漏，息詰まり，喘息増悪 咳嗽，しゃっくり，過換気，低酸素症，鼻炎，喘鳴
消化器 便秘（33．7%），悪心（62．5%），嘔吐（35．7%） 下痢，口内乾燥，胃不快感，上腹部痛，胃炎 腹痛，消化不良，口内炎，嚥下障害 鼓腸，憩室炎，イレウス
肝臓 肝機能異常，γ－GTP増加 AST増加，ALT増加 胆道仙痛
皮膚 適用部位紅斑，適用部位掻痒感 接触性皮膚炎，適用部位皮膚炎，適用部位湿疹，適用部位変色，適用部位小水疱，多汗症 掻痒症，発疹，全身性掻痒症，皮膚乾燥，蕁麻疹，適用部位刺激感，適用部位発疹，適用部位糜爛 適用部位浮腫
腎臓・泌尿器 排尿困難 尿閉，血中クレアチニン増加，BUN増加 尿失禁，排尿躊躇
臨床検査 血中尿酸増加，心電図QT延長，体重減少 LDH増加，血中トリグリセリド増加，尿沈渣陽性，血中ブドウ糖増加，尿中蛋白陽性
その他 食欲減退 脱水，無力症，悪寒，異常感，倦怠感，末梢性浮腫，口渇，胸部不快感 転倒，性機能不全，高尿酸血症，背部痛，筋痙縮，筋肉痛，冷感，発熱，疼痛，顔面浮腫 筋力低下，胸痛，インフルエンザ様疾患，浮腫
（表終了）

ハイペン錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1149032F2023
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】エトドラク
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】12.3円/1T
【薬価収載日】1994/08/26
【標榜薬効】非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸腕症候群，腱鞘炎
〇術後・外傷後の消炎・鎮痛
【用法用量】成人 1日400mg 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
適宜増減。
注意
1．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
2．高齢者 少量（200mg／日）から開始する等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝障害。
4．重篤な腎障害。
5．重篤な心機能不全。
6．重篤な高血圧症。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．アスピリン喘息・その既往。
9．妊娠後期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，蕁麻疹，全身潮紅，血管浮腫，喘鳴等）。
3．消化性潰瘍（穿孔を伴うことあり）（0．1%未満）（胃痛，嘔吐，吐血・下血等を伴う胃腸出血）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
5．汎血球減少，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
6．腎不全（頻度不明）（急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），慢性腎不全の急性増悪）。
7．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
8．うっ血性心不全（頻度不明）。
9．好酸球性肺炎，間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線上の異常陰影等）。
10．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感 蕁麻疹 紅斑，光線過敏症，紫斑，斑状出血，皮膚血管炎（白血球破砕性血管炎含む）
消化器 腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，口内炎，消化不良，腹部膨満感，舌炎，口渇 胃炎，便秘 しゃっくり
精神神経系 眩暈 しびれ，眠気，頭痛 振戦
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AI－Pの上昇等）
腎臓 腎機能異常（蛋白尿，BUNの上昇等），顕微鏡的血尿
血液 貧血 好酸球増多 白血球減少
その他 発熱，胸痛 浮腫，倦怠感，ほてり 発赤，排尿困難，動悸，喘息，味覚異常，視覚異常（かすみ目等）
（表終了）

パラミヂンカプセル300mg（300mg1カプセル）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1149009M1035
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ブコローム
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】9.6円/1C
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】非ステロイド性抗炎症・痛風治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇術後・外傷後の炎症・腫脹の緩解
〇下記の消炎・鎮痛・解熱
関節リウマチ，変形性関節症
膀胱炎
多形滲出性紅斑
急性副鼻腔炎，急性中耳炎
子宮付属器炎
〇痛風の高尿酸血症の是正
【用法用量】成人 1日600～1200mg 1日2～4回 分割 内服。
リウマチ疾患 1日900～1200mg。
痛風の高尿酸血症の是正 1日300～900mg。
適宜増減。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝障害。
4．重篤な腎障害。
5．本剤の成分に過敏症。
6．アスピリン喘息・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
2．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少，出血傾向 血小板減少 貧血
肝臓 肝機能検査値異常（AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇等）
過敏症 発疹
消化器 悪心，下痢，食欲不振，胃痛，腹痛，胃部不快感 嘔吐，軟便，腹部不快感，口内炎，口渇
精神神経系 眠気 頭痛，ふらつき感
その他 発熱，胸部灼熱感
（表終了）

ブルフェン錠200（200mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1149001F2168
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】イブプロフェン
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】抗炎症・鎮痛・解熱剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，関節痛・関節炎，神経痛・神経炎，背腰痛，頸腕症候群，子宮付属器炎，月経困難症，紅斑（結節性紅斑，多形滲出性紅斑，遠心性環状紅斑）
2．手術・外傷後の消炎・鎮痛
3．下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
下記の消炎・鎮痛 関節リウマチ，関節痛・関節炎，神経痛・神経炎，背腰痛，頸腕症候群，子宮付属器炎，月経困難症，紅斑（結節性紅斑，多形滲出性紅斑，遠心性環状紅斑）成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。小児 下記量 1日3回 分割 内服。5～7歳 1日200～300

1 神経系及び感覚器官用医薬品

mg。8～10歳 1日300～400mg。11～15歳 1日400～600mg。適宜増減。空腹時は避ける。
手術・外傷後の消炎・鎮痛 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。小児 下記量 1日3回 分割 内服。5～7歳 1日200～300mg。8～10歳 1日300～400mg。11～15歳 1日400～600mg。適宜増減。空腹時は避ける。
下記の解熱・鎮痛 急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む) 成人 1回200mg 頓服。適宜増減。1日最大600mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
(表終了)
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な肝障害。
4. 重篤な腎障害。
5. 重篤な心機能不全。
6. 重篤な高血圧症。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. ジドブジンの投与患者。
10. 妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶, 悪寒, 冷汗, 呼吸困難, 四肢しびれ感, 血圧低下, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
2. 再生不良性貧血, 溶血性貧血, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)。
3. 消化性潰瘍, 胃腸出血, 潰瘍性大腸炎(各頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
5. 急性腎障害, 間質性腎炎, ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿, 血尿, 尿蛋白, BUN・血中クレアチニン上昇, 高カリウム血症, 低アルブミン血症等)。
6. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直, 発熱, 頭痛, 嘔気・嘔吐, 意識混濁等)。
7. 劇症肝炎, 肝機能障害(黄疸(各頻度不明), AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇等)。
8. 喘息発作(頻度不明)(喘鳴, 呼吸困難等)。
9. 心筋梗塞, 脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
血液 血小板機能低下(出血時間の延長)
消化器 胃部不快感, 腹痛, 食欲不振, 消化不良, 嘔気・嘔吐, 下痢 便秘 口渇, 口内炎, 腹部膨満感
肝臓 ALT上昇 AI－P上昇 AST上昇, 黄疸等
過敏症 発疹, 蕁麻疹 掻痒感, 湿疹 紫斑
感覚器 霧視等の視覚異常, 難聴, 耳鳴, 味覚異常
精神神経系 頭痛, 眠気 眩暈 不眠, 抑うつ
循環器 動悸, 血圧上昇, 血圧低下
その他 浮腫 倦怠感, 発熱, 鼻出血
(表終了)

フロベン顆粒8%(8%1g)

外 内服 流通
劇

【YJコード】1149011D1032
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】フルルビプロフェン
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】21.2円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ, 変形性関節症, 腰痛症, 歯髄炎, 歯根膜炎
○抜歯・歯科の小手術後の鎮痛・消炎
【用法用量】成人 1回0. 5g 1日3回 食後 内服。
適宜増減。1回0. 5～1g 頓服。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な肝障害。
4. 重篤な腎障害。
5. 重篤な心機能不全。
6. 重篤な高血圧症。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. エノキサシン水和物・ロメフロキサシン・ノルフロキサシン・プルリフロキサシンの投与患者。
10. 妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶, 悪寒, 冷汗, 呼吸困難, 四肢しびれ感, 血圧低下, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
2. 急性腎障害, ネフローゼ症候群(各頻度不明)等の重篤な腎障害(乏尿, 血尿, 尿蛋白, BUN・血中クレアチニン上昇, 高カリウム血症, 低アルブミン血症等)。
3. 胃腸出血(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血(頻度不明)。
5. 喘息発作(頻度不明)(喘鳴, 呼吸困難感等)。
6. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 剥脱性皮膚炎(各頻度不明)。
7. 痙攣(頻度不明)(意識障害, 意識喪失等)。
8. 心筋梗塞, 脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
消化器 嘔気・嘔吐, 胃部不快感, 食欲不振, 胃痛 下痢, 便秘, 口渇, 腹痛, 胃・腹部膨満感 口内炎
肝臓 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇
精神神経系 頭痛, 眠気, 眩暈, ふらつき感, 倦怠感
循環器 動悸
血液 血小板減少, 血小板機能低下(出血時間の延長)
耳 耳鳴り
その他 浮腫
(表終了)

ボルタレンSRカプセル37. 5mg(37. 5mg1カプセル)

外 内服 流通
劇

【YJコード】1147002N1174
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)同仁医薬化工 販)ノバルティスファーマ
【薬価】7.6円/1C
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】徐放性鎮痛・抗炎症剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ, 変形性関節症, 腰痛症, 肩関節周囲炎, 頸肩腕症候群
【用法用量】成人 1回37. 5mg 1日2回 食後 内服。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な腎機能障害。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 重篤な高血圧症。
6. 重篤な心機能不全。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. 妊婦・妊娠の可能性。
10. トリアムテレンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(胸内苦悶, 冷汗, 呼吸困難, 四肢冷却, 血圧低下, 意識障害等), アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹, 血管浮腫, 呼吸困難等)。
2. 出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3. 消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血, 溶血性貧血, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6. 急性腎障害(間質性腎炎, 腎乳頭壊死等), ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿, 血尿, 尿蛋白, BUN・血中クレアチニン上昇, 高カリウム血症, 低アルブミン血症等)。
7. 重症喘息発作(アスピリン喘息)(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
9. うっ血性心不全(頻度不明)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直, 発熱, 頭痛, 悪心・嘔吐, 意識混濁等)。
11. 重篤な肝機能障害(頻度不明)(劇症肝炎, 広範な肝壊死等, 急激

1 神経系及び感覚器官用医薬品

な意識障害)。
12. 急性脳症(頻度不明)(かぜ様症状, 激しい嘔吐, 意識障害, 痙攣等, ライ症候群)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴うことあり)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
14. 心筋梗塞, 脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐, 胃部不快感, 胃痛 食欲不振, 下痢, 口内炎, 腹痛, 消化性潰瘍, 便秘, 口角炎, 軟便, 口渇 胃腸出血, 胃炎, 小腸・大腸の潰瘍, 出血性大腸炎, クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化, 膵炎, 食道障害, 吐血, 下血
血液 ― 貧血, 白血球減少, 好酸球増多 出血傾向, 血小板機能低下(出血時間の延長)
肝臓 ― 肝機能障害, AST・ALT上昇, AlーP上昇 黄疸
腎臓 ― クレアチニン上昇, BUN上昇 ―
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症, 多形紅斑, 紫斑
過敏症 ― 発疹, 顔面浮腫, 潮紅 蕁麻疹, 喘息発作, アレルギー性紫斑, 血管浮腫
精神神経系 ― 眠気, 頭痛 不眠, 眩暈, 神経過敏, しびれ, 振戦, 錯乱, 幻覚, 痙攣, 抑うつ, 不安, 記憶障害
感覚器 ― ― 視覚異常(霧視等), 耳鳴, 味覚障害, 聴覚障害
循環器 ― ― 血圧上昇, 血圧低下, 動悸, 頻脈
その他 ― 浮腫, 発熱, 夜間頻尿, 全身倦怠感 発汗, 脱毛, 胸痛, 血管炎
(表終了)

ボルタレンサポ12. 5mg (12. 5mg1個)

外 外用 流通
劇

【YJコード】1147700J1057
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】20.9円/1個
【標榜薬効】鎮痛・解熱・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ, 変形性関節症, 腰痛症, 後陣痛
〇術後の鎮痛・消炎
〇他の解熱剤では効果が期待できないか, 投与不可能な時の急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)の緊急解熱
【用法用量】成人 1回25～50mg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢, 症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性, 高齢者は少量から開始。
小児 1回0. 5～1mg/kg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢, 症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性, 少量から開始。
年齢別投与量の目安は下記の通り(1回量)。
1～3歳未満 6. 25mg。
3～6歳未満 6. 25～12. 5mg。
6～9歳未満 12. 5mg。
9～12歳未満 12. 5～25mg。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な腎機能障害。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 重篤な高血圧症。
6. 重篤な心機能不全。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. 直腸炎, 直腸出血, 痔疾。
9. アスピリン喘息・その既往。
10. インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
11. 妊婦・妊娠の可能性。
12. トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(胸内苦悶, 冷汗, 呼吸困難, 四肢冷却, 血圧低下, 意識障害等), アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹, 血管浮腫, 呼吸困難等)。
2. 出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3. 消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血, 溶血性貧血, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6. 急性腎障害(間質性腎炎, 腎乳頭壊死等), ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿, 血尿, 尿蛋白, BUN・血中クレアチニン上昇, 高カリウム血症, 低アルブミン血症等)。
7. 重症喘息発作(アスピリン喘息)(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
9. うっ血性心不全(頻度不明)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直, 発熱, 頭痛, 悪心・嘔吐, 意識混濁等)。
11. 重篤な肝機能障害(頻度不明)(劇症肝炎, 広範な肝壊死等, 急激な意識障害)。
12. 急性脳症(頻度不明)(かぜ様症状, 激しい嘔吐, 意識障害, 痙攣等, ライ症候群)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴うことあり)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
14. 心筋梗塞, 脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛, 下痢 悪心・嘔吐, 便秘, 口内炎 軟便・直腸粘膜の刺激, 消化性潰瘍, 胃腸出血, 食欲不振, 胃炎, 吐血, 下血, 胃痛, 小腸・大腸の潰瘍, 出血性大腸炎, クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化, 膵炎, 食道障害
血液 ― ― 貧血, 出血傾向, 血小板機能低下(出血時間の延長)
肝臓 ― ― AST・ALT上昇, 肝機能障害, 黄疸
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症, 紫斑, 多形紅斑
過敏症 ― 発疹, 顔面浮腫 蕁麻疹, 喘息発作, アレルギー性紫斑, 血管浮腫
精神神経系 ― 眩暈, 頭痛 眠気, 不眠, 神経過敏, しびれ, 振戦, 錯乱, 幻覚, 痙攣, 抑うつ, 不安, 記憶障害
感覚器 ― ― 耳鳴, 視覚異常(霧視等), 味覚障害, 聴覚障害
循環器 ― 血圧低下 血圧上昇, 動悸, 頻脈
その他 ― 浮腫, 全身倦怠感 発熱, 胸痛, 発汗, 脱毛, 血管炎
(表終了)

ボルタレンサポ25mg (25mg1個)

外 外用 流通
劇

【YJコード】1147700J2061
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】22.8円/1個
【標榜薬効】鎮痛・解熱・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ, 変形性関節症, 腰痛症, 後陣痛
〇術後の鎮痛・消炎
〇他の解熱剤では効果が期待できないか, 投与不可能な時の急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)の緊急解熱
【用法用量】成人 1回25～50mg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢, 症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性, 高齢者は少量から開始。
小児 1回0. 5～1mg/kg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢, 症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性, 少量から開始。
年齢別投与量の目安は下記の通り(1回量)。
1～3歳未満 6. 25mg。
3～6歳未満 6. 25～12. 5mg。
6～9歳未満 12. 5mg。
9～12歳未満 12. 5～25mg。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な腎機能障害。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 重篤な高血圧症。
6. 重篤な心機能不全。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. 直腸炎, 直腸出血, 痔疾。
9. アスピリン喘息・その既往。
10. インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
11. 妊婦・妊娠の可能性。
12. トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(胸内苦悶, 冷汗, 呼吸困難, 四肢冷却, 血圧低下, 意識障害等), アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹, 血管浮腫, 呼吸困難等)。
2. 出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3. 消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血, 溶血性貧血, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
6. 急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），ネフローゼ症候群（各頻度不明）（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
7. 重症喘息発作（アスピリン喘息）（頻度不明）。
8. 間質性肺炎（頻度不明）。
9. うっ血性心不全（頻度不明）。
10. 無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
11. 重篤な肝機能障害（頻度不明）（劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害）。
12. 急性脳症（頻度不明）（かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群）。
13. 横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴うことあり）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
14. 心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛，下痢 悪心・嘔吐，便秘，口内炎 軟便・直腸粘膜の刺激，消化性潰瘍，胃腸出血，食欲不振，胃炎，吐血，下血，胃痛，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害
血液 — — 貧血，出血傾向，血小板機能低下（出血時間の延長）
肝臓 — — AST・ALT上昇，肝機能障害，黄疸
皮膚 — 掻痒症 光線過敏症，紫斑，多形紅斑
過敏症 — 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 — 眩暈，頭痛 眠気，不眠，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 — — 耳鳴，視覚異常（霧視等），味覚障害，聴覚障害
循環器 — 血圧低下 血圧上昇，動悸，頻脈
その他 — 浮腫，全身倦怠感 発熱，胸痛，発汗，脱毛，血管炎
（表終了）

ボルタレンサポ50mg（50mg1個）

外 外用 流通
劇

【YJコード】1147700J3084
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】25.7円/1個
【標榜薬効】鎮痛・解熱・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，後陣痛
〇術後の鎮痛・消炎
〇他の解熱剤では効果が期待できないか，投与不可能な時の急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）の緊急解熱
【用法用量】成人 1回25～50mg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，高齢者は少量から開始。
小児 1回0．5～1mg／kg 1日1～2回 直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，少量から開始。
年齢別投与量の目安は下記の通り（1回量）。
1～3歳未満 6．25mg。
3～6歳未満 6．25～12．5mg。
6～9歳未満 12．5mg。
9～12歳未満 12．5～25mg。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な腎機能障害。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な高血圧症。
6．重篤な心機能不全。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．直腸炎，直腸出血，痔疾。
9．アスピリン喘息・その既往。
10．インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
11．妊婦・妊娠の可能性。
12．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等），アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
2．出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍（各頻度不明）。
3．消化管の狭窄・閉塞（頻度不明）。
4．再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
6．急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），ネフローゼ症候群（各頻度不明）（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
7．重症喘息発作（アスピリン喘息）（頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）。
9．うっ血性心不全（頻度不明）。
10．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
11．重篤な肝機能障害（頻度不明）（劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害）。
12．急性脳症（頻度不明）（かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群）。
13．横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴うことあり）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
14．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛，下痢 悪心・嘔吐，便秘，口内炎 軟便・直腸粘膜の刺激，消化性潰瘍，胃腸出血，食欲不振，胃炎，吐血，下血，胃痛，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害
血液 — — 貧血，出血傾向，血小板機能低下（出血時間の延長）
肝臓 — — AST・ALT上昇，肝機能障害，黄疸
皮膚 — 掻痒症 光線過敏症，紫斑，多形紅斑
過敏症 — 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 — 眩暈，頭痛 眠気，不眠，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 — — 耳鳴，視覚異常（霧視等），味覚障害，聴覚障害
循環器 — 血圧低下 血圧上昇，動悸，頻脈
その他 — 浮腫，全身倦怠感 発熱，胸痛，発汗，脱毛，血管炎
（表終了）

ボルタレン錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1147002F1560
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】7.3円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ，変形性関節症，変形性脊椎症，腰痛症，腱鞘炎，頸肩腕症候群，神経痛，後陣痛，骨盤内炎症，月経困難症，膀胱炎，前眼部炎症，歯痛
2．手術・抜歯後の鎮痛・消炎
3．下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）
【用法用量】関節リウマチ，変形性関節症，変形性脊椎症，腰痛症，腱鞘炎，頸肩腕症候群，神経痛，後陣痛，骨盤内炎症，月経困難症，膀胱炎，前眼部炎症，歯痛の鎮痛・消炎，手術・抜歯後の鎮痛・消炎
成人 1日75～100mg 1日3回 分割 内服。1回25～50mg 頓服。空腹時は避ける。
急性上気道炎の解熱・鎮痛
成人 1回25～50mg 頓服。適宜増減。1日最大100mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な腎機能障害。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な高血圧症。
6．重篤な心機能不全。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．アスピリン喘息・その既往。
9．インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
10．妊婦・妊娠の可能性。
11．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1. ショック(胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等)，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等)。
2. 出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3. 消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6. 急性腎障害(間質性腎炎，腎乳頭壊死等)，ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等)。
7. 重症喘息発作(アスピリン喘息)(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
9. うっ血性心不全(頻度不明)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
11. 重篤な肝機能障害(頻度不明)(劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害)。
12. 急性脳症(頻度不明)(かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴うことあり)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
14. 心筋梗塞，脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，胃痛 腹痛，下痢，口内炎，口渇，便秘 消化性潰瘍，胃腸出血，吐血，下血，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害，胃炎
血液 ― 出血傾向 貧血，血小板機能低下(出血時間の延長)
肝臓 ― ― 黄疸，肝機能障害，AST・ALT上昇
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症，多形紅斑，紫斑
過敏症 ― 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 ― 頭痛，眠気，眩暈 不眠，しびれ，神経過敏，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 ― ― 視覚異常(霧視等)，耳鳴，味覚障害，聴覚障害
循環器 ― 動悸 血圧上昇，血圧低下，頻脈
その他 ― 浮腫，全身倦怠感 発汗，脱毛，発熱，胸痛，血管炎
(表終了)

ポンタールシロップ3．25%（3．25%1mL）

外 内服 流通

【YJコード】1141005Q1081
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】メフェナム酸
【メーカー】製)ファイザー 販)第一三共
【薬価】6.7円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】解熱・鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
【用法用量】小児 1回0．2mL／kg(メフェナム酸 6．5mg／kg) 頓服。適宜増減，1日2回まで。空腹時は避ける。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重篤な心機能不全。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．アスピリン喘息・その既往。
8．重篤な高血圧症。
9．本剤で下痢の既往。
10．妊娠末期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(胸内苦悶，冷汗，喉頭浮腫，呼吸困難，四肢しびれ感，低血圧，結膜充血等)。
2．溶血性貧血(頻度不明)(自己免疫性溶血性貧血)，無顆粒球症(頻度不明)，顆粒球減少。
3．骨髄形成不全(頻度不明)。
4．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5．急性腎障害(頻度不明)，ネフローゼ症候群(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)(乏尿，血尿，尿蛋白，BUN上昇，血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等)。
6．消化性潰瘍(頻度不明)，大腸炎(頻度不明)，消化管出血(吐血，下血，血便等)。
7．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，Al－P，γ－GTP等の著しい上昇)，黄疸(頻度不明)。
8．心筋梗塞(頻度不明)，脳血管障害(頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1．5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 血小板減少性紫斑病，血小板機能低下(出血時間の延長)，血小板減少，好酸球増多
過敏症 発疹 発赤，蕁麻疹，掻痒，固定薬疹
感覚器 霧視
肝臓 黄疸，AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇，肝障害
消化器 下痢 食欲不振，悪心，嘔吐，腹痛，軟便 吐血，胃痛，胃部不快感，口渇，便秘，鼓腸
精神神経系 眠気，眩暈，頭痛，倦怠感，痙攣
その他 体温低下 浮腫，発熱
(表終了)

ロキソニン錠60mg（60mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1149019F1560
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症・解熱剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，歯痛
2．術後・外傷後・抜歯後の鎮痛・消炎
3．下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
1．下記の消炎・鎮痛 関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，歯痛 2．術後・外傷後・抜歯後の鎮痛・消炎 成人 1回60mg 1日3回 内服。1回60～120mg 頓服。適宜増減。空腹時は避ける。
3．下記の解熱・鎮痛 急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む) 成人 1回60mg 頓服。適宜増減。1日最大180mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
(表終了)
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重篤な心機能不全。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．アスピリン喘息・その既往。
8．妊娠後期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
2．無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(頻度不明)，溶血性貧血(頻度不明)，再生不良性貧血(頻度不明)，血小板減少(頻度不明)。
3．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，多形紅斑(頻度不明)，急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
4．急性腎障害(頻度不明)，ネフローゼ症候群(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)，高カリウム血症。
5．うっ血性心不全(頻度不明)。
6．心筋梗塞(頻度不明)，脳血管障害(頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
7．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
8．重篤な消化性潰瘍(頻度不明)，消化管出血(頻度不明)(小腸，大腸からの吐血，下血，血便等)，ショック。
9．消化管穿孔(頻度不明)(心窩部痛，腹痛等)。
10．小腸・大腸の狭窄・閉塞(頻度不明)(悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満等)。
11．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)(黄疸(頻度不明)，AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇等)。
12．喘息発作(頻度不明)等の急性呼吸障害。
13．無菌性髄膜炎(頻度不明)(発熱，頭痛，悪心・嘔吐，項部硬直，意識混濁等)。
14．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～2%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 発熱，蕁麻疹
消化器 腹痛，胃部不快感，食欲不振，悪心，下痢，便秘，胸やけ，口内炎，腹部膨満，口渇 嘔吐 消化性潰瘍，小腸・大腸の潰瘍，消化不良
循環器 動悸，血圧上昇
精神神経系 眠気 頭痛，眩暈，しびれ
血液 好酸球増多 貧血，白血球減少，血小板減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇
泌尿器 蛋白尿 血尿，排尿困難，尿量減少
その他 浮腫，顔面熱感 胸痛，倦怠感，発汗
(表終了)

1．1．6 抗パーキンソン剤

アジレクト錠0．5mg（0．5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1169017F1025
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ラサギリンメシル酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】509.6円/1T
【薬価収載日】2018/05/22
【標榜薬効】パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 1回1mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1．他のMAO阻害薬(セレギリン塩酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与患者。
2．ペチジン塩酸塩含有製剤，トラマドール塩酸塩，タペンタドール塩酸塩の投与患者。
3．三環系抗うつ薬(アミトリプチリン塩酸塩，アモキサピン，イミプラミン塩酸塩，クロミプラミン塩酸塩，ドスレピン塩酸塩，トリミプラミンマレイン酸塩，ノルトリプチリン塩酸塩，ロフェプラミン塩酸塩)，四環系抗うつ薬(マプロチリン塩酸塩，ミアンセリン塩酸塩，セチプチリンマレイン酸塩)，選択的セロトニン再取り込み阻害薬(フルボキサミンマレイン酸塩，パロキセチン塩酸塩水和物，セルトラリン塩酸塩，エスシタロプラムシュウ酸塩)，セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節薬(ボルチオキセチン臭化水素酸塩)，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(ミルナシプラン塩酸塩，デュロキセチン塩酸塩，ベンラファキシン塩酸塩)，選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(アトモキセチン塩酸塩)，リスデキサンフェタミンメシル酸塩，メチルフェニデート塩酸塩，メタンフェタミン塩酸塩，マジンドール，ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ薬(ミルタザピン)，塩酸テトラヒドロゾリン・プレドニゾロン，ナファゾリン硝酸塩，トラマゾリン塩酸塩，アプラクロニジン塩酸塩の投与患者。
4．中等度以上の肝機能障害(Child－Pugh分類B又はC)。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．起立性低血圧(2．4%)。
2．傾眠(1．4%)，前兆のない突発的睡眠(0．4%)。
3．幻覚(2．7%)，幻視，せん妄，幻聴，錯覚，失見当識等の精神症状。
4．衝動制御障害(0．1%)(病的賭博，病的性欲亢進，強迫性購買，暴食等)。
5．セロトニン症候群(頻度不明)(不安，焦燥，興奮，錯乱，発熱，ミオクロヌス，発汗，頻脈等)。
6．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 ジスキネジア 頭痛，眩暈，ジストニア，異常な夢 うつ病，平衡障害，錯乱
消化器 悪心・嘔吐，便秘，腹痛，口内乾燥 鼓腸
筋・骨格系 関節痛，関節炎，筋骨格痛，頚部痛
心血管系 狭心症，心筋梗塞 脳卒中
その他 転倒，皮疹，食欲減退，結膜炎，発熱，体重減少，アレルギー，倦怠感，水疱性皮疹，白血球減少症，インフルエンザ 鼻炎，尿意切迫，手根管症候群，皮膚癌，悪性黒色腫，高血圧
(表終了)

アジレクト錠1mg（1mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1169017F2021
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ラサギリンメシル酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】945円/1T
【薬価収載日】2018/05/22
【標榜薬効】パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 1回1mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1．他のMAO阻害薬(セレギリン塩酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与患者。
2．ペチジン塩酸塩含有製剤，トラマドール塩酸塩，タペンタドール塩酸塩の投与患者。
3．三環系抗うつ薬(アミトリプチリン塩酸塩，アモキサピン，イミプラミン塩酸塩，クロミプラミン塩酸塩，ドスレピン塩酸塩，トリミプラミンマレイン酸塩，ノルトリプチリン塩酸塩，ロフェプラミン塩酸塩)，四環系抗うつ薬(マプロチリン塩酸塩，ミアンセリン塩酸塩，セチプチリンマレイン酸塩)，選択的セロトニン再取り込み阻害薬(フルボキサミンマレイン酸塩，パロキセチン塩酸塩水和物，セルトラリン塩酸塩，エスシタロプラムシュウ酸塩)，セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節薬(ボルチオキセチン臭化水素酸塩)，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(ミルナシプラン塩酸塩，デュロキセチン塩酸塩，ベンラファキシン塩酸塩)，選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(アトモキセチン塩酸塩)，リスデキサンフェタミンメシル酸塩，メチルフェニデート塩酸塩，メタンフェタミン塩酸塩，マジンドール，ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ薬(ミルタザピン)，塩酸テトラヒドロゾリン・プレドニゾロン，ナファゾリン硝酸塩，トラマゾリン塩酸塩，アプラクロニジン塩酸塩の投与患者。
4．中等度以上の肝機能障害(Child－Pugh分類B又はC)。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．起立性低血圧(2．4%)。
2．傾眠(1．4%)，前兆のない突発的睡眠(0．4%)。
3．幻覚(2．7%)，幻視，せん妄，幻聴，錯覚，失見当識等の精神症状。
4．衝動制御障害(0．1%)(病的賭博，病的性欲亢進，強迫性購買，暴食等)。
5．セロトニン症候群(頻度不明)(不安，焦燥，興奮，錯乱，発熱，ミオクロヌス，発汗，頻脈等)。
6．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 ジスキネジア 頭痛，眩暈，ジストニア，異常な夢 うつ病，平衡障害，錯乱
消化器 悪心・嘔吐，便秘，腹痛，口内乾燥 鼓腸
筋・骨格系 関節痛，関節炎，筋骨格痛，頚部痛
心血管系 狭心症，心筋梗塞 脳卒中
その他 転倒，皮疹，食欲減退，結膜炎，発熱，体重減少，アレルギー，倦怠感，水疱性皮疹，白血球減少症，インフルエンザ 鼻炎，尿意切迫，手根管症候群，皮膚癌，悪性黒色腫，高血圧
(表終了)

アーテン錠(2mg)（2mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1169001F1024
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】トリヘキシフェニジル塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー 販)武田薬品工業
【薬価】9.1円/1T
【標榜薬効】パーキンソン症候群治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．特発性パーキンソニズム
2．その他のパーキンソニズム(脳炎後，動脈硬化性)
3．向精神薬投与によるパーキンソニズム・ジスキネジア(遅発性除く)・アカシジア
注意
抗パーキンソン病薬はフェノチアジン系薬剤，レセルピン誘導体等による口周部等の不随意運動(遅発性ジスキネジア)の軽減なし。場合により，症状の増悪顕性化あり。
【用法用量】特発性パーキンソニズム・その他のパーキンソニズム(脳炎後，動脈硬化性)
成人 第1日目1mg，第2日目2mg，以後1日2mgずつ増量し 維持量 1日6～10mg 1日3～4回 分割 内服。適宜増減。
向精神薬投与によるパーキンソニズム・ジスキネジア(遅発性除く)・アカシジア
成人 1日2～10mg 1日3～4回 分割 内服。適宜増減。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

注意
少量から開始し，慎重に維持量まで増量。他剤から本剤に切りかえ時は，他剤を漸減しながら本剤を増量。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（発熱，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
2．精神錯乱（頻度不明），幻覚（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
3．閉塞隅角緑内障（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 興奮，神経過敏，気分高揚，多幸症，見当識障害，眠気，運動失調，眩暈，頭痛，倦怠感
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，口渇，便秘
泌尿器 排尿困難，尿閉
過敏症 発疹
循環器 心悸亢進
眼 調節障害，散瞳
（表終了）

カバサール錠1．0mg（1mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】1169011F2024
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】カベルゴリン
【メーカー】製)ファイザー　販)キッセイ薬品工業
【薬価】112.1円/1T
【薬価収載日】1999/08/13
【標榜薬効】ドパミン作動薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇パーキンソン病
〇乳汁漏出症
〇高プロラクチン血性排卵障害
〇高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置が必要ない時のみ）
〇産褥性乳汁分泌抑制
注意
パーキンソン病
非麦角製剤の治療効果不十分・忍容性に問題があると考えられる時のみ投与。
【用法用量】パーキンソン病
成人　カベルゴリン　1日0．25mgから開始。2週目　1日0．5mg，以後1週間ごと　1日0．5mgずつ増量し　維持量　1日最高3mg。1日1回　朝食後　内服。
乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ）
成人　カベルゴリン　1回0．25mgから開始　週1回（同一曜日）　就寝前　内服。2週間以上の間隔で　1回0．25mgずつ増量し　維持量（標準1回量0．25～0．75mg）を定める。適宜増減，1回1mgまで。
産褥性乳汁分泌抑制
成人　カベルゴリン　1回1mg　食後　内服（胎児娩出後1回のみ）。
注意
パーキンソン病，乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ）
1．少量から開始し，消化器症状（悪心，嘔吐等），血圧等を観察し，慎重に維持量まで増量。
産褥性乳汁分泌抑制
2．胎児娩出後4時間以内は投与しない。呼吸，脈拍，血圧等の安定後，投与。胎児娩出後2日以内に投与。投与後（特に投与当日）は観察を行う。類薬で血圧上昇，頭痛，中枢神経症状等の報告あり。

■禁忌
【禁忌】1．麦角製剤に過敏症の既往。
2．心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，これらに伴う狭窄等の心臓弁膜の病変・その既往。
3．妊娠高血圧症候群。
4．産褥期高血圧。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．幻覚（5．5%），妄想（1．8%），失神（頻度不明），せん妄（頻度不明），錯乱（頻度不明）。
2．悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，血清CK上昇等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
4．胸膜炎（頻度不明），胸水（頻度不明），胸膜線維症（頻度不明），肺線維症（頻度不明），心膜炎（頻度不明），心嚢液貯留（頻度不明）（胸痛，浮腫，呼吸器症状等）。
5．心臓弁膜症（頻度不明）（心雑音の発現・増悪等），心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，心臓弁膜の病変（狭窄等）。
6．後腹膜線維症（頻度不明）（背部痛，下肢浮腫，腎機能障害等）。
7．前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
8．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
9．狭心症（頻度不明），肢端紅痛症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（パーキンソン病）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心，胃部不快感，食欲不振 口渇，嘔吐，便秘，下痢，胃のもたれ感，口内炎，腹痛，胃痛，胸やけ 胃炎
精神神経系 興奮，不眠，不安，抑うつ，徘徊等の精神症状，ふらつき，眩暈，頭重感，頭痛，ジスキネジア，睡眠時ミオクローヌス等の神経症状 傾眠，病的性欲亢進，病的賭博，薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），攻撃性
循環器 起立性低血圧，血圧低下，立ちくらみ，動悸，浮腫，高血圧 胸部不快感，胸痛，指の血管攣縮
呼吸器 息苦しさ
血液 赤血球数減少，血色素量減少，ヘマトクリット値減少 血小板数減少，白血球数減少，白血球数増加
過敏症 発疹，顔のほてり，掻痒 紅斑，顔面浮腫，蕁麻疹
泌尿器 排尿障害，尿失禁
その他 CK上昇 倦怠感，総コレステロール上昇，筋肉痛，発汗，脱毛 下肢の痙攣，無力症
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ），生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心 嘔吐，便秘，むかつき，腹痛，下痢，胃部不快感，胃痛，胸やけ，胃炎
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，眠気，いらいら感 うつ病，異常感覚，攻撃性，病的性欲亢進，病的賭博
循環器 立ちくらみ，動悸，血圧低下 浮腫，指の血管攣縮，起立性低血圧
呼吸器 息苦しさ
血液 血小板数減少，白血球数減少 血色素量減少
過敏症 ほてり 発疹，紅斑，顔面浮腫，蕁麻疹，掻痒
その他 ざ瘡，倦怠感，トリグリセライド上昇 脱毛，乳房痛，下肢の痙攣，無力症，CK上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（産褥性乳汁分泌抑制）
（表開始）
発現部位等 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心，胃部不快感，胃痛 嘔吐，腹痛
精神神経系 頭痛，ふらつき，頭重感 傾眠，一過性半盲，攻撃性，病的性欲亢進，病的賭博
循環器 立ちくらみ ほてり，浮腫，指の血管攣縮，動悸
呼吸器 息苦しさ
血液 血小板数増加，白血球数減少
過敏症 蕁麻疹，掻痒，発疹，紅斑，顔面浮腫
その他 トリグリセライド上昇，総コレステロール上昇 倦怠感，鼻血，下肢の痙攣，脱毛，無力症，CK上昇
（表終了）

シンメトレル錠50mg（50mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】1161001F1050
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】アマンタジン塩酸塩
【メーカー】製)サンファーマ　販)田辺三菱製薬　販)ノバルティスファーマ
【薬価】8.4円/1T
【標榜薬効】精神活動改善・パーキンソン症候群治療・抗A型インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇パーキンソン症候群
〇脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
〇A型インフルエンザウイルス感染症
注意
A型インフルエンザウイルス感染症
1．医師が特に必要と判断した時のみ投与。
症状も重く死亡率が高いと考えられる者（高齢者，免疫不全状態等）・その患者に接する医療従事者等。
2．抗ウイルス薬は全てのA型インフルエンザウイルス感染症に必須ではない。本剤の必要性を検討。
3．予防時は，ワクチンによる補完を考慮し，下記にのみ使用。
・ワクチン入手が困難
・ワクチン接種が禁忌
・ワクチン接種後抗体を獲得するまでの期間
4．A型以外のインフルエンザウイルス感染症には効果なし。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【用法用量】パーキンソン症候群
成人 初期量 アマンタジン塩酸塩 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
1週間後，維持量 1日200mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日300mg 1日3回まで。
脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
成人 アマンタジン塩酸塩 1日100～150mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
A型インフルエンザウイルス感染症
成人 アマンタジン塩酸塩 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。高齢者・腎障害 1日100mgまで。
注意
効能共通
1. 腎機能低下 血漿中濃度が高くなり，意識障害，精神症状，痙攣，ミオクロヌス等の副作用の可能性，投与間隔を延長する等慎重投与。
＜参考＞クレアチニンクリアランスと投与間隔の目安
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分／1．73m2）投与間隔（100mg／回）
＞75 12時間
35～75 1日
25～35 2日
15～25 3日
（表終了）
（注）上記は外国人における試験に基づく目安，国内で承認されている用法及び用量とは異なる。
脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
2. 投与期間は，臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し，投与12週で効果なければ中止。
A型インフルエンザウイルス感染症
3. 発症後
速やかに投与を開始（発症後48時間以降に開始しても十分な効果なし）。耐性ウイルスの発現を防ぐため，必要最小限の期間（最長でも1週間）の投与にとどめる。
4. ワクチンの入手が困難，ワクチン接種が禁忌 地域又は施設で流行の徴候が出現後，速やかに投与を開始。流行の終息後は速やかに投与中止。
5. ワクチン接種後抗体を獲得するまでの期間 10日以上とされるが，抗体獲得後は速やかに投与中止。

■禁忌
【禁忌】1. 透析を要する重篤な腎障害。
2. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（0．1%未満）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック症状等，白血球の増加，血清CK（CPK）の上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
3. 視力低下を伴うびまん性表在性角膜炎（頻度不明），角膜浮腫様症状（頻度不明）。
4. 心不全（頻度不明）。
5. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTP上昇等）。
6. 腎障害（頻度不明）。
7. 意識障害（昏睡含む）（頻度不明），精神症状（幻覚（5%未満），妄想（5%未満），せん妄（5%未満），錯乱（0．1%未満）等），痙攣（0．1%未満），ミオクロヌス（頻度不明），異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
8. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 睡眠障害，眠気，不安，気分高揚，激越，失調，興奮，眩暈，頭痛・頭重，神経過敏，集中力障害，不随意運動（振戦，ジスキネジー等）欲動亢進，言語障害，歩行障害の悪化，抑うつ，失見当識，躁状態，悪夢 －
眼 視調節障害（霧視等） － －
消化器 便秘，下痢，食欲不振，悪心・嘔吐 腹痛 －
自律神経系 口渇，立ちくらみ（起立性低血圧） 排尿障害 －
循環器 血圧低下 動悸 －
過敏症 発疹 － 多形滲出性紅斑
皮膚 － 光線過敏症 －
肝臓 AST，ALT，AlーPの上昇 － －
腎臓 － BUN，クレアチニンの上昇 －
その他 脱力感・倦怠感，発汗，網状皮斑 下肢浮腫，胸痛，白血球減少 低体温，尿失禁
（表終了）

ネオドパストン配合錠L100（1錠）
外 内服 流通

【YJコード】1169101F1120
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】レボドパ・カルビドパ水和物
【メーカー】製)大原薬品工業 販)第一三共
【薬価】14.7円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】パーキンソニズム治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病，パーキンソン症候群
【用法用量】レボドパ未服用
成人 レボドパ量 1回100～125mg 1日100～300mgから開始
内服。毎日又は隔日 レボドパ量 100～125mgずつ増量し 維持量 レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。
適宜増減，レボドパ量 1日1500mgまで。
レボドパ既服用
成人 レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回 分割 内服。以後，適宜増減し 維持量 レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。レボドパ量 1日1500mgまで。
注意
1. レボドパ未服用
少量から開始し，慎重に維持量まで増量。
（表開始）
レボドパ100mg・カルビドパ水和物10．8mg 1回1錠，1日1～3錠から開始，毎日又は隔日 1錠ずつ増量。維持量（標準；1回2錠，1日3回）。適宜増減，1日15錠まで。
（表終了）
2. レボドパ既服用
レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて投与。他の抗パーキンソン剤の投与中止は不要。
（表開始）
レボドパ100mg・カルビドパ水和物10．8mg レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回分割 内服。以後，適宜増減。維持量（標準；1回2錠，1日3回）。1日15錠まで。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック状態等）。
2. 錯乱（頻度不明），幻覚（頻度不明），抑うつ（頻度不明）。
3. 溶血性貧血（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
4. 前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
5. 閉塞隅角緑内障（頻度不明）（急激な眼圧上昇，霧視，眼痛，充血，頭痛，嘔気等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 不随意運動（31．8%），不眠，不安・焦燥感，眩暈，頭痛，味覚異常，妄想 傾眠，倦怠感・脱力感，見当識喪失 病的賭博，病的性欲亢進，ドパミン調節障害症候群，歩行障害，興奮，振戦の増強，しびれ感
消化器 悪心（11．9%），嘔吐，食欲不振，口渇，便秘，腹痛，下痢 腹部膨満感，腹部不快感，嚥下障害 胸やけ，唾液分泌過多，口内炎
泌尿器 排尿異常，尿路感染
血液 顆粒球減少，貧血
過敏症 発疹
循環器 不整脈 血圧上昇，起立性低血圧，心悸亢進，血圧低下
眼 視覚異常
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇，AlーP上昇
腎臓 浮腫，BUN上昇
その他 のぼせ感，発汗 筋肉痛，体重減少，痰・口腔内粘膜・汗・尿・便・唾液等の変色（黒色等），抗DNA抗体の陽性例，クームス試験の陽性例，脱毛，嗄声
（表終了）

ネオドパストン配合錠L250（1錠）
外 内服 流通

【YJコード】1169101F2045
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】レボドパ・カルビドパ水和物
【メーカー】製)大原薬品工業 販)第一三共
【薬価】40.3円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】パーキンソニズム治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病，パーキンソン症候群
【用法用量】レボドパ未服用
成人 レボドパ量 1回100～125mg 1日100～300mgから開始
内服。毎日又は隔日 レボドパ量 100～125mgずつ増量し 維持量

1 神経系及び感覚器官用医薬品

レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。
適宜増減，レボドパ量 1日1500mgまで。
レボドパ既服用
成人 レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回 分割 内服。以後，適宜増減し 維持量 レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。レボドパ量 1日1500mgまで。
注意
1. レボドパ未服用
少量から開始し，慎重に維持量まで増量。
（表開始）
レボドパ250mg・カルビドパ水和物27mg 1回1／2錠，1日1／2～1錠から開始，毎日又は隔日 1／2錠ずつ増量。維持量（標準；1回1錠，1日3回）。適宜増減，1日6錠まで。
（表終了）
2. レボドパ既服用
レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて投与。他の抗パーキンソン剤の投与中止は不要。
（表開始）
レボドパ250mg・カルビドパ水和物27mg レボドパ単剤を服用後，最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回 分割 内服。以後，適宜増減。維持量（標準；1回1錠，1日3回）。1日6錠まで。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック状態等）。
2. 錯乱（頻度不明），幻覚（頻度不明），抑うつ（頻度不明）。
3. 溶血性貧血（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
4. 前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
5. 閉塞隅角緑内障（頻度不明）（急激な眼圧上昇，霧視，眼痛，充血，頭痛，嘔気等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 不随意運動（31．8%），不眠，不安・焦燥感，眩暈，頭痛，味覚異常，妄想 傾眠，倦怠感・脱力感，見当識喪失 病的賭博，病的性欲亢進，ドパミン調節障害症候群，歩行障害，興奮，振戦の増強，しびれ感
消化器 悪心（11．9%），嘔吐，食欲不振，口渇，便秘，腹痛，下痢 腹部膨満感，腹部不快感，嚥下障害 胸やけ，唾液分泌過多，口内炎
泌尿器 排尿異常，尿路感染
血液 顆粒球減少，貧血
過敏症 発疹
循環器 不整脈 血圧上昇，起立性低血圧，心悸亢進，血圧低下
眼 視覚異常
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇，AI－P上昇
腎臓 浮腫，BUN上昇
その他 のぼせ感，発汗 筋肉痛，体重減少，痰・口腔内粘膜・汗・尿・便・唾液等の変色（黒色等），抗DNA抗体の陽性例，クームス試験の陽性例，脱毛，嗄声
（表終了）

ハルロピテープ16mg（16mg1枚）

外 外用 流通
劇

【YJコード】1169701S2026
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ロピニロール塩酸塩
【メーカー】製）久光製薬 販）協和キリン
【薬価】444円/1枚
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】経皮吸収型ドパミン作動性パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 1回8mgから開始 1日1回 貼付。以後必要時 1日8mgずつ1週間以上の間隔で増量。いずれも1日1回 胸部，腹部，側腹部，大腿部，上腕部のいずれかに貼付し 24時間ごと 貼りかえ。適宜増減，1日64mgまで。
注意
少量から開始し，消化器症状（悪心，嘔吐等），血圧等の観察し，慎重に維持量まで増量。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 前兆のない突発的睡眠（0．7%），極度の傾眠（頻度不明）。
2. 幻覚（3．6%），妄想（0．4%），興奮（0．1%），錯乱（頻度不明），せん妄（0．7%）等の精神症状。
3. 悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック症状等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，ジスキネジア 幻視，浮動性眩暈，体位性眩暈，頭痛，不眠 錯覚，ジストニア，幻聴，リビド一亢進，回転性眩暈 衝動制御障害（病的賭博，病的性欲亢進，強迫性購買，暴食等），躁状態
肝臓 ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇 肝機能異常，ビリルビン上昇，AI－P上昇
筋・骨格系 姿勢異常，CK上昇 背部痛
循環器 起立性低血圧，起立血圧低下 上室性期外収縮，心室性期外収縮，動悸，低血圧，血圧上昇
消化器 悪心，便秘 食欲不振，嘔吐，腹部不快感 下痢，消化不良
腎臓 尿潜血陽性 BUN上昇，尿蛋白陽性
皮膚 適用部位紅斑，適用部位掻痒感 適用部位皮膚炎，適用部位発疹，適用部位刺激感，適用部位腫脹，適用部位色素沈着
過敏症 発疹，湿疹，掻痒，顔面浮腫，蕁麻疹
その他 倦怠感，末梢性浮腫，LDH上昇 異常感，転倒，胸部不快感，浮腫，口渇，挫傷，咳嗽，好酸球増加，尿糖陽性 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等）
（表終了）

ハルロピテープ8mg（8mg1枚）

外 外用 流通
劇

【YJコード】1169701S1020
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ロピニロール塩酸塩
【メーカー】製）久光製薬 販）協和キリン
【薬価】287.6円/1枚
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】経皮吸収型ドパミン作動性パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 1回8mgから開始 1日1回 貼付。以後必要時 1日8mgずつ1週間以上の間隔で増量。いずれも1日1回 胸部，腹部，側腹部，大腿部，上腕部のいずれかに貼付し 24時間ごと 貼りかえ。適宜増減，1日64mgまで。
注意
少量から開始し，消化器症状（悪心，嘔吐等），血圧等の観察し，慎重に維持量まで増量。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 前兆のない突発的睡眠（0．7%），極度の傾眠（頻度不明）。
2. 幻覚（3．6%），妄想（0．4%），興奮（0．1%），錯乱（頻度不明），せん妄（0．7%）等の精神症状。
3. 悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック症状等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，ジスキネジア 幻視，浮動性眩暈，体位性眩暈，頭痛，不眠 錯覚，ジストニア，幻聴，リビド一亢進，回転性眩暈 衝動制御障害（病的賭博，病的性欲亢進，強迫性購買，暴食等），躁状態
肝臓 ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇 肝機能異常，ビリルビン上昇，AI－P上昇
筋・骨格系 姿勢異常，CK上昇 背部痛
循環器 起立性低血圧，起立血圧低下 上室性期外収縮，心室性期外収縮，動悸，低血圧，血圧上昇
消化器 悪心，便秘 食欲不振，嘔吐，腹部不快感 下痢，消化不良
腎臓 尿潜血陽性 BUN上昇，尿蛋白陽性
皮膚 適用部位紅斑，適用部位掻痒感 適用部位皮膚炎，適用部位発疹，適用部位刺激感，適用部位腫脹，適用部位色素沈着
過敏症 発疹，湿疹，掻痒，顔面浮腫，蕁麻疹
その他 倦怠感，末梢性浮腫，LDH上昇 異常感，転倒，胸部不快感，浮腫，口渇，挫傷，咳嗽，好酸球増加，尿糖陽性 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等）
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ビ・シフロール錠0．5mg（0．5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1169012F2029
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】プラミペキソール塩酸塩水和物
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】61.1円/1T
【薬価収載日】2003/12/12
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病・レストレスレッグス症候群治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．パーキンソン病
2．中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
注意
レストレスレッグス症候群の診断は，国際レストレスレッグス症候群研究グループの診断基準・重症度スケールにより実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】パーキンソン病
成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1日0．25mgから開始。2週目1日0．5mg。以後1週間ごと 1日0．5mgずつ増量し 維持量（標準1日量1．5～4．5mg）を定める。プラミペキソール塩酸塩水和物 1日1．5mg未満の時 1日2回 分割 朝・夕食後，1日1．5mg以上の時 1日3回 分割 毎食後 内服。適宜増減，1日4．5mgまで。
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1回0．25mg 1日1回 就寝2～3時間前 内服。1日0．125mgから開始。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日0．75mgまで。
注意
パーキンソン病
1．少量から開始し，幻覚等の精神症状，消化器症状，血圧等を観察し，慎重に維持量（標準1日量1．5～4．5mg）まで増量。
2．腎機能障害
下記投与法を目安に投与回数を調節し慎重に漸増。1日最大量・1回最大量は下表の通り。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 投与法 初回1日量 1日最大量
クレアチニンクリアランス≧50 1日1．5mg未満；1日2回 1日1．5mg以上；1日3回 0．125mg×2回 4．5mg（1．5mg×3回）
50＞クレアチニンクリアランス≧20 1日2回 0．125mg×2回 2．25mg（1．125mg×2回）
20＞クレアチニンクリアランス 1日1回 0．125mg×1回 1．5mg（1．5mg×1回）
（表終了）
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
3．1日最大量（0．75mg）は，パーキンソン病患者よりも低いため，クレアチニンクリアランスが20mL／分以上の腎機能障害では減量の必要はないが，透析中又はクレアチニンクリアランスが20mL／分未満の高度な腎機能障害での有効性・安全性は未確立，これらに投与時は，有益性・危険性を考慮して慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．前兆のない突発的睡眠（0．1～5%未満）。
2．幻覚（15．4%）（幻視），妄想（0．1～5%未満），せん妄（0．1～5%未満），激越（0．1～5%未満），錯乱（頻度不明）。
3．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
6．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，LDH，γ－GTP，総ビリルビン上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）（効能共通）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
皮膚 多汗，蕁麻疹，網状皮斑 発疹，掻痒症
筋・骨格系 CK上昇（7．5%） 背部痛，腰痛
中枢・末梢神経系 ジスキネジア（17．5%），傾眠（16．8%），眩暈（12．5%），頭痛（5．5%） ジストニア，緊張亢進，舌麻痺，運動過多，ミオクローヌス，声が出にくい，異常感覚，知覚減退，パーキンソニズムの増悪 失神
自律神経系 口内乾燥（8．3%） 起立性低血圧，高血圧，唾液増加
感覚器 苦味，眼のちらつき，複視，羞明 霧視，視力低下
精神神経系 食欲不振（12．2%），不眠（6．5%） 不安，神経過敏，気分高揚感，悪夢，早朝覚醒，ねぼけ様症状，異夢，徘徊 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），病的性欲亢進，性欲減退，暴食，病的賭博，不穏，過食（体重増加），健忘，強迫性購買
消化管 悪心（29．9%），消化不良（11．9%），便秘（9．0%），胃不快感（6．9%），嘔吐（5．9%） 腹痛，胃潰瘍，胃炎，上腹部痛，口内炎，鼓腸放屁，イレウス 体重減少
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，LDH上昇等） γ－GTP上昇
内分泌 プロラクチン低下，成長ホルモン上昇
代謝 血糖値上昇
循環器 低血圧，動悸
泌尿器系 排尿頻回，尿蛋白陽性 尿閉
一般的全身障害 末梢性浮腫，胸痛，倦怠感，疲労感，脱力感，手がピリピリする，転倒，口渇
呼吸器 呼吸困難 肺炎，しゃっくり
生殖系 自発陰茎勃起
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群））
（表開始）
発現部位等 5%未満
中枢・末梢神経系 レストレスレッグス症候群のaugmentation（2．3%）
（表終了）

ブロモクリプチン錠2．5mg「F」（2．5mg1錠）

外 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1169005F1278
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ブロモクリプチンメシル酸塩
【先発品】パーロデル錠2．5mg，ブロモクリプチン錠2．5mg「フソー」
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】11.7円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】持続性ドパミン作動剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○産褥性乳汁分泌抑制
○乳汁漏出症
○高プロラクチン血性排卵障害
○高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置が必要ない時のみ）
○末端肥大症
○下垂体性巨人症
○パーキンソン症候群
注意
末端肥大症（先端巨大症），下垂体性巨人症，高プロラクチン血性下垂体腺腫の診断・治療は，国内外のガイドライン等の最新の情報を参考。
【用法用量】末端肥大症，下垂体性巨人症
ブロモクリプチン 1日2．5～7．5mg 1日2～3回 分割 食直後 内服。
適宜増減。
乳汁漏出症，産褥性乳汁分泌抑制，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ）
ブロモクリプチン 1回2．5mg 1日1回 夕食直後 内服。効果をみながら 1日5～7．5mgまで漸増 1日2～3回 分割 食直後 内服。
適宜増減。
パーキンソン症候群
ブロモクリプチン 1回1．25又は2．5mgから開始 1日1回 朝食直後 内服。1又は2週ごと 2．5mgずつ増量し 維持量 1日15～22．5mg。ブロモクリプチン 1日5mgの時 朝・夕食直後，1日7．5mg以上の時 毎食直後 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・麦角アルカロイドに過敏症の既往。
2．妊娠高血圧症候群。
3．産褥期高血圧。
4．心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，これらに伴う狭窄等の心臓弁膜の病変・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（悪心・嘔吐，顔面蒼白，冷汗，失神等），急激な血圧低下，起立性低血圧（各頻度不明）。
2．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
3．胸膜炎，心膜炎，胸膜線維症，肺線維症（各頻度不明），胸水，心膜液（胸痛，呼吸器症状等）。
4．心臓弁膜症（頻度不明）（心雑音の発現・増悪等），心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，心臓弁膜の病変（狭窄等）。
5．後腹膜線維症（頻度不明）（背部痛，下肢浮腫，腎機能障害等）。
6．幻覚・妄想，せん妄，錯乱（各頻度不明）。
7．胃腸出血，胃・十二指腸潰瘍（各頻度不明）。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

8. 痙攣，脳血管障害，心臓発作，高血圧（各頻度不明）。
9. 前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 － 発疹 － －
精神神経系 － 興奮，不安感，不眠，頭痛，ジスキネジア，口渇，鼻閉気力低下状態，衝動制御障害（病的賭博，病的性欲亢進），耳鳴 傾眠，錯感覚
眼 － 視覚異常 霧視 －
肝臓 － AST，ALTの上昇 AI－Pの上昇 －
循環器 － 眩暈，立ちくらみ，動悸，血圧低下，起立性低血圧，胸部不快感，浮腫 顔面潮紅 夜間に脚の痙攣・寒冷による可逆性の指趾の蒼白，頻脈，徐脈，不整脈
消化器 悪心 嘔吐，便秘，食欲不振，胃痛・腹痛，胃部不快感，胸やけ，腹部膨満感，下痢 口内乾燥 －
泌尿器 － － 尿失禁 －
その他 － 貧血，倦怠感 頭髪の脱毛，帯下の増加，しびれ感，呼吸困難，疲労 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等）
（表終了）

ミラペックスLA錠0. 375mg（0. 375mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1169012G1028
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】プラミペキソール塩酸塩水和物
【メーカー】製）日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】44.6円/1T
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病治療徐放性製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1日0. 375mgから開始 1日1回 食後 内服。2週目 1日0. 75mg。以後1週間ごと 1日0. 75mgずつ増量し，維持量（標準1日量1. 5～4. 5mg 1日1回 食後 内服）を定める。適宜増減，1日4. 5mgまで。
注意
1. 少量から開始し，幻覚等の精神症状，消化器症状，血圧等を観察し，慎重に維持量（標準1日量1. 5～4. 5mg）まで増量。
2. 腎機能障害
（クレアチニンクリアランスが30～50mL／分）治療開始1週間は本剤0. 375mgを隔日投与し，増量が必要時は患者の状態（精神症状，消化器症状，血圧等）や腎機能に注意しながら慎重に1週間ごとに0. 375mgずつ漸増。1日最大2. 25mg。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 投与法 初回量 1日最大量
クレアチニンクリアランス≧50 1日1回 0. 375mg×1回／日 4. 5mg（4. 5mg×1回）
50＞クレアチニンクリアランス≧30 治療開始1週間は隔日，その後は1日1回 0. 375mg×1回 隔日 2. 25mg（2. 25mg×1回）
（表終了）
3. 1日1回食後投与は，同じ時間帯に服用。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 透析患者を含む高度な腎機能障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 前兆のない突発的睡眠（0. 1～5%未満）。
2. 幻覚（2. 7%）（幻視），妄想（0. 7%），せん妄（0. 4%），錯乱（0. 7%），激越（0. 2%）。
3. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
6. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，LDH，γ－GTP，総ビリルビン上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
皮膚 掻痒症，発疹，多汗，脱毛症，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹，網状皮斑
筋・骨格系 筋痙縮，背部痛，筋肉疲労，筋力低下，筋骨格硬直 腰痛，CK上昇
中枢・末梢神経系 傾眠（27. 2%），浮動性眩暈（6. 4%） 平衡障害，注意力障害，頭痛，過眠症，嗜眠，記憶障害，錯感覚，鎮静，振戦，ジスキネジア，オンオフ現象，回転性眩暈，体位性眩暈，パーキンソニズムの増悪，ジストニア，失神，味覚消失，異常感覚 眩暈，緊張亢進，舌麻痺，運動過多，ミオクローヌス，声が出にくい，知覚減退
自律神経系 口内乾燥，起立性低血圧，高血圧 唾液増加
感覚器 霧視，視覚障害，複視，羞明，眼精疲労 苦味，眼のちらつき，視力低下
精神神経系 不眠，悪夢，不安，強迫性購買，錯覚，パニック発作，病的賭博，食欲亢進，食欲不振，早朝覚醒，過食（体重増加），攻撃性，自殺念慮 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），神経過敏，気分高揚感，徘徊，暴食，健忘，異夢，病的性欲亢進，不穏，抑うつ気分，気分変動，性欲減退，失見当識，ねぼけ様症状
消化管 悪心（13. 7%） 便秘，腹部不快感，腹痛，消化不良，胃炎，嘔吐，体重減少，上腹部痛，腹部膨満，おくび，口内炎 胃潰瘍，鼓腸放屁，イレウス
肝臓 γ－GTP上昇
内分泌 プロラクチン低下，成長ホルモン上昇
代謝 脱水 血糖値上昇
循環器 低血圧，動悸，心室性期外収縮 房室性期外収縮，心拍不整
泌尿器系 尿閉，勃起不全 尿蛋白陽性，排尿頻回
一般的全身障害 末梢性浮腫（6. 0%） 倦怠感，不快感，易刺激性，転倒，ほてり，口渇 手がピリピリする，疲労感，脱力感，胸痛
呼吸器 しゃっくり 呼吸困難 肺炎
生殖系 自発陰茎勃起
（表終了）

ミラペックスLA錠1. 5mg（1. 5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1169012G2024
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】プラミペキソール塩酸塩水和物
【メーカー】製）日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】161.1円/1T
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病治療徐放性製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1日0. 375mgから開始 1日1回 食後 内服。2週目 1日0. 75mg。以後1週間ごと 1日0. 75mgずつ増量し，維持量（標準1日量1. 5～4. 5mg 1日1回 食後 内服）を定める。適宜増減，1日4. 5mgまで。
注意
1. 少量から開始し，幻覚等の精神症状，消化器症状，血圧等を観察し，慎重に維持量（標準1日量1. 5～4. 5mg）まで増量。
2. 腎機能障害
（クレアチニンクリアランスが30～50mL／分）治療開始1週間は本剤0. 375mgを隔日投与し，増量が必要時は患者の状態（精神症状，消化器症状，血圧等）や腎機能に注意しながら慎重に1週間ごとに0. 375mgずつ漸増。1日最大2. 25mg。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 投与法 初回量 1日最大量
クレアチニンクリアランス≧50 1日1回 0. 375mg×1回／日 4. 5mg（4. 5mg×1回）
50＞クレアチニンクリアランス≧30 治療開始1週間は隔日，その後は1日1回 0. 375mg×1回 隔日 2. 25mg（2. 25mg×1回）
（表終了）
3. 1日1回食後投与は，同じ時間帯に服用。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 透析患者を含む高度な腎機能障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 前兆のない突発的睡眠（0. 1～5%未満）。
2. 幻覚（2. 7%）（幻視），妄想（0. 7%），せん妄（0. 4%），錯乱（0. 7%），激越（0. 2%）。
3. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
6. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，LDH，γ－GTP，総ビリルビン上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　過敏症状
皮膚　掻痒症，発疹，多汗，脱毛症，アレルギー性皮膚炎　蕁麻疹，網状皮斑
筋・骨格系　筋痙縮，背部痛，筋肉疲労，筋力低下，筋骨格硬直　腰痛，CK上昇
中枢・末梢神経系 傾眠（27．2%），浮動性眩暈（6．4%）平衡障害，注意力障害，頭痛，過眠症，嗜眠，記憶障害，錯感覚，鎮静，振戦，ジスキネジア，オンオフ現象，回転性眩暈，体位性眩暈，パーキンソニズムの増悪，ジストニア，失神，味覚消失，異常感覚　眩暈，緊張亢進，舌麻痺，運動過多，ミオクローヌス，声が出にくい，知覚減退
自律神経系　口内乾燥，起立性低血圧，高血圧　唾液増加
感覚器　霧視，視覚障害，複視，羞明，眼精疲労　苦味，眼のちらつき，視力低下
精神神経系　不眠，悪夢，不安，強迫性購買，錯覚，パニック発作，病的賭博，食欲亢進，食欲不振，早朝覚醒，過食（体重増加），攻撃性，自殺念慮　薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），神経過敏，気分高揚感，徘徊，暴食，健忘，異夢，病的性欲亢進，不穏，抑うつ気分，気分変動，性欲減退，失見当識，ねぼけ様症状
消化管 悪心（13．7%）便秘，腹部不快感，腹痛，消化不良，胃炎，嘔吐，体重減少，上腹部痛，腹部膨満，おくび，口内炎　胃潰瘍，鼓腸放屈，イレウス
肝臓　γ－GTP上昇
内分泌　プロラクチン低下，成長ホルモン上昇
代謝　脱水　血糖値上昇
循環器　低血圧，動悸，心室性期外収縮　房室性期外収縮，心拍不整
泌尿器系　尿閉，勃起不全　尿蛋白陽性，排尿頻回
一般的全身障害 末梢性浮腫（6．0%）倦怠感，不快感，易刺激性，転倒，ほてり，口渇　手がピリピリする，疲労感，脱力感，胸痛
呼吸器　しゃっくり 呼吸困難 肺炎
生殖系　自発陰茎勃起
（表終了）

1．1．7　精神神経用剤

アトモキセチン錠10mg「トーワ」（10mg1錠）

外　内服　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1179050F2047
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】アトモキセチン塩酸塩
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】50.3円/1T
【薬価収載日】2018/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】注意欠陥／多動性障害治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】注意欠陥／多動性障害（AD／HD）
注意
1．6歳未満の有効性・安全性は未確立。
2．AD／HDの診断は，米国精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル等の標準的で確立した診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】18歳未満
アトモキセチン　1日0．5mg／kgから開始　以後1日0．8mg／kg，さらに1日1．2mg／kgまで増量後，1日1．2～1．8mg／kgで維持。
増量は1週間以上あけて　1日2回　分割　内服。
適宜増減，1日1．8mg／kg又は120mgのいずれか少ない量まで。
18歳以上
アトモキセチン　1日40mgから開始　以後1日80mgまで増量後，1日80～120mgで維持。
1日80mgまでの増量は1週間以上，以後の増量は2週間以上あけて1日1回又は1日2回　分割　内服。
適宜増減，1日120mgまで。
注意
1．CYP2D6阻害剤の投与患者，遺伝的にCYP2D6の活性が欠損している患者では，血中濃度が上昇し，副作用発現のおそれ，忍容性に問題がない時のみ増量等，慎重に投与。
2．中等度（Child－Pugh分類B）の肝機能障害 開始量及び維持量を50%に減量。重度（Child－Pugh分類C）の肝機能障害 開始量及び維持量を25%に減量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。
3．重篤な心血管障害。
4．褐色細胞腫・パラガングリオーマ・その既往。
5．閉塞隅角緑内障。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（肝機能検査値の上昇），黄疸，肝不全（各頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（血管神経性浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心（31．5%），食欲減退（19．9%），腹痛，嘔吐，便秘，口渇 下痢，消化不良，口内乾燥　鼓腸
精神神経系 頭痛（15．4%），傾眠（15．8%），浮動性眩暈，不眠症 体位性眩暈，睡眠障害，易刺激性，不快気分 早朝覚醒型不眠症，気分変化，振戦，抑うつ気分，錯感覚，不安，感覚鈍麻，幻覚含む感覚障害，うつ病，攻撃性，リビドー減退，チック，激越，落ち着きのなさ びくびく感
過敏症　掻痒症 発疹，蕁麻疹
循環器 動悸 頻脈，血圧上昇，心拍数増加 心電図QT延長，失神 レイノー現象，潮紅
皮膚　多汗症 皮膚炎
泌尿・生殖器　排尿困難，勃起不全，不規則月経 生殖器痛，尿閉，月経困難症，射精障害，前立腺炎，頻尿 持続勃起，勃起時疼痛，射精不能，精巣痛，オルガズム異常，尿意切迫
その他 体重減少 胸痛，無力症，疲労，ほてり，悪寒，味覚異常 結膜炎，胸部不快感，末梢冷感，冷感，筋痙縮 散瞳
（表終了）

アトモキセチン錠5mg「トーワ」（5mg1錠）

外　内服　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1179050F1040
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】アトモキセチン塩酸塩
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】44.5円/1T
【薬価収載日】2018/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】注意欠陥／多動性障害治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】注意欠陥／多動性障害（AD／HD）
注意
1．6歳未満の有効性・安全性は未確立。
2．AD／HDの診断は，米国精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル等の標準的で確立した診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】18歳未満
アトモキセチン　1日0．5mg／kgから開始　以後1日0．8mg／kg，さらに1日1．2mg／kgまで増量後，1日1．2～1．8mg／kgで維持。
増量は1週間以上あけて　1日2回　分割　内服。
適宜増減，1日1．8mg／kg又は120mgのいずれか少ない量まで。
18歳以上
アトモキセチン　1日40mgから開始　以後1日80mgまで増量後，1日80～120mgで維持。
1日80mgまでの増量は1週間以上，以後の増量は2週間以上あけて1日1回又は1日2回　分割　内服。
適宜増減，1日120mgまで。
注意
1．CYP2D6阻害剤の投与患者，遺伝的にCYP2D6の活性が欠損している患者では，血中濃度が上昇し，副作用発現のおそれ，忍容性に問題がない時のみ増量等，慎重に投与。
2．中等度（Child－Pugh分類B）の肝機能障害 開始量及び維持量を50%に減量。重度（Child－Pugh分類C）の肝機能障害 開始量及び維持量を25%に減量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。
3．重篤な心血管障害。
4．褐色細胞腫・パラガングリオーマ・その既往。
5．閉塞隅角緑内障。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（肝機能検査値の上昇），黄疸，肝不全（各頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（血管神経性浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心（31．5%），食欲減退（19．9%），腹痛，嘔吐，便秘，口渇 下痢，消化不良，口内乾燥　鼓腸
精神神経系 頭痛（15．4%），傾眠（15．8%），浮動性眩暈，不眠症 体位性眩暈，睡眠障害，易刺激性，不快気分 早朝覚醒型不眠症，気分変化，振戦，抑うつ気分，錯感覚，不安，感覚鈍麻，幻覚含む感覚障害，うつ病，攻撃性，リビドー減退，チック，激越，落ち着きのなさ びくびく感
過敏症　掻痒症 発疹，蕁麻疹

1 神経系及び感覚器官用医薬品

循環器 動悸 頻脈，血圧上昇，心拍数増加 心電図QT延長，失神 レイノー現象，潮紅
皮膚 多汗症 皮膚炎
泌尿・生殖器 排尿困難，勃起不全，不規則月経 生殖器痛，尿閉，月経困難症，射精障害，前立腺炎，頻尿 持続勃起，勃起時疼痛，射精不能，精巣痛，オルガズム異常，尿意切迫
その他 体重減少 胸痛，無力症，疲労，ほてり，悪寒，味覚異常 結膜炎，胸部不快感，末梢冷感，冷感，筋痙縮 散瞳
（表終了）

イフェクサーSRカプセル37．5mg（37．5mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179055N1021
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ベンラファキシン塩酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】101.9円/1C
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
1．24歳以下で，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり。18歳未満の大うつ病性障害では，プラセボと比較して自殺念慮，自殺企図のリスクが高くなる可能性が示唆，リスクとベネフィットを考慮。
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
【用法用量】成人 初期量 1日37．5mg 1週後より 1日75mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1日225mgまで。
増量は1週間以上あけて 1日75mgずつ。
注意
1．投与量は必要最小限に調節（増量で不眠症状，血圧上昇等のノルアドレナリン作用のおそれ）。
2．中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類B）血中濃度が上昇し，投与初期に副作用のおそれ，37．5mgを2日に1回投与から開始し，1週間後に37．5mgを1日1回投与に増量。1週間以上あけて，37．5mg／日ずつ，1日112．5mgを超えない範囲で増量。
3．軽度の肝機能障害（Child－Pugh分類A）血中濃度が上昇し，投与初期に副作用のおそれ，必要時減量・投与間隔の延長を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤の投与中・中止後2週間以内。
3．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
4．重度の腎機能障害（糸球体ろ過量15mL／分未満），透析中。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群（0．2%）（不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクローヌス，自律神経失調等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等），発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下。
3．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4．QT延長（0．5%），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明），心室細動（頻度不明）。
5．痙攣（0．2%）。
6．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫等）。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
9．無顆粒球症（頻度不明），再生不良性貧血（頻度不明），汎血球減少症（頻度不明），好中球数減少（0．2%），血小板数減少（0．2%）。
10．間質性肺疾患（頻度不明）。
11．高血圧クリーゼ（頻度不明）。
12．尿閉（0．2%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5% 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 蕁麻疹 血管浮腫，光線過敏性反応
精神神経系 傾眠（26．9%），浮動性眩暈（24．4%），頭痛（19．3%），不眠症（16．0%） 易刺激性，異常感覚（錯感覚，感覚鈍麻等），筋緊張亢進（筋骨格硬直，筋痙縮等），振戦 躁病，激越，落ち着きのなさ，幻覚，せん妄，異常な夢（悪夢等），無感情，失神，味覚異常，リビドー減退，アカシジア，ジスキネジー，ミオクローヌス 錯乱状態，神経過敏，鎮静，離人症，錐体外路障害（ジストニー含む），協調運動障害，平衡障害
消化器 悪心（33．5%），腹部不快感（腹痛，膨満，便秘等）（27．2%），口内乾燥（24．3%），嘔吐，下痢 食欲減退 膵炎，歯ぎしり
感覚器 調節障害 耳鳴，視覚障害 散瞳，閉塞隅角緑内障
循環器 動悸（13．2%） 血圧上昇，頻脈 血圧低下，起立性低血圧
血液 異常出血（斑状出血，粘膜出血，胃腸出血等） 出血時間延長
肝臓 肝機能検査値異常（ALT・AST・γ－GTP・LDH・AI－P・血中ビリルビンの上昇等）（10．0%） 肝炎
泌尿器・生殖器 排尿困難 頻尿 月経障害，射精障害，勃起不全 尿失禁，オルガズム障害，無オルガズム症
代謝・内分泌 血中コレステロール増加 低ナトリウム血症 血中プロラクチン増加
その他 体重減少，発汗（寝汗等），無力症（疲労，倦怠感等） ほてり，体重増加 あくび，悪寒，呼吸困難，脱毛症，骨折
（表終了）

イフェクサーSRカプセル75mg（75mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179055N2028
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ベンラファキシン塩酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】167.6円/1C
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
1．24歳以下で，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり。18歳未満の大うつ病性障害では，プラセボと比較して自殺念慮，自殺企図のリスクが高くなる可能性が示唆，リスクとベネフィットを考慮。
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
【用法用量】成人 初期量 1日37．5mg 1週後より 1日75mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1日225mgまで。
増量は1週間以上あけて 1日75mgずつ。
注意
1．投与量は必要最小限に調節（増量で不眠症状，血圧上昇等のノルアドレナリン作用のおそれ）。
2．中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類B）血中濃度が上昇し，投与初期に副作用のおそれ，37．5mgを2日に1回投与から開始し，1週間後に37．5mgを1日1回投与に増量。1週間以上あけて，37．5mg／日ずつ，1日112．5mgを超えない範囲で増量。
3．軽度の肝機能障害（Child－Pugh分類A）血中濃度が上昇し，投与初期に副作用のおそれ，必要時減量・投与間隔の延長を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤の投与中・中止後2週間以内。
3．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
4．重度の腎機能障害（糸球体ろ過量15mL／分未満），透析中。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群（0．2%）（不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクローヌス，自律神経失調等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等），発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下。
3．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4．QT延長（0．5%），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明），心室細動（頻度不明）。
5．痙攣（0．2%）。
6．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫等）。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
9．無顆粒球症（頻度不明），再生不良性貧血（頻度不明），汎血球減少症（頻度不明），好中球数減少（0．2%），血小板数減少（0．2%）。
10．間質性肺疾患（頻度不明）。
11．高血圧クリーゼ（頻度不明）。
12．尿閉（0．2%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5% 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 蕁麻疹 血管浮腫，光線過敏性反応
精神神経系 傾眠（26．9%），浮動性眩暈（24．4%），頭痛（19．3%），不眠症（16．0%） 易刺激性，異常感覚（錯感覚，感覚鈍麻等），筋緊張亢進（筋骨格硬直，筋痙縮等），振戦 躁病，激越，落ち着きのなさ，幻覚，せん妄，異常な夢（悪夢等），無感情，失神，味覚異常，リビ

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ドー減退，アカシジア，ジスキネジー，ミオクローヌス 錯乱状態，神経過敏，鎮静，離人症，錐体外路障害（ジストニー含む），協調運動障害，平衡障害
消化器 悪心（33．5%），腹部不快感（腹痛，膨満，便秘等）（27．2%），口内乾燥（24．3%），嘔吐，下痢 食欲減退 膵炎，歯ぎしり
感覚器 調節障害 耳鳴，視覚障害 散瞳，閉塞隅角緑内障
循環器 動悸（13．2%） 血圧上昇，頻脈 血圧低下，起立性低血圧
血液 異常出血（斑状出血，粘膜出血，胃腸出血等） 出血時間延長
肝臓 肝機能検査値異常（ALT・AST・γ－GTP・LDH・AI－P・血中ビリルビンの上昇等）（10．0%） 肝炎
泌尿器・生殖器 排尿困難 頻尿 月経障害，射精障害，勃起不全 尿失禁，オルガズム障害，無オルガズム症
代謝・内分泌 血中コレステロール増加 低ナトリウム血症 血中プロラクチン増加
その他 体重減少，発汗（寝汗等），無力症（疲労，倦怠感等） ほてり，体重増加 あくび，悪寒，呼吸困難，脱毛症，骨折
（表終了）

コンサータ錠18mg（18mg1錠）

外 内服 流通
劇 精1 ハイリスク

【YJコード】1179009G1022
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】メチルフェニデート塩酸塩
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】235.8円/1T
【薬価収載日】2007/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】中枢神経刺激剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】注意欠陥／多動性障害（AD／HD）
注意
1．6歳未満の幼児の有効性・安全性は未確立。
2．AD／HDの診断は，米国精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル等の診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】18歳未満
初回量 メチルフェニデート塩酸塩 18mg 維持量 18～45mg 1日1回 朝 内服。増量の必要時 1週間以上あけて 1日9mg又は18mgの増量。適宜増減。1日54mgまで。
18歳以上
初回量 メチルフェニデート塩酸塩 18mg 1日1回 朝 内服。増量の必要時 1週間以上あけて 1日9mg又は18mgの増量。適宜増減。1日72mgまで。
注意
1．本剤は中枢神経刺激作用を有し，服用後12時間持続するため，就寝時間等を考慮し，午後の服用は避ける。
2．初回量
投与前に他のメチルフェニデート塩酸塩製剤の服用時には，その用法・用量を考慮し，本剤の初回量を18歳未満では18～45mg，18歳以上では18～72mgの範囲で決定。本剤又は他のメチルフェニデート塩酸塩製剤を1ヵ月以上休薬後に本剤を服用時は，18mgを初回量とする。
3．本剤は徐放性製剤であるため分割投与しない。18mgが最小単位であるため，9mg単位の増減量が必要時には錠剤の種類を変更。

■禁忌

【禁忌】1．過度の不安，緊張，興奮性のある患者。
2．閉塞隅角緑内障。
3．甲状腺機能亢進。
4．不整頻拍，狭心症。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．運動性チック，Tourette症候群・その既往・家族歴。
7．重症うつ病。
8．褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．MAO阻害剤投与中・中止後14日以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．剥脱性皮膚炎（頻度不明）（広範囲の皮膚の潮紅，浸潤，強い掻痒等）。
2．狭心症（頻度不明）。
3．悪性症候群（頻度不明）（発熱，高度の筋硬直，CK上昇等）。
4．脳血管障害（血管炎，脳梗塞，脳出血，脳卒中）（頻度不明）。
5．肝不全（急性肝不全等），肝機能障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症 鼻咽頭炎 胃腸炎，鼻炎，ヘルペスウイルス感染，インフルエンザ，麦粒腫，中耳炎，咽頭炎 上気道感染，副鼻腔炎
血液障害 血小板減少症 白血球減少症，汎血球減少症，血小板減少性紫斑病
免疫系障害 季節性アレルギー アナフィラキシー反応，過敏症反応，耳介腫脹，水疱形成，表皮剥脱
代謝障害 食欲減退（40．8%） 体重増加不良，食欲亢進
精神障害 不眠症（18．2%），チック，不安，睡眠障害 抑うつ気分，過覚醒，気分変動，精神病性障害，激越，妄想，幻聴，緊張，神経過敏，うつ病，抜毛，怒り，無感情，歯ぎしり，リビドー減退 攻撃性，感情不安定，落ち着きのなさ，幻視，多弁，気分動揺，涙ぐむ，錯乱状態，失見当識，幻覚，躁病，パニック発作，リビドー亢進，自殺念慮・企図，吃音
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，振戦 傾眠，体位性眩暈，鎮静，ジスキネジー，自律神経失調，錯感覚，緊張性頭痛 痙攣，精神運動亢進，大発作痙攣，嗜眠
眼障害 ドライアイ，アレルギー性結膜炎，結膜充血，近視，眼掻痒症 霧視，複視，散瞳，視覚障害
耳障害 難聴，耳痛，回転性眩暈
心臓障害 動悸（12．1%），頻脈 徐脈，上室性期外収縮 期外収縮，上室性頻脈，心室性期外収縮
血管障害 ほてり 高血圧，血圧変動 レイノー現象
呼吸器障害 呼吸困難 咳嗽，アレルギー性鼻炎，上気道の炎症，喘息，鼻漏，咽頭紅斑 咽喉頭疼痛，鼻出血
胃腸障害 悪心（11．7%），口渇，下痢，腹痛，嘔吐，腹部不快感，口内乾燥，口内炎，便秘，上腹部痛 消化不良，腹部膨満，異常便，歯肉腫脹
皮膚障害 発疹 蕁麻疹，湿疹，脱毛症，ざ瘡，アトピー性皮膚炎，多汗症，掻痒症，接触性皮膚炎 斑状皮疹，紅斑
筋骨格系障害 筋緊張 関節痛，筋痙縮，筋痛，四肢痛 筋攣縮
泌尿器系障害 頻尿
生殖系・乳房障害 精巣上体炎，陰茎癒着，勃起不全 持続勃起症，女性化乳房
全身障害 発熱，倦怠感，易刺激性，胸部不快感 疲労，無力症，悪寒，胸痛 異常高熱
臨床検査 体重減少（16．4%），蛋白尿，CK増加，尿中ケトン体陽性，QT延長 血圧上昇，拡張期血圧上昇，脈拍異常，異常Q波，白血球数減少，好中球数減少，好酸球数増加，血中アミラーゼ増加，ALT増加，AST増加，肝機能異常，血中ビリルビン増加，トリグリセリド増加，血糖増加，血中尿素増加，血中尿酸増加，尿潜血 心雑音，AI－P増加，肝酵素上昇，血小板数減少，白血球数異常
傷害，中毒 足骨折，手骨折
（表終了）

コンサータ錠27mg（27mg1錠）

外 内服 流通
劇 精1 ハイリスク

【YJコード】1179009G2029
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】メチルフェニデート塩酸塩
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】261.9円/1T
【薬価収載日】2007/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】中枢神経刺激剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】注意欠陥／多動性障害（AD／HD）
注意
1．6歳未満の幼児の有効性・安全性は未確立。
2．AD／HDの診断は，米国精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル等の診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】18歳未満
初回量 メチルフェニデート塩酸塩 18mg 維持量 18～45mg 1日1回 朝 内服。増量の必要時 1週間以上あけて 1日9mg又は18mgの増量。適宜増減。1日54mgまで。
18歳以上
初回量 メチルフェニデート塩酸塩 18mg 1日1回 朝 内服。増量の必要時 1週間以上あけて 1日9mg又は18mgの増量。適宜増減。1日72mgまで。
注意
1．本剤は中枢神経刺激作用を有し，服用後12時間持続するため，就寝時間等を考慮し，午後の服用は避ける。
2．初回量
投与前に他のメチルフェニデート塩酸塩製剤の服用時には，その用法・用量を考慮し，本剤の初回量を18歳未満では18～45mg，18歳以上では18～72mgの範囲で決定。本剤又は他のメチルフェニデート塩酸塩製剤を1ヵ月以上休薬後に本剤を服用時は，18mgを初回量とする。
3．本剤は徐放性製剤であるため分割投与しない。18mgが最小単位であるため，9mg単位の増減量が必要時には錠剤の種類を変更。

■禁忌

【禁忌】1．過度の不安，緊張，興奮性のある患者。
2．閉塞隅角緑内障。
3．甲状腺機能亢進。
4．不整頻拍，狭心症。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．運動性チック，Tourette症候群・その既往・家族歴。
7．重症うつ病。
8．褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．MAO阻害剤投与中・中止後14日以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1. 剥脱性皮膚炎(頻度不明)(広範囲の皮膚の潮紅，浸潤，強い掻痒等)。
2. 狭心症(頻度不明)。
3. 悪性症候群(頻度不明)(発熱，高度の筋硬直，CK上昇等)。
4. 脳血管障害(血管炎，脳梗塞，脳出血，脳卒中)(頻度不明)。
5. 肝不全(急性肝不全等)，肝機能障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症 鼻咽頭炎 胃腸炎，鼻炎，ヘルペスウイルス感染，インフルエンザ，麦粒腫，中耳炎，咽頭炎 上気道感染，副鼻腔炎
血液障害 血小板減少症 白血球減少症，汎血球減少症，血小板減少性紫斑病
免疫系障害 季節性アレルギー アナフィラキシー反応，過敏症反応，耳介腫脹，水疱形成，表皮剥脱
代謝障害 食欲減退(40．8%) 体重増加不良，食欲亢進
精神障害 不眠症(18．2%)，チック，不安，睡眠障害 抑うつ気分，過覚醒，気分変動，精神病性障害，激越，妄想，幻聴，緊張，神経過敏，うつ病，抜毛，怒り，無感情，歯ぎしり，リビドー減退 攻撃性，感情不安定，落ち着きのなさ，幻視，多弁，気分動揺，涙ぐむ，錯乱状態，失見当識，幻覚，躁病，パニック発作，リビドー亢進，自殺念慮・企図，吃音
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，振戦 傾眠，体位性眩暈，鎮静，ジスキネジー，自律神経失調，錯感覚，緊張性頭痛 痙攣，精神運動亢進，大発作痙攣，嗜眠
眼障害 ドライアイ，アレルギー性結膜炎，結膜充血，近視，眼掻痒症 霧視，複視，散瞳，視覚障害
耳障害 難聴，耳痛，回転性眩暈
心臓障害 動悸(12．1%)，頻脈 徐脈，上室性期外収縮 期外収縮，上室性頻脈，心室性期外収縮
血管障害 ほてり 高血圧，血圧変動 レイノー現象
呼吸器障害 呼吸困難 咳嗽，アレルギー性鼻炎，上気道の炎症，喘息，鼻漏，咽頭紅斑 咽喉頭疼痛，鼻出血
胃腸障害 悪心(11．7%)，口渇，下痢，腹痛，嘔吐，腹部不快感，口内乾燥，口内炎，便秘，上腹部痛 消化不良，腹部膨満，異常便，歯肉腫脹
皮膚障害 発疹 蕁麻疹，湿疹，脱毛症，ざ瘡，アトピー性皮膚炎，多汗症，掻痒症，接触性皮膚炎 斑状皮疹，紅斑
筋骨格系障害 筋緊張 関節痛，筋痙縮，筋痛，四肢痛 筋攣縮
泌尿器系障害 頻尿
生殖系・乳房障害 精巣上体炎，陰茎癒着，勃起不全 持続勃起症，女性化乳房
全身障害 発熱，倦怠感，易刺激性，胸部不快感 疲労，無力症，悪寒，胸痛 異常高熱
臨床検査 体重減少(16．4%)，蛋白尿，CK増加，尿中ケトン体陽性，QT延長 血圧上昇，拡張期血圧上昇，脈拍異常，異常Q波，白血球数減少，好中球数減少，好酸球数増加，血中アミラーゼ増加，ALT増加，AST増加，肝機能異常，血中ビリルビン増加，トリグリセリド増加，血糖増加，血中尿素増加，血中尿酸増加，尿潜血 心雑音，AI－P増加，肝酵素上昇，血小板数減少，白血球数異常
傷害，中毒 足骨折，手骨折
(表終了)

コントミン糖衣錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1171001F2177
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】クロルプロマジン塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】9.7円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経安定剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症，躁病，神経症の不安・緊張・抑うつ，悪心・嘔吐，吃逆，破傷風に伴う痙攣，麻酔前投薬，人工冬眠，催眠・鎮静・鎮痛剤の効力増強
【用法用量】成人 1日30～100mg 分割 内服。精神科 1日50～450mg 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態，循環虚脱状態。
2．バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4．フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．突然死，心室頻拍(各頻度不明)(Torsades de pointes含む)，血圧低下，心電図異常(QT間隔の延長，T波の平低化・逆転，二峰性T波・U波の出現等)。
3．再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，白血球減少(各頻度不明)。
4．麻痺性イレウス(0．1%未満)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
5．遅発性ジスキネジア(0．1～5%未満)，遅発性ジストニア(頻度不明)等の不随意運動。
6．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(0．1%未満)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
7．眼障害(頻度不明)(角膜・水晶体の混濁，網膜・角膜の色素沈着)。
8．SLE様症状(頻度不明)。
9．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
10．横紋筋融解症(頻度不明)(CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11．肺塞栓症，深部静脈血栓症(各頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 血圧低下，頻脈，不整脈，心疾患悪化
血液 白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
消化器 食欲亢進，食欲不振，舌苔，悪心・嘔吐，下痢，便秘
錐体外路症状 パーキンソン症候群(手指振戦，筋強剛，流涎等)，ジスキネジア(口周部，四肢等の不随意運動等)，ジストニア(眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張等)，アカシジア(静坐不能)
眼 縮瞳，眼内圧亢進，視覚障害
内分泌 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，射精不能，月経異常，糖尿
精神神経系 錯乱，不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激，痙攣
過敏症 過敏症状，光線過敏症
その他 口渇，鼻閉，倦怠感，発熱，浮腫，尿閉，無尿，頻尿，尿失禁，皮膚の色素沈着
(表終了)

サインバルタカプセル30mg（30mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179052M2029
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】デュロキセチン塩酸塩
【メーカー】製)塩野義製薬 販)日本イーライリリー
【薬価】93.1円/1C
【薬価収載日】2010/04/16
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．うつ病・うつ状態
2．下記に伴う疼痛
糖尿病性神経障害
線維筋痛症
慢性腰痛症
変形性関節症
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
うつ病・うつ状態
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
疼痛の効能共通
3．疼痛への投与時は，自殺念慮，自殺企図，敵意，攻撃性等の精神症状の発現リスクを考慮，投与の適否を慎重に判断。
線維筋痛症に伴う疼痛
4．線維筋痛症の診断は，米国リウマチ学会の分類(診断)基準等の国際的な基準により実施し，確定診断された場合にのみ投与。
慢性腰痛症に伴う疼痛
5．最新の診断基準を参考に慢性腰痛症と診断された患者のみ，投与を考慮。
変形性関節症に伴う疼痛
6．3ヵ月以上疼痛を有し，最新の診断基準を参考に変形性関節症と診断された患者のみ，投与を考慮。
【用法用量】1．うつ病・うつ状態，糖尿病性神経障害に伴う疼痛
成人 1回40mg 1日1回 朝食後 内服。
1日20mgから開始。1週間以上あけて 1日量 20mgずつ増量。
効果不十分時 1日60mgまで。
2．線維筋痛症に伴う疼痛，慢性腰痛症に伴う疼痛，変形性関節症に伴う疼痛
成人 1回60mg 1日1回 朝食後 内服。
1日20mgから開始。1週間以上あけて 1日量 20mgずつ増量。
注意
うつ病・うつ状態，糖尿病性神経障害に伴う疼痛

1 神経系及び感覚器官用医薬品

投与量は必要最小限に調節。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後2週間以内。
3. 高度の肝機能障害。
4. 高度の腎機能障害。
5. コントロール不良の閉塞隅角緑内障。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. セロトニン症候群(頻度不明)(不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクローヌス，自律神経不安定等)。
2. 悪性症候群(頻度不明)(発熱，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，白血球数増加，血清CK(CPK)上昇)，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下，急性腎障害。
3. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
4. 痙攣(0. 1%未満)，幻覚(頻度不明)。
5. 肝機能障害(0. 1%未満)(AST，ALT，γ－GTP，総ビリルビン等の上昇)，肝炎(頻度不明)，黄疸(頻度不明)。
6. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
7. アナフィラキシー反応(頻度不明)(呼吸困難，痙攣，血管浮腫，蕁麻疹等)。
8. 高血圧クリーゼ(頻度不明)。
9. 尿閉(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，掻痒，蕁麻疹 接触性皮膚炎，光線過敏反応，血管浮腫，皮膚血管炎
全身症状 倦怠感　ほてり，発熱，悪寒，脱水，脱力感
精神神経系 傾眠(24. 3%)，頭痛，眩暈 不眠，立ちくらみ，しびれ感，振戦，浮遊感 あくび，焦燥感，気分高揚，注意力障害，錐体外路症状，不安，異常夢(悪夢含む)，頭がボーッとする，性欲減退，躁病反応，錯感覚，無感情，味覚異常 激越，オーガズム異常，嗜眠，睡眠障害，歯軋り，失見当識，攻撃性，怒り，歩行障害，開口障害，下肢静止不能症候群，異常感
消化器 悪心(22. 4%)，食欲減退，口渇(12. 8%)，便秘(12. 4%)，下痢 腹部痛，嘔吐，腹部膨満感，腹部不快感，消化不良，胃炎 口内炎，歯痛，胃腸炎，咽頭不快感 咽頭炎，咽喉緊張，口臭，嚥下障害，顕微鏡的大腸炎
感覚器　耳鳴 視調節障害，眼乾燥，霧視，耳痛 散瞳，緑内障
循環器　動悸，頻脈，血圧上昇 起立性低血圧，上室性不整脈，失神
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇
血液　ヘモグロビン減少，赤血球減少，ヘマトクリット減少，鼻出血 異常出血(斑状出血，胃腸出血等)，白血球減少
筋・骨格系　背部痛，関節痛，筋痛，肩こり，筋痙攣 筋緊張
泌尿器・生殖器　排尿困難 性機能異常(月経異常，射精障害，勃起障害等)，排尿障害，血中クレアチニン上昇，BUN上昇，頻尿，尿中アルブミン／クレアチニン比上昇，尿流量減少 多尿，閉経期症状，精巣痛
代謝・内分泌　高血糖，トリグリセリド上昇，総コレステロール上昇，尿中蛋白陽性 血中カリウム減少 甲状腺機能低下，低ナトリウム血症，乳汁漏出症，高プロラクチン血症，血中カリウム上昇
その他　発汗，体重減少，体重増加，CK(CPK)上昇 浮腫，冷感，熱感，呼吸苦，胸痛，冷汗，咳嗽
(表終了)

テトラミド錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1179033F1020
【薬効分類】1. 1. 7　精神神経用剤
【一般名】ミアンセリン塩酸塩
【メーカー】製)オルガノン　販)第一三共
【薬価】9.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】四環系抗うつ剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】成人　初期量　1日30mg　1日60mgまで増量　分割　内服，又は1日1回　夕食後又は就寝前　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後2週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 無顆粒球症(頻度不明)(発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等)。
3. QT延長，心室頻拍(Torsades de pointes含む)，心室細動(各頻度不明)。
4. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，総ビリルビン等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
5. 痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹 浮腫
循環器　頻脈 動悸，血圧降下 徐脈
精神神経系 眠気 振戦等のパーキンソン症状，眩暈・ふらつき，頭痛，不眠，視調節障害，躁転，焦燥感，不安，しびれ感 構音障害，アカシジア，運動失調，ぼんやり 下肢不安症，鎮静
消化器　口渇，便秘，悪心・嘔吐，食欲不振，食欲亢進，胃腸障害，下痢 にがみ，腹痛
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇
筋骨格系　関節痛
その他　脱力感，倦怠感，排尿困難，発汗 鼻閉，体重増加，浮腫
(表終了)

デパス錠0. 5mg（0. 5mg1錠）

外　内服　流通
精3　ハイリスク

【YJコード】1179025F1026
【薬効分類】1. 1. 7　精神神経用剤
【一般名】エチゾラム
【メーカー】製)田辺三菱製薬　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】9.5円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇神経症の不安・緊張・抑うつ・神経衰弱症状・睡眠障害
〇うつ病の不安・緊張・睡眠障害
〇心身症(高血圧症，胃・十二指腸潰瘍)の身体症候・不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
〇統合失調症の睡眠障害
〇下記の不安・緊張・抑うつ・筋緊張
頸椎症，腰痛症，筋収縮性頭痛
【用法用量】神経症，うつ病
成人　1日3mg　1日3回　分割　内服。
心身症，頸椎症，腰痛症，筋収縮性頭痛
成人　1日1. 5mg　1日3回　分割　内服。
睡眠障害
成人　1日1～3mg　1日1回　就寝前　内服。
いずれも適宜増減，高齢者　1日1. 5mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 急性閉塞隅角緑内障。
2. 重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，離脱症状(痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等)。
2. 呼吸抑制，炭酸ガスナルコーシス(各頻度不明)。
3. 悪性症候群(頻度不明)(発熱，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，白血球の増加，血清CKの上昇等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，血清CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻髪音)等)。
6. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，ビリルビン上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気(13. 2%)，ふらつき 眩暈，歩行失調，頭痛・頭重，言語障害，不眠，酩酊感，焦燥 興奮，振戦，眼症状(霧視，調節障害)
健忘，刺激興奮，錯乱
呼吸器　呼吸困難感
循環器　動悸，立ちくらみ
消化器　口渇，悪心・嘔気，食欲不振，胃・腹部不快感，腹痛，便秘，下痢　嘔吐
過敏症　発疹 蕁麻疹 紅斑，掻痒感
骨格筋　倦怠感，脱力感，易疲労感，筋弛緩等の筋緊張低下症状
その他　発汗，排尿障害 浮腫，鼻閉 乳汁分泌，女性化乳房，高プロラクチン血症，眼瞼痙攣(瞬目過多，羞明感，眼乾燥感等)

1　神経系及び感覚器官用医薬品

（表終了）

トフラニール錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1174006F1078
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】イミプラミン塩酸塩
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)ノバルティスファーマ
【薬価】10.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】うつ病・うつ状態治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】精神科のうつ病・うつ状態，遺尿症（昼，夜）
注意
24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】精神科のうつ病・うつ状態
成人　初期量　1日30～70mg　1日200mgまで漸増　分割　内服。まれに300mgまで。
適宜減量。
遺尿症（昼・夜）
学童　1日30～50mg　1日1～2回　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．本剤の成分・三環系抗うつ剤に過敏症の既往。
3．心筋梗塞の回復初期。
4．尿閉（前立腺疾患等）。
5．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。
6．QT延長症候群。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，せん妄，興奮，発熱，発汗，頻脈，振戦，ミオクロヌス，反射亢進，下痢等）。
3．てんかん発作（頻度不明）。
4．無顆粒球症（頻度不明）（発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等）。
5．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
6．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
7．心不全（頻度不明）。
8．QT延長，心室頻拍（Torsades　de　pointes含む）（各頻度不明）。
9．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
10．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 － 血圧降下，頻脈，不整脈，動悸 起立性低血圧，心電図異常（QT延長等），血圧上昇，心ブロック
精神神経系 パーキンソン症状・振戦・アカシジア等の錐体外路障害，眠気 運動失調，言語障害，知覚異常，幻覚，精神錯乱，攻撃的反応，激越，躁状態，不眠，不安，焦燥 せん妄，ミオクロヌス，性欲減退
抗コリン作用 口渇，排尿困難，便秘 視調節障害（散瞳等），鼻閉 眼内圧亢進，尿閉
皮膚 － － 光線過敏症，脱毛
過敏症 － 発疹，掻痒感 顔・舌部の浮腫
血液 － － 白血球減少，血小板減少，紫斑，点状出血，好酸球増多
肝臓 － － AST，ALTの上昇
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢，味覚異常 口内炎，舌炎
内分泌 － 体重増加 乳房肥大，乳汁漏出，体重減少
長期投与 － － 口周部等の不随意運動
その他 ふらつき，眩暈，発汗 倦怠感，脱力感，頭痛，異常高熱，熱感，耳鳴 血管痙攣，血糖値上昇，血糖値低下
（表終了）

トリプタノール錠25（25mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1179002F2072
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】アミトリプチリン塩酸塩
【メーカー】製)日医工　販)MSD
【薬価】10.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】三環系抗うつ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】精神科のうつ病・うつ状態，夜尿症，末梢性神経障害性疼痛
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
末梢性神経障害性疼痛
2．自殺念慮，自殺企図，敵意，攻撃性等の精神症状の発現リスクを考慮，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】うつ病・うつ状態
成人　初期量　1日30～75mg　1日150mgまで漸増　分割　内服。まれに300mgまで。
適宜減量。
夜尿症
1日10～30mg　就寝前　内服。
適宜減量。
末梢性神経障害性疼痛
成人　初期量　1日10mg　1日150mgまで。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．三環系抗うつ剤に過敏症。
3．心筋梗塞の回復初期。
4．尿閉（前立腺疾患等）。
5．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，せん妄，興奮，発熱，発汗，頻脈，振戦，ミオクロヌス，反射亢進，下痢等）。
3．心筋梗塞（頻度不明）。
4．幻覚，せん妄，精神錯乱，痙攣（各頻度不明）。
5．顔・舌部の浮腫（0．1%未満）。
6．無顆粒球症，骨髄抑制（各頻度不明）。
7．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
8．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器　血圧低下，頻脈　血圧上昇，動悸，不整脈，心発作，心ブロック
精神神経系 眠気 振戦等のパーキンソン症状，運動失調，四肢の知覚異常，焦燥 構音障害 不眠，不安，口周部等の不随意運動
過敏症　発疹 蕁麻疹
血液　白血球減少
肝臓　黄疸 肝機能障害，AST上昇，ALT上昇
消化器 口渇 悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，便秘 味覚異常
泌尿器　排尿困難　尿閉
その他　ふらつき，頭痛，眩暈，倦怠感，発汗，視調節障害 眼内圧亢進 体重増加
（表終了）

ピーゼットシー糖衣錠2mg（2mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1172013F1030
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】ペルフェナジンマレイン酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】9.7円/1T
【薬価収載日】2003/07/03
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経安定剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○統合失調症
○術前・術後の悪心・嘔吐
○メニエル症候群（眩暈，耳鳴）
【用法用量】成人　1日6～24mg　分割　内服。精神科　成人　1日6～48mg　分割　内服。
適宜増減。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 昏睡状態，循環虚脱状態。
2. バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4. フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 突然死（頻度不明），血圧低下，心電図異常（QT間隔の延長，T波の平低化・逆転，二峰性T波・U波の出現等）。
3. 再生不良性貧血，無顆粒球症，白血球減少（各頻度不明）。
4. 麻痺性イレウス（0．1%未満），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
5. 遅発性ジスキネジア（0．1～5%未満）（口周部等の不随意運動）。
6. 眼障害（頻度不明）（角膜・水晶体の混濁，角膜の色素沈着）。
7. SLE様症状（頻度不明）。
8. 肺塞栓症，深部静脈血栓症（各頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
9. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器　血圧低下，頻脈，不整脈，心疾患悪化
血液　白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
消化器　食欲亢進，食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，便秘
肝臓　肝障害
錐体外路症状　パーキンソン症候群（手指振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（口周部，四肢等の不随意運動等），ジストニア（眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張等），アカシジア（静坐不能）
眼　縮瞳，視覚障害
内分泌 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，月経異常
精神神経系　不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激
過敏症　過敏症状，光線過敏症
その他　口渇，鼻閉，倦怠感，浮腫，皮膚の色素沈着
（表終了）

ヒルナミン錠（5mg）（5mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1172014F1027
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】レボメプロマジンマレイン酸塩
【メーカー】(製)共和薬品工業　販)塩野義製薬
【薬価】5.9円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】統合失調症，躁病，うつ病の不安・緊張
【用法用量】成人　1日25～200mg　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 昏睡状態，循環虚脱状態。
2. バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4. フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 突然死（頻度不明），血圧低下，心電図異常（QT間隔の延長，T波の平低化・逆転，二峰性T波・U波の出現等）。
3. 再生不良性貧血，無顆粒球症，白血球減少（頻度不明）。
4. 麻痺性イレウス（0．1%未満），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
5. 遅発性ジスキネジア（0．1～5%未満），遅発性ジストニア（頻度不明）等の不随意運動。
6. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（0．1%未満）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
7. 眼障害（頻度不明）（角膜・水晶体の混濁，網膜・角膜の色素沈着）。
8. SLE様症状（頻度不明）。
9. 横紋筋融解症（頻度不明）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
10. 肺塞栓症，深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器　血圧低下，頻脈，不整脈，心疾患悪化
血液　白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
消化器　食欲亢進，食欲不振，舌苔，悪心・嘔吐，下痢，便秘
肝臓　肝障害
錐体外路症状　パーキンソン症候群（手指振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（口周部，四肢等の不随意運動等），ジストニア（眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張等），アカシジア（静坐不能）
眼　縮瞳，眼内圧亢進，視覚障害
内分泌 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，射精不能，月経異常，糖尿
精神神経系　錯乱，不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激，痙攣
過敏症　過敏症状，光線過敏症
その他　口渇，鼻閉，倦怠感，発熱，浮腫，尿閉，無尿，頻尿，尿失禁，皮膚の色素沈着
（表終了）

モディオダール錠100mg（100mg1錠）

外　内服　流通
劇　精1　ハイリスク

【YJコード】1179047F1022
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】モダフィニル
【メーカー】(製)アルフレッサファーマ　販)田辺三菱製薬
【薬価】303.6円/1T
【薬価収載日】2007/03/16
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う日中の過度の眠気
1. ナルコレプシー
2. 特発性過眠症
3. 持続陽圧呼吸（CPAP）療法等による気道閉塞の治療を実施中の閉塞性睡眠時無呼吸症候群
注意
効能共通
1. 睡眠障害を熟知し，安全性・有効性を理解し，治療方法に精通した医師が行う。
ナルコレプシー
2. 米国睡眠医学会が編纂した睡眠障害国際分類の診断基準により他の睡眠障害と鑑別し，ナルコレプシーと診断された患者を対象。終夜睡眠ポリグラフ検査・反復睡眠潜時検査等の客観的検査で確認後投与を判断。
3. カタプレキシー等の日中の過度の眠気以外のナルコレプシー症状への効果は未確認。
特発性過眠症
4. 米国睡眠医学会が編纂した睡眠障害国際分類の診断基準を参考に他の睡眠障害と鑑別し，特発性過眠症と診断された患者を対象。終夜睡眠ポリグラフ検査・反復睡眠潜時検査等の客観的検査で確認後投与を判断。
閉塞性睡眠時無呼吸症候群
5. 睡眠時無呼吸症候群の診断・治療に精通した医師と睡眠障害の診断・治療に精通した医師との連携で行う。
6. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群と診断され，CPAP療法等の気道閉塞の治療を3ヵ月以上実施しても，日中の過度の眠気が残存する患者には，眠気の原因となる他の疾患との鑑別診断を行った上で投与。日中の過度の眠気には，反復睡眠潜時検査等の客観的検査で確認後投与を判断。
7. 日中の過度の眠気以外の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の症状・気道閉塞に未確認。
【用法用量】成人　1回200mg　1日1回　朝　内服。適宜増減，1日最大300mg。
注意
不眠に注意し，夕刻以後の服用は避ける（覚醒効果あり）。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な不整脈。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
2. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
3. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，掻痒感，血管浮

1 神経系及び感覚器官用医薬品

腫，呼吸困難，血圧低下，チアノーゼ等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 － 発疹，掻痒 血管浮腫
肝臓 － AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの上昇 －
精神神経系 頭痛（23．2%），不眠 眩暈，傾眠，いらいら感，カタプレキシーの増悪，しびれ，神経過敏，振戦，ジスキネジー，不安，うつ状態，躁状態 錯感覚，幻覚，妄想，攻撃性，興奮，思考異常
循環器 動悸 血圧上昇，頻脈，胸痛 －
消化器 口渇 食欲不振，胃部不快感，悪心・嘔吐，下痢，便秘，胃炎，腹痛，口内炎，食欲亢進，舌炎，鼓腸 消化不良
その他 体重減少 鼻咽頭炎，肩こり，発汗，発熱，倦怠感，トリグリセリド上昇，コレステロール上昇，白血球数減少，熱感，耳鳴，体重増加，背部痛，鼻炎，咳嗽，尿臭異常 血管拡張（潮紅），末梢性浮腫
（表終了）

リスパダールOD錠1mg（1mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179038F5029
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】リスペリドン
【メーカー】製）ヤンセンファーマ
【薬価】11.9円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
5～18歳未満に使用。
【用法用量】1．統合失調症
成人 1回1mgから開始 1日2回 内服。漸増し 維持量 1日2～6mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日12mgまで。
2．小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
（1）．体重15～20kg未満
1回0．25mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日0．5mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0．25mgずつ 1日1mgまで。
（2）．体重20kg以上
1回0．5mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日1mg 1日2回分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0．5mgずつ 20～45kg未満 1日2．5mgまで 45kg以上 1日3mgまで。
注意
1．本剤の活性代謝物パリペリドンとの併用で作用増強のおそれ，パリペリドン含有経口剤との併用は避ける。
2．0．25mg単位での調節が必要な時は，内用液又は細粒を使用。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4．本剤の成分・パリペリドンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．遅発性ジスキネジア（0．55%）（口周部等の不随意運動）。
3．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
4．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
7．不整脈（頻度不明）（心房細動，心室性期外収縮等）。
8．脳血管障害（頻度不明）。
9．高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡（頻度不明）（口渇，多飲，多尿，頻尿等）。
10．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状）。
11．無顆粒球症，白血球減少（頻度不明）。
12．肺塞栓症，深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
13．持続勃起症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 気管支炎，鼻咽頭炎，咽頭炎，肺炎，胃腸炎，感染，膀胱炎，耳感染，インフルエンザ，限局性感染，気道感染，鼻炎，副鼻腔炎，皮下組織膿瘍，尿路感染，ウイルス感染，蜂巣炎，扁桃炎，眼感染，中耳炎，爪真菌症，ダニ皮膚炎
血液・リンパ系障害 貧血 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害 アナフィラキシー反応，過敏症
内分泌障害 高プロラクチン血症
代謝・栄養障害 食欲不振 食欲亢進 高脂血症，多飲症，食欲減退，高尿酸血症，水中毒
精神障害 不眠症，不安 激越，うつ病，幻覚，躁病，妄想，緊張，錯乱状態，リビドー亢進 抑うつ症状，被害妄想，精神症状，睡眠障害，自殺企図，徘徊，リビドー減退，神経過敏，気力低下，情動鈍麻，無オルガズム症，悪夢，睡眠時遊行症
神経系障害 アカシジア，振戦，構音障害，傾眠，眩暈・ふらつき 頭痛，ジストニー，鎮静，運動低下，立ちくらみ，ジスキネジア，無動，しびれ感，痙攣，仮面状顔貌，頭部不快感，錯感覚 パーキンソニズム，錐体外路障害，精神運動亢進，注意力障害，構語障害，よだれ，嗜眠，意識レベルの低下，会話障害（舌のもつれ等），味覚異常，記憶障害，てんかん，末梢性ニューロパチー，協調運動異常，過眠症，弓なり緊張，失神，平衡障害，刺激無反応，運動障害，意識消失
眼障害 調節障害，視力低下 眼球回転発作，眼瞼痙攣，眼脂，結膜炎，網膜動脈閉塞，霧視，眼充血，眼瞼縁痂皮，眼乾燥，流涙増加，羞明，緑内障，術中虹彩緊張低下症候群
耳・迷路障害 耳痛，回転性眩暈，耳鳴
心臓障害 頻脈，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮 洞性頻脈，房室ブロック，右脚ブロック，徐脈，左脚ブロック，洞性徐脈
血管障害 潮紅 起立性低血圧，低血圧，高血圧，末梢冷感，末梢循環不全
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻閉 呼吸困難，咳嗽，鼻漏，副鼻腔うっ血，睡眠時無呼吸症候群，口腔咽頭痛，鼻出血，肺うっ血，喘鳴，嚥下性肺炎，発声障害，気道うっ血，ラ音，呼吸障害，過換気
胃腸障害 流涎過多，便秘，悪心，嘔吐 嚥下障害，腹部膨満，胃不快感，下痢，腹痛，消化不良，上腹部痛 口内乾燥，胃炎，唾液欠乏，腸閉塞，膵炎，歯痛，糞塊充塞，便失禁，口唇炎，舌腫脹
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 多汗症，発疹 掻痒症，湿疹，過角化，紅斑，ざ瘡，脱毛症，血管浮腫，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，脂漏性皮膚炎，皮膚変色，皮膚病変，蕁麻疹，水疱
筋骨格系・結合組織障害 筋固縮 斜頚，筋攣縮，関節硬直 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢痛，関節痛，姿勢異常，筋骨格痛，頚部痛，筋骨格系胸痛，筋痙縮
腎・尿路障害 排尿困難，頻尿 尿閉，尿失禁
生殖系・乳房障害 月経障害 乳汁漏出症，射精障害 無月経，不規則月経，女性化乳房，性機能不全，乳房不快感，勃起不全，月経遅延，希発月経，膣分泌物異常，乳房腫大，乳房分泌
全身障害・投与局所様態 易刺激性，倦怠感，口渇 無力症，疲労，歩行障害，胸部不快感，発熱 気分不良，胸痛，顔面浮腫，末梢性浮腫，疼痛，不活発，浮腫，低体温，インフルエンザ様疾患，悪寒，薬剤離脱症候群
臨床検査 ALT増加，CK増加，血圧低下，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，体重増加，体重減少 AST増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，LDH増加，血中プロラクチン増加，血中ナトリウム減少，血中尿素増加，心電図異常，心電図QT延長，好酸球数増加，グリコヘモグロビン増加，血小板数減少，総蛋白減少，白血球数減少，白血球数増加，尿中蛋白陽性，AI－P増加，ヘマトクリット減少，心電図T波逆転，血中尿酸増加，尿中血陽性，肝酵素上昇，尿糖陽性
傷害，中毒，処置合併症 転倒・転落，引っかき傷，処置による疼痛
（表終了）

リスパダールOD錠2mg（2mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179038F6025
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】リスペリドン
【メーカー】製）ヤンセンファーマ
【薬価】19.3円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
5～18歳未満に使用。
【用法用量】1．統合失調症
成人 1回1mgから開始 1日2回 内服。漸増し 維持量 1日2～6mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日12mgまで。
2．小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性

1 神経系及び感覚器官用医薬品

(1). 体重15～20kg未満
1回0. 25mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日0. 5mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0. 25mgずつ 1日1mgまで。
(2). 体重20kg以上
1回0. 5mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日1mg 1日2回分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0. 5mgずつ 20～45kg未満 1日2. 5mgまで 45kg以上 1日3mgまで。
注意
1. 本剤の活性代謝物パリペリドンとの併用で作用増強のおそれ，パリペリドン含有経口剤との併用は避ける。
2. 0. 25mg単位での調節が必要な時は，内用液又は細粒を使用。

■禁忌
【禁忌】1. 昏睡状態。
2. バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4. 本剤の成分・パリペリドンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 遅発性ジスキネジア(0. 55%)(口周部等の不随意運動)。
3. 麻痺性イレウス(頻度不明)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
5. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
7. 不整脈(頻度不明)(心房細動，心室性期外収縮等)。
8. 脳血管障害(頻度不明)。
9. 高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡(頻度不明)(口渇，多飲，多尿，頻尿等)。
10. 低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状)。
11. 無顆粒球症，白血球減少(頻度不明)。
12. 肺塞栓症，深部静脈血栓症(頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
13. 持続勃起症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 気管支炎，鼻咽頭炎，咽頭炎，肺炎，胃腸炎，感染，膀胱炎，耳感染，インフルエンザ，限局性感染，気道感染，鼻炎，副鼻腔炎，皮下組織膿瘍，尿路感染，ウイルス感染，蜂巣炎，扁桃炎，眼感染，中耳炎，爪真菌症，ダニ皮膚炎
血液・リンパ系障害 貧血 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害 アナフィラキシー反応，過敏症
内分泌障害 高プロラクチン血症
代謝・栄養障害 食欲不振 食欲亢進 高脂血症，多飲症，食欲減退，高尿酸血症，水中毒
精神障害 不眠症，不安 激越，うつ病，幻覚，躁病，妄想，緊張，錯乱状態，リビドー亢進 抑うつ症状，被害妄想，精神症状，睡眠障害，自殺企図，徘徊，リビドー減退，神経過敏，気力低下，情動鈍麻，無オルガズム症，悪夢，睡眠時遊行症
神経系障害 アカシジア，振戦，構音障害，傾眠，眩暈・ふらつき 頭痛，ジストニー，鎮静，運動低下，立ちくらみ，ジスキネジア，無動，しびれ感，痙攣，仮面状顔貌，頭部不快感，錯感覚 パーキンソニズム，錐体外路障害，精神運動亢進，注意力障害，構語障害，よだれ，嗜眠，意識レベルの低下，会話障害(舌のもつれ等)，味覚異常，記憶障害，てんかん，末梢性ニューロパチー，協調運動異常，過眠症，弓なり緊張，失神，平衡障害，刺激無反応，運動障害，意識消失
眼障害 調節障害，視力低下 眼球回転発作，眼瞼痙攣，眼脂，結膜炎，網膜動脈閉塞，霧視，眼充血，眼瞼縁痂皮，眼乾燥，流涙増加，羞明，緑内障，術中虹彩緊張低下症候群
耳・迷路障害 耳痛，回転性眩暈，耳鳴
心臓障害 頻脈，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮 洞性頻脈，房室ブロック，右脚ブロック，徐脈，左脚ブロック，洞性徐脈
血管障害 潮紅 起立性低血圧，低血圧，高血圧，末梢冷感，末梢循環不全
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻閉 呼吸困難，咳嗽，鼻漏，副鼻腔うっ血，睡眠時無呼吸症候群，口腔咽頭痛，鼻出血，肺うっ血，喘鳴，嚥下性肺炎，発声障害，気道うっ血，ラ音，呼吸障害，過換気
胃腸障害 流涎過多，便秘，悪心，嘔吐 嚥下障害，腹部膨満，胃不快感，下痢，腹痛，消化不良，上腹部痛 口内乾燥，胃炎，唾液欠乏，腸閉塞，膵炎，歯痛，糞塊充塞，便失禁，口唇炎，舌腫脹
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 多汗症，発疹 掻痒症，湿疹，過角化，紅斑，ざ瘡，脱毛症，血管浮腫，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，脂漏性皮膚炎，皮膚変色，皮膚病変，蕁麻疹，水疱
筋骨格系・結合組織障害 筋固縮 斜頸，筋攣縮，関節硬直 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢痛，関節痛，姿勢異常，筋骨格痛，頚部痛，筋骨格系胸痛，筋痙縮
腎・尿路障害 排尿困難，頻尿 尿閉，尿失禁
生殖系・乳房障害 月経障害 乳汁漏出症，射精障害 無月経，不規則月経，女性化乳房，性機能不全，乳房不快感，勃起不全，月経遅延，希発月経，膣分泌物異常，乳房腫大，乳房分泌
全身障害・投与局所様態 易刺激性，倦怠感，口渇 無力症，疲労，歩行障害，胸部不快感，発熱 気分不良，胸痛，顔面浮腫，末梢性浮腫，疼痛，不活発，浮腫，低体温，インフルエンザ様疾患，悪寒，薬剤離脱症候群
臨床検査 ALT増加，CK増加，血圧低下，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，体重増加，体重減少 AST増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，LDH増加，血中プロラクチン増加，血中ナトリウム減少，血中尿素増加，心電図異常，心電図QT延長，好酸球数増加，グリコヘモグロビン増加，血小板数減少，総蛋白減少，白血球数減少，白血球数増加，尿中蛋白陽性，AI－P増加，ヘマトクリット減少，心電図T波逆転，血中尿酸増加，尿中血陽性，肝酵素上昇，尿糖陽性
傷害，中毒，処置合併症 転倒・転落，引っかき傷，処置による疼痛
(表終了)

リスパダール細粒1%（1%1g）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179038C1027
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】リスペリドン
【メーカー】(製)ヤンセンファーマ
【薬価】84.2円/1g
【薬価収載日】1996/06/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】統合失調症
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
5～18歳未満に使用。
【用法用量】1. 統合失調症
成人 1回1mgから開始 1日2回 内服。漸増し 維持量 1日2～6mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日12mgまで。
2. 小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
(1). 体重15～20kg未満
1回0. 25mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日0. 5mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0. 25mgずつ 1日1mgまで。
(2). 体重20kg以上
1回0. 5mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日1mg 1日2回分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0. 5mgずつ 20～45kg未満 1日2. 5mgまで 45kg以上 1日3mgまで。
注意
本剤の活性代謝物パリペリドンとの併用で作用増強のおそれ，パリペリドン含有経口剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 昏睡状態。
2. バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4. 本剤の成分・パリペリドンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 遅発性ジスキネジア(0. 55%)(口周部等の不随意運動)。
3. 麻痺性イレウス(頻度不明)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
5. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
7. 不整脈(頻度不明)(心房細動，心室性期外収縮等)。
8. 脳血管障害(頻度不明)。
9. 高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡(頻度不明)(口渇，多飲，多尿，頻尿等)。
10. 低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害

1 神経系及び感覚器官用医薬品

等の低血糖症状)。
11. 無顆粒球症，白血球減少(頻度不明)。
12. 肺塞栓症，深部静脈血栓症(頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
13. 持続勃起症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　気管支炎，鼻咽頭炎，咽頭炎，肺炎，胃腸炎，感染，膀胱炎，耳感染，インフルエンザ，限局性感染，気道感染，鼻炎，副鼻腔炎，皮下組織膿瘍，尿路感染，ウイルス感染，蜂巣炎，扁桃炎，眼感染，中耳炎，爪真菌症，ダニ皮膚炎
血液・リンパ系障害　貧血 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害　アナフィラキシー反応，過敏症
内分泌障害　高プロラクチン血症
代謝・栄養障害 食欲不振 食欲亢進 高脂血症，多飲症，食欲減退，高尿酸血症，水中毒
精神障害 不眠症，不安 激越，うつ病，幻覚，躁病，妄想，緊張，錯乱状態，リビドー亢進 抑うつ症状，被害妄想，精神症状，睡眠障害，自殺企図，徘徊，リビドー減退，神経過敏，気力低下，情動鈍麻，無オルガズム症，悪夢，睡眠時遊行症
神経系障害 アカシジア，振戦，構音障害，傾眠，眩暈・ふらつき 頭痛，ジストニー，鎮静，運動低下，立ちくらみ，ジスキネジア，無動，しびれ感，痙攣，仮面状顔貌，頭部不快感，錯感覚 パーキンソニズム，錐体外路障害，精神運動亢進，注意力障害，構語障害，よだれ，嗜眠，意識レベルの低下，会話障害(舌のもつれ等)，味覚異常，記憶障害，てんかん，末梢性ニューロパチー，協調運動異常，過眠症，弓なり緊張，失神，平衡障害，刺激無反応，運動障害，意識消失
眼障害　調節障害，視力低下 眼球回転発作，眼瞼痙攣，眼脂，結膜炎，網膜動脈閉塞，霧視，眼充血，眼瞼縁痂皮，眼乾燥，流涙増加，羞明，緑内障，術中虹彩緊張低下症候群
耳・迷路障害　耳痛，回転性眩暈，耳鳴
心臓障害　頻脈，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮 洞性頻脈，房室ブロック，右脚ブロック，徐脈，左脚ブロック，洞性徐脈
血管障害　潮紅 起立性低血圧，低血圧，高血圧，末梢冷感，末梢循環不全
呼吸器，胸郭・縦隔障害　鼻閉 呼吸困難，咳嗽，鼻漏，副鼻腔うっ血，睡眠時無呼吸症候群，口腔咽頭痛，鼻出血，肺うっ血，喘鳴，嚥下性肺炎，発声障害，気道うっ血，ラ音，呼吸障害，過換気
胃腸障害 流涎過多，便秘，悪心，嘔吐 嚥下障害，腹部膨満，胃不快感，下痢，腹痛，消化不良，上腹部痛 口内乾燥，胃炎，唾液欠乏，腸閉塞，膵炎，歯痛，糞塊充塞，便失禁，口唇炎，舌腫脹
肝胆道系障害　肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　多汗症，発疹 掻痒症，湿疹，過角化，紅斑，ざ瘡，脱毛症，血管浮腫，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，脂漏性皮膚炎，皮膚変色，皮膚病変，蕁麻疹，水疱
筋骨格系・結合組織障害 筋固縮 斜頚，筋攣縮，関節硬直 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢痛，関節痛，姿勢異常，筋骨格痛，頚部痛，筋骨格系胸痛，筋痙縮
腎・尿路障害　排尿困難，頻尿 尿閉，尿失禁
生殖系・乳房障害 月経障害 乳汁漏出症，射精障害 無月経，不規則月経，女性化乳房，性機能不全，乳房不快感，勃起不全，月経遅延，希発月経，腟分泌物異常，乳房腫大，乳房分泌
全身障害・投与局所様態 易刺激性，倦怠感，口渇 無力症，疲労，歩行障害，胸部不快感，発熱 気分不良，胸痛，顔面浮腫，末梢性浮腫，疼痛，不活発，浮腫，低体温，インフルエンザ様疾患，悪寒，薬剤離脱症候群
臨床検査　ALT増加，CK増加，血圧低下，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，体重増加，体重減少 AST増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，LDH増加，血中プロラクチン増加，血中ナトリウム減少，血中尿素増加，心電図異常，心電図QT延長，好酸球数増加，グリコヘモグロビン増加，血小板数減少，総蛋白減少，白血球数減少，白血球数増加，尿中蛋白陽性，AI－P増加，ヘマトクリット減少，心電図T波逆転，血中尿酸増加，尿中血陽性，肝酵素上昇，尿糖陽性
傷害，中毒，処置合併症　転倒・転落，引っかき傷，処置による疼痛
(表終了)

リーマス錠200（200mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1179017F2052
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】炭酸リチウム
【メーカー】製)大正製薬　販)大正富山医薬品
【薬価】12.7円/1T
【薬価収載日】2001/09/07
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】躁病・躁状態治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】躁病，躁うつ病の躁状態
【用法用量】成人　1日400～600mgから開始　1日2～3回　分割　内服。以後3日～1週間ごと　1日1200mgまで漸増。
改善あれば　維持量　1日200～800mgに漸減　1日1～3回　分割　内服。
適宜増減。
注意
投与初期や増量時は維持量が決まるまでは1週間に1回，維持量の投与中には2～3ヵ月に1回，血清リチウム濃度の測定結果に基づきトラフ値(注)を評価しながら使用。血清リチウム濃度を上昇させる要因(食事・水分摂取量不足，脱水をおこしやすい状態，非ステロイド性消炎鎮痛剤等の血中濃度上昇をおこす可能性がある薬剤の併用等)や中毒の初期症状があれば，血清リチウム濃度を測定。
1. 血清リチウム濃度が1．5mEq／Lを超えた時，必要時，減量・休薬等の処置。
2. 血清リチウム濃度が2mEq／Lを超えた時，過量投与による中毒の可能性，減量・休薬。
(注)薬物反復投与時の定常状態での最低血中薬物濃度。血中濃度の経時的推移で，変動の小さい時点であり，血中濃度のモニタリングに適する。一般的に反復投与時の次回投与直前値となる。

■禁忌

【禁忌】1．てんかん等の脳波異常。
2．重篤な心疾患。
3．リチウムの体内貯留をおこしやすい患者。
(1)．腎障害。
(2)．衰弱・脱水状態。
(3)．発熱・発汗・下痢を伴う疾患。
(4)．食塩制限。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．リチウム中毒(頻度不明)(消化器症状(食欲低下，嘔気，嘔吐，下痢等)，中枢神経症状(振戦，傾眠，錯乱等)，運動機能症状(運動障害，運動失調等)，全身症状(発熱，発汗等))，急性腎障害，電解質異常，全身痙攣，ミオクローヌス等。
2．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等)，発熱，筋肉障害(CK上昇)，横紋筋融解症，急性腎障害(向精神薬(抗精神病薬等)併用)。
3．洞不全症候群，高度徐脈(頻度不明)。
4．腎性尿崩症(頻度不明)(多飲，多尿等)。
5．急性腎障害，間質性腎炎，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
6．甲状腺機能低下症，甲状腺炎(頻度不明)。
7．副甲状腺機能亢進症(頻度不明)。
8．可逆性の認知症様症状，昏睡に至る意識障害(頻度不明)(脳波所見上，周期性同期性放電等を伴う)。
9．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈 眠気 言語障害 頭痛 発熱 不眠 脳波異常(基礎波の徐波化等) 知覚異常 記憶障害 焦燥感 失禁 悪寒 耳鳴 一過性暗点 ブラックアウト発作 情動不安 せん妄
消化器 口渇 嘔気・嘔吐 下痢 食欲不振 胃部不快感 腹痛 便秘 唾液分泌過多 胃腸障害
循環器 心電図異常 血圧低下 頻脈 不整脈 末梢循環障害
血液 白血球増多
泌尿器 多尿 排尿困難 乏尿 頻尿 腎機能異常 蛋白尿
内分泌系　甲状腺機能異常 (血中TSH，血中遊離T3，血中遊離T4の上昇・低下，甲状腺131I摂取率の増加・TRH負荷後のTSH分泌反応の増大) 非中毒性甲状腺腫 粘液水腫 甲状腺中毒症
中枢神経系 振戦 運動障害 緊張亢進・低下 腱反射亢進 筋攣縮 運動過少 舞踏病様アテトーシス 頭蓋内圧亢進
皮膚　皮疹 掻痒感 毛嚢炎 下肢潰瘍 毛髪の乾燥・粗毛化 脱毛 乾癬・その悪化
肝臓 肝機能異常
その他 脱力・倦怠感 浮腫 体重増加・減少 性欲減退 血糖上昇 脱水 味覚異常(苦味等)
(表終了)

ルジオミール錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1179008F1022
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】マプロチリン塩酸塩
【メーカー】製)サンファーマ　販)田辺三菱製薬　販)ノバルティスファーマ
【薬価】6.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】四環系抗うつ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】成人　1日30～75mg　1日2～3回　分割　内服，又は1日1回　夕食後又は就寝前　内服。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 心筋梗塞の回復初期。
4. てんかん等の痙攣性疾患・その既往。
5. 尿閉(前立腺疾患等)。
6. MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後2週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡(他の三環系・四環系抗うつ剤)。
2. てんかん発作(0．1～5%未満)。
3. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
4. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5. 無顆粒球症(頻度不明)。
6. 麻痺性イレウス(0．1%未満)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
7. 間質性肺炎，好酸球性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻髪音)等)。
8. QT延長，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
9. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
循環器 血圧降下，血圧上昇 起立性低血圧，心悸亢進，心電図異常(QT延長等) 心ブロック，頻脈，不整脈，失神
精神神経系 激越，ミオクロヌス，情緒不安 眠気，パーキンソン様症状・振戦・アカシジア等の錐体外路障害，言語障害，知覚異常，睡眠障害(不眠等)，神経過敏，不安，集中力欠如(思考力低下，頭がボーッとする等)，躁状態 幻覚，陰萎，せん妄，運動失調，錯乱状態，悪夢，記憶障害，離人症
抗コリン作用 口渇，緑内障，尿閉 便秘，排尿困難，視調節障害(散瞳等) 鼻閉
皮膚 紫斑，脱毛 — 光線過敏症
過敏症 皮膚血管炎 発疹 蕁麻疹，掻痒感，発熱
血液 好酸球増多，血小板減少 — 白血球減少，白血球増多
肝臓 — AST，ALT，γ－GTPの上昇 AI－Pの上昇
消化器 — 悪心，胃部不快感等の胃腸症状，食欲不振，腹痛，口内苦味感，味覚異常 嘔吐，異常食欲亢進，口内炎，下痢，嚥下困難
内分泌 乳房肥大，乳汁漏出 — 体重増加
呼吸器 気管支痙攣 — —
その他 — 眩暈，ふらつき，倦怠感，脱力感，熱感，発汗，頭痛，頭重，頻尿・夜尿，浮腫 耳鳴，流涎
(表終了)

ルボックス錠25（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1179039F1036
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】フルボキサミンマレイン酸塩
【メーカー】製)アッヴィ 販)アステラス製薬 販)アボットジャパン 販)藤沢薬品工業
【薬価】14.1円/1T
【薬価収載日】1999/05/07
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】選択的セロトニン再取り込み阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態，強迫性障害，社会不安障害
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
うつ病・うつ状態
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
社会不安障害
3．社会不安障害の診断は，DSM等の適切な診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
強迫性障害(小児)
4．強迫性障害(小児)に投与時は，保護者・代諾者等に自殺念慮・自殺企図のリスク等について説明を行い，医師と緊密に連絡を取るよう指導。
【用法用量】成人
うつ病・うつ状態，強迫性障害，社会不安障害
初期量 1日50mg 1日150mgまで増量 1日2回 分割 内服。適宜増減。
小児
強迫性障害
8歳以上 1回25mg 1日1回 就寝前 内服。以後1週間以上あけて1日50mg 1日2回 朝・就寝前 内服。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日25mgずつ 1日150mgまで。
注意
効能共通
投与量は必要最小限に調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後2週間以内。
3．ピモジド・チザニジン塩酸塩・ラメルテオン・メラトニンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣(頻度不明)，せん妄，錯乱，幻覚，妄想(各0．1～5%未満)。
2．意識障害(頻度不明)(意識レベルの低下・意識消失等)。
3．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
4．セロトニン症候群(頻度不明)(錯乱，発熱，ミオクロヌス，振戦，協調異常，発汗等)。
昏睡状態，急性腎障害，死亡(セロトニン作用薬併用)。
5．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡(向精神薬(抗精神病薬，抗うつ薬等)併用)。
6．白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
7．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，総ビリルビン等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
8．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム増加，高張尿，意識障害等，食欲不振，頭痛，嘔気，嘔吐，全身倦怠感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 眩暈・ふらつき・立ちくらみ，振戦・アカシジア様症状・顎の不随意運動・開口障害・頬筋の痙攣等の錐体外路障害，頭痛，不眠，頭がボーッとする，ぼんやり，集中力低下，記憶減退，動作緩慢，あくび，圧迫感，抑うつ感，神経過敏，焦燥感，不安感，躁転，気分高揚，舌麻痺，言語障害，しびれ，運動失調，知覚異常，異常感覚・冷感 激越，性欲障害
循環器 頻脈，動悸，血圧上昇，低血圧，起立性低血圧 徐脈
過敏症 発疹，蕁麻疹，湿疹，掻痒感 光線過敏性反応
血液 白血球減少，ヘモグロビン減少，血清鉄上昇・低下 紫斑・胃腸出血・斑状出血等の異常出血，貧血
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P上昇等の肝機能障害
消化器 嘔気・悪心，口渇，便秘 嘔吐，下痢，腹痛，腹部膨満感，食欲不振，消化不良，空腹感，口腔内粘膜腫脹
泌尿器 排尿困難，排尿障害，頻尿，乏尿，BUN上昇，尿蛋白陽性 尿失禁，尿閉
血清電解質 血清カリウム上昇・低下，血中ナトリウム低下 低ナトリウム血症
その他 倦怠感，脱力感，上肢の虚脱，息切れ，胸痛，熱感，ほてり，灼熱感，発汗，視調節障害，眼痛，眼圧迫感，眼がチカチカする，耳鳴，鼻閉，苦味，歯がカチカチする，体重増加，脱毛，CK上昇 乳汁漏出，高プロラクチン血症，月経異常，勃起障害・射精障害等の性機能異常，関節痛，筋肉痛，浮腫，発熱，しゃっくり，味覚異常，散瞳，緑内障
(表終了)

レキサルティOD錠2mg（2mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179058F5026
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ブレクスピプラゾール
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】461.9円/1T
【薬価収載日】2021/11/25
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇統合失調症
〇うつ病・うつ状態(既存治療で効果不十分時のみ)
〇アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因する，過活動又は攻撃的言動
注意
うつ病・うつ状態(既存治療で効果不十分時のみ)
1．選択的セロトニン再取り込み阻害剤，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤等による治療を複数回行っても，効果不十分時のみ，副作用(アカシジア，遅発性ジスキネジア等の錐体外路症状)や他の治療も考慮した上，その適否を慎重に判断。
2．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因する，過活動又は攻撃的言動
3. 高齢認知症への抗精神病薬投与により死亡リスク増加の報告あり（外国）。プラセボ対照試験で，治験薬投与との関連性は不明だが死亡例が本剤群のみで報告あり。上記リスクを考慮し，臨床試験の有効性・安全性の結果等を熟知し，慎重に患者を選択。投与中は注意深く観察。
4. アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因する，過活動又は攻撃的言動に関する病態，診断，治療に精通した医師との連携で行う。
5. アルツハイマー型認知症のみに使用。アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患に伴う過活動又は攻撃的言動への有効性・安全性は未確認。
6. 患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等を行い，過活動又は攻撃的言動がアルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因することを確認。
7. 非薬物的介入で効果不十分時のみ，非薬物的介入に加えて投与。
8. 臨床試験では，国際老年精神医学会の定義に基づくアジテーション患者が対象。国内第II／III相試験に組み入れられた臨床症状，試験結果等を理解し，適応患者の選択を行う。
【用法用量】統合失調症
成人　ブレクスピプラゾール　1回1mgから開始　1日1回，4日以上あけて増量　1回2mg　1日1回　内服。
うつ病・うつ状態（既存治療で効果不十分時のみ）
成人　ブレクスピプラゾール　1回1mg　1日1回　内服。忍容性に問題がなく，効果不十分時のみ　1日2mgまで。
アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因する，過活動又は攻撃的言動
成人　ブレクスピプラゾール　1回0．5mgから開始　1日1回，1週間以上あけて増量　1回1mg　1日1回　内服。忍容性に問題がなく，効果不十分時のみ　1回2mg　1日1回まで，増量は1週間以上あける。
注意
統合失調症
1．1日4mgを超える安全性は未確立。
2. 本剤と中程度以上のCYP2D6阻害剤（キニジン，パロキセチン等）及び／又は中程度以上のCYP3A阻害剤（イトラコナゾール，クラリスロマイシン等）を併用時等は，本剤の血漿中濃度が上昇，これらの薬剤との併用は避ける。やむを得ず併用時は，下表を参考に用法・用量の調節を行う。
（参考）
（表開始）
強いCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれかを併用　1回1mg　1日1回
中程度のCYP2D6阻害剤・中程度のCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回1mg　1日1回
CYP2D6の活性が欠損している患者　1回1mg　1日1回
強いCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
強いCYP2D6阻害剤・中程度のCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
中程度のCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
CYP2D6の活性が欠損している患者が中程度以上のCYP3A阻害剤を併用　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
（表終了）
うつ病・うつ状態（既存治療で効果不十分時のみ）
3. 本剤は選択的セロトニン再取り込み阻害剤，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤又はミルタザピンと併用（本剤単独投与での有効性は未確認）。
4. 本剤投与による副作用（アカシジア，遅発性ジスキネジア等の錐体外路症状等）を考慮し，本剤の投与量及び投与期間は必要最小限とする。
5. 臨床試験の有効性・安全性を熟知し，本剤2mgへの増量の要否を慎重に判断。本剤2mgへの増量を考慮する時は，本剤1mg投与開始後6週間を目処に本剤2mgへの増量の要否を検討（臨床試験では，本剤1mg群と2mg群で有効性は同程度で，本剤2mg群は本剤1mg群と比べアカシジア等の錐体外路症状の発現割合は高くなる傾向）。
6. 本剤2mgへの増量後はより頻回に観察し，錐体外路症状等の副作用発現に注意。副作用が認められたら投与中止等，適切な処置を行う。増量後は，6週間を目処に本剤2mgの投与継続の要否を検討し，効果が期待できない時は漫然と投与継続しない。
7. 本剤と中程度以上のCYP2D6阻害剤（キニジン，パロキセチン等）及び中程度以上のCYP3A阻害剤（イトラコナゾール，クラリスロマイシン等）を併用時等は，本剤の血漿中濃度が上昇，これらの薬剤との併用は避ける。やむを得ず併用時は，下表を参考に用法・用量の調節を行う。
（参考）
（表開始）
1日1回1mgに相当する用法・用量　1日1回2mgに相当する用法・用量
強いCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回0．5mg　2日に1回　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
強いCYP2D6阻害剤・中程度のCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回0．5mg　2日に1回　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
中程度のCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用　1回0．5mg　2日に1回　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
CYP2D6の活性が欠損している患者が中程度以上のCYP3A阻害剤を併用　1回0．5mg　2日に1回　1回1mg　2日に1回又は1回0．5mg　1日1回
（表終了）

アルツハイマー型認知症に伴う焦燥感，易刺激性，興奮に起因する，過活動又は攻撃的言動
8. 本剤投与による副作用（アカシジア，遅発性ジスキネジア等の錐体外路症状，誤嚥性肺炎等）を考慮し，本剤の投与量及び投与期間は必要最小限とする。
9. 臨床試験の有効性・安全性を熟知し，本剤2mgへの増量の要否を慎重に判断（臨床試験では，本剤1mg群と2mg群のいずれもプラセボ群への優越性が検証された。本剤2mg群では本剤1mg群と比べ錐体外路症状の発現割合は高くなる傾向）。
10. 本剤2mgへの増量後はより頻回に観察し，副作用（アカシジア，遅発性ジスキネジア等の錐体外路症状，誤嚥性肺炎等）発現に注意。副作用が認められたら投与中止等，適切な処置を行う。
11. 投与開始10週間後までを目途に本剤投与により効果なければ，投与中止し治療法を再考。投与開始10週間後までの患者の状態に基づき投与継続を判断時でも，副作用（アカシジア，遅発性ジスキネジア等の錐体外路症状，誤嚥性肺炎等）を考慮し，本剤を漫然投与せず投与期間は必要最小限とする。本剤の24週間を超える継続投与の安全性は未確立。
12. 本剤と中程度以上のCYP2D6阻害剤（キニジン，パロキセチン等）及び／又は中程度以上のCYP3A阻害剤（イトラコナゾール，クラリスロマイシン等）を併用時等は，本剤の血漿中濃度が上昇，これらの薬剤との併用は避ける。やむを得ず併用時は，下表を参考に用法・用量の調節を行う。
（参考）
（表開始）
1日1回1mgに相当する用法・用量 1日1回2mgに相当する用法・用量
強いCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれかを併用 1回0．5mg 1日1回 1回1mg 1日1回
中程度のCYP2D6阻害剤・中程度のCYP3A阻害剤のいずれも併用 1回0．5mg 1日1回 1回1mg 1日1回
CYP2D6の活性が欠損している患者 1回0．5mg 1日1回 1回1mg 1日1回
強いCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用 1回0．5mg 2日に1回 1回0．5mg 1日1回
強いCYP2D6阻害剤・中程度のCYP3A阻害剤のいずれも併用 1回0．5mg 2日に1回 1回0．5mg 1日1回
中程度のCYP2D6阻害剤・強いCYP3A阻害剤のいずれも併用 1回0．5mg 2日に1回 1回0．5mg 1日1回
CYP2D6の活性が欠損している患者が中程度以上のCYP3A阻害剤を併用 1回0．5mg 2日に1回 1回0．5mg 1日1回
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2. バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群（0．1%未満）（発熱，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，白血球数増加，血清CK上昇等），ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下，急性腎障害。
2. 遅発性ジスキネジア（0．1%未満）（口周部等の不随意運動）。
3. 麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
4. 横紋筋融解症（0．1%未満）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
5. 高血糖（0．6%），糖尿病性ケトアシドーシス（頻度不明），糖尿病性昏睡（頻度不明）（口渇，多飲，多尿，頻尿等），糖尿病の悪化。
6. 痙攣（0．1%未満）。
7. 無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．2%）。
8. 肺塞栓症（0．1%未満），深部静脈血栓症（0．1%未満）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系　不眠，頭痛，傾眠，激越，浮動性眩暈，鎮静 落ち着きのなさ，不安，悪夢，回転性眩暈，体位性眩暈，自殺念慮，精神病性障害，歯ぎしり，異常な夢，チック，無為，平衡障害，敵意，錯感覚，妄想，幻覚，幻聴，耳鳴，睡眠障害，勃起不全，パニック障害，抜毛癖，頭部動揺，衝動行為，頭部不快感，易刺激性，リビドー減退，気力低下，躁病，感情不安定，無感情，意識変容状態，知覚変容発作，離人感，注意力障害，感覚鈍麻，失神，下肢静止不能症候群，起立障害，構音障害
錐体外路症状 アカシジア 振戦，錐体外路障害，パーキンソン症候群，ジスキネジア，ジストニア，流涎，筋固縮，運動緩慢 筋骨格硬直，筋痙縮，精神運動亢進，眼球回転発作，嚥下障害
循環器　高血圧，心電図QT延長，起立性低血圧，徐脈，頻脈，不整脈，動悸，心室性期外収縮，第一度房室ブロック，右脚ブロック，心電図QRS群延長，心電図異常T波，末梢循環不良，低血圧
消化器　悪心，便秘，食欲亢進，食欲不振 口内乾燥，下痢，嘔吐，消化不良，腹痛，腹部不快感，腹部膨満，胃食道逆流性疾患，胃炎，排便回数増加，便潜血，歯肉痛，歯肉腫脹，口唇乾燥，裂肛，胃腸障害，口腔内不快感，唾液変性，口渇，過食，過小食
血液　白血球増加症，貧血，APTT延長，血小板減少，血小板増加

レキサルティOD錠2mg

1 神経系及び感覚器官用医薬品

症，グリコヘモグロビン増加，ヘモグロビン低下，好中球減少症，好中球増多，総蛋白減少，プロトロンビン時間延長
内分泌 高プロラクチン血症 月経異常，高インスリン血症，血中甲状腺刺激ホルモン増加，血中甲状腺刺激ホルモン減少，血中コルチコトロピン増加，甲状腺機能低下症，甲状腺機能亢進症，副腎皮質機能亢進症，遊離サイロキシン減少，血中コルチコトロピン減少，遊離サイロキシン増加，低プロラクチン血症，性腺機能低下，乳汁分泌障害，血中インスリン異常
泌尿器 尿潜血，尿閉，頻尿，蛋白尿，尿失禁，緊張性膀胱，排尿異常，尿中ケトン体陽性，血中尿素増加
肝臓 肝障害，AST上昇，ALT上昇，高ビリルビン血症，γ－GTP上昇，脂肪肝，肝酵素上昇，LDH上昇，AI－P上昇
過敏症 発疹，掻痒症，紅斑，湿疹，薬疹
皮膚 皮膚炎，ざ瘡，逆むけ，皮膚乾燥，多汗症，寝汗
代謝異常 CK上昇 糖尿病，脂質異常症，高尿酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，高カリウム血症，低リン血症，血中尿酸減少
呼吸器 肺炎，誤嚥性肺炎，気管支炎，咳嗽，鼻出血，息詰まり感，呼吸困難，口腔咽頭痛，副鼻腔うっ血 上咽頭炎
眼 霧視，眼乾燥，眼瞼痙攣，瞬目過多，流涙増加，結膜炎，眼瞼浮腫，眼瞼下垂，羞明
筋骨格系 筋肉痛，背部痛，顎痛，筋攣縮，筋緊張，頚部痛，四肢痛，関節硬直，筋力低下，姿勢異常，大腿骨骨折，脊柱変形
その他 体重増加 歩行障害 疲労，倦怠感，体重減少，ほてり，無力症，疼痛，不快感，灼熱感，性器出血，非心臓性胸痛，カンジダ症，真菌感染，悪寒，異常感，熱感，浮腫，異物感，脱水，活動性低下，転倒 体温調節障害
（表終了）

レスリン錠25（25mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179037F1029
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】トラゾドン塩酸塩
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD 販)シェリング・プラウ 販)日本オルガノン
【薬価】7.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】うつ病・うつ状態治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり．リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】成人 初期量 1日75～100mg 1日200mgまで増量 1日1～数回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，心室性期外収縮（各頻度不明）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
3．セロトニン症候群（頻度不明）（錯乱，発汗，反射亢進，ミオクロヌス，戦慄，頻脈，振戦，発熱，協調異常等）。
4．錯乱（頻度不明），せん妄（0．07%）。
5．麻痺性イレウス（0．03%），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
6．持続性勃起（頻度不明）（陰茎・陰核）。
7．無顆粒球症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 低血圧，動悸・頻脈 失神，徐脈，不整脈 高血圧，起立性低血圧
精神神経系 眠気，眩暈・ふらつき，頭痛・頭重，構音障害，振戦等のパーキンソン症状，頭がボーッとする，視調節障害（霧視，複視等），不眠，運動失調，躁転 痙攣，焦燥感，流涎，健忘，知覚障害，幻覚，運動過多，不安，見当識障害，口周囲不随意運動，集中力低下 興奮，妄想，性欲亢進，性欲減退，悪夢，怒り・敵意（攻撃的反応），異常感覚，インポテンス，協調運動障害，激越
過敏症 浮腫，発疹 掻痒感 眼瞼掻痒感
血液 白血球減少，貧血 白血球増多 溶血性貧血，血小板減少
消化器 口渇，便秘，悪心・嘔吐，食欲不振，腹痛 下痢，胃重感，嚥下障害，腹部膨満感，味覚異常 食欲亢進，胸やけ
肝臓 肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP上昇等）
その他 倦怠感，ほてり，脱力感，排尿障害 鼻閉，関節痛，筋肉痛，発汗，眼精疲労，耳鳴，尿失禁，頻尿，射精障害，月経異常，乳房痛，胸痛，体重減少，体重増加，疲労，悪寒，血清脂質増加 息切れ，血尿，乳汁分泌，眼球充血，低ナトリウム血症，発熱
（表終了）

1．1．9 その他の中枢神経系用薬

アリセプトD錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190012F6028
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】130.2円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】アルツハイマー型，レビー小体型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
効能共通
1．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の進行を抑制する成績はない。
2．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
4．アルツハイマー型認知症のみ使用。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
5．認知症治療に精通し，臨床成績の項を熟知した医師の指導のもとで，臨床診断基準に基づき，症状観察や検査等でレビー小体型認知症のみ使用。
6．精神症状・行動障害，全般臨床症状への有効性は未確認。
【用法用量】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。
高度のアルツハイマー型認知症 1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。適宜減量。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。5mgまで減量できる。
投与開始12週間後までを目安に，認知機能検査，患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等で有効性評価を行い，認知機能，精神症状・行動障害，日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は，投与中止。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断時でも，定期的に有効性評価を行い，投与継続可否を判断。
注意
1．3mg／日投与は，消化器系副作用を抑える目的なので，1～2週間を超えて使用しない。
2．10mg／日に増量時は，消化器系副作用に注意しながら投与。
3．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長（0．1～1%未満），心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，洞不全症候群，洞停止，高度徐脈（各頻度不明），心ブロック（洞房ブロック，房室ブロック），失神（各0．1～1%未満），心停止。
2．心筋梗塞，心不全（各0．1%未満）。
3．消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）（0．1%未満），十二指腸潰瘍穿孔（頻度不明），消化管出血（0．1%未満）。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1～1%未満），黄疸（頻度不明）。
5．脳性発作（てんかん，痙攣等）（0．1～1%未満），脳出血，脳血管障害（各0．1%未満）。
6．雛体外路障害（アルツハイマー型認知症 0．1～1%未満，レビー小体型認知症 9．5%）（寡動，運動失調，ジスキネジア，ジストニア，振戦，不随意運動，歩行異常，姿勢異常，言語障害等）。
7．悪性症候群（0．1%未満）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
9．呼吸困難（0．1%未満）。
10．急性膵炎（0．1%未満）。
11．急性腎障害（0．1%未満）。
12．原因不明の突然死（0．1%未満）。
13．血小板減少（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～3%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感

1 神経系及び感覚器官用医薬品

消化器 食欲不振，嘔気，嘔吐，下痢 腹痛，便秘，流涎 嚥下障害，便失禁
精神神経系 興奮，不穏，不眠，眠気，易怒性，幻覚，攻撃性，せん妄，妄想，多動，抑うつ，無感情 リビドー亢進，多弁，躁状態，錯乱 悪夢
中枢・末梢神経系 徘徊，振戦，頭痛，眩暈 昏迷
肝臓 LDH，AST，ALT，γ－GTP，AlーPの上昇
循環器 動悸，血圧上昇，血圧低下，上室性期外収縮，心室性期外収縮 心房細動
泌尿器 BUNの上昇，尿失禁，頻尿 尿閉
血液 白血球減少，ヘマトクリット値減少，貧血
その他 CK，総コレステロール，トリグリセライド，アミラーゼ，尿アミラーゼの上昇，倦怠感，むくみ，転倒，筋痛，体重減少 顔面紅潮，脱力感，胸痛 発汗，顔面浮腫，発熱，縮瞳
（表終了）

アリセプトD錠3mg（3mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190012F3029
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】51.2円/1T
【薬価収載日】2004/06/25
【標榜薬効】アルツハイマー型，レビー小体型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
効能共通
1．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の進行を抑制する成績はない。
2．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
4．アルツハイマー型認知症のみ使用。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
5．認知症治療に精通し，臨床成績の項を熟知した医師の指導のもとで，臨床診断基準に基づき，症状観察や検査等でレビー小体型認知症のみ使用。
6．精神症状・行動障害，全般臨床症状への有効性は未確認。
【用法用量】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。
高度のアルツハイマー型認知症 1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。適宜減量。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。5mgまで減量できる。
投与開始12週間後までを目安に，認知機能検査，患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等で有効性評価を行い，認知機能，精神症状・行動障害，日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は，投与中止。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断時でも，定期的に有効性評価を行い，投与継続可否を判断。
注意
1．3mg／日投与は，消化器系副作用を抑える目的なので，1～2週間を超えて使用しない。
2．10mg／日に増量時は，消化器系副作用に注意しながら投与。
3．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長（0．1～1%未満），心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，洞不全症候群，洞停止，高度徐脈（各頻度不明），心ブロック（洞房ブロック，房室ブロック），失神（各0．1～1%未満），心停止。
2．心筋梗塞，心不全（各0．1%未満）。
3．消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）（0．1%未満），十二指腸潰瘍穿孔（頻度不明），消化管出血（0．1%未満）。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1～1%未満），黄疸（頻度不明）。
5．脳性発作（てんかん，痙攣等）（0．1～1%未満），脳出血，脳血管障害（各0．1%未満）。
6．錐体外路障害（アルツハイマー型認知症 0．1～1%未満，レビー小体型認知症 9．5%）（寡動，運動失調，ジスキネジア，ジストニア，振戦，不随意運動，歩行異常，姿勢異常，言語障害等）。
7．悪性症候群（0．1%未満）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
9．呼吸困難（0．1%未満）。
10．急性膵炎（0．1%未満）。
11．急性腎障害（0．1%未満）。
12．原因不明の突然死（0．1%未満）。
13．血小板減少（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～3%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
消化器 食欲不振，嘔気，嘔吐，下痢 腹痛，便秘，流涎 嚥下障害，便失禁
精神神経系 興奮，不穏，不眠，眠気，易怒性，幻覚，攻撃性，せん妄，妄想，多動，抑うつ，無感情 リビドー亢進，多弁，躁状態，錯乱 悪夢
中枢・末梢神経系 徘徊，振戦，頭痛，眩暈 昏迷
肝臓 LDH，AST，ALT，γ－GTP，AlーPの上昇
循環器 動悸，血圧上昇，血圧低下，上室性期外収縮，心室性期外収縮 心房細動
泌尿器 BUNの上昇，尿失禁，頻尿 尿閉
血液 白血球減少，ヘマトクリット値減少，貧血
その他 CK，総コレステロール，トリグリセライド，アミラーゼ，尿アミラーゼの上昇，倦怠感，むくみ，転倒，筋痛，体重減少 顔面紅潮，脱力感，胸痛 発汗，顔面浮腫，発熱，縮瞳
（表終了）

アリセプトD錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190012F4025
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】76.1円/1T
【薬価収載日】2004/06/25
【標榜薬効】アルツハイマー型，レビー小体型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
効能共通
1．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の進行を抑制する成績はない。
2．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
4．アルツハイマー型認知症のみ使用。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
5．認知症治療に精通し，臨床成績の項を熟知した医師の指導のもとで，臨床診断基準に基づき，症状観察や検査等でレビー小体型認知症のみ使用。
6．精神症状・行動障害，全般臨床症状への有効性は未確認。
【用法用量】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。
高度のアルツハイマー型認知症 1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。適宜減量。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。5mgまで減量できる。
投与開始12週間後までを目安に，認知機能検査，患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等で有効性評価を行い，認知機能，精神症状・行動障害，日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は，投与中止。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断時でも，定期的に有効性評価を行い，投与継続可否を判断。
注意
1．3mg／日投与は，消化器系副作用を抑える目的なので，1～2週間を超えて使用しない。
2．10mg／日に増量時は，消化器系副作用に注意しながら投与。
3．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長（0．1～1%未満），心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，洞不全症候群，洞停止，高度徐脈（各頻度不明），心ブロック（洞房ブロック，房室ブロック），失神（各0．1～1%未満），心停止。
2．心筋梗塞，心不全（各0．1%未満）。
3．消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）（0．1%未満），十二指腸潰瘍穿孔（頻度不明），消化管出血（0．1%未満）。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1～1%未満），黄疸（頻度不

1 神経系及び感覚器官用医薬品

明)。
5. 脳性発作(てんかん, 痙攣等)(0. 1～1%未満), 脳出血, 脳血管障害(各0. 1%未満)。
6. 錐体外路障害(アルツハイマー型認知症 0. 1～1%未満, レビー小体型認知症 9. 5%)(寡動, 運動失調, ジスキネジア, ジストニア, 振戦, 不随意運動, 歩行異常, 姿勢異常, 言語障害等)。
7. 悪性症候群(0. 1%未満)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
9. 呼吸困難(0. 1%未満)。
10. 急性膵炎(0. 1%未満)。
11. 急性腎障害(0. 1%未満)。
12. 原因不明の突然死(0. 1%未満)。
13. 血小板減少(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
消化器 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 下痢 腹痛, 便秘, 流涎 嚥下障害, 便失禁
精神神経系 興奮, 不穏, 不眠, 眠気, 易怒性, 幻覚, 攻撃性, せん妄, 妄想, 多動, 抑うつ, 無感情 リビドー亢進, 多弁, 躁状態, 錯乱 悪夢
中枢・末梢神経系 徘徊, 振戦, 頭痛, 眩暈 昏迷
肝臓 LDH, AST, ALT, γ－GTP, AlーPの上昇
循環器 動悸, 血圧上昇, 血圧低下, 上室性期外収縮, 心室性期外収縮 心房細動
泌尿器 BUNの上昇, 尿失禁, 頻尿 尿閉
血液 白血球減少, ヘマトクリット値減少, 貧血
その他 CK, 総コレステロール, トリグリセライド, アミラーゼ, 尿アミラーゼの上昇, 倦怠感, むくみ, 転倒, 筋痛, 体重減少 顔面紅潮, 脱力感, 胸痛 発汗, 顔面浮腫, 発熱, 縮瞳
(表終了)

アリドネパッチ27. 5mg(27. 5mg1枚)

外 外用 流通
劇

【YJコード】1190701S1023
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル
【メーカー】製)帝國製薬 販)興和
【薬価】286.4円/1枚
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
2. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
4. アルツハイマー型認知症のみ使用。
【用法用量】軽度～中等度のアルツハイマー型認知症 1回27. 5mg 1日1回 貼付。
高度のアルツハイマー型認知症 27. 5mg 4週間以上経過後 55mgに増量。症状により1日1回27. 5mgに減量できる。
背部, 上腕部, 胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。
注意
1. 55mg／日に増量する場合は, 消化器系副作用に注意しながら使用すること。
2. 他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬(ドネペジル塩酸塩, リバスチグミン, ガランタミン)と併用しない。
3. 医療従事者, 家族等の管理のもと使用。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. QT延長(1～3%未満), 心室頻拍(Torsades de pointes含む), 心室細動, 洞不全症候群, 洞停止, 高度徐脈(各頻度不明), 心ブロック(洞房ブロック, 房室ブロック)(0. 1～1%未満), 失神(頻度不明), 心停止。
2. 心筋梗塞, 心不全(各頻度不明)。
3. 消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍), 十二指腸潰瘍穿孔, 消化管出血(各頻度不明)。
4. 肝炎(頻度不明), 肝機能障害(0. 1～1%未満), 黄疸(頻度不明)。
5. 脳性発作(てんかん, 痙攣等), 脳出血, 脳血管障害(各頻度不明)。
6. 錐体外路障害(頻度不明)(寡動, 運動失調, ジスキネジア, ジストニア, 振戦, 不随意運動, 歩行異常, 姿勢異常, 言語障害等)。
7. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CKの上昇, 血中・尿中ミオグロビンの上昇等), 急性腎障害。
9. 呼吸困難(頻度不明)。
10. 急性膵炎(頻度不明)。
11. 急性腎障害(頻度不明)。
12. 原因不明の突然死(頻度不明)。
13. 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
適用部位障害 適用部位掻痒感(24. 9%), 適用部位紅斑(24. 3%), 接触皮膚炎(12. 6%) 適用部位小水疱, 適用部位丘疹, 適用部位変色 適用部位浮腫, 適用部位皮膚剥脱, 適用部位糜爛, 適用部位発疹, 適用部位乾燥, 適用部位湿疹, 適用部位蕁麻疹, 適用部位ざ瘡
皮膚 痒疹, 湿疹 発疹, 掻痒感
消化器 下痢, 食欲不振 胃炎, 嘔気, 嘔吐, 腹部不快感, 消化不良, 胃食道逆流性疾患, 軟便 腹痛, 便秘, 流涎, 嚥下障害, 便失禁
精神神経系 不眠 易怒性, 攻撃性, 抑うつ, 易刺激性 興奮, 不穏, 眠気, 幻覚, せん妄, 妄想, 多動, 無感情, リビドー亢進, 多弁, 躁状態, 錯乱, 悪夢
中枢・末梢神経系 眩暈 徘徊, 振戦, 頭痛, 昏迷
肝臓 ALT, γ－GTPの上昇 LDH, AST, AlーPの上昇
循環器 心室性期外収縮, 徐脈, 心筋虚血, 結節性調律, 不整脈, 上室性期外収縮, 頻脈, 血圧上昇 動悸, 血圧低下, 心房細動
泌尿器 夜間頻尿 BUNの上昇, 尿失禁, 頻尿, 尿閉
血液 貧血 白血球減少, ヘマトクリット値減少
その他 CK, トリグリセライドの上昇, 体重減少, 体重増加, 湿性咳嗽, 鼻漏 総コレステロール, アミラーゼ, 尿アミラーゼの上昇, 倦怠感, むくみ, 転倒, 筋痛, 顔面紅潮, 脱力感, 胸痛, 発汗, 顔面浮腫, 発熱, 縮瞳
(表終了)

アリドネパッチ55mg(55mg1枚)

外 外用 流通
劇

【YJコード】1190701S2020
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル
【メーカー】製)帝國製薬 販)興和
【薬価】437.6円/1枚
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
2. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
4. アルツハイマー型認知症のみ使用。
【用法用量】軽度～中等度のアルツハイマー型認知症 1回27. 5mg 1日1回 貼付。
高度のアルツハイマー型認知症 27. 5mg 4週間以上経過後 55mgに増量。症状により1日1回27. 5mgに減量できる。
背部, 上腕部, 胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。
注意
1. 55mg／日に増量する場合は, 消化器系副作用に注意しながら使用すること。
2. 他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬(ドネペジル塩酸塩, リバスチグミン, ガランタミン)と併用しない。
3. 医療従事者, 家族等の管理のもと使用。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. QT延長(1～3%未満), 心室頻拍(Torsades de pointes含む), 心室細動, 洞不全症候群, 洞停止, 高度徐脈(各頻度不明), 心ブロック(洞房ブロック, 房室ブロック)(0. 1～1%未満), 失神(頻度不明), 心停止。
2. 心筋梗塞, 心不全(各頻度不明)。
3. 消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍), 十二指腸潰瘍穿孔, 消化管出血(各頻度不明)。
4. 肝炎(頻度不明), 肝機能障害(0. 1～1%未満), 黄疸(頻度不明)。
5. 脳性発作(てんかん, 痙攣等), 脳出血, 脳血管障害(各頻度不明)。
6. 錐体外路障害(頻度不明)(寡動, 運動失調, ジスキネジア, ジストニア, 振戦, 不随意運動, 歩行異常, 姿勢異常, 言語障害等)。
7. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオ

1 神経系及び感覚器官用医薬品

グロビン尿を伴う腎機能の低下)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CKの上昇, 血中・尿中ミオグロビンの上昇等), 急性腎障害。
9. 呼吸困難(頻度不明)。
10. 急性膵炎(頻度不明)。
11. 急性腎障害(頻度不明)。
12. 原因不明の突然死(頻度不明)。
13. 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
適用部位障害 適用部位掻痒感(24. 9%), 適用部位紅斑(24. 3%), 接触皮膚炎(12. 6%) 適用部位小水疱, 適用部位丘疹, 適用部位変色 適用部位浮腫, 適用部位皮膚剥脱, 適用部位糜爛, 適用部位発疹, 適用部位乾燥, 適用部位湿疹, 適用部位蕁麻疹, 適用部位ざ瘡
皮膚　痒疹, 湿疹 発疹, 掻痒感
消化器　下痢, 食欲不振 胃炎, 嘔気, 嘔吐, 腹部不快感, 消化不良, 胃食道逆流性疾患, 軟便 腹痛, 便秘, 流涎, 嚥下障害, 便失禁
精神神経系　不眠 易怒性, 攻撃性, 抑うつ, 易刺激性 興奮, 不穏, 眠気, 幻覚, せん妄, 妄想, 多動, 無感情, リビドー亢進, 多弁, 躁状態, 錯乱, 悪夢
中枢・末梢神経系　眩暈 徘徊, 振戦, 頭痛, 昏迷
肝臓　ALT, γ－GTPの上昇 LDH, AST, Al－Pの上昇
循環器　心室性期外収縮, 徐脈, 心筋虚血, 結節性調律, 不整脈, 上室性期外収縮, 頻脈, 血圧上昇 動悸, 血圧低下, 心房細動
泌尿器　夜間頻尿 BUNの上昇, 尿失禁, 頻尿, 尿閉
血液　貧血 白血球減少, ヘマトクリット値減少
その他　CK, トリグリセライドの上昇, 体重減少, 体重増加, 湿性咳嗽, 鼻漏 総コレステロール, アミラーゼ, 尿アミラーゼの上昇, 倦怠感, むくみ, 転倒, 筋痛, 顔面紅潮, 脱力感, 胸痛, 発汗, 顔面浮腫, 発熱, 縮瞳
(表終了)

イクセロンパッチ13. 5mg(13. 5mg1枚)

外　外用　流通
劇

【YJコード】1190700S3021
【薬効分類】1. 1. 9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】リバスチグミン
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】169.9円/1枚
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症のみ使用。
2. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
5. 使用が適切か, 下記を理解した上で慎重に判断。
(1). 国内臨床試験では, 貼付により高頻度に適用部位の皮膚症状が認められている。
(2). 維持量に到達するまで12週間以上を要する。
【用法用量】成人　リバスチグミン　1回4. 5mgから開始　1日1回　4週ごとに4. 5mgずつ増量　維持量　1回18mg　1日1回　貼付。状態に応じ　1日1回9mgを開始量とし, 4週後に18mgに増量することもできる。背部, 上腕部, 胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し　24時間ごと　貼りかえ。
注意
1. リバスチグミン　1日1回9mgより投与を開始し, 4週後に1日1回18mgまで増量する方法では, 副作用(消化器系障害(悪心, 嘔吐等))の発現を考慮し, 本剤の忍容性が良好な時に当該漸増法での投与の可否を判断。
2. 本剤の慎重投与が推奨される患者は, リバスチグミン　1日1回4. 5mgより投与開始し, 4週ごとに4. 5mgずつ1日1回18mgまで増量。
3. 1日18mg未満は漸増又は一時的な減量を目的とした用量なので, 維持量である18mgまで増量。
4. 維持量に到達するまでは, 1日量として18mgまでの範囲で適宜増減が可能。消化器系障害(悪心, 嘔吐等)発現時, 減量か症状が消失するまで休薬。休薬期間が4日程度の場合, 休薬前と同じ用量又は休薬前に忍容であった用量で投与再開。それ以外の場合は本剤の開始量(4. 5mg又は9mg)で投与再開。再開後は, 再開時の用量を2週間以上投与し, 忍容性が良好であることを確認後, 減量前の用量までは2週間以上の間隔で増量。
5. 1日1回につき1枚のみ貼付。
6. 他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬(ドネペジル等)と併用しない。
7. 医療従事者又は介護者等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・カルバメート系誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 狭心症(0. 3%), 心筋梗塞(0. 3%), 徐脈(0. 8%), 房室ブロック(0. 2%), 洞不全症候群(頻度不明), QT延長(0. 6%)。
2. 脳卒中(0. 3%)(一過性脳虚血発作, 脳出血, 脳梗塞含む), 痙攣発作(0. 2%)。
3. 食道破裂を伴う重度の嘔吐, 胃潰瘍(各頻度不明), 十二指腸潰瘍, 胃腸出血(各0. 1%)。
4. 肝炎(頻度不明)。
5. 失神(0. 1%)。
6. 幻覚(0. 2%), 激越(0. 1%), せん妄, 錯乱(各頻度不明)。
7. 脱水(0. 4%)(嘔吐, 下痢の持続)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 － － 尿路感染 －
血液・リンパ系障害 － － 貧血, 好酸球増加症 －
代謝・栄養障害 食欲減退 － 糖尿病 －
精神障害 － － 不眠症, うつ病, 落ち着きのなさ 不安, 攻撃性, 悪夢
神経系障害 － 浮動性眩暈, 頭痛 傾眠, 振戦 －
心臓障害 － － 上室性期外収縮, 頻脈, 心房細動 －
血管障害 － 高血圧 － －
胃腸障害 嘔吐, 悪心 下痢, 腹痛, 胃炎 消化不良 膵炎
皮膚・皮下組織障害 接触性皮膚炎 － 発疹, 湿疹, 紅斑, 掻痒症, 多汗症, アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹, 水疱
腎・尿路障害 － 血尿 頻尿, 蛋白尿, 尿失禁 －
全身障害 － － 疲労, 無力症, 倦怠感 －
適用部位障害 適用部位紅斑, 適用部位掻痒感, 適用部位浮腫 適用部位皮膚剥脱, 適用部位疼痛, 適用部位亀裂, 適用部位皮膚炎 適用部位反応, 適用部位腫脹, 適用部位刺激感 適用部位過敏反応
臨床検査 － 体重減少, 血中アミラーゼ増加 肝機能検査異常, コリンエステラーゼ減少 －
その他 － － 転倒・転落, 末梢性浮腫 縮瞳
(表終了)

ガランタミンOD錠4mg「日医工」(4mg1錠)

外　内服　後発　流通
劇

【YJコード】1190019F4108
【薬効分類】1. 1. 9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】ガランタミン臭化水素酸塩
【先発品】レミニールOD錠4mg
【メーカー】製)エルメッド　販)日医工
【薬価】18.4円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症のみ使用。
2. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
【用法用量】成人　1回4mg　1日8mg　1日2回から開始　内服。
4週間後　1回8mg　1日16mg　1日2回に増量。
1回12mg　1日24mg　1日2回まで。増量時は変更前の用量で4週間以上投与後。
注意
1. 1日8mgは, 消化器系副作用を抑える目的なので, 4週間を超えない。
2. 中等度の肝障害(Child－Pugh分類を肝機能の指標とした中等度(B))では, 1回4mg　1日1回から開始し最低1週間投与後, 1回4mg　1日8mg　1日2回を4週間以上投与し, 増量。1日16mgまで。
3. 副作用軽減のため, 食後に投与。
4. 医療従事者, 家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 失神(0. 1%), 徐脈(1. 1%), 心ブロック(1. 3%), QT延長(0. 9%)。
2. 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)(発熱, 紅斑, 多数の小膿疱等)。
3. 肝炎(頻度不明)。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 鼻咽頭炎 膀胱炎, 尿路感染
血液・リンパ系障害 貧血
過敏症 発疹, 掻痒症, 顔面浮腫 薬疹, 全身性皮疹, 蕁麻疹
代謝・栄養障害 食欲不振, 食欲減退 脱水
精神障害 不眠症 激越, 怒り, 攻撃性, 不安, せん妄, 落ち着きのなさ, 幻覚 うつ病, 幻視, 幻聴
神経系障害 頭痛, 浮動性眩暈 意識消失, 傾眠, 痙攣, 体位性眩暈, 振戦, アルツハイマー型認知症の悪化, パーキンソニズム 嗜眠, 味覚異常, 過眠症, 錯感覚, 錐体外路障害
眼障害 霧視
耳・迷路障害 耳鳴
心臓障害 心室性期外収縮 上室性期外収縮, 心房細動, 動悸
血管障害 高血圧 低血圧 潮紅
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 咳嗽
胃腸障害 悪心(14．9%), 嘔吐(12．4%), 下痢 腹痛, 便秘, 上腹部痛, 胃不快感 胃炎, 腹部膨満, 消化不良, 胃潰瘍, 腸炎, 萎縮性胃炎, 腹部不快感, レッチング
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 湿疹, 皮下出血, 多汗症, 紅斑
筋骨格系・結合組織障害 背部痛, 筋力低下 筋痙縮
腎・尿路障害 頻尿, 尿失禁, 血尿
全身障害・投与局所様態 倦怠感, 異常感 無力症, 発熱, 胸痛, 疲労, 歩行障害
臨床検査 体重減少, 肝機能検査値異常, CK増加, 尿中白血球陽性, 血圧上昇, 血中ブドウ糖増加 尿中血陽性, 血中トリグリセリド増加, 尿中赤血球陽性, 白血球数増加, 血中コレステロール増加, LDH増加, 血中カリウム減少, 血圧低下, 血中尿酸増加, 心電図異常, 総蛋白減少
傷害, 中毒, 処置合併症 転倒・転落
(表終了)

グラマリール錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1190004F1021
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】チアプリド塩酸塩
【メーカー】製)日医工 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】12.5円/1T
【標榜薬効】チアプリド製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為, 精神興奮, 徘徊, せん妄の改善
2．特発性ジスキネジア, パーキンソニズムに伴うジスキネジア
【用法用量】成人 1日75～150mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
パーキンソニズムに伴うジスキネジア
1回25mgから開始 1日1回 内服。
注意
効能共通
1．高齢者 低用量(例 1回25mg, 1日1～2回)から開始する等慎重投与。
脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為, 精神興奮, 徘徊, せん妄の改善
2．投与期間は, 臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し, 投与6週で効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群(0．1%未満)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下), 高熱の持続, 意識障害, 呼吸困難, 循環虚脱, 脱水症状, 急性腎障害, 死亡。
2．昏睡(0．1～5%未満)。
3．痙攣(0．1～5%未満)。
4．QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各0．1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
循環器 不整脈, 頻脈, 胸内苦悶, 血圧上昇, 血圧低下
錐体外路症状 パーキンソン症候群(振戦, 筋強剛, 運動減少, 流涎, 姿勢・歩行障害等), ジスキネジア, 言語障害, 咬痙, アカシジア ジストニア, 嚥下障害
内分泌 乳汁分泌, 女性化乳房, 月経異常
精神神経系 眠気, 不眠, 不安・焦燥, 抑うつ, ぼんやり, 性欲亢進
自律神経系 眩暈・ふらつき, 口渇, 頭痛・頭重, 脱力・倦怠感, しびれ, 排尿障害, 尿失禁, 耳鳴
消化器 悪心・嘔吐, 腹痛・胃部不快感, 食欲不振, 便秘, 口内炎, 下痢 食欲亢進, 腹部膨満感
肝臓 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇 黄疸
過敏症 発疹, 掻痒感
その他 発熱, 眼調節障害, ほてり, 貧血
(表終了)

セレジストOD錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1190014F2021
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】タルチレリン水和物
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】651.3円/1T
【薬価収載日】2009/09/18
【標榜薬効】脊髄小脳変性症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脊髄小脳変性症の運動失調の改善
注意
運動失調を呈する類似疾患の判別のため, 病歴の聴取, 全身の理学的所見による確定診断の上投与。
【用法用量】成人 1回5mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣(1%未満)。
2．悪性症候群(1%未満)(発熱, 無動緘黙, 筋強剛, 脱力, 頻脈, 血圧の変動等, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
3．肝機能障害(AST, ALT, AI－P, LDH, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各1%未満)。
4．ショック様症状(頻度不明)(一過性の血圧低下, 意識喪失等)。
5．血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
血液 赤血球減少, ヘモグロビン減少
循環器 血圧・脈拍数の変動, 動悸
消化器 悪心, 嘔吐, 下痢, 食欲不振, 胃部不快感, 胃炎, 腹痛, 口渇, 便秘 舌炎
肝臓 AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDH, トリグリセリド, 総コレステロールの上昇
腎臓 BUNの上昇
精神神経系 頭痛, 眩暈, ふらつき, 振戦 しびれ, 眠気, 頭がボーッとする, 不眠
過敏症 発疹, 掻痒
内分泌 TSHの変動, 甲状腺ホルモン(T3, T4), プロラクチンの上昇 女性化乳房
その他 CKの上昇, 血糖上昇, 熱感, 倦怠感, 頻尿 脱毛
(表終了)

デエビゴ錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1190027F2029
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】レンボレキサント
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】71.3円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【標榜薬効】不眠症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】不眠症
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 就寝直前 内服。適宜増減, 1回10mg 1日1回まで。
注意
1．効果不十分で, 増量時は, 1日1回10mgまで。増量時は, 傾眠等の副作用が増加する可能性, 慎重投与, 症状の改善に伴い減量。
2．就寝の直前に服用。睡眠途中で起床して活動する時は服用しない。
3．入眠効果の発現が遅れるおそれ, 食事と同時又は食直後の服用は避ける(食後投与で, 投与直後のレンボレキサントの血漿中濃度低下の可能性)。
4．CYP3Aを阻害する薬剤との併用により, レンボレキサントの血漿中濃度が上昇し, 傾眠等の副作用増強のおそれ。CYP3Aを中程度・強力に阻害する薬剤(フルコナゾール, エリスロマイシン, ベラパミル, イトラコナゾール, クラリスロマイシン等)との併用は, 状態を慎重に観察し, 投与可否を判断。併用時は1日1回2．5mg。
5．中等度肝機能障害 レンボレキサントの血漿中濃度が上昇するため, 1日1回5mgまで。
6．他の不眠症治療薬と併用時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の肝機能障害。

1　神経系及び感覚器官用医薬品

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
神経系障害 傾眠（10．7%），頭痛（4．2%） 浮動性眩暈，睡眠時麻痺
注意力障害
精神障害　異常な夢，悪夢 幻覚，錯乱状態 睡眠時随伴症
循環器　動悸
消化器　悪心 口内乾燥，腹痛
肝臓　ALT上昇
感覚器　回転性眩暈，耳鳴 眼痛
その他 倦怠感（3．1%） 体重増加 食欲亢進，多汗症，血中トリグリセリド上昇，異常感，転倒，筋肉痛
（表終了）

メラトベル顆粒小児用0．2%（0．2%1g）

外　内服　流通

【YJコード】1190028D1026
【薬効分類】1．1．9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】メラトニン
【メーカー】製)ノーベルファーマ
【薬価】207.7円/1g
【薬価収載日】2020/05/20
【標榜薬効】メラトニン受容体作動性入眠改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児期の神経発達症に伴う入眠困難の改善
注意
1．神経発達症の診断は，米国精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル第5版に基づき実施し，基準を満たす時にのみ投与。
2．入床を一定の時間帯にする等の睡眠衛生指導や，可能な時に行動療法的治療を実施し，入眠潜時の延長のある患者に投与。
3．6歳未満・16歳以上の有効性・安全性は未確立（当該年齢の臨床試験は未実施）。
【用法用量】小児　1回1mg　1日1回　就寝前　内服。適宜増減，1日1回4mgまで。
注意
1．就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して作業等をする時は服用しない。
2．増量時は睡眠状況を観察し，1週間以上あける。
3．最高血中濃度低下のおそれ，食事と同時又は食直後の服用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．フルボキサミンマレイン酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満
代謝・栄養　高カリウム血症
精神神経系 傾眠（4．2%），頭痛 易刺激性，ねごと，激越，鎮静，落ち着きのなさ，睡眠障害
呼吸器　いびき
消化器　悪心，腹痛，口内炎
筋・骨格　肩こり
腎・尿路　蛋白尿，血尿
一般・全身　疲労，倦怠感
臨床検査 肝機能検査値上昇 好酸球数増加，尿pH上昇，尿比重増加，尿中ウロビリノーゲン増加，AST増加
（表終了）

ラジカット内用懸濁液2．1%（2．1%1mL）

外　内服　流通

【YJコード】1190032S1021
【薬効分類】1．1．9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】エダラボン
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】2744円/1mL
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】フリーラジカルスカベンジャー

■効能効果・用法用量
【効能効果】筋萎縮性側索硬化症（ALS）の機能障害の進行抑制
注意
1．臨床試験に組み入れられたALS重症度分類，呼吸機能等の背景，試験ごとの結果を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
2．ALS重症度分類4度以上，努力性肺活量が理論正常値の70%未満に低下している患者では投与経験が少なく，有効性・安全性は未確立。リスクとベネフィットを考慮して慎重に判断。
【用法用量】成人　1回5mL（エダラボン　105mg）　1日1回　空腹時　内服。
本剤投与期と休薬期を組み合わせた28日間を1クールとし，繰り返す。第1クールは14日間連日投与する投与期の後14日間休薬し，第2クール以降は14日間のうち10日間投与する投与期の後14日間休薬する。
注意
食事により血漿中濃度が低下するため，起床時等の8時間絶食後に服用し，服用後最低1時間は水以外の飲食は避ける。
8時間絶食ができない時，低脂肪食では摂取後4時間以上，軽食では摂取後2時間以上あけて，服用可能。高脂肪食では摂取後8時間以上あけて服用。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な腎機能障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．急性腎障害（頻度不明），ネフローゼ症候群（頻度不明）（腎機能低下，乏尿等）。
2．劇症肝炎（頻度不明）等の重篤な肝炎，肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AI－P，γ－GTP，LDH，ビリルビン等の著しい上昇），黄疸（頻度不明）。
3．血小板減少（頻度不明），顆粒球減少（頻度不明）。
4．DIC（頻度不明）。
5．急性肺障害（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常）。
6．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
7．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血圧低下，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　発疹，腫脹，紅斑（多形滲出性紅斑等），発赤，膨疹，掻痒感
血液　赤血球減少，白血球増多，白血球減少，ヘマトクリット値減少，ヘモグロビン減少，血小板増加，血小板減少
肝臓 ALT上昇，AST上昇 総ビリルビン値上昇，LDH上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，ビリルビン尿，ウロビリノーゲン陽性
腎臓　BUN上昇，血清尿酸上昇，血清尿酸低下，蛋白尿，血尿，多尿，クレアチニン上昇
消化器 下痢 嘔気，嘔吐
全身症状 倦怠感
その他　発熱，熱感，頭痛，血圧上昇，血清コレステロール上昇，血清コレステロール低下，トリグリセライド上昇，血清総蛋白減少，CK上昇，CK低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム低下，尿中ブドウ糖陽性
（表終了）

リリカカプセル150mg（150mg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】1190017M3020
【薬効分類】1．1．9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】プレガバリン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬　販)ファイザー　販)ファイザー製薬
【薬価】66.3円/1C
【薬価収載日】2010/06/11
【標榜薬効】神経障害性疼痛・線維筋痛症疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇神経障害性疼痛
〇線維筋痛症に伴う疼痛
注意
線維筋痛症に伴う疼痛
線維筋痛症の診断は，米国リウマチ学会の分類（診断）基準等の国際的な基準により実施し，確定診断された場合にのみ投与。
【用法用量】神経障害性疼痛
成人　初期量　1日150mg　1日2回　分割　内服。以後1週間以上かけ　1日300mgまで漸増。適宜増減，1日最高600mg　1日2回　分割　内服。
線維筋痛症に伴う疼痛
成人　初期量　1日150mg　1日2回　分割　内服。以後1週間以上かけ　1日300mgまで漸増　300～450mgで維持。適宜増減，1日最高450mg　1日2回　分割　内服。
注意
1．投与中止時，1週間以上かけて漸減。
2．腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え，血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。複数の用量が設定されている時は，低用量から開始し，忍容性が確認され，効果不十分時に増量。この用法・用量はシミュレーション結果によることから，各患者ごとに用法・用量を調節。
神経障害性疼痛

1 神経系及び感覚器官用医薬品

（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量（注）
1日量（mg） 150～600 75～300 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
最高量 1回300mg1日2回 1回100mg1日3回 又は1回150mg1日2回 1回75mg1日2回 又は1回150mg1日1回 1回75mg1日1回 100又は150mg
（表終了）
線維筋痛症に伴う疼痛
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量（注）
1日量（mg） 150～450 75～225 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
維持量（最高量） 1回225mg1日2回 1回75mg1日3回 1回100もしくは125mg1日1回 又は1回75mg1日2回 1回50又は75mg1日1回 75又は100mg
（表終了）
（注）2日に1回，投与6時間後から4時間血液透析を実施時のシミュレーション結果による。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．眩暈（20%以上），傾眠（20%以上），意識消失（0．3%未満）。
2．心不全（0．3%未満），肺水腫（頻度不明）。
3．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
4．腎不全（0．1%未満）。
5．血管浮腫（頻度不明）等の過敏症。
6．低血糖（0．3%未満）（脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，意識障害等の低血糖症状）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
8．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（0．1%未満）。
9．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）。
10．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．4%）（AST，ALT上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．3～1%未満 0．3%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 好中球減少症，白血球減少症 血小板減少症
代謝・栄養障害 食欲不振，食欲亢進，高脂血症 高血糖
精神障害 不眠症 錯乱，失見当識，多幸気分，異常な夢，幻覚 うつ病，落ち着きのなさ，気分動揺，抑うつ気分，無感情，不安，リビドー消失，睡眠障害，思考異常 離人症，無オルガズム症，激越，喚語困難，リビドー亢進，パニック発作，脱抑制
神経系障害 浮動性眩暈，頭痛，平衡障害，運動失調 振戦，注意力障害，感覚鈍麻，嗜眠，構語障害，記憶障害，健忘，錯感覚，協調運動異常 鎮静，認知障害，ミオクローヌス，反射消失，ジスキネジー，精神運動亢進，体位性眩暈，知覚過敏，味覚異常，灼熱感，失神，精神的機能障害，会話障害 昏迷，嗅覚錯誤，書字障害
眼障害 霧視，複視，視力低下 視覚障害，網膜出血 視野欠損，眼部腫脹，眼痛，眼精疲労，流涙増加，光視症，斜視，眼乾燥，眼振 眼刺激，散瞳，動揺視，深径覚の変化，視覚の明るさ，角膜炎
耳・迷路障害 回転性眩暈 耳鳴 聴覚過敏
心臓障害 動悸 第一度房室ブロック，頻脈，洞性不整脈，洞性徐脈，心室性期外収縮 洞性頻脈
血管障害 高血圧，低血圧，ほてり
呼吸器，胸郭・縦隔障害 呼吸困難 鼻咽頭炎，咳嗽，いびき，鼻出血，鼻炎 鼻乾燥，鼻閉，咽喉絞扼感
胃腸障害 便秘，悪心，下痢，腹痛，嘔吐 腹部膨満，消化不良，鼓腸，胃炎，胃不快感，口内炎 流涎過多，胃食道逆流性疾患，膵炎，舌腫脹 腹水，嚥下障害
皮膚・皮下組織障害 発疹 掻痒症，湿疹，眼窩周囲浮腫 多汗症，冷汗，蕁麻疹，脱毛 丘疹
筋骨格系・結合組織障害 筋力低下，筋痙縮，関節腫脹，四肢痛，背部痛 筋肉痛，重感，関節痛，筋骨格硬直
腎・尿路障害 尿失禁，排尿困難 尿閉 乏尿
生殖系・乳房障害 乳房痛，勃起不全，女性化乳房 射精遅延，性機能不全，無月経，乳房分泌，月経困難症，乳房肥大
全身障害・投与局所様態 浮腫，口渇，疲労，異常感，歩行障害，顔面浮腫 無力症，疼痛，圧痕浮腫，倦怠感，胸痛 発熱，冷感，悪寒，易刺激性，酩酊感 胸部絞扼感
傷害，中毒，処置合併症 転倒・転落
臨床検査 体重増加 血中CK増加，ALT増加，AST増加，血中アミラーゼ増加，血中クレアチニン増加 体重減少，血中尿酸増加 血中カリウム減少
（表終了）

リルテック錠50（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1190011F1021
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】リルゾール
【メーカー】製）サノフィ
【薬価】1063.3円/1T
【薬価収載日】1999/02/19
【標榜薬効】筋萎縮性側索硬化症用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】筋萎縮性側索硬化症の治療，筋萎縮性側索硬化症の病勢進展の抑制
注意
1．努力性肺活量が理論正常値の60%未満に低下している患者は，効果が期待できないので投与しない。
2．米国神経学会の勧告では，下記の（1）～（4）を満たす患者への適用を推奨。
（1）．World Federation of Neurologyの基準（他の原因で進行性筋萎縮となった時除く）で“definite”又は“probable”。
（2）．罹病期間が5年未満。
（3）．努力性肺活量が理論正常値の60%以上。
（4）．気管切開未実施例。
【用法用量】成人 1回1錠 1日2回 朝・夕食前 内服。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な肝機能障害。
2．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（血管浮腫，呼吸困難，喘鳴，発汗等）。
2．重篤な好中球減少（0．1%未満）（発熱）。
3．間質性肺炎（0．1%）（発熱，咳嗽，呼吸苦等の呼吸器症状）。
4．肝機能障害（0．2%）（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（0．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇 γ－GTP上昇，AI－P上昇，総ビリルビン上昇
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，便秘，下痢，腹痛 味覚障害，膵炎，アミラーゼ上昇
精神神経系 眩暈 口内・舌のしびれ感，傾眠，不眠症，うつ，口周囲感覚異常，筋緊張亢進 不安
血液 赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少
腎臓 BUN上昇，尿蛋白上昇
皮膚 発疹 掻痒
循環器 頻脈
筋・骨格系 筋痙攣，背部痛 関節炎
その他 無力感 頭痛，倦怠感，発熱，浮腫 疼痛，頭重 体重減少
（表終了）

レイボー錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190030F2020
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ラスミジタンコハク酸塩
【メーカー】製）日本イーライリリー 販）第一三共
【薬価】570.9円/1T
【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】片頭痛
注意
国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」，「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は，くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診，診察，検査を実施し，頭痛の原因を確認後投与。
（1）．今まで片頭痛の診断がない。
（2）．片頭痛の診断後，症状や経過が異なった頭痛，随伴症状。
【用法用量】成人 1回100mg 片頭痛発作時 内服。1回50mg又は200mgまで。
頭痛の消失後に再発時 総量200mg／24時間まで。
注意
1．片頭痛発作時のみ，予防的に使用しない。
2．頭痛の消失に至らず継続している発作への追加投与の有効性は未確立。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

3. 全く効果がなければ，その発作に追加投与しない。再検査の上，頭痛の原因を確認。
4. 臨床試験の用量ごとの有効性と副作用発現状況を参考に，患者の背景，病態，併用薬等を考慮して選択。副作用発現状況を考慮しても100mgより高い有効性・早期の有効性発現が必要時は200mgの使用を，100mgの忍容性に懸念時は50mgの使用を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
セロトニン症候群（0．1%未満）（神経・筋症状（腱反射亢進，ミオクローヌス，筋強剛等），自律神経症状（発熱，頻脈，発汗，振戦，下痢，皮膚紅潮等），精神症状（不安，焦燥，錯乱，軽躁等））。

レイボー錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190030F1024
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ラスミジタンコハク酸塩
【メーカー】製)日本イーライリリー 販)第一三共
【薬価】324.7円/1T
【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】片頭痛
注意
国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」，「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は，くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診，診察，検査を実施し，頭痛の原因を確認後投与。
（1）．今まで片頭痛の診断がない。
（2）．片頭痛の診断後，症状や経過が異なった頭痛，随伴症状。
【用法用量】成人 1回100mg 片頭痛発作時 内服。1回50mg又は200mgまで。
頭痛の消失後に再発時 総量200mg／24時間まで。
注意
1．片頭痛発作時のみ，予防的に使用しない。
2．頭痛の消失に至らず継続している発作への追加投与の有効性は未確立。
3．全く効果がなければ，その発作に追加投与しない。再検査の上，頭痛の原因を確認。
4．臨床試験の用量ごとの有効性と副作用発現状況を参考に，患者の背景，病態，併用薬等を考慮して選択。副作用発現状況を考慮しても100mgより高い有効性・早期の有効性発現が必要時は200mgの使用を，100mgの忍容性に懸念時は50mgの使用を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
セロトニン症候群（0．1%未満）（神経・筋症状（腱反射亢進，ミオクローヌス，筋強剛等），自律神経症状（発熱，頻脈，発汗，振戦，下痢，皮膚紅潮等），精神症状（不安，焦燥，錯乱，軽躁等））。

レミニールOD錠12mg（12mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1190019F6020
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ガランタミン臭化水素酸塩
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)武田薬品工業 販)ヤンセンファーマ
【薬価】107.6円/1T
【薬価収載日】2011/03/11
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1．アルツハイマー型認知症のみ使用。
2．アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3．アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
【用法用量】成人 1回4mg 1日8mg 1日2回から開始 内服。
4週間後 1回8mg 1日16mg 1日2回に増量。
1回12mg 1日24mg 1日2回まで。増量時は変更前の用量で4週間以上投与後。
注意
1．1日8mgは，消化器系副作用を抑える目的なので，4週間を超えない。
2．中等度の肝障害（Child－Pugh分類を肝機能の指標とした中等度（B））では，1回4mg 1日1回から開始し最低1週間投与後，1回4mg 1日8mg 1日2回を4週間以上投与し，増量。1日16mgまで。
3．副作用軽減のため，食後に投与。
4．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．失神（0．1%），徐脈（1．1%），心ブロック（1．3%），QT延長（0．9%）。
2．急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）（発熱，紅斑，多数の小膿疱等）。
3．肝炎（頻度不明）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 鼻咽頭炎 膀胱炎，尿路感染
血液・リンパ系障害 貧血
過敏症 発疹，掻痒症，顔面浮腫 薬疹，全身性皮疹，蕁麻疹
代謝・栄養障害 食欲不振，食欲減退 脱水
精神障害 不眠症 激越，怒り，攻撃性，不安，せん妄，落ち着きのなさ，幻覚 うつ病，幻視，幻聴
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈 意識消失，傾眠，痙攣，体位性眩暈，振戦，アルツハイマー型認知症の悪化，パーキンソニズム 嗜眠，味覚異常，過眠症，錯感覚，錐体外路障害
眼障害 霧視
耳・迷路障害 耳鳴
心臓障害 心室性期外収縮 上室性期外収縮，心房細動，動悸
血管障害 高血圧 低血圧 潮紅
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽
胃腸障害 悪心（14．9%），嘔吐（12．4%），下痢 腹痛，便秘，上腹部痛，胃不快感 胃炎，腹部膨満，消化不良，胃潰瘍，腸炎，萎縮性胃炎，腹部不快感，レッチング
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 湿疹，皮下出血，多汗症，紅斑
筋骨格系・結合組織障害 背部痛，筋力低下 筋痙縮
腎・尿路障害 頻尿，尿失禁，血尿
全身障害・投与局所様態 倦怠感，異常感 無力症，発熱，胸痛，疲労，歩行障害
臨床検査 体重減少，肝機能検査値異常，CK増加，尿中白血球陽性，血圧上昇，血中ブドウ糖増加 尿中血陽性，血中トリグリセリド増加，尿中赤血球陽性，白血球数増加，血中コレステロール増加，LDH増加，血中カリウム減少，血圧低下，血中尿酸増加，心電図異常，総蛋白減少
傷害，中毒，処置合併症 転倒・転落
（表終了）

1．2 末梢神経系用薬

1．2．1 局所麻酔剤

ストロカイン錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1219002F1065
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】オキセサゼイン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】6円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】消化管粘膜局所麻酔剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う疼痛・酸症状・あい気・悪心・嘔吐・胃部不快感・便意逼迫
食道炎，胃炎，胃・十二指腸潰瘍，過敏性大腸症（イリタブルコロン）
【用法用量】成人 1日15～40mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 便秘，食欲不振，口渇，悪心，下痢
精神神経系 頭痛，眩暈 眠気，脱力感
（表終了）

1．2．3 自律神経剤

チアトンカプセル10mg（10mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】1231013M2179
【薬効分類】1．2．3 自律神経剤
【一般名】チキジウム臭化物
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア
【薬価】8.6円/1C
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】キノリジジン系抗ムスカリン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の痙攣・運動機能亢進
胃炎，胃・十二指腸潰瘍，腸炎，過敏性大腸症候群，胆嚢・胆道疾患，尿路結石症
【用法用量】成人 1回5～10mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大による排尿障害。
3．重篤な心疾患。
4．麻痺性イレウス。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，発赤，蕁麻疹，血管浮腫等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
眼 羞明
精神神経系 頭重感，耳鳴 頭痛
消化器 口渇，便秘，下痢，悪心・嘔吐 胸やけ，胃不快感，食欲不振 腹部膨満感
循環器 心悸亢進
泌尿器 排尿障害 頻尿
（表終了）

メスチノン錠60mg（60mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1239003F1046
【薬効分類】1．2．3 自律神経剤
【一般名】ピリドスチグミン臭化物
【メーカー】製)共和薬品工業
【薬価】16.3円/1T
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】重症筋無力症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】重症筋無力症
【用法用量】成人 1日3錠 1日3回 分割 内服。
医師の監督下で，適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．消化管・尿路の器質的閉塞。
3．迷走神経緊張症。
4．脱分極性筋弛緩剤（スキサメトニウム塩化物水和物）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
コリン作動性クリーゼ（頻度不明）（呼吸筋麻痺，線維性攣縮，腹痛，下痢，発汗，流涎，縮瞳，徐脈等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
骨格筋 骨格筋の線維性攣縮
消化器 下痢（14．8%），腹痛（14．1%），流涎 悪心 腹鳴 嘔吐
循環器 動悸
その他 発汗 頭痛 流涙，気管支分泌の亢進，耳鳴，発疹 縮瞳
（表終了）

ワゴスチグミン散（0．5%）（0．5%1g）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1233001B1025
【薬効分類】1．2．3 自律神経剤
【一般名】ネオスチグミン臭化物
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】14.1円/1g
【標榜薬効】副交感神経興奮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．重症筋無力症
2．消化管機能低下のある下記
慢性胃炎
術後・分娩後の腸管麻痺
弛緩性便秘症
3．術後・分娩後の排尿困難
【用法用量】1．重症筋無力症
成人 1回15～30mg 1日1～3回 内服。
適宜増減。
2．消化管機能低下のある3疾患並びに術後・分娩後の排尿困難
成人 1回5～15mg 1日1～3回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．消化管・尿路の器質的閉塞。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．迷走神経緊張症。
4．脱分極性筋弛緩剤（スキサメトニウム）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
コリン作動性クリーゼ（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
循環器 血圧降下，徐脈，頻脈
呼吸器 気管支痙攣，気道分泌の亢進
消化器 唾液の分泌過多，悪心・嘔吐，下痢 腹痛
精神神経系 発汗，眩暈，不安・興奮・虚脱・脱力・筋攣縮・骨格筋の線維束攣縮等
その他 縮瞳
（表終了）

1．2．4 鎮けい剤

エペリゾン塩酸塩錠50mg「トーワ」（50mg1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】1249009F1422
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】エペリゾン塩酸塩
【先発品】ミオナール錠50mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】筋緊張症候改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記による筋緊張状態の改善
頸肩腕症候群，肩関節周囲炎，腰痛症
〇下記による痙性麻痺
脳血管障害，痙性脊髄麻痺，頸部脊椎症，術後後遺症（脳・脊髄腫瘍含む），外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），筋萎縮性側索硬化症，脳性小児麻痺，脊髄小脳変性症，脊髄血管障害，スモン，その他の脳脊髄疾患
【用法用量】成人 1日3錠 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発赤，掻痒感，蕁麻疹，顔面等の浮腫，呼吸困難等）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇等
腎臓 蛋白尿，BUNの上昇等
血液 貧血
過敏症 発疹 掻痒 多形滲出性紅斑
精神神経系 眠気，不眠，頭痛，四肢のしびれ 体のこわばり，四肢のふるえ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃部不快感，腹痛，下痢，便秘，口渇 口内炎，腹部膨満感
泌尿器 尿閉，尿失禁，残尿感
全身症状 脱力感，ふらつき，全身倦怠感 筋緊張低下，眩暈
その他 ほてり 発汗，浮腫，動悸 しゃっくり
（表終了）

コスパノンカプセル40mg（40mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】1249007M1252
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】フロプロピオン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】9.5円/1C
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】膵胆道・尿路系鎮痙剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う鎮痙効果
肝胆道疾患 胆道ジスキネジー，胆石症，胆嚢炎，胆管炎，胆嚢剔出後遺症
膵疾患 膵炎
尿路結石
【用法用量】成人 1回1～2カプセル（フロプロピオン 1回40～80mg） 1日3回 内服。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 悪心・嘔気，胸やけ，腹部膨満感
過敏症 発疹
（表終了）

テルネリン錠1mg（1mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1249010F1026
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】チザニジン塩酸塩
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】8.1円/1T
【標榜薬効】筋緊張緩和剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記による筋緊張状態の改善
頸肩腕症候群，腰痛症
〇下記による痙性麻痺
脳血管障害，痙性脊髄麻痺，頸部脊椎症，脳性（小児）麻痺，外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），脊髄小脳変性症，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症
【用法用量】筋緊張状態の改善
成人 1日3mg 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
痙性麻痺
成人 1日3mgから開始 効果により 1日6～9mgまで漸増 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．フルボキサミン・シプロフロキサシンの投与患者。
3．重篤な肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）（血圧低下，徐脈，顔面蒼白，冷汗，呼吸困難，意識消失等）。
2．急激な血圧低下（頻度不明）。
3．心不全（頻度不明）（心拡大，肺水腫等）。
4．呼吸障害（頻度不明）（喘鳴，喘息発作，呼吸困難等）。
5．肝炎（AST，ALT等の著しい上昇，悪心・嘔吐，食欲不振，全身倦怠感等），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下 徐脈，動悸 失神
精神神経系 眠気，頭痛・頭重感，眩暈（回転性眩暈，浮動性眩暈）・ふらつき 知覚異常（しびれ感等），構音障害（ろれつがまわらない等），不眠 幻覚，錯乱
消化器 口渇，悪心，食欲不振，胃部不快感，腹痛，下痢 胃もたれ，便秘，口内炎，舌のあれ，口中苦味感，流涎 －
肝臓 AST，ALTの上昇 AI－Pの上昇 －
過敏症 発疹，皮膚掻痒感 蕁麻疹，紅斑 血管性浮腫
その他 脱力・倦怠感 浮腫，尿閉，霧視 眼瞼下垂
（表終了）

ミオナール錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1249009F1090
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】エペリゾン塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ 販)科研製薬
【薬価】8.6円/1T
【標榜薬効】筋緊張改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記による筋緊張状態の改善
頸肩腕症候群，肩関節周囲炎，腰痛症
〇下記による痙性麻痺
脳血管障害，痙性脊髄麻痺，頸部脊椎症，術後後遺症（脳・脊髄腫瘍含む），外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），筋萎縮性側索硬化症，脳性小児麻痺，脊髄小脳変性症，脊髄血管障害，スモン，その他の脳脊髄疾患
【用法用量】成人 1日3錠（エペリゾン塩酸塩 150mg） 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発赤，掻痒感，蕁麻疹，顔面等の浮腫，呼吸困難等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇等
腎臓 蛋白尿，BUNの上昇等
血液 貧血
過敏症 発疹 掻痒 多形滲出性紅斑
精神神経系 眠気，不眠，頭痛，四肢のしびれ 体のこわばり，四肢のふるえ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃部不快感，腹痛，下痢，便秘，口渇 口内炎，腹部膨満感
泌尿器 尿閉，尿失禁，残尿感
全身症状 脱力感，ふらつき，全身倦怠感 筋緊張低下，眩暈
その他 ほてり 発汗，浮腫，動悸 しゃっくり
（表終了）

リオレサール錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】1249006F1054
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】バクロフェン
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】10.4円/1T
【標榜薬効】抗痙縮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記による痙性麻痺
脳血管障害，脳性（小児）麻痺，痙性脊髄麻痺，脊髄血管障害，頸部脊椎症，後縦靱帯骨化症，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症，脊髄小脳変性症，外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），術後後遺症（脳・脊髄腫瘍含む），その他の脳性疾患，その他のミエロパチー
【用法用量】成人
初回量 1日5～15mg 1日1～3回 分割 食後 内服。以後標準量

1　神経系及び感覚器官用医薬品

まで　2～3日ごと　1日5～10mgずつ増量。
標準量　1日30mg，適宜増減。
小児
初回量　1日5mg　1日1～2回　分割　食後　内服。以後標準量まで2～3日ごと　1日5mgずつ増量。適宜増減。
標準量
4～6歳 1日5～15mg　1日2～3回　分割　食後　内服。
7～11歳 1日5～20mg　1日2～3回　分割　食後　内服。
12～15歳 1日5～25mg　1日2～3回　分割　食後　内服。
注意
1．腎機能低下
低用量から開始。透析を要する重篤な腎機能障害 1日5mgから開始する等慎重投与。
2．本剤投与中で，バクロフェン髄注（ギャバロン髄注）の治療を行う場合
髄注の治療開始前・後に減量・漸次中止を試みる。急激な減量・中止を避ける。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．意識障害，呼吸抑制（各頻度不明）等の中枢神経抑制症状。
2．依存性（頻度不明）（幻覚・錯乱等），精神依存形成。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5% 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気（9．8%） 頭痛・頭重，知覚異常（しびれ等），鎮静，抑うつ 不眠，筋肉痛，情緒不安定，幻覚，意識障害，酩酊感，せん妄，構音障害，舌の運動障害，不随意運動，痙攣発作，嚥下力低下，顔面チック，耳鳴，視調節障害 歩行障害，痙縮増悪，眼振
循環器 － － 血圧低下，下肢うっ血，頻脈 徐脈
肝臓 － － － 肝障害，AST上昇，ALT上昇
消化器 悪心 嘔吐，食欲不振，胃部不快感，下痢，口渇 便秘，腹痛，腹部膨満感，流涎，空腹感 胸やけ
泌尿器 生殖器 － 尿失禁 排尿困難，頻尿，勃起消失 －
皮膚症状 － － 発疹 蕁麻疹
全身症状 脱力感 筋力低下，ふらつき，眩暈 全身倦怠感 低体温，薬剤離脱症候群
その他 － － 浮腫，発汗，胸部圧迫感 味覚異常，呼吸困難，血糖値上昇
（表終了）

1．2．5　発汗剤，止汗剤

アポハイドローション20%（20%1g）

外　外用　流通

【YJコード】1259702Q1026
【薬効分類】1．2．5　発汗剤，止汗剤
【一般名】オキシブチニン塩酸塩
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】543.7円/1g
【薬価収載日】2023/05/24
【標榜薬効】原発性手掌多汗症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】原発性手掌多汗症
【用法用量】1日1回　就寝前　適量を両手掌全体に塗布。
注意
1回量は，両手掌にポンプ5押し分を目安。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大等）による排尿障害。
3．重篤な心疾患。
4．腸閉塞・麻痺性イレウス。
5．重症筋無力症。
6．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血小板減少（頻度不明）。
2．麻痺性イレウス（頻度不明）（著しい便秘，腹部膨満等）。
3．尿閉（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
皮膚 適用部位皮膚炎，適用部位掻痒感，適用部位湿疹，皮脂欠乏症 適用部位紅斑，皮膚剥脱
消化器 口渇 口角口唇炎
その他 尿中ブドウ糖陽性 代償性発汗
（表終了）

エクロックゲル5%（5%1g）

外　外用　流通

【YJコード】1259700Q1027
【薬効分類】1．2．5　発汗剤，止汗剤
【一般名】ソフピロニウム臭化物
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】241.3円/1g
【薬価収載日】2020/11/18
【標榜薬効】原発性腋窩多汗症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】原発性腋窩多汗症
【用法用量】1日1回　腋窩に塗布。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大による排尿障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満
適用部位 皮膚炎（6．4%），紅斑（5．7%），掻痒感，湿疹，刺激感 汗疹
眼　散瞳，霧視
消化器 口渇
泌尿器 排尿障害
その他　ALT増加，AST増加，γ－GTP増加，好酸球百分率増加，代償性発汗
（表終了）

1．3　感覚器官用薬

1．3．1　眼科用剤

アイベータ配合点眼液（1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319824Q1020
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ブリモニジン酒石酸塩・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】386.5円/1mL
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で，他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．低出生体重児，新生児，乳児，2歳未満の幼児。
3．気管支喘息・その既往，気管支痙攣・重篤な慢性閉塞性肺疾患。
4．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック（II，III度），心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．眼類天疱瘡（頻度不明）（結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等）。
2．気管支痙攣，呼吸困難，呼吸不全（各頻度不明）。
3．心ブロック，うっ血性心不全，心停止（各頻度不明）。
4．脳虚血，脳血管障害（各頻度不明）。
5．全身性エリテマトーデス（頻度不明）。
6．角膜混濁（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症　接触皮膚炎，丘疹，発疹，紅斑，蕁麻疹
眼 点状角膜炎，結膜充血，眼刺激，眼部不快感，角膜糜爛 アレルギー性結膜炎，眼掻痒症，羞明，結膜浮腫，閃輝暗点 眼瞼紅斑，眼瞼浮腫，眼瞼障害，眼瞼下垂，眼瞼掻痒症，眼瞼炎，アレルギー性眼瞼炎，マイボーム腺梗塞，結膜炎，結膜濾胞，結膜蒼白，結膜出血，乾性角結膜炎，角膜炎，麦粒腫，虹彩炎，白内障，硝子体剥離，硝子体浮遊物，眼の異常感，眼の異物感，眼脂，眼痛，灼熱感，霧視，眼乾燥，眼精疲労，流涙増加，視覚障害，視野欠損，視力低下，縮瞳，角膜知

1 神経系及び感覚器官用医薬品

覚低下，複視，眼底黄斑部の浮腫・混濁
循環器　低血圧，高血圧，動悸，頻脈，徐脈等の不整脈，失神，浮腫，レイノー現象，四肢冷感
呼吸器　鼻刺激感，鼻乾燥，鼻炎，副鼻腔炎，咳嗽，呼吸困難，気管支炎，咽頭炎
精神神経系　浮動性眩暈，回転性眩暈，耳鳴，頭痛，感覚異常，失神，悪夢，うつ病，抑うつ，傾眠，不眠症，重症筋無力症の増悪
消化器　味覚異常，口内乾燥，口渇，悪心，胃腸障害，消化不良，腹痛，下痢
感染症　インフルエンザ症候群，感冒，呼吸器感染
その他　耳掻痒症 疣贅，貧血，無力症，疲労，気分不良，不快，倦怠感，脱力感，筋肉痛，胸部圧迫感，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，高コレステロール血症
（表終了）

アイラミド配合懸濁性点眼液（1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319825Q1025
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ブリモニジン酒石酸塩・ブリンゾラミド
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】378.4円/1mL
【薬価収載日】2020/05/20
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で，他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．低出生体重児，新生児，乳児，2歳未満の幼児。
3．重篤な腎障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
角膜混濁（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症　接触皮膚炎，丘疹，発疹，紅斑，蕁麻疹
眼 霧視 眼刺激，点状角膜炎 アレルギー性結膜炎，眼の異常感，眼の異物感，眼乾燥，眼脂，眼瞼炎，結膜炎，結膜充血，結膜浮腫，硝子体浮遊物 眼瞼下垂，眼瞼紅斑，眼瞼浮腫，眼瞼障害，アレルギー性眼瞼炎，眼瞼辺縁痂皮，マイボーム腺梗塞，結膜濾胞，結膜蒼白，結膜出血，角結膜炎，乾性角結膜炎，角膜炎，角膜上皮障害（角膜糜爛等），角膜浮腫，麦粒腫，虹彩炎，白内障，硝子体剥離，眼掻痒症，不快感，眼痛，灼熱感，羞明，眼精疲労，流涙増加，視覚障害，視野欠損，視力低下，複視，縮瞳，べとつき感
循環器　低血圧，高血圧，動悸，頻脈，徐脈
呼吸器　鼻刺激感，鼻乾燥，鼻炎，鼻出血，副鼻腔炎，咳嗽，呼吸困難，気管支炎，咽頭炎
精神神経系　浮動性眩暈，回転性眩暈，耳鳴，頭痛，失神，うつ病，傾眠，不眠症
消化器 味覚異常 口内乾燥，口渇，悪心，胃腸障害，下痢，消化不良，嘔気
感染症　インフルエンザ症候群，感冒，呼吸器感染
その他　視野検査異常 脱毛，皮膚炎，胸部痛，腎疼痛，疣贅，貧血，無力症，疲労，気分不良，緊張亢進，感覚鈍麻，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，高コレステロール血症，赤血球数の減少
（表終了）

アゾルガ配合懸濁性点眼液（1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319821Q1027
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ　販)日本アルコン
【薬価】247.1円/1mL
【薬価収載日】2013/11/19
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で，他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・その既往，気管支痙攣，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック（II，III度），心原性ショック。
4．重篤な腎障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．眼類天疱瘡（頻度不明）（結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等）。
2．気管支痙攣，呼吸困難，呼吸不全（各頻度不明）。
3．心ブロック，うっ血性心不全，心停止（各頻度不明）。
4．脳虚血，脳血管障害（各頻度不明）。
5．全身性エリテマトーデス（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
眼 眼刺激，点状角膜炎 霧視，角膜炎，結膜充血，眼痛，眼乾燥，眼掻痒症，羞明 眼の異物感，視力低下，視力障害，角膜糜爛，角膜上皮障害，眼瞼炎（アレルギー性眼瞼炎含む），眼瞼下垂，眼脂，角膜知覚低下，眼底黄斑部の浮腫，混濁，複視，結膜炎（アレルギー性結膜炎含む），結膜浮腫，眼瞼浮腫，眼の不快感，疲れ目，眼瞼辺縁痂皮，眼のべとつき感，流涙，前房のフレア，眼充血，強膜充血，眼瞼紅斑，角膜浮腫
循環器 ― ― 動悸，徐脈等の不整脈，低血圧，失神，浮腫，レイノー現象，四肢冷感，血圧低下，血圧上昇
精神神経系 ― ― 頭痛，眩暈，不眠症，うつ病，重症筋無力症の増悪，悪夢，感覚異常
消化器 ― ― 悪心，口渇，下痢，消化不良，口内乾燥，上腹部痛，腹痛
皮膚 ― ― 発疹，脱毛症，皮膚炎，蕁麻疹，紅斑
その他 味覚異常 異常感，頭位性回転性眩暈，咳嗽，倦怠感，血中乳酸脱水素酵素増加，血中カリウム増加，白血球数減少 不快，胸部圧迫感，脱力感，耳鳴，鼻炎，胸痛，呼吸困難，咽頭炎，緊張亢進，腎疼痛，疲労，過敏症，筋肉痛，鼻出血，感覚鈍麻，赤血球数の減少
（表終了）

アダプチノール錠5mg（5mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】1319004F1035
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ヘレニエン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】26.4円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】暗順応改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】網膜色素変性症の一時的な視野・暗順応の改善
【用法用量】成人　1回5mg　1日2～4回　内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
眼 羞明，光視症
消化器 下痢，軟便
その他 全身倦怠感，頭部圧迫感
（表終了）

アレジオンLX点眼液0．1%（0．1%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319762Q2024
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】エピナスチン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】493円/1mL
【薬価収載日】2019/11/27
【標榜薬効】抗アレルギー点眼剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アレルギー性結膜炎
【用法用量】1回1滴　1日2回　朝・夕　点眼。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

1　神経系及び感覚器官用医薬品

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 頻度不明
眼 結膜充血 眼刺激，眼の異物感，羞明，眼瞼炎，眼痛，流涙，点状角膜炎，眼の掻痒感，眼脂
（表終了）

アレジオン点眼液0．05%（0．05%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319762Q1028
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】エピナスチン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】200.2円/1mL
【薬価収載日】2013/11/19
【標榜薬効】抗アレルギー点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性結膜炎
【用法用量】1回1滴　1日4回　朝・昼・夕・就寝前　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
眼 眼刺激 眼の異物感，羞明 眼瞼炎，眼痛，流涙，点状角膜炎，眼の掻痒感，結膜充血，眼脂
（表終了）

エイベリス点眼液0．002%（0．002%1mL）

外　外用　流通
劇

【YJコード】1319764Q1027
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】オミデネパグ　イソプロピル
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】800.1円/1mL
【薬価収載日】2018/11/20
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴　1日1回　点眼。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．無水晶体眼・眼内レンズ挿入眼患者。
3．タフルプロストの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
嚢胞様黄斑浮腫含む黄斑浮腫（5．2%）（注）（視力低下，視力障害等）。
（注）眼内レンズ挿入眼患者。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 頻度不明
眼 結膜充血（22．8%） 角膜肥厚，虹彩炎（前房内細胞，前房のフレア），眼痛，羞明，眼の不快な症状（刺激感等），角膜上皮障害 眼乾燥感
精神神経系　頭痛
（表終了）

オフロキサシンゲル化点眼液0．3%「わかもと」（0．3%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319722Q2020
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】オフロキサシン
【メーカー】製)わかもと製薬
【薬価】30.5円/1mL
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌），シュードモナス属，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌，トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス）
適応症
眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎（角膜潰瘍含む），眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】1回1滴　1日3回　点眼。適宜増減。
注意
結膜炎
トラコーマクラミジアによる結膜炎は，8週間を目安とし，継続投与は慎重に行う。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，眼瞼炎，結膜炎，眼の掻痒感，眼痛
皮膚 発疹 掻痒，蕁麻疹
（表終了）

ガチフロ点眼液0．3%（0．3%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319749Q1030
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ガチフロキサシン水和物
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】71.5円/1mL
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，コリネバクテリウム属，シトロバクター属，クレブシエラ属，セラチア属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，シュードモナス属，緑膿菌，スフィンゴモナス・パウチモビリス，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症
眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎（角膜潰瘍含む），眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎（角膜潰瘍含む）
1回1滴　1日3回　点眼。適宜増減。
眼科周術期の無菌化療法
術前　1回1滴　1日5回　点眼。術後　1回1滴　1日3回　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症　蕁麻疹 発疹
眼 刺激感，掻痒感 霧視，点状角膜炎，虹彩炎，眼瞼炎，結膜炎，結膜出血，流涙
呼吸器　鼻漏
その他　嘔気
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

グラアルファ配合点眼液（1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319826Q1020
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】リパスジル塩酸塩水和物・ブリモニジン酒石酸塩
【メーカー】製)興和
【薬価】505.4円/1mL
【薬価収載日】2022/11/16
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で，他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
1．単剤での治療を優先。
2．急性閉塞隅角緑内障には，薬物療法以外に手術療法等を考慮。
【用法用量】1回1滴 1日2回 点眼。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．低出生体重児，新生児，乳児，2歳未満の幼児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
角膜混濁(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 接触性皮膚炎，丘疹，紅斑，蕁麻疹
眼 結膜充血(53．2%)，結膜炎(アレルギー性結膜炎含む)，眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎含む)，眼刺激 角膜上皮障害(角膜糜爛，点状角膜炎等)，角膜炎，眼掻痒，眼瞼紅斑，眼瞼浮腫，眼瞼下垂，結膜浮腫，結膜濾胞，結膜出血，乾性角結膜炎，眼脂，眼痛，眼の異物感，霧視，眼精疲労，眼乾燥，流涙増加，眼の異常感 マイボーム腺梗塞，結膜蒼白，視覚障害，眼瞼障害，麦粒腫，虹彩炎，白内障，硝子体剥離，硝子体浮遊物，視野欠損，視力低下，縮瞳，灼熱感，羞明，眼圧上昇
循環器 低血圧，高血圧，動悸 徐脈，頻脈
呼吸器 咳嗽 鼻刺激感，呼吸困難，気管支炎，咽頭炎，鼻炎，副鼻腔炎，鼻乾燥
精神神経系 回転性眩暈，傾眠 浮動性眩暈，頭痛，耳鳴，不眠症，うつ病，失神
消化器 口内乾燥，口渇，味覚異常 胃腸障害，悪心
感染症 インフルエンザ症候群，感冒，呼吸器感染
その他 無力症 疲労，貧血，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，疲労，高コレステロール血症，気分不良
(表終了)

クラビット点眼液1．5%（1．5%1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319742Q2027
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】53.2円/1mL
【薬価収載日】2011/03/18
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)，シュードモナス属，緑膿菌，ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
注意
MRSAによる感染症には，速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与。
【用法用量】1回1滴 1日3回 点眼。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・オフロキサシン・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 眼刺激 眼の掻痒感 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，結膜炎，眼痛，角膜沈着物，眼瞼炎
皮膚 蕁麻疹 発疹，掻痒
その他 味覚異常(苦味等)
(表終了)

コソプト配合点眼液（1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319819Q1020
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ドルゾラミド塩酸塩・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】326円/1mL
【薬価収載日】2010/06/11
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で，他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴 1日2回 点眼。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・その既往，気管支痙攣，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック(II，III度)，心原性ショック。
4．重篤な腎障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．眼類天疱瘡(頻度不明)(結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等)。
2．気管支痙攣，呼吸困難，呼吸不全(各頻度不明)。
3．心ブロック，うっ血性心不全，心停止(各頻度不明)。
4．脳虚血，脳血管障害(各頻度不明)。
5．全身性エリテマトーデス(頻度不明)。
6．皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 眼刺激症状(しみる・灼熱感・異物感・流涙・疼痛・掻痒感等) 角膜炎，結膜充血，点眼直後にみられる眼のかすみ，眼痛 角膜糜爛・角膜上皮障害等の角膜障害，眼瞼炎 角膜知覚低下，複視，霧視・視力低下等の視力障害，眼乾燥感，眼のべとつき感，眼瞼下垂，眼脂，羞明，眼底黄斑部の浮腫・混濁，結膜炎，結膜浮腫，白色の結膜下沈着物
循環器 失神，浮腫，レイノー現象，四肢冷感，動悸，徐脈等の不整脈，低血圧
精神神経系 頭痛 抑うつ，重症筋無力症の増悪，悪夢，感覚異常，浮動性眩暈，不眠
消化器 下痢，消化不良，悪心，口渇，腹痛
その他 脱力感，耳鳴，不快，胸部圧迫感，発疹，倦怠感，咳，苦味，四肢のしびれ，筋肉痛，味覚異常
(表終了)

ザラカム配合点眼液（1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319817Q1020
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ラタノプロスト・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】576.2円/1mL
【薬価収載日】2010/04/16
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・その既往，気管支痙攣，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック(II，III度)，心原性ショック。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 虹彩色素沈着(頻度不明)。
2. 眼類天疱瘡(頻度不明)(結膜充血, 角膜上皮障害, 乾性角結膜炎, 結膜萎縮, 睫毛内反, 眼瞼眼球癒着等)。
3. 気管支痙攣(頻度不明), 呼吸困難(頻度不明), 呼吸不全(頻度不明)。
4. 心ブロック(頻度不明), 心不全(頻度不明), 心停止(頻度不明)。
5. 脳虚血(頻度不明), 脳血管障害(頻度不明)。
6. 全身性エリテマトーデス(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
眼 結膜 結膜炎, 結膜充血 結膜濾胞, 結膜障害, 眼脂, 結膜浮腫, 偽眼類天疱瘡
眼 ぶどう膜 ぶどう膜炎, 虹彩炎, 虹彩嚢腫
眼 角膜 角膜障害(角膜炎, 点状表層角膜炎, 角膜糜爛含む) 角膜知覚低下, 角膜浮腫, ヘルペス性角膜炎, 角膜沈着物, 角膜混濁, 潰瘍性角膜炎
眼 眼瞼 眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎含む), 眼瞼発赤, 眼瞼色素沈着, 多毛症 睫毛・うぶ毛の変化(濃く, 太く, 長くなる), 睫毛乱生, 眼瞼浮腫, 眼瞼部皮膚障害, 眼瞼下垂, 眼瞼溝深化
眼 その他 眼刺激(15. 9%) 眼乾燥感, 視力低下 掻痒感, 眼痛, 眼の異物感, 眼の異常感, 羞明, 霧視, 眼充血, 流涙, 視覚異常, 視野欠損, 屈折異常, 複視, 白内障, 黄斑浮腫(嚢胞様黄斑浮腫含む)・それに伴う視力低下, 前房細胞析出, 接触性皮膚炎, 眼底黄斑部の浮腫・混濁
循環器 循環器 不整脈, 動悸, 狭心症, 低血圧, 高血圧, レイノー現象, 四肢冷感, 失神
精神神経系 精神神経系 頭痛 重症筋無力症の増悪, 錯感覚, 感覚異常, 不眠, 傾眠, 悪夢, うつ病, 眩暈, リビド一減退, 精神障害(錯乱, 幻覚, 不安, 失見当識, 神経過敏含む), 記憶喪失, 行動の変化
消化器 消化器 便秘 悪心, 消化不良, 口渇, 下痢, 食欲不振, 腹痛
呼吸器 呼吸器 鼻炎 喘息, 咳, 肺水腫, 鼻閉, 上気道感染, 咽頭違和感
皮膚 皮膚 発疹 掻痒感, 脱毛症, 乾癬
代謝 代謝 高カリウム血症 糖尿病, 高コレステロール血症
生殖器 生殖器 ペイロニー病, 勃起不全
過敏症 過敏症 血管浮腫, 蕁麻疹
その他 その他 胸部不快感, 悪寒, AST上昇, ALT上昇, AI-P上昇, 尿糖陽性 耳鳴, 胸痛, 感染, 浮腫, 無力症, 不快, 関節炎, 筋肉痛, 関節痛
(表終了)

サンコバ点眼液0. 02% (0. 02%5mL1瓶)

外 外用 流通

【YJコード】1319710Q2078
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】シアノコバラミン
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】91.6円/1V
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】調節機能改善点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】調節性眼精疲労の微動調節の改善
【用法用量】1回1～2滴 1日3～5回 点眼。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
(表終了)

シアノコバラミン点眼液0. 02%「杏林」(0. 02%5mL1瓶)

外 外用 後発 流通

【YJコード】1319710Q2108
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】シアノコバラミン
【先発品】サンコバ点眼液0. 02%
【メーカー】製)キョーリンリメディオ 販)杏林製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】89.2円/1V
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】調節機能改善点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】調節性眼精疲労の微動調節の改善
【用法用量】1回1～2滴 1日3～5回 点眼。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
(表終了)

ジクアスLX点眼液3% (3%5mL1瓶)

外 外用 流通

【YJコード】1319758Q2028
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ジクアホソルナトリウム
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】770.5円/1V
【薬価収載日】2022/11/16
【標榜薬効】ドライアイ治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ドライアイ
【用法用量】1回1滴 1日3回 点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0. 1～1%未満 頻度不明
眼 眼刺激, 眼脂 眼の異常感(乾燥感, 違和感, ねばつき感), 眼の掻痒感, 結膜充血 眼痛, 眼の異物感, 眼部不快感, 眼瞼炎, 結膜下出血, 霧視, 羞明, 流涙増加, 結膜炎, 糸状角膜炎・表層角膜炎・角膜糜爛等の角膜上皮障害
その他 疼痛 頭痛, 好酸球増加, ALT上昇
(表終了)

タプコム配合点眼液 (1mL)

外 外用 流通
劇

【YJコード】1319822Q1021
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】630.5円/1mL
【薬価収載日】2014/11/25
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障, 高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性, 1日1回まで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 気管支喘息・その既往, 気管支痙攣, 重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3. コントロール不十分な心不全, 洞性徐脈, 房室ブロック(II, III度), 心原性ショック。
4. オミデネパグ イソプロピルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 虹彩色素沈着(頻度不明)。
2. 眼類天疱瘡(頻度不明)(結膜充血, 角膜上皮障害, 乾性角結膜炎, 結膜萎縮, 睫毛内反, 眼瞼眼球癒着等)。
3. 気管支痙攣, 呼吸困難, 呼吸不全(各頻度不明)。
4. 心ブロック, うっ血性心不全, 心停止(各頻度不明)。
5. 脳虚血, 脳血管障害(各頻度不明)。
6. 全身性エリテマトーデス(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 睫毛の異常(睫毛が長く, 太く, 多くなる等), 結膜充血, 点状角膜炎等の角膜上皮障害 眼瞼色素沈着, 眼の掻痒感, 眼刺激, 眼瞼炎, 乾性角結膜炎 眼瞼部多毛, 結膜下出血, 結膜炎, 眼の異物感, 眼痛, 上眼瞼溝深化, 虹彩炎, 眼重感 角膜知覚低下, 複視, 結膜浮腫, 眼の異常感(違和感, ねばつき感, 乾燥感等), 視力低下等の視力障害, 眼底黄斑部の浮腫・混濁, 眼瞼下垂, 眼脂, 羞明, 流涙増加, 霧視, 黄斑浮腫

1　神経系及び感覚器官用医薬品

循環器　失神，浮腫，レイノー現象，四肢冷感，動悸，徐脈等の不整脈，低血圧
精神神経系　頭痛 抑うつ，重症筋無力症の増悪，悪夢，感覚異常，眩暈，不眠
消化器　下痢，消化不良，悪心，口渇，腹痛
皮膚　発疹 紅斑
その他　尿糖陽性，白血球数減少 脱力感，耳鳴，不快，胸部圧迫感，倦怠感，咳，筋肉痛，尿蛋白陽性，血清カリウム上昇，AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，好酸球増加，尿酸上昇
（表終了）

タプロス点眼液0．0015%（0．0015%1mL）

外　外用　流通
劇

【YJコード】1319756Q1022
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】タフルプロスト
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】541.7円/1mL
【薬価収載日】2008/12/12
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴　1日1回　点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．オミデネパグ　イソプロピルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
虹彩色素沈着（8．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 結膜充血（31．3%），睫毛の異常（睫毛が長く，太く，多くなる等），眼の掻痒感，眼刺激，眼の異物感，眼瞼色素沈着，点状表層角膜炎等の角膜上皮障害，眼の異常感（違和感，ねばつき感，乾燥感等）眼痛，眼瞼部多毛，眼脂，羞明，眼重感，流涙増加，霧視，結膜浮腫，眼瞼炎 結膜下出血，乾性角結膜炎，結膜炎，虹彩炎 上眼瞼溝深化，黄斑浮腫
精神神経系　頭痛 眩暈
皮膚　紅斑 発疹
その他　AST上昇，尿蛋白陽性，血清カリウム上昇 ALT上昇，γ－GTP上昇，尿糖陽性，好酸球増加，白血球数減少，尿酸上昇
（表終了）

タリムス点眼液0．1%（0．1%5mL1瓶）

外　外用　流通
劇

【YJコード】1319755Q1028
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】タクロリムス水和物
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】8303.5円/1V
【薬価収載日】2008/04/18
【標榜薬効】春季カタル治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】春季カタル（抗アレルギー剤が効果不十分時）
注意
眼瞼結膜巨大乳頭の増殖があり，抗アレルギー剤の効果不十分時に使用。
【用法用量】用時振盪　1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．眼感染症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　接触皮膚炎
眼 眼の異常感（眼部熱感，眼の異物感，眼の違和感）（21．4%），眼刺激（21．4%）眼精疲労，眼乾燥 流涙増加，眼脂，眼痛，眼充血，羞明，点状角膜炎，眼掻痒症，眼部不快感，上眼瞼重圧感，眼瞼掻痒症，眼瞼浮腫，眼瞼炎，霰粒腫，瞼板腺炎，結膜充血，結膜浮腫，結膜炎，結膜糜爛，結膜沈着物，角膜糜爛，角膜潰瘍，角膜混濁，前房のフレア，前房内細胞，閃輝性融解，霧視，視力低下，緑内障増悪，眼圧上昇
呼吸器　咽喉刺激感 咽喉頭疼痛，咽頭感覚鈍麻，鼻部不快感
感染症　ヘルペス性角膜炎 眼瞼ヘルペス，膿痂疹，麦粒腫，細菌性結膜炎，単純ヘルペスウイルス結膜炎，流行性角結膜炎，細菌性角膜炎
その他　熱感（顔面），手指のしびれ感，AST（GOT）増加，γ－GTP増加，LDH増加，白血球数増加，白血球数減少，好中球増加，好中球減少，単球増加，リンパ球減少，血中尿酸増加
（表終了）

チモプトール点眼液0．5%（0．5%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319702Q2111
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)参天製薬　販)MSD
【薬価】96.9円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】0．25%製剤　1回1滴　1日2回　点眼。
効果不十分時　0．5%製剤　1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・その既往，気管支痙攣，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック（II，III度），心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．眼類天疱瘡（頻度不明）（結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等）。
2．気管支痙攣，呼吸困難，呼吸不全（各頻度不明）。
3．心ブロック，うっ血性心不全，心停止（各頻度不明）。
4．脳虚血，脳血管障害（各頻度不明）。
5．全身性エリテマトーデス（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 灼熱感・かゆみ・異物感等の眼刺激症状 霧視・視力低下等の視力障害，角膜炎・角膜糜爛・角膜上皮障害等の角膜障害，結膜充血，眼乾燥感 眼瞼炎，眼瞼浮腫，眼痛，眼瞼下垂，眼脂，羞明 角膜知覚低下，複視，結膜炎，結膜浮腫，眼底黄斑部の浮腫・混濁
循環器　徐脈等の不整脈，低血圧 失神，浮腫，レイノー現象，四肢冷感，動悸
精神神経系　頭痛，眩暈 抑うつ，重症筋無力症の増悪，悪夢，感覚異常，不眠
消化器　悪心 下痢，消化不良，腹痛，口渇
その他　不快，倦怠感 脱力感，耳鳴，筋肉痛，胸部圧迫感，発疹，咳
（表終了）

デタントール0．01%点眼液（0．01%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319747Q1023
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ブナゾシン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】172.6円/1mL
【薬価収載日】2001/08/31
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の緑内障治療薬が効果不十分時
緑内障，高眼圧症
注意
他の緑内障治療薬で眼圧下降の効果不十分時，副作用等で他の緑内障治療薬の使用が継続不可能な時に使用を検討。
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 結膜充血 眼の異物感，眼刺激，角膜糜爛・びまん性表層角膜炎等

1 神経系及び感覚器官用医薬品

の角膜上皮障害，眼の掻痒感，霧視，結膜炎 眼瞼炎，眼痛，眼乾燥感，眼部不快感，術中虹彩緊張低下症候群
その他 頭痛 動悸，頻脈
（表終了）

デュオトラバ配合点眼液（1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319820Q1022
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トラボプロスト・チモロールマレイン酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)日本アルコン
【薬価】572.5円/1mL
【薬価収載日】2010/06/11
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】緑内障，高眼圧症
注意
単剤での治療を優先。
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・その既往，気管支痙攣，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック(II，III度)，心原性ショック。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．虹彩色素沈着(頻度不明)。
2．眼類天疱瘡(頻度不明)(結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等)。
3．気管支痙攣，呼吸困難，呼吸不全(各頻度不明)。
4．心ブロック，うっ血性心不全，心停止(各頻度不明)。
5．脳虚血，脳血管障害(各頻度不明)。
6．全身性エリテマトーデス(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
眼 充血(眼充血，結膜充血) 眼掻痒症，眼刺激，眼痛，眼の異物感，点状角膜炎，眼乾燥，羞明 眼瞼掻痒症，眼部不快感，虹彩炎，霧視，瞼板腺炎 眼周囲の多毛化，睫毛の成長，睫毛剛毛化，睫毛乱生，睫毛変色，睫毛重生，睫毛色素過剰，眼の異常感，結膜炎(アレルギー性結膜炎含む)，結膜浮腫，結膜濾胞，結膜出血，角膜障害(角膜上皮障害)，角膜炎，角膜糜爛，角膜知覚低下，角膜着色，乾性角結膜炎，ぶどう膜炎，虹彩毛様体炎，眼底黄斑部の浮腫・混濁，眼脂，眼瞼色素沈着，眼瞼浮腫，眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎含む)，眼瞼紅斑，眼瞼下垂，眼瞼溝深化(上眼瞼がくぼむ，二重瞼になる等)，眼瞼縁痂皮，複視，視力障害，黄斑浮腫，視力低下，眼精疲労，前房のフレア，前房内細胞，眼部腫脹，流涙増加，白内障，眼部単純ヘルペス
精神神経系 ― ― ― 感覚異常，頭痛，眩暈，重症筋無力症の増悪，抑うつ，悪夢，不眠症，不安
循環器 ― ― 徐脈 レイノー現象，四肢冷感，低血圧，失神，浮腫，動悸，高血圧，不整脈
呼吸器 ― ― ― 咳嗽，喘息，鼻炎(アレルギー性鼻炎含む)
消化器 ― ― ― 下痢，消化不良，悪心，口渇，腹痛
皮膚 ― ― ― 発疹，アレルギー性皮膚炎，接触性皮膚炎
その他 ― ― ― 脱力感，倦怠感，不快，胸部不快感，耳鳴，筋肉痛，過敏症，胸痛，味覚異常，筋骨格痛，前立腺特異性抗原増加
(表終了)

トブラシン点眼液0．3%（3mg1mL）

外 外用 流通
劇

【YJコード】1317708Q1037
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トブラマイシン
【メーカー】製)日東メディック 販)ニデック
【薬価】36.4円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】眼科用抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌)，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)，緑膿菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)
【用法用量】1回1～2滴 1日4～5回 点眼。
適宜回数増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・アミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1．0～1．5%未満 0．5～1．0%未満 0．1～0．5%未満 頻度不明
眼 眼刺激 結膜充血 眼瞼の腫脹・発赤，眼掻痒，結膜浮腫，違和感 結膜の腫脹
過敏症 発疹
その他 刺激痛
(表終了)

トラバタンズ点眼液0．004%（0．004% 1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319754Q1023
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トラボプロスト
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)日本アルコン
【薬価】389.8円/1mL
【薬価収載日】2007/09/21
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
虹彩色素沈着(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
眼 充血，眼掻痒症 眼周囲の多毛化，結膜炎，結膜濾胞，角膜糜爛，角膜炎，ぶどう膜炎，虹彩炎，眼瞼炎，眼瞼掻痒症，眼瞼紅斑，眼瞼辺縁痂皮，眼瞼色素沈着，眼痛，眼の異物感，眼部不快感，眼乾燥，霧視，羞明，眼精疲労 睫毛の成長，睫毛剛毛化，睫毛乱生，睫毛変色，睫毛重生，睫毛色素過剰，前房内細胞析出，フレア，結膜浮腫，黄斑浮腫，アレルギー性結膜炎，虹彩毛様体炎，眼瞼溝深化(上眼瞼がくぼむ，二重瞼になる等)，眼瞼浮腫，眼脂，眼刺激，流涙，視力障害，眼の異常感，白内障，結膜出血，視力低下，眼部単純ヘルペス
精神神経系 ― ― 頭痛，不安，眩暈
循環器 ― ― 徐脈，低血圧，不整脈
呼吸器 ― 鼻炎 咳嗽，喘息，呼吸困難，アレルギー性鼻炎
消化器 ― ― 腹痛，悪心
皮膚 ― ― 発疹
その他 ― ― 過敏症，倦怠感，味覚異常，耳鳴り，筋骨格痛，前立腺特異性抗原増加，胸痛
(表終了)

ニフラン点眼液0．1%（0．1%1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319724Q1120
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】プラノプロフェン
【メーカー】製)千寿製薬 販)武田薬品工業
【薬価】28.2円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】非ステロイド性抗炎症点眼剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】外・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，上強膜炎，前眼部ブドウ膜炎，術後炎症)
【用法用量】1回1～2滴 1日4回 点眼。
適宜回数増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明

1 神経系及び感覚器官用医薬品

過敏症　発疹，蕁麻疹，接触皮膚炎
眼 刺激感 結膜充血，掻痒感，眼瞼炎 びまん性表層角膜炎，眼瞼発赤・腫脹，異物感，眼脂，結膜浮腫，流涙
呼吸器　気道狭窄
（表終了）

ハイパジールコーワ点眼液0．25%（0．25%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319740Q1056
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】ニプラジロール
【メーカー】製)興和
【薬価】181.7円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・気管支痙攣・それらの既往，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック(II，III度)，心原性ショック。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．喘息発作(0．1～5%未満)。
2．眼類天疱瘡(頻度不明)。
3．心ブロック，うっ血性心不全，心停止，洞不全症候群(各頻度不明)。
4．脳虚血，脳血管障害(各頻度不明)。
5．全身性エリテマトーデス(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
眼 結膜充血，表層角膜炎，角膜糜爛，眼瞼炎，眼瞼発赤，眼瞼浮腫，眼刺激症状(しみる感じ，灼熱感)，かゆみ，異物感，疼痛感，眼瞼が重い，かぶれ，流涙，充血，霧視，結膜炎 結膜浮腫，結膜濾胞，虹彩炎，眼乾燥感，眼底黄斑部の浮腫・混濁
肝臓　ALT，LDHの上昇
代謝系　CKの上昇
循環器　動悸，胸痛
その他 頭痛 呼吸困難 発疹
(表終了)

フルメトロン点眼液0．02%（0．02%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1315704Q1115
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】フルオロメトロン
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】24.2円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗炎症ステロイド水性懸濁点眼剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】外眼部の炎症性疾患(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，上強膜炎等)
【用法用量】用時振盪　1回1～2滴　1日2～4回　点眼。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．緑内障(頻度不明)，眼内圧亢進。
2．角膜ヘルペス，角膜真菌症，緑膿菌感染症(各頻度不明)。
3．角膜穿孔(頻度不明)。
4．後嚢下白内障(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
眼 眼刺激，結膜充血，角膜沈着物，眼瞼炎，眼瞼皮膚炎
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
皮膚 発疹
その他 創傷治癒の遅延
(表終了)

ベガモックス点眼液0．5%（0．5%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】1319753Q1029
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】モキシフロキサシン塩酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ　販)日本アルコン
【薬価】58.4円/1mL
【薬価収載日】2006/09/15
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，シュードモナス属，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
注意
本剤が適応しない菌種による感染が疑われる時は，起炎菌の確認等により，使用を検討。
【用法用量】眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)
1回1滴　1日3回　点眼。適宜増減。
眼科周術期の無菌化療法
術前　1回1滴　1日5回　点眼。術後　1回1滴　1日3回　点眼。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 眼痛 充血，刺激，角膜炎，異物感，眼瞼紅斑，霧視 眼瞼炎，結膜炎，眼瞼浮腫，結膜浮腫，眼掻痒症，潰瘍性角膜炎
その他 味覚異常 投与部位異常感覚 発疹，蕁麻疹，鼻部不快感，咽喉頭疼痛，悪心，紅斑，掻痒症
(表終了)

ベストロン点眼用0．5%（5mg1mL(溶解後の液として)）

外　外用　流通

【YJコード】1317713Q1038
【薬効分類】1．3．1　眼科用剤
【一般名】セフメノキシム塩酸塩
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】54.8円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌)，セラチア・マルセスセンス，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)，緑膿菌，アクネ菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】1回1～2滴　1日4回　点眼(添付溶解液でセフメノキシム塩酸塩5mg／mLの濃度に溶解)。
適宜回数増減。
症状に改善なければ漫然と長期投与しない。
注意
4週間を目安とし，継続投与は漫然と投与しない。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等)。
その他の副作用(発現時中止等)

1 神経系及び感覚器官用医薬品

（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹
眼 刺激感 掻痒感 眼瞼炎，眼瞼発赤・腫脹，結膜充血
（表終了）

リザベン点眼液0．5%（25mg5mL1瓶）

外 外用 流通

【YJコード】1319736Q1076
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トラニラスト
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】306.2円/1V
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】アレルギー性結膜炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性結膜炎
【用法用量】1回1～2滴　1日4回　朝・昼・夕・就寝前　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症 眼瞼皮膚炎，眼瞼炎 接触性皮膚炎（眼周囲）
眼 刺激感 結膜充血，眼瞼腫脹，掻痒感
（表終了）

ルミガン点眼液0．03%（0．03%1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319757Q1027
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ビマトプロスト
【メーカー】製)千寿製薬　販)武田薬品工業
【薬価】485円/1mL
【薬価収載日】2009/09/04
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴　1日1回　点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
虹彩色素沈着（13．2%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
眼 睫毛の異常（睫毛が長く，太く，濃くなる等）（52．8%），結膜充血（44．9%），眼瞼色素沈着（20．5%），眼掻痒症（9．6%），眼瞼の多毛症 結膜炎，結膜浮腫，結膜出血，眼瞼浮腫，眼瞼紅斑，眼瞼掻痒症，眼瞼障害，眼脂，点状角膜炎，角膜糜爛，眼刺激，霧視，眼の異常感（違和感，べとつき感等），くぼんだ眼 結膜色素沈着，眼瞼炎，眼瞼下垂，霰粒腫，マイボーム腺梗塞，糸状角膜炎，角膜血管新生，虹彩炎，眼乾燥，眼の灼熱感，眼痛，羞明，白内障，眼精疲労，視力低下，視覚障害，眼球運動失調，眼圧上昇 ぶどう膜炎，黄斑浮腫，乾性角結膜炎，流涙，涙液分泌低下
循環器　狭心症発作，高血圧
消化器　胃不快感
呼吸器　咳嗽
その他　尿潜血，CK増加 口唇疱疹，浮動性眩暈，頭痛，胸痛，耳鳴，白血球数増加，ALT（GPT）増加，γ－GTP増加
（表終了）

レスキュラ点眼液0．12%（0．12%1mL）

外 外用 流通

【YJコード】1319732Q1035
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】イソプロピルウノプロストン
【メーカー】製)日東メディック　販)参天製薬
【薬価】186.6円/1mL
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】イオンチャネル開口薬／緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴　1日2回　点眼。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 1～2%未満 0．1～1%未満 頻度不明
眼 結膜 結膜充血 眼脂，結膜浮腫
眼 角膜　角膜炎 角膜糜爛，角膜点状混濁
眼 虹彩　虹彩炎，虹彩色素沈着
眼 眼瞼　眼瞼発赤，眼瞼炎 眼瞼色素沈着，眼瞼部多毛
眼 眼刺激　眼痛，一過性眼刺激，灼熱感，異物感，違和感 かゆみ
眼 その他　霧視 近見視力障害，複視，視力異常（視力低下，暗黒感，一過性青視症等），一過性近視
その他　頭痛，頭重，頭部圧迫感，口腔内乾燥，鼻閉，舌先のしびれ，悪心，嘔吐，動悸
（表終了）

レバミピド懸濁性点眼液2%「参天」（2%5mL1瓶）

外 外用 後発 流通

【YJコード】1319760Q2025
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】レバミピド
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】432.9円/1V
【薬価収載日】2023/06/16
【標榜薬効】ドライアイ治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ドライアイ
注意
涙液異常に伴う角結膜上皮障害が認められるドライアイに使用。
【用法用量】1回1滴　1日4回　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
涙道閉塞（0．1～5%未満），涙嚢炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満
過敏症　発疹，蕁麻疹
眼　眼脂，眼の充血，眼痛，異物感，刺激感，霧視，不快感，流涙増加，掻痒，眼瞼炎，眼瞼浮腫，結膜炎，乾燥感，角膜障害，角膜炎，潰瘍性角膜炎，視神経乳頭出血，視力障害，視力低下，複視
消化器 苦味 胃部不快感，悪心，嘔吐，食欲不振，口渇，舌炎，舌変色
その他　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，コレステロール上昇，LDH上昇，白血球減少，カリウム上昇，BUN上昇，尿糖陽性，気管支炎，副鼻腔炎，鼻炎，歯肉膿瘍，浮動性眩暈，頭痛
（表終了）

レボフロキサシン点眼液0．5%「日点」（0．5%1mL）

外 外用 後発 流通

【YJコード】1319742Q1217
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【先発品】クラビット点眼液0．5%
【メーカー】製)ロートニッテン
【薬価】24.2円/1mL
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌），シュードモナス属，緑膿菌，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎（角膜潰瘍含む），眼科周術期の無菌化療法

1 神経系及び感覚器官用医薬品

注意
MRSAによる感染症には，速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与。
【用法用量】1回1滴 1日3回 点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・オフロキサシン・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 眼刺激，結膜炎，眼の掻痒感 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，眼痛，眼瞼炎
皮膚 蕁麻疹，発疹，掻痒
（表終了）

1．3．2 耳鼻科用剤

エリザス点鼻粉末200μg28噴霧用（5．6mg1瓶）
外 外用 流通

【YJコード】1329712R1021
【薬効分類】1．3．2 耳鼻科用剤
【一般名】デキサメタゾンシペシル酸エステル
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】799.8円/1V
【薬価収載日】2012/05/31
【標榜薬効】粉末噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回各鼻腔に1噴霧（デキサメタゾンシペシル酸エステル 200μg） 1日1回 噴霧。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，全身の真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
鼻腔 鼻部不快感
口腔・呼吸器 咽頭不快感
肝臓 ALT上昇 AST上昇，総ビリルビン上昇，直接ビリルビン上昇
血液 白血球数増加，白血球数減少，好中球数減少
その他 トリグリセリド上昇
（表終了）

コールタイジン点鼻液（1mL）
外 外用 流通

【YJコード】1329800X1034
【薬効分類】1．3．2 耳鼻科用剤
【一般名】テトラヒドロゾリン塩酸塩・プレドニゾロン
【メーカー】製)陽進堂
【薬価】7.5円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】血管収縮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】諸種疾患による鼻充血・うっ血
【用法用量】6歳以上の小児，成人に使用。
成人 3～5時間ごと2～3回 鼻腔内 噴霧，又は2～4滴 鼻腔内 点鼻。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．乳児，2歳未満の幼児。
3．MAO阻害剤の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 1%以上 頻度不明
過敏症 過敏症状
精神神経系 傾眠，頭痛，眩暈，振戦，不眠症，脱力感
循環器 血圧上昇，心悸亢進，不整脈
呼吸器 乾燥感，鼻漏 鼻や喉の刺激（感）熱感，反応性充血，鼻局所の化膿性感染症誘発
その他 口渇 苦味 反応性の低下，創傷治癒の遅延
（表終了）

ザジテン点鼻液0．05%（6．048mg8mL1瓶）
外 外用 流通

【YJコード】1329705Q1298
【薬効分類】1．3．2 耳鼻科用剤
【一般名】ケトチフェンフマル酸塩
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】408.8円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】アレルギー性鼻炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
【用法用量】1回各鼻腔に1噴霧（ケトチフェン 0．05mg） 1日4回 朝・昼・夕・就寝前 専用の鼻用定量噴霧器で 噴霧吸入。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
鼻腔 鼻乾燥感，鼻刺激感 ー
精神神経系 眠気，脱力感 頭痛
（表終了）

ナゾネックス点鼻液50μg56噴霧用（5mg10g1瓶）
外 外用 流通

【YJコード】1329710Q1027
【薬効分類】1．3．2 耳鼻科用剤
【一般名】モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD 販)杏林製薬 販)シェリング・プラウ
【薬価】760.5円/1V
【薬価収載日】2008/09/12
【標榜薬効】定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人
1日各鼻腔に2噴霧（モメタゾンフランカルボン酸エステル 200μg）
1日1回 噴霧。
小児
12歳未満 1日各鼻腔に1噴霧（モメタゾンフランカルボン酸エステル 100μg） 1日1回 噴霧。12歳以上 1日各鼻腔に2噴霧（モメタゾンフランカルボン酸エステル 200μg） 1日1回 噴霧。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，全身性の真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹等の発疹
鼻腔 鼻症状（刺激感，掻痒感，乾燥感，疼痛，発赤，不快感等），真菌検査陽性 鼻出血，鼻漏，鼻閉，くしゃみ，嗅覚障害 鼻中隔穿孔，鼻潰瘍，鼻症状（灼熱感）
口腔・呼吸器 咽喉頭症状（刺激感，疼痛，不快感，乾燥等）咳嗽，上気道炎
肝臓 肝機能障害，ALT上昇，AST上昇，ビリルビン上昇，AlーP上昇，ウロビリン尿
血液 好中球増多，好酸球増多，単球増多，白血球減少，白血球増多，白血球分画異常，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，リンパ球減少，血小板減少，カリウム上昇
精神神経系 頭痛，倦怠感
眼 眼圧亢進，霧視，中心性漿液性網脈絡膜症

1 神経系及び感覚器官用医薬品

その他 コルチゾール減少 蛋白尿，尿糖，BUN上昇，コルチゾール上昇 味覚障害
（表終了）

1．3．3 鎮暈剤

セファドール錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1339002F1438
【薬効分類】1．3．3 鎮暈剤
【一般名】ジフェニドール塩酸塩
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】6.5円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗めまい剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】内耳障害による眩暈
【用法用量】成人 1回1～2錠 1日3回 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な腎機能障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動感・不安定感，頭痛・頭重感 幻覚 錯乱
皮膚 発疹・蕁麻疹
眼 調節障害 散瞳
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AI－Pの上昇等）
消化器 口渇，食欲不振，胃・腹部不快感，胸やけ，悪心・嘔吐，胃痛
その他 傾眠，動悸，顔面熱感，口内違和感 排尿困難
（表終了）

メリスロン錠6mg（6mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】1339005F1296
【薬効分類】1．3．3 鎮暈剤
【一般名】ベタヒスチンメシル酸塩
【メーカー】製)エーザイ 販)科研製薬
【薬価】9円/1T
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】めまい・平衡障害治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記に伴う眩暈・眩暈感
メニエール病，メニエール症候群，眩暈症
【用法用量】成人 1回1～2錠（ベタヒスチンメシル酸塩 6～12mg）
1日3回 食後 内服。適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 悪心・嘔吐
過敏症 発疹
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

2 個々の器官系用医薬品

2．1 循環器官用薬

2．1．1 強心剤

ジゴシン散0．1%（0．1%1g）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2113004B1033
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】ジゴキシン
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬
【薬価】25.9円/1g
【薬価収載日】2001/09/07
【ハイリスク分類】ジギタリス製剤
【標榜薬効】ジギタリス配糖体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記によるうっ血性心不全(肺水腫，心臓喘息等含む)先天性心疾患，弁膜疾患，高血圧症，虚血性心疾患(心筋梗塞，狭心症等)，肺性心(肺血栓・塞栓症，肺気腫，肺線維症等によるもの)，その他の心疾患(心膜炎，心筋疾患等)，腎疾患，甲状腺機能亢進症・低下症等
2．心房細動・粗動による頻脈
3．発作性上室性頻拍
4．下記の心不全・各種頻脈の予防と治療
手術，急性熱性疾患，出産，ショック，急性中毒
【用法用量】1．成人
(1)．急速飽和療法(飽和量 1～4mg)初回 0．5～1mg 内服。以後0．5mg 6～8時間ごと 内服。効果があるまで続ける。
(2)．比較的急速飽和療法ができる。
(3)．緩徐飽和療法ができる。
(4)．維持療法 1日0．25～0．5mg 内服。
2．小児
(1)．急速飽和療法 下記量 1日3～4回 分割 内服。
2歳以下 1日0．06～0．08mg／kg。
2歳以上 1日0．04～0．06mg／kg。
(2)．維持療法 飽和量の1／5～1／3 内服。
注意
飽和療法は過量になりやすいので，緊急でなければ初期から維持療法も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．房室ブロック，洞房ブロック。
2．ジギタリス中毒。
3．閉塞性心筋疾患(特発性肥大性大動脈弁下狭窄等)。
4．本剤の成分・ジギタリス剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ジギタリス中毒(頻度不明)(高度の徐脈，二段脈，多源性心室性期外収縮，発作性心房性頻拍等の不整脈)，重篤な房室ブロック，心室性頻拍症，心室細動，消化器・眼・精神神経系症状。
2．非閉塞性腸間膜虚血(頻度不明)(激しい腹痛，血便等)，腸管壊死。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢等
眼 視覚異常(光がないのにちらちら見える，黄視，緑視，複視等)
精神神経系 眩暈，頭痛，失見当識，錯乱，せん妄等
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
血液 血小板数減少
過敏症 発疹，蕁麻疹，紫斑，浮腫等
その他 女性型乳房，筋力低下
(表終了)

ジゴシン錠0．25mg（0．25mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2113003F1057
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】ジゴキシン
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2001/09/07
【ハイリスク分類】ジギタリス製剤
【標榜薬効】ジギタリス配糖体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記によるうっ血性心不全(肺水腫，心臓喘息等含む)先天性心疾患，弁膜疾患，高血圧症，虚血性心疾患(心筋梗塞，狭心症等)，肺性心(肺血栓・塞栓症，肺気腫，肺線維症等によるもの)，その他の心疾患(心膜炎，心筋疾患等)，腎疾患，甲状腺機能亢進症・低下症等
2．心房細動・粗動による頻脈
3．発作性上室性頻拍
4．下記の心不全・各種頻脈の予防と治療
手術，急性熱性疾患，出産，ショック，急性中毒
【用法用量】1．成人
(1)．急速飽和療法(飽和量 1～4mg)初回 0．5～1mg 内服。以後0．5mg 6～8時間ごと 内服。効果があるまで続ける。
(2)．比較的急速飽和療法ができる。
(3)．緩徐飽和療法ができる。
(4)．維持療法 1日0．25～0．5mg 内服。
2．小児
(1)．急速飽和療法 下記量 1日3～4回 分割 内服。
2歳以下 1日0．06～0．08mg／kg。
2歳以上 1日0．04～0．06mg／kg。
(2)．維持療法 飽和量の1／5～1／3 内服。
注意
飽和療法は過量になりやすいので，緊急でなければ初期から維持療法も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．房室ブロック，洞房ブロック。
2．ジギタリス中毒。
3．閉塞性心筋疾患(特発性肥大性大動脈弁下狭窄等)。
4．本剤の成分・ジギタリス剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ジギタリス中毒(頻度不明)(高度の徐脈，二段脈，多源性心室性期外収縮，発作性心房性頻拍等の不整脈)，重篤な房室ブロック，心室性頻拍症，心室細動，消化器・眼・精神神経系症状。
2．非閉塞性腸間膜虚血(頻度不明)(激しい腹痛，血便等)，腸管壊死。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢等
眼 視覚異常(光がないのにちらちら見える，黄視，緑視，複視等)
精神神経系 眩暈，頭痛，失見当識，錯乱，せん妄等
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
血液 血小板数減少
過敏症 発疹，蕁麻疹，紫斑，浮腫等
その他 女性型乳房，筋力低下
(表終了)

プロタノールS錠15mg（15mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2119002G1035
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】dl－イソプレナリン塩酸塩
【メーカー】製)興和
【薬価】20.3円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】心機能・組織循環促進剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】各種の高度の徐脈，アダムス・ストークス症候群の発作防止
【用法用量】成人 1回15mg(本剤 1錠) 1日3～4回 内服。
適宜回数増減。

■禁忌

【禁忌】1．特発性肥大性大動脈弁下狭窄症。
2．ジギタリス中毒。
3．カテコールアミン(アドレナリン等)・エフェドリン・メチルエフェドリン・メチルエフェドリンサッカリネート・フェノテロール・ドロキシドパの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心室性期外収縮，心室性頻拍，致死的不整脈(各頻度不明)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)(β2刺激剤)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 頻度不明
精神神経系 頭痛，振戦，発汗，神経過敏
消化器 悪心・嘔吐，胃痛，下痢，鼓腸
循環器 心悸亢進，頻脈，顔面潮紅・蒼白，血圧変動
過敏症 発疹
（表終了）

ラニラピッド錠0．05mg（0．05mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2113005F2028
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】メチルジゴキシン
【メーカー】製)中外製薬 販)アステラス製薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】1999/07/09
【ハイリスク分類】ジギタリス製剤
【標榜薬効】強心配糖体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記によるうっ血性心不全
先天性心疾患，弁膜疾患，高血圧症，虚血性心疾患（心筋梗塞，狭心症等）
○心房細動・粗動による頻脈，発作性上室性頻拍
【用法用量】・急速飽和療法（飽和量 0．6～1．8mg）
初回 0．2～0．3mg（本剤 4～6錠），以後1回0．2mg（本剤 4錠）
1日3回 内服。効果があるまで続ける。
比較的急速飽和療法，緩徐飽和療法ができる。
・維持療法
1日0．1～0．2mg（本剤 2～4錠） 内服。
注意
飽和療法は過量になりやすいので，緊急でなければ初期から維持療法も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．房室ブロック，洞房ブロック。
2．ジギタリス中毒。
3．閉塞性心筋疾患（特発性肥大性大動脈弁下狭窄等）。
4．本剤の成分・ジギタリス剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ジギタリス中毒（頻度不明）（高度の徐脈，二段脈，多源性心室性期外収縮，発作性心房性頻拍等の不整脈），重篤な房室ブロック，心室性頻拍症，心室細動，消化器・眼・精神神経系症状。
2．非閉塞性腸間膜虚血（頻度不明）（激しい腹痛，血便等），腸管壊死。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%以上 0．1%未満 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐（0．8%），食欲不振（0．6%），下痢 下腹部不快感，腹部膨満感，腹痛
循環器 不整脈（0．5%），動悸 頻脈
眼 霧視，羞明 光がないのにちらちらみえる，黄視，緑視，複視
精神神経系 頭痛 眩暈 失見当識，錯乱，せん妄
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
血液 血小板数減少
過敏症 発疹 蕁麻疹，紫斑，浮腫
その他 女性型乳房 筋力低下
（表終了）

2．1．2 不整脈用剤

アスペノンカプセル20（20mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129004M2022
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】アプリンジン塩酸塩
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】30.1円/1C
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1日40mgから開始 効果不十分時 60mgまで増量 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1日60mgを超える投与は，副作用発現の可能性増大。非線形の薬物動態を示すため，増量時は注意。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な刺激伝導障害（完全房室ブロック等）。
2．重篤なうっ血性心不全。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．催不整脈（頻度不明），心室頻拍（Torsades de pointes含む）等。
2．無顆粒球症（頻度不明）（発熱，咽頭痛，全身倦怠感等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，総ビリルビンの上昇 肝炎，胆汁うっ滞性肝炎
血液 白血球減少 貧血，顆粒球減少 好酸球増多，血小板減少
循環器 徐脈，前胸部痛，PQ・QRS・QTcの延長，血圧低下 動悸，房室ブロック，洞停止，心不全
精神神経系 振戦，眩暈・ふらつき 眠気，足のもつれ，しびれ感，不眠，抑うつ症状，頭がボーとする，沈みこむ感じ 幻覚，言語障害
視覚器 視力異常，緑視，複視
消化器 悪心・嘔気，食欲不振，口渇，嘔吐 消化不良，下痢，便秘，腹痛
過敏症 発疹 掻痒感
腎臓 排尿障害 腎機能異常
その他 発熱 倦怠感，頭痛，頭重感，抗核抗体の陽性化 CKの上昇，発汗
（表終了）

アミサリン錠125mg（125mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2121001F1025
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】プロカインアミド塩酸塩
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共 販)第一製薬
【薬価】10.4円/1T
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．期外収縮（上室性，心室性）
2．急性心筋梗塞の心室性不整脈の予防
3．新鮮心房細動
4．発作性頻拍（上室性，心室性）の治療・予防
5．発作性心房細動の予防
6．電気ショック療法との併用，その後の洞調律の維持
7．手術・麻酔に伴う不整脈の予防
8．陳旧性心房細動
【用法用量】成人 1回0．25～0．5g 3～6時間ごと 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．刺激伝導障害（房室ブロック，洞房ブロック，脚ブロック等）。
2．重篤なうっ血性心不全。
3．モキシフロキサシン塩酸塩（経口剤）・バルデナフィル塩酸塩水和物・アミオダロン塩酸塩（注射剤）・トレミフェンクエン酸塩の投与患者。
4．重症筋無力症。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心室頻拍，心室粗動，心室細動，心不全（各頻度不明），心電図上QRS幅の増大，血圧下降。
2．SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，筋肉痛，関節炎，多発性関節痛，胸部痛，心膜炎，胸水等）。
3．無顆粒球症（頻度不明）（発熱，咽頭痛，倦怠感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1%未満
過敏症 － 発熱，悪寒，発疹，好酸球増多等
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，下痢 －
精神神経系 頭痛，不眠，幻視，幻聴 －
血液 － 白血球減少，血小板減少，貧血等
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

サンリズムカプセル50mg（50mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129008M2020
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ピルシカイニド塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】35.2円/1C
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1日150mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
重症・効果不十分時 1日225mgまで。
注意
1．透析を要する腎不全 1日25mgから開始等慎重投与。
2．高齢者 1回25mgから開始等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．うっ血性心不全。
2．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心室細動(頻度不明)，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)，洞停止(頻度不明)，完全房室ブロック(頻度不明)，失神(頻度不明)，心不全(頻度不明)，ショック，心停止。
2．ショック等による急性腎障害(頻度不明)。
3．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 QRS幅の増大，QT延長，房室ブロック，洞房ブロック，胸部不快感，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮，心房細動，上室性頻拍 胸痛，徐脈，心房粗動，血圧低下
消化器 胃痛，悪心，嘔吐，口渇，下痢，腹部不快感 便秘，食欲不振
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気 振戦，不眠，しびれ
血液 好酸球増加，リンパ球減少 白血球数減少，血小板数減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒感
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白陽性
泌尿器 排尿困難
その他 全身倦怠感，CK上昇，脱力感 熱感
(表終了)

シベノール錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129007F2027
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】シベンゾリンコハク酸塩
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】29.3円/1T
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1日300mgから開始 効果不十分時 450mgまで増量 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
腎機能障害 血清クレアチニン値(Scr)を指標に減量等用法・用量の調整。
・軽度～中等度障害例(Scr 1．3～2．9mg／dL) 消失半減期が腎機能正常例に比し約1．5倍に延長。
・高度障害例(Scr 3mg／dL以上) 消失半減期が腎機能正常例に比し約3倍に延長。

■禁忌

【禁忌】1．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
2．うっ血性心不全。
3．透析中。
4．閉塞隅角緑内障。
5．尿貯留傾向。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．バルデナフィル塩酸塩水和物・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモド フマル酸・エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．催不整脈作用(心室細動，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各頻度不明)，上室性不整脈(1%未満)，心停止)。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，血圧低下，発疹，浮腫等)。
3．心不全，心原性ショック(各頻度不明)。
4．低血糖(1%未満)(脱力・倦怠感，発汗，冷感，意識障害，錯乱等)。
5．循環不全による重篤な肝障害(頻度不明)(ショック肝(トランスアミナーゼ，LDHの急激な上昇))，腎障害。
6．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
7．顆粒球減少，白血球減少(各1%未満)，貧血，血小板減少(各頻度不明)。
8．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
循環器 PQ延長，QRS幅延長，QTc延長，房室ブロック，動悸 脚ブロック，洞結節機能低下，徐脈，血圧低下
肝臓 AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇
泌尿器 尿閉，排尿困難等の排尿障害
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
眼 光視症，霧視等の視調節障害
過敏症 発疹，紅斑，掻痒感
精神神経系 ふらつき 頭痛，頭重，眩暈，眠気，振戦，立ちくらみ，幻覚
消化器 口渇，悪心 食欲不振，便秘，嘔吐，口内炎 腹痛，腹部不快感
その他 脱力感，倦怠感，冷汗，胸部圧迫感，息切れ，関節痛，鼻乾燥，インポテンス
(表終了)

シベノール錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129007F1020
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】シベンゾリンコハク酸塩
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】17.6円/1T
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1日300mgから開始 効果不十分時 450mgまで増量 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
腎機能障害 血清クレアチニン値(Scr)を指標に減量等用法・用量の調整。
・軽度～中等度障害例(Scr 1．3～2．9mg／dL) 消失半減期が腎機能正常例に比し約1．5倍に延長。
・高度障害例(Scr 3mg／dL以上) 消失半減期が腎機能正常例に比し約3倍に延長。

■禁忌

【禁忌】1．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
2．うっ血性心不全。
3．透析中。
4．閉塞隅角緑内障。
5．尿貯留傾向。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．バルデナフィル塩酸塩水和物・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモド フマル酸・エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．催不整脈作用(心室細動，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各頻度不明)，上室性不整脈(1%未満)，心停止)。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，血圧低下，発疹，浮腫等)。
3．心不全，心原性ショック(各頻度不明)。
4．低血糖(1%未満)(脱力・倦怠感，発汗，冷感，意識障害，錯乱等)。
5．循環不全による重篤な肝障害(頻度不明)(ショック肝(トランスアミナーゼ，LDHの急激な上昇))，腎障害。
6．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
7．顆粒球減少，白血球減少(各1%未満)，貧血，血小板減少(各頻度不明)。
8．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
その他の副作用(発現時中止等)

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
循環器 PQ延長，QRS幅延長，QTc延長，房室ブロック，動悸 脚ブロック，洞結節機能低下，徐脈，血圧低下
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
泌尿器 尿閉，排尿困難等の排尿障害
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
眼 光視症，霧視等の視調節障害
過敏症 発疹，紅斑，掻痒感
精神神経系 ふらつき 頭痛，頭重，眩暈，眠気，振戦，立ちくらみ，幻覚
消化器 口渇，悪心 食欲不振，便秘，嘔吐，口内炎 腹痛，腹部不快感
その他 脱力感，倦怠感，冷汗，胸部圧迫感，息切れ，関節痛，鼻乾燥，インポテンス
（表終了）

テノーミン錠50（50mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2123011F2437
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】アテノロール
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)アストラゼネカ
【薬価】9.3円/1T
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】心臓選択性β遮断剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○本態性高血圧症（軽症～中等症）
○狭心症
○頻脈性不整脈（洞性頻脈，期外収縮）
【用法用量】成人 1回1錠（アテノロール 50mg） 1日1回 内服。適宜増減，1日最高2錠（アテノロール 100mg） 1日1回まで。
注意
褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．高度・症状を呈する徐脈，房室ブロック（II，III度），洞房ブロック，洞不全症候群。
4．心原性ショック。
5．肺高血圧による右心不全。
6．うっ血性心不全。
7．低血圧症。
8．重度の末梢循環障害（壊疽等）。
9．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．徐脈，心不全，心胸比増大，房室ブロック，洞房ブロック，失神を伴う起立性低血圧（各頻度不明）。
2．呼吸困難，喘鳴（各0．1～5%未満），気管支痙攣（0．1%未満）。
3．血小板減少症，紫斑病（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒
眼 視力異常 霧視，涙液分泌減少
循環器 低血圧 胸部圧迫感，動悸，四肢冷感，レイノー症状，間欠性跛行
精神神経系 頭痛，眩暈 うつ状態（神経病性うつ病），耳鳴，耳痛 眩暈，不眠，眠気，錯乱，悪夢，気分の変化，精神変調
消化器 口渇，嘔吐，食欲不振，下痢，便秘，腹痛 悪心・嘔気 腹部不快感，軟便
肝臓 AST，ALTの上昇，胆汁うっ滞性肝炎
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇
その他 倦怠 CK（CPK）の上昇 脱力感，しびれ感，浮腫・末梢性浮腫，高脂血症，脱毛，冷汗，頻尿，高血糖，高尿酸血症，乾癬様皮疹，乾癬悪化，抗核抗体陽性化，勃起障害
（表終了）

ピメノールカプセル50mg（50mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129012M1020
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ピルメノール塩酸塩水和物
【メーカー】製)ファイザー 販)大日本住友製薬
【薬価】39.2円/1C
【薬価収載日】1994/12/02
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】持続性不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈（心室性）
注意
他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時のみ適用を考慮。
【用法用量】成人 1回100mg 1日2回 内服。
適宜増減。
注意
腎機能障害 内因性クレアチニンクリアランス（Ccr）を指標とし減量等，用法・用量の調整。
・軽度～中等度障害例（30≦Ccr＜70mL／分）
半減期，血中濃度曲線下面積は，腎機能正常例に比し，それぞれ約1．5倍，約2倍に延長・増大。
・高度障害例（Ccr＜30mL／分）
半減期，血中濃度曲線下面積は，腎機能正常例に比し，それぞれ約1．5倍，約3倍に延長・増大。

■禁忌

【禁忌】1．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
2．うっ血性心不全。
3．閉塞隅角緑内障。
4．尿貯留傾向。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．バルデナフィル，モキシフロキサシン，アミオダロン（注射剤），トレミフェンクエン酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全（0．6%），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（0．6%），心室細動（頻度不明），房室ブロック（頻度不明），洞停止（頻度不明），失神（頻度不明）。
2．低血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，胸部不快感 QT延長，徐脈，心室性期外収縮，脚ブロック
血液 リンパ球増多，好中球減少 好酸球増多，血小板減少
肝臓 AST・ALT・AI－P・γ－GTP・LDH・ビリルビン上昇等の肝機能障害
腎臓 クレアチニンの上昇 BUNの上昇
消化器 胃部不快感，悪心，胸やけ，腹痛 便秘，口渇，下痢，食欲不振，嘔吐，腹部膨満感，口内炎
泌尿器 排尿困難 尿閉，排尿障害，尿量減少
視覚器 霧視，複視
精神神経系 頭痛，不眠 眩暈，手足のしびれ 頭重感，ふらつき，眠気
過敏症 発疹，蕁麻疹
その他 全身倦怠感 口中苦味，疲労感，気分不快感，血糖値の上昇，ほてり
（表終了）

メインテート錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2123016F2189
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ビソプロロールフマル酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】17.7円/1T
【薬価収載日】2012/06/22
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】選択的β1アンタゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】○本態性高血圧症（軽症～中等症）
○狭心症
○心室性期外収縮
○下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
○頻脈性心房細動
【用法用量】本態性高血圧症（軽症～中等症），狭心症，心室性期外収縮
成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回0．625mgから開始 1日1回 内服。2週間以上内服し，忍容性がある時，1回1．25mg 1日1回に増量。その後忍容性がある時，4週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は1回量を0．625，1．25，2．5，3．75，5mgとして必ず段階的に行い，いずれも1日1回 内服。維持量として，1回1．25～5mg 1日1回 内服。開始量はさらに低用量，増量幅はさらに小さくしてよい。維持量は適宜増減，1日最高5mg 1日1回まで。

2 個々の器官系用医薬品

頻脈性心房細動
成人 1回2．5mgから開始 1日1回 内服。効果不十分時 1回5mg 1日1回に増量。適宜増減，1日最高5mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。
本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮，頻脈性心房細動
2．慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮
3．頻脈性心房細動を合併する本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮 頻脈性心房細動の用法・用量は1日1回2．5mgから開始，血圧や心拍数，症状等に応じ，開始量を設定。
慢性心不全
4．必ず1日1回0．625mg又はさらに低用量から開始し，忍容性をもとに患者ごとに維持量を設定。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌
【禁忌】1．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック(II，III度)，洞房ブロック，洞不全症候群。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．心原性ショック。
4．肺高血圧による右心不全。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．重度の末梢循環障害（壊疽等）。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心不全（高血圧症等 頻度不明，慢性心不全 7．0%），完全房室ブロック，高度徐脈，洞不全症候群（高血圧症等 各頻度不明，慢性心不全 各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮，頻脈性心房細動）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈，心胸比増大，低血圧，動悸，心室性期外収縮 房室ブロック，心房細動，胸痛
精神神経系 頭痛・頭重感，眩暈，ふらつき，立ちくらみ，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹部不快感，食欲不振 下痢
肝臓 AST，ALT，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇 肝腫大
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニン，BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難 気管支痙攣
過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視，涙液分泌減少
その他 倦怠感，浮腫，脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，悪寒，しびれ感，CKの上昇 糖尿病増悪，血清脂質の上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈 心胸比増大，房室ブロック，低血圧，動悸，胸痛 心房細動，心室性期外収縮
精神神経系 眩暈（16．0%），立ちくらみ 頭痛・頭重感，ふらつき，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，腹部不快感，食欲不振 嘔吐，胃部不快感，下痢
肝臓 AST，ALTの上昇 肝腫大，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニンの上昇 BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難（11．0%） 気管支痙攣
過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視 涙液分泌減少
その他 倦怠感（10．0%），浮腫（11．0%），血清脂質の上昇 脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，しびれ感，CKの上昇，糖尿病増悪 悪寒
（表終了）

メキシチールカプセル100mg（100mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129003M2028
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】メキシレチン塩酸塩
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】13.2円/1C
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈・糖尿病性神経障害治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．頻脈性不整脈（心室性）
2．糖尿病性神経障害に伴う自覚症状（自発痛，しびれ感）の改善
【用法用量】頻脈性不整脈（心室性）
成人 1日300mgから開始 効果不十分時 450mgまで増量 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状（自発痛，しびれ感）の改善
成人 1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。
注意
頻脈性不整脈（心室性）
1．1日450mgを超える投与は，副作用の可能性増大。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状（自発痛，しびれ感）の改善
2．2週間投与して効果なければ中止。
3．1日300mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な刺激伝導障害（ペースメーカー未使用のII～III度房室ブロック等）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明），紅皮症（0．3%未満）。
2．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），1型糖尿病，ケトアシドーシス。
3．心室頻拍（Torsades de pointes含む），房室ブロック（各頻度不明）。
4．腎不全（頻度不明）。
5．幻覚，錯乱（各頻度不明）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
7．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）。
8．心停止，心室細動，失神，洞房ブロック（各頻度不明），徐脈（0．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，徐脈 起立時眩暈，QRS延長，血圧上昇，浮腫，胸部圧迫感，心房細動，低血圧
消化器 食欲不振，消化不良，腹痛 胃・腹部不快感，便秘，下痢，腹部膨満感 悪心・嘔吐，胸やけ，口渇
精神神経系 振戦，眩暈 頭痛，不眠，耳鳴，眼振，複視 しびれ感，眠気，いらいら感，発汗，意識障害，痙攣，せん妄，構音障害
過敏症 掻痒感，発熱多形（滲出性）紅斑 全身発疹，蕁麻疹，紅斑
肝臓 尿ウロビリノゲンの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇 腎機能障害
血液 赤血球減少，ヘマトクリット減少，好酸球増加症，リンパ球減少 白血球数異常，血色素量減少，血小板数異常，好中球増多，顆粒球減少
泌尿器 排尿困難，尿失禁 尿閉
その他 咳，血清カリウム，総コレステロールの上昇，ほてり 咽頭異和感，にがみ，倦怠感，足のこわばり，脱力感，味覚異常
（表終了）

リスモダンR錠150mg（150mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129005F1129
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ジソピラミドリン酸塩
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)サノフィ 販)中外製薬
【薬価】26.8円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】徐放性不整脈治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1回1錠 1日2回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
2．うっ血性心不全。
3．透析患者を含む重篤な腎機能障害。
4．高度な肝機能障害。
5．スパルフロキサシン・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩（注射剤）・トレミフェンクエン酸塩・バルデナフィル塩酸塩水和物・アミオダロン塩酸塩（注射剤）・エリグルスタット酒石酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモドフマル酸塩の投与患者。
6．閉塞隅角緑内障。
7．尿貯留傾向。
8．本剤の成分に過敏症の既往。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心停止(頻度不明), 心室細動(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明), 心室粗動(頻度不明), 心房粗動(頻度不明), 房室ブロック(頻度不明), 洞停止(頻度不明), 失神(頻度不明), 心不全悪化等(頻度不明)。
2. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 倦怠感, 高度の空腹感, 冷汗, 嘔気, 不安, 意識障害(意識混濁, 昏睡)等)。
3. 無顆粒球症(頻度不明)。
4. 肝機能障害(0. 9%)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
5. 麻痺性イレウス(頻度不明)。
6. 緑内障悪化(頻度不明)。
7. 痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 QT延長 徐脈, 動悸 QRS幅増大, 心胸比増大, 血圧低下
血液 貧血, 血小板減少
消化器 口渇, 便秘, 胃部不快感 嘔気, 胸やけ, 胃のもたれ, 腹痛, 食欲不振, 下痢, 腹部膨満感, 口内異常感 嘔吐
肝臓 AST, ALT, AI－P, ビリルビンの上昇等
腎臓 腎機能障害
泌尿器 尿閉, 排尿障害, 排尿困難 頻尿, 乏尿, 排尿時間延長 夜尿, 多尿, 尿の停滞感
視覚器 複視 霧視, 黄視, 光に対する過敏症, 視力障害
精神神経系 頭痛 眩暈, しびれ 眠気, 不眠, しびれ感, 感覚障害, 振戦
過敏症 発疹等
その他 全身倦怠感, 胸部不快感, 顔のほてり, 鼻乾燥, 呼吸困難, インポテンス 胸部圧迫感, 胸痛, 顔面灼熱感, 浮腫, ほてり, 嗄声, 月経異常, 女性型乳房
(表終了)

2. 1. 3 利尿剤

アルダクトンA錠25mg（25mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2133001F1522
【薬効分類】2. 1. 3 利尿剤
【一般名】スピロノラクトン
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】13.1円/1T
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】抗アルドステロン性利尿・降圧剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症(本態性, 腎性等)
2. 心性浮腫(うっ血性心不全), 腎性浮腫, 肝性浮腫, 特発性浮腫, 悪性腫瘍に伴う浮腫・腹水, 栄養失調性浮腫
3. 原発性アルドステロン症の診断・症状の改善
【用法用量】成人 1日50～100mg 分割 内服。
適宜増減。
「原発性アルドステロン症の診断・症状の改善」の他は, 他剤と併用が多い。

■禁忌
【禁忌】1. 無尿・急性腎不全。
2. 高カリウム血症。
3. アジソン病。
4. タクロリムス・エプレレノン・エサキセレノン・ミトタンの投与患者。
5. 本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 電解質異常(高カリウム血症, 低ナトリウム血症, 代謝性アシドーシス等)(頻度不明), 不整脈, 全身倦怠感, 脱力等。
2. 急性腎不全(頻度不明)(電解質異常を伴うことあり)。
3. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
内分泌 女性型乳房, 乳房腫脹, 性欲減退, 陰萎, 多毛, 月経不順, 無月経, 閉経後の出血, 音声低音化 乳房腫瘤, 乳房痛
過敏症 発疹, 蕁麻疹 掻痒
精神神経系 眩暈, 頭痛, 四肢しびれ感, 神経過敏, うつ状態, 不安感, 精神錯乱, 運動失調, 傾眠
肝臓 AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇, AI－P上昇, LDH上昇, ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 口渇, 下痢, 便秘
血液 白血球減少, 血小板減少
その他 倦怠感, 心悸亢進, 発熱, 肝斑 筋痙攣, 脱毛
(表終了)

ダイアート錠30mg（30mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2139008F2028
【薬効分類】2. 1. 3 利尿剤
【一般名】アゾセミド
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】10.7円/1T
【薬価収載日】1993/06/04
【標榜薬効】持続型ループ利尿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】心性浮腫(うっ血性心不全), 腎性浮腫, 肝性浮腫
【用法用量】成人 1回2錠(アゾセミド 60mg) 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 無尿。
2. 肝性昏睡。
3. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。
5. スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 電解質異常(頻度不明)(低カリウム血症, 低ナトリウム血症等)。
2. 無顆粒球症, 白血球減少(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
代謝異常 低クロール性アルカローシス, 高尿酸血症 高血糖症, 高コレステロール血症, 高トリグリセライド血症
過敏症 発疹
消化器 嘔気, 嘔吐, 食欲不振, 胃部不快感, 下痢, 腹痛, 口渇 膵炎(血清アミラーゼ値上昇)
血液 血小板減少
肝臓 AST上昇, ALT上昇 AI－P上昇, ビリルビン値上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
泌尿器 頻尿
精神神経系 眩暈, 耳鳴, 頭痛
その他 脱力感, 倦怠感, 筋痙攣, 関節痛
(表終了)

トリテレン・カプセル50mg（50mg1カプセル）
外 内服 流通

【YJコード】2133002M1062
【薬効分類】2. 1. 3 利尿剤
【一般名】トリアムテレン
【メーカー】製)京都薬品工業 販)住友ファーマ
【薬価】19.9円/1C
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】利尿・血圧降下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高血圧症(本態性, 腎性等), 心性浮腫(うっ血性心不全), 腎性浮腫, 肝性浮腫
【用法用量】成人 1日90～200mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1日量2～4カプセル。

■禁忌
【禁忌】1. 無尿。
2. 急性腎不全。
3. 高カリウム血症。
4. 腎結石・その既往。
5. インドメタシン・ジクロフェナクの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
急性腎障害(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
血液 好酸球増加, 巨赤芽球性貧血等の血液障害
代謝異常 高カリウム血症等の電解質異常
腎臓 腎結石
過敏症 発疹等の過敏症状, 光線過敏症
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 口渇, 下痢
精神神経系 眩暈, 頭痛等

2 個々の器官系用医薬品

その他 倦怠感，疲労感
（表終了）

フロセミド細粒4%「EMEC」（4%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2139005C1048
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】フロセミド
【メーカー】製)エルメッド 販)日医工
【薬価】27.4円/1g
【薬価収載日】1997/06/16
【標榜薬効】利尿降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症（本態性，腎性等），悪性高血圧，心性浮腫（うっ血性心不全），腎性浮腫，肝性浮腫，月経前緊張症，末梢血管障害による浮腫，尿路結石排出促進
【用法用量】成人 1回40～80mg 1日1回 連日又は隔日 内服。適宜増減。腎機能不全等 さらに大量使用もあり。
悪性高血圧 他の降圧剤と併用。

■禁忌

【禁忌】1．無尿。
2．肝性昏睡。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．再生不良性貧血，汎血球減少症，無顆粒球症，血小板減少，赤芽球癆（各頻度不明）。
3．水疱性類天疱瘡（頻度不明）。
4．難聴（頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
6．心室性不整脈（Torsades de pointes）（頻度不明）（低カリウム血症を伴う）。
7．間質性腎炎（頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 貧血，白血球減少，好酸球増加，溶血性貧血
代謝異常 低ナトリウム血症，低カリウム血症，低カルシウム血症，代謝性アルカローシス，高尿酸血症，高血糖症，高トリグリセリド血症，高コレステロール血症，偽性バーター症候群
皮膚 発疹，蕁麻疹，発赤，光線過敏症，掻痒症，水疱性皮膚炎，紫斑，苔癬様皮疹
消化器 食欲不振，下痢，悪心・嘔吐，口渇，膵炎（血清アミラーゼ値上昇）
肝臓 黄疸，肝機能異常，胆汁うっ滞
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
精神神経系 眩暈，頭痛，知覚異常，聴覚障害
その他 脱力感，倦怠感，起立性低血圧，筋痙攣，味覚異常，血管炎，発熱
（表終了）

ラシックス錠40mg（40mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2139005F2342
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】フロセミド
【メーカー】製)サノフィ 販)日医工
【薬価】11.2円/1T
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】利尿降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症（本態性，腎性等），悪性高血圧，心性浮腫（うっ血性心不全），腎性浮腫，肝性浮腫，月経前緊張症，末梢血管障害による浮腫，尿路結石排出促進
【用法用量】成人 1回40～80mg 1日1回 連日又は隔日 内服。適宜増減。
腎機能不全等 さらに大量使用もあり。
悪性高血圧 他の降圧剤と併用。

■禁忌

【禁忌】1．無尿。
2．肝性昏睡。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．再生不良性貧血，汎血球減少症，無顆粒球症，血小板減少，赤芽球癆（各頻度不明）。
3．水疱性類天疱瘡（頻度不明）。
4．難聴（頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
6．心室性不整脈（Torsades de pointes）（頻度不明）（低カリウム血症を伴う）。
7．間質性腎炎（頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 貧血，白血球減少，好酸球増加，溶血性貧血
代謝異常 低ナトリウム血症，低カリウム血症，低カルシウム血症，代謝性アルカローシス，高尿酸血症，高血糖症，高トリグリセリド血症，高コレステロール血症，偽性バーター症候群
皮膚 発疹，蕁麻疹，発赤，光線過敏症，掻痒症，水疱性皮膚炎，紫斑，苔癬様皮疹
消化器 食欲不振，下痢，悪心・嘔吐，口渇，膵炎（血清アミラーゼ値上昇）
肝臓 黄疸，肝機能異常，胆汁うっ滞
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
精神神経系 眩暈，頭痛，知覚異常，聴覚障害
その他 脱力感，倦怠感，起立性低血圧，筋痙攣，味覚異常，血管炎，発熱
（表終了）

2．1．4 血圧降下剤

アイミクス配合錠HD（1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2149118F2026
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤
【メーカー】製)住友ファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】48.5円/1T
【薬価収載日】2012/11/22
【標榜薬効】長時間作用型ARB／持続性Ca拮抗薬配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1．過度な血圧低下のおそれ等があり，高血圧治療の第一選択薬にしない。
2．イルベサルタン100mg・アムロジピンとして5mgを併用時，いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時，100mg／5mgへの切りかえを検討。
3．イルベサルタン100mg・アムロジピンとして5mgを併用・100mg／5mgで血圧コントロールが不十分時，100mg／10mgへの切りかえを検討。
【用法用量】成人 1回1錠（イルベサルタン／アムロジピン 100mg／5mg又は100mg／10mg） 1日1回 内服。高血圧治療の第一選択薬に使用しない。
注意
下記の用法・用量を踏まえ，患者ごとに用量を決定。
イルベサルタン
成人 1回50～100mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大200mg。
アムロジピンベシル酸塩
・高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（顔面，口唇，咽頭，舌等の腫脹）。
2．高カリウム血症（頻度不明）。
3．ショック，失神，意識消失（各頻度不明）（冷感，嘔吐等）。

2 個々の器官系用医薬品

4. 腎不全(頻度不明)。
5. 劇症肝炎，肝機能障害(AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
6. 低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
7. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
8. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
9. 房室ブロック(頻度不明)(徐脈，眩暈等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹，光線過敏症，多形紅斑 血管炎，血管浮腫
肝臓 肝機能障害，ALT上昇 AST上昇，AI－P上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇 LDH上昇，黄疸，腹水
筋・骨格系 関節痛，筋痙攣，背部痛 筋肉痛，筋力低下，筋緊張亢進
血液 貧血，紫斑，白血球増加 赤血球減少，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，白血球減少，好酸球増加，血小板減少
循環器 浮腫 動悸，ほてり(熱感，顔面潮紅等)，失神，頻脈，起立性低血圧，心房細動，胸痛，期外収縮 血圧低下，徐脈，洞房・房室ブロック，洞停止
消化器 逆流性食道炎，下痢・軟便，口内炎，心窩部痛，便秘，胃腸炎 悪心，嘔吐，胸やけ，胃不快感，口渇，消化不良，排便回数増加，膵炎，腹痛，腹部膨満
腎臓 尿管結石，頻尿・夜間頻尿，クレアチニン上昇 BUN上昇，尿中蛋白陽性，尿沈渣異常，尿潜血陽性，排尿障害
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 眠気，しびれ，末梢神経障害 もうろう感，不眠，振戦，気分動揺，錐体外路症状
代謝異常 CK上昇 尿酸上昇，尿中ブドウ糖陽性，糖尿病，コレステロール上昇，血中カリウム減少 血中カリウム上昇，高血糖
その他 脳梗塞，異常感覚，倦怠感，CRP上昇，咳嗽，体重増加，脱毛，脱力感，勃起障害，鼻出血，鼻炎 霧視，味覚異常，発熱，総蛋白減少，耳鳴，疲労，視力異常，呼吸困難，多汗，歯肉肥厚，性機能異常，女性化乳房，体重減少，疼痛，皮膚変色
(表終了)

アゼルニジピン錠16mg「日医工」(16mg1錠)

外 内服 後発 流通

【YJコード】2149043F2131
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】アゼルニジピン
【先発品】カルブロック錠16mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】11.4円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回8～16mg 1日1回 朝食後 内服。1回8mg又はさらに低用量から開始。
適宜増減，1日最大16mg。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．イトラコナゾール，ミコナゾール(経口剤，注射剤)，フルコナゾール，ホスフルコナゾール，ボリコナゾール，ポサコナゾール，HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル含有製剤，アタザナビル硫酸塩，ホスアンプレナビル カルシウム水和物，ダルナビル含有製剤)，コビシスタット含有製剤，抗ウイルス剤(ニルマトレルビル・リトナビル)，エンシトレルビル フマル酸の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
2．房室ブロック(頻度不明)，洞停止(頻度不明)，徐脈(頻度不明)(眩暈，ふらつき等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒，発疹 血管浮腫，光線過敏性反応
精神神経系 頭痛・頭重感 立ちくらみ，ふらつき，眩暈 眠気
消化器 便秘 胃部不快感，悪心，腹痛，下痢，歯肉肥厚，口内炎
循環器 動悸，顔面潮紅，ほてり
血液 好酸球増多
肝臓 ALT上昇，AST上昇，LDH上昇 AI－P上昇，総ビリルビン上昇 γ－GTP上昇，肝機能異常
泌尿器 BUN上昇，尿硝子円柱増加 クレアチニン上昇，頻尿
その他 尿酸上昇 総コレステロール上昇，CK上昇，カリウム上昇，カリウム低下 倦怠感，異常感(浮遊感，気分不良等)，浮腫，しびれ，乳び腹水
(表終了)

アーチスト錠10mg(10mg1錠)

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2149032F1021
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】カルベジロール
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】16.6円/1T
【薬価収載日】1993/03/19
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】持続性高血圧・狭心症，慢性心不全・頻脈性心房細動治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．本態性高血圧症(軽症～中等症)
2．腎実質性高血圧症
3．狭心症
4．下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
5．頻脈性心房細動
注意
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
左室収縮機能障害の原因解明に努める。可逆的な左室収縮機能障害は，原因除去・他の治療も考慮。
【用法用量】本態性高血圧症(軽症～中等症)，腎実質性高血圧症
成人 1回10～20mg 1日1回 内服。適宜増減。
狭心症
成人 1回20mg 1日1回 内服。適宜増減。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回1．25mgから開始 1日2回 食後 内服。用量に忍容性がある時，1週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は必ず段階的に行い，1回量は1．25mg，2．5mg，5mg，10mgのいずれかとし，いずれも1日2回 食後 内服。維持量 1回2．5～10mg 1日2回 食後 内服。
開始量はさらに低用量としてよい。維持量は適宜増減。
頻脈性心房細動
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回，1回20mg 1日1回 漸増。適宜増減。1日最大20mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ αα遮断薬で初期治療後に投与し，常にα遮断薬を併用。
本態性高血圧症(軽症～中等症)，腎実質性高血圧症，狭心症
2．頻脈性心房細動を合併 頻脈性心房細動の用法・用量は1日1回5mgから開始，血圧や心拍数，症状等に応じ，開始量を設定。
本態性高血圧症(軽症～中等症)，腎実質性高血圧症，狭心症，頻脈性心房細動
3．慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
4．本剤の中止は，段階的に半量ずつ，2．5mg又は1．25mg，1日2回まで1～2週間かけて減量し中止。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌

【禁忌】1．気管支喘息，気管支痙攣のおそれ。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．高度の徐脈(著しい洞性徐脈)，房室ブロック(II，III度)，洞房ブロック。
4．心原性ショック。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．肺高血圧による右心不全。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高度な徐脈(頻度不明)，ショック(頻度不明)，完全房室ブロック(頻度不明)，心不全(頻度不明)，心停止(頻度不明)。
2．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
3．急性腎障害(頻度不明)。
4．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5．アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(本態性高血圧症(軽症～中等症)，腎実質性高血圧症，狭心症，頻脈性心房細動)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
循環器 徐脈，顔面潮紅 低血圧，動悸，頻脈，心房細動，期外収縮，脚ブロック，血圧上昇，心胸比増大，四肢冷感，房室ブロック，狭心症
呼吸器 喘息様症状 咳嗽，呼吸困難，息切れ，鼻閉
精神神経系 眩暈，眠気，頭痛 失神，不眠，抑うつ，注意力低下，異常

2 個々の器官系用医薬品

感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 胃部不快感, 嘔吐 悪心 便秘, 下痢, 食欲不振, 腹痛
代謝 CK上昇 血糖値上昇, 尿酸上昇, 総コレステロール上昇, AI－P上昇, LDH上昇, 低血糖, 尿糖, トリグリセリド上昇, カリウム上昇, 糖尿病悪化, カリウム低下, ナトリウム低下
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等), 尿失禁, 頻尿, 蛋白尿
血液 貧血, 白血球減少, 血小板減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 倦怠感 浮腫, 脱力感, 勃起不全, 耳鳴, 疲労感, 胸痛, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 房室ブロック, 脚ブロック, 低血圧, 血圧上昇, 四肢冷感, 顔面潮紅 心胸比増大, 狭心症
呼吸器 呼吸困難, 息切れ 喘息様症状, 咳嗽, 鼻閉
精神神経系 眩暈 不眠, 頭痛 眠気, 注意力低下, 失神, 抑うつ, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 悪心, 胃部不快感, 便秘, 下痢, 食欲不振 腹痛, 嘔吐
代謝 血糖値上昇, 尿糖, LDH上昇, 総コレステロール上昇, CK上昇
糖尿病悪化, AI－P上昇, 尿酸上昇, カリウム上昇, ナトリウム低下, カリウム低下 低血糖, トリグリセリド上昇
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等) 蛋白尿 尿失禁, 頻尿
血液 貧血, 血小板減少, 白血球減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 浮腫, 倦怠感, 疲労感, 胸痛 耳鳴, 脱力感, 勃起不全, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)

アーチスト錠2．5mg（2．5mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2149032F4020
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】カルベジロール
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】10.9円/1T
【薬価収載日】2002/12/06
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】慢性心不全・頻脈性心房細動治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
2．頻脈性心房細動
注意
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
左室収縮機能障害の原因解明に努める。可逆的な左室収縮機能障害は, 原因除去・他の治療も考慮。
【用法用量】虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回1．25mgから開始 1日2回 食後 内服。用量に忍容性がある時, 1週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し, 忍容性がない時は減量。用量の増減は必ず段階的に行い, 1回量は1．25mg, 2．5mg, 5mg, 10mgのいずれかとし, いずれも1日2回 食後 内服。維持量 1回2．5～10mg 1日2回 食後 内服。
開始量はさらに低用量としてよい。維持量は適宜増減。
頻脈性心房細動
成人 1回5mgから開始 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回, 1回20mg 1日1回 漸増。適宜増減。1日最大20mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断薬で初期治療後に投与し, 常にα遮断薬を併用。
本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症, 頻脈性心房細動
3．慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
4．本剤の中止は, 段階的に半量ずつ, 2．5mg又は1．25mg, 1日2回まで1～2週間かけて減量し中止。
5．2週間以上休薬後の再開時は, 用法・用量に従って低用量から開始し, 漸増。

■禁忌

【禁忌】1．気管支喘息, 気管支痙攣のおそれ。
2．糖尿病性ケトアシドーシス, 代謝性アシドーシス。
3．高度の徐脈(著しい洞性徐脈), 房室ブロック(II, III度), 洞房ブロック。
4．心原性ショック。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．肺高血圧による右心不全。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高度な徐脈(頻度不明), ショック(頻度不明), 完全房室ブロック(頻度不明), 心不全(頻度不明), 心停止(頻度不明)。
2．肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
3．急性腎障害(頻度不明)。
4．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5．アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症, 頻脈性心房細動)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 顔面潮紅 低血圧, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 脚ブロック, 血圧上昇, 心胸比増大, 四肢冷感, 房室ブロック, 狭心症
呼吸器 喘息様症状 咳嗽, 呼吸困難, 息切れ, 鼻閉
精神神経系 眩暈, 眠気, 頭痛 失神, 不眠, 抑うつ, 注意力低下, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 胃部不快感, 嘔吐 悪心 便秘, 下痢, 食欲不振, 腹痛
代謝 CK上昇 血糖値上昇, 尿酸上昇, 総コレステロール上昇, AI－P上昇, LDH上昇, 低血糖, 尿糖, トリグリセリド上昇, カリウム上昇, 糖尿病悪化, カリウム低下, ナトリウム低下
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等), 尿失禁, 頻尿, 蛋白尿
血液 貧血, 白血球減少, 血小板減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 倦怠感 浮腫, 脱力感, 勃起不全, 耳鳴, 疲労感, 胸痛, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 房室ブロック, 脚ブロック, 低血圧, 血圧上昇, 四肢冷感, 顔面潮紅 心胸比増大, 狭心症
呼吸器 呼吸困難, 息切れ 喘息様症状, 咳嗽, 鼻閉
精神神経系 眩暈 不眠, 頭痛 眠気, 注意力低下, 失神, 抑うつ, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 悪心, 胃部不快感, 便秘, 下痢, 食欲不振 腹痛, 嘔吐
代謝 血糖値上昇, 尿糖, LDH上昇, 総コレステロール上昇, CK上昇
糖尿病悪化, AI－P上昇, 尿酸上昇, カリウム上昇, ナトリウム低下, カリウム低下 低血糖, トリグリセリド上昇
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等) 蛋白尿 尿失禁, 頻尿
血液 貧血, 血小板減少, 白血球減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 浮腫, 倦怠感, 疲労感, 胸痛 耳鳴, 脱力感, 勃起不全, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)

アテディオ配合錠（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149120F1027
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】バルサルタン・シルニジピン配合剤
【メーカー】製)EAファーマ 販)持田製薬
【薬価】37.9円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【標榜薬効】選択的AT1受容体ブロッカー／持続性Ca拮抗薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
バルサルタン80mg・シルニジピン10mgを併用時, いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時, 本剤への切りかえを検討。
【用法用量】成人 1回1錠(バルサルタン 80mg, シルニジピン 10mg) 1日1回 朝食後 内服。
高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
下記の用法・用量を踏まえ, 患者ごとに適応を考慮。
バルサルタン
成人 1回40～80mg 1日1回 内服。適宜増減, 1日160mgまで。
シルニジピン
成人 1回5～10mg 1日1回 朝食後 内服。適宜増減, 効果不十分

2 個々の器官系用医薬品

時 1回20mg 1日1回まで。
重症高血圧 1回10～20mg 1日1回 朝食後 内服。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌の腫脹等)。
2. 肝炎, 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
3. 腎不全(頻度不明)。
4. 高カリウム血症(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 無顆粒球症, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
8. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
10. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
11. 天疱瘡, 類天疱瘡(各頻度不明)(水疱, 糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5～5%未満 0. 5%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常, ALT増加, AST増加 AI－P増加, γ－GTP増加 LDH増加, ビリルビン増加
腎臓 高尿酸血症 尿素窒素増加, 尿蛋白陽性 クレアチニン増加, 尿酸値減少, 尿沈渣陽性
精神神経系 頭痛 眩暈 頭重感, 立ちくらみ, 眠気, 不眠, 手指振戦, もの忘れ, しびれ
循環器 顔面潮紅(ほてり) 動悸, 血圧低下 熱感, 冷感, 胸痛, 心胸郭比増加, 頻脈, 心電図異常(ST低下, T波逆転), 房室ブロック, 期外収縮, 心房細動, 徐脈
消化器 便秘 腹部不快感, 胸やけ 嘔気・嘔吐, 腹痛, 下痢, 食欲不振, 口渇, 歯肉肥厚
過敏症 発疹 発赤, 掻痒, 光線過敏症
血液 白血球数増加, 好酸球数増加, 貧血 好酸球数減少, 好中球数変動, リンパ球数変動, ヘモグロビン変動, 赤血球数変動, ヘマトクリット変動
呼吸器 咳嗽, 咽頭炎
電解質 血中K増加 血中K減少, 血中Ca減少, 血中P増加 血中Ca増加, 血中P減少, 低ナトリウム血症
筋骨格系 肩こり 筋肉痛, 腰背部痛, 関節痛, 腓腸筋痙直(こむら返り)
その他 高脂血症(血中コレステロール, トリグリセリド増加) CK増加, CK減少, 血糖増加, 頻尿 浮腫(顔, 下肢等), 脱力感, 倦怠感, 疲労感, 味覚異常, 目の充血刺激感, 眼周囲の乾燥, 発熱, 耳鳴, 尿糖陽性, 総蛋白の変動, CRPの変動
(表終了)

アルドメット錠250 (250mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2145001F2040
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】メチルドパ水和物
【メーカー】製)ミノファーゲン製薬 販)MSD 販)ザイダスファーマ
【薬価】16.8円/1T
【標榜薬効】血圧降下剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症(本態性, 腎性等), 悪性高血圧
【用法用量】成人 初期 1日250～750mgから開始 降圧効果があるまで数日以上あけて 1日250mgずつ増量。
維持量 1日250～2000mg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 急性肝炎, 慢性肝炎・肝硬変の活動期。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な血液障害(溶血性貧血(0. 18%), 白血球減少, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明))。
2. 脳血管不全症状, 舞踏病アテトーゼ様不随意運動, 両側性ベル麻痺(各頻度不明)。
3. 狭心症発作誘発(頻度不明)。
4. 心筋炎(頻度不明)。
5. SLE様症状(頻度不明)。
6. 脈管炎(頻度不明)。
7. うっ血性心不全(頻度不明)。
8. 骨髄抑制(頻度不明)。
9. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)。
10. 肝機能障害(肝炎(頻度不明)等), 黄疸。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能障害(AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇等)
精神神経系 脱力感, 頭痛, 眠気, 眩暈, ふらふら感 知覚異常, 抑うつ, 精神活動の減退, 悪夢, 不眠, パーキンソン症状
循環器系 徐脈, 起立性低血圧 頸動脈洞の過敏による徐脈・失神
消化器 悪心・嘔吐, 食欲不振, 口渇, 下痢 腹部膨満 便秘, 大腸炎, 舌のあれ, 黒舌, 唾液腺炎, 膵炎
過敏症 発疹
その他 鼻閉 浮腫 体重増加, 性欲減退, 陰萎, 筋肉痛, 関節痛, 女性型乳房, 乳房肥大, 乳汁分泌, 無月経, 高プロラクチン血症, BUN上昇, 発熱
(表終了)

イルトラ配合錠LD (1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2149119F1024
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】イルベサルタン・トリクロルメチアジド配合剤
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】43.1円/1T
【薬価収載日】2013/08/27
【標榜薬効】長時間作用型ARB／利尿薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1. 過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
2. イルベサルタン100mgで効果不十分時に本剤を, イルベサルタン200mg, 又は本剤で効果不十分時にイルベサルタン／トリクロルメチアジド200mg／1mgを検討。
【用法用量】成人 1回1錠(イルベサルタン／トリクロルメチアジド 100mg／1mg又は200mg／1mg) 1日1回 内服。高血圧治療の第一選択薬で使用しない。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. チアジド系薬剤・その類似化合物(例 クロルタリドン等のスルホンアミド誘導体)に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 無尿, 透析中。
5. 急性腎不全。
6. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
7. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
8. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
2. ショック, 失神, 意識消失(頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
3. 高カリウム血症(頻度不明)。
4. 低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 痙攣, 意識障害等)。
5. 腎不全(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
7. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
9. 再生不良性貧血(頻度不明)。
10. 間質性肺炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0. 1～5%未満
過敏症 蕁麻疹, 掻痒, 顔面潮紅 発疹, 光線過敏症
循環器 血圧低下, 頻脈, 徐脈, 心室性期外収縮, 心房細動 動悸, 起立性低血圧
精神神経系 もうろう感, 眠気, 不眠, 知覚異常 眩暈, しびれ感, 頭痛
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘, 下痢, 胸やけ, 食欲不振, 口渇, 腹部不快感, 膵炎, 唾液腺炎 腹痛
肝臓 LDH上昇, AI－P上昇 ALT上昇, AST上昇, ビリルビン上昇, γ－GTP上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇, 尿沈渣異常 尿中蛋白陽性
血液 白血球増加, ヘマトクリット減少, ヘモグロビン減少, 血小板減少, 紫斑 好酸球増加, 赤血球減少, 白血球減少
代謝異常 血中尿酸値上昇(5. 7%), 低カリウム血症, 低クロール性アルカローシス, 血中カルシウムの上昇等の電解質失調, コレステロール上昇, 高血糖症 血清脂質増加, 高尿酸血症, 血清カリウム上昇

2 個々の器官系用医薬品

眼 視力異常(霧視等), 黄視症
その他 胸痛, 倦怠感, ほてり, 浮腫, 味覚異常, 発熱, 関節痛, 筋痛, 背部痛, 筋力低下, 総蛋白減少, CRP上昇, 性機能異常, 鼻閉, 全身性紅斑性狼瘡の悪化, 筋痙攣, 耳鳴 咳嗽, CK上昇, 頻尿
(表終了)

イルベサルタン錠100mg「DSPB」(100mg1錠)

外 内服 後発 流通

【YJコード】2149046F2046
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】イルベサルタン
【先発品】アバプロ錠100mg, イルベタン錠100mg
【メーカー】製)住友ファーマプロモ 販)住友ファーマ
【薬価】17.3円/1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】長時間作用型ARB

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回50～100mg 1日1回 内服。
適宜増減, 1日最大200mg。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
2. 高カリウム血症(頻度不明)。
3. ショック, 失神, 意識消失(頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
4. 腎不全(頻度不明)。
5. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTPの上昇等), 黄疸(0. 1～1%未満)。
6. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
7. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 掻痒
循環器 動悸, 血圧低下, 起立性低血圧, 徐脈, 心室性期外収縮, 心房細動 頻脈
精神神経系 眩暈, 頭痛, もうろう感, 眠気, 不眠, しびれ感
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘, 下痢, 胸やけ, 胃不快感, 腹痛
肝臓 ALT上昇, AST上昇, LDH上昇, ビリルビン上昇, AI－P上昇, γ－GTP上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇, 尿中蛋白陽性, 尿沈渣異常
血液 赤血球減少, ヘマトクリット減少, ヘモグロビン減少, 白血球減少, 好酸球増加, 白血球増加
その他 咳嗽, 胸痛, 倦怠感, ほてり, 浮腫, 霧視, 頻尿, 味覚異常, 発熱, 関節痛, 筋痛, 背部痛, 筋力低下, CK上昇, 血清カリウム上昇, 尿酸上昇, コレステロール上昇, 総蛋白減少, CRP上昇 性機能異常, 耳鳴
(表終了)

エックスフォージ配合錠(1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】2149114F1021
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】28.1円/1T
【薬価収載日】2010/04/16
【標榜薬効】選択的AT1受容体ブロッカー／持続性Ca拮抗薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1. 過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
2. バルサルタン80mg・アムロジピン5mgを併用時, いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時, 本剤への切りかえを検討。
【用法用量】成人 1回1錠(バルサルタン 80mg, アムロジピン 5mg) 1日1回 内服。
高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
下記の用法・用量を踏まえ, 患者ごとに適応を考慮。
バルサルタン
成人 1回40～80mg 1日1回 内服。適宜増減, 1日160mgまで。
アムロジピンベシル酸塩
高血圧症 成人 1回2. 5～5mg 1日1回 内服。適宜増減, 効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌の腫脹等)。
2. 劇症肝炎, 肝炎, 肝機能障害, 黄疸(各頻度不明)。
3. 腎不全(頻度不明)。
4. 高カリウム血症(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 無顆粒球症, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
8. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
9. 房室ブロック(頻度不明)(徐脈, 眩暈等)。
10. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
11. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
12. 天疱瘡, 類天疱瘡(各頻度不明)(水疱, 糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5%以上 0. 5%未満 頻度不明
皮膚障害 発疹 掻痒症, 蕁麻疹 紅斑, 脱毛症, 多汗症, 皮膚変色, 光線過敏症
精神神経系障害 眩暈 頭痛, 頭重, 傾眠, 不眠症, 錯感覚, 末梢神経障害 しびれ, 味覚異常, 異常感覚, 気分動揺, 不安, 振戦, 錐体外路症状
血液・リンパ系障害 － 貧血, 好酸球数増加, 白血球数増加 紫斑
心臓障害 － 期外収縮, 心房細動, 動悸 頻脈, 徐脈, 洞房ブロック, 洞停止
血管障害 － 低血圧, ほてり 起立性低血圧, 血管炎
胃腸障害 － 便秘, 下痢, 腹痛, 口内炎, 消化不良, 腹部膨満, 胃腸炎 嘔気, 嘔吐, 膵炎, 口内乾燥, 排便回数増加
肝胆道系障害 γ－GTP増加, ALT増加 AST増加, 血中ビリルビン増加 腹水, AI－P増加, LDH増加
呼吸器障害 － 鼻咽頭炎 咳嗽, 咽喉頭疼痛, 呼吸困難, 鼻出血
腎・尿路障害 尿中血陽性 頻尿, 血中クレアチニン増加, 尿中蛋白陽性 排尿障害, 多尿, BUN増加, 尿管結石
代謝・栄養障害 高脂血症, 高尿酸血症, 糖尿病 － 食欲不振, 高血糖, 総蛋白減少, 尿中ブドウ糖陽性, 血中カリウム減少, 低ナトリウム血症
筋骨格系障害 － 腰背部痛, 筋痙縮 筋肉痛, 関節痛, 関節腫脹, 筋緊張亢進, 四肢重感
その他 CK増加 浮腫, 耳鳴, 無力症(脱力感等), 倦怠感 胸痛, 疲労, 口渇, 体重増加, 体重減少, 疼痛, 発熱, 視力異常, 視覚障害, 歯肉肥厚, 女性化乳房, 勃起障害, インフルエンザ, 過敏症
(表終了)

カルデナリン錠2mg(2mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2149026F3029
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】ドキサゾシンメシル酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】18.4円/1T
【標榜薬効】血圧降下剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○褐色細胞腫による高血圧症
【用法用量】成人 1回0. 5mgから開始 1日1回 内服。効果不十分時 1～2週間あけて 1～4mgに漸増 1日1回 内服。
適宜増減, 1日最高8mg。
褐色細胞腫による高血圧症 1日最高16mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 失神・意識喪失(0. 01%)。
2. 不整脈(頻度不明)。
3. 脳血管障害(頻度不明)。
4. 狭心症(頻度不明)。

2 個々の器官系用医薬品

5. 心筋梗塞(頻度不明)。
6. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
7. 肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの著しい上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇 LDHの上昇 胆汁うっ滞
循環器 起立性眩暈，起立性低血圧，低血圧，動悸・心悸亢進，頻脈，ほてり(顔面潮紅等) 胸痛・胸部圧迫感 徐脈
精神神経系 頭痛・頭重，眩暈 眠気，不眠，しびれ感 耳鳴，興奮，振戦，知覚鈍麻，不安，うつ病，神経過敏
消化器 悪心・嘔吐 腹痛，口渇，食欲不振，下痢，便秘 消化不良，鼓腸放屁
筋・骨格系　関節痛，筋力低下，筋痙直，筋肉痛，背部痛
呼吸器　息苦しさ，鼻出血，鼻炎，咳 気管支痙攣悪化，呼吸困難
泌尿・生殖器　頻尿・夜間頻尿，尿失禁 持続勃起，勃起障害，射精障害(逆行性射精等)，血尿，排尿障害，多尿
過敏症　発疹，掻痒感 蕁麻疹，血管浮腫，光線過敏症
血液 白血球減少 血小板減少 紫斑
眼　かすみ目，術中虹彩緊張低下症候群
その他 倦怠感 浮腫，脱力感，異常感覚，発熱 発汗，疼痛，体重増加，女性化乳房，脱毛
(表終了)

ザクラス配合錠HD（1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2149121F2028
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】78円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【標榜薬効】持続性AT1レセプターブロッカー／持続性Ca拮抗薬配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1．過度な血圧低下のおそれ等があり，高血圧治療の第一選択薬にしない。
2．アジルサルタン20mg・アムロジピンとして2．5～5mgを併用時，いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時，本剤への切りかえを検討。
【用法用量】成人　1回1錠(アジルサルタン／アムロジピン　20mg／2．5mg又は20mg／5mg)　1日1回　内服。高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
下記の用法・用量及び注意等を踏まえ，患者ごとに適応を考慮。
アジルサルタン
成人　1回20mg　1日1回　内服。適宜増減，1日最大40mg。
注意
アジルサルタン適用の可否を慎重に判断し，20mgより低用量からの開始も考慮。
アムロジピンベシル酸塩
・高血圧症
成人　1回2．5～5mg　1日1回　内服。適宜増減，効果不十分時　1回10mg　1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・他のジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(頻度不明)(顔面，口唇，舌，咽・喉頭等の腫脹)。
2．ショック，失神，意識消失(頻度不明)(冷感，嘔吐等)。
3．急性腎障害(頻度不明)。
4．高カリウム血症(頻度不明)。
5．劇症肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
7．無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(頻度不明)。
8．房室ブロック(頻度不明)(徐脈，眩暈等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 湿疹 発疹，掻痒，蕁麻疹，光線過敏症，多形紅斑，血管炎
循環器 眩暈，ふらつき，浮腫，心房細動，徐脈，動悸，血圧低下，ほてり(熱感，顔面潮紅等)，期外収縮 胸痛，洞房・房室ブロック，洞停止，頻脈
精神神経系 頭痛 頭重，眠気，振戦，末梢神経障害，気分動揺，不眠，錐体外路症状
代謝異常 血中尿酸上昇，糖尿病 血中カリウム上昇，血清コレステロール上昇，高血糖，尿中ブドウ糖陽性
消化器 下痢，心窩部痛，便秘，口内炎 軟便，嘔気，嘔吐，口渇，消化不良，排便回数増加，腹部膨満，胃腸炎，膵炎
肝臓 ALT，AST，AI－P，γ－GTPの上昇 LDH上昇，腹水
血液 ヘモグロビン減少 赤血球減少，白血球増加，紫斑
腎臓 クレアチニン上昇 BUN上昇，頻尿，夜間頻尿，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性，勃起障害，排尿障害
その他 血中CK上昇，歯肉肥厚 筋緊張亢進，筋痙攣，背痛，関節痛，筋肉痛，全身倦怠感，しびれ，脱力感，耳鳴，鼻出血，味覚異常，疲労，咳，発熱，視力異常，呼吸困難，異常感覚，多汗，血中カリウム減少，女性化乳房，脱毛，鼻炎，体重増加，体重減少，疼痛，皮膚変色
(表終了)

タナトリル錠5（5mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2144008F2028
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】イミダプリル塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】31.3円/1T
【薬価収載日】1993/11/26
【標榜薬効】アンジオテンシン変換選択性阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高血圧症
2．腎実質性高血圧症
3．1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症
【用法用量】1．高血圧症，腎実質性高血圧症
成人　1回5～10mg　1日1回　内服。
適宜増減。
重症高血圧症，腎障害を伴う高血圧症，腎実質性高血圧症
2．5mgから開始。
2．1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症
成人　1回5mg　1日1回　内服。
重篤な腎障害
2．5mgから開始。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．血管浮腫の既往(アンジオテンシン変換酵素阻害剤等による血管浮腫，遺伝性血管浮腫，後天性血管浮腫，特発性血管浮腫等)。
3．デキストラン硫酸固定化セルロース・トリプトファン固定化ポリビニルアルコール・ポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器でアフェレーシスを施行中。
4．アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)を用いた血液透析施行中。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
7．サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物を投与中・中止後36時間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(頻度不明)(呼吸困難を伴う顔面，舌，声門，喉頭の腫脹)。
2．血小板減少(0．1%未満)，汎血球減少(頻度不明)。
3．急性腎障害(頻度不明)，腎機能障害の増悪(0．1%未満)。
4．高カリウム血症(0．1%未満)。
5．紅皮症(剥脱性皮膚炎)，皮膚粘膜眼症候群，天疱瘡様症状(各頻度不明)(紅斑，水疱，掻痒，発熱，粘膜疹等)。
6．膵炎(頻度不明)(血中のアミラーゼ，リパーゼの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット，血小板，白血球の減少，好酸球増多
腎臓 血清クレアチニン，BUNの上昇，蛋白尿
精神神経系 頭痛，ふらつき，眩暈，立ちくらみ，不眠 眠気
循環器 動悸 低血圧
呼吸器 咳，咽頭部異和感・不快感，痰 嗄声
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹痛，下痢 嘔気，食欲不振
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDHの上昇 γ－GTPの上昇，黄疸
過敏症 発疹，掻痒 光線過敏症，蕁麻疹
その他 血清カリウムの上昇，口渇，CKの上昇，倦怠感，顔面潮紅 脱毛，しびれ，脱力感，低血糖，耳鳴，味覚異常，胸部不快感，疲労，浮腫
(表終了)

ディオバン錠160mg（160mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2149041F4020

2 個々の器官系用医薬品

【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】バルサルタン
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】33円/1T
【薬価収載日】2004/12/15
【標榜薬効】選択的AT1受容体ブロッカー

■効能効果・用法用量
【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回40～80mg 1日1回 内服。
適宜増減，1日160mgまで。
6歳以上の小児
体重35kg未満
1回20mg 1日1回 内服。1日最高40mg。
体重35kg以上
1回40mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
小児に1日80mgを超える使用経験なし。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(頻度不明)(顔面，口唇，咽頭，舌の腫脹等)。
2．肝炎(頻度不明)。
3．腎不全(0．1%未満)。
4．高カリウム血症(0．1%未満)。
5．ショック(頻度不明)，失神(頻度不明)，意識消失(0．1%未満)(冷感，嘔吐等)。
6．無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(頻度不明)，血小板減少(0．1%未満)。
7．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8．低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
9．横紋筋融解症(0．1%未満)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
11．天疱瘡，類天疱瘡(各頻度不明)(水疱，糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑 光線過敏症
精神神経系 眩暈，頭痛 眠気，不眠 －
血液 白血球減少，好酸球増多，貧血 － －
循環器 低血圧，動悸 頻脈，心房細動 －
消化器 嘔気，腹痛 嘔吐，下痢，便秘，口渇，食欲不振 －
肝臓 AST，ALT，LDH，AI－P，ビリルビン値の上昇 － －
呼吸器 咳嗽 咽頭炎 －
腎臓 血中尿酸値上昇，BUN上昇，血清クレアチニン上昇 － －
電解質 血清カリウム値上昇 低ナトリウム血症 －
その他 倦怠感，浮腫，CK上昇 胸痛，疲労感，しびれ，味覚異常，ほてり，血糖値上昇，血清コレステロール上昇，血清総蛋白減少，腰背部痛，脱力感，耳鳴 筋肉痛，関節痛，発熱
(表終了)

ディオバン錠80mg（80mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2149041F3023
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】バルサルタン
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】24円/1T
【薬価収載日】2000/11/17
【標榜薬効】選択的AT1受容体ブロッカー

■効能効果・用法用量
【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回40～80mg 1日1回 内服。
適宜増減，1日160mgまで。
6歳以上の小児
体重35kg未満
1回20mg 1日1回 内服。1日最高40mg。
体重35kg以上
1回40mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
小児に1日80mgを超える使用経験なし。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(頻度不明)(顔面，口唇，咽頭，舌の腫脹等)。
2．肝炎(頻度不明)。
3．腎不全(0．1%未満)。
4．高カリウム血症(0．1%未満)。
5．ショック(頻度不明)，失神(頻度不明)，意識消失(0．1%未満)(冷感，嘔吐等)。
6．無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(頻度不明)，血小板減少(0．1%未満)。
7．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8．低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
9．横紋筋融解症(0．1%未満)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
11．天疱瘡，類天疱瘡(各頻度不明)(水疱，糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑 光線過敏症
精神神経系 眩暈，頭痛 眠気，不眠 －
血液 白血球減少，好酸球増多，貧血 － －
循環器 低血圧，動悸 頻脈，心房細動 －
消化器 嘔気，腹痛 嘔吐，下痢，便秘，口渇，食欲不振 －
肝臓 AST，ALT，LDH，AI－P，ビリルビン値の上昇 － －
呼吸器 咳嗽 咽頭炎 －
腎臓 血中尿酸値上昇，BUN上昇，血清クレアチニン上昇 － －
電解質 血清カリウム値上昇 低ナトリウム血症 －
その他 倦怠感，浮腫，CK上昇 胸痛，疲労感，しびれ，味覚異常，ほてり，血糖値上昇，血清コレステロール上昇，血清総蛋白減少，腰背部痛，脱力感，耳鳴 筋肉痛，関節痛，発熱
(表終了)

ニバジール錠4mg（4mg1錠）
外 内服 流通
劇

【YJコード】2149022F2024
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】ニルバジピン
【メーカー】製)LTLファーマ 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】16.2円/1T
【標榜薬効】高血圧治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】本態性高血圧症
【用法用量】成人 1回2～4mg 1日2回 内服。

■禁忌
【禁忌】1．止血が未完成の頭蓋内出血。
2．脳卒中急性期の頭蓋内圧亢進。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(0．1%未満)(AST，ALT，γ－GTP上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
循環器 動悸，頻脈 房室ブロック，心房細動，期外収縮，徐脈，血圧低下
精神神経系 頭痛，頭重，眩暈，ふらつき，立ちくらみ 眠気，不眠，しびれ，振戦
消化器 食欲不振，腹痛，腹部不快感，悪心 嘔吐，便秘，下痢，口内炎，口渇，胸やけ
腎臓 クレアチニン上昇 BUN上昇
過敏症 発疹，掻痒感 光線過敏症
口腔 歯肉肥厚
その他 潮紅，熱感，ほてり，のぼせ，浮腫，倦怠感 胸痛，胸部不快感，頻尿，耳鳴，血清コレステロール上昇，咳嗽，結膜充血
(表終了)

ニューロタン錠50mg（50mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2149039F2038
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤

2 個々の器官系用医薬品

【一般名】ロサルタンカリウム
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD
【薬価】42.2円/1T
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】A－Ⅱアンタゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 高血圧症
2. 高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
注意
高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
高血圧・蛋白尿(尿中アルブミン／クレアチニン比300mg／g以上)を合併しない患者の有効性・安全性は未確認。
【用法用量】1. 高血圧症
成人 1回25～50mg 1日1回 内服。
適宜増減, 1日100mgまで。
2. 高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
成人 1回50mg 1日1回 内服。血圧値をみながら1日100mgまで。
過度の血圧低下のおそれ等 25mgから開始。
注意
高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
投与後, 血清クレアチニン値が前回の検査値と比較して30%(又は1mg／dL)以上増加時, 及び糸球体ろ過値, 1／血清クレアチニン値の勾配等で評価した腎機能障害が加速された時は, 減量・投与中止を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 重篤な肝障害。
4. アリスキレンを投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(不快感, 口内異常感, 発汗, 蕁麻疹, 呼吸困難, 全身潮紅, 浮腫等)。
2. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
3. 急性肝炎, 劇症肝炎(各頻度不明)。
4. 腎不全(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
7. 高カリウム血症(頻度不明)。
8. 不整脈(頻度不明)(心室性期外収縮, 心房細動等)。
9. 汎血球減少, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
10. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
11. 低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 痙攣, 意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眩暈, 不眠, 浮遊感 耳鳴, 眠気
循環器系 低血圧, 起立性低血圧, 胸痛 調律障害(頻脈等), 動悸
消化器 口角炎, 嘔吐・嘔気, 胃不快感, 胃潰瘍 口内炎, 下痢, 口渇
肝臓 肝機能障害(AST上昇, ALT上昇, LDH上昇等) 黄疸
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
皮膚 発疹, 掻痒 蕁麻疹, 多形紅斑, 光線過敏, 紅皮症, 紅斑
血液 赤血球減少, ヘマトクリット低下, 好酸球増多 貧血
その他 ほてり, 倦怠感, 無力症／疲労, 浮腫, 筋肉痛, 総コレステロール上昇, CK上昇, 血中尿酸値上昇 咳嗽, 発熱, 味覚障害, しびれ感, 眼症状(かすみ, 異和感等), 関節痛, 筋痙攣, 女性化乳房, 勃起不全
(表終了)

プレミネント配合錠LD（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149110F1040
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド配合剤
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD
【薬価】45.7円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】持続性ARB／利尿薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
【用法用量】成人 1回1錠(ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg／12. 5mg) 1日1回 内服。
高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
ロサルタンカリウム50mgで効果不十分時に本剤, ロサルタンカリウム100mg又は本剤で効果不十分時にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして100mg／12. 5mgの投与を検討。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. チアジド系薬剤・その類似化合物(例 クロルタリドン等のスルフォンアミド誘導体)に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 無尿・透析患者。
6. 急性腎障害。
7. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
8. アリスキレンを投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
9. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(不快感, 口内異常感, 発汗, 蕁麻疹, 呼吸困難, 全身潮紅, 浮腫等)。
2. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
3. 急性肝炎, 劇症肝炎(各頻度不明)。
4. 急性腎障害(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
7. 低カリウム血症, 高カリウム血症(各頻度不明)(倦怠感, 脱力感, 不整脈等)。
8. 不整脈(頻度不明)(心室性期外収縮, 心房細動等)。
9. 汎血球減少, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
10. 再生不良性貧血, 溶血性貧血(各頻度不明)。
11. 壊死性血管炎(頻度不明)。
12. 間質性肺炎, 肺水腫, 急性呼吸窮迫症候群(各頻度不明)。
13. 全身性エリテマトーデスの悪化(頻度不明)。
14. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
15. 低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 痙攣, 意識障害等)。
16. 急性近視(霧視, 視力低下等含む), 閉塞隅角緑内障(各頻度不明)(急激な視力の低下, 眼痛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈, 浮遊感, 眠気, 頭痛 耳鳴, 不眠, 知覚異常
循環器系 低血圧, 起立性低血圧, 動悸 調律障害(頻脈等), 胸痛
消化器 嘔吐・嘔気 口内炎, 下痢, 口角炎, 胃不快感, 胃潰瘍, 腹部仙痛, 膵炎, 唾液腺炎, 便秘, 食欲不振, 腹部不快感, 口渇
肝臓 黄疸, 肝機能障害(AST上昇, ALT上昇, LDH上昇等)
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
皮膚 発疹, 蕁麻疹 多形紅斑, 光線過敏, 紅皮症, 紅斑, 掻痒, 顔面潮紅, 皮膚エリテマトーデス
血液 貧血, 赤血球数増加, 赤血球数減少, ヘマトクリット低下, ヘマトクリット上昇, ヘモグロビン増加, 白血球数増加, リンパ球数増加 好酸球数増加, 好中球百分率増加, リンパ球数減少
その他 倦怠感, CK上昇, 高尿酸血症, 高血糖症, 頚部異和感, 多汗, 頻尿, CRP増加, 尿中ブドウ糖陽性, 尿中赤血球陽性, 尿中白血球陽性, 尿中蛋白陽性, BNP増加 発熱, 味覚障害, しびれ感, 眼症状(かすみ, 異和感等), 黄視症, ほてり, 浮腫, 筋肉痛, 咳嗽, 低マグネシウム血症, 低クロール性アルカローシス, 血清カルシウム増加, インポテンス, 高カルシウム血症を伴う副甲状腺障害, 筋痙攣, 関節痛, 鼻閉, 紫斑, 呼吸困難, 血清脂質増加, 女性化乳房
(表終了)

ブロプレス錠4（4mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149040F2022
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】カンデサルタン シレキセチル
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】25.5円/1T
【薬価収載日】1999/05/07
【標榜薬効】持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○腎実質性高血圧症
下記でアンジオテンシン変換酵素阻害剤の投与が不適切な時
○慢性心不全(軽症～中等症)
注意
慢性心不全
1. アンジオテンシン変換酵素阻害剤投与による前治療が行われていない患者への有効性は未確認, アンジオテンシン変換酵素阻害剤から切りかえて投与。
2. アンジオテンシン変換酵素阻害剤の効果不十分な患者への有効性・安全性, アンジオテンシン変換酵素阻害剤を併用時の有効性・安全性は未確認。

2 個々の器官系用医薬品

3. NYHA心機能分類Ⅳの慢性心不全への有用性は未確立。
【用法用量】高血圧症
成人
1回4～8mg 1日1回 内服。必要時 12mgまで増量。腎障害を伴う時 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
小児
1～6歳未満 1回0．05～0．3mg／kg 1日1回 内服。
6歳以上 1回2～8mg 1日1回 内服，必要時 12mgまで増量。
腎障害を伴う時 低用量から開始，必要時 8mgまで増量。
腎実質性高血圧症
成人 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
慢性心不全
成人 1回4mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで。アンジオテンシン変換酵素阻害剤以外による基礎治療は継続。
注意
高血圧症
小児に投与時は，成人量まで。
慢性心不全
投与開始時の収縮期血圧が120mmHg未満，腎障害，利尿剤の併用，心不全の重症者には，2mg／日から開始。2mg／日投与は，4週間まで。
一過性の急激な血圧低下の可能性，初回，4mg／日，8mg／日への増量時には，血圧等の観察を行う。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（顔面，口唇，舌，咽・喉頭等の腫脹）。
2．ショック（頻度不明），失神，意識消失（頻度不明，慢性心不全は0．1～5%未満）（冷感，嘔吐等）。
3．急性腎障害（頻度不明，慢性心不全は0．1～5%未満）。
4．高カリウム血症（頻度不明）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．無顆粒球症（頻度不明）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9．低血糖（頻度不明）（脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）（高血圧症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒，光線過敏症
循環器 眩暈，ふらつき，立ちくらみ，動悸，ほてり 期外収縮，心房細動
精神神経系 頭痛，頭重感，不眠，眠気，舌のしびれ感 四肢のしびれ感
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，胃部不快感，心窩部痛，下痢，口内炎 味覚異常
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
血液 貧血，白血球減少，白血球増多，好酸球増多，血小板減少
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇，蛋白尿
その他 倦怠感，脱力感，鼻出血，頻尿，浮腫，咳，血中カリウム上昇，総コレステロール上昇，血中CK上昇，CRP上昇，血中尿酸上昇，血清総蛋白減少 低ナトリウム血症，腰背部痛，筋肉痛 耳鳴，関節痛
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒
循環器 立ちくらみ，低血圧，ふらつき 眩暈，徐脈，動悸，期外収縮，ほてり
精神神経系 頭痛，眠気，不眠，頭重感，しびれ感
消化器 悪心，心窩部痛，便秘，胃潰瘍，口渇，味覚異常，嘔吐，食欲不振，胃部不快感
肝臓 γ－GTP上昇 ALT，AST，LDH，AI－Pの上昇
血液 貧血 白血球減少，好酸球増多，白血球増多，血小板減少
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇 蛋白尿
その他 血中カリウム上昇，血中尿酸上昇，血中CK上昇 倦怠感，脱力感，咳，浮腫，視覚異常，総コレステロール上昇，低ナトリウム血症，血清総蛋白減少 関節痛
（表終了）

ブロプレス錠8（8mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149040F3029
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】カンデサルタン シレキセチル
【メーカー】製）武田テバ薬品 販）武田薬品工業
【薬価】43.7円/1T
【薬価収載日】1999/05/07
【標榜薬効】持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○腎実質性高血圧症
下記でアンジオテンシン変換酵素阻害剤の投与が不適切な時
○慢性心不全（軽症～中等症）
注意
慢性心不全
1．アンジオテンシン変換酵素阻害剤投与による前治療が行われていない患者への有効性は未確認，アンジオテンシン変換酵素阻害剤から切りかえて投与。
2．アンジオテンシン変換酵素阻害剤の効果不十分な患者への有効性・安全性，アンジオテンシン変換酵素阻害剤を併用時の有効性・安全性は未確認。
3．NYHA心機能分類Ⅳの慢性心不全への有用性は未確立。
【用法用量】高血圧症
成人
1回4～8mg 1日1回 内服。必要時 12mgまで増量。腎障害を伴う時 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
小児
1～6歳未満 1回0．05～0．3mg／kg 1日1回 内服。
6歳以上 1回2～8mg 1日1回 内服，必要時 12mgまで増量。
腎障害を伴う時 低用量から開始，必要時 8mgまで増量。
腎実質性高血圧症
成人 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
慢性心不全
成人 1回4mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで。アンジオテンシン変換酵素阻害剤以外による基礎治療は継続。
注意
高血圧症
小児に投与時は，成人量まで。
慢性心不全
投与開始時の収縮期血圧が120mmHg未満，腎障害，利尿剤の併用，心不全の重症者には，2mg／日から開始。2mg／日投与は，4週間まで。
一過性の急激な血圧低下の可能性，初回，4mg／日，8mg／日への増量時には，血圧等の観察を行う。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（顔面，口唇，舌，咽・喉頭等の腫脹）。
2．ショック（頻度不明），失神，意識消失（頻度不明，慢性心不全は0．1～5%未満）（冷感，嘔吐等）。
3．急性腎障害（頻度不明，慢性心不全は0．1～5%未満）。
4．高カリウム血症（頻度不明）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．無顆粒球症（頻度不明）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9．低血糖（頻度不明）（脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）（高血圧症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒，光線過敏症
循環器 眩暈，ふらつき，立ちくらみ，動悸，ほてり 期外収縮，心房細動
精神神経系 頭痛，頭重感，不眠，眠気，舌のしびれ感 四肢のしびれ感
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，胃部不快感，心窩部痛，下痢，口内炎 味覚異常
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
血液 貧血，白血球減少，白血球増多，好酸球増多，血小板減少
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇，蛋白尿
その他 倦怠感，脱力感，鼻出血，頻尿，浮腫，咳，血中カリウム上昇，総コレステロール上昇，血中CK上昇，CRP上昇，血中尿酸上昇，血清総蛋白減少 低ナトリウム血症，腰背部痛，筋肉痛 耳鳴，関節痛
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒
循環器 立ちくらみ，低血圧，ふらつき 眩暈，徐脈，動悸，期外収縮，ほてり
精神神経系 頭痛，眠気，不眠，頭重感，しびれ感
消化器 悪心，心窩部痛，便秘，胃潰瘍，口渇，味覚異常，嘔吐，食欲不振，胃部不快感
肝臓 γ－GTP上昇 ALT，AST，LDH，AI－Pの上昇
血液 貧血 白血球減少，好酸球増多，白血球増多，血小板減少
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇 蛋白尿
その他 血中カリウム上昇，血中尿酸上昇，血中CK上昇 倦怠感，脱力感，咳，浮腫，視覚異常，総コレステロール上昇，低ナトリウム血症，血清総蛋白減少 関節痛
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ミコンビ配合錠BP（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149113F2023
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】テルミサルタン・ヒドロクロロチアジド配合剤
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム 販)アステラス製薬
【薬価】49.8円/1T
【薬価収載日】2009/06/19
【標榜薬効】胆汁排泄型持続性AT1受容体ブロッカー／利尿薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1．過度な血圧低下のおそれ等があり，高血圧治療の第一選択薬にしない。
2．テルミサルタン40mgで効果不十分時にテルミサルタン／ヒドロクロロチアジド40mg／12．5mgの投与を，テルミサルタン80mg，又はテルミサルタン／ヒドロクロロチアジド40mg／12．5mgで効果不十分時にテルミサルタン／ヒドロクロロチアジド80mg／12．5mgの投与を検討。
【用法用量】成人 1回1錠(テルミサルタン／ヒドロクロロチアジド 40mg／12．5mg又は80mg／12．5mg) 1日1回 内服。
高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
肝障害 テルミサルタン／ヒドロクロロチアジドとして40mg／12．5mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・チアジド系薬剤・その類似化合物(例 クロルタリドン等のスルフォンアミド誘導体)に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．胆汁の分泌不良・重篤な肝障害。
4．無尿・血液透析患者。
5．急性腎不全。
6．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
7．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
8．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(頻度不明)(顔面，口唇，咽頭・喉頭，舌等の腫脹)，喉頭浮腫等，呼吸困難。
2．高カリウム血症(頻度不明)。
3．低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感，食欲不振，嘔気，嘔吐，意識障害等)。
4．腎機能障害(0．5%未満)，急性腎障害。
5．ショック，失神，意識消失(各頻度不明)(冷感，嘔吐等)。
6．肝機能障害(AST，ALT，AI－P，LDHの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7．低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
8．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，喉頭浮腫等)。
9．再生不良性貧血，溶血性貧血(各頻度不明)。
10．間質性肺炎(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)，肺水腫，急性呼吸窮迫症候群(各頻度不明)。
11．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
12．急性近視(霧視，視力低下等含む)，閉塞隅角緑内障(各頻度不明)(急激な視力の低下，眼痛等)。
13．壊死性血管炎(頻度不明)。
14．全身性紅斑性狼瘡の悪化(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症 光線過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，紅斑，呼吸困難，顔面潮紅
精神神経系 眩暈(5．5%) 眠気 不安感，頭のぼんやり感，不眠，睡眠障害，抑うつ状態，知覚異常，錯感覚，頭痛
血液 白血球減少，好酸球上昇，血小板減少，ヘモグロビン減少，紫斑，貧血
循環器 低血圧 動悸 ほてり，心悸亢進，ふらつき，上室性期外収縮，心房細動，上室性頻脈，徐脈，不整脈，起立性低血圧
消化器 下痢，鼓腸 腹痛，消化不良，胃炎，嘔気，嘔吐，食欲不振，口渇，口内炎，膵炎，唾液腺炎，便秘，腹部不快感
眼 視覚異常，視力異常(霧視等)，黄視症，結膜炎，目のチカチカ感，羞明
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH上昇等の肝機能異常
呼吸器 咽頭炎，気管支炎，副鼻腔炎，咳，喀痰増加，鼻閉
腎臓 高尿酸血症 血清クレアチニン上昇，血中尿酸値上昇
代謝異常 脂質異常症(低比重リポ蛋白増加，トリグリセリド増加等)，低クロール性アルカローシス，糖尿病のコントロール不良
骨格筋 関節痛，下肢痛，筋肉痛，下肢痙攣，背部痛，腱炎，筋痙攣
電解質 低カリウム血症，血清カリウム上昇，低マグネシウム血症，血清カルシウムの上昇等の電解質失調
その他 頻尿，疲労，無力症 インフルエンザ様症状，上気道感染，インポテンス，尿路感染，膀胱炎，敗血症，耳鳴，倦怠感，CRP陽性，CK上昇，浮腫，脱力感，発熱，多汗，胸痛，高カルシウム血症を伴う副甲状腺障害，皮膚エリテマトーデス，しびれ，味覚異常
(表終了)

ミニプレス錠0．5mg（0．5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149002F1128
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】プラゾシン塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】高血圧・排尿障害治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．本態性高血圧症，腎性高血圧症
2．前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
前立腺肥大症に伴う排尿障害
原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】1．本態性高血圧症，腎性高血圧症
成人 1回0．5mg 1日1～1．5mgから開始 1日2～3回 効果不十分時 1～2週間あけて 1．5～6mgまで漸増 1日2～3回 分割 内服。まれに1日15mgまで。
適宜増減。
2．前立腺肥大症に伴う排尿障害
成人 1回0．5mg 1日1～1．5mgから開始 1日2～3回 効果不十分時 1～2週間あけて 1．5～6mgまで漸増 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．一過性の血圧低下に伴う失神・意識喪失(0．11%)。
2．狭心症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 ALT，ASTの上昇，肝機能異常
循環器 動悸・心悸亢進，頻脈，起立性眩暈，起立性低血圧，低血圧，ほてり 潮紅 徐脈
精神神経系 眩暈，頭痛・頭重 眠気，眩暈 不眠，耳鳴，四肢のしびれ 抑うつ，幻覚，神経過敏(症)
消化器 食欲不振，下痢，便秘，腹痛，口渇，悪心・嘔吐 膵炎
泌尿・生殖器 頻尿，陰萎，尿失禁 持続勃起，女性化乳房
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒感 扁平苔癬，血管炎
呼吸器 鼻閉 息苦しさ 呼吸困難，鼻出血，鼻充血
眼 かすみ目 強膜変色，眼痛，術中虹彩緊張低下症候群
その他 浮腫，胸痛，倦怠感，脱力感 発汗，疲労 脱毛，発熱，疼痛，関節痛，異常感覚，抗核因子試験陽性
(表終了)

ラジレス錠150mg（150mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2149047F1028
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】アリスキレンフマル酸塩
【メーカー】製)オーファンパシフィック 販)ノバルティスファーマ
【薬価】90.5円/1T
【薬価収載日】2009/09/04
【標榜薬効】直接的レニン阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
患者背景を考慮し，適用の可否を慎重に判断。
【用法用量】成人 1回150mg 1日1回 内服。
効果不十分時 1日300mgまで。
注意
服用時期は患者ごとに食後又は食前(空腹時)のいずれかに，毎日同じ条件で服用するよう指導。食前(空腹時)投与で食後投与に比べ血中濃度が高くなるので，食後投与での開始を考慮。服用時期を変更時は症状の変化に注意。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．イトラコナゾール・シクロスポリンの投与患者。

2 個々の器官系用医薬品

4. アンジオテンシン変換酵素阻害剤・アンジオテンシンII受容体拮抗剤を投与中の糖尿病(アンジオテンシン変換酵素阻害剤・アンジオテンシンII受容体拮抗剤投与含む他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
5. サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物を投与中の糖尿病。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(呼吸困難, 嚥下困難, 顔面, 口唇, 咽頭, 舌, 四肢の腫脹等)。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(喘鳴, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
3. 重篤な高カリウム血症(1%未満)。
4. 重篤な腎機能障害(1%未満), 慢性腎不全の増悪。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
代謝・栄養障害 血中トリグリセリド増加, 血中尿酸増加 低ナトリウム血症
神経系障害 頭痛 眩暈
血管障害 低血圧
胃腸障害 下痢 嘔吐, 悪心
肝胆道系障害 肝機能異常, ALT増加, γ－GTP増加
皮膚・皮下組織障害 発疹 掻痒症, 紅斑
腎・尿路障害 血中クレアチニン増加, 尿中血陽性, 尿中蛋白陽性 BUN増加
その他 CK増加 血中カリウム増加, 末梢性浮腫
(表終了)

レザルタス配合錠HD(1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2149115F2022
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン配合剤
【メーカー】製)第一三共
【薬価】48円/1T
【薬価収載日】2010/04/16
【標榜薬効】高親和性ARB／持続性Ca拮抗薬配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高血圧症
注意
1. 過度の血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
2. オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピンを併用時, いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時, 本剤への切りかえを検討。
【用法用量】成人 1回1錠(オルメサルタン メドキソミル／アゼルニジピン 10mg／8mg又は20mg／16mg) 1日1回 朝食後 内服。
高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
1. 下記の用法・用量を踏まえ, 患者ごとに用量を決定。
オルメサルタン メドキソミル
成人 1回オルメサルタン メドキソミル10～20mg 1日1回 内服。1日5～10mgから開始し, 適宜増減, 1日最大40mg。
アゼルニジピン
成人 1回アゼルニジピン8～16mg 1日1回 朝食後 内服。1回8mg又はさらに低用量から開始し, 適宜増減, 1日最大16mg。
2. 増量は1つの有効成分ずつ行う。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. イトラコナゾール, ミコナゾール(経口剤, 注射剤), フルコナゾール, ホスフルコナゾール, ボリコナゾール, ポサコナゾール, HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル含有製剤, アタザナビル硫酸塩, ホスアンプレナビル カルシウム水和物, ダルナビル含有製剤), コビシスタット含有製剤, 抗ウイルス剤(ニルマトレルビル・リトナビル), エンシトレルビル フマル酸の投与患者。
4. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌の腫脹等)。
2. 腎不全(頻度不明)。
3. 高カリウム血症(頻度不明)。
4. ショック(頻度不明), 失神(頻度不明), 意識消失(頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
5. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
6. 血小板減少(頻度不明)。
7. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
8. 房室ブロック(頻度不明), 洞停止(頻度不明), 徐脈(頻度不明)(眩暈, ふらつき等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
10. アナフィラキシー(頻度不明)(掻痒感, 全身発赤, 血圧低下, 呼吸困難等), アナフィラキシーショック。
11. 重度の下痢(頻度不明)(体重減少), 腸絨毛萎縮等。
12. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5～5%未満 0. 5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹, 発疹 掻痒, 光線過敏性反応
血液 好酸球増多, 白血球数増加 貧血, 血小板数減少
精神神経系 眩暈, 頭痛 立ちくらみ 眠気, ふらつき感, 頭重感
消化器 下痢, 胃部不快感, 便秘, 腹痛, 嘔気・嘔吐 口渇, 歯肉肥厚, 口内炎
循環器 ほてり, 動悸, 顔面潮紅, 胸痛 心房細動
肝臓 ALT上昇, γ－GTP上昇 総ビリルビン上昇, AST上昇, 肝機能異常 LDH上昇, AI－P上昇
泌尿器 BUN上昇, 尿蛋白陽性 クレアチニン上昇, 尿硝子円柱増加, 頻尿, 尿沈渣陽性
その他 尿酸上昇, CK上昇 CRP上昇, 全身倦怠感, カリウム上昇, 総コレステロール上昇, しびれ, 浮腫 咳嗽, 脱力感, 異常感(浮遊感, 気分不良等), カリウム低下, トリグリセリド上昇, 筋肉痛, 疲労, 乳び腹水, 胸部不快感, 味覚異常, 脱毛
(表終了)

レニベース錠5(5mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2144002F2020
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】エナラプリルマレイン酸塩
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD
【薬価】13.2円/1T
【標榜薬効】持続性ACE阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 本態性高血圧症, 腎性高血圧症, 腎血管性高血圧症, 悪性高血圧
2. 下記でジギタリス製剤, 利尿剤等の基礎治療剤が効果不十分時慢性心不全(軽症～中等症)
注意
慢性心不全(軽症～中等症)
1. ジギタリス製剤, 利尿剤等の基礎治療剤で効果不十分時のみ, 追加投与。単独投与での有用性は未確立。
2. 重症の慢性心不全の有用性は未確立。
【用法用量】1. 高血圧症
成人 1回5～10mg 1日1回 内服。
適宜増減。
腎性・腎血管性高血圧症, 悪性高血圧
2. 5mgから開始。
生後1カ月以上の小児 1回0. 08mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。
2. 慢性心不全(軽症～中等症)
ジギタリス製剤, 利尿剤等と併用。
成人 1回5～10mg 1日1回 内服。
適宜増減。
腎障害, 又は利尿剤投与中
初回量 2. 5mgから開始。
注意
小児等には, 1日10mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 血管浮腫の既往(アンジオテンシン変換酵素阻害剤等による血管浮腫, 遺伝性血管浮腫, 後天性血管浮腫, 特発性血管浮腫等)。
3. デキストラン硫酸固定化セルロース・トリプトファン固定化ポリビニルアルコール・ポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器でアフェレーシスを施行中。
4. アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)を用いた血液透析施行中。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. アリスキレンを投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
7. アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬(サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物)の投与中・中止後36時間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(呼吸困難を伴う顔面, 舌, 声門, 喉頭の腫脹), 腸管の血管浮腫(腹痛, 嘔気, 嘔吐, 下痢等)。
2. ショック(頻度不明)。
3. 心筋梗塞, 狭心症(各頻度不明)。
4. 急性腎障害(頻度不明)。
5. 汎血球減少症, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)。
6. 膵炎(頻度不明)(血中のアミラーゼ, リパーゼの上昇等)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
8. 剥脱性皮膚炎, 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 天疱

2 個々の器官系用医薬品

瘡(各頻度不明)。
9. 錯乱(頻度不明)。
10. 肝機能障害, 肝不全(各頻度不明)。
11. 高カリウム血症(0. 8%)。
12. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症, 低浸透圧血症, 尿中ナトリウム排泄量の増加, 高張尿, 痙攣, 意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 クレアチニン上昇 BUN上昇
血液 貧血, 白血球減少 ヘモグロビン低下, ヘマトクリット低下, 好酸球増多
皮膚 発疹, 掻痒 蕁麻疹 光線過敏症, 多汗, 脱毛
精神神経系 眩暈, 頭痛, 眠気 不眠 いらいら感, 抑うつ
循環器 低血圧, 動悸, 胸痛 起立性低血圧, 調律障害(頻脈, 徐脈)
消化器 腹痛, 食欲不振, 嘔気, 下痢, 消化不良, 口内炎 嘔吐 舌炎, 便秘
肝臓 AST上昇, ALT上昇 黄疸
呼吸器 咳嗽, 咽(喉)頭炎 喘息, 嗄声
その他 倦怠感, ほてり, 口渇, 味覚異常, 脱力感, しびれ 発熱, 血清ナトリウム値低下 潮紅, 疲労, インポテンス, 耳鳴, 筋肉痛, 低血糖
(表終了)

ロサルヒド配合錠LD「ニプロ」(1錠)

外 内服 後発 流通

【YJコード】2149110F1309
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド配合剤
【先発品】プレミネント配合錠LD
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】17.4円/1T
【薬価収載日】2014/06/20 【経過措置期限】2026/03/31
【標榜薬効】持続性ARB／利尿薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
【用法用量】成人 1回1錠(ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg／12. 5mg又は100mg／12. 5mg) 1日1回 内服。高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
ロサルタンカリウム50mgで効果不十分時に本剤の投与を, ロサルタンカリウム100mg又は本剤で効果不十分時にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして100mg／12. 5mgの投与を検討。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. チアジド系薬剤・その類似化合物(例 クロルタリドン等のスルフォンアミド誘導体)に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 無尿・透析患者。
6. 急性腎障害。
7. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
8. アリスキレンを投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
9. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(不快感, 口内異常感, 発汗, 蕁麻疹, 呼吸困難, 全身潮紅, 浮腫等)。
2. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
3. 急性肝炎, 劇症肝炎(各頻度不明)。
4. 急性腎障害(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
7. 低カリウム血症, 高カリウム血症(各頻度不明)(倦怠感, 脱力感, 不整脈等)。
8. 不整脈(頻度不明)(心室性期外収縮, 心房細動等)。
9. 汎血球減少, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
10. 再生不良性貧血, 溶血性貧血(各頻度不明)。
11. 壊死性血管炎(頻度不明)。
12. 間質性肺炎, 肺水腫, 急性呼吸窮迫症候群(各頻度不明)。
13. 全身性エリテマトーデスの悪化(頻度不明)。
14. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
15. 低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 痙攣, 意識障害等)。
16. 急性近視(霧視, 視力低下等含む), 閉塞隅角緑内障(各頻度不明)(急激な視力の低下, 眼痛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈, 浮遊感, 眠気, 頭痛 耳鳴, 不眠, 知覚異常
循環器系 低血圧, 起立性低血圧, 動悸 調律障害(頻脈等), 胸痛
消化器 嘔吐・嘔気 口内炎, 下痢, 口角炎, 胃不快感, 胃潰瘍, 腹部仙痛, 膵炎, 唾液腺炎, 便秘, 食欲不振, 腹部不快感, 口渇
肝臓 黄疸, 肝機能障害(AST上昇, ALT上昇, LDH上昇等)
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
皮膚 発疹, 蕁麻疹 多形紅斑, 光線過敏, 紅皮症, 紅斑, 掻痒, 顔面潮紅, 皮膚エリテマトーデス
血液 貧血, 赤血球数増加, 赤血球数減少, ヘマトクリット低下, ヘマトクリット上昇, ヘモグロビン増加, 白血球数増加, リンパ球数増加 好酸球数増加, 好中球百分率増加, リンパ球数減少
その他 倦怠感, CK上昇, 高尿酸血症, 高血糖症, 頚部異和感, 多汗, 頻尿, CRP増加, 尿中ブドウ糖陽性, 尿中赤血球陽性, 尿中白血球陽性, 尿中蛋白陽性, BNP増加 発熱, 味覚障害, しびれ感, 眼症状(かすみ, 異和感等), 黄視症, ほてり, 浮腫, 筋肉痛, 咳嗽, 低マグネシウム血症, 低クロール性アルカローシス, 血清カルシウム増加, インポテンス, 高カルシウム血症を伴う副甲状腺障害, 筋痙攣, 関節痛, 鼻閉, 紫斑, 呼吸困難, 血清脂質増加, 女性化乳房
(表終了)

2. 1. 6 血管収縮剤

イミグラン点鼻液20(20mg0. 1mL1個)

外 外用 流通
劇

【YJコード】2160700Q1027
【薬効分類】2. 1. 6 血管収縮剤
【一般名】スマトリプタン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】466.1円/1個
【薬価収載日】2003/06/06
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】片頭痛
注意
1. 国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」, 「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は, くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診, 診察, 検査を実施し, 頭痛の原因を確認後投与。
(1). 今まで片頭痛の診断がない。
(2). 片頭痛の診断後, 症状や経過が異なった頭痛, 随伴症状。
2. 家族性片麻痺性片頭痛, 孤発性片麻痺性片頭痛, 脳底型片頭痛, 眼筋麻痺性片頭痛には投与しない。
【用法用量】成人 1回20mg 片頭痛発現時 鼻腔内投与。
効果不十分時 2時間以上あけて追加。
1日総量40mg以内。
注意
1. 頭痛発現時のみ使用。予防的使用しない。
2. 全く効果なければ, 追加しない。再検査し, 原因を確認。
3. スマトリプタン製剤を組み合わせる時は最低下記の間隔をあけて投与。
・点鼻液投与後に注射液又は経口剤の追加 2時間以上。
・経口剤投与後に点鼻液の追加 2時間以上。
・注射液投与後に点鼻液の追加 1時間以上。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心筋梗塞の既往, 虚血性心疾患・その症状・兆候, 異型狭心症(冠動脈攣縮)。
3. 脳血管障害・一過性脳虚血性発作の既往。
4. 末梢血管障害。
5. コントロールされてない高血圧症。
6. 重篤な肝機能障害。
7. エルゴタミン・エルゴタミン誘導体含有製剤・他の5－HT1B／1D受容体作動薬の投与患者。
8. MAO阻害剤を投与中・中止2週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 虚血性心疾患様症状(頻度不明)(不整脈, 狭心症, 心筋梗塞含む)(胸痛, 胸部圧迫感等)。
3. てんかん様発作(頻度不明)。
4. 頭痛(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹, 発疹等の皮膚症状
呼吸器 刺激感(痛み, 異和感等)・灼熱感, 鼻炎(鼻汁, 鼻閉, くしゃみ等) 鼻出血 呼吸困難
循環器 動悸, 頻脈 一過性の血圧上昇, 徐脈, レイノー現象, 低血圧

2 個々の器官系用医薬品

消化器 悪心 嘔吐 虚血性大腸炎
眼 視野狭窄，暗点，ちらつき 複視，眼振，一過性の視力低下
精神神経系 眠気，眩暈 感覚障害(錯感覚，しびれ等の感覚鈍麻等)，振戦 ジストニア
肝臓 肝機能障害
その他 苦み，痛み(胸痛，咽喉頭痛，頭痛，筋肉痛，関節痛，背部痛，頚部痛等)，熱感，倦怠感，冷感，潮紅 重感 圧迫感，脱力感，ひっ迫感
(表終了)

マクサルトRPD錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2160006F2022
【薬効分類】2．1．6 血管収縮剤
【一般名】リザトリプタン安息香酸塩
【メーカー】製)オルガノン 販)エーザイ
【薬価】340.3円/1T
【薬価収載日】2003/09/12
【標榜薬効】片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】片頭痛
注意
1．国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」，「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は，くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診，診察，検査を実施し，頭痛の原因を確認後投与。
(1)．今まで片頭痛の診断がない。
(2)．片頭痛の診断後，症状や経過が異なった頭痛，随伴症状。
2．家族性片麻痺性片頭痛，孤発性片麻痺性片頭痛，脳底型片頭痛，眼筋麻痺性片頭痛には投与しない。
【用法用量】成人 1回10mg 片頭痛発現時 内服。
効果不十分時 2時間以上あけて追加。
1日総量20mg以内。
注意
1．片頭痛発現時のみ使用し，予防的に投与しない。
2．全く効果なければ，追加しない。再検査し，原因を確認。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．心筋梗塞の既往，虚血性心疾患・その症状・兆候，異型狭心症(冠動脈攣縮)。
3．脳血管障害・一過性脳虚血発作の既往。
4．末梢血管障害。
5．コントロールされてない高血圧症。
6．重度の肝機能障害。
7．血液透析患者。
8．エルゴタミン・エルゴタミン誘導体含有製剤・他の5－HT1B／1D受容体作動薬の投与患者。
9．MAO阻害剤を投与中・中止2週間以内。
10．プロプラノロール塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシーショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
2．不整脈，狭心症，心筋梗塞含む虚血性心疾患様症状(頻度不明)(胸痛，胸部圧迫感等)。
3．重篤な発作性頻脈(WPW症候群)(頻度不明)。
4．てんかん様発作(頻度不明)。
5．血管浮腫(頻度不明)(顔面，舌，咽頭等)。
6．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)。
7．呼吸困難(頻度不明)。
8．失神(頻度不明)。
9．頭痛(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
全身症状 倦怠感，脱力，胸痛，冷感 無力症・疲労
循環器 動悸 頻脈，高血圧
消化器 悪心，嘔吐，下痢，口内乾燥，口渇，腹痛 消化不良
筋・骨格系 硬直 頸部痛，局所性重圧感，局所性絞扼感，筋力低下，顔面痛
精神神経系 傾眠（7．7%）眩暈，感覚減退，錯感覚，知覚過敏 頭痛，精神明瞭性の減退，不眠症，振戦，運動失調，神経過敏，失見当識，多幸症
呼吸器 鼻乾燥 咽頭不快感，喘鳴
皮膚 蕁麻疹，掻痒症 潮紅，発汗，発疹
肝臓 肝機能異常(ALT上昇，AST上昇等)
その他 CK上昇，光視症，頻尿，食欲減退 霧視，ほてり，温感，味覚異常
(表終了)

レルパックス錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2160005F1021
【薬効分類】2．1．6 血管収縮剤
【一般名】エレトリプタン臭化水素酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】346.9円/1T
【薬価収載日】2002/06/07
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】片頭痛
注意
1．国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」，「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は，くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診，診察，検査を実施し，頭痛の原因を確認後投与。
(1)．今まで片頭痛の診断がない。
(2)．片頭痛の診断後，症状や経過が異なった頭痛，随伴症状。
2．家族性片麻痺性片頭痛，孤発性片麻痺性片頭痛，脳底型片頭痛，眼筋麻痺性片頭痛には投与しない。
【用法用量】成人 1回20mg 片頭痛発現時 内服。
効果不十分時 2時間以上あけて追加。
20mgで効果不十分時 次回片頭痛発現時から 40mgを内服できる。
1日総量40mg以内。
注意
1．頭痛発現時のみ使用し，予防的に使用しない。
2．全く効果なければ，追加しない。再検査し，原因を確認。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．心筋梗塞の既往，虚血性心疾患・その症状・兆候，異型狭心症(冠動脈攣縮)。
3．脳血管障害・一過性脳虚血発作の既往。
4．末梢血管障害。
5．コントロールされてない高血圧症。
6．重度の肝機能障害。
7．エルゴタミン，エルゴタミン誘導体含有製剤，他の5－HT1B／1D受容体作動薬，HIVプロテアーゼ阻害薬(リトナビル)，ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシーショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．不整脈，狭心症，心筋梗塞含む虚血性心疾患様症状(頻度不明)(胸痛，胸部圧迫感等)。
3．てんかん様発作(頻度不明)。
4．重篤な発作性頻脈(WPW症候群)(頻度不明)。
5．頭痛(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
神経系 浮動性眩暈，傾眠・眠気，異常感覚，頭痛 感覚減退，回転性眩暈，筋緊張亢進
心・血管系 熱感 潮紅 動悸，頻脈，血圧上昇
消化器系 嘔気，口内乾燥 消化不良，腹痛 嘔吐
皮膚 発疹，掻痒症，蕁麻疹，血管浮腫
その他 疲労，咽喉絞扼感 多汗，胸部絞扼感，無力症，悪寒，咽喉頭疼痛，疼痛，背部痛 胸痛，倦怠感，筋痛，胸部圧迫感，筋無力症
(表終了)

2．1．7 血管拡張剤

アダラートCR錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2171014G3022
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ニフェジピン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】7.2円/1T
【薬価収載日】1998/06/12
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤／高血圧・狭心症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高血圧症，腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
2．狭心症，異型狭心症
【用法用量】1．高血圧症
成人 1回20～40mg 1日1回 内服。1日10～20mgから開始 必

2 個々の器官系用医薬品

要時，漸増。1日40mgで効果不十分時　1回40mg　1日2回まで。
2. 腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。
3. 狭心症，異型狭心症
成人　1回40mg　1日1回　内服。適宜増減，1日最高60mg　1日1回。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)。
2. 無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 血圧低下に伴う一過性の意識障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇　黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 顔面潮紅，熱感，潮紅，動悸，浮腫(下肢，顔面等)，頻脈，頻尿 のぼせ，血圧低下，起立性低血圧 胸部痛，発汗，悪寒
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感，不眠，異常感覚 振戦 眠気，脱力感，筋痙攣，四肢しびれ感
消化器 悪心・嘔吐，便秘，下痢，腹部不快感，胸やけ 口渇 上腹部痛，食欲不振，鼓腸
過敏症 発疹，掻痒　光線過敏症，紫斑，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
代謝異常 高血糖
血液 貧血 白血球減少 血小板減少
呼吸器　呼吸困難，咳嗽，鼻出血，鼻閉
その他　視力異常(霧視等)，関節痛 女性化乳房，眼痛，筋肉痛，関節腫脹，勃起不全
(表終了)

アダラートCR錠20mg（20mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2171014G4029
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】ニフェジピン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】13.2円/1T
【薬価収載日】1998/06/12
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤／高血圧・狭心症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症，腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
2. 狭心症，異型狭心症
【用法用量】1. 高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。1日40mgで効果不十分時　1回40mg　1日2回まで。
2. 腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。
3. 狭心症，異型狭心症
成人　1回40mg　1日1回　内服。適宜増減，1日最高60mg　1日1回。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)。
2. 無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 血圧低下に伴う一過性の意識障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇　黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 顔面潮紅，熱感，潮紅，動悸，浮腫(下肢，顔面等)，頻脈，頻尿 のぼせ，血圧低下，起立性低血圧 胸部痛，発汗，悪寒
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感，不眠，異常感覚 振戦 眠気，脱力感，筋痙攣，四肢しびれ感
消化器 悪心・嘔吐，便秘，下痢，腹部不快感，胸やけ 口渇 上腹部痛，食欲不振，鼓腸
過敏症 発疹，掻痒　光線過敏症，紫斑，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
代謝異常 高血糖
血液 貧血 白血球減少 血小板減少
呼吸器　呼吸困難，咳嗽，鼻出血，鼻閉
その他　視力異常(霧視等)，関節痛 女性化乳房，眼痛，筋肉痛，関節腫脹，勃起不全
(表終了)

アダラートCR錠40mg（40mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2171014G5025
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】ニフェジピン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】23.8円/1T
【薬価収載日】1998/06/12
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤／高血圧・狭心症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症，腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
2. 狭心症，異型狭心症
【用法用量】1. 高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。1日40mgで効果不十分時　1回40mg　1日2回まで。
2. 腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。
3. 狭心症，異型狭心症
成人　1回40mg　1日1回　内服。適宜増減，1日最高60mg　1日1回。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)。
2. 無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 血圧低下に伴う一過性の意識障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇　黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 顔面潮紅，熱感，潮紅，動悸，浮腫(下肢，顔面等)，頻脈，頻尿 のぼせ，血圧低下，起立性低血圧 胸部痛，発汗，悪寒
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感，不眠，異常感覚 振戦 眠気，脱力感，筋痙攣，四肢しびれ感
消化器 悪心・嘔吐，便秘，下痢，腹部不快感，胸やけ 口渇 上腹部痛，食欲不振，鼓腸
過敏症 発疹，掻痒　光線過敏症，紫斑，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
代謝異常 高血糖
血液 貧血 白血球減少 血小板減少
呼吸器　呼吸困難，咳嗽，鼻出血，鼻閉
その他　視力異常(霧視等)，関節痛 女性化乳房，眼痛，筋肉痛，関節腫脹，勃起不全
(表終了)

アムロジンOD錠5mg（5mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2171022F4028
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】アムロジピンベシル酸塩
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】13.1円/1T
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤／持続性Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症
2. 狭心症

2 個々の器官系用医薬品

注意
効果発現が緩徐のため，緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
【用法用量】高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。
適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
6歳以上の小児 1回2．5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
6歳以上の小児には，1日5mgまで。

■禁忌
【禁忌】ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
2．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
3．房室ブロック（0．1%未満）（徐脈，眩暈等）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 ALT，ASTの上昇，肝機能障害，AI－P，LDHの上昇 γ－GTP上昇，黄疸 腹水
循環器 浮腫，ほてり（熱感，顔面潮紅等），動悸，血圧低下 胸痛，期外収縮，洞房・房室ブロック，洞停止，心房細動，失神，頻脈 徐脈
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 眠気，振戦，末梢神経障害 気分動揺，不眠，錐体外路症状
消化器 心窩部痛，便秘，嘔気・嘔吐 口渇，消化不良，下痢・軟便，排便回数増加，口内炎，腹部膨満，胃腸炎 膵炎
筋・骨格系 筋緊張亢進，筋痙攣，背痛 関節痛，筋肉痛
泌尿・生殖器 BUN上昇 クレアチニン上昇，頻尿・夜間頻尿，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性 勃起障害，排尿障害
代謝異常 血清コレステロール上昇，CK上昇，高血糖，糖尿病，尿中ブドウ糖陽性
血液 赤血球，ヘモグロビン，白血球の減少，白血球増加，紫斑 血小板減少
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，光線過敏症 多形紅斑，血管炎，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
その他 全身倦怠感 しびれ，脱力感，耳鳴，鼻出血，味覚異常，疲労，咳，発熱，視力異常，呼吸困難，異常感覚，多汗，血中カリウム減少 女性化乳房，脱毛，鼻炎，体重増加，体重減少，疼痛，皮膚変色
（表終了）

コニール錠4（4mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2171021F2020
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ベニジピン塩酸塩
【メーカー】製）協和キリン
【薬価】17.2円/1T
【薬価収載日】1991/11/29
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤（持続性Ca拮抗剤）

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．高血圧症，腎実質性高血圧症
2．狭心症
【用法用量】高血圧症，腎実質性高血圧症
成人 1回2～4mg 1日1回 朝食後 内服。適宜増減，効果不十分時 1回8mg 1日1回まで。
重症高血圧症 1回4～8mg 1日1回 朝食後 内服。
狭心症
成人 1回4mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．心原性ショック。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等）
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
血液 白血球減少，好酸球増加 血小板減少
循環器 動悸，顔面紅潮，ほてり，血圧低下 胸部重圧感，徐脈，頻脈 期外収縮
精神神経系 頭痛，頭重，眩暈，ふらつき，立ちくらみ 眠気，しびれ感
消化器 便秘 腹部不快感，嘔気，胸やけ，口渇 下痢，嘔吐
過敏症 発疹 掻痒感 光線過敏症
口腔 歯肉肥厚
その他 浮腫（顔・下腿・手），CK上昇 耳鳴，手指の発赤・熱感，肩こり，咳嗽，頻尿，倦怠感，カリウム上昇 女性化乳房，結膜充血，霧視，発汗
（表終了）

コメリアンコーワ錠100（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2171005F2021
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジラゼプ塩酸塩水和物
【メーカー】製）興和 販）興和新薬
【薬価】8.6円/1T
【標榜薬効】心・腎疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○狭心症，その他の虚血性心疾患（心筋梗塞除く）
○下記の尿蛋白減少
腎機能障害軽度～中等度のIgA腎症
注意
腎機能障害軽度～中等度のIgA腎症の尿蛋白減少
1．腎機能障害が軽度～中等度（クレアチニンクリアランスとして50mL／分以上）のIgA腎症の尿蛋白減少に使用。
2．適切な病型診断（腎生検，血尿，尿蛋白，腎機能等多面的な検査に基づく臨床診断）のもとで使用を開始し，経過を見ながら投与開始後6ヵ月を目標とし，尿蛋白・腎機能等を定期的に検査し投薬継続の可否を検討。病態の急速な進展時は中止又は他の療法を考慮。尿蛋白減少を認め，投薬継続必要時は，定期的に尿蛋白・腎機能等を測定し投薬。
【用法用量】狭心症，その他の虚血性心疾患（心筋梗塞除く）
1回50mg 1日3回 内服。
適宜増減。
腎機能障害軽度～中等度のIgA腎症の尿蛋白減少
1回100mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
精神神経系 頭痛，頭重感 眩暈，ふらつき，不眠，いらいら感，眠気
循環器 動悸，頻脈，熱感，顔面潮紅感，胸部圧迫感，胸部違和感，起立性低血圧
消化器 悪心・嘔吐，便秘，腹痛，下痢，軟便，食欲不振，口渇
過敏症 発疹，掻痒感，紅斑
肝臓 一過性のALT上昇
血液 白血球増多
感覚器 苦味感
その他 易疲労感，喉頭部息づまり感，発汗，手指の張る感じ，肩こり
（表終了）

シグマート錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2171017F2024
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ニコランジル
【メーカー】製）中外製薬
【薬価】7.8円/1T
【標榜薬効】狭心症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症
【用法用量】成人 1日15mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
2．血小板減少（頻度不明）。
3．口内潰瘍，舌潰瘍，肛門潰瘍，消化管潰瘍（各頻度不明）。

2 個々の器官系用医薬品

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 0.1～3%未満 0.1%未満 頻度不明
循環器 動悸, 顔面紅潮 全身倦怠感, 気分不良, 胸痛, 下肢のむくみ, のぼせ感等
精神神経系 頭痛 眩暈 耳鳴, 不眠, 眠気, 舌のしびれ, 肩こり等 第3脳神経麻痺, 第6脳神経麻痺
過敏症 発疹等
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振 下痢, 便秘, 胃もたれ, 胃部不快感, 胃痛, 腹痛, 腹部膨満感, 口角炎, 口渇等 口内炎
肝臓 ビリルビンの上昇, ASTの上昇, ALTの上昇, AI－Pの上昇等
血液 血小板減少
眼 複視 角膜潰瘍, 眼筋麻痺
生殖器 性器潰瘍
皮膚 皮膚潰瘍
その他 頸部痛 血中カリウム増加
(表終了)

ズファジラン錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2172002F1053
【薬効分類】2.1.7 血管拡張剤
【一般名】イソクスプリン塩酸塩
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】9.4円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】脳・末梢血行動態改善・子宮鎮痙剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記に伴う随伴症状
頭部外傷後遺症
○下記に伴う末梢循環障害
ビュルガー病, 閉塞性動脈硬化症, 血栓性静脈炎, 静脈血栓症, レイノー病, レイノー症候群, 凍瘡・凍傷, 特発性脱疽, 糖尿病による末梢血管障害
○子宮収縮の抑制(切迫流・早産)
○月経困難症
【用法用量】循環器
成人 1回10～20mg 1日3～4回 内服。
子宮収縮の抑制
1日30～60mg 1日3～4回 分割 内服。
月経困難症
1回10～20mg 1日3～4回 内服。
適宜増減。
注意
頭蓋内出血の疑いには, 止血が完成したと推定される発作後10日ないし2週間頃から投与。

■禁忌
【禁忌】妊娠12週未満。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心, 食欲不振, 下痢, 胃痛, 嘔吐, 口内炎, 舌炎
循環器 心悸亢進, 顔面潮紅, 血圧低下
精神神経系 頭痛(頭重感), 眩暈, 眠気, 倦怠感
皮膚 発汗, 発疹等
その他 月経過多
(表終了)

ニトロダームTTS25mg（(25mg)10平方cm1枚）

外 外用 流通
劇

【YJコード】2171701S2037
【薬効分類】2.1.7 血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】42.2円/1枚
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】経皮吸収型狭心症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症
注意
狭心症の発作緩解には不適, 速効性の硝酸・亜硝酸エステル系薬剤を使用。
【用法用量】成人 1回1枚(ニトログリセリン 25mg含有) 1日1回
胸部, 腰部, 上腕部のいずれかに貼付。
効果不十分時 2枚に増量。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な低血圧, 心原性ショック。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 頭部外傷, 脳出血。
4. 高度な貧血。
5. 硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6. ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
循環器 眩暈 血圧低下, 動悸, 浮腫 脳貧血, 熱感, 潮紅, 頻脈, 失神
精神神経系 頭痛, 頭重感 — —
過敏症 — アレルギー性接触皮膚炎, 全身発疹 —
皮膚 一次刺激性の接触皮膚炎(刺激症状, 発赤, 掻痒等), かぶれ 糜爛 色素脱失斑
消化器 — 悪心・嘔吐, 下痢 —
その他 — 耳鳴, 頸部硬直感, 疲労感, 倦怠感, 発汗 尿失禁, 便失禁
(表終了)

ニトロールスプレー1.25mg（163.5mg 10g1瓶）

外 外用 流通

【YJコード】2171700R1034
【薬効分類】2.1.7 血管拡張剤
【一般名】硝酸イソソルビド
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】834.3円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】狭心症発作寛解用口腔内スプレー剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症発作の寛解
【用法用量】成人 1回1噴霧(硝酸イソソルビド 1.25mg) 口腔内投与。
効果不十分時 1回1噴霧のみ追加。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な低血圧, 心原性ショック。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 頭部外傷, 脳出血。
4. 高度な貧血。
5. 硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6. ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
循環器 熱感, 潮紅, 眩暈 血圧低下 動悸, 失神
精神神経系 頭痛 脱力感, 不快感
過敏症 発疹
消化器 嘔吐 胃部不快感, 食欲不振
肝臓 AST, ALTの上昇等
その他 口内刺激, 舌のしびれ, 口腔内糜爛
(表終了)

ノルバスク錠2.5mg（2.5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2171022F1029
【薬効分類】2.1.7 血管拡張剤
【一般名】アムロジピンベシル酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー
【薬価】13.5円/1T
【薬価収載日】1993/11/26
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤／持続性Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症
2. 狭心症
注意
効果発現が緩徐のため, 緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
【用法用量】高血圧症
成人 1回2.5～5mg 1日1回 内服。適宜増減, 効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。

2 個々の器官系用医薬品

6歳以上の小児 1回2．5mg 1日1回 内服。適宜増減。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。適宜増減。
注意
6歳以上の小児には，1日5mgまで。

■禁忌
【禁忌】ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
2．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
3．房室ブロック（0．1%未満）（徐脈，眩暈等）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 ALT，ASTの上昇，肝機能障害，AI－P，LDHの上昇 γ－GTP上昇，黄疸 腹水
循環器 浮腫，ほてり（熱感，顔面潮紅等），動悸，血圧低下 胸痛，期外収縮，洞房・房室ブロック，洞停止，心房細動，失神，頻脈 徐脈
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 眠気，振戦，末梢神経障害 気分動揺，不眠，錐体外路症状
消化器 心窩部痛，便秘，嘔気・嘔吐 口渇，消化不良，下痢・軟便，排便回数増加，口内炎，腹部膨満，胃腸炎 膵炎
筋・骨格系 筋緊張亢進，筋痙攣，背痛 関節痛，筋肉痛
泌尿・生殖器 BUN上昇 クレアチニン上昇，頻尿・夜間頻尿，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性 勃起障害，排尿障害
代謝異常 血清コレステロール上昇，CK上昇，高血糖，糖尿病，尿中ブドウ糖陽性
血液 赤血球，ヘモグロビン，白血球の減少，白血球増加，紫斑 血小板減少
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，光線過敏症 多形紅斑，血管炎，血管浮腫 口腔 歯肉肥厚
その他 全身倦怠感 しびれ，脱力感，耳鳴，鼻出血，味覚異常，疲労，咳，発熱，視力異常，呼吸困難，異常感覚，多汗，血中カリウム減少 女性化乳房，脱毛，鼻炎，体重増加，体重減少，疼痛，皮膚変色
（表終了）

フランドルテープ40mg（40mg1枚）

外 外用 流通

【YJコード】2171700S1095
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】硝酸イソソルビド
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】38.4円/1枚
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】経皮吸収型・虚血性心疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患
注意
狭心症の発作寛解には不適，速効性の硝酸・亜硝酸エステル系薬剤を使用。
【用法用量】成人 1回1枚（硝酸イソソルビド 40mg） 胸部，上腹部，背部のいずれかに貼付。貼付後24時間又は48時間ごと貼りかえ。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下 眩暈・ふらつき，熱感，潮紅，動悸
精神神経系 頭痛 脱力感，不快感
過敏症 皮膚の刺激感 発疹
皮膚 一次刺激性の接触皮膚炎（刺激症状，発赤，掻痒等），アレルギー性接触皮膚炎 接触性皮膚炎の後の色素沈着（軽度）
消化器 悪心 胃部不快感，食欲不振，嘔吐
（表終了）

ペルサンチン錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2171010F2553
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジピリダモール
【メーカー】製)MedicalParkland 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】冠血管拡張剤，抗血小板剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患，うっ血性心不全
○ワーファリンとの併用による心臓弁置換術後の血栓・塞栓の抑制
○下記の尿蛋白減少
ステロイドに抵抗性を示すネフローゼ症候群
【用法用量】狭心症，心筋梗塞，その他の虚血性心疾患，うっ血性心不全
成人 1回25mg 1日3回 内服。
適宜増減。
血栓・塞栓の抑制
成人 1日300～400mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。
尿蛋白減少
成人 1日300mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
投薬開始後，4週間を目標に，尿蛋白量を測定し，以後の投薬継続の可否を検討。
尿蛋白量の減少なければ，投薬中止等の処置。
尿蛋白量の減少があり投薬継続の必要時，定期的に尿蛋白量を測定。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アデノシン（アデノスキャン）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．狭心症状の悪化（0．1%未満）。
2．出血傾向（頻度不明）（眼底出血，消化管出血，脳出血等）。
3．血小板減少（頻度不明）。
4．過敏症（頻度不明）（気管支痙攣，血管浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹
精神神経系 頭痛，眩暈，熱感，のぼせ感，ほてり，倦怠感，脱力感 しびれ感，肩こり
循環器 心悸亢進 頻脈，血圧低下，潮紅
消化器 悪心，嘔気，嘔吐，食欲不振，口渇，便秘，腹痛，下痢 腹部膨満感
肝臓 肝機能検査値異常（AST上昇，ALT上昇等）
その他 違和感，胸痛 発汗，耳鳴，筋肉痛，鼻出血，皮下出血
（表終了）

ヘルベッサーRカプセル100mg（100mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】2171006N1105
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジルチアゼム塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】16.7円/1C
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○狭心症，異型狭心症
○本態性高血圧症（軽症～中等症）
【用法用量】狭心症，異型狭心症
成人 1回100mg 1日1回 内服。
効果不十分時 1回200mg 1日1回まで。
本態性高血圧症（軽症～中等症）
成人 1回100～200mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤なうっ血性心不全。
2．2度以上の房室ブロック，洞不全症候群（持続性の洞性徐脈（50拍／分未満），洞停止，洞房ブロック等）。

2 個々の器官系用医薬品

3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 妊婦・妊娠の可能性。
5. アスナプレビル含有製剤・イバブラジン塩酸塩・ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 完全房室ブロック，高度徐脈等（各頻度不明）（徐脈，眩暈，ふらつき等）。
2. うっ血性心不全（頻度不明）。
3. 皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症，紅皮症（剥脱性皮膚炎），急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）（紅斑，水疱，膿疱，掻痒，発熱，粘膜疹等）。
4. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 徐脈，房室ブロック，顔面潮紅，眩暈，動悸，浮腫 洞停止，血圧低下，胸痛 洞房ブロック
精神神経系 倦怠感，頭痛，頭重感，脱力感，眠気，不眠 パーキンソン様症状，こむらがえり
肝臓 AST上昇，ALT上昇 黄疸 AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇，肝腫大
過敏症 発疹，掻痒，多形性紅斑様皮疹 蕁麻疹 光線過敏症，膿疱
消化器 胃部不快感，便秘，腹痛，胸やけ，嘔気，軟便，下痢，口渇 食欲不振
血液 血小板減少，白血球減少
その他 歯肉肥厚，女性化乳房，しびれ
（表終了）

2．1．8 高脂血症用剤

アトーゼット配合錠LD（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189101F1020
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】エゼチミブ・アトルバスタチンカルシウム水和物配合剤
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD 販)バイエル薬品
【薬価】66.2円/1T
【薬価収載日】2018/04/18
【標榜薬効】小腸コレステロールトランスポーター阻害剤／HMG－CoA還元酵素阻害剤配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1. 本剤を高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症治療の第一選択薬にしない。
2. 十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
3. ホモ接合体性家族性高コレステロール血症は，LDLアフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 1回1錠（エゼチミブ／アトルバスタチン 10mg／10mg又は10mg／20mg） 1日1回 食後 内服。
注意
1. 下記の用法・用量を踏まえ，患者ごとに適用を考慮。
エゼチミブ
成人 1回10mg 1日1回 食後 内服。適宜減量。
アトルバスタチンカルシウム水和物
高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日20mgまで。
家族性高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日40mgまで。
2. エゼチミブ10mg及びアトルバスタチンとして10mgを併用時，あるいはアトルバスタチンとして10mgを使用し効果不十分時に，本剤の適用を検討。
3. エゼチミブ10mg及びアトルバスタチンとして20mgを併用時，あるいはアトルバスタチンとして20mg又は本剤を使用し効果不十分時に，HD（エゼチミブ／アトルバスタチン 10mg／20mg）の適用を検討。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝機能障害，下記の肝代謝能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4. グレカプレビル・ピブレンタスビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー，血管神経性浮腫，発疹含む）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）（水疱性発疹）。
3. 横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（各頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
4. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
5. 劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
6. 無顆粒球症，汎血球減少症，血小板減少症（各頻度不明）。
7. 高血糖，糖尿病（各頻度不明）。
8. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 結膜炎，口腔ヘルペス，帯状疱疹，インフルエンザ，肺炎
精神障害 悪夢，睡眠障害，不眠（症），うつ病，抑うつ
神経系障害 眩暈，しびれ，頭痛，異常感覚，錯感覚，味覚異常，眠気，健忘症，脳梗塞，坐骨神経痛，末梢性ニューロパチー
心臓障害 期外収縮，動悸，頻脈，洞性徐脈
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽，呼吸困難
胃腸障害 胃炎，腹部膨満，便秘 悪心，嘔吐，消化不良，腹痛，下痢，膵炎，口唇炎，口内炎，口内乾燥，口腔内不快感，口のしびれ，舌のしびれ，舌炎，舌痛，胸やけ，胃食道逆流性疾患，胃不快感，心窩部痛（心窩部の疼痛），鼓腸放屁，腹部不快感，下腹部痛，軟便，排便回数増加
肝胆道系障害 胆汁うっ滞性黄疸，胆石症，胆嚢炎
皮膚・皮下組織障害 掻痒症，発疹，ざ瘡，蕁麻疹，発赤，光線過敏，皮膚乾燥，皮膚亀裂，脱毛症，爪の障害
筋骨格系・結合組織障害 関節痛，筋肉痛，筋痙縮，背部痛，頸・肩のこり，こわばり感，四肢痛，筋肉疲労，筋力低下，筋炎，腱炎，腱痛
腎・尿路障害 蛋白尿，血尿，着色尿，排尿困難，頻尿
一般・全身障害・投与部位の状態 胸痛，無力症，浮腫（顔面・四肢等），口渇，疼痛，熱感，発熱，全身倦怠（感），疲労
臨床検査 ALT増加 AST増加，γ－GTP増加，AI－P増加 血中CK増加，BUN増加，HbA1c増加，アミラーゼ増加，肝機能検査異常，血圧上昇，血小板数減少，血中ACTH増加，血中K増加，血中LDH増加，血中TSH増加，血中アルドステロン減少，血中クレアチニン増加，血中コリンエステラーゼ増加，血中コルチゾール増加，血中テストステロン減少，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，血中ミオグロビン増加，血中リン増加，血中鉄減少，血中尿酸増加，体重増加，白血球数減少
その他 食欲減退，耳鳴，霧視，ほてり，貧血，低血糖，女性化乳房，勃起不全
（表終了）

クレストール錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189017F2029
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ロスバスタチンカルシウム
【メーカー】製)アストラゼネカ 販)塩野義製薬
【薬価】30.6円/1T
【薬価収載日】2005/03/18
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1. 十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2. 家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 ロスバスタチン 1日1回2．5mgより開始 内服。
早期のLDL－コレステロール値低下の必要時 5mgより開始してもよい。
適宜増減し，投与開始後又は増量後，4週以降にLDL－コレステロール値の低下が不十分時 漸次10mgまで。
10mgを投与してもLDL－コレステロール値の低下が不十分な家族性高コレステロール血症等の重症時のみ 1日最大20mg。
注意
1. クレアチニンクリアランスが30mL／分／1．73m2未満に投与時は2．5mgから開始，1日最大5mg。
2. 特に20mg投与では腎機能に影響があらわれるおそれ。20mg投与開始後12週までの間は，月1回，以降は定期的（半年に1回等）に腎機能検査等を実施。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 下記の肝機能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4. シクロスポリンの投与患者。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症(0. 1%未満)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害等の重篤な腎障害。
2. ミオパシー(頻度不明)(広範な筋肉痛, 高度な脱力感, 著明なCKの上昇)。
3. 免疫介在性壊死性ミオパシー(頻度不明)(近位筋脱力, CK高値, 炎症を伴わない筋線維の壊死, 抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等)。
4. 重症筋無力症(頻度不明)(眼筋型, 全身型)の発症・悪化。
5. 肝炎(0. 1%未満), 肝機能障害(1%未満)(AST, ALTの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
6. 血小板減少(0. 1%未満)。
7. 過敏症状(0. 1%未満)(血管浮腫含む)。
8. 間質性肺炎(0. 1%未満)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
9. 末梢神経障害(0. 1%未満)(四肢の感覚鈍麻, しびれ感等の感覚障害, 疼痛, 筋力低下等)。
10. 多形紅斑(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 2～5%未満 0. 1～2%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒症, 発疹, 蕁麻疹 苔癬様皮疹
消化器 腹痛, 便秘, 嘔気, 下痢 膵炎, 口内炎
筋・骨格系 CK上昇 無力症, 筋肉痛, 関節痛 筋痙攣
精神神経系 頭痛, 浮動性眩暈 健忘, 睡眠障害(不眠, 悪夢等), 抑うつ
内分泌 女性化乳房
代謝異常 HbA1c上昇, 血糖値上昇
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇)
腎臓 蛋白尿, 腎機能異常(BUN上昇, 血清クレアチニン上昇)
(表終了)

コレバイン錠500mg（500mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189014F1029
【薬効分類】2. 1. 8 高脂血症用剤
【一般名】コレスチミド
【メーカー】製)富士製薬工業 販)アステラス製薬 販)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ 販)三菱東京製薬
【薬価】17円/1T
【薬価収載日】1999/05/07
【標榜薬効】高コレステロール血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○高コレステロール血症
○家族性高コレステロール血症
注意
1. 十分な検査を実施し, 高コレステロール血症を確認後適用を考慮。LDL－コレステロール値を確認。
LDL－コレステロール値
トリグリセリド値が400mg／dL以下は次式で測定。
LDL－コレステロール＝総コレステロール－(トリグリセリド／5＋HDL－コレステロール)
トリグリセリド値が400mg／dL以上は超遠沈法等により測定(トリグリセリドが極端な高値を示す例の中には, 総コレステロールが高値を示してもLDL－コレステロールは正常値の時あり)。家族性高コレステロール血症ホモ接合体のLDL受容体完全欠損例では効果なし。
2. 糖尿病, 甲状腺機能低下症, ネフローゼ症候群等の疾患合併, 血清脂質に悪影響を与える薬剤服用, アルコール多飲等の二次的要因による高脂血症は原疾患の治療, 薬剤の切りかえ, アルコール摂取の制限等を実施後, 本剤での治療を考慮。
【用法用量】成人 コレスチミド 1回1. 5g 1日2回 朝・夕食前 水とともに 内服。朝・夕食後投与もできる。
適宜増減, 1日最高4g。
注意
1. 朝夕食後投与の成績は一般臨床試験によるものであり, 原則として朝夕食前投与とする。
2. 1回量は下記の通り。
(表開始)
1回量(1. 5g)
本剤 3錠
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 胆道の完全閉塞。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 腸閉塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 腸管穿孔, 腸閉塞(各頻度不明)(高度の便秘, 持続する腹痛, 嘔吐等)。
2. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
消化器 便秘(12. 1%), 腹部膨満 腹痛, 嘔気, 嘔吐, 下痢, 鼓腸放屁, 口内乾燥, 舌荒れ, 痔の悪化, 血便, 排便痛 消化不良, 食欲不振, 口内炎
肝臓 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDH, ビリルビンの上昇等)
皮膚 掻痒, 発疹, 肌荒れ, 丘疹
循環器 動悸, 狭心症状, 不整脈
筋骨格系 CK上昇, 関節痛, 背部痛(頸部痛, 腰痛等) 筋肉痛
血液 ヘモグロビン減少, 白血球数減少, 赤血球数減少, ヘマトクリット減少
その他 アミラーゼ上昇, 頭痛, 浮腫(顔面, 四肢等), 胸痛, 鼻出血, ピリピリ感, 苦味, コリンエステラーゼ上昇 血糖低下, 倦怠感, 眩暈, 頻尿, しびれ感
(表終了)

ベザトールSR錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2183005G1234
【薬効分類】2. 1. 8 高脂血症用剤
【一般名】ベザフィブラート
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】13.5円/1T
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】高脂血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】高脂血症(家族性含む)
注意
適用前に検査を実施し, 高脂血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】成人 1日400mg 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
腎機能障害, 高齢者 適宜減量。
注意
腎機能障害 腎臓より尿中に排泄されるので注意。下表の血清クレアチニン値に応じ減量。
高齢者は, 下表のクレアチニンクリアランスに応じた投与量の調節を行う。
投与量はクレアチニンクリアランスの実測値で設定。実測困難な時は, 下記の安田の推定式等により用量設定を行う。
男性 (176－年齢)×体重／(100×血清クレアチニン値)
女性 (158－年齢)×体重／(100×血清クレアチニン値)
(表開始)
血清クレアチニン値(mg／dL) クレアチニンクリアランス(mL／分) 投与量
Scr≦1. 5 60≦Ccr 400mg／日 (200mg×2)
1. 5＜Scr＜2 50＜Ccr＜60 200mg／日 (200mg×1)
(表終了)
Scr 血清クレアチニン値
Ccr クレアチニンクリアランス

■禁忌
【禁忌】1. 人工透析(腹膜透析含む)。
2. 腎不全等の重篤な腎疾患。
3. 血清クレアチニン値が2. 0mg／dL以上。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。
5. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害等の重篤な腎障害。
2. ショック, アナフィラキシー(頻度不明)(顔面浮腫, 口唇の腫脹等)。
3. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
4. 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眩暈, 傾眠, 不眠, しびれ感
筋肉 CK上昇 筋肉痛, 筋痙攣
消化器 腹痛, 嘔気, 食欲不振, 腹部膨満感, 下痢, 口内炎 嘔吐, 便秘, 胃潰瘍, 胸やけ, 口渇
皮膚 発疹, 掻痒 蕁麻疹, 光線過敏症
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
血液 貧血, 白血球減少, 血小板増加, 血小板減少
その他 尿酸の上昇 低血糖, 全身倦怠感, 脱毛, 胆石, 勃起不全, 味覚異常, 発熱, 浮腫, 頻尿
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

メバロチン錠10（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189010F2027
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】プラバスタチンナトリウム
【メーカー】製)第一三共
【薬価】18.8円/1T
【薬価収載日】1991/12/06
【標榜薬効】高脂血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高脂血症，家族性高コレステロール血症
注意
十分な検査を実施し，高脂血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。高コレステロール血症が主な異常の高脂血症によく反応する。
【用法用量】成人 プラバスタチンナトリウム 1日10mg 1日1～2回分割 内服。
適宜増減，重症時 1日20mgまで。
注意
メバロン酸の生合成は夜間亢進の報告あり，1日1回投与時，夕食後投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎機能障害。
2．肝機能障害（頻度不明）（黄疸，著しいAST・ALTの上昇等）。
3．血小板減少（頻度不明）（紫斑，皮下出血等）。
4．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
5．ミオパシー（頻度不明）。
6．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
7．末梢神経障害（頻度不明）。
8．過敏症状（頻度不明）（ループス様症候群，血管炎等）。
9．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒，蕁麻疹 紅斑，脱毛，光線過敏，湿疹
消化器 胃不快感，下痢，腹痛 嘔気・嘔吐，便秘，口内炎，消化不良，腹部膨満感，食欲不振，舌炎
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 LDH上昇，AI－P上昇 肝機能異常，ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇，血清クレアチニン上昇
筋肉 CK上昇 筋脱力，筋肉痛，筋痙攣
精神神経系 眩暈，頭痛，不眠
血液 血小板減少，貧血，白血球減少
その他 尿酸値上昇，尿潜血 耳鳴，関節痛，味覚異常，倦怠感，浮腫，しびれ，顔面潮紅
（表終了）

リバゼブ配合錠LD（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189103F1029
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ピタバスタチンカルシウム水和物・エゼチミブ配合剤
【メーカー】製)興和
【薬価】51円/1T
【薬価収載日】2022/11/16
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤／小腸コレステロールトランスポーター阻害剤配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．本剤を高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症治療の第一選択薬にしない。
2．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
3．ホモ接合体性家族性高コレステロール血症は，LDLアフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 1回1錠（ピタバスタチンカルシウム／エゼチミブ 2mg／10mg） 1日1回 食後 内服。
注意
1．下記のピタバスタチンカルシウム水和物とエゼチミブの成人への用法・用量，患者ごとに適用を考慮。
ピタバスタチンカルシウム水和物
成人 1回1～2mg 1日1回 内服。
適宜増減，LDL－コレステロール値の低下が不十分時は増量できるが，1日最大4mg。
エゼチミブ
成人 1回10mg 1日1回 食後 内服。適宜減量。
2．ピタバスタチンカルシウム2mg及びエゼチミブ10mgを併用時，あるいはピタバスタチンカルシウム2mgで効果不十分時に，本剤LD（ピタバスタチンカルシウム／エゼチミブ 2mg／10mg）の適用を検討。
4．肝障害 ピタバスタチンカルシウムとして1日最大2mg。
5．ピタバスタチンは投与量（全身曝露量）の増加に伴い，横紋筋融解症関連有害事象が発現するので，ピタバスタチンカルシウムとして4mgに増量時は，CK上昇，ミオグロビン尿，筋肉痛及び脱力感等の横紋筋融解症前駆症状に注意。ピタバスタチンの成人臨床試験でピタバスタチンカルシウムとして8mg以上の投与は横紋筋融解症及び関連有害事象の発現により中止されている（外国）。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝機能障害，胆道閉塞。
3．シクロスポリンの投与患者。
4．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー，血管神経性浮腫，発疹含む）（エゼチミブ）。
2．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
3．ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
4．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）（HMG－CoA還元酵素阻害剤）。
5．肝機能障害（AST，ALTの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
6．血小板減少（頻度不明）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
8．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒，蕁麻疹，紅斑，多形紅斑，血管性浮腫，脱毛，皮膚疼痛
消化器 口渇，口内乾燥，口内炎，舌炎，嘔気・悪心，嘔吐，逆流性食道炎，胃炎，胃不快感，消化不良，腹痛，腹部膨満感，アミラーゼ上昇，膵炎，胆石症，胆嚢炎，鼓腸放屁，便秘，下痢，食欲不振
肝臓 ALT上昇 γ－GTP上昇 AST上昇，LDH上昇，ビリルビン上昇，コリンエステラーゼ上昇，AI－P上昇，肝炎
腎臓 蛋白尿 頻尿，BUN上昇，血清クレアチニン上昇
循環器 期外収縮，動悸，血圧上昇，胸痛，ほてり
筋肉 CK上昇 筋肉痛，背部痛，四肢痛，脱力感，筋痙縮，筋力低下，ミオグロビン上昇
精神神経系 頭痛・頭重感，しびれ，眩暈，こわばり感，眠気，不眠，坐骨神経痛，抑うつ，錯感覚
血液 白血球増多 貧血，血小板減少，顆粒球減少，白血球減少，好酸球増多，グロブリン上昇，クームス試験の陽性化
内分泌 テストステロン低下，アルドステロン低下，アルドステロン上昇，ACTH上昇，コルチゾール上昇，TSH上昇
その他 倦怠感，疲労感，無力症，関節痛，浮腫，霧視，眼のちらつき，耳閉感，味覚異常，帯状疱疹，単純疱疹，結膜炎，咳嗽，疼痛，抗核抗体の陽性化，尿潜血，着色尿，尿酸値上昇，血清K上昇，血清P上昇
（表終了）

リバロOD錠2mg（2mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2189016F5023
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ピタバスタチンカルシウム水和物
【メーカー】製)興和
【薬価】34.5円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，治療上やむを得ない時のみ，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として適用を考慮。
3．小児には，小児の家族性高コレステロール血症の治療に熟知した医師のもとで，適切な患者にのみ適用を考慮。
4．女性では冠動脈疾患の発症は男性と比べて遅いと報告あり，女児への投与の要否は，リスク・ベネフィットを考慮し慎重に判断。国内臨床

2 個々の器官系用医薬品

試験で女児への使用経験なし。
【用法用量】高コレステロール血症
成人　1回1～2mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大4mg。
家族性高コレステロール血症
成人
1回1～2mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大4mg。
10歳以上の小児
1回1mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大2mg。
＜参考＞
成人
（表開始）
＼ OD錠1mg OD錠2mg OD錠4mg
高コレステロール血症 ○ ○ ○
家族性高コレステロール血症 ○ ○ ○
（表終了）
小児
（表開始）
＼ OD錠1mg OD錠2mg OD錠4mg
高コレステロール血症 － － －
家族性高コレステロール血症 ○ ○ －
（表終了）
○ 承認用法・用量あり
－ 承認なし
注意
1. 肝障害の成人 開始量1日1mg，1日最大2mg。
肝障害の小児 1日1mg。
2. 投与量（全身曝露量）の増加に伴い，横紋筋融解症関連有害事象が発現。4mgに増量時，横紋筋融解症前駆症状に注意。成人臨床試験で8mg以上の投与は横紋筋融解症・関連有害事象の発現により中止（外国）。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝障害，胆道閉塞。
3. シクロスポリンの投与患者。
4. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
2. ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
3. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
4. 肝機能障害（AST，ALTの著しい上昇等），黄疸（各0．1%未満）。
5. 血小板減少（頻度不明）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
7. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～2．0% 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹 紅斑，血管性浮腫
消化器 嘔気・悪心，胃不快感 口渇，消化不良，腹痛，腹部膨満感，便秘，口内炎，嘔吐，食欲不振，舌炎，下痢
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇 ビリルビン上昇，コリンエステラーゼ上昇，AI－P上昇
腎臓　頻尿，BUN上昇，血清クレアチニン上昇
筋肉 CK上昇，筋肉痛，脱力感 筋痙攣，ミオグロビン上昇
精神神経系 頭痛・頭重感，しびれ，眩暈 こわばり感，眠気，不眠
血液 貧血 血小板減少，顆粒球減少，白血球減少，好酸球増多，白血球増多，グロブリン上昇，クームス試験の陽性化
内分泌 テストステロン低下 アルドステロン低下，アルドステロン上昇，ACTH上昇，コルチゾール上昇
その他 倦怠感，抗核抗体の陽性化 動悸，疲労感，皮膚疼痛，ほてり，関節痛，浮腫，霧視，眼のちらつき，耳閉感，尿潜血，尿酸値上昇，血清K上昇，血清P上昇，味覚異常，着色尿 脱毛
（表終了）

リピトール錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2189015F2020
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】アトルバスタチンカルシウム水和物
【メーカー】製）ヴィアトリス製薬　販）アステラス製薬
【薬価】24.5円/1T
【薬価収載日】2000/05/02
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1. 十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2. 家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】高コレステロール血症
成人　1回10mg　1日1回　内服。
適宜増減，重症時　1日20mgまで。
家族性高コレステロール血症
成人　1回10mg　1日1回　内服。
適宜増減，重症時　1日40mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 下記の肝代謝能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4. グレカプレビル・ピブレンタスビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（各頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
2. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
3. 劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
4. 過敏症（頻度不明）（血管神経性浮腫，アナフィラキシー反応，蕁麻疹含む）。
5. 無顆粒球症，汎血球減少症，血小板減少症（各頻度不明）。
6. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）（水疱性発疹）。
7. 高血糖，糖尿病（各頻度不明）。
8. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚　掻痒感，発疹，皮疹，発赤 脱毛症，光線過敏，皮膚乾燥，皮膚亀裂，爪の障害
血液　血小板減少，白血球減少，貧血
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇，LDH上昇，肝障害
消化器　アミラーゼ上昇，嘔吐，下痢，胃炎，軟便，嘔気，口内炎，胸やけ，便秘，胃不快感，腹痛，心窩部痛（心窩部の疼痛），腹部膨満感 膵炎，胆汁うっ滞性黄疸，食欲不振，消化不良，悪心，口渇，舌痛，舌炎，舌のしびれ，口のしびれ，口唇炎，咽頭不快感
呼吸器　咳
筋骨格系 CK上昇　痙攣，筋炎，筋肉痛，血中ミオグロビン上昇，無力症，関節痛，頸・肩のこり，胸痛，背部痛，こわばり感，腱炎，腱痛
感覚器　異常感覚，末梢神経障害，耳鳴，霧視
精神神経系　眩暈，不眠（症）勃起障害，四肢しびれ（感），眠気，健忘症，抑うつ，悪夢
内分泌 テストステロン低下 コリンエステラーゼ上昇，TSH上昇，ACTH上昇，アルドステロン低下 女性化乳房
代謝異常　グルコース上昇，HbA1c上昇，血清鉄低下 低血糖症
腎臓　K上昇 BUN上昇，血中クレアチニン増加，血尿
その他　脳梗塞，肺炎，頭痛，全身倦怠（感），帯状疱疹 浮腫（顔面・四肢等），動悸，頻脈，味覚異常，頻尿，排尿困難，着色尿，熱感，発熱
（表終了）

リポバス錠5（5mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2189011F1025
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】シンバスタチン
【メーカー】製）オルガノン　販）MSD
【薬価】23.4円/1T
【薬価収載日】1991/11/29
【標榜薬効】高脂血症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高脂血症，家族性高コレステロール血症
注意
十分な検査を実施し，高脂血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
高コレステロール血症が主な異常の高脂血症によく反応する。
【用法用量】成人　1回5mg　1日1回　内服。
適宜増減，LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日20mgまで。
注意
コレステロール生合成は夜間亢進の報告あり，1日1回夕食後投与。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝障害。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4. イトラコナゾール・ミコナゾール・ポサコナゾール・アタザナビル・サキナビルメシル酸塩・コビシスタット含有製剤の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（各頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCK上昇等）。
2. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
3. 肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明），肝不全（0. 1%未満）。
4. 末梢神経障害（頻度不明）（筋力低下等），感覚障害（四肢の感覚鈍麻，しびれ感・冷感等）。
5. 血小板減少（0. 2%）。
6. 過敏症候群（頻度不明）（ループス様症候群，血管炎等含む）。
7. 間質性肺炎（0. 07%）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
8. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛，嘔気，嘔吐，下痢，消化不良，食欲不振，便秘，腹部膨満感，口内炎 膵炎，鼓腸放屁，舌炎
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇，総ビリルビン値上昇
皮膚 掻痒，発疹，蕁麻疹，脱毛，紅斑 光線過敏，扁平苔癬
筋肉 CK上昇，ミオグロビン上昇 筋肉痛，筋痙攣
血液 白血球減少 貧血
精神神経系 頭痛，眩暈，しびれ 不眠，認知機能障害（記憶障害，混乱等），抑うつ
その他 倦怠感，BUN上昇，浮腫，関節痛，ほてり，胸痛，味覚異常，勃起不全，HbA1c上昇，血糖値上昇，テストステロン低下 心悸亢進，頻尿，口渇，耳鳴，発熱
（表終了）

ローコール錠20mg（20mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2189012F2026
【薬効分類】2. 1. 8 高脂血症用剤
【一般名】フルバスタチンナトリウム
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】35.1円/1T
【薬価収載日】2003/06/13
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇高コレステロール血症
〇家族性高コレステロール血症
注意
十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】成人 1回20～30mg 1日1回 夕食後 内服。20mgから開始。
適宜増減，重症時 1日60mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝障害。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（各頻度不明）（筋炎含む）（広範な筋肉痛，脱力感，著明なCKの上昇）。
2. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
3. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
4. 肝機能障害（頻度不明）（肝炎，黄疸等）。
5. 過敏症状（頻度不明）（ループス様症候群，血管炎，血管浮腫，アナフィラキシー反応等）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感 蕁麻疹，湿疹 脱毛，光線過敏
消化器 胃不快感，胸やけ，腹痛，嘔気，便秘，下痢，食欲不振，腹部膨満感 嘔吐，口内炎，口渇 膵炎
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，LAPの上昇 コリンエステラーゼ上昇 －
腎臓 BUN，血清クレアチニンの上昇 頻尿 －
筋肉 CK上昇，筋肉痛 脱力感 －
精神神経系 眩暈，頭痛 睡眠障害，知覚異常（しびれ等） －
血液 白血球減少 貧血，血小板減少，好酸球増多 －
その他 倦怠感，血清カリウム上昇，尿酸上昇 関節痛，発熱，動悸，味覚異常，浮腫，胸内苦悶感 ほてり，勃起不全
（表終了）

ロスーゼット配合錠LD（1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2189102F1024
【薬効分類】2. 1. 8 高脂血症用剤
【一般名】エゼチミブ・ロスバスタチンカルシウム配合剤
【メーカー】製)オルガノン 販)MSD 販)バイエル薬品
【薬価】69.1円/1T
【薬価収載日】2019/05/22
【標榜薬効】小腸コレステロールトランスポーター阻害剤／HMG－CoA還元酵素阻害剤配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1. 本剤を高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症治療の第一選択薬にしない。
2. 十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
3. ホモ接合体性家族性高コレステロール血症は，LDLアフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 1回1錠（エゼチミブ／ロスバスタチン 10mg／2. 5mg又は10mg／5mg） 1日1回 食後 内服。
注意
1. 下記のエゼチミブとロスバスタチンカルシウムの用法・用量を踏まえ，患者ごとに適用を考慮。
エゼチミブ
成人 1回10mg 1日1回 食後 内服。適宜減量。
ロスバスタチンカルシウム
成人 1回2. 5mg 1日1回より開始，早期にLDLコレステロール値を低下させる必要がある時は5mgより開始してよい。適宜増減，投与開始後，増量後，4週以降にLDLコレステロール値が低下不十分時は，10mgまで漸増。10mgを投与してもLDLコレステロール値の低下が不十分な家族性高コレステロール血症等の重症時のみ，1日最大20mg。
2. エゼチミブ10mg及びロスバスタチン2. 5mgを併用時，あるいはロスバスタチン2. 5mgを使用し効果不十分時に，本剤の適用を検討。
3. エゼチミブ10mg及びロスバスタチン5mgを併用時，あるいはロスバスタチン5mg又はエゼチミブ／ロスバスタチン10mg／2. 5mgを使用し効果不十分時に，HD（エゼチミブ／ロスバスタチン 10mg／5mg）の適用を検討。
4. クレアチニンクリアランスが30mL／分／1. 73m2未満にロスバスタチンカルシウムを投与時は，ロスバスタチン2. 5mgより開始し，1日最大ロスバスタチン5mg。
5. ロスバスタチン20mg投与時では腎機能に影響のおそれ。本剤にロスバスタチンを追加時等，ロスバスタチン20mg投与開始後12週までの間は，月に1回，それ以降は定期的（半年に1回等）に腎機能検査を実施。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝機能障害，下記の肝機能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4. シクロスポリンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー，血管浮腫，発疹含む）。
2. 多形紅斑（頻度不明）。
3. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
4. ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，高度な脱力感，著明なCKの上昇）。
5. 免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
6. 肝炎，肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
7. 血小板減少（頻度不明）。
8. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9. 末梢神経障害（頻度不明）（四肢の感覚鈍麻，しびれ感等の感覚障害，疼痛，筋力低下等）。
10. 重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明

2 個々の器官系用医薬品

感染症・寄生虫症　結膜炎，口腔ヘルペス，帯状疱疹
精神障害　悪夢，睡眠障害，不眠症，抑うつ
神経系障害　感覚鈍麻 しびれ，健忘，坐骨神経痛，錯感覚，頭痛，浮動性眩暈
心臓障害　期外収縮，動悸
胃腸障害　便秘 悪心，腹痛，口内炎，口内乾燥，嘔吐，胃炎，胃食道逆流性疾患，膵炎，下痢，鼓腸放屁，消化不良，腹部膨満
肝胆道系障害　胆石症，胆嚢炎
皮膚・皮下組織障害　発疹，紅斑 アレルギー性皮膚炎，掻痒症，湿疹，蕁麻疹，苔癬様皮疹
筋骨格系・結合組織障害　背部痛，四肢不快感 関節痛，筋肉痛，筋力低下，筋痙縮，四肢痛
腎・尿路障害　腎機能障害，蛋白尿
一般・全身障害・投与部位の状態　胸痛，疼痛，疲労，浮腫（顔面・四肢），無力症
臨床検査 ALT増加，肝機能検査異常 γ－GTP増加，HbA1c増加，血中CK増加，血中尿酸増加 AST増加，BUN増加，アミラーゼ増加，血圧上昇，血小板数減少，血中TSH増加，血中クレアチニン増加，血中コルチゾール増加，血中テストステロン減少，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，血中リン増加，白血球数減少
その他　食欲減退，咳嗽，ほてり，女性化乳房
（表終了）

ロトリガ粒状カプセル2g（2g1包）

外　内服　流通

【YJコード】2189019M1020
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】オメガ－3脂肪酸エチル
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】144円/1包
【薬価収載日】2012/11/22
【標榜薬効】EPA・DHA製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】高脂血症
注意
適用の前に検査を実施し，高脂血症を確認。
【用法用量】成人　1回2g　1日1回　食直後　内服。トリグリセライド高値の程度により　1回2g　1日2回まで。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，消化管潰瘍，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LDH，ビリルビン等の上昇），黄疸（頻度不明）。
2．心房細動，心房粗動（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，薬疹，掻痒
代謝　高血糖 痛風
神経系障害　眩暈，頭痛 味覚異常
血管障害　低血圧
呼吸器　鼻出血
消化器 下痢 悪心，腹痛，おくび，腹部膨満，便秘，鼓腸 消化不良，胃食道逆流性疾患，嘔吐，胃腸出血
肝臓　肝機能障害（AST，ALTの上昇）
（表終了）

2．1．9　その他の循環器官用薬

アデムパス錠1．0mg（1mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2190034F2023
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】リオシグアト
【メーカー】製)バイエル薬品　販)MSD
【薬価】1371.7円/1T
【薬価収載日】2014/04/17
【標榜薬効】可溶性グアニル酸シクラーゼ（sGC）刺激剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇外科的治療不適応又は外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
〇肺動脈性肺高血圧症
注意
効能共通
1．最新の慢性血栓塞栓性肺高血圧症，肺動脈性肺高血圧症の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
肺動脈性肺高血圧症
2．肺動脈性肺高血圧症のWHO機能分類クラスIVの有効性・安全性は未確立。
【用法用量】用量調節期
成人　1回1mgから開始　1日3回　内服。2週間継続して収縮期血圧が95mmHg以上で低血圧症状を示さない時　2週間隔　1回0．5mgずつ増量，1回最高2．5mg　1日3回まで。収縮期血圧が95mmHg未満でも低血圧症状を示さない時　用量を維持，低血圧症状を示す時　1回0．5mgずつ減量。
用量維持期
用量調節期の用量を維持。1回最高2．5mg　1日3回まで，低血圧症状を示す等，忍容性がない時　1回0．5mgずつ減量。
注意
1．1回1mg1日3回より低用量からの開始も考慮。
2．投与間隔は約6～8時間間隔。1回の服用を忘れた時は，次回の服用時刻に1回量を服用。
3．3日間以上投与が中断した時，再開時は，開始時の用量を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
4．重度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス15mL／分未満），透析中。
5．硝酸剤・一酸化窒素供与剤（ニトログリセリン，亜硝酸アミル，硝酸イソソルビド，ニコランジル等）の投与患者。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害剤の投与患者。
7．アゾール系抗真菌剤（イトラコナゾール，ボリコナゾール）の投与患者。
8．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬（ベルイシグアト）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
喀血（0．2%），肺出血（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，浮動性眩暈
感覚器　鼻閉 鼻出血
消化器 消化不良 悪心，胃・腹部痛，下痢，嘔吐，胃食道逆流，便秘，嚥下障害，胃炎，腹部膨満　胃腸炎
循環器　低血圧，動悸，潮紅，失神
呼吸器　呼吸困難
血液　貧血
その他　末梢性浮腫，疲労，顔面浮腫
（表終了）

アドシルカ錠20mg（20mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2190030F1029
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】タダラフィル
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】810.9円/1T
【薬価収載日】2009/12/11
【標榜薬効】ホスホジエステラーゼ5阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
肺高血圧症に関するWHO機能分類クラスIの有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人　1回40mg　1日1回　内服。
注意
1．軽度・中等度の腎障害 1日1回20mgを投与。
2．軽度・中等度の肝障害 投与経験は限られていることから，リスク・ベネフィットを考慮し，1日1回20mgを投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．硝酸剤・一酸化窒素供与剤（ニトログリセリン，亜硝酸アミル，硝酸イソソルビド，ニコランジル等）の投与患者。
3．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤（リオシグアト）の投与患者。
4．重度の腎障害。
5．重度の肝障害。
6．CYP3A4を強く阻害する薬剤（イトラコナゾール，リトナビル含有製剤，アタザナビル，インジナビル，ネルフィナビル，サキナビル，ダルナビル含有製剤，クラリスロマイシン，テラプレビル，コビシスタット含有製剤，エンシトレルビル）の投与患者。
7．CYP3A4を強く誘導する薬剤（リファンピシン，フェニトイン，カルバマゼピン，フェノバルビタール）の長期投与患者。

■副作用

2 個々の器官系用医薬品

【副作用】重大な副作用
過敏症(頻度不明)(発疹, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 剥脱性皮膚炎, Stevens－Johnson症候群等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 潮紅 ほてり, 低血圧 失神 動悸, 胸痛, 心不全, 心筋梗塞, 心突然死, 頻脈, 高血圧, レイノー現象, 血腫
感覚器 霧視 眼充血, 眼痛, 結膜出血, 視力低下, 眼の異常感 回転性眩暈, 眼乾燥, 非動脈炎性前部虚血性視神経症, 網膜静脈閉塞, 視野欠損, 視覚障害, 中心性漿液性脈絡網膜症
消化器 悪心, 消化不良 下痢, 胃食道逆流性疾患, 嘔吐, 上腹部痛, 腹部不快感, 胃炎 鼓腸 腹部膨満, 腹痛, 胃不快感, 口内乾燥
肝臓 AST増加
筋骨格 筋痛, 背部痛 四肢痛, 筋痙縮, 関節痛, 筋骨格硬直 関節炎, 四肢不快感
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈, 睡眠障害 うつ病, 下肢静止不能症候群, 感覚鈍麻, 錯感覚, 片頭痛 脳卒中
泌尿・生殖器 月経過多 持続勃起症, 勃起延長
呼吸器 鼻閉, 鼻出血, 呼吸困難 副鼻腔うっ血
皮膚 発疹 掻痒症 多汗症
血液 貧血, INR増加
その他 末梢性浮腫, 疲労, 挫傷, 疼痛 顔面浮腫, 貪食細胞性組織球症 体重増加, 食欲不振, 腫脹, 浮腫
(表終了)

イフェンプロジル酒石酸塩錠20mg「トーワ」(20mg1錠)

外 内服 後発 流通

【YJコード】2190005F2205
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】イフェンプロジル酒石酸塩
【先発品】セロクラール錠20mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】鎮暈剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳梗塞後遺症, 脳出血後遺症に伴う眩暈の改善
【用法用量】成人 1回1錠(イフェンプロジル酒石酸塩 20mg) 1日3回 毎食後 内服。
注意
投与期間は, 臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し, 投与12週で効果なければ中止。

■禁忌
【禁忌】止血が未完成の頭蓋内出血。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
消化器 口渇, 悪心・嘔吐, 食欲不振, 胸やけ, 下痢, 便秘, 口内炎, 腹痛
精神神経系 頭痛, 眩暈, 眠気 不眠
過敏症 発疹, 皮膚掻痒感
循環器 動悸, 立ちくらみ, 頻脈, 顔面潮紅, のぼせ感
肝臓 AST・ALT上昇
血液 貧血
その他 顔面浮腫, 上・下肢のしびれ感
(表終了)

ヴォリブリス錠2. 5mg (2. 5mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2190031F1023
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】アンブリセンタン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3267.5円/1T
【薬価収載日】2010/09/17
【標榜薬効】エンドセリン受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
1. WHO機能分類クラスIVの有効性・安全性は未確立。
2. 最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
3. 肺動脈性肺高血圧症に熟知した医師のもとで, 適切な患者に適用を考慮。
4. 小児では, 特発性・遺伝性肺動脈性肺高血圧症, 先天性心疾患の外科的修復術後の肺動脈性肺高血圧症, 結合組織疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人
1回5mg 1日1回 内服。適宜増量, 1日10mgまで。
小児
8歳以上 体重により下記量。
20～35kg未満 1回2. 5mg 1日1回 内服。適宜増量, 1日5mgまで。
35～50kg未満 1回5mg 1日1回 内服。適宜増量, 1日7. 5mgまで。
50kg以上 1回5mg 1日1回 内服。適宜増量, 1日10mgまで。
注意
シクロスポリンと併用時, 成人・50kg以上の小児は1回5mg 1日1回まで, 50kg未満の小児は1回2. 5mg 1日1回まで。

■禁忌
【禁忌】1. 重度の肝障害。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 貧血(7. 6%)(ヘモグロビン減少, ヘマトクリット減少)。
2. 体液貯留(頻度不明)。
3. 心不全(1. 5%)。
4. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
過敏症 過敏症反応(血管性浮腫, 発疹等)
精神神経系 頭痛 眩暈
循環器 潮紅 動悸, 低血圧
呼吸器 鼻閉 鼻出血, 喀血, 呼吸困難(注), 副鼻腔炎, 鼻咽頭炎
消化器 便秘, 悪心, 腹痛, 嘔吐
肝臓 トランスアミナーゼ上昇
全身症状 末梢性浮腫 疲労 無力症
眼 視覚障害(霧視等), 眼窩周囲浮腫
血液 白血球減少
(表終了)
(注)外国。

ウプトラビ錠0. 2mg (0. 2mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2190037F1020
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】セレキシパグ
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】1460.3円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】選択的PGI2受容体作動薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】○肺動脈性肺高血圧症
○外科的治療不適応又は外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
注意
効能共通
1. 最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
肺動脈性肺高血圧症
2. 小児では, WHO機能分類クラスI・IVの有効性・安全性は未確立。
3. 小児では, 特発性・遺伝性肺動脈性肺高血圧症, 先天性心疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の有効性・安全性は未確立。
外科的治療不適応又は外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
4. WHO機能分類クラスI・IVの有効性・安全性は未確立。
【用法用量】肺動脈性肺高血圧症
成人 1回0. 2mgから開始 1日2回 食後 内服。忍容性を確認し, 7日以上の間隔で1回0. 2mgずつ 最大耐用量まで増量し 維持量を決定。1回最高1. 6mg いずれの用量も 1日2回 食後 内服。
2歳以上の幼・小児 下表の開始量を1日2回 食後 内服。忍容性を確認し, 7日以上の間隔で, 下表の増量幅で最大耐用量まで増量し 維持量を決定。下表の最高量までとし, いずれの用量も 1日2回 食後 内服。
(表開始)
体重(kg) 開始量(mg) (1回量) 増量幅(mg) (1回量) 最高量(mg) (1回量)
9～25未満 0. 1 0. 1 0. 8
25～50未満 0. 15 0. 15 1. 2
50以上 0. 2 0. 2 1. 6
(表終了)
外科的治療不適応, 外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
成人 1回0. 2mgから開始 1日2回 食後 内服。忍容性を確認し, 7日以上の間隔で1回0. 2mgずつ 最大耐用量まで増量し 維持量を決

2 個々の器官系用医薬品

定。1回最高1．6mg いずれの用量も，1日2回 食後 内服。
注意
1．投与初期に頭痛，下痢等の副作用が多い報告あり，小児では嘔吐も多い，慎重に漸増。
2．忍容性に問題があり減量時は，成人・体重50kg以上の小児では1回0．2mgずつ漸減。減量後に再増量時は，再増量までに8日以上の間隔をあけ，忍容性を確認し漸増。
3．3日以上投与を中断時，再開時には中断前より低い用量からの投与を考慮。
4．投与中止時は，症状の増悪に注意し投与量を漸減。
5．中等度の肝障害には，1日1回に減量して投与を開始し，投与間隔や増量間隔の延長，最高量の減量を考慮。
6．小児用0．05mg錠と組み合わせて使用しない。
7．体重50kg未満の小児 維持量に到達するまでは小児用0．05mg錠を使用。維持量が0．2mg錠・0．4mg錠で調整可能な時は，0．2mg錠・0．4mg錠に切りかえて投与できる。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の肝障害。
3．肺静脈閉塞性疾患の肺高血圧症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．過度の血圧低下（低血圧（3．6%），起立性低血圧（0．7%）等）。
2．出血（鼻出血（1．6%），網膜出血（0．3%）等）。
3．甲状腺機能異常（甲状腺機能亢進症（0．7%），甲状腺機能低下症（0．4%）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
血液 貧血 鉄欠乏性貧血，血小板数減少 ヘモグロビン減少
代謝異常 食欲減退，体液貯留 低カリウム血症，脱水
精神神経系 頭痛（58．3%），浮動性眩暈 失神，体位性眩暈，頭部不快感，傾眠，不眠症，灼熱感，感覚鈍麻，嗜眠 錯感覚，味覚消失，片頭痛
眼 眼痛 羞明，霧視，眼瞼浮腫，流涙増加
耳 回転性眩暈 耳鳴
循環器 潮紅（12．3%） ほてり，動悸 頻脈，心房細動，心不全，右室不全，心室性期外収縮，狭心症，心電図QT延長，紅痛症（四肢の熱感・発赤・痛みを伴う腫れ）
呼吸器 呼吸困難，鼻閉，咳嗽 低酸素症，口腔咽頭不快感
消化器 下痢（37．9%），悪心（27．2%），嘔吐（15．0%），腹痛 腹部不快感，消化不良，胃食道逆流性疾患，腹部膨満，便秘，排便回数増加，胃炎 口内乾燥，胃拡張，消化性潰瘍
肝臓 肝酵素上昇，肝機能異常 血中ビリルビン増加，AI－P増加
皮膚 発疹，紅斑，掻痒症 光線過敏性反応，脱毛症，多汗症 蕁麻疹，血管浮腫
筋骨格系 顎痛（23．6%），筋肉痛（13．2%），四肢痛（12．1%），関節痛 背部痛，顎関節症候群，頚部痛，筋痙縮，骨痛，四肢不快感，関節腫脹，筋骨格硬直 開口障害，筋力低下，筋肉疲労，脊椎痛
腎臓 腎機能障害 頻尿
その他 倦怠感，浮腫（末梢性浮腫，顔面浮腫等），疼痛，無力症，疲労，胸部不快感，体重減少，胸痛 異常感，発熱，胃腸炎，上咽頭炎，副鼻腔炎，インフルエンザ様疾患，転倒，月経過多，非心臓性胸痛，血中甲状腺刺激ホルモン増加 血中甲状腺刺激ホルモン減少，過敏症
（表終了）

ウプトラビ錠0．4mg（0．4mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2190037F2027
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】セレキシパグ
【メーカー】製）日本新薬
【薬価】2902.8円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】選択的PGI2受容体作動薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇肺動脈性肺高血圧症
〇外科的治療不適応又は外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
注意
効能共通
1．最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
肺動脈性肺高血圧症
2．小児では，WHO機能分類クラスI・IVの有効性・安全性は未確立。
3．小児では，特発性・遺伝性肺動脈性肺高血圧症，先天性心疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の有効性・安全性は未確立。
外科的治療不適応又は外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
4．WHO機能分類クラスI・IVの有効性・安全性は未確立。
【用法用量】肺動脈性肺高血圧症
成人 1回0．2mgから開始 1日2回 食後 内服。忍容性を確認し，7日以上の間隔で1回0．2mgずつ 最大耐用量まで増量し 維持量を決定。1回最高1．6mg いずれの用量も 1日2回 食後 内服。
2歳以上の幼・小児 下表の開始量を1日2回 食後 内服。忍容性を確認し，7日以上の間隔で，下表の増量幅で最大耐用量まで増量し 維持量を決定。下表の最高量までとし，いずれの用量も 1日2回 食後 内服。
（表開始）
体重（kg） 開始量（mg）（1回量） 増量幅（mg）（1回量） 最高量（mg）（1回量）
9～25未満 0．1 0．1 0．8
25～50未満 0．15 0．15 1．2
50以上 0．2 0．2 1．6
（表終了）
外科的治療不適応，外科的治療後に残存・再発した慢性血栓塞栓性肺高血圧症
成人 1回0．2mgから開始 1日2回 食後 内服。忍容性を確認し，7日以上の間隔で1回0．2mgずつ 最大耐用量まで増量し 維持量を決定。1回最高1．6mg いずれの用量も，1日2回 食後 内服。
注意
1．投与初期に頭痛，下痢等の副作用が多い報告あり，小児では嘔吐も多い，慎重に漸増。
2．忍容性に問題があり減量時は，成人・体重50kg以上の小児では1回0．2mgずつ漸減。減量後に再増量時は，再増量までに8日以上の間隔をあけ，忍容性を確認し漸増。
3．3日以上投与を中断時，再開時には中断前より低い用量からの投与を考慮。
4．投与中止時は，症状の増悪に注意し投与量を漸減。
5．中等度の肝障害には，1日1回に減量して投与を開始し，投与間隔や増量間隔の延長，最高量の減量を考慮。
6．小児用0．05mg錠と組み合わせて使用しない。
7．体重50kg未満の小児 維持量に到達するまでは小児用0．05mg錠を使用。維持量が0．2mg錠・0．4mg錠で調整可能な時は，0．2mg錠・0．4mg錠に切りかえて投与できる。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の肝障害。
3．肺静脈閉塞性疾患の肺高血圧症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．過度の血圧低下（低血圧（3．6%），起立性低血圧（0．7%）等）。
2．出血（鼻出血（1．6%），網膜出血（0．3%）等）。
3．甲状腺機能異常（甲状腺機能亢進症（0．7%），甲状腺機能低下症（0．4%）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
血液 貧血 鉄欠乏性貧血，血小板数減少 ヘモグロビン減少
代謝異常 食欲減退，体液貯留 低カリウム血症，脱水
精神神経系 頭痛（58．3%），浮動性眩暈 失神，体位性眩暈，頭部不快感，傾眠，不眠症，灼熱感，感覚鈍麻，嗜眠 錯感覚，味覚消失，片頭痛
眼 眼痛 羞明，霧視，眼瞼浮腫，流涙増加
耳 回転性眩暈 耳鳴
循環器 潮紅（12．3%） ほてり，動悸 頻脈，心房細動，心不全，右室不全，心室性期外収縮，狭心症，心電図QT延長，紅痛症（四肢の熱感・発赤・痛みを伴う腫れ）
呼吸器 呼吸困難，鼻閉，咳嗽 低酸素症，口腔咽頭不快感
消化器 下痢（37．9%），悪心（27．2%），嘔吐（15．0%），腹痛 腹部不快感，消化不良，胃食道逆流性疾患，腹部膨満，便秘，排便回数増加，胃炎 口内乾燥，胃拡張，消化性潰瘍
肝臓 肝酵素上昇，肝機能異常 血中ビリルビン増加，AI－P増加
皮膚 発疹，紅斑，掻痒症 光線過敏性反応，脱毛症，多汗症 蕁麻疹，血管浮腫
筋骨格系 顎痛（23．6%），筋肉痛（13．2%），四肢痛（12．1%），関節痛 背部痛，顎関節症候群，頚部痛，筋痙縮，骨痛，四肢不快感，関節腫脹，筋骨格硬直 開口障害，筋力低下，筋肉疲労，脊椎痛
腎臓 腎機能障害 頻尿
その他 倦怠感，浮腫（末梢性浮腫，顔面浮腫等），疼痛，無力症，疲労，胸部不快感，体重減少，胸痛 異常感，発熱，胃腸炎，上咽頭炎，副鼻腔炎，インフルエンザ様疾患，転倒，月経過多，非心臓性胸痛，血中甲状腺刺激ホルモン増加 血中甲状腺刺激ホルモン減少，過敏症
（表終了）

エンレスト錠200mg（200mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2190041F3020
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物
【メーカー】製）ノバルティスファーマ
【薬価】188.2円/1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人

2 個々の器官系用医薬品

慢性心不全(治療中のみ)
小児
慢性心不全
高血圧症
注意
成人の慢性心不全
1. アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬から切りかえて投与。
2. 臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景(前治療，左室駆出率，収縮期血圧等)を理解し，適応患者を選択。
小児の慢性心不全
3. アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬から切りかえて投与。
4. 小児の慢性心不全の治療を熟知し，臨床成績の項・臨床試験に組み入れられた背景(基礎疾患，心不全の病態，前治療，収縮期血圧等)を理解した医師のもとで，適切な患者に適用を考慮。
高血圧症
5. 過度な血圧低下のおそれ等があり，高血圧治療の第一選択薬にしない。
【用法用量】慢性心不全
成人　開始量　1回50mg　1日2回　内服。忍容性があれば，2～4週間隔で段階的に1回200mgまで増量。1回量は50mg，100mg，200mgとし，いずれも1日2回　内服。適宜減量。
1歳以上の小児　下表の通り体重に応じた開始量を1日2回　内服。忍容性があれば，2～4週間の間隔で段階的に目標量まで増量。忍容性に応じて適宜減量。
小児の用量表(1回量)
(表開始)
体重(kg) 開始量 第1漸増量 第2漸増量 目標量
40未満 0．8mg／kg 1．6mg／kg 2．3mg／kg 3．1mg／kg
40～50未満 0．8mg／kg 50mg 100mg 150mg
50以上 50mg 100mg 150mg 200mg
(表終了)
高血圧症
成人　1回200mg　1日1回　内服。適宜増減，1回最大400mg　1日1回。
(参考)
(表開始)
錠50mg 錠100mg 錠200mg 粒状錠小児用12．5mg 粒状錠小児用31．25mg
慢性心不全(成人) ○ ○ ○ － －
慢性心不全(小児) ○ ○ ○ ○ ○
高血圧症 － ○ ○ － －
(表終了)
○ 承認用法・用量あり，－ 承認なし
注意
慢性心不全
1．下記では，増量可否を慎重に判断。
・腎機能障害(eGFR90mL／分／1．73m2未満)。
・中等度の肝機能障害(Child－Pugh分類B)。
・低血圧。
2．増量は，臨床試験での血圧，血清カリウム値，腎機能に関する下記基準を目安に検討。
臨床試験の増量時※の基準
(表開始)
血圧 症候性低血圧がみられず，収縮期血圧が95mmHg以上
血清カリウム値 5．4mEq／L以下
腎機能 eGFR30mL／分／1．73m2以上かつeGFRの低下率が35%以下
(表終了)
※1回50mgから1回100mgへの増量時の基準であり，臨床試験ではいずれの項目も満たす患者が増量可能とされた。
小児の臨床試験の増量時※の基準
(表開始)
血圧 収縮期血圧が以下の値超 ・1～10歳未満；70mmHg＋2×年齢 ・10歳以上；90mmHg
血清カリウム値 5．4mEq／L以下
腎機能 eGFRが下記の値以上かつeGFRの低下率が35%未満 ・12ヵ月～19ヵ月未満；31mL／分／1．73m2 ・19ヵ月～18歳未満；38mL／分／1．73m2
(表終了)
※目標量に到達するまでの各段階の増量時の基準であり，臨床試験ではいずれの項目も満たす患者が増量可能とされた。
3．小児のうち，アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬の投与患者では，これらの用量や忍容性，及び患者の状態を踏まえ，医師が適切と判断した時は，第1漸増量から投与開始できる。
高血圧症
5．サクビトリル・バルサルタンに解離して作用するため，バルサルタンの承認用法・用量での降圧効果，本剤の降圧効果を理解し，他の降圧薬の治療状況等を考慮し，本剤適用の可否を判断，既存治療有無によらず1回100mgを1日1回から開始も考慮。
6．慢性心不全を合併する高血圧症では，慢性心不全の用法・用量とするが，慢性心不全の発症に先んじて高血圧症の治療目的で本剤を使用時等は，適切に用法・用量を選択。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アンジオテンシン変換酵素阻害薬(アラセプリル，イミダプリル塩酸塩，エナラプリルマレイン酸塩，カプトプリル，キナプリル塩酸塩，シラザプリル水和物，テモカプリル塩酸塩，デラプリル塩酸塩，トランドラプリル，ベナゼプリル塩酸塩，ペリンドプリルエルブミン，リシノプリル水和物)の投与中・中止後36時間以内。
3．血管浮腫の既往(アンジオテンシンII受容体拮抗薬・アンジオテンシン変換酵素阻害薬による血管浮腫，遺伝性血管性浮腫，後天性血管浮腫，特発性血管浮腫等)。
4．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。
5．重度の肝機能障害(Child－Pugh分類C)。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫(0．2%)(舌，声門，喉頭の腫脹等，気道閉塞)。
2．腎機能障害(2．4%)，腎不全(0．6%)。
3．低血圧(8．8%)。
4．高カリウム血症(3．9%)。
5．ショック(0．1%未満)，失神(0．2%)，意識消失(0．1%未満)(冷感，嘔吐等)。
6．無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(0．1%未満)，血小板減少(頻度不明)。
7．間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8．低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
9．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
11．天疱瘡，類天疱瘡(各頻度不明)(水疱，糜爛等)。
12．肝炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．3%以上 0．3%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 － － 咽頭炎
血液・リンパ系障害 － 貧血，好酸球増多 －
代謝・栄養障害 － 低カリウム血症，食欲減退，低ナトリウム血症 －
神経系障害 浮動性眩暈 体位性眩暈，回転性眩暈，頭痛，不眠，味覚異常，眠気，しびれ －
耳・迷路障害 － － 耳鳴
心臓障害 － 動悸，心房細動 頻脈
血管障害 起立性低血圧 － ほてり
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽 － －
胃腸障害 － 下痢，悪心，腹痛，便秘，嘔吐 －
皮膚・皮下組織障害 － 蕁麻疹 紅斑，光線過敏症
筋骨格系・結合組織障害 － 関節痛，腰背部痛 筋肉痛
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 無力症，倦怠感，口渇，胸痛 浮腫，発熱
免疫系障害 － 過敏症(発疹，掻痒症，アナフィラキシー反応含む) －
臨床検査 － AST上昇，ALT上昇，血中尿酸値上昇，BUN上昇，血清クレアチニン上昇，血清カリウム値上昇，血糖値上昇，CK上昇 ビリルビン値の上昇，LDH上昇，血清コレステロール上昇，血清総蛋白減少，AI－P上昇
(表終了)

オプスミット錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2190035F1021
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】マシテンタン
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】13334.9円/1T
【薬価収載日】2015/05/20
【標榜薬効】エンドセリン受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
1．WHO機能分類クラスIの有効性・安全性は未確立。
2．最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
【用法用量】成人　1回10mg　1日1回　内服。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．重度の肝障害。
3．強いCYP3A4誘導剤(リファンピシン・セイヨウオトギリソウ含有食品・カルバマゼピン・フェニトイン・フェノバルビタール・リファブチン)の投与患者。
4．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
貧血(4．0%)，ヘモグロビン減少。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 5%以上 0．5～5%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 血小板減少
免疫系障害 過敏症(皮疹，蕁麻疹，血管浮腫)
神経系障害 頭痛 片頭痛，浮動性眩暈
血管障害 潮紅，低血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻閉，呼吸困難
胃腸障害 悪心／嘔吐，腹痛，下痢
皮膚・皮下組織障害 掻痒症／発疹
一般・全身障害 浮腫，末梢性浮腫，顔面浮腫，胸痛
臨床検査 肝機能検査異常，ALT増加，AST増加，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少 白血球数減少
(表終了)

カデュエット配合錠4番（1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2190104F1024
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アステラス製薬 販)ファイザー
【薬価】70.2円/1T
【薬価収載日】2009/09/04
【標榜薬効】持続性Ca拮抗薬／HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アムロジピン・アトルバスタチンによる治療が適切な下記に使用
高血圧症又は狭心症と，高コレステロール血症又は家族性高コレステロール血症を併発している患者
アムロジピンとアトルバスタチンの効能・効果は下記
アムロジピン
○高血圧症
○狭心症
アトルバスタチン
○高コレステロール血症
○家族性高コレステロール血症
注意
1．アムロジピン・アトルバスタチンの併用，いずれか一方を服用時に使用を検討。いずれか一方の服用時は，患者の状態を十分に考慮し，各単剤の併用より本剤の投与が適切か慎重に判断。
2．アムロジピンは効果発現が緩徐のため，緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
3．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
4．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】1日1回 内服。下記のアムロジピンとアトルバスタチンの用法・用量に基づき，患者ごとに用量を決める。
アムロジピン
高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。適宜増減。
アトルバスタチン
高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日20mgまで。
家族性高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日40mgまで。
注意
本剤には下記の4製剤あり。
1番 アムロジピン2．5mg／アトルバスタチン5mg
2番 アムロジピン2．5mg／アトルバスタチン10mg
3番 アムロジピン5mg／アトルバスタチン5mg
4番 アムロジピン5mg／アトルバスタチン10mg
上記配合用量以外の用量を投与時は，個別のアムロジピン製剤又はアトルバスタチン製剤を使用できるが，それぞれの成分の用法・用量の範囲内で投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
2．下記の肝代謝能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4．グレカプレビル・ピブレンタスビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用(アムロジピン)
1．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1%未満)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0．1%未満)。
2．無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(0．1%未満)，血小板減少(頻度不明)。
3．房室ブロック(0．1%未満)(徐脈，眩暈等)。
4．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
重大な副作用(アトルバスタチン)
5．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー(頻度不明)(広範な筋肉痛，筋肉圧痛や著明なCKの上昇)。
6．免疫介在性壊死性ミオパシー(頻度不明)(近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等)。
7．劇症肝炎(頻度不明)，肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1%未満)，黄疸(頻度不明)。
8．過敏症(頻度不明)(血管神経性浮腫，アナフィラキシー反応，蕁麻疹含む)。
9．無顆粒球症(頻度不明)，汎血球減少症(頻度不明)，血小板減少症(頻度不明)。
10．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，多形紅斑(頻度不明)(水疱性発疹)。
11．高血糖(0．1%未満)，糖尿病(頻度不明)。
12．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
13．重症筋無力症(頻度不明)(眼筋型，全身型)の発症・悪化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒 光線過敏，発疹，多形紅斑，蕁麻疹，血管炎，血管浮腫
皮膚 脱毛，帯状疱疹，発赤，皮膚変色，皮膚乾燥，皮膚亀裂，多汗，爪の障害
血液 好酸球増加 血小板減少，白血球減少，白血球増加，貧血，紫斑
肝臓 肝機能障害 AI－P上昇，ALT上昇 AST上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，黄疸，腹水
消化器 歯肉障害，膵炎，胃炎，胃食道逆流性疾患，胃不快感，腹部膨満，過敏性腸症候群，嘔気・嘔吐，便秘 口内炎，舌痛，舌炎，舌のしびれ，口のしびれ，口唇炎，口渇，歯肉肥厚，消化不良，アミラーゼ上昇，食欲不振，腹痛，下痢・軟便，排便回数増加，胃腸炎
呼吸器 咳，呼吸困難，咽頭不快感，肺炎，鼻炎，鼻出血
筋骨格系 筋肉痛 CK上昇，血中ミオグロビン上昇，無力症，筋痙攣，筋緊張亢進，筋炎，関節痛，背部痛，腱炎，腱痛
感覚器 視力異常，霧視，耳鳴，味覚異常
精神神経系 頭痛，眩暈・ふらつき 片頭痛，不眠症 振戦，眠気，気分動揺，末梢神経障害，健忘症，抑うつ，悪夢，錐体外路症状
内分泌 甲状腺腫 テストステロン低下，コリンエステラーゼ上昇，TSH上昇，ACTH上昇，アルドステロン低下，女性化乳房
代謝異常 血清コレステロール上昇，HbA1c上昇，高血糖，糖尿病，尿中ブドウ糖陽性，低血糖症，血清鉄低下
循環器 動悸 浮腫，ほてり(熱感，顔面潮紅等)，期外収縮，血圧上昇 洞房・房室ブロック，洞停止，心房細動，頻脈，徐脈，血圧低下，失神
腎臓・泌尿器 BUN上昇，クレアチニン上昇，血中カリウム増加，血中カリウム減少，頻尿・夜間頻尿，排尿困難，勃起障害，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性
その他 脳梗塞，全身倦怠感，脱力感，疲労，しびれ，発熱，体重増加，体重減少，疼痛，異常感覚，胸痛，着色尿
(表終了)

カルタンOD錠500mg（500mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2190024F4022
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】沈降炭酸カルシウム
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー 販)扶桑薬品工業 販)マイラン製薬
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】高リン血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の高リン血症の改善
保存期・透析中の慢性腎不全
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 1日3g 1日3回 分割 食直後 内服。
適宜増減。
注意
2週間で効果なければ投与中止し，リン摂取の制限等，他の治療法に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】1．甲状腺機能低下症。
2．炭酸カルシウムに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
代謝異常 アルカローシス等の電解質失調，高カルシウム血症(血中カルシウム濃度として11mg／dL以上)

2 個々の器官系用医薬品

長期・大量投与 腎結石，尿路結石
消化器 便秘 下痢，悪心，胃酸の反動性分泌等
過敏症 掻痒感
肝臓 AI－P，γ－GTP，LDH，トリグリセライド，ASTの上昇
（表終了）

キックリンカプセル250mg（250mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】2190032M1027
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ビキサロマー
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】18.3円/1C
【薬価収載日】2012/05/29
【標榜薬効】高リン血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎臓病の高リン血症の改善
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 開始量 1回500mg 1日3回 食直前 内服。
適宜増減，1日最高7500mg。
注意
1．
透析患者
投与量は，血清リン濃度が3．5～6mg／dLとなるよう，下記を目安に適宜増減。
（表開始）
血清リン濃度（mg／dL） 投与量増減方法
6を超える 1回250～500mg（本剤 1～2カプセル）増量。
3．5～6 投与量を維持。
3．5未満 1回250～500mg（本剤 1～2カプセル）減量。
（表終了）
保存期慢性腎臓病
投与量は，血清リン濃度が各施設の基準値内に維持するよう適宜増減。増量幅は1回500mgまで。
2．投与開始時又は用量変更時は，1～2週間後に血清リン濃度を確認。
3．増量時は1週間以上あける。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．腸閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．腸管穿孔，腸閉塞（各頻度不明）（高度の便秘，持続する腹痛，嘔吐等）。
2．虚血性腸炎（1%未満）。
3．消化管出血（吐血，下血），消化管潰瘍（各1%未満）（食道，胃，十二指腸，結腸，直腸等）。
4．便秘・便秘増悪（15%以上）。
5．憩室炎（頻度不明）。
6．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの著しい上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 硬便，腹部不快感，腹部膨満，悪心 下痢，嘔吐，腹痛，胃炎，痔核，便潜血陽性
皮膚 掻痒症 発疹
血液 血中副甲状腺ホルモン増加
精神神経系 下肢静止不能症候群
その他 口渇，回転性眩暈
（表終了）

ケアロードLA錠60μg（60μg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2190027G1022
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ベラプロストナトリウム
【メーカー】製)東レ 販)アステラス製薬 販)トーアエイヨー
【薬価】92.4円/1T
【薬価収載日】2007/12/14
【標榜薬効】PGI2誘導体徐放性製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
1．原発性肺高血圧症・膠原病に伴う肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の有効性・安全性は未確立。
2．肺高血圧症のWHO機能分類クラスIV（注）の有効性・安全性は未確立。重症度の高い患者等は効果が得難い。改善なければ，注射剤や他の治療に切りかえる。
（注）WHO機能分類はNYHA心機能分類を肺高血圧症に準用。
【用法用量】成人 1日120μgから開始 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。以後，漸増。
適宜増減，1日最大360μg 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
注意
肺動脈性肺高血圧症 薬物療法への忍容性が患者により異なるので，少量から開始し，増量は状態を観察しながら行う。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，上部消化管出血，尿路出血，喀血，眼底出血等）。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血傾向（頻度不明）（脳出血，消化管出血，肺出血，眼底出血）。
2．ショック（頻度不明），失神（10%未満），意識消失（10%未満）（血圧低下，頻脈，顔面蒼白，嘔気等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）。
4．肝機能障害（頻度不明）（黄疸，著しいAST，ALTの上昇）。
5．狭心症（頻度不明）。
6．心筋梗塞（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
出血傾向 出血傾向，皮下出血，鼻出血
血液 白血球減少，白血球増多，血小板減少 貧血，好酸球増多
過敏症 掻痒 発疹，蕁麻疹，湿疹，紅斑
精神神経系 頭痛（73．9%），ふらつき，不眠 眠気，眩暈，立ちくらみ，もうろう状態，浮遊感，しびれ感 振戦
消化器系 嘔気（28．3%），下痢（21．7%），腹痛，胃不快感，嘔吐 上腹部痛，食欲不振 胃潰瘍，胃障害，口渇，胸やけ
肝臓 ALT上昇 黄疸，AST上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇
腎臓 血尿 頻尿，BUN上昇
循環器系 顔面潮紅（67．4%），ほてり（56．5%），動悸 血圧低下，潮紅，頻脈 のぼせ
その他 倦怠感（28．3%），浮腫，疼痛 胸部不快感，胸痛，息苦しさ，関節痛，筋痛，顎痛，頸部痛，耳鳴，発熱，熱感，発汗，冷汗，脱力感 脱毛，咳嗽，背部痛，トリグリセライド上昇，気分不良
（表終了）

ケイキサレートドライシロップ76%（76%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2190009R1025
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ポリスチレンスルホン酸ナトリウム
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】8.2円/1g
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】高カリウム血症改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】急性・慢性腎不全による高カリウム血症
【用法用量】成人 1日39．24g（ポリスチレンスルホン酸ナトリウム 30g） 1日2～3回 分割 内服（1回量を水50～150mLに懸濁）。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全誘発（頻度不明）。
2．腸穿孔，腸潰瘍，腸壊死（各頻度不明）（小腸の穿孔・粘膜壊死，大腸潰瘍，結腸壊死等，激しい腹痛，下痢，嘔吐等）（ポリスチレンスルホン酸ナトリウムを水又はソルビトール溶液に懸濁）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 浮腫，血圧上昇
電解質 低カルシウム血症，低カリウム血症
消化器 下痢，悪心，嘔吐，便秘，胃部不快感，食欲不振，腹痛
その他 眩暈，倦怠感
（表終了）

サアミオン錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2190021F1348
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬

2 個々の器官系用医薬品

【一般名】ニセルゴリン
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】14.4円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】脳循環・代謝改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害による意欲低下の改善
【用法用量】成人　1日15mg　1日3回　分割　内服。
適宜増減。
注意
1. 投与期間は，臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し，投与12週で効果なければ中止。
2. 成人1日量の剤形換算は，下記。
(表開始)
＼ 成人1日量(15mg)
本剤 3錠
(表終了)

■禁忌
【禁忌】止血が未完成の頭蓋内出血。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，便秘，悪心，腹痛，口渇
肝臓　肝機能障害
循環器 眩暈，立ちくらみ 動悸，ほてり
精神神経系 眠気，倦怠感，頭痛，耳鳴 不眠
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹
(表終了)

静注用フローラン0．5mg（0．5mg1瓶）
外　注射　流通
劇

【YJコード】2190413F2024
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】エポプロステノールナトリウム
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】6547円/1V
【薬価収載日】2001/07/06
【標榜薬効】PGI2製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
1. 肺動脈性肺高血圧症のみ使用。
2. 最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
3. 先天性心疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症は，Eisenmenger症候群，術後に肺高血圧の残存している患者のみ使用。
4. 他の血管拡張薬で効果不十分時に適用を考慮。
5. 特発性・遺伝性肺動脈性肺高血圧症，結合組織病に伴う肺動脈性肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の安全性・有効性は未確立。
【用法用量】投与開始
成人　2ng／kg／分　精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)で　持続静注を開始(専用溶解液で溶解)。15分以上あけて　1～2ng／kg／分ずつ増量。10ng／kg／分までで最適速度を決定。
増量時に潮紅(軽微なもの除く)，頭痛，嘔気等の症状が軽度でもあれば増量中止。それらが消失しない時　15分以上あけて　2ng／kg／分ずつ減量。
継続投与
最適速度で維持し，定期的に観察し症状に応じ速度を適宜調節。状態観察し　15分以上あけて　1～2ng／kg／分ずつ増減。
注意
1. 重篤な副作用は，投与開始時の最小速度である2ng／kg／分でも発現のおそれ，多くは速度決定までに発現，その間は症状，血圧，心拍数，血行動態等を観察。
2. 速度の決定には，肺動脈圧低下のみを目安にしない。臨床試験で，開始時には心拍出量は増加するが，肺動脈圧は低下しない，過量投与の可能性。
3. 投与開始後1日間は，血圧低下等血行動態の変化による副作用を防ぐため安静を保つ。
4. 急激な減量で肺高血圧症状の増悪のおそれ，休薬・投与中止は，1日2ng／kg／分以下で漸減。重篤な副作用の発現等，直ちに中止すべき時でも，漸減し，急に中止しない。
5. 減量中・投与中止後に症状の悪化・再発の可能性，このような場合は適宜増量・再投与等の処置。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 右心不全の急性増悪時。
3. 重篤な左心機能障害。
4. 重篤な低血圧。
5. 用量設定期(投与開始時)に肺水腫の増悪。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 過度の血圧低下，過度の徐脈，意識喪失等のショック状態(2.9%)，尿量減少。
2. 肺水腫(頻度不明)。
3. 甲状腺機能亢進症(頻度不明)。
4. 血小板減少(8．6%)。
5. 腹水(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
循環器 潮紅(45．7%)，動悸，低血圧 徐脈，頻脈 蒼白
消化器 悪心・嘔吐，心窩部不快感，下痢 腹痛，消化不良 口内乾燥
筋骨格 顎痛，関節痛 胸痛 骨痛，背痛，筋肉痛
精神神経系 頭痛(40%)，感覚鈍麻 眩暈，振戦 手のしびれ，異常感覚，不安，神経過敏，激越，感覚過敏
呼吸器 呼吸困難
血液 出血(肺出血，消化管出血，鼻出血等)
皮膚　発疹，発汗
全身症状　胸部絞扼感，疼痛，全身倦怠感，悪寒 発熱，インフルエンザ様症状
(表終了)

静注用フローラン専用溶解液（50mL1瓶）
外　注射　流通

【YJコード】2190415A1020
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】エポプロステノールナトリウム専用溶解液
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】1163円/1V
【薬価収載日】2001/07/06
【標榜薬効】溶解液

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺動脈性肺高血圧症
注意
1. 肺動脈性肺高血圧症のみ使用。
2. 最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討。
3. 先天性心疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症は，Eisenmenger症候群，術後に肺高血圧の残存している患者のみ使用。
4. 他の血管拡張薬で効果不十分時に適用を考慮。
5. 特発性・遺伝性肺動脈性肺高血圧症，結合組織病に伴う肺動脈性肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症の安全性・有効性は未確立。
【用法用量】投与開始
成人　2ng／kg／分　精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)で　持続静注を開始(専用溶解液で溶解)。15分以上あけて　1～2ng／kg／分ずつ増量。10ng／kg／分までで最適速度を決定。
増量時に潮紅(軽微なもの除く)，頭痛，嘔気等の症状が軽度でもあれば増量中止。それらが消失しない時　15分以上あけて　2ng／kg／分ずつ減量。
継続投与
最適速度で維持し，定期的に観察し症状に応じ速度を適宜調節。状態観察し　15分以上あけて　1～2ng／kg／分ずつ増減。
注意
1. 重篤な副作用は，投与開始時の最小速度である2ng／kg／分でも発現のおそれ，多くは速度決定までに発現，その間は症状，血圧，心拍数，血行動態等を観察。
2. 速度の決定には，肺動脈圧低下のみを目安にしない。臨床試験で，開始時には心拍出量は増加するが，肺動脈圧は低下しない，過量投与の可能性。
3. 投与開始後1日間は，血圧低下等血行動態の変化による副作用を防ぐため安静を保つ。
4. 急激な減量で肺高血圧症状の増悪のおそれ，休薬・投与中止は，1日2ng／kg／分以下で漸減。重篤な副作用の発現等，直ちに中止すべき時でも，漸減し，急に中止しない。
5. 減量中・投与中止後に症状の悪化・再発の可能性，このような場合は適宜増量・再投与等の処置。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 右心不全の急性増悪時。
3. 重篤な左心機能障害。
4. 重篤な低血圧。
5. 用量設定期(投与開始時)に肺水腫の増悪。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 過度の血圧低下，過度の徐脈，意識喪失等のショック状態(2.9%)，尿量減少。
2. 肺水腫(頻度不明)。
3. 甲状腺機能亢進症(頻度不明)。
4. 血小板減少(8．6%)。
5. 腹水(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
循環器 潮紅(45．7%)，動悸，低血圧 徐脈，頻脈 蒼白
消化器 悪心・嘔吐，心窩部不快感，下痢 腹痛，消化不良 口内乾燥
筋骨格 顎痛，関節痛 胸痛 骨痛，背痛，筋肉痛
精神神経系 頭痛(40%)，感覚鈍麻 眩暈，振戦 手のしびれ，異常感覚，不安，神経過敏，激越，感覚過敏
呼吸器 呼吸困難
血液 出血(肺出血，消化管出血，鼻出血等)
皮膚 発疹，発汗
全身症状 胸部絞扼感，疼痛，全身倦怠感，悪寒 発熱，インフルエンザ様症状
(表終了)

セロクラール錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2190005F2051
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】イフェンプロジル酒石酸塩
【メーカー】製)日医工 販)サノフィ 販)サノフィ・アベンティス
【薬価】10.4円/1T
【標榜薬効】鎮暈剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳梗塞後遺症，脳出血後遺症に伴う眩暈の改善
【用法用量】成人 1回1錠(イフェンプロジル酒石酸塩 20mg) 1日3回 毎食後 内服。
注意
投与期間は，臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し，投与12週で効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】止血が未完成の頭蓋内出血。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 口渇，悪心・嘔吐，食欲不振，胸やけ，下痢，便秘，口内炎，腹痛
精神神経系 頭痛，眩暈，眠気 不眠
過敏症 発疹，皮膚掻痒感
循環器 動悸，立ちくらみ，頻脈，顔面潮紅，のぼせ感
肝臓 AST・ALT上昇
血液 貧血
その他 顔面浮腫，上・下肢のしびれ感
(表終了)

ピートル顆粒分包250mg（250mg1包）

外 内服 流通

【YJコード】2190036D1025
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】スクロオキシ水酸化鉄
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】141.7円/1包
【薬価収載日】2018/11/28
【標榜薬効】高リン血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】透析中の慢性腎臓病の高リン血症の改善
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 開始量 1回250mg 1日3回 食直前 内服。
適宜増減，1日最高3000mg。
注意
1．投与開始時又は用量変更時は，1～2週間後に血清リン濃度を確認。
2．増量時は，1日750mgまで，1週間以上あける。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 2%以上 2%未満
胃腸障害 下痢(22．7%)，便秘 嘔吐，悪心，腹痛，腹部不快感，腹部膨満，胃腸炎，排便回数増加
臨床検査 血清フェリチン増加，AST上昇，ALT上昇，CK上昇，血中鉄増加，ヘモグロビン増加
その他 発疹，掻痒症
(表終了)

ベリキューボ錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2190042F3024
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ベルイシグアト
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】398.7円/1T
【薬価収載日】2021/08/12
【標榜薬効】慢性心不全治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性心不全(治療中のみ)
注意
1．左室駆出率の保たれた慢性心不全の有効性・安全性は未確立，左室駆出率の低下した慢性心不全に投与。
2．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景(前治療，左室駆出率，収縮期血圧等)を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人 1回2．5mgから開始 1日1回 食後 内服。2週間隔で1回量を5，10mgに漸増。適宜減量。
注意
定期的に血圧測定を行い，臨床試験の基準を参考に用量を調節。
臨床試験の用量調節基準
(表開始)
収縮期血圧(mmHg)・低血圧症状 1回量の調節
100以上 ・2．5又は5mg；1段階増量。・10mg；用量を維持。
90～100未満 用量を維持。
90未満で低血圧症状がない時 ・2．5mg；投与を中断。・5又は10mg；1段階減量。
90未満で低血圧症状がある時 投与を中断。
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬(リオシグアト)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
低血圧(7．4%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
神経系障害 浮動性眩暈 頭痛
胃腸障害 消化不良，胃食道逆流性疾患，悪心，嘔吐
(表終了)

ベリキューボ錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2190042F2028
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ベルイシグアト
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】228.7円/1T
【薬価収載日】2021/08/12
【標榜薬効】慢性心不全治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性心不全(治療中のみ)
注意
1．左室駆出率の保たれた慢性心不全の有効性・安全性は未確立，左室駆出率の低下した慢性心不全に投与。
2．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景(前治療，左室駆出率，収縮期血圧等)を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人 1回2．5mgから開始 1日1回 食後 内服。2週間隔で1回量を5，10mgに漸増。適宜減量。
注意
定期的に血圧測定を行い，臨床試験の基準を参考に用量を調節。
臨床試験の用量調節基準
(表開始)
収縮期血圧(mmHg)・低血圧症状 1回量の調節
100以上 ・2．5又は5mg；1段階増量。・10mg；用量を維持。
90～100未満 用量を維持。
90未満で低血圧症状がない時 ・2．5mg；投与を中断。・5又は10mg；1段階減量。
90未満で低血圧症状がある時 投与を中断。
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬(リオシグアト)の投与患者。

■副作用

2 個々の器官系用医薬品

【副作用】重大な副作用
低血圧(7．4%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害　貧血
神経系障害 浮動性眩暈 頭痛
胃腸障害　消化不良，胃食道逆流性疾患，悪心，嘔吐
(表終了)

ミグシス錠5mg（5mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2190023F1037
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】ロメリジン塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー　販)カビ・ファルマシア
【薬価】15.4円/1T
【薬価収載日】1999/05/07
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】片頭痛
注意
1．片頭痛発作(月に2回以上)により日常生活に支障をきたしている患者に投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作発現時は，必要時頭痛発作治療薬(エルゴタミン酒石酸・無水カフェイン等)を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】成人　1回5mg　1日2回　朝・夕食後又は朝食後・就寝前内服。適宜増減，1日20mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．頭蓋内出血・その疑い。
3．脳梗塞急性期。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．抑うつ(頻度不明)。
2．錐体外路症状(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
精神神経系　眠気，頭痛，頭重，眩暈，頭がボーッとする，ふらつき
消化器　悪心，腹痛，下痢，軟便，便秘，食欲不振，心窩部痛，腹部不快感，胃腸障害，口内炎，口唇粘膜浮腫，口腔粘膜浮腫 嘔吐
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，LDHの上昇 AI－Pの上昇
過敏症　発疹
循環器　血圧低下 動悸
泌尿器　排尿障害，頻尿
その他　ほてり感，胸痛，倦怠感，気分不良，背部つっぱり感，発汗，浮腫，悪寒，発熱，乳頭腫大
(表終了)

ユベラNカプセル100mg（100mg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】2190006M1156
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】トコフェロールニコチン酸エステル
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】6.1円/1C
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】微小循環系賦活剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記に伴う随伴症状
高血圧症
〇高脂血症
〇下記に伴う末梢循環障害
閉塞性動脈硬化症
【用法用量】成人　1日300～600mg　1日3回　分割　内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感，胃痛，悪心，下痢，便秘
過敏症　発疹
肝臓　肝機能障害(AST，ALTの上昇等)
その他　温感，潮紅 顔面浮腫，浮腫
(表終了)

リズミック錠10mg（10mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2190022F1024
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】アメジニウムメチル硫酸塩
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】11.7円/1T
【標榜薬効】本態性・起立性・透析時低血圧治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】本態性低血圧，起立性低血圧，透析施行時の血圧低下の改善
注意
透析施行時の血圧低下の改善
透析中に血圧低下で透析の継続が困難と確認された慢性腎不全のみ対象。
【用法用量】本態性低血圧，起立性低血圧
成人　1日20mg　1日2回　分割　内服。
適宜増減。
透析施行時の血圧低下の改善
成人　1回10mg　透析開始時　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．高血圧症。
2．甲状腺機能亢進症。
3．褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
4．閉塞隅角緑内障。
5．残尿を伴う前立腺肥大。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，湿疹，蕁麻疹
循環器 動悸，頻脈，血圧変動，不整脈(期外収縮，心房細動等)，ほてり感，のぼせた感じ 胸部不快感，息苦しさ，浮腫，胸内苦悶感 四肢冷感
精神神経系 眩暈，立ちくらみ，頭痛，頭重，気分不良 ふらつき，全身倦怠感，焦燥感，情緒不安定，不眠，眠気，全身のしびれ，耳鳴
消化器 嘔気・嘔吐，腹痛 胸やけ，食欲不振，腹部膨満，下痢，便秘，口渇感
肝臓 AST，ALTの上昇等の肝機能異常
その他 排尿障害 白血球減少，発熱，全身熱感，頸部痛，下肢痛，視力障害，歩行障害の悪化，構語障害の悪化
(表終了)

2．2　呼吸器官用薬

2．2．2　鎮咳剤

メジコン散10%（10%1g）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2223001B1210
【薬効分類】2．2．2　鎮咳剤
【一般名】デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】20.8円/1g
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記に伴う咳嗽
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)
〇気管支造影術，気管支鏡検査時の咳嗽
【用法用量】成人　1回デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物15～30mg　1日1～4回　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制(0．1%未満)。

2 個々の器官系用医薬品

2. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹
精神神経系 眠気，頭痛，眩暈 不眠 不快
消化器 悪心・嘔吐，便秘 食欲不振，口渇，おくび 腹痛
（表終了）

メジコン錠15mg（15mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2223001F2099
【薬効分類】2．2．2　鎮咳剤
【一般名】デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】8.6円/1T
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記に伴う咳嗽
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺炎，肺結核，上気道炎（咽喉頭炎，鼻カタル）
○気管支造影術，気管支鏡検査時の咳嗽
【用法用量】成人　1回15～30mg　1日1～4回　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制（0．1%未満）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹
精神神経系 眠気，頭痛，眩暈 不眠 不快
消化器 悪心・嘔吐，便秘 食欲不振，口渇，おくび 腹痛
（表終了）

2．2．3　去たん剤

ムコソルバンLカプセル45mg（45mg1カプセル）

外　内服

【YJコード】2239001N1151
【薬効分類】2．2．3　去たん剤
【一般名】アンブロキソール塩酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価収載日】2009/09/25 【経過措置期限】2017/03/31
【標榜薬効】徐放性気道潤滑去たん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核，塵肺症，術後の喀痰喀出困難
【用法用量】成人　1回1カプセル（アンブロキソール塩酸塩　45mg）　1日1回　内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー様症状（頻度不明）（発疹，顔面浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明 0．1%未満
過敏症 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫，口唇浮腫等） 発疹，蕁麻疹，蕁麻疹様紅斑，掻痒
（表終了）

ムコソルバン錠15mg（15mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2239001F1696
【薬効分類】2．2．3　去たん剤
【一般名】アンブロキソール塩酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】7.7円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】気道潤滑去たん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の去痰
急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核，塵肺症，術後の喀痰喀出困難
2．慢性副鼻腔炎の排膿
【用法用量】成人　1回1錠（アンブロキソール塩酸塩　15mg）　1日3回　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，顔面浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 胃痛，腹部膨満感，腹痛，下痢，嘔気，嘔吐，便秘，食思不振，消化不良（胃部膨満感，胸やけ等）
過敏症　発疹，蕁麻疹，蕁麻疹様紅斑，掻痒 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫，口唇浮腫等）
肝臓　肝機能障害（AST上昇，ALT上昇等）
その他　口内しびれ感，上肢のしびれ感 眩暈
（表終了）

ムコダイン錠250mg（250mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2233002F1174
【薬効分類】2．2．3　去たん剤
【一般名】L－カルボシステイン
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2001/07/06
【標榜薬効】気道粘液調整・粘膜正常化剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の去痰
上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核
○慢性副鼻腔炎の排膿
【用法用量】成人　1回500mg（本剤　2錠）　1日3回　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，腹痛 悪心，嘔吐，腹部膨満感，口渇
過敏症 発疹 湿疹，紅斑 浮腫，発熱，呼吸困難
その他　掻痒感
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

2. 2. 4 鎮咳去たん剤

アスベリン散10%（10%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2249003B1037
【薬効分類】2. 2. 4 鎮咳去たん剤
【一般名】チペピジンヒベンズ酸塩
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】17.4円/1g
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記に伴う咳嗽，喀痰喀出困難
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)，気管支拡張症
【用法用量】成人 1日チペピジンクエン酸塩60～120mg 1日3回 分割 内服。
小児 下記1日量 1日3回 分割 内服。
1歳未満 チペピジンクエン酸塩5～20mg。1～3歳未満 チペピジンクエン酸塩10～25mg。3～6歳未満 チペピジンクエン酸塩15～40mg。
適宜増減。
注意
1日量剤形換算
(表開始)
剤形 1歳未満 1～3歳未満 3～6歳未満 成人
散10% 0. 05～0. 2g 0. 1～0. 25g 0. 15～0. 4g 0. 6～1. 2g
(表終了)

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(咳嗽，腹痛，嘔吐，発疹，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，不眠，眩暈 興奮
消化器 食欲不振，便秘，口渇，胃部不快感・膨満感，軟便・下痢，悪心
腹痛
過敏症 掻痒感 発疹
(表終了)

アスベリン錠10（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2249003F1039
【薬効分類】2. 2. 4 鎮咳去たん剤
【一般名】チペピジンヒベンズ酸塩
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】13.1円/1T
【薬価収載日】2005/07/15
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記に伴う咳嗽，喀痰喀出困難
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)，気管支拡張症
【用法用量】成人 1日60～120mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1日量剤形換算
(表開始)
剤形 1歳未満 1～3歳未満 3～6歳未満 成人
錠10 － － － 6～12錠
(表終了)

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(咳嗽，腹痛，嘔吐，発疹，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，不眠，眩暈 興奮
消化器 食欲不振，便秘，口渇，胃部不快感・膨満感，軟便・下痢，悪心
腹痛
過敏症 掻痒感 発疹
(表終了)

アスベリンシロップ0. 5%（0. 5%10mL）

外 内服 流通

【YJコード】2249003Q1048
【薬効分類】2. 2. 4 鎮咳去たん剤
【一般名】チペピジンヒベンズ酸塩
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】25.5円/10mL
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記に伴う咳嗽，喀痰喀出困難
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)，気管支拡張症
【用法用量】成人 1日60～120mg 1日3回 分割 内服。
小児 下記1日量 1日3回 分割 内服。
1歳未満 5～20mg。1～3歳未満 10～25mg。3～6歳未満 15～40mg。
適宜増減。
注意
1日量剤形換算
(表開始)
剤形 1歳未満 1～3歳未満 3～6歳未満 成人
シロップ0. 5% 1～4mL 2～5mL 3～8mL 12～24mL
(表終了)

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(咳嗽，腹痛，嘔吐，発疹，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，不眠，眩暈 興奮
消化器 食欲不振，便秘，口渇，胃部不快感・膨満感，軟便・下痢，悪心
腹痛
過敏症 掻痒感 発疹
(表終了)

2. 2. 5 気管支拡張剤

アノーロエリプタ30吸入用（30吸入1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2259806G2028
【薬効分類】2. 2. 5 気管支拡張剤
【一般名】ウメクリジニウム臭化物・ビランテロールトリフェニル酢酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】5445.1円/1kit
【薬価収載日】2015/05/29
【標榜薬効】COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の気道閉塞性障害による諸症状の緩解(長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
1. 慢性閉塞性肺疾患の長期管理に使用。
2. 増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
3. 気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人 アノーロエリプタ 1回1吸入(ウメクリジニウム 62. 5μg，ビランテロール 25μg) 1日1回 吸入。

■禁忌

【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 前立腺肥大等の排尿障害。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
心房細動(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5%以上 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，血管性浮腫
感染症 咽頭炎
精神神経系 振戦，味覚異常，頭痛

2 個々の器官系用医薬品

循環器 頻脈，動悸
呼吸器 咳嗽 発声障害，口腔咽頭痛
消化器 口内乾燥 便秘
筋骨格系 筋痙縮
腎臓・泌尿器 排尿困難 尿閉
眼 眼圧上昇，霧視，眼痛
（表終了）

ウルティブロ吸入用カプセル（1カプセル）

外 外用 流通

【YJコード】2259805G1027
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】インダカテロールマレイン酸塩・グリコピロニウム臭化物
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)MeijiSeikaファルマ
【薬価】160.6円/1C
【薬価収載日】2013/11/19
【標榜薬効】長時間作用性吸入気管支拡張配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の気道閉塞性障害による諸症状の緩解（長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
1．慢性閉塞性肺疾患の長期管理に使用。増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
2．気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人 1回1カプセル（グリコピロニウム 50μg，インダカテロール 110μg） 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
注意
1．吸入用カプセルであり，必ず専用の吸入用器具（ブリーズヘラー）で吸入し，内服しない。
2．本剤は1日1回，定刻に吸入。吸入できなかった時は，速やかに1回分を吸入。1日1回まで。
3．他の長時間作用性抗コリン剤，長時間作用性β2刺激剤・含有配合剤と同時使用しない。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
2．心房細動（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症 上気道感染 尿路感染 鼻咽頭炎，鼻炎，副鼻腔炎
代謝・栄養障害 ― ― 高血糖，糖尿病
精神障害 ― ― 不眠症
神経系障害 頭痛 ― 感覚鈍麻，錯感覚，眩暈
眼障害 ― ― 緑内障
心臓障害 ― 動悸，虚血性心疾患 頻脈
呼吸器障害 発声障害 咳嗽・湿性咳嗽，口腔咽頭痛・咽喉刺激感 鼻出血，鼻漏，副鼻腔うっ血，気管支痙攣
胃腸障害 口内乾燥 胃腸炎 消化不良，嘔吐，齲歯
過敏症 ― 発疹 血管浮腫，蕁麻疹，掻痒症
筋骨格系障害 ― 筋痙縮 筋肉痛，筋骨格痛，四肢痛，頚部痛
腎・尿路障害 ― 尿閉 膀胱閉塞
全身障害 発熱 末梢性浮腫 疲労，無力症，胸部不快感，胸痛
（表終了）

サルタノールインヘラー100μg（0．16% 13．5mL1瓶）

外 外用 流通

【YJコード】2254700G4037
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】サルブタモール硫酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】454.5円/1V
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】定量噴霧式気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
気管支喘息，小児喘息，肺気腫，急・慢性気管支炎，肺結核
注意
喘息発作の対症療法剤として，発作発現時のみ使用。
【用法用量】成人 1回200μg（本剤 2吸入） 吸入。
小児 1回100μg（本剤 1吸入） 吸入。
適宜増減。
注意
成人1回2吸入，小児1回1吸入を守り（3時間以上効果が持続するので，その間は次の吸入をしない），1日4回（成人8吸入，小児4吸入）まで。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な血清カリウム値低下（頻度不明）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，血管性浮腫，蕁麻疹，血圧低下
循環器 心悸亢進，脈拍増加 不整脈，血圧変動
精神神経系 頭痛 振戦 落ち着きのなさ
消化器 悪心
呼吸器 気道刺激症状 気管支痙攣
その他 潮紅，浮腫，筋痙攣
（表終了）

スピリーバ吸入用カプセル18μg（18μg 1カプセル）

外 外用 流通

【YJコード】2259709G1027
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】チオトロピウム臭化物水和物
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】99.6円/1C
【薬価収載日】2004/12/08
【標榜薬効】長時間作用性吸入気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
注意
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の維持療法に使用。急性増悪の治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】成人 1回1カプセル（チオトロピウム 18μg） 1日1回
専用の吸入用器具（ハンディヘラー）で吸入。
注意
吸入用カプセルであり，必ず専用の吸入用器具（ハンディヘラー）で吸入し，内服しない。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．アトロピン・その類縁物質・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全（0．1%未満），心房細動（0．2%），期外収縮（0．1%未満）。
2．イレウス（頻度不明）。
3．閉塞隅角緑内障（頻度不明）（視力低下，眼痛，頭痛，眼の充血等）。
4．アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
眼 霧視，眼圧上昇
皮膚 発疹，脱毛，掻痒 蕁麻疹
中枢神経系 不眠，浮動性眩暈
感覚器 味覚倒錯，嗅覚錯誤
消化器 口渇（9．6%） 便秘，消化不良，口内炎，舌炎
代謝 高尿酸血症
循環器 頻脈，動悸 上室性頻脈
血液 好酸球増多，白血球減少
呼吸器 呼吸困難，喘鳴，嗄声，鼻出血，咽頭炎，咳嗽 咽喉刺激感
泌尿器 血尿，排尿障害，夜間頻尿，クレアチニン上昇，腎機能異常，尿閉
一般的全身障害 過敏症（血管浮腫含む）
（表終了）

セレベント50ディスカス（50μg60ブリスター1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2259708G3025
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩

2 個々の器官系用医薬品

【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】1850.8円/1kit
【薬価収載日】2004/06/25
【標榜薬効】長時間作動型吸入気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
気管支喘息，慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎，肺気腫)
注意
気管支喘息
1．気管支喘息の急性症状軽減の薬剤ではない。
2．使用開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
3．気管支喘息治療は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】成人　1回50μg　1日2回　朝・就寝前　吸入。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な血清カリウム値低下(0．06%)。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，気管支攣縮，浮腫，血管性浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～2%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症　発疹，血管性浮腫，浮腫
循環器 心悸亢進 脈拍増加，血圧上昇，不整脈(心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む)
精神神経系　振戦，頭痛
消化器　悪心
呼吸器　咳，口腔咽頭刺激感(咽頭異和感，咽頭痛等) 気管支攣縮
その他　胸痛，筋痙攣 関節痛，高血糖
(表終了)

テオドール錠100mg（100mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】2251001F2115
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】テオフィリン
【メーカー】製)田辺三菱製薬　販)日研化学　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】テオフィリン製剤
【標榜薬効】キサンチン系気管支拡張剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇気管支喘息
〇喘息性(様)気管支炎
〇慢性気管支炎
〇肺気腫
注意
喘息性(様)気管支炎
発熱を伴うことが多く，他の治療薬による治療の優先を考慮。テオフィリン投与中に発現した痙攣の報告は，発熱した乳・幼児に多い。
【用法用量】成人　1回200mg(本剤　2錠)　1日2回　朝・就寝前　内服。小児　1回100～200mg(本剤　1～2錠)　1日2回　朝・就寝前　内服。気管支喘息 成人　1回400mg(本剤　4錠)　1日1回　就寝前　内服もできる。
適宜増減。
注意
効能共通
1．臨床症状等の観察，血中濃度のモニタリングを行う。
気管支喘息
2．小児の投与量，投与法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
6～15歳 8～10mg／kg／日(1回4～5mg／kg　1日2回)より開始，臨床効果と血中濃度を確認し調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・他のキサンチン系薬剤に重篤な副作用の既往。
2．12時間以内にアデノシン(アデノスキャン)を使用する患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣，意識障害(各頻度不明)(せん妄，昏睡等)。
2．急性脳症(頻度不明)。
3．横紋筋融解症(頻度不明)(脱力感，筋肉痛，CK上昇等)，急性腎障害。
4．潰瘍等による消化管出血(頻度不明)(吐血，下血等)。
5．赤芽球癆(頻度不明)，貧血。
6．アナフィラキシーショック(頻度不明)(蕁麻疹，蒼白，発汗，血圧低下，呼吸困難等)。
7．肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
8．頻呼吸，高血糖症(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒感，発疹 蕁麻疹，固定薬疹，紅斑(多形滲出性紅斑等)
精神神経系 頭痛，不眠，眩暈，振戦 しびれ，不随意運動，筋緊張亢進
神経過敏(興奮，不機嫌，いらいら感)，不安，耳鳴
循環器 動悸，不整脈(心室性期外収縮等) 頻脈，顔面潮紅，顔面蒼白
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，腹部膨満感，下痢，消化不良(胸やけ等) しゃっくり
泌尿器 蛋白尿　頻尿
代謝異常 血清尿酸値上昇，CK上昇
肝臓 ALT，AI－P，LDHの上昇 ASTの上昇 γ－GTPの上昇
血液 貧血　好酸球増多
その他　倦怠感，むくみ，胸痛 関節痛，四肢痛，発汗，低カリウム血症，鼻出血，しびれ(口，舌周囲)
(表終了)

ホクナリンテープ2mg（2mg1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2259707S3023
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】ツロブテロール
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬　販)アボットジャパン　販)ヴィアトリス・ヘルスケア　販)北陸製薬　販)マルホ
【薬価】39円/1枚
【薬価収載日】1998/11/27
【標榜薬効】経皮吸収型・気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺気腫
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】下記1回量　1日1回　胸部，背部，上腕部のいずれかに貼付。
成人　2mg。
0．5～3歳未満　0．5mg。
3～9歳未満　1mg。
9歳以上　2mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，掻痒症 蕁麻疹
循環器 心悸亢進　顔面紅潮，不整脈，頻脈
精神神経系　振戦，頭痛，不眠 全身倦怠感，眩暈，興奮，しびれ感，筋痙縮 熱感，こわばり感
消化器　悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 胃部不快感
肝臓　AST上昇，ALT上昇
血液　好酸球数増加
皮膚　適用部位掻痒感，適用部位紅斑，接触性皮膚炎　適用部位疼痛，適用部位変色
その他 CK上昇 血清カリウム値の低下 胸痛，浮腫 口渇，筋肉痛
(表終了)

メプチンキッドエアー5μg吸入100回（0．0143%2．5mL1キット）

外　外用　流通

【YJコード】2259704G8037
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】922円/1kit
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】定量噴霧式気管支拡張剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫
注意
喘息発作の対症療法剤として，発作発現時のみ使用。
【用法用量】成人　1回20μg(本剤　4吸入)　吸入。
小児　1回10μg(本剤　2吸入)　吸入。
適宜増減。
注意
成人1回4吸入，小児1回2吸入を守り，1日4回(成人16吸入，小児8吸入)まで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈，心電図異常，血圧上昇，ほてり等　上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮等，顔面蒼白，血圧低下
精神神経系 振戦，頭痛・頭重感，手のしびれ感，眩暈 冷汗，眠気等 筋痙直，神経過敏
消化器 嘔気・嘔吐等
呼吸器 気管・咽喉頭部異常感 鼻閉，呼吸困難等
過敏症　発疹，掻痒感等
その他　脱力感，聴覚異常，血小板減少等 全身倦怠感，一過性(吸入後1～2時間)の血清カリウム値の低下
(表終了)

メプチン錠50μg（0．05mg1錠）
外　内服　流通

【YJコード】2259004F2168
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】9.2円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】気管支拡張剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】成人　1回50μg(本剤　1錠)　1日1回　就寝前，又は1日2回　朝・就寝前　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈 ほてり等 上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮・心房細動等
精神神経系 振戦，頭痛，眩暈 不眠，手足のしびれ感等 手指の痙縮，筋痙直，筋痙攣，神経過敏
消化器 嘔気，胃部不快感等 嘔吐，口渇
過敏症 発疹等　掻痒感
肝臓　AST，ALT，LDHの上昇等の肝機能障害
その他　脱力感，鼻閉，耳鳴 全身倦怠感，血清カリウム値の低下，血糖上昇
(表終了)

メプチンミニ錠25μg（0．025mg1錠）
外　内服　流通

【YJコード】2259004F1110
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】8.6円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】気管支拡張剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎，喘息様気管支炎
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】成人　1回50μg(本剤　2錠)　1日1回　就寝前，又は1日2回　朝・就寝前　内服。
6歳以上の小児　1回25μg(本剤　1錠)　1日1回　就寝前，又は1日2回　朝・就寝前　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈 ほてり等 上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮・心房細動等
精神神経系 振戦，頭痛，眩暈 不眠，手足のしびれ感等 手指の痙縮，筋痙直，筋痙攣，神経過敏
消化器 嘔気，胃部不快感等 嘔吐，口渇
過敏症 発疹等　掻痒感
肝臓　AST，ALT，LDHの上昇等の肝機能障害
その他　脱力感，鼻閉，耳鳴 全身倦怠感，血清カリウム値の低下，血糖上昇
(表終了)

ユニコン錠200（200mg1錠）
外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2251001G1025
【薬効分類】2．2．5　気管支拡張剤
【一般名】テオフィリン
【メーカー】製)日医工
【薬価】12.4円/1T
【薬価収載日】1994/12/09
【ハイリスク分類】テオフィリン製剤
【標榜薬効】テオフィリン徐放性製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫
【用法用量】成人　1回400mg　1日1回　夕食後　内服。
適宜増減。
注意
高齢者では副作用に注意し，低用量(例 200mg／日)から開始。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のキサンチン系薬剤に重篤な副作用の既往。
2．12時間以内にアデノシン(アデノスキャン)を使用する患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．痙攣，意識障害(頻度不明)(せん妄，昏睡等)。
2．急性脳症(頻度不明)。
3．横紋筋融解症(頻度不明)(脱力感，筋肉痛，CK上昇等)，急性腎障害。
4．潰瘍等による消化管出血(頻度不明)(吐血，下血等)。
5．赤芽球癆(頻度不明)，貧血。
6．アナフィラキシーショック(頻度不明)(蕁麻疹，蒼白，発汗，血圧低下，呼吸困難等)。
7．肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
8．頻呼吸，高血糖症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹 蕁麻疹，紅斑(多形滲出性紅斑等)，固定薬疹，掻痒感
精神神経系 頭痛 眩暈，振戦，不眠，神経過敏(興奮，いらいら感，不機嫌)，耳鳴，しびれ 不安，不随意運動，筋緊張亢進
循環器 動悸 頻脈 顔面潮紅，顔面蒼白，不整脈(心室性期外収縮等)
消化器 嘔気・嘔吐，腹痛，消化不良(胸やけ等) 食欲不振，下痢，しゃっくり 腹部膨満感
泌尿器　蛋白尿等 頻尿

2 個々の器官系用医薬品

代謝異常　CK上昇，血清尿酸値上昇
肝臓　AST，ALT上昇 AI－P，LDH，γ－GTP上昇
血液　貧血，好酸球増多
その他　むくみ，関節痛，四肢痛，発汗，胸痛，低カリウム血症，鼻出血，しびれ(口，舌周囲)，倦怠感
(表終了)

2．2．9　その他の呼吸器官用薬

アテキュラ吸入用カプセル低用量（1カプセル）

外　外用　流通

【YJコード】2290806G1021
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】インダカテロール酢酸塩・モメタゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】132.4円/1C
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息(吸入ステロイド剤・長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
【用法用量】成人　1回1カプセル(インダカテロール　150μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル　80μg)　1日1回　専用の吸入用器具で吸入。
症状により下記量の1回1カプセルを1日1回　専用の吸入用器具で吸入。
・アテキュラ吸入用カプセル中用量(インダカテロール　150μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル　160μg)。
・アテキュラ吸入用カプセル高用量(インダカテロール　150μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル　320μg)。
注意
1．吸入用カプセルであり，必ず専用の吸入用器具(ブリーズヘラー)で吸入し，内服しない。
2．本剤は1日1回，定刻に吸入。吸入できなかった時は，速やかに1回分を吸入。1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
3．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)(血管浮腫，呼吸困難，舌・口唇・顔面の腫脹，蕁麻疹，皮疹等)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
3．心房細動(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 － カンジダ症 －
免疫系障害 － － 血管浮腫
代謝・栄養障害 － － 高血糖
神経系障害 － － 頭痛
心臓障害 － － 頻脈
呼吸器，胸郭・縦隔障害 発声障害 口腔咽頭痛 －
皮膚・皮下組織障害 － － 発疹，掻痒症
筋骨格系・結合組織障害 筋痙縮 － 筋骨格痛
(表終了)

アドエア100ディスカス28吸入用（28ブリスター1キット）

外　外用　流通

【YJコード】2290800G1032
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】1593円/1kit
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息(吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
気管支喘息
1．患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に投与しない。
【用法用量】気管支喘息
成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回　吸入。
(1)．本剤 1回1吸入
(2)．アドエア50エアゾール 1回2吸入
症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg　1日2回　吸入。
[1]．アドエア250ディスカス 1回1吸入
[2]．アドエア125エアゾール 1回2吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg　1日2回　吸入。
[1]．アドエア500ディスカス 1回1吸入
[2]．アドエア250エアゾール 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回 本剤 1回1吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回 アドエア50エアゾール 1回2吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg　1日2回 アドエア250ディスカス 1回1吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg　1日2回 アドエア125エアゾール 1回2吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg　1日2回 アドエア500ディスカス 1回1吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg　1日2回 アドエア250エアゾール 1回2吸入　1日2回
(表終了)
小児 症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール25μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル50μg　1日2回　吸入。
[1]．アドエア50エアゾール 1回1吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回　吸入
[1]．本剤 1回1吸入
[2]．アドエア50エアゾール 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール25μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル50μg　1日2回 アドエア50エアゾール 1回1吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回 本剤 1回1吸入　1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg　1日2回 アドエア50エアゾール 1回2吸入　1日2回
(表終了)
注意
気管支喘息
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管性浮腫，蕁麻疹等)。
2．重篤な血清カリウム値低下(頻度不明)。
3．肺炎(3．3%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，口腔咽頭浮腫
口腔・呼吸器 口腔・呼吸器カンジダ症，嗄声，口腔・咽喉刺激感(異和感，疼痛，不快感等)，感染症 味覚異常 むせ，咳，口内乾燥，気管支攣縮
循環器　心悸亢進，血圧上昇，不整脈(心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む) 脈拍増加
精神神経系　頭痛，振戦，睡眠障害 不安，易刺激性，攻撃性
消化器　悪心，腹痛，食道カンジダ症
その他 筋痙攣 関節痛，浮腫，高血糖 鼻炎，胸痛，皮膚挫傷(皮下出血等)
(表終了)

アドエア125エアゾール120吸入用（12．0g1瓶）

外　外用　流通

【YJコード】2290800G8029
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬

【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3983.8円/1V
【薬価収載日】2010/04/23
【標榜薬効】喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息(吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時)
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
気管支喘息
1. 患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2. 投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に投与しない。
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解
3. 増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 吸入。
(1). アドエア100ディスカス 1回1吸入
(2). アドエア50エアゾール 1回2吸入
症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]. アドエア250ディスカス 1回1吸入
[2]. 本剤 1回2吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 吸入。
[1]. アドエア500ディスカス 1回1吸入
[2]. アドエア250エアゾール 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア100ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア50エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア250ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 本剤 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア500ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア250エアゾール 1回2吸入 1日2回
(表終了)
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解 成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]. アドエア250ディスカス 1回1吸入
[2]. 本剤 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア250ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 本剤 1回2吸入 1日2回
(表終了)
注意
気管支喘息
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管性浮腫，蕁麻疹等)。
2. 重篤な血清カリウム値低下(頻度不明)。
3. 肺炎(3. 3%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，口腔咽頭浮腫
口腔・呼吸器 口腔・呼吸器カンジダ症，嗄声，口腔・咽喉刺激感(異和感，疼痛，不快感等)，感染症 味覚異常 むせ，咳，口内乾燥，気管支攣縮
循環器 心悸亢進，血圧上昇，不整脈(心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む) 脈拍増加
精神神経系 頭痛，振戦，睡眠障害 不安，易刺激性，攻撃性
消化器 悪心，腹痛，食道カンジダ症
その他 筋痙攣 関節痛，浮腫，高血糖 鼻炎，胸痛，皮膚挫傷(皮下出血等)
(表終了)

アドエア250ディスカス60吸入用（60ブリスター1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290800G5038
【薬効分類】2. 2. 9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3625.3円/1kit
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息(吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時)
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
気管支喘息
1. 患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2. 投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に投与しない。
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解
3. 増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 吸入。
(1). アドエア100ディスカス 1回1吸入
(2). アドエア50エアゾール 1回2吸入
症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]. 本剤 1回1吸入
[2]. アドエア125エアゾール 1回2吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 吸入。
[1]. アドエア500ディスカス 1回1吸入
[2]. アドエア250エアゾール 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア100ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア50エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 本剤 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア125エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア500ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア250エアゾール 1回2吸入 1日2回
(表終了)
慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解 成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]. 本剤 1回1吸入
[2]. アドエア125エアゾール 1回2吸入
(参考)
(表開始)
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 本剤 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア125エアゾール 1回2吸入 1日2回
(表終了)
注意
気管支喘息
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管性浮腫，蕁麻疹等)。
2. 重篤な血清カリウム値低下(頻度不明)。
3. 肺炎(3. 3%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，口腔咽頭浮腫
口腔・呼吸器 口腔・呼吸器カンジダ症，嗄声，口腔・咽喉刺激感(異和

2 個々の器官系用医薬品

感，疼痛，不快感等），感染症 味覚異常 むせ，咳，口内乾燥，気管支攣縮
循環器 心悸亢進，血圧上昇，不整脈（心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む）脈拍増加
精神神経系 頭痛，振戦，睡眠障害 不安，易刺激性，攻撃性
消化器 悪心，腹痛，食道カンジダ症
その他 筋痙攣 関節痛，浮腫，高血糖 鼻炎，胸痛，皮膚挫傷（皮下出血等）
（表終了）

アドエア500ディスカス60吸入用（60ブリスター1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290800G6034
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3952.1円/1kit
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1．患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に投与しない。
【用法用量】気管支喘息
成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 吸入。
（1）．アドエア100ディスカス 1回1吸入
（2）．アドエア50エアゾール 1回2吸入
症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]．アドエア250ディスカス 1回1吸入
[2]．アドエア125エアゾール 1回2吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 吸入。
[1]．本剤 1回1吸入
[2]．アドエア250エアゾール 1回2吸入
（参考）
（表開始）
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア100ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア50エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア250ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア125エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 本剤 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア250エアゾール 1回2吸入 1日2回
（表終了）
注意
気管支喘息
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管性浮腫，蕁麻疹等）。
2．重篤な血清カリウム値低下（頻度不明）。
3．肺炎（3．3%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，口腔咽頭浮腫
口腔・呼吸器 口腔・呼吸器カンジダ症，嗄声，口腔・咽喉刺激感（異和感，疼痛，不快感等），感染症 味覚異常 むせ，咳，口内乾燥，気管支攣縮
循環器 心悸亢進，血圧上昇，不整脈（心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む）脈拍増加
精神神経系 頭痛，振戦，睡眠障害 不安，易刺激性，攻撃性
消化器 悪心，腹痛，食道カンジダ症
その他 筋痙攣 関節痛，浮腫，高血糖 鼻炎，胸痛，皮膚挫傷（皮下出血等）
（表終了）

アドエア50エアゾール120吸入用（12．0g1瓶）

外 外用 流通

【YJコード】2290800G7030
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3282.1円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1．患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に投与しない。
【用法用量】気管支喘息
成人 1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 吸入。
（1）．アドエア100ディスカス 1回1吸入
（2）．本剤 1回2吸入
症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 吸入。
[1]．アドエア250ディスカス 1回1吸入
[2]．アドエア125エアゾール 1回2吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 吸入。
[1]．アドエア500ディスカス 1回1吸入
[2]．アドエア250エアゾール 1回2吸入
（参考）
（表開始）
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア100ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 本剤 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア250ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル250μg 1日2回 アドエア125エアゾール 1回2吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア500ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル500μg 1日2回 アドエア250エアゾール 1回2吸入 1日2回
（表終了）
小児 症状に応じて下記のいずれかに従い投与。
1回サルメテロール25μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル50μg 1日2回 吸入。
[1]．本剤 1回1吸入
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 吸入
[1]．アドエア100ディスカス 1回1吸入
[2]．本剤 1回2吸入
（参考）
（表開始）
1回サルメテロール25μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル50μg 1日2回 本剤 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 アドエア100ディスカス 1回1吸入 1日2回
1回サルメテロール50μg及びフルチカゾンプロピオン酸エステル100μg 1日2回 本剤 1回2吸入 1日2回
（表終了）
注意
気管支喘息
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管性浮腫，蕁麻疹等）。
2．重篤な血清カリウム値低下（頻度不明）。
3．肺炎（3．3%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，口腔咽頭浮腫
口腔・呼吸器 口腔・呼吸器カンジダ症，嗄声，口腔・咽喉刺激感（異和感，疼痛，不快感等），感染症 味覚異常 むせ，咳，口内乾燥，気管支攣縮
循環器 心悸亢進，血圧上昇，不整脈（心房細動，上室性頻脈，期外収縮含む）脈拍増加
精神神経系 頭痛，振戦，睡眠障害 不安，易刺激性，攻撃性
消化器 悪心，腹痛，食道カンジダ症
その他 筋痙攣 関節痛，浮腫，高血糖 鼻炎，胸痛，皮膚挫傷（皮下出血等）
（表終了）

アニュイティ100μgエリプタ30吸入用（30吸入1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290705G1029
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】フルチカゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】1301.2円/1kit
【薬価収載日】2017/05/31
【標榜薬効】吸入ステロイド喘息治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人 アニュイティ100μgエリプタ 1回1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル 100μg） 1日1回 吸入。
症状により アニュイティ200μgエリプタ 1回1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル 200μg） 1日1回 吸入。
注意
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー反応（頻度不明）（咽頭浮腫，気管支痙攣等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹
感染症 口腔咽頭カンジダ症 上気道感染，気管支炎，インフルエンザ
精神神経系 頭痛
呼吸器 発声障害，鼻咽頭炎，口腔咽頭痛，副鼻腔炎，咽頭炎，咳嗽
筋骨格系 背部痛
（表終了）

エナジア吸入用カプセル高用量（1カプセル）

外 外用 流通

【YJコード】2290807G2022
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】インダカテロール酢酸塩・グリコピロニウム臭化物・モメタゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】331.5円/1C
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤・長時間作用性吸入β2刺激剤・長時間作用性吸入抗コリン剤の併用の必要時）
注意
下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
【用法用量】成人 1回1カプセル（インダカテロール 150μg，グリコピロニウム 50μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル 80μg） 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
症状によりエナジア吸入用カプセル高用量 1回1カプセル（インダカテロール 150μg，グリコピロニウム 50μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル 160μg） 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
注意
1．吸入用カプセルであり，必ず専用の吸入用器具（ブリーズヘラー）で吸入し，内服しない。
2．本剤は1日1回，定刻に吸入。吸入できなかった時は，速やかに1回分を吸入。1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（血管浮腫，呼吸困難，舌・口唇・顔面の腫脹，蕁麻疹，皮疹等）。
2．重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
3．心房細動（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 ― ― カンジダ症，尿路感染
代謝・栄養障害 ― ― 高血糖
神経系障害 ― ― 頭痛
心臓障害 ― ― 頻脈
呼吸器，胸郭・縦隔障害 発声障害（8．7%） ― 口腔咽頭痛，咳嗽
胃腸障害 ― ― 胃腸炎，口内乾燥
皮膚・皮下組織障害 ― ― 発疹，掻痒症
筋骨格系・結合組織障害 ― 筋痙縮，筋骨格痛 ―
腎・尿路障害 ― ― 排尿困難
一般・全身障害・投与部位の状態 ― ― 発熱
（表終了）

エナジア吸入用カプセル中用量（1カプセル）

外 外用 流通

【YJコード】2290807G1026
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】インダカテロール酢酸塩・グリコピロニウム臭化物・モメタゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】290.3円/1C
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤・長時間作用性吸入β2刺激剤・長時間作用性吸入抗コリン剤の併用の必要時）
注意
下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
【用法用量】成人 1回1カプセル（インダカテロール 150μg，グリコピロニウム 50μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル 80μg） 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
症状によりエナジア吸入用カプセル高用量 1回1カプセル（インダカテロール 150μg，グリコピロニウム 50μg，モメタゾンフランカルボン酸エステル 160μg） 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
注意
1．吸入用カプセルであり，必ず専用の吸入用器具（ブリーズヘラー）で吸入し，内服しない。
2．本剤は1日1回，定刻に吸入。吸入できなかった時は，速やかに1回分を吸入。1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（血管浮腫，呼吸困難，舌・口唇・顔面の腫脹，蕁麻疹，皮疹等）。
2．重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
3．心房細動（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 ― ― カンジダ症，尿路感染
代謝・栄養障害 ― ― 高血糖
神経系障害 ― ― 頭痛
心臓障害 ― ― 頻脈
呼吸器，胸郭・縦隔障害 発声障害（8．7%） ― 口腔咽頭痛，咳嗽
胃腸障害 ― ― 胃腸炎，口内乾燥
皮膚・皮下組織障害 ― ― 発疹，掻痒症
筋骨格系・結合組織障害 ― 筋痙縮，筋骨格痛 ―

2 個々の器官系用医薬品

腎・尿路障害 － － 排尿困難
一般・全身障害・投与部位の状態 － － 発熱
（表終了）

オルベスコ200μgインヘラー56吸入用（11．2mg3．3g1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290702G3028
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】シクレソニド
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】1112.1円/1kit
【薬価収載日】2007/06/08
【標榜薬効】吸入ステロイド喘息治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人 1回100～400μg 1日1回 吸入。
適宜増減，1日最大800μg 1日2回 分割 朝・夜 投与。
小児 1回100～200μg 1日1回 吸入。
良好に症状がコントロールされている場合 1回50μg 1日1回まで減量できる。
注意
1．喘息症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与。
2．1日1回投与は，夜に投与。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 咽喉頭症状（不快感，疼痛），嗄声，口渇，口腔カンジダ症，味覚異常，声のかすれ 咳嗽
消化器 悪心
肝臓 ASTの増加，ALTの増加
精神神経系 倦怠感，頭痛
その他 呼吸困難，尿中蛋白，胸部不快感，胸痛，気分不快，浮腫，動悸，気管支痙攣
（表終了）

オルベスコ50μgインヘラー112吸入用（5．6mg6．6g1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290702G1025
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】シクレソニド
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】962.3円/1kit
【薬価収載日】2007/06/08
【標榜薬効】吸入ステロイド喘息治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人 1回100～400μg 1日1回 吸入。
適宜増減，1日最大800μg 1日2回 分割 朝・夜 投与。
小児 1回100～200μg 1日1回 吸入。
良好に症状がコントロールされている場合 1回50μg 1日1回まで減量できる。
注意
1．喘息症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与。
2．1日1回投与は，夜に投与。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 咽喉頭症状（不快感，疼痛），嗄声，口渇，口腔カンジダ症，味覚異常，声のかすれ 咳嗽
消化器 悪心
肝臓 ASTの増加，ALTの増加
精神神経系 倦怠感，頭痛
その他 呼吸困難，尿中蛋白，胸部不快感，胸痛，気分不快，浮腫，動悸，気管支痙攣
（表終了）

シムビコートタービュヘイラー60吸入（60吸入1キット）

外 外用 流通

【YJコード】2290801G2025
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド・ホルモテロールフマル酸塩水和物
【メーカー】製)アストラゼネカ 販)アステラス製薬
【薬価】2535.3円/1kit
【薬価収載日】2009/12/11
【標榜薬効】ドライパウダー吸入式喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
〇慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
2．増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人 維持療法 1回1吸入（ブデソニド 160μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物 4．5μg） 1日2回 吸入。適宜増減，1日最高1回4吸入 1日2回（合計8吸入 ブデソニド 1280μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物 36μg）。
維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者は，発作発現時に頓用吸入を追加できる。維持療法に加えて頓用吸入する時は，発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する時は，さらに追加で1吸入する。必要時これを繰り返すが，1回最大6吸入。
維持療法と頓用吸入の合計 1日最高8吸入 一時的に1日合計12吸入（ブデソニド 1920μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物 54μg）まで増量可能。
（参考）
（表開始）
維持療法 維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能） 維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能） 維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能）
用法・用量 発作発現時の頓用吸入としての用法・用量 1回の発作発現における吸入可能回数 1日最高量
1回1吸入1日2回，症状に応じ1回4吸入1日2回まで。1吸入行い，数分経過しても発作が持続時，さらに1吸入する。必要時これを繰り返す。6吸入まで。合計8吸入まで，一時的に合計12吸入まで（注）。
（表終了）
（注）維持療法・頓用吸入としての使用合計。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
成人 1回2吸入（ブデソニド 320μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物 9μg） 1日2回 吸入。
注意
気管支喘息
1．症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。
2．β刺激剤の薬理学的作用による症状（動悸，頻脈，不整脈，振戦，頭痛及び筋痙攣等）により治療上必要な用量まで増量できない時は，他の治療法を考慮。
維持療法
3．喘息を対象とした臨床試験の1日最高量（1回4吸入 1日2回（1280／36μg／日））の使用経験は少ないため，最高量（1回4吸入 1日2回）の投与は慎重に行う。
維持療法に加えて頓用吸入
4．頓用吸入は維持療法としての使用に追加して行う。頓用吸入のみに使用しない。
5．維持療法としての吸入に引き続き頓用吸入を行う時は，合計で最大6吸入まで。
6．維持療法として1回2吸入1日2回を超える用量を投与している時は，発作発現時に頓用吸入で使用しない（臨床経験なし）。
7．喘息を対象とした臨床試験（日本人含む）で，1日最高量である合計8吸入超の使用経験，発作発現時に1回6吸入した使用経験は少ないため，1日最高量の投与は慎重に行う。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症（接触性皮膚炎含む）の既往。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難, 気管支攣縮, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
2. 重篤な血清カリウム値の低下(0. 1～1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 接触性皮膚炎, 血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 嗄声 咽喉頭の刺激感, 口腔カンジダ症, 咳嗽, 感染, 肺炎 味覚異常, 気管支痙攣
消化器 悪心
精神神経系 頭痛, 振戦, 神経過敏 情緒不安, 眩暈, 睡眠障害 激越, 抑うつ, 行動障害
循環器 動悸, 不整脈(心房細動, 上室性頻脈, 期外収縮等), 頻脈, 血圧上昇 狭心症
筋・骨格系 筋痙攣
内分泌 高血糖
その他 皮膚挫傷
(表終了)

パルミコート200μgタービュヘイラー112吸入(22. 4mg1瓶(200μg))
外 外用 流通

【YJコード】2290701G3031
【薬効分類】2. 2. 9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】1138.6円/1V
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】ドライパウダー吸入式ステロイド剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に, 喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人
1回100～400μg 1日2回 吸入。
適宜増減, 1日最高1600μg。
小児
1回100～200μg 1日2回 吸入。
適宜増減, 1日最高800μg。
良好に症状がコントロールされている場合 1回100μg 1日1回まで減量できる。
注意
症状の緩解あれば, 必要最小限の用量を投与。

■禁忌
【禁忌】1. 有効な抗菌剤のない感染症, 深在性真菌症。
2. 本剤の成分に過敏症(接触性皮膚炎含む)の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 接触性皮膚炎, 血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 嗄声, 咽喉頭症状(刺激感, 疼痛) 咳嗽, 口腔カンジダ症, 味覚異常, 感染, 気管支痙攣
消化器 悪心
精神神経系 神経過敏, 情緒不安, 抑うつ, 行動障害, 不眠
その他 皮膚挫傷
(表終了)

ビレーズトリエアロスフィア120吸入(120吸入1キット)
外 外用 流通

【YJコード】2290805G2023
【薬効分類】2. 2. 9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド・グリコピロニウム臭化物・ホルモテロールフマル酸塩水和物
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】8771.9円/1kit
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎, 肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤, 長時間作用性吸入抗コリン剤, 長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時)
注意
1. 慢性閉塞性肺疾患の長期管理に使用。増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
2. 気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人 1回2吸入(ブデソニド 320μg, グリコピロニウム 14. 4μg, ホルモテロールフマル酸塩 9. 6μg) 1日2回 吸入。
注意
1日2回, 定刻に吸入。

■禁忌
【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 前立腺肥大等による排尿障害。
3. 有効な抗菌剤のない感染症, 深在性真菌症。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心房細動(0. 2%)。
2. 重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
口腔・呼吸器 口腔カンジダ, 発声障害 肺炎, 咳嗽, 咽喉刺激感 気管支痙攣
消化器 ― 悪心, 口内乾燥 ―
精神神経系 ― 不眠症, うつ病, 神経過敏, 頭痛, 振戦, 浮動性眩暈 不安, 激越, 落ち着きのなさ, 異常行動
循環器 ― 狭心症, 頻脈 動悸, 上室性頻脈, 期外収縮
筋・骨格系 筋痙縮 胸痛 ―
内分泌 ― 高血糖 ―
泌尿器 ― ― 尿閉, 尿路感染
一般的全身障害 ― ― 過敏症, 挫傷
(表終了)

リフヌア錠45mg(45mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2290001F1028
【薬効分類】2. 2. 9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】ゲーファピキサントクエン酸塩
【メーカー】製)MSD 販)杏林製薬
【薬価】187.4円/1T
【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】咳嗽治療薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】難治性の慢性咳嗽
注意
最新のガイドライン等を参考に, 慢性咳嗽の原因となる病歴, 職業, 環境要因, 臨床検査結果等を含めた包括的な診断による治療を行っても咳嗽が継続する時に使用を考慮。
【用法用量】成人 1回45mg 1日2回 内服。
注意
重度腎機能障害(eGFR 30mL/分/1. 73m2未満)で透析不要 1回45mgを1日1回。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満
胃腸障害 悪心, 口内乾燥 下痢, 上腹部痛, 消化不良, 口の感覚鈍麻, 流涎過多, 口の錯感覚
感染症・寄生虫症 上気道感染
代謝・栄養障害 食欲減退
神経系障害 味覚不全(40. 4%), 味覚消失, 味覚減退, 味覚障害 浮動性眩暈
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 咳嗽, 口腔咽頭痛
(表終了)

2. 3 消化器官用薬

2. 3. 1 止しゃ剤, 整腸剤

ガスコン錠40mg(40mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2318001F1063
【薬効分類】2. 3. 1 止しゃ剤, 整腸剤
【一般名】ジメチコン
【メーカー】製)キッセイ薬品工業

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】5.9円/1T
【標榜薬効】消化管内ガス駆除剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
2. 胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
3. 腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
【用法用量】1. 胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。
2. 胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
検査15～40分前 成人 40～80mg 約10mLの水とともに 内服。
適宜増減。
3. 腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
検査3～4日前より 成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
消化器 軟便, 胃部不快感, 下痢, 腹痛 嘔吐, 嘔気, 食欲不振, 胃部重圧感
その他 頭痛
(表終了)

ビオフェルミンR錠(1錠)
外 内服 後発 流通

【YJコード】2316004F1020
【薬効分類】2. 3. 1 止しゃ剤, 整腸剤
【一般名】耐性乳酸菌製剤
【メーカー】製)ビオフェルミン製薬 販)大正製薬 販)武田薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】耐性乳酸菌整腸剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記抗生剤, 化学療法剤投与時の腸内菌叢の異常による諸症状の改善
ペニシリン系, セファロスポリン系, アミノグリコシド系, マクロライド系, テトラサイクリン系, ナリジクス酸
【用法用量】成人 1日3錠 1日3回 分割 内服。適宜増減。

2. 3. 2 消化性潰瘍用剤

オメプラール錠20(20mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2329022H1043
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】オメプラゾール
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)アストラゼネカ
【薬価】33.6円/1T
【薬価収載日】2001/02/02
【標榜薬効】プロトンポンプ・インヒビター
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎, Zollinger－Ellison症候群
2. 下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌の内視鏡的治療後胃, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
1. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
2. 特発性血小板減少性紫斑病では, ガイドライン等を参照し, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
3. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
4. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は, ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】1. 胃潰瘍, 吻合部潰瘍, 十二指腸潰瘍, Zollinger－Ellison症候群
成人 1回20mg 1日1回 内服。
胃潰瘍, 吻合部潰瘍 8週間まで, 十二指腸潰瘍 6週間まで。
2. 逆流性食道炎
成人 1回20mg 1日1回 内服。8週間まで。
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 1回10～20mg 1日1回 内服。
3. ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人 1回オメプラゾール20mg, 1回アモキシシリン水和物750mg, 1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量, 1回400mg 1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター, アモキシシリン水和物, クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時
成人 1回オメプラゾール20mg, 1回アモキシシリン水和物750mg, 1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
＜参考＞
(表開始)
効能・効果 オメプラール錠10 本剤 1回量 用法
胃潰瘍, 吻合部潰瘍, 十二指腸潰瘍, Zollinger－Ellison症候群 ○ ○ 20mg 1日1回
逆流性食道炎 逆流性食道炎(維持療法) ○ ○ 20mg 10～20mg 1日1回
非糜爛性胃食道逆流症 ○ 効能なし 10mg 1日1回
下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌への内視鏡的治療後胃, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎 ○ ○ 20mg 1日2回
(表終了)
注意
逆流性食道炎
1日10mgの維持療法で再発があれば1日20mgで再治療を実施。治癒後の維持療法も再発の既往, 症状の程度等を考慮し用量を選択。1日20mgの維持療法で再発, あるいは予期せぬ体重減少, 吐血, 嚥下障害等があれば, 内視鏡検査等を実施, 結果により他の治療法に切りかえを考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(血管浮腫, 気管支痙攣等)。
2. 汎血球減少症, 無顆粒球症, 溶血性貧血, 血小板減少(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎, 肝機能障害, 黄疸, 肝不全(各頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
5. 視力障害(頻度不明)。
6. 間質性腎炎, 急性腎障害(各頻度不明)。
7. 低ナトリウム血症(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
10. 錯乱状態(頻度不明)(せん妄, 異常行動, 失見当識, 幻覚, 不安, 焦燥, 攻撃性等)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎, 非糜爛性胃食道逆流症, Zollinger－Ellison症候群)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹 多形紅斑, 光線過敏症, 掻痒感
消化器 下痢・軟便, 便秘, 悪心 嘔吐, 鼓腸放屁, 腹痛, 口内炎 舌炎, 顕微鏡的大腸炎, 腹部膨満感, カンジダ症, 口渇
肝臓 AST, ALT, Al－P, γ－GTP, LDHの上昇
血液 白血球数減少, 血小板数減少, 貧血
精神神経系 頭痛 眠気, しびれ感 眩暈, 振戦, 傾眠, 不眠(症), 異常感覚, うつ状態
その他 発熱 脱毛, 倦怠感, 関節痛 頻尿, 味覚異常, 動悸, 月経異常, 筋肉痛, 発汗, 筋力低下, 低マグネシウム血症, 霧視, 浮腫, 女性化乳房, BUN, クレアチニン, 尿酸, トリグリセライド, 血清カリウム, 総コレステロールの上昇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
過敏症 発疹
消化器 下痢・軟便(33. 4%), 味覚異常(10. 5%) 口内炎, 腹痛, 食道炎, 悪心, 腹部膨満感, 便秘 舌炎, 口渇, 十二指腸炎
肝臓 AST上昇 肝機能異常, ALT上昇, Al－P上昇, ビリルビン上昇, LDH上昇
血液 好酸球数増多, 血小板数減少, 貧血, 白血球数増多, 白血球分画異常
精神神経系 頭痛, しびれ感, 眩暈, 睡眠障害
その他 尿糖陽性 尿蛋白陽性, 尿酸上昇, 総コレステロール上昇, QT延長, 発熱, 倦怠感, カンジダ症, 動悸, 霧視
(表終了)

ガスターD錠20mg(20mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2325003F4031
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ファモチジン
【メーカー】製)LTLファーマ 販)アステラス製薬
【薬価】13.4円/1T

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2000/07/07
【標榜薬効】H2受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による），逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群
2. 下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】1. 胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による），逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群
成人 1回20mg 1日2回 朝食後，夕食後又は就寝前 内服，又は1回40mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減。
上部消化管出血 注射剤で治療を開始し，内服可能になれば内服に切りかえる。
2. 下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
成人 1回10mg 1日2回 朝食後，夕食後又は就寝前 内服，又は1回20mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減。
注意
腎機能低下 血中未変化体濃度が上昇し，尿中排泄が減少するので，下記投与法を目安。
＜1回20mg1日2回投与を基準＞
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）投与法
Ccr≧60 1回20mg 1日2回
60＞Ccr＞30 1回20mg 1日1回 1回10mg 1日2回
30≧Ccr 1回20mg 2～3日に1回 1回10mg 1日1回
透析患者 1回20mg 透析後1回 1回10mg 1日1回
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫（顔面浮腫，咽頭浮腫等），蕁麻疹等）。
2. 再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血（各頻度不明），血小板減少（0．1%未満）（全身倦怠感，脱力，皮下・粘膜下出血，発熱等）。
3. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
4. 肝機能障害（AST・ALT等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（高カリウム血症，ミオグロビン尿，血清逸脱酵素の著明な上昇，筋肉痛等）。
6. QT延長（頻度不明）。
7. 意識障害，全身痙攣（各頻度不明）（痙直性，間代性，ミオクローヌス性）。
8. 間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）（発熱，皮疹，腎機能検査値異常（BUN・クレアチニン上昇等）等）。
9. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
10. 不全収縮。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹・皮疹，蕁麻疹（紅斑），顔面浮腫
血液 白血球減少 好酸球増多
消化器 便秘 下痢・軟便，口渇，悪心・嘔吐，腹部膨満感，食欲不振，口内炎
循環器 血圧上昇，顔面潮紅，耳鳴 徐脈，頻脈，房室ブロック
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 総ビリルビン上昇，LDH上昇 肝機能異常，黄疸
精神神経系 全身倦怠感，無気力感，頭痛，眠気，不眠 可逆性の錯乱状態，うつ状態，痙攣，意識障害，眩暈
内分泌系 月経不順，女性化乳房 乳汁漏出症
その他 CK上昇，味覚異常，筋肉痛，背部痛
（表終了）

ガスロンN・OD錠2mg（2mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2329020F3020
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】イルソグラジンマレイン酸塩
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】11.1円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 胃潰瘍
2. 下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】成人 1日4mg（錠2mg 2錠，錠4mg 1錠） 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
消化器 便秘，下痢，嘔気・嘔吐
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，ビリルビン等の上昇
皮膚 発疹 掻痒感，発赤，湿疹，多形滲出性紅斑，浮腫性紅斑
その他 胸部圧迫感 発熱
（表終了）

サイトテック錠100（100μg1錠）
外 内服 流通
劇

【YJコード】2329024F2021
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ミソプロストール
【メーカー】製)ファイザー 販)科研製薬 販)カビ・ファルマシア
【薬価】11.5円/1T
【薬価収載日】1996/12/13
【標榜薬効】抗NSAID潰瘍剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与時の胃潰瘍，十二指腸潰瘍
注意
非ステロイド性消炎鎮痛剤を3ヵ月以上長期投与する必要がある関節炎患者等の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の治療のみ使用。
【用法用量】成人 1回200μg 1日4回 毎食後・就寝前 内服。
適宜増減。
注意
1．12週間以上投与しても改善傾向なければ，他の療法を考慮。
2．非ステロイド性消炎鎮痛剤と併用が可能。非ステロイド性消炎鎮痛剤は，消化性潰瘍には禁忌だが，本剤が投与されている時はこの限りでない。高齢者等は非ステロイド性消炎鎮痛剤による消化性潰瘍の合併症（穿孔，出血等）の危険性が高い。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. プロスタグランジン製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，ふるえ等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 下痢，腹痛，嘔気 腹部膨満感，消化不良，嘔吐，食欲不振，おくび，便秘等 軟便
肝臓 ALT上昇，AST上昇，AI－P上昇，LDH上昇 ビリルビン上昇等 総コレステロール上昇，γ－GTP上昇等
腎臓 蛋白尿，クレアチニン上昇 多尿，頻尿，BUN上昇 尿糖
血液 白血球増多，白血球減少，赤血球減少等 貧血（赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少），血小板減少
生殖器 月経異常 閉経後出血，子宮痙攣，月経困難，月経中間期出血
皮膚 発疹 蕁麻疹，掻痒
精神神経系 眩暈，口渇，異常空腹感 頭痛，舌麻痺
その他 ほてり，発熱，胸痛，浮腫，心悸亢進 静脈炎，しびれ感 全身倦怠感
（表終了）

セルベックスカプセル50mg（50mg1カプセル）
外 内服 流通

【YJコード】2329012M1021
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】テプレノン
【メーカー】製)エーザイ 販)EAファーマ
【薬価】9.9円/1C
【標榜薬効】胃炎・胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
〇胃潰瘍
【用法用量】成人 1日3カプセル（テプレノン 150mg） 1日3回 分割 食後 内服。

2 個々の器官系用医薬品

適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－Pの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
消化器 便秘, 下痢, 嘔気, 口渇, 腹痛, 腹部膨満感
肝臓 AST, ALTの上昇
精神神経系 頭痛
過敏症 発疹, 掻痒感
その他 総コレステロールの上昇, 眼瞼の発赤・熱感 血小板減少
(表終了)

セルベックス細粒10%（10%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2329012C1026
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】テプレノン
【メーカー】製)エーザイ 販)EAファーマ
【薬価】9.2円/1g
【標榜薬効】胃炎・胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の胃粘膜病変(糜爛, 出血, 発赤, 浮腫)の改善
急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期
○胃潰瘍
【用法用量】成人 1日1. 5g(テプレノン 150mg) 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－Pの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
消化器 便秘, 下痢, 嘔気, 口渇, 腹痛, 腹部膨満感
肝臓 AST, ALTの上昇
精神神経系 頭痛
過敏症 発疹, 掻痒感
その他 総コレステロールの上昇, 眼瞼の発赤・熱感 血小板減少
(表終了)

タガメット錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2325001F1211
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】シメチジン
【メーカー】製)住友ファーマ 販)住友製薬
【薬価】8.9円/1T
【標榜薬効】H2受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger－Ellison症候群, 逆流性食道炎, 上部消化管出血(消化性潰瘍, 急性ストレス潰瘍, 出血性胃炎による)
○下記の胃粘膜病変(糜爛, 出血, 発赤, 浮腫)の改善
急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】胃潰瘍, 十二指腸潰瘍
成人 シメチジン 1日800mg 1日2回 分割 朝食後・就寝前 内服, 又は1日4回 分割 毎食後・就寝前 内服, 又は1日1回 就寝前 内服。適宜増減。
吻合部潰瘍, Zollinger－Ellison症候群, 逆流性食道炎, 上部消化管出血(消化性潰瘍, 急性ストレス潰瘍, 出血性胃炎による)
成人 シメチジン 1日800mg 1日2回 分割 朝食後・就寝前 内服, 又は1日4回 分割 毎食後・就寝前 内服。適宜増減。
上部消化管出血 注射剤で治療を開始し, 内服可能になれば内服に切りかえる。
下記の胃粘膜病変(糜爛, 出血, 発赤, 浮腫)の改善
急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期
成人 シメチジン 1日400mg 1日2回 分割 朝食後・就寝前 内服, 又は1日1回 就寝前 内服。適宜増減。
注意
1. 腎機能障害 下記を参考に, 減量か, 投与間隔をあけて使用。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL／分) 投与量
0～4 1回200mg 1日1回(24時間間隔)
5～29 1回200mg 1日2回(12時間間隔)
30～49 1回200mg 1日3回(8時間間隔)
50以上 1回200mg 1日4回(6時間間隔)
(表終了)
2. 血液透析患者 透析後に投与。

■禁忌

【禁忌】シメチジンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各0. 1%未満)(全身発赤, 呼吸困難等)。
2. 再生不良性貧血, 汎血球減少, 無顆粒球症, 血小板減少(各0. 1%未満)(全身倦怠, 脱力, 皮下・粘膜下出血, 発熱等)。
3. 間質性腎炎, 急性腎障害(各0. 1%未満)(発熱, 腎機能検査値異常(BUN, クレアチニン上昇等)等)。
4. 皮膚粘膜眼症候群, 中毒性表皮壊死融解症(各0. 1%未満)。
5. 肝障害(頻度不明)(黄疸, AST, ALTの上昇等)。
6. 房室ブロック等の心ブロック(0. 1%未満)。
7. 意識障害, 痙攣(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
腎臓 BUN上昇, 一過性のクレアチニン上昇
過敏症 発疹 末梢神経障害
内分泌 女性化乳房 乳汁分泌, 帯下増加, 勃起障害
精神神経系 可逆性の錯乱状態, 痙攣, 頭痛, 眩暈, 四肢のしびれ・こわばり感, 眠気, ヒポコンドリー様症状, 無気力感, うつ状態, 幻覚
循環器 頻脈, 徐脈, 動悸
消化器 便秘 腹部膨満感, 下痢
その他 発熱, 全身熱感, 排尿困難, 筋肉痛, 膵炎, 脱毛
(表終了)

パリエット錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2329028F1023
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ラベプラゾールナトリウム
【メーカー】製)エーザイ 販)EAファーマ
【薬価】35.8円/1T
【薬価収載日】1997/12/12
【標榜薬効】プロトンポンプ阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎, Zollinger－Ellison症候群, 非糜爛性胃食道逆流症, 低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2. 下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌の内視鏡的治療後胃, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
効能共通
1. 胃癌による症状を隠蔽する可能性, 悪性でないことを確認後投与(胃MALTリンパ腫, 早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助除く)。
非糜爛性胃食道逆流症
2. 投与開始2週後を目安とし効果不十分時には, 酸逆流以外の原因が考えられる。他治療への変更を検討。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
3. 血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象, 投与開始時に, 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
4. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
5. 特発性血小板減少性紫斑病では, ガイドライン等を参照し, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
6. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
7. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は, ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger－Ellison症候群
成人 1回10mg 1日1回 内服。病状により 1回20mg 1日1回 内服。胃潰瘍, 吻合部潰瘍 8週間まで, 十二指腸潰瘍 6週間まで。
逆流性食道炎
・治療
成人 1回10mg 1日1回 内服。病状により 1回20mg 1日1回 内服。8週間まで。プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 成人 1回10mg又は1回20mg 1日2回 さらに8週間 内服。1回20mg1日2回投与は重度の粘膜傷害のみ。
・維持療法
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 成人 1回10mg 1日1回 内服。プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時
成人 1回10mg 1日2回 内服。
非糜爛性胃食道逆流症
成人 1回10mg 1日1回 内服。4週間まで。

2 個々の器官系用医薬品

低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回 内服。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人 1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時 成人 1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
注意
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
1．病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる。
逆流性食道炎
2．病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる(再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法，プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時除く)。
プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 1回10mg又は1回20mgを1日2回，さらに8週間投与する時，内視鏡検査で逆流性食道炎が治癒していないことを確認。本剤1回20mgの1日2回投与は，内視鏡検査で重度の粘膜傷害を確認した時のみ。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(0．1%未満)，溶血性貧血(頻度不明)。
3．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1～5%未満)，黄疸(頻度不明)。
4．間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻髪音)等)。
5．皮膚障害(頻度不明)(中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑等)。
6．急性腎障害(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
7．低ナトリウム血症(頻度不明)。
8．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
9．視力障害(頻度不明)。
10．錯乱状態(頻度不明)(せん妄，異常行動，失見当識，幻覚，不安，焦燥，攻撃性等)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 白血球減少，白血球増加，好酸球増多，貧血 赤血球減少，好中球増多，リンパ球減少
肝臓 AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LDHの上昇 総ビリルビンの上昇
循環器 血圧上昇 動悸
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，嘔気，口内炎 腹痛，苦味，カンジダ症，胃もたれ，口渇，食欲不振，鼓腸 舌炎，嘔吐，顕微鏡的大腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，眠気，四肢脱力，知覚鈍麻，握力低下，口のもつれ，失見当識 せん妄，昏睡
その他 総コレステロール・中性脂肪・BUNの上昇，蛋白尿，血中TSH増加 かすみ目，浮腫，倦怠感，発熱，脱毛症，しびれ感，CKの上昇 目のちらつき，関節痛，筋肉痛，高アンモニア血症，低マグネシウム血症，女性化乳房
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリの除菌補助)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒感
血液 白血球減少 好酸球増多，好中球減少，リンパ球減少，リンパ球増多，血小板減少，白血球増加
肝臓 ALT，AST，γ－GTPの上昇 Al－P，LDHの上昇
循環器 動悸，血圧上昇
消化器 下痢，軟便，味覚異常，腹痛，腹部膨満感，嘔気，便秘，舌炎，胃部不快感，鼓腸放屁 口渇，口内炎，胸やけ，口唇炎，痔核，食道炎，食欲不振，腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈
その他 中性脂肪の上昇 顔面浮腫，倦怠感，舌のしびれ感，熱感，蛋白尿，眼圧上昇，手足のしびれ感，尿酸の上昇，尿糖異常，勃起増強
(表終了)

パリエット錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2329028F3026

【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ラベプラゾールナトリウム
【メーカー】製)エーザイ 販)EAファーマ
【薬価】21.6円/1T
【薬価収載日】2015/02/24
【標榜薬効】プロトンポンプ阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2．下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
効能共通
1．胃癌による症状を隠蔽する可能性，悪性でないことを確認後投与(胃MALTリンパ腫，早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助除く)。
非糜爛性胃食道逆流症
2．投与開始2週後を目安とし効果不十分時には，酸逆流以外の原因が考えられる。他治療への変更を検討。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
3．血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
4．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
5．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
6．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
7．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
成人 1回10mg 1日1回 内服。病状により 1回20mg 1日1回 内服。胃潰瘍，吻合部潰瘍 8週間まで，十二指腸潰瘍 6週間まで。
逆流性食道炎
・治療
成人 1回10mg 1日1回 内服。病状により 1回20mg 1日1回 内服。8週間まで。プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 成人 1回10mg又は1回20mg 1日2回 さらに8週間 内服。1回20mg1日2回投与は重度の粘膜傷害のみ。
・維持療法
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 成人 1回10mg 1日1回 内服。プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 成人 1回10mg 1日2回 内服。
非糜爛性胃食道逆流症
成人 1回10mg 1日1回 内服。4週間まで。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回 内服。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人 1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時 成人 1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
注意
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
1．病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる。
逆流性食道炎
2．病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる(再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法，プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時除く)。
プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 1回10mg又は1回20mgを1日2回，さらに8週間投与する時，内視鏡検査で逆流性食道炎が治癒していないことを確認。本剤1回20mgの1日2回投与は，内視鏡検査で重度の粘膜傷害を確認した時のみ。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(0．1%未満)，溶血性貧血(頻度不明)。
3．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1～5%未満)，黄疸(頻度不明)。
4．間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻

2 個々の器官系用医薬品

髪音)等)。
5. 皮膚障害(頻度不明)(中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑等)。
6. 急性腎障害(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
7. 低ナトリウム血症(頻度不明)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
9. 視力障害(頻度不明)。
10. 錯乱状態(頻度不明)(せん妄，異常行動，失見当識，幻覚，不安，焦燥，攻撃性等)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 白血球減少，白血球増加，好酸球増多，貧血 赤血球減少，好中球増多，リンパ球減少
肝臓 AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LDHの上昇 総ビリルビンの上昇
循環器 血圧上昇 動悸
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，嘔気，口内炎 腹痛，苦味，カンジダ症，胃もたれ，口渇，食欲不振，鼓腸 舌炎，嘔吐，顕微鏡的大腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，眠気，四肢脱力，知覚鈍麻，握力低下，口のもつれ，失見当識 せん妄，昏睡
その他 総コレステロール・中性脂肪・BUNの上昇，蛋白尿，血中TSH増加 かすみ目，浮腫，倦怠感，発熱，脱毛症，しびれ感，CKの上昇 目のちらつき，関節痛，筋肉痛，高アンモニア血症，低マグネシウム血症，女性化乳房
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリの除菌補助)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒感
血液 白血球減少 好酸球増多，好中球減少，リンパ球減少，リンパ球増多，血小板減少，白血球増加
肝臓 ALT，AST，γ－GTPの上昇 Al－P，LDHの上昇
循環器 動悸，血圧上昇
消化器 下痢，軟便，味覚異常，腹痛，腹部膨満感，嘔気，便秘，舌炎，胃部不快感，鼓腸放屁 口渇，口内炎，胸やけ，口唇炎，痔核，食道炎，食欲不振，腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈
その他 中性脂肪の上昇 顔面浮腫，倦怠感，舌のしびれ感，熱感，蛋白尿，眼圧上昇，手足のしびれ感，尿酸の上昇，尿糖異常，勃起増強
(表終了)

プロマックD錠75（75mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2329027F1029
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ポラプレジンク
【メーカー】製)ゼリア新薬工業
【薬価】15.6円/1T
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】亜鉛含有胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】胃潰瘍
【用法用量】成人 1回75mg 1日2回 朝食後・就寝前 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，Al－Pの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
2．銅欠乏症(頻度不明)(汎血球減少，貧血)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 好酸球増多，白血球減少，血小板減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
消化器 便秘，嘔気，腹部膨満感 嘔吐，胸やけ，下痢
(表終了)

マーズレンS配合顆粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】2329122D1414
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・L－グルタミン
【メーカー】製)寿製薬 販)EAファーマ 販)ゼリア新薬工業
【薬価】9.6円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】胃炎・消化性潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の自覚症状・他覚所見の改善
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃炎
【用法用量】成人 1日1．5～2g 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感
肝臓 AST，ALT，LDH，Al－P，γ－GTP上昇等の肝機能障害
消化器 悪心，嘔吐，便秘，下痢，腹痛，膨満感 嘔気，胃部不快感
その他 顔面紅潮
(表終了)

ムコスタ錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2329021F1102
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】レバミピド
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】胃炎・胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．胃潰瘍
2．下記の胃粘膜病変(糜爛，出血，発赤，浮腫)の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】胃潰瘍
成人 1回1錠(レバミピド 100mg) 1日3回 朝・夕・就寝前 内服。
下記の胃粘膜病変(糜爛，出血，発赤，浮腫)の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
成人 1回1錠(レバミピド 100mg) 1日3回 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
2．白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
3．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，Al－Pの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～0．5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，薬疹様湿疹等の過敏症状 蕁麻疹
精神神経系 しびれ，眩暈，眠気
消化器 便秘，腹部膨満感，下痢，味覚異常 嘔気，胸やけ，腹痛，げっぷ 口渇，嘔吐
肝臓 AST，ALTの上昇 γ－GTP，Al－Pの上昇
血液 血小板減少，白血球減少，顆粒球減少
その他 浮腫，咽頭部異物感 乳腺腫脹，乳房痛，女性化乳房，乳汁分泌誘発，動悸，発熱，顔面潮紅，舌のしびれ，咳，息苦しい，脱毛，月経異常，BUN上昇
(表終了)

ラベプラゾールNa錠10mg「AA」（10mg1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】2329028F1031
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ラベプラゾールナトリウム
【先発品】パリエット錠10mg
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】24円/1T
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】プロトンポンプ阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2．下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
効能共通
1．胃癌による症状を隠蔽する可能性，悪性でないことを確認後投与

2 個々の器官系用医薬品

(胃MALTリンパ腫，早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助除く)。
非糜爛性胃食道逆流症
2. 投与開始2週後を目安とし効果不十分時には，酸逆流以外の原因が考えられる。他治療への変更を検討。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
3. 血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
4. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
5. 特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
6. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
7. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】1. 胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
成人　1回10mg　1日1回　内服。病状により　1回20mg　1日1回　内服。
胃潰瘍，吻合部潰瘍　8週間まで，十二指腸潰瘍　6週間まで。
2. 逆流性食道炎
・治療
成人　1回10mg　1日1回　内服。病状により　1回20mg　1日1回　内服。8週間まで。
プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時
成人　1回10mg又は1回20mg　1日2回　8週間　内服。
1回20mg1日2回投与は重度の粘膜傷害のみ。
・維持療法
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 成人　1回10mg　1日1回　内服。
プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時
成人　1回10mg　1日2回　内服。
3. 非糜爛性胃食道逆流症
成人　1回10mg　1日1回　内服。4週間まで。
4. 低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人　1回5mg　1日1回　内服。効果不十分時　1回10mg　1日1回　内服。
5. ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人　1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg　1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時
成人　1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。
注意
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
1. 病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる。
逆流性食道炎
2. 病状が著しい時，再発性・難治性の時は，1回20mgを1日1回投与できる(再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法，プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時除く)。
プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分時 1回10mg又は1回20mgを1日2回，さらに8週間投与する時，内視鏡検査で逆流性食道炎が治癒していないことを確認。本剤1回20mgの1日2回投与は，内視鏡検査で重度の粘膜傷害を確認した時のみ。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(0.1%未満)，溶血性貧血(頻度不明)。
3. 劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0.1～5%未満)，黄疸(頻度不明)。
4. 間質性肺炎(0.1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻髪音)等)。
5. 皮膚障害(頻度不明)(中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑等)。
6. 急性腎障害(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
7. 低ナトリウム血症(頻度不明)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
9. 視力障害(頻度不明)。
10. 錯乱状態(頻度不明)(せん妄，異常行動，失見当識，幻覚，不安，焦燥，攻撃性等)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 白血球減少，白血球増加，好酸球増多，貧血 赤血球減少，好中球増多，リンパ球減少
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTP，LDHの上昇 総ビリルビンの上昇
循環器 血圧上昇 動悸
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，嘔気，口内炎 腹痛，苦味，カンジダ症，胃もたれ，口渇，食欲不振，鼓腸 舌炎，嘔吐，顕微鏡的大腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，眠気，四肢脱力，知覚鈍麻，握力低下，口のもつれ，失見当識 せん妄，昏睡
その他 総コレステロール・中性脂肪・BUNの上昇，蛋白尿，血中TSH増加 かすみ目，浮腫，倦怠感，発熱，脱毛症，しびれ感，CKの上昇 目のちらつき，関節痛，筋肉痛，高アンモニア血症，低マグネシウム血症，女性化乳房
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリの除菌補助)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒感
血液 白血球減少 好酸球増多，好中球減少，リンパ球減少，リンパ球増多，血小板減少，白血球増加
肝臓 ALT，AST，γ－GTPの上昇 AI－P，LDHの上昇
循環器 動悸，血圧上昇
消化器 下痢，軟便，味覚異常，腹痛，腹部膨満感，嘔気，便秘，舌炎，胃部不快感，鼓腸放屁 口渇，口内炎，胸やけ，口唇炎，痔核，食道炎，食欲不振，腸炎
精神神経系 頭痛 眩暈
その他 中性脂肪の上昇 顔面浮腫，倦怠感，舌のしびれ感，熱感，蛋白尿，眼圧上昇，手足のしびれ感，尿酸の上昇，尿糖異常，勃起増強
(表終了)

2．3．3　健胃消化剤

ミルラクト細粒50%（50%1g）
外　内服　流通

【YJコード】2339004C1036
【薬効分類】2．3．3　健胃消化剤
【一般名】β－ガラクトシダーゼ(ペニシリウム)
【メーカー】製)高田製薬　販)塩野義製薬
【薬価】54.1円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】乳糖分解酵素剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 乳児の乳糖不耐による消化不良の改善
(1). 一次性乳糖不耐症
(2). 二次性乳糖不耐症 単一症候性下痢症，急性消化不良症，感冒性下痢症，白色便性下痢症，慢性下痢症，未熟児・新生児の下痢
2. 経管栄養食，経口流動食等摂取時の乳糖不耐による下痢等の改善
【用法用量】1. 乳児の乳糖不耐による消化不良の改善
1回0.25～0.5g　哺乳時に　内服(少量の水又はお湯(50℃以上にならない)で溶解)。
2. 経管栄養食，経口流動食等摂取時の乳糖不耐による下痢等の改善
摂取乳糖量10gに1g　食餌とともに　内服。
適宜増減。
注意
50℃以上では酵素力価が低下するため，溶解温度に注意。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(0.1%未満)(ショック症状，四肢冷感，顔面蒼白，チアノーゼ，下痢，腹部膨満，嘔吐等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満
過敏症 発疹等
消化器 便秘 腹部膨満，嘔吐等
(表終了)

2．3．4　制酸剤

沈降炭酸カルシウム「ケンエー」（10g）
外　内服　流通

【YJコード】2344007X1031
【薬効分類】2．3．4　制酸剤
【一般名】沈降炭酸カルシウム
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】9.7円/10g
【標榜薬効】制酸剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎（急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む），上部消化管機能異常（神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む）
【用法用量】成人　1日1～3g　1日3～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】甲状腺機能低下症，副甲状腺機能亢進症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
代謝異常 高カルシウム血症，アルカローシス等の電解質失調
長期・大量投与 腎結石，尿路結石
消化器 悪心，嘔吐，便秘，下痢，胃酸の反動性分泌等
過敏症 掻痒感
（表終了）

2．3．5　下剤，浣腸剤

アミティーザカプセル24μg（24μg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】2359006M1025
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】ルビプロストン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬　販)アボットジャパン　販)ヴィアトリス・ヘルスケア
【薬価】96.9円/1C
【薬価収載日】2012/11/22
【標榜薬効】クロライドチャネルアクチベーター
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性便秘症（器質的疾患の便秘除く）
注意
症候性の慢性便秘症の有効性・安全性を評価する臨床試験は未実施。
【用法用量】成人　1回24μg　1日2回　朝・夕食後　内服。
適宜減量。
注意
1．中等度・重度の肝機能障害（Child－Pugh分類クラスB又はC）1回24μgを1日1回から開始等。
2．重度の腎機能障害 1回24μgを1日1回から開始等。

■禁忌
【禁忌】1．腫瘍，ヘルニア等による腸閉塞・その疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害　貧血
免疫系障害　気道過敏症
代謝・栄養障害　食欲減退
神経系障害 頭痛 浮動性眩暈，体位性眩暈，感覚鈍麻，傾眠，失神
耳・迷路障害　回転性眩暈
心臓障害　動悸 頻脈
血管障害　ほてり 低血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害 呼吸困難　咳嗽
胃腸障害 下痢（30%），悪心（23%），腹痛（6%） 腹部不快感，腹部膨満，嘔吐 消化不良，排便回数増加，出血性胃炎，痔核，逆流性食道炎，心窩部不快感，痔出血
皮膚・皮下組織障害　湿疹，紅斑 発疹
筋骨格系・結合組織障害　背部痛，筋骨格硬直，四肢不快感
全身障害・局所様態 胸部不快感（5%）　胸痛，不快感，異常感（気分不良），倦怠感，浮腫，口渇
臨床検査　血中ビリルビン増加，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中トリグリセリド増加，血中尿素増加，血中γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，尿中ブドウ糖陽性，ヘモグロビン減少，体重増加，白血球数増加，血中リン増加 血圧低下
（表終了）

テレミンソフト坐薬2mg（2mg1個）

外　外用　流通

【YJコード】2359700J1088
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】ビサコジル
【メーカー】製)EAファーマ　販)サンド　販)ジェイドルフ製薬
【薬価】20.3円/1個
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】排便機能促進剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．便秘症
2．消化管検査時・術前後の腸管内容物の排除
【用法用量】乳・幼児　1回2mg　1日1～2回　肛門内挿入。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．急性腹症の疑い。
2．痙攣性便秘。
3．重症の硬結便。
4．肛門裂創，潰瘍性痔核。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
消化器 直腸刺激感，直腸炎，腹部不快感，腹痛，肛門部痛，肛門部不快感等
循環器 一過性の血圧低下，チアノーゼ，蒼白，発汗，冷感等のショック様症状
（表終了）

モビコール配合内用剤LD（6．8523g1包）

外　内服　流通

【YJコード】2359110B1037
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム
【メーカー】製)EAファーマ　販)持田製薬
【薬価】61.4円/1包
【薬価収載日】2020/11/25
【標榜薬効】慢性便秘症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性便秘症（器質的疾患の便秘除く）
【用法用量】水で溶解し内服。
2～7歳未満の幼児 初回　1回LD1包　1日1回　内服。適宜増減し，1日1～3回　内服。1日最大LD4包又はHD2包（1回LD2包又はHD1包）まで。増量は2日以上あけて　増量幅　1日LD1包まで。
7～12歳未満の小児 初回　1回LD2包又はHD1包　1日1回　内服。適宜増減し，1日1～3回　内服。1日最大LD4包又はHD2包（1回LD2包又はHD1包）まで。増量は2日以上あけて　増量幅　1日LD1包まで。
成人・12歳以上の小児 初回　1回LD2包又はHD1包　1日1回　内服。適宜増減し，1日1～3回　内服。1日最大LD6包又はHD3包（1回LD4包又はHD2包）まで。増量は2日以上あけて　増量幅　1日LD2包又はHD1包まで。
＜参考＞
初回　1日1回。以降，適宜増減（1日1～3回）。
（表開始）
年齢 投与量区分 LD（包） HD（包）
2～7歳未満 初回量 1 －
2～7歳未満 1日最大増量幅※ 1 －
2～7歳未満 1回最大量 2 1
2～7歳未満 1日最大量 4 2
7～12歳未満 初回量 2 1
7～12歳未満 1日最大増量幅※ 1 －
7～12歳未満 1回最大量 2 1
7～12歳未満 1日最大量 4 2
12歳以上（成人含む） 初回量 2 1
12歳以上（成人含む） 1日最大増量幅※ 2 1
12歳以上（成人含む） 1回最大量 4 2
12歳以上（成人含む） 1日最大量 6 3
（表終了）
※増量は2日以上あける。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．腸閉塞，腸管穿孔，重症の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎，クローン病，中毒性巨大結腸症等）・その疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，蕁麻疹，呼吸困難，顔面浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 紅斑 血管浮腫，蕁麻疹，掻痒症
精神神経系 頭痛
消化器 下痢，腹痛，腹部膨満，悪心，腹部不快感，下腹部痛，裂肛，胃腸音異常 嘔吐，消化不良，鼓腸，肛門直腸不快感
その他 末梢性浮腫 高カリウム血症，低カリウム血症
（表終了）

2．3．6 利胆剤

ウルソ錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2362001F2149
【薬効分類】2．3．6 利胆剤
【一般名】ウルソデオキシコール酸
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】肝・胆・消化機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の利胆
胆道（胆管・胆嚢）系疾患・胆汁うっ滞を伴う肝疾患
〇慢性肝疾患の肝機能の改善
〇下記の消化不良
小腸切除後遺症，炎症性小腸疾患
〇外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解
〇原発性胆汁性肝硬変の肝機能の改善
〇C型慢性肝疾患の肝機能の改善
注意
C型慢性肝疾患の肝機能の改善
1．C型慢性肝疾患では，ウイルス排除療法を考慮。本薬にはウイルス排除作用はなく，C型慢性肝疾患の長期予後に対する肝機能改善の影響は不明。ウイルス排除のためのインターフェロン治療無効例又はインターフェロン治療が適用できない患者に投与を考慮。
2．非代償性肝硬変への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
・下記の利胆 胆道（胆管・胆嚢）系疾患，胆汁うっ滞を伴う肝疾患 ・慢性肝疾患の肝機能の改善 ・下記の消化不良 小腸切除後遺症，炎症性小腸疾患 成人 1回50mg 1日3回 内服。適宜増減。
・外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
・原発性胆汁性肝硬変の肝機能の改善 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最大900mg。
・C型慢性肝疾患の肝機能の改善 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最大900mg。
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．完全胆道閉塞。
2．劇症肝炎。

■副作用

【副作用】重大な副作用
間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 下痢 悪心，食欲不振，便秘，胸やけ，胃不快感，腹痛，腹部膨満 嘔吐
過敏症 掻痒，発疹 蕁麻疹等 紅斑（多形滲出性紅斑等）
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇 ビリルビン上昇，γーGTP上昇
その他 全身倦怠感，眩暈 白血球数減少
（表終了）

2．3．9 その他の消化器官用薬

アサコール錠400mg（400mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2399009F3028
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)ゼリア新薬工業 販)協和キリン
【薬価】32.1円/1T
【薬価収載日】2009/12/11
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く）
【用法用量】成人 1日2400mg 1日3回 分割 食後 内服。
寛解期 必要により 1回2400mg 1日1回 食後 内服。
活動期 1日3600mg 1日3回 分割 食後 内服。
適宜減量。
注意
1．1日3600mgを，8週間を超え投与した時の有効性は未確立，漫然投与せず，重症度，病変の広がり等に応じて適宜減量を考慮。
2．メサラジン注腸剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等には適宜減量。併用時に異常があれば，減量・中止等の処置。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．サリチル酸塩類に過敏症の既往。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，汎血球減少症，無顆粒球症，白血球減少症，好中球減少症，血小板減少症（各頻度不明）。
2．心筋炎，心膜炎，胸膜炎（各頻度不明）（胸部痛，心電図異常，胸水等）。
3．間質性肺疾患（0．1%）（間質性肺炎，好酸球性肺炎等）（呼吸困難，胸痛，咳嗽）。
4．急性膵炎（頻度不明）。
5．間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎不全（各頻度不明）。
6．肝炎（注），肝機能障害（AST，ALT，γーGTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
（注）外国。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒
血液 好酸球増加 白血球減少，単球増加 貧血
消化器 腹痛，下痢，腹部膨満，悪心，消化不良，鼓腸，血中アミラーゼ増加 嘔吐，リパーゼ増加，血便，下血
肝臓 ビリルビン増加 AST増加，ALT増加，γーGTP増加，AlーP増加，LDH増加
腎臓 尿中NAG増加 BUN増加 血中クレアチニン増加，クレアチニンクリアランス減少（注）
その他 CRP増加 頭痛，眩暈，関節痛，錯感覚（しびれ等）発熱，耳鳴，筋肉痛，体重減少（注），脱毛症，ループス様症候群，赤血球沈降速度増加（注），倦怠感
（表終了）
（注）外国。

アフタッチ口腔用貼付剤25μg（25μg1錠）

外 外用 流通

【YJコード】2399707D1030
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】トリアムシノロンアセトニド
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)帝人ファーマ
【薬価】22.7円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】付着性アフタ性口内炎治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アフタ性口内炎
【用法用量】1患部 1回1錠 1日1～2回 白色面を患部粘膜に付着させて使用。
適宜増量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
口腔の感染症 カンジダ症 ー
過敏症 ー 気管支喘息発作，顔面浮腫，発疹等
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

イリボー錠5μg（5μg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2399014F2022
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ラモセトロン塩酸塩
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】61円/1T
【薬価収載日】2008/09/12
【標榜薬効】下痢型過敏性腸症候群治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下痢型過敏性腸症候群
注意
1．食事指導，生活指導を行った上で，症状の改善のない患者に，適用を考慮。
2．慢性便秘症・便秘型過敏性腸症候群でないことを確認。
3．十分な問診により，下痢を繰り返している・便秘が発現していないことを確認後投与。
4．類似疾患（大腸癌，炎症性腸疾患，感染性腸炎等）が疑われる時は，必要時専門的な検査を考慮。
【用法用量】男性の下痢型過敏性腸症候群
成人男性 1回5μg 1日1回 内服。
適宜増減，1日最高10μg。
女性の下痢型過敏性腸症候群
成人女性 1回2．5μg 1日1回 内服。
効果不十分時 1日最高5μgまで。
注意
1．用量調整時は1ヵ月程度の症状推移を確認後実施。症状変化による頻繁な用量調整を行わない。
2．継続的な症状の改善が得られた時，漫然投与せず，投与開始3ヵ月を目処に，治療の継続，終了を検討。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．虚血性大腸炎（頻度不明）（腹痛，血便等）。
3．重篤な便秘（頻度不明）（便秘，硬便），その合併症（腸閉塞，イレウス，宿便，中毒性巨大結腸，続発性腸虚血，腸管穿孔），死亡（類薬・外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血，白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少
心臓障害 動悸
胃腸障害 便秘，硬便 腹部膨満 腹痛，上腹部痛，悪心，胃不快感，胃炎，腹部不快感，痔核，排便障害，下痢，嘔吐，逆流性食道炎，十二指腸潰瘍，下腹部痛，肛門周囲痛，痔出血 血便
全身障害・投与局所様態 胸部不快感，倦怠感，口渇
肝胆道系障害 肝機能異常，γ－GTP上昇 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，ビリルビン上昇，LDH上昇
感染症・寄生虫症 憩室炎
筋骨格系・結合組織障害 背部痛
神経系障害 頭痛，傾眠
腎・尿路障害 尿中蛋白陽性，尿中ブドウ糖陽性，血中尿素増加 頻尿
皮膚・皮下組織障害 発疹，蕁麻疹
生殖系・乳房障害 前立腺炎
（表終了）

エンタイビオ皮下注108mgペン（108mg 0．68mL1キット）

外 注射 自注 流通
劇

【YJコード】2399405G2021
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ベドリズマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】69888円/1kit
【薬価収載日】2023/05/24
【標榜薬効】ヒト化抗ヒトα4β7インテグリンモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
中等症から重症の活動期クローン病の維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
注意
効能共通
1．ベドリズマブ（遺伝子組換え）の点滴静注製剤投与後に治療反応が認められた時に投与。
潰瘍性大腸炎
2．ベドリズマブ（遺伝子組換え）は，過去，他の薬物療法（ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残り，適切な時に投与。
クローン病
3．ベドリズマブ（遺伝子組換え）は，過去，栄養療法，他の薬物療法（ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残り，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回108mg 2週間隔 皮下注。
注意
1．ベドリズマブ（遺伝子組換え）の点滴静注製剤を2回以上投与し治療反応あれば，点滴静注製剤の次の投与予定日から切りかえて投与開始（ベドリズマブ（遺伝子組換え）点滴静注製剤の電子添文の用法・用量を参照）。
2．本剤と他の免疫抑制作用を有する生物製剤の併用について臨床試験は未実施，本剤との併用を避ける。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に重度の過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重度の過敏症反応（3．5%）（アナフィラキシー等）（呼吸困難，気管支痙攣，蕁麻疹，潮紅，発疹，血圧変動，心拍数増加等）。
2．重篤な感染症（0．5%）（肺炎，敗血症，結核，リステリア症，サイトメガロウイルス感染，日和見感染等）。
3．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（片麻痺，四肢麻痺，認知機能障害，失語症，視覚障害等）。
4．間質性肺疾患（頻度不明）（間質性肺炎，好酸球性肺炎等）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%
精神神経系 頭痛
消化器 悪心
呼吸器 咳嗽，口腔咽頭痛
皮膚 発疹，掻痒症
筋・骨格系 関節痛，背部痛，四肢痛
その他 注射部位反応（紅斑，腫脹，掻痒感等），上咽頭炎，発熱，気管支炎，上気道感染，インフルエンザ，副鼻腔炎，疲労
（表終了）

ガスモチン散1%（1%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2399010B1034
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】モサプリドクエン酸塩水和物
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】19.8円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】消化管運動機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
2．経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
注意
経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
塩化ナトリウム，塩化カリウム，炭酸水素ナトリウム，無水硫酸ナトリウム含有経口腸管洗浄剤（ニフレック配合内用剤）以外の経口腸管洗浄剤との併用による臨床試験は未実施。
【用法用量】1．慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
成人 1日15mg 1日3回 分割 食前又は食後 内服。
2．経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
成人 開始時 20mg 経口腸管洗浄剤（約180mL）で 内服。終了後20mg 少量の水で 内服。
注意
慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
一定期間（2週間）投与後，消化器症状の改善を評価し，投与継続の必要性を検討。

■副作用

【副作用】重大な副作用
劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明），死亡。
その他の副作用（発現時中止等）（慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐））
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 浮腫 発疹，蕁麻疹
血液 好酸球増多 白血球減少
消化器 下痢・軟便 口渇，味覚異常，腹痛，嘔吐 嘔気，腹部膨満感，口内しびれ感（舌，口唇等含む）
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇

2 個々の器官系用医薬品

循環器 心悸亢進
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛
その他 中性脂肪の上昇 倦怠感 振戦
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
消化器 腹部膨満感，嘔気，腹痛 胃部不快感，おくび
肝臓 ビリルビンの上昇
精神神経系 頭痛 眠気
その他 尿潜血，尿蛋白 胸部不快感，寒気，倦怠感，顔面腫脹，LDHの上昇
（表終了）

ガスモチン錠5mg（5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2399010F2024
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】モサプリドクエン酸塩水和物
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】1998/09/25
【標榜薬効】消化管運動機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
2．経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
注意
経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
塩化ナトリウム，塩化カリウム，炭酸水素ナトリウム，無水硫酸ナトリウム含有経口腸管洗浄剤（ニフレック配合内用剤）以外の経口腸管洗浄剤との併用による臨床試験は未実施。
【用法用量】1．慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
成人 1日15mg 1日3回 分割 食前又は食後 内服。
2．経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
成人 開始時 20mg 経口腸管洗浄剤（約180mL）で 内服。終了後20mg 少量の水で 内服。
注意
慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
一定期間（2週間）投与後，消化器症状の改善を評価し，投与継続の必要性を検討。

■副作用

【副作用】重大な副作用
劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明），死亡。
その他の副作用（発現時中止等）（慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐））
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 浮腫 発疹，蕁麻疹
血液 好酸球増多 白血球減少
消化器 下痢・軟便 口渇，味覚異常，腹痛，嘔吐 嘔気，腹部膨満感，口内しびれ感（舌，口唇等含む）
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇
循環器 心悸亢進
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛
その他 中性脂肪の上昇 倦怠感 振戦
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
消化器 腹部膨満感，嘔気，腹痛 胃部不快感，おくび
肝臓 ビリルビンの上昇
精神神経系 頭痛 眠気
その他 尿潜血，尿蛋白 胸部不快感，寒気，倦怠感，顔面腫脹，LDHの上昇
（表終了）

ガナトン錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2399008F1020
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】イトプリド塩酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アステラス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)藤沢薬品工業 販)北陸製薬
【薬価】9.2円/1T
【薬価収載日】1995/08/25
【標榜薬効】消化管運動賦活剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性胃炎の消化器症状（腹部膨満感，上腹部痛，食欲不振，胸やけ，悪心，嘔吐）
【用法用量】成人 1日150mg 1日3回 分割 食前 内服。
適宜減量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，喉頭浮腫，蕁麻疹，蒼白，発汗等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒感
錐体外路症状 振戦
内分泌 プロラクチン上昇 女性化乳房
血液 血小板減少，白血球減少
消化器 下痢，便秘，腹痛，唾液増加 嘔気
精神神経系 頭痛，イライラ感，睡眠障害，眩暈
肝臓 AST上昇 ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 動悸
その他 胸背部痛，疲労感
（表終了）

コレチメント錠9mg（9mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2399016G1020
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ブデソニド
【メーカー】製)フェリング・ファーマ 販)持田製薬
【薬価】604.6円/1T
【薬価収載日】2023/08/30
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】活動期潰瘍性大腸炎（重症除く）
注意
臨床成績の項を熟知し，メサラジン3600mgの国内臨床試験で非劣性は未検証を理解し，投与の適否を判断。
【用法用量】成人 1回9mg 1日1回 朝 内服。
注意
投与開始8週間を目安に本剤の必要性を検討し，漫然と投与継続しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2～5%未満 2%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 乳房膿瘍，感染性腸炎，乳腺炎，口腔ヘルペス インフルエンザ
血液・リンパ系障害 白血球増加症
免疫性障害 アナフィラキシー反応
内分泌障害 クッシング様症状，小児の成長遅延
代謝・栄養障害 低カリウム血症
精神障害 不眠症，睡眠障害 気分変化，神経過敏，気分動揺，うつ病，精神運動亢進，不安，攻撃性
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，振戦
眼障害 白内障，緑内障，霧視
心臓障害 動悸
胃腸障害 潰瘍性大腸炎増悪 腹部膨満，口唇炎 悪心，上腹部痛，腹痛，口内乾燥，消化不良，鼓腸
皮膚・皮下組織障害 ざ瘡，湿疹 蕁麻疹，発疹，斑状出血
筋骨格系・結合組織障害 筋肉痛，背部痛，筋痙縮
腎・尿路障害 蛋白尿
生殖系・乳房障害 月経障害
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 疲労
臨床検査 白血球数増加，尿中白血球陽性 血中コルチゾール減少
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

サラジェン顆粒0．5%（5mg1包）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2399013D1020
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ピロカルピン塩酸塩
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】58.8円/1包
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】口腔乾燥症状改善薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善
2．シェーグレン症候群の口腔乾燥症状の改善
【用法用量】成人 ピロカルピン塩酸塩 1回5mg 1日3回 食後 内服。
注意
空腹時を避け，食後30分以内に投与。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な虚血性心疾患（心筋梗塞，狭心症等）。
2．気管支喘息，慢性閉塞性肺疾患。
3．消化管・膀胱頸部に閉塞。
4．てんかん。
5．パーキンソニズム，パーキンソン病。
6．虹彩炎。
7．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（0．1%）。
2．失神・一過性の意識喪失（0．2%）等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満
精神神経系 頭痛 眩暈，傾眠，不眠，しびれ 振戦，うつ病，意識低下，舌麻痺，手指のこわばり
消化器 下痢，嘔気 口内炎，唾液腺痛，嘔吐，胃痛，胃不快感，消化不良，腹痛，下腹部痛，腹部膨満，便秘，食欲不振 口角炎，口唇炎，口唇腫脹，口内乾燥，歯肉炎，歯肉腫脹，歯痛，舌炎，唾液分泌過多，唾液腺炎，唾液腺腫大，食道炎，心窩部痛，胃炎，胃重感，腹鳴，腹部不快感，鼓腸放屁，腸炎，メレナ，排便回数増加，肛門周囲炎
循環器 心悸亢進，高血圧 上室性期外収縮，頻脈，不整脈，ST低下，低血圧
呼吸器 鼻炎 咳，咽頭痛，かぜ症候群 副鼻腔炎，鼻出血，喀痰増加，咽頭異和感，咽頭炎，嗄声，呼吸困難，肺炎，喀血
血液 赤血球数減少，血色素量減少，ヘマトクリット減少，白血球数減少 白血球数増多，好酸球増多，好中球増多，好中球減少，単球増多，リンパ球減少，血小板数減少
泌尿器 頻尿 膀胱炎，尿路感染，残尿感，排尿障害，排尿痛，排尿困難，夜間頻尿，尿失禁，尿量増加
皮膚 多汗 掻痒感，発疹 帯状疱疹，単純疱疹，湿疹，蕁麻疹，汗疹，発赤，皮膚炎，脂漏
筋骨格系 関節痛 頸部硬直，頸部痛，頸肩痛，肩こり，背部痛，腰痛，腰椎部椎間板病変，下肢痛，筋肉痛
眼 視力異常 眼瞼腫脹，眼瞼炎，流涙，眼球乾燥，眼痛
耳 耳鳴 耳痛，中耳炎，難聴
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，AI－P上昇 肝機能異常，総ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇，尿潜血陽性 クレアチニン上昇，尿蛋白陽性，尿糖陽性
生殖器 前立腺肥大，月経異常
その他 ほてり，トリグリセリド上昇 悪寒，発熱，倦怠感，胸痛，総コレステロール上昇 脱力感，疲労，顔面浮腫，浮腫，末梢性浮腫，味覚異常，冷感，四肢冷感，しゃっくり，疼痛，アルブミン減少，アミラーゼ上昇，アミラーゼ低下，総蛋白上昇，総蛋白減少，総コレステロール低下，尿酸上昇，ナトリウム上昇，ナトリウム低下，カリウム上昇，カリウム低下，クロライド上昇，尿ウロビリノゲン陽性
（表終了）

ゼンタコートカプセル3mg（3mg1カプセル）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2399016M1024
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ブデソニド
【メーカー】製)ゼリア新薬工業
【薬価】172.4円/1C
【薬価収載日】2016/11/18
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】クローン病治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】軽症から中等症の活動期クローン病
【用法用量】成人 1回9mg 1日1回 朝 内服。
注意
1．投与開始8週間を目安に本剤の必要性を検討し，漫然と投与継続しない。
2．中止時は，用量を漸減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 0．1～1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，蕁麻疹（注）
内分泌系 クッシング様症状（ざ瘡，満月様顔貌等），月経異常（注）
精神神経系 神経過敏（注），不眠（注），気分動揺（注） 振戦（注）
眼 霧視（注）
循環器 動悸（注）
消化器 便秘，消化不良
筋・骨格系 筋痙攣（注）
肝臓 肝機能異常
その他 低カリウム血症（注） アナフィラキシー（注）
（表終了）
（注）外国。

ナウゼリン錠10（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2399005F2023
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ドンペリドン
【メーカー】製)協和キリン 販)協和発酵キリン
【薬価】8.8円/1T
【標榜薬効】消化管運動改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消化器症状（悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，上腹部不快感，腹痛，胸やけ，あい気）
成人
[1]．慢性胃炎，胃下垂症，胃切除後症候群
[2]．抗悪性腫瘍剤・レボドパ製剤投与時
小児
[1]．周期性嘔吐症，上気道感染症
[2]．抗悪性腫瘍剤投与時
【用法用量】成人 1回10mg 1日3回 食前 内服。
レボドパ製剤投与時 1回5～10mg 1日3回 食前 内服。
適宜増減。
小児 1日1～2mg／kg 1日3回 分割 食前 内服。
適宜増減，1日30mgまで。
6歳以上 1日最高1mg／kg。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔。
4．プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，発赤，呼吸困難，顔面浮腫，口唇浮腫等）。
2．錐体外路症状（0．1%未満）（後屈頸，眼球側方発作，上肢の伸展，振戦，筋硬直等）。
3．意識障害，痙攣（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等）
内分泌 女性化乳房，プロラクチン上昇，乳汁分泌，乳房膨満感，月経異常
消化器 下痢 便秘，腹痛，腹部圧迫感，口渇，胸やけ，悪心，嘔吐，腹部膨満感 腹部不快感，腹鳴，腸痙攣
循環器 心悸亢進 QT延長
皮膚 蕁麻疹，発疹，掻痒
その他 口内のあれ，発汗，眠気，動揺感，眩暈・ふらつき
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ペンタサ顆粒94%（94%1g）

外 内服 流通

【YJコード】2399009D2020
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】100.1円/1g
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く），クローン病
【用法用量】潰瘍性大腸炎
成人 1日1500mg 1日3回 分割 食後 内服。寛解期 1日1回にできる。
適宜増減，1日2250mgまで。
活動期 必要により 1日4000mg 1日2回 分割 内服。
小児 1日30～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減，1日2250mgまで。
クローン病
成人 1日1500～3000mg 1日3回 分割 食後 内服。適宜減量。
小児 1日40～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減。
注意
1．1日4000mgへの増量は，再燃寛解型で中等症の潰瘍性大腸炎（直腸炎型除く）に行うよう考慮。
2．1日4000mgを，8週間を超え投与した時の有効性は未確立，漫然と1日4000mgの投与を継続しない。
3．メサラジン注腸剤・坐剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等には適宜減量。併用時に異常があれば，減量・中止等の処置。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な腎障害。
2．重篤な肝障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．サリチル酸エステル類・サリチル酸塩類に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺疾患（頻度不明）（好酸球性肺炎，肺胞炎，肺臓炎，間質性肺炎等）（発熱，咳，呼吸困難，胸部X線異常等）。
2．心筋炎（0．1%未満），心膜炎（頻度不明），胸膜炎（頻度不明）（胸水，胸部痛，心電図異常等）。
3．間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎機能低下，急性腎障害（各頻度不明）。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症（各頻度不明），血小板減少症（0．1%未満）。
5．肝炎（0．1%未満），肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
6．膵炎（0．1%未満）。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感，丘疹 紅斑，蕁麻疹 脱毛
消化器 下痢 腹痛，血便，下血，アミラーゼ上昇，嘔気，腹部膨満感，食欲不振，便秘，口内炎 粘液便，嘔吐 舌・口腔内・胃内容物・便等の変色（黒色等）
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P・ビリルビンの上昇等の肝機能異常
腎臓 クレアチニン・尿中NAG・尿中ミクログロブリンの上昇・尿蛋白等の腎機能異常 尿着色
血液 白血球減少，好酸球増多，貧血
その他 発熱，頭痛，関節痛，全身倦怠感 浮腫，筋肉痛，CK上昇 むくみ，末梢神経障害，眩暈，胸部痛，頚部痛，ループス様症候群，CRP上昇
（表終了）

ペンタサ坐剤1g（1g1個）

外 外用 流通

【YJコード】2399715J1020
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】186.6円/1個
【薬価収載日】2013/05/31
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く）
注意
直腸部の炎症性病変に使用。腸内で到達する範囲は直腸部に限局されるため，S状結腸より口側の炎症には効果が期待できない。
【用法用量】成人 1日1個（メサラジン 1g） 直腸内挿入。
注意
メサラジン経口剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等への投与時は，注意。併用時に異常があれば，投与中止等の処置。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な腎障害。
2．重篤な肝障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．サリチル酸エステル類・サリチル酸塩類に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺疾患（頻度不明）（好酸球性肺炎，肺胞炎，肺臓炎，間質性肺炎等）（発熱，咳，呼吸困難，胸部X線異常等）。
2．心筋炎，心膜炎，胸膜炎（各頻度不明）（胸水，胸部痛，心電図異常等）。
3．間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎機能低下，急性腎障害（各頻度不明）。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少症（各頻度不明）。
5．肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
6．膵炎（頻度不明）。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．01～1%未満 0．01%未満 頻度不明
皮膚 発疹，丘疹，蕁麻疹，紅斑 脱毛 掻痒感
消化器 下痢，腹痛，嘔気，嘔吐 血便，下血，アミラーゼ上昇，腹部膨満感，便秘，粘液便 食欲不振，口内炎，便の変色（黒色等）
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P・ビリルビンの上昇等の肝機能異常
腎臓 尿着色 クレアチニン・尿中NAG・尿中ミクログロブリンの上昇・尿蛋白等の腎機能異常
血液 白血球減少，貧血，好酸球増多
その他 頭痛 CK上昇 筋肉痛，関節痛，ループス様症候群 発熱，浮腫，全身倦怠感，眩暈，末梢神経障害，肛門部位疼痛，肛門部位のかゆみ，不快感，便意切迫，胸部痛，頚部痛，CRP上昇
（表終了）

ペンタサ錠500mg（500mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2399009F2030
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】48.8円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く），クローン病
【用法用量】潰瘍性大腸炎
成人 1日1500mg 1日3回 分割 食後 内服。寛解期 1日1回にできる。
適宜増減，1日2250mgまで。
活動期 必要により 1日4000mg 1日2回 分割 内服。
小児 1日30～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減，1日2250mgまで。
クローン病
成人 1日1500～3000mg 1日3回 分割 食後 内服。適宜減量。
小児 1日40～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減。
注意
1．1日4000mgへの増量は，再燃寛解型で中等症の潰瘍性大腸炎（直腸炎型除く）に行うよう考慮。
2．1日4000mgを，8週間を超え投与した時の有効性は未確立，漫然と1日4000mgの投与を継続しない。
3．メサラジン注腸剤・坐剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等には適宜減量。併用時に異常があれば，減量・中止等の処置。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な腎障害。
2. 重篤な肝障害。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. サリチル酸エステル類・サリチル酸塩類に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺疾患(頻度不明)(好酸球性肺炎，肺胞炎，肺臓炎，間質性肺炎等)(発熱，咳，呼吸困難，胸部X線異常等)。
2. 心筋炎(0. 1%未満)，心膜炎(頻度不明)，胸膜炎(頻度不明)(胸水，胸部痛，心電図異常等)。
3. 間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎機能低下，急性腎障害(各頻度不明)。
4. 再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症(各頻度不明)，血小板減少症(0. 1%未満)。
5. 肝炎(0. 1%未満)，肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%未満)。
6. 膵炎(0. 1%未満)。
7. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感，丘疹 紅斑，蕁麻疹 脱毛
消化器 下痢 腹痛，血便，下血，アミラーゼ上昇，嘔気，腹部膨満感，食欲不振，便秘，口内炎 粘液便，嘔吐 舌・口腔内・胃内容物・便等の変色(黒色等)
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P・ビリルビンの上昇等の肝機能異常
腎臓 クレアチニン・尿中NAG・尿中ミクログロブリンの上昇・尿蛋白等の腎機能異常 尿着色
血液 白血球減少，好酸球増多，貧血
その他 発熱，頭痛，関節痛，全身倦怠感 浮腫，筋肉痛，CK上昇 むくみ，末梢神経障害，眩暈，胸部痛，頚部痛，ループス様症候群，CRP上昇
(表終了)

ペンタサ注腸1g (1g1個)
外 外用 流通

【YJコード】2399715X1023
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)杏林製薬 販)日清キョーリン製薬
【薬価】343.6円/1個
【薬価収載日】2003/04/01
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】潰瘍性大腸炎(重症除く)
注意
脾彎曲部より口側の炎症には効果が期待できない。
【用法用量】成人 1日1個(メサラジン 1g) 直腸内注入。
適宜減量。
注意
メサラジン経口剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等には注意。併用時に異常があれば，減量・中止等の処置。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な腎障害。
2. 重篤な肝障害。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. サリチル酸エステル類・サリチル酸塩類に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺疾患(頻度不明)(好酸球性肺炎，肺胞炎，肺臓炎，間質性肺炎等)(発熱，咳，呼吸困難，胸部X線異常等)。
2. 心筋炎，心膜炎，胸膜炎(各頻度不明)(胸水，胸部痛，心電図異常等)。
3. 間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎機能低下，急性腎障害(各頻度不明)。
4. 再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少症(各頻度不明)。
5. 肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
6. 膵炎(頻度不明)。
7. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 01～1%未満 0. 01%未満 頻度不明
皮膚 発疹，丘疹，蕁麻疹，紅斑 脱毛 掻痒感
消化器 下痢，腹痛，嘔気，嘔吐 血便，下血，アミラーゼ上昇，腹部膨満感，便秘，粘液便 食欲不振，口内炎，便の変色(黒色等)
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P・ビリルビンの上昇等の肝機能異常
腎臓 尿着色 クレアチニン・尿中NAG・尿中ミクログロブリンの上昇・尿蛋白等の腎機能異常
血液 白血球減少，貧血，好酸球増多
その他 頭痛 CK上昇 筋肉痛，関節痛，ループス様症候群 発熱，浮腫，全身倦怠感，眩暈，末梢神経障害，肛門部位疼痛，肛門部位のかゆみ，不快感，便意切迫，胸部痛，頚部痛，CRP上昇
(表終了)

ポリフル錠500mg (500mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2399011F1030
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】ポリカルボフィルカルシウム
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)北陸製薬
【薬価】9.4円/1T
【薬価収載日】2000/08/25
【標榜薬効】過敏性腸症候群治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】過敏性腸症候群の便通異常(下痢，便秘)，消化器症状
注意
対症療法。
【用法用量】成人 ポリカルボフィルカルシウム 1日1. 5～3g 1日3回 分割 食後 水とともに 内服。
注意
1. 1日量は下記。
(表開始)
1日量(錠)
錠 3～6
(表終了)
2. 下痢状態 1日1. 5gから開始。
3. 症状の改善なければ，長期に漫然と使用しない(通常2週間)。

■禁忌
【禁忌】1. 急性腹部疾患(虫垂炎，腸出血，潰瘍性結腸炎等)。
2. 術後イレウス等の胃腸閉塞を引きおこすおそれ。
3. 高カルシウム血症。
4. 腎結石。
5. 腎不全(軽度・透析中除く)。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～2%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
血液 白血球減少
消化器 嘔気・嘔吐，口渇，腹部膨満感，下痢，便秘，腹痛，腹鳴
肝臓 AST上昇，ALT上昇 γ－GTP上昇，AI－P上昇，総ビリルビン上昇，LDH上昇
その他 浮腫，頭痛，尿潜血陽性，尿蛋白陽性
(表終了)

リンゼス錠0. 25mg (0. 25mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2399017F1020
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】リナクロチド
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】64.5円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】グアニル酸シクラーゼC受容体アゴニスト
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 便秘型過敏性腸症候群
2. 慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)
注意
効能共通
1. 食事指導，生活指導を行った上で，症状の改善のない患者に，適用を考慮。
慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)

2 個々の器官系用医薬品

2. 薬剤性・症候性の慢性便秘症の有効性・安全性を評価する臨床試験は未実施。
【用法用量】成人 1回0.5mg 1日1回 食前 内服。症状により 0.25mgに減量。

■禁忌
【禁忌】1. 機械的消化管閉塞又はその疑い。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重度の下痢(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
血液・リンパ系障害 貧血
胃腸障害 下痢(11.6%) 腹痛 腹部不快感, 腹部膨満, 上腹部痛, 便意切迫, 放屁, 便秘型過敏性腸症候群の悪化, 悪心, 軟便
一般・全身障害・投与部位の状態 発熱, 口渇
肝胆道系障害 肝機能異常
臨床検査 ALT上昇, AST上昇, 血中ビリルビン上昇, 血中カリウム上昇, 血中トリグリセリド上昇, γ－GTP上昇, 白血球数減少, 血中リン上昇, 血小板数増加, 尿中蛋白陽性
神経系障害 頭痛
腎・尿路障害 尿閉
皮膚・皮下組織障害 発疹, 蕁麻疹
(表終了)

レクタブル2mg注腸フォーム14回（48mg 30.8g1瓶）

外 外用 流通
ハイリスク

【YJコード】2399716K1020
【薬効分類】2.3.9 その他の消化器官用薬
【一般名】ブデソニド
【メーカー】製)EAファーマ 販)キッセイ薬品工業
【薬価】4538.8円/1V
【薬価収載日】2017/11/22
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】潰瘍性大腸炎(重症除く)
注意
腸内で到達する範囲はS状結腸部までであり, 直腸部・S状結腸部の病変に使用。
【用法用量】成人 1回1プッシュ ブデソニド 2mg 1日2回 直腸内噴射。
注意
投与開始6週間を目安に本剤の必要性を検討し, 漫然と投与継続しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 アナフィラキシー
代謝・栄養障害 クッシング症候群
肝臓 肝機能異常(ALT, AST, γ－GTP, AI－P増加)
精神神経系 頭痛, 不眠症, 眩暈 嗅覚錯誤, 頭蓋内圧亢進症, 気分動揺, うつ病, 易刺激性, 多幸感, 精神運動亢進, 不安
循環器 高血圧
消化器 痔核, 胃潰瘍 悪心, 腹痛, 消化不良, 鼓腸, 腹部の錯感覚, 裂肛, アフタ性口内炎, 排便回数増加, 直腸出血, 直腸灼熱感, 直腸痛, 膵炎, 十二指腸潰瘍
血液・免疫系 白血球増加症 貧血, 血沈亢進, 感染リスクの増加
筋・骨格系 筋肉痛, 関節痛, 筋力低下, 筋痙攣, 骨粗鬆症
皮膚 ざ瘡 多汗, 掻痒症, 皮疹, アレルギー性皮膚炎, 点状出血, 創傷治癒遅延, 接触性皮膚炎
眼 霧視
泌尿器 尿路感染
その他 血中コルチゾール減少(41.1%), 血中コルチコトロピン減少(35.4%) 血中トリグリセリド増加, LDH増加, CK増加 末梢性浮腫 無力症, 発熱, 食欲亢進, 体重増加, アミラーゼ増加
(表終了)

2.4 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)

2.4.1 脳下垂体ホルモン剤

ゴナトロピン注用5000単位（5000単位1瓶）

外 注射 自注 流通

【YJコード】2413402X8027
【薬効分類】2.4.1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】2709円/1V
【薬価収載日】2022/06/16
【標榜薬効】ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】無排卵症(無月経, 無排卵周期症, 不妊症), 機能性子宮出血, 黄体機能不全症・生殖補助医療の黄体補充, 停留睾丸, 造精機能不全による男子不妊症, 下垂体性男子性腺機能不全症(類宦官症), 思春期遅発症, 睾丸・卵巣の機能検査, 妊娠初期の切迫流産, 妊娠初期に繰り返される習慣性流産, 低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導, 生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化, 一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
注意
無排卵症(不妊症), 生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化, 一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
患者・パートナーの検査を実施し, 投与の適否を判断。甲状腺機能低下, 副腎機能低下, 高プロラクチン血症, 下垂体・視床下部腫瘍等があれば, 当該疾患の治療を優先。
【用法用量】無排卵症(無月経, 無排卵周期症, 不妊症)
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1日3000～5000単位 筋注。
機能性子宮出血, 黄体機能不全症又は生殖補助医療の黄体補充
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1日1000～3000単位 筋注。
停留睾丸
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1回300～1000単位 週1～3回 4～10週まで 筋注, 又は1回3000～5000単位 3日間連続 筋注。
造精機能不全による男子不妊症, 下垂体性男子性腺機能不全症(類宦官症), 思春期遅発症
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1日500～5000単位 週2～3回 筋注。
睾丸機能検査
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 10000単位 1回 筋注, 又は3000～5000単位 3～5日間 筋注。1～2時間後の血中テストステロン値を投与前値と比較。
卵巣機能検査
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1000～5000単位 単独又はFSH製剤と併用投与。尿中ステロイド排泄量の変化みる。
黄体機能検査
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 3000～5000単位 高温期に3～5回隔日投与。尿中ステロイド排泄量の変化みる。
妊娠初期の切迫流産, 妊娠初期に繰り返される習慣性流産
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1日1000～5000単位 筋注。
低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導
(1). 二次性徴の発現及び血中テストステロン値を正常範囲内にするため ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1000単位 週3回 皮下注。
血中テストステロン値が正常範囲に達しない又は正常範囲を超えた時
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1000～5000単位 週2～3回で調整。
(2). 精子形成の誘導 ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 1000～5000単位 週2～3回 皮下注。遺伝子組換えFSH製剤を併用投与。
厳密な経過観察が必要。
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化, 一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン 5000単位 単回 筋注・皮下注, 投与量を10000単位にできる。
注意
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化, 一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
1. 超音波検査や必要により血清エストラジオール濃度の測定で十分な卵胞の発育を確認し投与。
2. 卵巣過剰刺激症候群の発現リスクが低く, 5000単位では効果不十分と判断された時のみ, 10000単位の投与を考慮。
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化
3. 生殖補助医療の使用では, 採卵の34～36時間前を目安に投与。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. アンドロゲン依存性悪性腫瘍(例 前立腺癌)・その疑い。
2. 性腺刺激ホルモン製剤に過敏症の既往。
3. 性早熟症。
無排卵症(不妊症), 生殖補助医療の黄体補充, 生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化, 一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
4. 活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(顔面潮紅, 胸内苦悶, 呼吸困難等)。

2 個々の器官系用医薬品

2. 卵巣過剰刺激症候群(頻度不明)(卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難)，卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
精神神経系 眩暈，頭痛，興奮，不眠，抑うつ，疲労感等
内分泌 女性 男性 性早熟症 嗄声，多毛，陰核肥大，ざ瘡等の男性化症状 性欲亢進，陰茎持続勃起，ざ瘡，女性型乳房
投与部位 疼痛，硬結
(表終了)

ゴナールエフ皮下注ペン450（450国際単位0．75mL1筒）

外 注射 自注 流通

【YJコード】2413404G1021
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ホリトロピン アルファ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)メルクバイオファーマ
【薬価】16303円/1筒
【薬価収載日】2009/03/23
【標榜薬効】遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン(FSH)製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】生殖補助医療の調節卵巣刺激
視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激，視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
1．投与の適否は，患者・パートナーの検査を実施後判断。原発性卵巣不全，妊娠不能な性器奇形，妊娠に不適切な子宮筋腫の合併等の妊娠に不適当な時は投与しない。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
2．排卵誘発は，クロミフェン療法が奏功しない自発月経，プロゲステロン製剤投与で消退出血のある第1度無月経，無排卵周期症(希発・頻発月経含む)，多嚢胞性卵巣症候群。
低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導
3．視床下部・下垂体前葉の機能・器質的障害による低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症に，精子形成を誘導，患者を選択時下記に注意。
(1)．投与開始前に，ゴナドトロピン，テストステロン，プロラクチン等の内分泌学的検査を実施。血中ゴナドトロピンが高値を呈する原発性精巣不全は除外。
(2)．CT・MRI検査を行い，頭蓋内器官の器質的障害の有無を確認。新たな所見があれば，投与開始前に評価を行う。
【用法用量】生殖補助医療の調節卵巣刺激
1回150又は225IU 1日1回 月経周期2日目又は3日目から 皮下注。1日450IUまで，適宜用量調節，卵胞が十分に発育するまで継続。
視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
1回75IU 連日 皮下注。卵胞の発育を観察しながら適宜用量調節，主席卵胞の十分な発育確認後，hCG製剤投与。
低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導
hCG製剤と併用。1回150IU 1週3回 皮下注。精子形成の誘導なければ，適宜増量，1回最大300IU 1週3回まで。
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激
1．患者特性により反応性は異なるので，開始量は患者特性を考慮して決定(減量・増量)。用量調節時は，超音波検査・血清エストラジオール濃度の測定で卵巣反応により行う。投与開始5日後から可能，増量幅は150IU以下。
2．超音波検査・血清エストラジオール濃度の測定によって十分な卵胞の発育が確認されるまで投与継続。最終投与後，卵胞最終成熟を誘起後，採卵。
視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
3．卵巣過剰刺激防止のため，投与量の増量は慎重に行う。視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵対象の国内臨床試験で，主席卵胞の発育不十分時，7日間おきに37．5IUずつ増量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・性腺刺激ホルモン製剤・添加物に過敏症の既往。
2．FSH濃度が高く，原発性性腺機能不全が示唆される患者。
3．コントロール不十分な甲状腺・副腎機能不全。
4．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・その疑い。
5．アンドロゲン依存性悪性腫瘍(例 前立腺癌)・その疑い。
6．視床下部，下垂体腫瘍等の頭蓋内器官の活動性腫瘍。
7．診断未確定の不正出血。
8．原因未特定の卵巣腫大・卵巣嚢胞。
9．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
10．活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．アナフィラキシー(頻度不明)。
生殖補助医療の調節卵巣刺激，視床下部－下垂体機能障害・多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発
2．卵巣過剰刺激症候群(7．0%)(卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難)，卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
3．血栓塞栓症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(生殖補助医療の調節卵巣刺激，視床下部－下垂体機能障害，多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵・希発排卵の排卵誘発)
(表開始)
発現部位等 2%以上 1～2%未満 頻度不明
血液 白血球数増加
消化器 腹部膨満，下腹部痛，腹水，悪心，腹痛 腹部不快感
投与部位 注射部位疼痛 軽度から重度の注射部位反応(注射部位の発赤，内出血，腫脹)，浮腫
免疫系 軽度のアナフィラキシー
代謝 食欲不振
精神神経系 頭痛
生殖器 卵巣腫大 不正子宮出血，性器出血 卵巣嚢胞
乳房 乳房不快感
呼吸器 呼吸困難(軽度の全身性アレルギー反応)
皮膚／皮膚付属器 蕁麻疹，紅斑，発疹，顔面腫脹(軽度の全身性アレルギー反応)
その他 低出生体重児，双胎妊娠，流産，バニシングツイン症候群，早産
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の精子形成の誘導)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
血液 リンパ節症
消化器 消化不良 胃炎，悪心 下痢，腹痛，味覚異常
投与部位 注射部位疼痛 注射部位挫傷，注射部位紅斑，注射部位掻痒感
肝臓 血中ビリルビン増加，肝機能検査異常 血中AI－P増加
泌尿器 尿中蛋白陽性，尿潜血陽性
筋骨格系 鼡径部痛，筋痙縮
精神神経系 リビドー減退 不眠症，攻撃性，浮動性眩暈，傾眠 注意力障害
生殖器 精巣痛，精索静脈瘤，停留精巣 前立腺特異性抗原増加
乳房 女性化乳房，乳房圧痛 乳房腫瘤 乳房痛
皮膚 ざ瘡(33．3%)，脂漏 脱毛症，発疹，多汗 蕁麻疹，色素沈着障害
全身状態 疲労 軽度の全身性アレルギー反応，倦怠感
その他 良性下垂体腫瘍 体重増加，毛質異常，血中尿酸増加
(表終了)

ソグルーヤ皮下注10mg（10mg1．5mL1キット）

外 注射 自注 流通

【YJコード】2412403G2026
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ソマプシタン(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】52476円/1kit
【薬価収載日】2021/11/25
【標榜薬効】長時間作用型ヒト成長ホルモンアナログ製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇成人成長ホルモン分泌不全症(重症のみ)
〇骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症
注意
成人成長ホルモン分泌不全症
1．成人成長ホルモン分泌不全症と診断された患者のうち，重症の基準に該当する患者のみ。診断・重症の基準は，最新の「厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 成人成長ホルモン分泌不全症の診断と治療の手引き」病型分類を参照。
成長ホルモン分泌不全性低身長症
2．適用は，成長ホルモン分泌不全性低身長症のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断の手引き」を参照。
【用法用量】成人成長ホルモン分泌不全症
開始量 1回1．5mg 週1回 皮下注。適宜増減，最高量8mg。
成長ホルモン分泌不全性低身長症
1回0．16mg／kg 週1回 皮下注。
注意
効能共通
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。

2 個々の器官系用医薬品

2. 忘れた時は，予定日から3日以内であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。投与日から3日を超えていれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の定めた曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低4日間以上間隔をあける。
成人成長ホルモン分泌不全症
3. 開始量は，年齢，性別，合併症等により適宜増減。1．5mgから開始するが，60歳超では1mg，経口エストロゲン服用中では2mgを目安に投与開始。中等度の肝機能障害では，低用量から開始等，慎重投与。
4. 投与量は，臨床症状・血清IGF－I濃度により調整。投与開始後，2～4週間に1回を目安に投与量の調整を行い，増量時は1回0．5～1．5mgとする。その後も定期的に血清IGF－I濃度を測定し，基準範囲上限まで。副作用の発現や血清IGF－I濃度が基準範囲上限を超えた時は，投与量の減量，一時的な投与中止等の処置。
5. 加齢に伴い生理的な成長ホルモンの分泌量や血清IGF－I濃度が低下。本剤投与による改善がなく，かつ本剤を投与しなくても血清IGF－I濃度が基準範囲内の時は，投与中止を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 悪性腫瘍。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 甲状腺機能亢進症（頻度不明）。
2. 糖尿病（頻度不明）（耐糖能低下）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. ネフローゼ症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（成人成長ホルモン分泌不全症）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
内分泌障害　副腎皮質機能不全
代謝・栄養障害　高リン酸塩血症 高血糖
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，感覚鈍麻 錯感覚 手根管症候群
胃腸障害　下痢
皮膚・皮下組織障害　脂肪肥大症
筋骨格系・結合組織障害 関節痛
全身障害・投与部位状態 疲労，末梢性浮腫 無力症，注射部位反応
臨床検査 体重増加，血中クレアチンホスホキナーゼ増加 グリコヘモグロビン増加
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（成長ホルモン分泌不全性低身長症）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
内分泌障害　甲状腺機能低下症 副腎皮質機能不全
代謝・栄養障害 高血糖
神経系障害 頭痛
胃腸障害 嘔吐
筋骨格系・結合組織障害 四肢痛，関節痛
全身障害・投与部位状態 疲労，注射部位内出血，注射部位疼痛，注射部位血腫　末梢性浮腫，注射部位腫脹
（表終了）

ソグルーヤ皮下注5mg（5mg1．5mL1キット）

外　注射　自注　流通

【YJコード】2412403G1020
【薬効分類】2．4．1　脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ソマプシタン（遺伝子組換え）
【メーカー】製）ノボノルディスクファーマ
【薬価】26238円/1kit
【薬価収載日】2021/11/25
【標榜薬効】長時間作用型ヒト成長ホルモンアナログ製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇成人成長ホルモン分泌不全症（重症のみ）
〇骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症
注意
成人成長ホルモン分泌不全症
1．成人成長ホルモン分泌不全症と診断された患者のうち，重症の基準に該当する患者のみ。診断・重症の基準は，最新の「厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成人成長ホルモン分泌不全症の診断と治療の手引き」病型分類を参照。
成長ホルモン分泌不全性低身長症
2．適用は，成長ホルモン分泌不全性低身長症のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断の手引き」を参照。
【用法用量】成人成長ホルモン分泌不全症
開始量　1回1．5mg　週1回　皮下注。適宜増減，最高量8mg。
成長ホルモン分泌不全性低身長症
1回0．16mg／kg　週1回　皮下注。
注意
効能共通
1. 本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2. 忘れた時は，予定日から3日以内であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。投与日から3日を超えていれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の定めた曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低4日間以上間隔をあける。
成人成長ホルモン分泌不全症
3. 開始量は，年齢，性別，合併症等により適宜増減。1．5mgから開始するが，60歳超では1mg，経口エストロゲン服用中では2mgを目安に投与開始。中等度の肝機能障害では，低用量から開始等，慎重投与。
4. 投与量は，臨床症状・血清IGF－I濃度により調整。投与開始後，2～4週間に1回を目安に投与量の調整を行い，増量時は1回0．5～1．5mgとする。その後も定期的に血清IGF－I濃度を測定し，基準範囲上限まで。副作用の発現や血清IGF－I濃度が基準範囲上限を超えた時は，投与量の減量，一時的な投与中止等の処置。
5. 加齢に伴い生理的な成長ホルモンの分泌量や血清IGF－I濃度が低下。本剤投与による改善がなく，かつ本剤を投与しなくても血清IGF－I濃度が基準範囲内の時は，投与中止を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 悪性腫瘍。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 甲状腺機能亢進症（頻度不明）。
2. 糖尿病（頻度不明）（耐糖能低下）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. ネフローゼ症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（成人成長ホルモン分泌不全症）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
内分泌障害　副腎皮質機能不全
代謝・栄養障害　高リン酸塩血症 高血糖
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，感覚鈍麻 錯感覚 手根管症候群
胃腸障害　下痢
皮膚・皮下組織障害　脂肪肥大症
筋骨格系・結合組織障害 関節痛
全身障害・投与部位状態 疲労，末梢性浮腫 無力症，注射部位反応
臨床検査 体重増加，血中クレアチンホスホキナーゼ増加 グリコヘモグロビン増加
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（成長ホルモン分泌不全性低身長症）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
内分泌障害　甲状腺機能低下症 副腎皮質機能不全
代謝・栄養障害 高血糖
神経系障害 頭痛
胃腸障害 嘔吐
筋骨格系・結合組織障害 四肢痛，関節痛
全身障害・投与部位状態 疲労，注射部位内出血，注射部位疼痛，注射部位血腫　末梢性浮腫，注射部位腫脹
（表終了）

ノルディトロピン フレックスプロ注 10mg（10mg1キット）

外　注射　自注　流通

【YJコード】2412402P7023
【薬効分類】2．4．1　脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ソマトロピン（遺伝子組換え）
【メーカー】製）ノボノルディスクファーマ
【薬価】57431円/1kit
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】ヒト成長ホルモン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症
〇骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群の低身長
〇骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症の低身長
〇成人成長ホルモン分泌不全症（重症のみ）
〇骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症
〇骨端線閉鎖を伴わないヌーナン症候群の低身長
注意
成長ホルモン分泌不全性低身長症
1．適用は，成長ホルモン分泌不全性低身長症のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断の手引き」を参照。
ターナー症候群の低身長
2．適用基準 染色体検査でターナー症候群と確定診断され，現在の身長が同年齢の（標準値－2SD）以下又は年間の成長速度が2年以上標準値の－1．5SD以下
3．治療継続基準
1年ごとに下記を判定し，いずれかを満たした時に治療継続

2 個々の器官系用医薬品

・成長速度≧4．0cm／年
・治療中1年間と治療前1年間の成長速度の差が，≧1．0cm／年
・治療2年目以降で，治療中1年間の成長速度が下記
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
以上のいずれも満たさない時，骨年齢が15歳以上に達した時は投与中止
軟骨異栄養症の低身長
4．適用基準
現在の身長が同性，同年齢の（標準値－3SD）以下
5．治療継続基準
1年ごとに下記を判定し，いずれかを満たした時に治療の継続
・成長速度≧4．0cm／年
・治療中1年間と治療前1年間の成長速度の差が，≧1．0cm／年
・治療2年目以降で，治療中1年間の成長速度が下記
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
成人成長ホルモン分泌不全症
6．成人成長ホルモン分泌不全症と診断された患者のうち，下記のいずれかの患者のみ。重症の基準は，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成人成長ホルモン分泌不全症の診断と治療の手引き」の病型分類を参照。
（1）．小児期発症型（小児期に成長ホルモン分泌不全症と確定診断されている）は，下記のいずれかを満たすもの。診断は，治療開始前に再度成長ホルモン分泌刺激試験を実施。
・2種類以上の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
・頭蓋内器質性疾患の合併ないし既往，治療歴，周産期異常の既往があり，成長ホルモン含む複数の下垂体ホルモンの分泌低下がある患者では，1種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
（2）．成人期発症型は，頭蓋内器質性疾患の合併ないし既往，治療歴又は周産期異常の既往があり，下記を満たす。
・成長ホルモン含む複数の下垂体ホルモンの分泌低下があり，1種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
・成長ホルモン単独の分泌低下があり，2種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
［成長ホルモン分泌刺激試験の種類と成人成長ホルモン分泌不全症で重症と診断される血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値］
（表開始）
成長ホルモン分泌刺激試験の種類 重症と診断される血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値
インスリン，アルギニン，グルカゴン 1．8ng／mL以下
GHRP－2 9ng／mL以下
（表終了）
SGA性低身長症
7．適用基準
下記のいずれの基準も満たすこと。
（1）．出生時
出生時の体重及び身長がともに在胎週数相当の10パーセンタイル未満で，かつ出生時の体重又は身長のいずれかが，在胎週数相当の〔標準値－2SD〕未満。
重症の新生児出生時に身長が測定できないことあり，測定されていない場合は，出生体重で判定。
（2）．治療の開始条件
・3歳以上。
・治療開始時点の身長が同性，同年齢の〔標準値－2．5SD〕未満。
・治療開始前1年間の成長速度が標準成長速度の0SD未満。
（3）．出生後の成長障害が子宮内発育遅延以外の疾患等に起因する患者でないこと。成長障害をもたらすと考えられる治療を受けている患者でないこと。
8．治療継続基準
1年ごとに下記の基準を判定し，いずれかを満たした時に治療を継続。
・成長速度≧4cm／年。
・治療中1年間と，投与前1年間の成長速度の差が1．0cm／年以上。
・治療2年目以降，増量後の治療中1年間の成長速度が下記。
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
二次性徴発来後，年間成長速度が2cmを下回る時，又は骨年齢が男17歳，女15歳以上に達した時は投与中止。
ヌーナン症候群の低身長
9．適用基準
下記のいずれの基準も満たすこと。
（1）．ヌーナン症候群のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　ヌーナン症候群の診断基準と診療指針」の臨床診断の基準を参照。
（2）．治療の開始条件
・3歳以上。
・身長が同性，同年齢の［標準値－2SD］以下。
10．治療継続基準
1年ごとに下記の基準を判定し，いずれかを満たした時に治療の継続。
・成長速度　≧4cm／年
・治療中1年間と，投与前1年間の成長速度の差が1．0cm／年以上。
・治療2年目以降，増量後の治療中1年間の成長速度が下記。
2年目　≧2．0cm／年
3年目以降　≧1．0cm／年
骨年齢が男17歳，女15歳以上に達した時は投与中止。

【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．175mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．35mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．35mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
成人成長ホルモン分泌不全症（重症のみ）開始量 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．021mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。症状により 1週0．084mg／kgまで漸増，週6～7回 分割 皮下注。適宜増減。1日1mgまで。
骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．23mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。効果不十分時 1週0．47mg／kgまで増量 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わないヌーナン症候群の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．23mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。効果不十分時 1週0．47mg／kgまで増量 週6～7回 分割 皮下注。
（表終了）
注意
成人成長ホルモン分泌不全症
1．投与量は，血清IGF－I濃度を参照して調整。血清IGF－I濃度は投与開始後24週目までは4週間に1回，以降は12～24週に1回の測定を目安。副作用の発現等には，血清IGF－I濃度を測定し，減量，一時的な投与中止等の処置。
2．加齢に伴い生理的な成長ホルモンの分泌量や血清IGF－I濃度が低下。本剤による症状の改善がなく，かつ本剤を投与しなくても血清IGF－I濃度が基準範囲内の場合は，投与中止を考慮。
SGA性低身長症
3．用量の増量時，Δ身長SDスコア，低身長の程度等を考慮して総合的に判断（日本小児内分泌学会／日本未熟児新生児学会，「SGA性低身長症におけるGH治療の実施上の注意」を参照）。
ヌーナン症候群の低身長
4．用量の増量時，Δ身長SDスコア，低身長の程度等を考慮して総合的に判断（日本小児内分泌学会，「ヌーナン症候群における低身長に対するGH治療の実施上の注意」を参照）。

■禁忌
【禁忌】1．悪性腫瘍。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．O脚の悪化（頻度不明）。
2．痙攣（頻度不明）。
3．甲状腺機能亢進症（頻度不明）。
4．ネフローゼ症候群（頻度不明）（浮腫，尿蛋白，低蛋白血症）。
5．糖尿病（頻度不明）（耐糖能低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒（症），発疹（蕁麻疹，紅斑等）
内分泌　TSH上昇・低下，耐糖能低下 T3値の増加・減少，T4値の増加・減少，甲状腺機能低下症
肝臓　ALT上昇 AST上昇，γ－GTP上昇
消化器　嘔気，嘔吐，腹痛
筋・骨格系 関節痛・下肢痛等の成長痛 筋痛，四肢痛，背部痛 踵骨骨端炎，筋痙縮，筋骨格硬直 大腿骨骨頭壊死，有痛性外脛骨，外骨腫，大腿骨骨頭辷り症，周期性四肢麻痺，側弯症等の脊柱変形の進行，関節硬直
投与部位　注射部位反応（熱感・疼痛・発赤・硬結）皮下脂肪の消失
神経系　倦怠感，頭痛，感覚障害（しびれ，錯感覚，感覚鈍麻等）手根管症候群 頭蓋内圧亢進に伴う乳頭浮腫・視覚異常・頭痛・悪心・嘔吐
その他 浮腫 AI－P上昇 LDH上昇，血清P上昇，蛋白尿，白血球数上昇，遊離脂肪酸上昇，尿潜血・顕微鏡的血尿，好酸球増多 CK（CPK）上昇，ミオグロビン上昇
（表終了）

ノルディトロピン フレックスプロ注 5mg（5mg1キット）

外　注射　自注　流通

【YJコード】2412402P6027
【薬効分類】2．4．1　脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ソマトロピン（遺伝子組換え）
【メーカー】製）ノボノルディスクファーマ
【薬価】33174円/1kit
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】ヒト成長ホルモン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症
○骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群の低身長
○骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症の低身長
○成人成長ホルモン分泌不全症（重症のみ）
○骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症

2 個々の器官系用医薬品

○骨端線閉鎖を伴わないヌーナン症候群の低身長
注意
成長ホルモン分泌不全性低身長症
1. 適用は，成長ホルモン分泌不全性低身長症のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断の手引き」を参照。
ターナー症候群の低身長
2. 適用基準 染色体検査でターナー症候群と確定診断され，現在の身長が同年齢の（標準値－2SD）以下又は年間の成長速度が2年以上標準値の－1．5SD以下
3. 治療継続基準
1年ごとに下記を判定し，いずれかを満たした時に治療継続
・成長速度≧4．0cm／年
・治療中1年間と治療前1年間の成長速度の差が，≧1．0cm／年
・治療2年目以降で，治療中1年間の成長速度が下記
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
以上のいずれも満たさない時，骨年齢が15歳以上に達した時は投与中止
軟骨異栄養症の低身長
4. 適用基準
現在の身長が同性，同年齢の（標準値－3SD）以下
5. 治療継続基準
1年ごとに下記を判定し，いずれかを満たした時に治療の継続
・成長速度≧4．0cm／年
・治療中1年間と治療前1年間の成長速度の差が，≧1．0cm／年
・治療2年目以降で，治療中1年間の成長速度が下記
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
成人成長ホルモン分泌不全症
6. 成人成長ホルモン分泌不全症と診断された患者のうち，下記のいずれかの患者のみ。重症の基準は，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　成人成長ホルモン分泌不全症の診断と治療の手引き」の病型分類を参照。
（1）．小児期発症型（小児期に成長ホルモン分泌不全症と確定診断されている）は，下記のいずれかを満たすもの。診断は，治療開始前に再度成長ホルモン分泌刺激試験を実施。
・2種類以上の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
・頭蓋内器質性疾患の合併ないし既往，治療歴，周産期異常の既往があり，成長ホルモン含む複数の下垂体ホルモンの分泌低下がある患者では，1種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
（2）．成人期発症型は，頭蓋内器質性疾患の合併ないし既往，治療歴又は周産期異常の既往があり，下記を満たす。
・成長ホルモン含む複数の下垂体ホルモンの分泌低下があり，1種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
・成長ホルモン単独の分泌低下があり，2種類の成長ホルモン分泌刺激試験の血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値が重症の基準を満たす。
[成長ホルモン分泌刺激試験の種類と成人成長ホルモン分泌不全症で重症と診断される血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値]
（表開始）
成長ホルモン分泌刺激試験の種類 重症と診断される血清（血漿）成長ホルモン濃度の頂値
インスリン，アルギニン，グルカゴン 1．8ng／mL以下
GHRP－2 9ng／mL以下
（表終了）
SGA性低身長症
7. 適用基準
下記のいずれの基準も満たすこと。
（1）．出生時
出生時の体重及び身長がともに在胎週数相当の10パーセンタイル未満で，かつ出生時の体重又は身長のいずれかが，在胎週数相当の〔標準値－2SD〕未満。
重症の新生児出生時に身長が測定できないことあり，測定されていない場合は，出生体重で判定。
（2）．治療の開始条件
・3歳以上。
・治療開始時点の身長が同性，同年齢の〔標準値－2．5SD〕未満。
・治療開始前1年間の成長速度が標準成長速度の0SD未満。
（3）．出生後の成長障害が子宮内発育遅延以外の疾患等に起因する患者でないこと。成長障害をもたらすと考えられる治療を受けている患者でないこと。
8. 治療継続基準
1年ごとに下記の基準を判定し，いずれかを満たした時に治療を継続。
・成長速度≧4cm／年。
・治療中1年間と，投与前1年間の成長速度の差が1．0cm／年以上。
・治療2年目以降，増量後の治療中1年間の成長速度が下記。
2年目≧2．0cm／年
3年目以降≧1．0cm／年
二次性徴発来後，年間成長速度が2cmを下回る時，又は骨年齢が男17歳，女15歳以上に達した時は投与中止。
ヌーナン症候群の低身長
9. 適用基準
下記のいずれの基準も満たすこと。
（1）．ヌーナン症候群のみ。診断には，最新の「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業　ヌーナン症候群の診断基準と診療指針」の臨床診断の基準を参照。
（2）．治療の開始条件
・3歳以上。
・身長が同性，同年齢の［標準値－2SD］以下。
10. 治療継続基準
1年ごとに下記の基準を判定し，いずれかを満たした時に治療の継続。
・成長速度　≧4cm／年
・治療中1年間と，投与前1年間の成長速度の差が1．0cm／年以上。
・治療2年目以降，増量後の治療中1年間の成長速度が下記。
2年目　≧2．0cm／年
3年目以降　≧1．0cm／年
骨年齢が男17歳，女15歳以上に達した時は投与中止。
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．175mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．35mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．35mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。
成人成長ホルモン分泌不全症（重症のみ） 開始量 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．021mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。症状により 1週0．084mg／kgまで漸増，週6～7回 分割 皮下注。適宜増減。1日1mgまで。
骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．23mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。効果不十分時 1週0．47mg／kgまで増量 週6～7回 分割 皮下注。
骨端線閉鎖を伴わないヌーナン症候群の低身長 ソマトロピン（遺伝子組換え） 1週0．23mg／kg 週6～7回 分割 皮下注。効果不十分時 1週0．47mg／kgまで増量 週6～7回 分割 皮下注。
（表終了）
注意
成人成長ホルモン分泌不全症
1. 投与量は，血清IGF－I濃度を参照して調整。血清IGF－I濃度は投与開始後24週目までは4週間に1回，以降は12～24週に1回の測定を目安。副作用の発現等には，血清IGF－I濃度を測定し，減量，一時的な投与中止等の処置。
2. 加齢に伴い生理的な成長ホルモンの分泌量や血清IGF－I濃度が低下。本剤による症状の改善がなく，かつ本剤を投与しなくても血清IGF－I濃度が基準範囲内の場合は，投与中止を考慮。
SGA性低身長症
3. 用量の増量時，Δ身長SDスコア，低身長の程度等を考慮して総合的に判断（日本小児内分泌学会／日本未熟児新生児学会，「SGA性低身長症におけるGH治療の実施上の注意」を参照）。
ヌーナン症候群の低身長
4. 用量の増量時，Δ身長SDスコア，低身長の程度等を考慮して総合的に判断（日本小児内分泌学会，「ヌーナン症候群における低身長に対するGH治療の実施上の注意」を参照）。

■禁忌
【禁忌】1．悪性腫瘍。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．O脚の悪化（頻度不明）。
2．痙攣（頻度不明）。
3．甲状腺機能亢進症（頻度不明）。
4．ネフローゼ症候群（頻度不明）（浮腫，尿蛋白，低蛋白血症）。
5．糖尿病（頻度不明）（耐糖能低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒（症），発疹（蕁麻疹，紅斑等）
内分泌　TSH上昇・低下，耐糖能低下 T3値の増加・減少，T4値の増加・減少，甲状腺機能低下症
肝臓　ALT上昇 AST上昇，γ－GTP上昇
消化器　嘔気，嘔吐，腹痛
筋・骨格系 関節痛・下肢痛等の成長痛 筋痛，四肢痛，背部痛 踵骨骨端炎，筋痙縮，筋骨格硬直 大腿骨骨頭壊死，有痛性外脛骨，外骨腫，大腿骨骨頭辷り症，周期性四肢麻痺，側弯症等の脊柱変形の進行，関節硬直
投与部位　注射部位反応（熱感・疼痛・発赤・硬結）皮下脂肪の消失
神経系　倦怠感，頭痛，感覚障害（しびれ，錯感覚，感覚鈍麻等）手根管症候群 頭蓋内圧亢進に伴う乳頭浮腫・視覚異常・頭痛・悪心・嘔吐
その他 浮腫 AI－P上昇 LDH上昇，血清P上昇，蛋白尿，白血球数上昇，遊離脂肪酸上昇，尿潜血・顕微鏡的血尿，好酸球増多 CK（CPK）上昇，ミオグロビン上昇
（表終了）

ミニリンメルトOD錠120μg（120μg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2419001F1023

2 個々の器官系用医薬品

【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】デスモプレシン酢酸塩水和物
【メーカー】製)フェリング・ファーマ 販)キッセイ薬品工業 販)協和キリン
【薬価】114.5円/1T
【薬価収載日】2012/05/29
【標榜薬効】ペプタイド系抗利尿ホルモン用剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．中枢性尿崩症
2．尿浸透圧，尿比重の低下に伴う夜尿症
注意
夜尿症
1．6歳以上の患者に使用。
2．使用前に起床時尿を採取し，夜尿翌朝尿浸透圧の平均値が800mOsm／L以下，尿比重の平均値が1．022以下を目安とし，尿浸透圧，尿比重が低下していることを確認。
中枢性尿崩症
3．多飲・多尿・低比重尿を示す疾患として中枢性尿崩症（バソプレシン感受性尿崩症）・心因性多飲症・腎性尿崩症・高カルシウム血症による多尿症がある。多尿を鑑別し，バソプレシン欠乏による尿崩症のみに使用。
【用法用量】尿浸透圧又は尿比重の低下に伴う夜尿症
1回120μg 1日1回 就寝前 内服。効果不十分時 1回240μg 1日1回 就寝前 内服。
中枢性尿崩症
1回60～120μg 1日1～3回 内服。適宜増減。1回240μg，1日720μgまで。
注意
効能共通
1．低ナトリウム血症を防止するため，低用量から開始。投与量の増量は慎重に行う。
2．食後投与から食前投与に変更時，投与後に血漿中デスモプレシン濃度が高くなり有害事象の発現リスクが上昇する可能性に注意して，患者ごとに食事のタイミングを検討。
3．食直後投与では有効性が得られない可能性，食直後の投与は避ける。
4．夜尿症・中枢性尿崩症治療の水分摂取管理の重要性を考慮し，水なしで飲む。口の中（舌下）に入れると速やかに溶ける。
夜尿症
5．年齢とともに自然に軽快，治癒する傾向あり，定期的（3ヵ月前後）に治療を1～2週間中止し夜尿状況を観察する等，漫然投与しない。
中枢性尿崩症
6．小児の中枢性尿崩症にて本剤60μg投与で過量投与が懸念される時は，デスモプレシン経鼻製剤の使用を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．低ナトリウム血症。
2．習慣性・心因性多飲症（尿生成量が40mL／kg／24時間を超える）。
3．心不全の既往・その疑いがあり利尿薬による治療を要する患者。
4．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群。
5．中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランスが50mL／分未満）。
6．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
重篤な水中毒（頻度不明）（脳浮腫，昏睡，痙攣等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～2%未満 頻度不明
代謝 低ナトリウム血症 浮腫
精神神経系 頭痛 強直性痙攣，眠気，眩暈，不眠，情動障害，攻撃性，悪夢，異常行動
過敏症 全身掻痒感，発疹，顔面浮腫，蕁麻疹
消化器 腹痛 悪心・嘔吐，食欲不振
循環器 顔面蒼白，のぼせ
その他 全身倦怠感，口渇，肝機能異常 発汗，発熱
（表終了）

ミニリンメルトOD錠240μg（240μg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2419001F2020
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】デスモプレシン酢酸塩水和物
【メーカー】製)フェリング・ファーマ 販)キッセイ薬品工業 販)協和キリン
【薬価】186.8円/1T
【薬価収載日】2012/05/29
【標榜薬効】ペプタイド系抗利尿ホルモン用剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．中枢性尿崩症
2．尿浸透圧，尿比重の低下に伴う夜尿症
注意
夜尿症
1．6歳以上の患者に使用。
2．使用前に起床時尿を採取し，夜尿翌朝尿浸透圧の平均値が800mOsm／L以下，尿比重の平均値が1．022以下を目安とし，尿浸透圧，尿比重が低下していることを確認。
中枢性尿崩症
3．多飲・多尿・低比重尿を示す疾患として中枢性尿崩症（バソプレシン感受性尿崩症）・心因性多飲症・腎性尿崩症・高カルシウム血症による多尿症がある。多尿を鑑別し，バソプレシン欠乏による尿崩症のみに使用。
【用法用量】尿浸透圧又は尿比重の低下に伴う夜尿症
1回120μg 1日1回 就寝前 内服。効果不十分時 1回240μg 1日1回 就寝前 内服。
中枢性尿崩症
1回60～120μg 1日1～3回 内服。適宜増減。1回240μg，1日720μgまで。
注意
効能共通
1．低ナトリウム血症を防止するため，低用量から開始。投与量の増量は慎重に行う。
2．食後投与から食前投与に変更時，投与後に血漿中デスモプレシン濃度が高くなり有害事象の発現リスクが上昇する可能性に注意して，患者ごとに食事のタイミングを検討。
3．食直後投与では有効性が得られない可能性，食直後の投与は避ける。
4．夜尿症・中枢性尿崩症治療の水分摂取管理の重要性を考慮し，水なしで飲む。口の中（舌下）に入れると速やかに溶ける。
夜尿症
5．年齢とともに自然に軽快，治癒する傾向あり，定期的（3ヵ月前後）に治療を1～2週間中止し夜尿状況を観察する等，漫然投与しない。
中枢性尿崩症
6．小児の中枢性尿崩症にて本剤60μg投与で過量投与が懸念される時は，デスモプレシン経鼻製剤の使用を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．低ナトリウム血症。
2．習慣性・心因性多飲症（尿生成量が40mL／kg／24時間を超える）。
3．心不全の既往・その疑いがあり利尿薬による治療を要する患者。
4．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群。
5．中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランスが50mL／分未満）。
6．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
重篤な水中毒（頻度不明）（脳浮腫，昏睡，痙攣等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～2%未満 頻度不明
代謝 低ナトリウム血症 浮腫
精神神経系 頭痛 強直性痙攣，眠気，眩暈，不眠，情動障害，攻撃性，悪夢，異常行動
過敏症 全身掻痒感，発疹，顔面浮腫，蕁麻疹
消化器 腹痛 悪心・嘔吐，食欲不振
循環器 顔面蒼白，のぼせ
その他 全身倦怠感，口渇，肝機能異常 発汗，発熱
（表終了）

ミニリンメルトOD錠60μg（60μg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】2419001F3026
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】デスモプレシン酢酸塩水和物
【メーカー】製)フェリング・ファーマ 販)キッセイ薬品工業 販)協和キリン
【薬価】63.2円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】ペプタイド系抗利尿ホルモン用剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】中枢性尿崩症
注意
中枢性尿崩症
多飲・多尿・低比重尿を示す疾患として中枢性尿崩症（バソプレシン感受性尿崩症）・心因性多飲症・腎性尿崩症・高カルシウム血症による多尿症がある。多尿を鑑別し，バソプレシン欠乏による尿崩症のみに使用。
【用法用量】中枢性尿崩症
1回60～120μg 1日1～3回 内服。適宜増減。1回240μg，1日720μgまで。

2 個々の器官系用医薬品

注意
効能共通
1. 低ナトリウム血症を防止するため，低用量から開始。投与量の増量は慎重に行う。
2. 食後投与から食前投与に変更時，投与後に血漿中デスモプレシン濃度が高くなり有害事象の発現リスクが上昇する可能性に注意して，患者ごとに食事のタイミングを検討。
3. 食直後投与では有効性が得られない可能性，食直後の投与は避ける。
4. 夜尿症・中枢性尿崩症治療の水分摂取管理の重要性を考慮し，水なしで飲む。口の中（舌下）に入れると速やかに溶ける。
中枢性尿崩症
6. 小児の中枢性尿崩症にて本剤60μg投与で過量投与が懸念される時は，デスモプレシン経鼻製剤の使用を考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 低ナトリウム血症。
2. 習慣性・心因性多飲症（尿生成量が40mL／kg／24時間を超える）。
3. 心不全の既往・その疑いがあり利尿薬による治療を要する患者。
4. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群。
5. 中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランスが50mL／分未満）。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重篤な水中毒（頻度不明）（脳浮腫，昏睡，痙攣等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～2%未満 頻度不明
代謝 低ナトリウム血症 浮腫
精神神経系 頭痛 強直性痙攣，眠気，眩暈，不眠，情動障害，攻撃性，悪夢，異常行動
過敏症 全身掻痒感，発疹，顔面浮腫，蕁麻疹
消化器 腹痛 悪心・嘔吐，食欲不振
循環器 顔面蒼白，のぼせ
その他 全身倦怠感，口渇，肝機能異常 発汗，発熱
（表終了）

2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤

5mcgチロナミン錠（5μg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2431003F1035
【薬効分類】2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】リオチロニンナトリウム
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】10.1円/1T
【標榜薬効】甲状腺ホルモン剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】○粘液水腫
○クレチン症
○甲状腺機能低下症（原発性・下垂体性）
○慢性甲状腺炎
○甲状腺腫
【用法用量】成人 初回量 1日5～25μg 内服。1～2週間隔で漸増。
維持量 1日25～75μg。適宜増減。
注意
効能共通
1. 他の甲状腺ホルモン製剤より効果の発現が早く持続が短い点を考慮。
甲状腺機能低下症（原発性・下垂体性），粘液水腫
2. 甲状腺機能低下症・粘液水腫 少量から開始し，漸増して維持量とする。

■禁忌
【禁忌】新鮮な心筋梗塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明）。
2. 狭心症，うっ血性心不全（各頻度不明）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇，発熱，倦怠感等），黄疸（各頻度不明）。
4. 副腎クリーゼ（頻度不明）（全身倦怠感，血圧低下，尿量低下，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
肝臓 AST，ALT，γ－GTPの上昇
循環器 心悸亢進，脈拍増加，不整脈
精神神経系 振戦，不眠，頭痛，眩暈，発汗，神経過敏・興奮・不安感・躁うつ等の精神症状
消化器 食欲不振，嘔吐，下痢
その他 筋肉痛，月経障害，体重減少，脱力感，皮膚の潮紅
（表終了）

テリボン皮下注28．2μgオートインジェクター（28．2μg1キット）
外 注射 自注 流通

【YJコード】2439401G1024
【薬効分類】2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】テリパラチド酢酸塩
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】5995円/1kit
【薬価収載日】2019/11/27
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨折の危険性の高い骨粗鬆症
注意
低骨密度，既存骨折，加齢，大腿骨頸部骨折の家族歴等の骨折の危険因子を有する患者が対象。
【用法用量】成人 テリパラチド 28．2μg 1日1回 週2回 皮下注。投与は24ヵ月間まで。
注意
1. 投与間隔は3～4日間隔とする。
2. 投与期間の上限を超えた時の安全性・有効性は未確立，投与期間の上限を守る。
3. 一時中断後の再投与でも，投与の合計が24ヵ月（208回）を超えない。投与終了後，再度24ヵ月（208回）の投与を繰り返さない。
4. テリパラチド（遺伝子組換え）製剤から本剤に切りかえた経験はなく，安全性は未確立，投与期間の上限は未検討。
5. アバロパラチド製剤から本剤に切りかえた経験はなく，安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 下記の骨肉腫発生のリスクが高い患者
（1）．骨ページェット病。
（2）．原因不明のAI－P高値。
（3）．小児等・若年者で骨端線が閉じていない。
（4）．骨への影響が考えられる放射線治療の既往。
2. 高カルシウム血症。
3. 原発性の悪性骨腫瘍，転移性骨腫瘍。
4. 骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患（副甲状腺機能亢進症等）。
5. 本剤の成分・テリパラチド（遺伝子組換え）に過敏症の既往。
6. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー（頻度不明）。
2. ショック（頻度不明），意識消失（頻度不明）（一過性の急激な血圧低下，心停止，呼吸停止）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 悪心，嘔吐 腹部不快感，消化不良，食欲減退，便秘，下痢，腹痛，逆流性食道炎，口腔内不快感，口渇，虚血性大腸炎，口唇腫脹 胃炎，胃潰瘍，腹部膨満，流涎過多，裂孔ヘルニア，おくび，味覚異常，口内乾燥，心窩部不快感，口角口唇炎，口内炎
精神神経系 頭痛 眩暈，傾眠，頭部不快感，感覚鈍麻（四肢，顔，口のしびれ感等） 不眠症，振戦，鎮静，感情不安定，注意力低下，記憶障害，耳鳴，灼熱感，痙攣
眼 眼瞼浮腫 眼瞼下垂，視力障害，結膜充血，眼痛，霧視
腎臓 血中クレアチニン増加，尿中血陽性，頻尿 BUN上昇，腎機能障害，尿中蛋白陽性，慢性腎炎
循環器 血圧低下，血圧上昇，動悸，徐脈，不整脈 起立性低血圧，上室性頻脈，心室性期外収縮，心電図異常，狭心痛，潮紅，蒼白，洞結節機能不全，心房細動
過敏症 紅斑 発疹，蕁麻疹，掻痒症，アレルギー性結膜炎，アレルギー性鼻炎
肝臓 肝機能障害，AI－P上昇，ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇
代謝異常 高尿酸血症，高カルシウム血症 CK上昇，血中リン減少，AI－P低下，アルブミン・グロブリン比減少，血中カリウム減少，血中カリウム増加，血中カルシウム増加，血中クロール減少，血中クロール増加，血中コレステロール増加，血中ナトリウム減少，血中ブドウ糖増加，脱水
血液 貧血 好酸球増加，好中球減少，リンパ球増加，血小板減少，好塩基球増加，好酸球減少，好中球増加，赤血球減少，単球減少，白血球減少，白血球増加，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，リンパ球減少
呼吸器 息詰まり感，咳嗽，喘息，鼻漏，副鼻腔炎，咽頭不快感
筋骨格 関節痛 筋骨格硬直，肩の石灰化腱炎，背部痛，四肢痛，四肢不快感，筋緊張，筋力低下，頚部痛，筋肉痛，骨痛，筋痙縮
投与部位 注射部位出血 注射部位疼痛，注射部位紅斑，注射部位血

2 個々の器官系用医薬品

腫，注射部位反応 注射部位腫脹，注射部位不快感
その他 倦怠感 異常感（全身違和感，気分不良等），発熱，悪寒，あくび，脱力感 胸部不快感，胸痛，多汗症，浮腫，熱感，甲状腺腫，自己免疫性甲状腺炎，リンパ節炎，末梢冷感，インフルエンザ様疾患，胆石症，皮下結節，皮下出血，尿中ウロビリン陽性，尿中ビリルビン増加，脱毛，疼痛，冷感，体重減少
（表終了）

フォルテオ皮下注キット600μg（600μg1キット）

外 注射 自注 流通

【YJコード】2439400G1020
【薬効分類】2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】テリパラチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】24063円/1kit
【薬価収載日】2010/09/17
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨折の危険性の高い骨粗鬆症
注意
低骨密度，既存骨折，加齢，大腿骨頸部骨折の家族歴等の骨折の危険因子を有する患者が対象。
【用法用量】成人 1回20μg 1日1回 皮下注。
投与は24ヵ月間まで。
注意
1．投与期間の上限を超えた時の安全性は未確立，投与期間の上限を守る。
2．一時中断後の再投与でも，投与日数の合計が24ヵ月を超えない。投与終了後，再度24ヵ月の投与を繰り返さない。
3．テリパラチド酢酸塩製剤から本剤に切りかえた臨床試験は未実施，安全性は未確立，投与期間の上限は未検討。
4．アバロパラチド製剤から本剤に切りかえた臨床試験は未実施，安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．高カルシウム血症。
2．下記の骨肉腫発生のリスクが高い患者
（1）．骨ページェット病。
（2）．原因不明のAl－P高値。
（3）．小児等・若年者で骨端線が閉じていない。
（4）．骨への影響が考えられる放射線治療の既往。
3．原発性の悪性骨腫瘍，転移性骨腫瘍。
4．骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患（副甲状腺機能亢進症等）。
5．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
6．本剤の成分・テリパラチド酢酸塩に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，発疹等）。
2．ショック（頻度不明），一過性の急激な血圧低下に伴う意識消失（頻度不明），心停止，呼吸停止。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心，上腹部痛 腹部不快感，嘔吐，口渇 食欲不振，胃炎
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈，体位性眩暈，傾眠 痙攣，神経過敏
筋・骨格系 筋痙縮 関節痛，関節炎，筋肉痛，四肢痛
内分泌・代謝系 血中尿酸上昇，高尿酸血症，Al－P上昇 血中カリウム上昇 高カルシウム血症
循環器 血圧低下，動悸 心電図ST部分下降，心電図T波振幅減少
皮膚 発疹 掻痒症，紅斑
腎臓 血中クレアチニン上昇，血中尿素上昇 腎結石症 頻尿
呼吸器 呼吸困難
眼 結膜出血
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇）
血液 白血球数増加
注射部位 注射部位反応（紅斑，血腫，疼痛，硬結，掻痒感，変色，腫脹等）
過敏症 口腔粘膜浮腫，顔面浮腫，全身性蕁麻疹
その他 脱力感 胸痛，背部痛，胸部不快感，ほてり，倦怠感，熱感
（表終了）

2．4．5 副腎ホルモン剤

エピペン注射液0．15mg（0．15mg1筒）

外 注射 自注 流通
劇

【YJコード】2451402G2020
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】アドレナリン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ファイザー販)マイラン製薬
【薬価】9673円/1筒
【薬価収載日】2011/09/22
【標榜薬効】アナフィラキシー補助治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】蜂毒，食物，薬物等に起因するアナフィラキシー反応へ補助治療（アナフィラキシーの既往，アナフィラキシーを発現する危険性の高い人のみ）
注意
1．アナフィラキシー反応は，病状が進行性であり，初期症状（しびれ感，違和感，口唇の浮腫，気分不快，吐気，嘔吐，腹痛，蕁麻疹，咳込み等）が患者により異なることあり，交付時，過去のアナフィラキシー発現の有無，初期症状等を聴取，注射時期について患者，保護者・代諾者に指導。
2．注射時期は，下記を参考とし，注射時期を遺失しないよう注意。
・初期症状が発現し，ショック症状が発現する前の時点。
・過去にアナフィラキシーをおこしたアレルゲンを誤って摂取し，明らかな異常症状を感じた時点。
3．本剤は心筋酸素需要を増加させるため，心原性・出血性・外傷性ショック時で使用しない。
【用法用量】アドレナリン 0．15mg又は0．3mg（推奨量 アドレナリン0．01mg／kg） 筋注。
注意
1．成人は0．3mg製剤，小児は体重に応じて0．15mg製剤又は0．3mg製剤を使用。
2．0．01mg／kgを超える用量，体重15kg未満の患者に本剤0．15mg製剤，体重30kg未満の患者に本剤0．3mg製剤を投与すると，過量のおそれ，副作用等に注意し，本剤以外のアドレナリン製剤も考慮，0．01mg／kg以上を投与する必要性は，救命を最優先し，慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】イソプレナリン，ノルアドレナリン等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者（蘇生等の緊急時以外）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
2．呼吸困難（頻度不明）。
3．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，胸内苦悶，不整脈，顔面潮紅・蒼白，血圧異常上昇
精神神経系 頭痛，眩暈，不安，振戦
過敏症 過敏症状等
消化器 悪心・嘔吐
その他 熱感，発汗
（表終了）

エピペン注射液0．3mg（0．3mg1筒）

外 注射 自注 流通
劇

【YJコード】2451402G3026
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】アドレナリン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ファイザー販)マイラン製薬
【薬価】10203円/1筒
【薬価収載日】2011/09/22
【標榜薬効】アナフィラキシー補助治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】蜂毒，食物，薬物等に起因するアナフィラキシー反応へ補助治療（アナフィラキシーの既往，アナフィラキシーを発現する危険性の高い人のみ）
注意
1．アナフィラキシー反応は，病状が進行性であり，初期症状（しびれ感，違和感，口唇の浮腫，気分不快，吐気，嘔吐，腹痛，蕁麻疹，咳込み等）が患者により異なることあり，交付時，過去のアナフィラキシー発現の有無，初期症状等を聴取，注射時期について患者，保護者・代諾者に指導。
2．注射時期は，下記を参考とし，注射時期を遺失しないよう注意。
・初期症状が発現し，ショック症状が発現する前の時点。
・過去にアナフィラキシーをおこしたアレルゲンを誤って摂取し，明らかな異常症状を感じた時点。
3．本剤は心筋酸素需要を増加させるため，心原性・出血性・外傷性ショック時で使用しない。
【用法用量】アドレナリン 0．15mg又は0．3mg（推奨量 アドレナリン0．01mg／kg） 筋注。
注意
1．成人は0．3mg製剤，小児は体重に応じて0．15mg製剤又は0．3mg製剤を使用。
2．0．01mg／kgを超える用量，体重15kg未満の患者に本剤0．15

2 個々の器官系用医薬品

mg製剤，体重30kg未満の患者に本剤0．3mg製剤を投与すると，過量のおそれ，副作用等に注意し，本剤以外のアドレナリン製剤も考慮，0．01mg／kg以上を投与する必要性は，救命を最優先し，慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】イソプレナリン，ノルアドレナリン等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者（蘇生等の緊急時以外）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
2．呼吸困難（頻度不明）。
3．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，胸内苦悶，不整脈，顔面潮紅・蒼白，血圧異常上昇
精神神経系 頭痛，眩暈，不安，振戦
過敏症 過敏症状等
消化器 悪心・嘔吐
その他 熱感，発汗
（表終了）

コートン錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2452001F1036
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】コルチゾン酢酸エステル
【メーカー】製）日医工 販）MSD
【薬価】15.6円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性），急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ），副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む），リウマチ熱（リウマチ性心炎含む）
○エリテマトーデス（全身性・慢性円板状）
○ネフローゼ，ネフローゼ症候群
○気管支喘息，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む），血清病
○重症感染症（化学療法と併用）
○溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性・血小板非減少性），再生不良性貧血
○限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
○重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）
○慢性肝炎（活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型）（一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ），肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの）
○サルコイドーシス（両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く），びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）
○肺結核（粟粒結核，重症結核のみ）（抗結核剤と併用），結核性髄膜炎（抗結核剤と併用）
○脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用），末梢神経炎（ギランバレー症候群含む），小舞踏病，顔面神経麻痺
○悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患）
○特発性低血糖症
○副腎摘除，副腎皮質機能不全への外科的侵襲
○★湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない），蕁麻疹（慢性例除く）（重症例のみ），★乾癬・類症〔尋常性乾癬（重症例），乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，紅斑症（★多形滲出性紅斑（重症例のみ），結節性紅斑），粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない時），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡），デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹含む），★紅皮症（ヘブラ紅色粃糠疹含む）
○内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎）
○アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱）
★印 外用剤で効果不十分時のみ使用
【用法用量】成人 1日12．5～150mg 1日1～4回 分割 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪（各頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（各頻度不明）。
3．消化性潰瘍，膵炎（各頻度不明）。
4．精神変調，うつ状態，痙攣（各頻度不明）。
5．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（各頻度不明）。
6．緑内障，後嚢白内障（各頻度不明）。
7．血栓症（頻度不明）。
8．腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
過敏症 発疹
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減
（表終了）

ステロネマ注腸3mg（3．95mg1個）

外 外用 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2454701X1033
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製）日医工
【薬価】319.5円/1個
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ディスポーザブルステロイド注腸剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
【用法用量】成人 1回1～2個（ベタメタゾン 3～6mg） 直腸内注入。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
3．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
4．消化管潰瘍，消化管穿孔（頻度不明）。
5．膵炎（頻度不明）。
6．精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
7．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
8．緑内障，後嚢白内障（頻度不明）。
9．血栓症（頻度不明）。
10．喘息発作の増悪（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
内分泌系 月経異常，クッシング症候群様症状等
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進等
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈等

2 個々の器官系用医薬品

投与部位 局所的刺激症状(排便感増強，熱感等)
筋・骨格 筋肉痛，関節痛等
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝等
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス等
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出等
血液 白血球増多等
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，脂肪織炎等
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減，創傷治癒障害，皮膚・結合組織の菲薄化・脆弱化，しゃっくり
(表終了)

デカドロン錠4mg（4mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2454002F3020
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】デキサメタゾン
【メーカー】製)日医工
【薬価】25.3円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性)，急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)，副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，下垂体抑制試験
○関節リウマチ，若年性関節リウマチ(スチル病含む)，リウマチ熱(リウマチ性心炎含む)，リウマチ性多発筋痛
○エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)，全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)，多発性筋炎(皮膚筋炎)，強皮症
○ネフローゼ，ネフローゼ症候群
○うっ血性心不全
○気管支喘息，喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む)，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む)，血清病
○重症感染症(化学療法と併用)
○溶血性貧血(免疫性，免疫性機序の疑い)，白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血
○限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
○重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む)
○劇症肝炎(重症含む)，胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎(活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ)，肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの)
○サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く)，びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)
○肺結核(粟粒結核，重症結核のみ)(抗結核剤と併用)，結核性髄膜炎(抗結核剤と併用)，結核性胸膜炎(抗結核剤と併用)，結核性腹膜炎(抗結核剤と併用)，結核性心嚢炎(抗結核剤と併用)
○脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)，筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症(視束脊髄炎含む)，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
○悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患)，好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
○抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
○特発性低血糖症
○原因不明の発熱
○副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲
○蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)
○強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
○卵管整形術後の癒着防止
○前立腺癌(他の療法無効時)，陰茎硬結
○★湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない)，★痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)，蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，★乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，★掌蹠膿疱症(重症例のみ)，★扁平苔癬(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症(★多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑)，IgA血管炎(重症例のみ)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，レイノー病，★円形脱毛症(悪性型のみ)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，先天性表皮水疱症，帯状疱疹(重症例のみ)，★紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)，顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ)，アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む)，潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレーマ
○内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)，眼科の術後炎症
○急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，耳鼻咽喉科の術後の後療法
○難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)
○嗅覚障害，急性・慢性(反復性)唾液腺炎
○全身性ALアミロイドーシス
★ 外用剤で効果不十分時のみ使用
注意
下垂体抑制試験
デキサメタゾン抑制試験の実施前に褐色細胞腫・パラガングリオーマの合併の有無を確認。合併があれば，褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療を優先。
【用法用量】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
成人 1日4～20mg 1日1～2回 分割 内服。
1日最大20mg。
全身性ALアミロイドーシス
他剤との併用 成人 1日40mg 1，8，15，22日目 内服。28日を1サイクルとし最大6サイクルまで繰り返す。
上記以外
成人 1日0．5～8mg 1日1～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の使用患者
デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)，リルピビリン，リルピビリン塩酸塩・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン，リルピビリン塩酸塩・ドルテグラビルナトリウム。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪(各頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(各頻度不明)。
3．消化性潰瘍，消化管穿孔，膵炎(各頻度不明)。
4．精神変調，うつ状態，痙攣(各頻度不明)。
5．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー，脊椎圧迫骨折，長骨の病的骨折(各頻度不明)。
6．緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
7．血栓塞栓症(頻度不明)。
8．腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進，便秘
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈，振戦，末梢性感覚ニューロパチー，激越，傾眠
筋・骨格 筋肉痛，関節痛，関節腫脹
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス，低ナトリウム血症，高カリウム血症
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多，好中球減少症，血小板減少症，白血球減少症
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎，皮膚乾燥
過敏症 発疹
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，頻尿，体重増加，精子数・その運動性の増減，しゃっくり，発声障害，咳嗽，動悸，耳鳴
(表終了)

プレドネマ注腸20mg（20mg1個）

外 外用 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2456700X1025
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】プレドニゾロンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製)杏林製薬 販)日清キョーリン製薬
【薬価】384.9円/1個
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎・限局性腸炎治療剤

■効能効果・用法用量

2 個々の器官系用医薬品

【効能効果】潰瘍性大腸炎，限局性腸炎
【用法用量】成人 1回22mg(プレドニゾロンリン酸エステル 20mg)注腸(直腸内注入)。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪(各頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(各頻度不明)。
3. 消化管潰瘍，消化管穿孔，消化管出血(各頻度不明)。
4. 膵炎(頻度不明)。
5. 精神変調，うつ状態，痙攣(各頻度不明)。
6. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー(各頻度不明)。
7. 緑内障，後嚢白内障，中心性漿液性網脈絡膜症，多発性後極部網膜色素上皮症(各頻度不明)。
8. 血栓症(頻度不明)。
9. 心筋梗塞，脳梗塞，動脈瘤(各頻度不明)。
10. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
11. 喘息発作(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常，クッシング症候群様症状等
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
投与部位 局所的刺激症状
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 網膜障害，眼球突出等
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，脂肪織炎
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減，尿路結石，創傷治癒障害，皮膚・結合組織の菲薄化・脆弱化
(表終了)

フロリネフ錠0．1mg（0．1mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2452003F1035
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】フルドロコルチゾン酢酸エステル
【メーカー】製)サンドファーマ 販)サンド 販)ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】207.5円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成鉱質コルチコイド剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○塩喪失型先天性副腎皮質過形成症
○塩喪失型慢性副腎皮質機能不全(アジソン病)
【用法用量】1日0．02～0．1mg 1日2～3回 分割 内服。
新生児，乳児 0．025～0．05mgから開始。
適宜増減。
注意
年齢で感受性が変化，新生児・乳児期から血清電解質，レニン活性，血圧等を定期的に測定し，至適投与量に注意。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症(頻度不明)，感染症の増悪(頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全(頻度不明)，糖尿病(頻度不明)。
3. 消化性潰瘍(頻度不明)，膵炎(頻度不明)。
4. 精神変調(頻度不明)，うつ状態(頻度不明)，痙攣(頻度不明)。
5. 骨粗鬆症(頻度不明)，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死(頻度不明)，ミオパシー(頻度不明)。
6. 緑内障(頻度不明)，後嚢白内障(頻度不明)。
7. 血栓症。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 悪心・嘔吐，腹部膨満感 下痢，胃痛，胸やけ，口渇，食欲亢進
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌 野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 血圧上昇(16．4%)，高ナトリウム血症(14．0%) 浮腫，低カリウム血症 低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
過敏症 発疹
その他 発熱，疲労感，息切れ，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減
(表終了)

リンデロン坐剤1．0mg（1mg1個）

外 外用 流通
ハイリスク

【YJコード】2454700J2024
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾン
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】51.3円/1個
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】潰瘍性大腸炎(直腸炎型)
【用法用量】初期量 1日0．5～2mg 1日1～2回 分割 直腸内挿入。
以後，漸減。適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪(頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(頻度不明)。
3. 消化管潰瘍，消化管穿孔(頻度不明)。
4. 膵炎(頻度不明)。
5. 精神変調，うつ状態，痙攣(頻度不明)。
6. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー(頻度不明)。
7. 緑内障，後嚢白内障(頻度不明)，眼圧亢進。
8. 血栓症(頻度不明)。

リンデロン錠0．5mg（0．5mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2454004F2090
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾン
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2007/06/15
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○内科・小児科
(1)．内分泌疾患 慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性)，急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)，副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症[甲状腺(中毒性)クリーゼ]，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，下垂体抑制試験
(2)．リウマチ疾患 関節リウマチ，若年性関節リウマチ(スチル病含む)，リウマチ熱(リウマチ性心炎含む)，リウマチ性多発筋痛
(3)．膠原病 エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)，全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)，多発性筋炎(皮膚筋炎)，強皮症
(4)．腎疾患 ネフローゼ，ネフローゼ症候群
(5)．心疾患 うっ血性心不全
(6)．アレルギー性疾患 気管支喘息，喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む)，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む)，血清病
(7)．重症感染症 重症感染症(化学療法と併用)
(8)．血液疾患 溶血性貧血(免疫性，免疫性機序の疑い)，白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減

2 個々の器官系用医薬品

少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因
(9)．消化器疾患 限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
(10)．重症消耗性疾患 重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む)
(11)．肝疾患 劇症肝炎(重症含む)，胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎(活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ)，肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの)
(12)．肺疾患 サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く)，びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)
(13)．結核性疾患(抗結核剤と併用) 肺結核(粟粒結核，重症結核のみ)，結核性髄膜炎，結核性胸膜炎，結核性腹膜炎，結核性心嚢炎
(14)．神経疾患 脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)，筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症(視束脊髄炎含む)，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
(15)．悪性腫瘍 悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患)，好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
(16)．その他の内科的疾患 特発性低血糖症，原因不明の発熱
〇外科
副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)
〇整形外科
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
〇産婦人科
卵管整形術後の癒着防止，副腎皮質機能障害による排卵障害
〇泌尿器科
前立腺癌(他の療法無効時)，陰茎硬結
〇皮膚科
△印 外用剤で効果不十分時のみ使用
△湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない)，△痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)，蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，△乾癬・類症[尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群]，△類乾癬(重症例のみ)，△掌蹠膿疱症(重症例のみ)，△毛孔性紅色粃糠疹(重症例のみ)，△扁平苔癬(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症[△多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑]，IgA血管炎(重症例のみ)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群[開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍]，レイノー病，△円形脱毛症(悪性型のみ)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，先天性表皮水疱症，帯状疱疹(重症例のみ)，△紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)，顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ)，アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む)，潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ
〇眼科
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)，眼科の術後炎症
〇耳鼻咽喉科
急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病，メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，食道の炎症(腐蝕性食道炎，直達鏡使用後)・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法，難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)，嗅覚障害，急性・慢性(反復性)唾液腺炎
注意
下垂体抑制試験
実施前に褐色細胞腫・パラガングリオーマの合併の有無を確認。合併があれば，褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療を優先。
【用法用量】成人　1日0．5～8mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪(頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(頻度不明)。
3．消化管潰瘍，消化管穿孔(頻度不明)。
4．膵炎(頻度不明)。
5．精神変調，うつ状態，痙攣(頻度不明)。
6．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー(頻度不明)。
7．緑内障，後嚢白内障(頻度不明)，眼圧亢進。
8．血栓症(頻度不明)。

2．4．7　卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤

エストリール錠1mg＊(持田)(1mg1錠)
外　内服　流通

【YJコード】2475001F3033
【薬効分類】2．4．7　卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】エストリオール
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】10.6円/1T
【標榜薬効】卵胞ホルモン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】更年期障害，腟炎(老人，小児，非特異性)，子宮頸管炎，子宮腟部糜爛，老人性骨粗鬆症
【用法用量】更年期障害，腟炎(老人，小児，非特異性)，子宮頸管炎，子宮腟部糜爛
成人　1回0．1～1mg　1日1～2回　内服。適宜増減。
老人性骨粗鬆症
1回1mg　1日2回　内服。適宜増減。
注意
老人性骨粗鬆症
投与後6ヵ月～1年後に骨密度を測定し，効果なければ投与中止し，他の療法を考慮。

■禁忌
【禁忌】1．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・その疑い。
2．乳癌の既往。
3．未治療の子宮内膜増殖症。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
5．動脈性の血栓塞栓疾患(例 冠動脈性心疾患，脳卒中)・その既往。
6．重篤な肝障害。
7．診断未確定の異常性器出血。
8．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等
子宮 不正出血，帯下増加
乳房 乳房痛，乳房緊満感等
肝臓 AST・ALTの上昇等
消化器 悪心，食欲不振等 嘔吐
その他 眩暈，脱力感，全身熱感，体重増加
(表終了)

エフメノカプセル100mg(100mg1カプセル)
外　内服　流通

【YJコード】2477001M1026
【薬効分類】2．4．7　卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】プロゲステロン
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】229.3円/1C
【薬価収載日】2021/11/25
【標榜薬効】天然型黄体ホルモン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】更年期障害・卵巣欠落症状への卵胞ホルモン剤投与時の子宮内膜増殖症の発症抑制
注意
子宮のない患者に投与しない。
【用法用量】卵胞ホルモン剤との併用　下記のいずれかを選択。
・卵胞ホルモン剤の投与開始日　1回100mg　1日1回　就寝前　内服。
・卵胞ホルモン剤の投与開始日を1日目，卵胞ホルモン剤の投与15～28日目　1回200mg　1日1回　就寝前　内服。これを1周期とし，以後繰り返す。
注意
食後に投与時，Cmax・AUC上昇の報告あり。食後の服用は避ける。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 診断未確定の性器出血。
3. 重度の肝機能障害。
4. 乳癌の既往・疑い。
5. 生殖器癌の既往・疑い。
6. 動脈・静脈の血栓塞栓症，重度の血栓性静脈炎・既往。
7. 脳出血。
8. ポルフィリン症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓症（頻度不明）（心筋梗塞，脳血管障害，動脈・静脈の血栓塞栓症（静脈血栓塞栓症，肺塞栓症），血栓性静脈炎，網膜血栓症）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 頻度不明
心臓障害 動悸，右脚ブロック，洞性不整脈
耳・迷路障害 回転性眩暈
眼障害 眼充血，眼瞼皮膚乾燥 視覚障害
胃腸障害 下腹部痛，腹部膨満，便秘，悪心，腹部不快感 上腹部痛，腹痛，軟便，下痢，口唇乾燥，口腔内不快感，痔核，舌痛 嘔吐
肝胆道系障害 胆汁うっ滞性黄疸
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 異常感，口渇，顔面浮腫，胸痛，胸部不快感，倦怠感，熱感，発熱，末梢腫脹
感染症・寄生虫症 外陰部腟カンジダ症，毛包炎
臨床検査 AI－P上昇，CK上昇，脂質増加，白血球数増加，γ－GTP増加
代謝・栄養障害 食欲減退，食欲亢進
筋骨格系・結合組織障害 背部痛 関節腫脹，四肢不快感
良性，悪性，詳細不明の新生物（嚢胞・ポリープ含む） 子宮平滑筋腫
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，傾眠 感覚鈍麻，神経痛，注意力障害，頭部不快感
精神障害 抑うつ気分 うつ病
腎・尿路障害 夜間頻尿
生殖系・乳房障害 不正子宮出血（33．5%），乳房不快感，腟分泌物，乳房痛，外陰腟掻痒症 子宮頚管ポリープ，乳房圧痛，線維嚢胞性乳腺疾患，子宮ポリープ，子宮頚管分泌，性器分泌物，乳頭痛
呼吸器，胸郭・縦隔障害 口腔咽頭痛，鼻乾燥
皮膚・皮下組織障害 掻痒症，湿疹，アレルギー性皮膚炎，紅斑，ざ瘡，脂漏性皮膚炎，蕁麻疹，日光皮膚炎，発疹 肝斑
免疫系障害 アナフィラキシー反応
血管障害 高血圧
（表終了）

ディビゲル1mg（1mg1包）
外 外用 流通

【YJコード】2473700M1020
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】エストラジオール
【メーカー】製)オリオンファーマ・ジャパン 販)サンファーマ 販)持田製薬
【薬価】34.3円/1包
【薬価収載日】2007/09/21
【標榜薬効】経皮吸収エストラジオール製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗）
〇生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
〇凍結融解胚移植のホルモン補充周期
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，凍結融解胚移植のホルモン補充周期
本剤含む卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整・ホルモン補充周期で凍結融解胚移植を行った時，開始時期の調整を行わない時・自然排卵周期で凍結融解胚移植を行った時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性・危険性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗）
成人 1回1包 1日1回 左右いずれかの大腿部又は下腹部 約400cm2の範囲に塗布。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1回1包 1日1回 21～28日間 左右いずれかの大腿部又は下腹部 約400cm2の範囲に塗布 投与期間の後半に黄体ホルモン剤併用。
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
1回2～4包 1日2回 左右いずれかの大腿部又は下腹部 1包あたり約400cm2の範囲に塗布 子宮内膜の肥厚が得られたら，黄体ホルモン剤併用を開始，妊娠8週まで投与継続。
注意
効能共通
1．副作用等により減量が必要と判断された時，本剤には低用量製剤がないので，使用中止等の処置。
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
2．妊娠成立後の投与期間は，予想されるリスクと状態を考慮して慎重判断し，漫然投与継続せず，最長妊娠10週まで。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．乳癌の既往。
3．未治療の子宮内膜増殖症。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
5．動脈性の血栓塞栓疾患（例 冠動脈性心疾患，脳卒中）・その既往。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．授乳婦。
8．重篤な肝障害。
9．診断未確定の異常性器出血。
10．ポルフィリン症で急性発作の既往。
更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
11．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）。
2．静脈血栓塞栓症，血栓性静脈炎（各頻度不明）（下肢の疼痛・浮腫，胸痛，突然の息切れ，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 頻度不明
皮膚 塗布部位 紅斑（11．9%），掻痒感 刺激感，熱感 皮膚炎，色素沈着，塗布部位反応，湿疹，発疹，不快感 皮膚刺激感，掻痒感，ざ瘡，肝斑，多汗症，腫脹
皮膚 塗布部位以外 ざ瘡，湿疹，紅斑，皮下出血 皮膚刺激感，掻痒感，ざ瘡，肝斑，多汗症，腫脹
生殖器 子宮出血（27．4%），帯下（10．7%） 子宮内膜肥厚，子宮筋腫，外陰部掻痒感 腟出血，外陰腟不快感，子宮体部細胞診異常 子宮内膜症，子宮癌，子宮頚管ポリープ
乳房 乳房緊満感（14．7%） 乳房痛，乳頭痛 乳房腫瘤，乳汁様分泌物，乳腺症，乳房良性腫瘍 乳癌
精神神経系 頭痛 顔面痙攣，眩暈，不眠 片頭痛，うつ病，攻撃性，回転性眩暈，感覚減退
循環器 血圧上昇，高血圧，動悸 上行大動脈の拡張，肺塞栓症，大脳血栓症，狭心症，不整脈
消化器 下腹部痛，悪心，便秘 胃炎，萎縮性胃炎，胃ポリープ，結腸ポリープ，腹部不快感，胃不快感，腹部膨満感，腹痛，口唇炎 嘔吐，胃痙攣
電解質代謝 カリウム低下 顔面浮腫，眼瞼浮腫，全身浮腫
過敏症 全身の掻痒，発疹 蕁麻疹 斑状発疹，過敏症
肝臓 胆石症，胆嚢炎，脂肪肝，AI－P上昇，ALT上昇，AST上昇 肝機能・胆汁流量の変化
呼吸器系 鼻出血
泌尿器系 乏尿
その他 トリグリセリド上昇，体重の増加，背部痛 関節痛，四肢痛，筋骨格硬直，腋窩痛，高脂血症，倦怠感，白血球数減少，貧血，ヘモグロビン減少，フィブリノーゲン増加，総コレステロール上昇，トリグリセリド低下，HDL上昇，血糖値上昇 胸痛，リビドーや気分の変化，急性膵炎，疲労感，ほてり
（表終了）

デュファストン錠5mg（5mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2478003F1031
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】ジドロゲステロン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)第一三共
【薬価】24.8円/1T
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】レトロ・プロゲステロン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】無月経，月経周期異常（稀発月経，多発月経），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，月経困難症，機能性子宮出血，黄体機能不全による不妊症，子宮内膜症，切迫流早産，習慣性流早産，調節卵巣刺激下の早発排卵の防止，生殖補助医療の黄体補充
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1．本剤含む黄体ホルモン剤と卵胞ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性を考慮し慎重に判断。
調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
2．新鮮胚移植を予定していない時のみ使用。
【用法用量】無月経，月経周期異常（稀発月経，多発月経），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，月経困難症，機能性子宮出血，黄体機能不全による不妊症，子宮内膜症，切迫流早産，習慣性流早産
成人 1日5～15mg 1日1～3回 分割 内服。子宮内膜症 1日5～20mg 内服。

2 個々の器官系用医薬品

調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
月経周期2～5日目より1日20mg 1日1又は2回 分割 内服。
生殖補助医療の黄体補充
1回10mg 1日3回 内服。
注意
調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
1. 卵胞成熟の誘発当日まで継続。
生殖補助医療の黄体補充
2. 投与期間は下記。
・新鮮胚移植 採卵日から妊娠成立(妊娠4～7週)まで投与。
・自然周期での凍結融解胚移植 排卵日から妊娠成立(妊娠4～7週)まで投与。
・ホルモン補充周期での凍結融解胚移植 卵胞ホルモン剤の投与により子宮内膜が十分な厚さになった時点から最長妊娠12週まで投与。

■禁忌
【禁忌】重篤な肝障害・肝疾患。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚 発疹, 蕁麻疹
肝臓 肝機能異常
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 腹痛, 腹部膨満感, 鼓腸, 便秘
精神神経系 頭痛, 眠気, 浮動性眩暈
生殖系・乳房障害 膣出血, 乳房痛
その他 浮腫, 倦怠感, 体重増加
(表終了)

プレマリン錠0. 625mg (0. 625mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2479004F1033
【薬効分類】2. 4. 7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】結合型エストロゲン
【メーカー】製)ファイザー 販)旭化成ファーマ 販)武田薬品工業
【薬価】56.8円/1T
【標榜薬効】結合型エストロゲン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】卵巣欠落症状, 卵巣機能不全症, 更年期障害, 膣炎(老人, 小児, 非特異性), 機能性子宮出血
【用法用量】成人 1日0. 625～1. 25mg 内服。
機能性子宮出血, 膣炎
1日0. 625～3. 75mg 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. エストロゲン依存性腫瘍(例 乳癌, 子宮内膜癌)・その疑い。
2. 乳癌の既往。
3. 血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
4. 動脈性の血栓塞栓疾患(例 冠動脈性心疾患, 脳卒中)・その既往。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。
6. 妊婦・妊娠の可能性。
7. 重篤な肝障害。
8. 診断未確定の異常性器出血。
9. 未治療の子宮内膜増殖症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓症(頻度不明), 血栓塞栓症(四肢, 肺, 心, 脳, 網膜等)(下肢の疼痛・浮腫, 突然の呼吸困難, 息切れ, 胸痛, 中枢神経症状(眩暈, 意識障害, 四肢麻痺等), 急性視力障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
電解質代謝 ナトリウムや体液の貯留(浮腫, 体重増加等)
生殖器 帯下増加, 不正出血, 経血量の変化
乳房 乳房痛, 乳房緊満感
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 血管浮腫
消化器 腹痛, 悪心・嘔吐, 食欲不振, 膵炎
皮膚 色素沈着, 脱毛
精神神経系 頭痛, 眩暈
肝臓 肝機能障害(AST, ALT, Al－P上昇等)
呼吸器 呼吸困難
循環器 血圧低下
(表終了)

プロセキソール錠0. 5mg (0. 5mg1錠)
外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2474001F1033
【薬効分類】2. 4. 7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】エチニルエストラジオール
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】23.1円/1T
【薬価収載日】2008/12/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】卵胞ホルモン剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺癌, 閉経後の末期乳癌(男性ホルモン療法に抵抗を示す時)
【用法用量】前立腺癌, 乳癌
1回1～2錠 1日3回 内服。
適宜増減。
再評価結果
成人 1回0. 05～1mg 1日3回 内服。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌, 子宮内膜癌)・その疑い(治療目的での投与時除く)。
2. 血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
閉経後の末期乳癌(男性ホルモン療法に抵抗を示す時)
3. 未治療の子宮内膜増殖症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓症(頻度不明)(心筋, 脳, 四肢等)。
2. 心不全, 狭心症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
肝臓 黄疸, 肝機能異常等
循環器 血圧上昇等
精神神経系 精神障害の再発
電解質代謝 高カルシウム血症, ナトリウムや体液の貯留
子宮 不正出血, 経血量変化, 下腹部痛等
乳房 乳房緊満感, 乳房痛等
消化器 悪心, 嘔吐, 下痢, 食欲不振, 胃痛, 腹痛等
その他 頭痛, 眩暈, 倦怠感, 陰萎
(表終了)

メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠2. 5mg「F」(2. 5mg1錠)
外 内服 後発 流通

【YJコード】2478002F1100
【薬効分類】2. 4. 7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】メドロキシプロゲステロン酢酸エステル
【先発品】プロベラ錠2. 5mg
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】13.8円/1T
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】黄体ホルモン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】無月経, 月経周期異常(稀発月経, 多発月経), 生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整, 月経量異常(過少月経, 過多月経), 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流早産, 習慣性流早産, 調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
注意
切迫流早産, 習慣性流早産
1. 妊娠維持で投与時は, 黄体機能不全による流早産のみ使用。妊娠状態を確認。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
2. 本剤を含む黄体ホルモン剤と卵胞ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時, 開始時期の調整を行わない時と比べ, 妊娠率・生産率が低下の可能性。説明の上, 投与の要否は, 必要性を考慮し慎重に判断。
調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
3. 新鮮胚移植を予定していない時のみ使用。
【用法用量】無月経, 月経周期異常(稀発月経, 多発月経), 生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整, 月経量異常(過少月経, 過多月経), 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流早産, 習慣性流早産
成人 1日2. 5～15mg 1日1～3回 分割 内服。
調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
月経周期2～5日目より1日10mg 1日1又は2回 分割 内服。1日5mgまで減量できる。
注意
調節卵巣刺激下の早発排卵の防止
卵胞成熟の誘発当日まで継続。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 脳梗塞，心筋梗塞，血栓静脈炎等の血栓性疾患・その既往。
2. 重篤な肝障害・肝疾患。
3. 診断未確定の性器出血・尿路出血。
4. 稽留流産。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓症（頻度不明）（脳梗塞，心筋梗塞，肺塞栓症，腸間膜塞栓症，網膜血栓症，血栓性静脈炎等）。
2. うっ血性心不全（頻度不明）。
3. ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
4. 乳頭水腫（頻度不明）（視力の低下・消失，眼球突出，複視，片頭痛）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
肝臓 肝機能の異常，黄疸
電解質代謝 浮腫，体重増加
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満，下痢
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気，神経過敏，不眠，抑うつ
内分泌 乳房痛，月経異常，子宮出血，乳汁漏出，満月様顔貌，無月経，子宮腟部糜爛，帯下の変化
糖代謝 耐糖能異常
全身症状 倦怠感，発熱，悪寒
皮膚・粘膜 脱毛，多毛，ざ瘡，掻痒感，蕁麻疹
（表終了）

ル・エストロジェル0．06%（0．06%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2473700M2026
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】エストラジオール
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】19.5円/1g
【薬価収載日】2012/05/31
【標榜薬効】経皮吸収エストラジオール製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗）
2．生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
3．凍結融解胚移植のホルモン補充周期
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，凍結融解胚移植のホルモン補充周期
本剤含む卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整・ホルモン補充周期で凍結融解胚移植を行った時，開始時期の調整を行わない時・自然排卵周期で凍結融解胚移植を行った時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性・危険性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗）
成人 1回2プッシュ（本剤 1．8g，エストラジオール 1．08mg含有）1日1回 両腕の手首から肩までの広範囲に 塗擦。適宜減量。
減量時 1回1プッシュ（本剤 0．9g，エストラジオール 0．54mg含有） 1日1回 両腕の手首から肩までの広範囲に 塗擦。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1回1又は2プッシュ（本剤 0．9又は1．8g，エストラジオール 0．54又は1．08mg含有） 1日1回 21～28日間 両腕の手首から肩までの広い範囲に塗擦 投与期間の後半に黄体ホルモン剤併用。
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
1回2～10プッシュ（本剤 1．8～9g，エストラジオール 1．08～5．40mg含有） 1日1回 両腕の手首から肩，腹部，大腿部及び腰部の広い範囲に塗擦 子宮内膜の肥厚が得られたら，黄体ホルモン剤併用開始し，妊娠8週まで投与継続。
注意
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
妊娠成立後の投与期間は，予想されるリスクと状態を考慮して慎重判断し，漫然投与継続せず，最長妊娠10週まで。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．乳癌の既往。
3．未治療の子宮内膜増殖症。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
5．動脈性の血栓塞栓疾患（例 冠動脈性心疾患，脳卒中）・その既往。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．授乳婦。
8．重篤な肝障害。
9．診断未確定の異常性器出血。
10．ポルフィリン症で急性発作の既往。
更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状（Hot flush・発汗），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
11．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）。
2．静脈血栓塞栓症，血栓性静脈炎（各頻度不明）（下肢の疼痛・浮腫，胸痛，突然の息切れ，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
生殖器 腟分泌物（18．3%），性器出血，陰部掻痒症，骨盤痛 消退出血，不正子宮出血，外性器痛，外陰部炎，外陰腟不快感，子宮内膜生検異常，子宮筋腫，子宮頚管ポリープ 腟乾燥，陰部掻痒症，子宮内膜症（再燃）
乳房 乳房不快感（13．2%），乳房痛，乳頭痛 乳房嚢胞
皮膚 投与部位 掻痒感，紅斑，湿疹 色素沈着変化，乾燥，刺激感
皮膚 全身 湿疹，紅斑，色素沈着障害，掻痒症，ざ瘡 蕁麻疹
精神神経系 眩暈，頭痛 しびれ感，抑うつ気分，睡眠障害，傾眠 易刺激性，片頭痛
循環器 動悸，高血圧
消化器 膨満感 食欲不振，悪心，下痢，腹痛，逆流性食道炎 嘔吐，排便痛
肝臓 肝機能異常（AST増加，ALT増加，Al－P増加）
血液 白血球数減少，貧血（赤血球数減少，ヘモグロビン量減少，ヘマトクリット値低下）
骨・筋肉 背部痛，四肢痛，筋骨格硬直，関節炎 四肢重感
その他 血中トリグリセリド増加，浮腫 疲労，潮紅，血中Ca減少，アンチトロンビンIII減少，耳鳴，耳不快感，鼻出血，血中フィブリノゲン増加 コンタクトレンズ不耐性，鼻咽頭炎，過換気
（表終了）

ルトラール錠2mg（2mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2478001F1040
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】クロルマジノン酢酸エステル
【メーカー】製)富士製薬工業 販)塩野義製薬
【薬価】23.6円/1T
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】黄体ホルモン剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】無月経，月経周期異常（稀発月経，多発月経），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，月経量異常（過少月経，過多月経），月経困難症，機能性子宮出血，卵巣機能不全症，黄体機能不全による不妊症，生殖補助医療の黄体補充
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
本剤含む黄体ホルモン剤と卵胞ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】成人 1日2～12mg 1日1～3回 分割 内服。
生殖補助医療の黄体補充 投与期間は，新鮮胚移植時は採卵後～胚移植日まで，凍結融解胚移植時は子宮内膜が厚くなった時点～胚移植日まで，他の黄体補充法と組み合わせる。

■禁忌
【禁忌】重篤な肝障害・肝疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓症（脳，心，四肢等）（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹等
肝臓 肝機能異常
電解質代謝 浮腫，体重増加等
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，腹痛等
子宮 不正出血，破綻出血，点状出血，経血量の変化，下腹部痛等
乳房 乳房緊満感，乳房痛等
精神神経系 頭痛 眠気等
その他 倦怠感
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

2．4．8 混合ホルモン剤

フリウェル配合錠LD「モチダ」（1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】2482009F1058
【薬効分類】2．4．8 混合ホルモン剤
【一般名】ノルエチステロン・エチニルエストラジオール
【先発品】ルナベル配合錠LD
【メーカー】製)持田製薬販売 販)持田製薬
【薬価】66.6円/1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】月経困難症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．月経困難症
2．生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
本剤含む低用量卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】月経困難症
1日1錠 定刻に 21日間 内服，以後7日間休薬。以上28日間が投与1周期。出血にかかわらず，29日目から次の周期の錠剤を投与し，以後同様に繰り返す。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1日1錠 定刻に 14～21日間 内服。
注意
効能共通
1．定刻に服用。
2．飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。
3．前日の飲み忘れに気付いた時，直ちに前日の飲み忘れた錠剤を服用し，当日の錠剤も定刻に服用。2日以上服薬を忘れた時は，気付いた時点で前日分の1錠を服用し，当日の錠剤も定刻に服用し，以後は当初の服薬スケジュール通り服用を継続。
月経困難症
4．初めて服用の時，月経第1～5日目に服用を開始。
5．1年を超える投与の有効性・安全性は未確立，1年を超える投与は治療上必要と判断時のみ，定期的に画像診断・臨床検査（血液検査等）を実施。
6．ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠ULDのエチニルエストラジオールの用量はノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠LDより低用量，臨床試験ではノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠LDと比べ不正性器出血の発現率が高いため，症状や治療目標により治療薬を選択。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏性素因。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・子宮頸癌・その疑い。
3．診断未確定の異常性器出血。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5．35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6．前兆（閃輝暗点，星型閃光等）を伴う片頭痛。
7．肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8．血管病変を伴う糖尿病（糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等）。
9．血栓性素因。
10．抗リン脂質抗体症候群。
11．術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12．重篤な肝障害。
13．肝腫瘍。
14．脂質代謝異常。
15．高血圧（軽度の高血圧除く）。
16．耳硬化症。
17．妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18．妊婦・妊娠の可能性。
19．授乳婦。
20．骨成長が終了していない可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓症（四肢，肺，心，脳，網膜等）（頻度不明）（下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫，掻痒感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，薬疹，顔面浮腫
血液 貧血
内分泌代謝 浮腫，体重増加，体重減少，高プロラクチン血症 高脂血症
精神神経 頭痛（15．5%）倦怠感，眩暈，いらいら感，ふらつき，感覚鈍麻，嗅覚錯誤，眠気，不眠症，感情不安定，顔面感覚鈍麻，片頭痛，異常感，知覚過敏，睡眠障害 神経過敏，頭重，しびれ感，振戦，抑うつ 眼 霧視 視覚障害（視力低下，視野欠損等）
循環器 血圧上昇，動悸，ほてり，末梢性浮腫，起立性低血圧
消化器 悪心（17．9%），上腹部痛 嘔吐，腹痛，下痢，便秘，胃痛，腹部膨満，鼓腸，胃炎，過敏性腸症候群，胃不快感，歯痛，排便痛，消化管運動障害，口内炎，食欲不振，痔核，腸炎，腹部不快感，消化不良，胃腸炎 口渇，胸やけ，食欲亢進
肝臓 肝機能異常 黄疸
皮膚 ざ瘡，湿疹，蕁麻疹，多形紅斑，アトピー性皮膚炎，女性陰部掻痒症，紅斑，掻痒症，皮膚乾燥，紫斑 色素沈着，脱毛症，結節性紅斑
筋・骨格 背部痛 四肢痛，筋痙縮，筋骨格硬直
腎・尿路 尿道炎，尿中蛋白陽性
卵巣 出血性卵巣嚢胞，卵巣新生物，卵巣嚢胞，卵巣血腫，卵巣出血
子宮 不正性器出血（破綻出血，点状出血）（LD；60．0%，ULD；81．1%），希発月経（LD；14．1%，ULD；35．8%），月経過多，下腹部痛，過少月経，頻発月経 無月経，不規則月経，性器分泌物，子宮肥大，消退出血不規則，性交出血，子宮類線維腫の変性，子宮平滑筋腫，子宮頸管ポリープ，月経前症候群，子宮出血 経血量の変化，帯下の増加
乳房 乳房痛，乳房不快感 乳房緊満感，乳房萎縮，乳汁分泌，乳癌，乳房腫瘤，乳汁漏出症，線維嚢胞性乳腺疾患，乳腺線維腺腫
臨床検査 AST増加，ALT増加，γ－GTP増加，プラスミノーゲン増加，血中トリグリセリド増加，血中コレステロール増加，血中フィブリノゲン増加，血中鉄減少，血小板数増加，血中ビリルビン増加，血中鉄増加，子宮頸部スミア異常 フィブリンDダイマー増加
その他 性欲減退，熱感，胸部不快感，炎症性疼痛，帯状疱疹，副鼻腔炎，齲歯，カンジダ症，鼻炎，髄膜腫，発熱，耳鳴，外陰腟乾燥，アレルギー性鼻炎 多汗
（表終了）

メノエイドコンビパッチ（1枚）

外 外用 流通

【YJコード】2482800S1026
【薬効分類】2．4．8 混合ホルモン剤
【一般名】エストラジオール・酢酸ノルエチステロン
【メーカー】製)久光製薬 販)武田薬品工業
【薬価】226.1円/1枚
【薬価収載日】2008/12/12
【標榜薬効】経皮吸収型卵胞・黄体ホルモン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】更年期障害・卵巣欠落症状に伴う血管運動神経系症状（Hot flush・発汗）
注意
本剤は，子宮のない患者には使用しない。
【用法用量】成人 1枚 3～4日ごと1回（週2回） 下腹部 貼付。

■禁忌

【禁忌】1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．未治療の子宮内膜増殖症。
3．乳癌の既往。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
5．動脈性の血栓塞栓疾患（例 冠動脈性心疾患，脳卒中）・その既往。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
8．重篤な肝障害。
9．診断未確定の異常性器出血。
10．ポルフィリン症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下等）。
2．静脈血栓塞栓症，血栓性静脈炎（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満
皮膚（貼付部位） 掻痒（20．8%），発赤，皮膚炎 紅斑 色素沈着，水疱，発疹
生殖器 帯下 不正出血，腟炎，子宮頸部ポリープ，外陰部掻痒感 子宮平滑筋腫
乳房 乳房緊満感，乳房痛 乳頭痛 乳腺症，乳房腫瘤
精神神経系 頭痛・片頭痛，眩暈 眠気，しびれ
循環器 動悸 血圧上昇
消化器 腹部膨満感，悪心，腹部不快感，腹痛 便秘，下痢，胃痛
電解質 浮腫
過敏症 発疹 全身の掻痒，蕁麻疹
血液 貧血（赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット減少） 白血球減少
肝臓 肝機能障害（AST，ALT，Al－P上昇等）
その他 下腹部痛 腰痛，倦怠感 耳鳴，体重増加，背部痛，関節痛，筋骨格硬直，下肢痛，フィブリノーゲン上昇，トリグリセリド上昇，総コレステロール上昇
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ヤーズ配合錠（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2482011F1020
【薬効分類】2．4．8 混合ホルモン剤
【一般名】ドロスピレノン・エチニルエストラジオール ベータデクス
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】157.9円/1T
【薬価収載日】2010/09/17
【標榜薬効】月経困難症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】月経困難症
【用法用量】1日1錠 定刻に指定の順番で(淡赤色錠から開始) 28日間連続 内服。
以上28日間が投与1周期。出血にかかわらず，29日目から次の周期の錠剤を投与し，以後同様に繰り返す。
注意
1．定刻に服用。
2．不正性器出血の予防及びホルモン剤服用中の妊娠のリスクを最小限にとどめるため，飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。
3．服用開始日
初めて服用の時，月経第1日目から服用を開始させる。服用開始日が月経第1日目から遅れた時，妊娠のリスクを考慮し，飲みはじめの最初の1週間はホルモン剤以外の避妊法を用いる。
4．前日の飲み忘れに気付いた時，直ちに前日の飲み忘れた錠剤を服用し，当日の錠剤も定刻に服用。2日以上服薬を忘れた時は，気付いた時点で前日分の1錠を服用し，当日の錠剤も定刻に服用し，その後は当初の服薬スケジュール通り服用を継続。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏性素因。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・子宮頸癌・その疑い。
3．診断未確定の異常性器出血。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5．35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6．前兆(閃輝暗点，星型閃光等)を伴う片頭痛。
7．肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8．血管病変を伴う糖尿病(糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等)。
9．血栓性素因。
10．抗リン脂質抗体症候群。
11．術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12．重篤な肝障害。
13．肝腫瘍。
14．脂質代謝異常。
15．高血圧(軽度の高血圧除く)。
16．耳硬化症。
17．妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18．妊婦・妊娠の可能性。
19．授乳婦。
20．骨成長が終了していない可能性。
21．重篤な腎障害・急性腎障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
血栓症(四肢，肺，心，脳，網膜等)(頻度不明)(下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
生殖器 不正子宮出血(25．4%)，性器出血，月経痛，下腹部痛 月経過多，機能性子宮出血，消退出血，無月経，外陰部腟カンジダ症，子宮平滑筋腫 月経前症候群，骨盤痛，CA125上昇，細胞診異常，子宮頸部上皮異形成，子宮頸管ポリープ，卵巣嚢腫，出血性卵巣嚢胞，腟感染，外陰腟掻痒症 過少月経，性器分泌物，腟炎，腟乾燥
乳房 乳房不快感，乳房痛，乳腺症，乳腺線維腺腫，線維嚢胞性乳腺疾患 乳房腫瘤 乳房腫大，乳汁分泌
消化器 悪心(29．8%) 嘔吐，腹部不快感，腹痛，上腹部痛，便秘，下痢，胃炎，胃腸炎，口内炎 腹部膨満，細菌性胃腸炎，口渇，齲歯 消化不良，鼓腸
精神神経系 頭痛(41．0%) 傾眠，不眠症，浮動性眩暈，回転性眩暈，感覚鈍麻 耳鳴，抑うつ気分，うつ病，気力低下 情動不安定，リビドー減退，錯感覚，神経過敏，片頭痛
循環器 動悸，高血圧 静脈瘤
呼吸器 鼻咽頭炎 気管支炎，喘息，口腔咽頭痛，アレルギー性鼻炎
肝臓 肝機能検査異常，AI－P低下，γ－GTP上昇
腎臓 尿中蛋白陽性 血漿中レニン活性上昇，血漿中アルドステロン活性上昇
血液 凝固検査異常(20．2%)，トロンビン・アンチトロンビンIII複合体上昇，プラスミノーゲン上昇 プロテインS低下，フィブリノゲン上昇，フィブリンDダイマー上昇，プロトロンビン時間短縮，血清鉄低下 血小板減少，プロテインC上昇，貧血，鉄欠乏性貧血，白血球増加，白血球減少，血清鉄上昇
電解質代謝 末梢性浮腫 顔面浮腫，浮腫
内分泌・代謝系 トリグリセリド上昇 コレステロール上昇 脂質異常
筋・骨格系 背部痛 四肢痛，筋骨格硬直 筋痙縮
皮膚 ざ瘡，湿疹，蕁麻疹，色素沈着 発疹 掻痒症，多形紅斑
眼 アレルギー性結膜炎
その他 倦怠感，CRP上昇，体重増加 膀胱炎，発熱 無力症，ほてり，多汗，体重減少
(表終了)

ヤーズフレックス配合錠（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2482011F2027
【薬効分類】2．4，8 混合ホルモン剤
【一般名】ドロスピレノン・エチニルエストラジオール ベータデクス
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】280.1円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】子宮内膜症に伴う疼痛改善剤・月経困難症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．子宮内膜症に伴う疼痛の改善
2．月経困難症
3．生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
本剤含む低用量黄体ホルモン・卵胞ホルモン配合剤で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性・危険性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】子宮内膜症に伴う疼痛の改善
1日1錠 内服。24日目までは出血にかかわらず連続投与。25日目以降 3日間連続で出血(点状出血含む)，又は連続投与が120日に達した時 4日間休薬。休薬後 出血にかかわらず連続投与。以後同様に連続投与と休薬を繰り返す。
月経困難症
下記のいずれかを選択。
・1日1錠 内服。24日目までは出血にかかわらず連続投与。25日目以降 3日間連続で出血(点状出血含む)，又は連続投与が120日に達した時 4日間休薬。休薬後 出血にかかわらず連続投与。以後同様に連続投与と休薬を繰り返す。
・1日1錠 24日間連続 内服，4日間休薬。
以上28日間が投与1周期。出血にかかわらず，29日目から次の周期の錠剤を投与し，以後同様に繰り返す。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1日1錠 14～28日間連続 内服。
注意
効能共通
1．定刻に服用。
2．前日の飲み忘れに気付いた時，直ちに前日の飲み忘れた錠剤を服用し，当日の錠剤も定刻に服用。2日以上服薬を忘れた時は，気付いた時点で前日分の1錠を服用し，当日の錠剤も定刻に服用し，その後は当初の服薬スケジュール通り服用を継続。
子宮内膜症に伴う疼痛の改善，月経困難症
3．休薬期間は4日間まで。
4．不正性器出血の予防及びホルモン剤服用中の妊娠のリスクを最小限にとどめるため，飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。
5．服用開始日 初めて服用の時，月経第1日目から服用を開始させる。服用開始日が月経第1日目から遅れた時，妊娠のリスクを考慮し，飲みはじめの最初の1週間はホルモン剤以外の避妊法を用いる。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
6．飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏性素因。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・子宮頸癌・その疑い。
3．診断未確定の異常性器出血。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5．35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6．前兆(閃輝暗点，星型閃光等)を伴う片頭痛。
7．肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8．血管病変を伴う糖尿病(糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等)。
9．血栓性素因。
10．抗リン脂質抗体症候群。
11．術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12．重篤な肝障害。
13．肝腫瘍。
14．脂質代謝異常。
15．高血圧(軽度の高血圧除く)。
16．耳硬化症。
17．妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18．妊婦・妊娠の可能性。
19．授乳婦。
20．骨成長が終了していない可能性。
21．重篤な腎障害・急性腎障害。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓症(四肢，肺，心，脳，網膜等)(0．3%)(下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
生殖器 性器出血(23．7%)，不規則な子宮出血，月経痛，下腹部痛 月経過多，機能性子宮出血 外陰部腟カンジダ症，無月経，消退出血，子宮平滑筋腫，骨盤痛，月経前症候群，CA125上昇，細胞診異常，子宮頸部上皮異形成，出血性卵巣嚢胞，子宮頸管ポリープ，卵巣嚢腫，腟感染，外陰腟掻痒症，性器分泌物 過少月経，腟炎，腟乾燥
乳房 乳房不快感，乳房痛，乳腺線維腺腫 乳腺症，線維嚢胞性乳腺疾患，乳房腫瘤，乳汁分泌 乳房腫大
消化器 悪心(20．8%) 嘔吐，腹部不快感，便秘，下痢，上腹部痛，胃炎，口内炎 腹痛，胃腸炎，腹部膨満，口渇，細菌性胃腸炎，齲歯，消化不良 鼓腸
精神神経系 頭痛(25．5%) 傾眠，浮動性眩暈，不眠症，回転性眩暈 感覚鈍麻，片頭痛，耳鳴，うつ病，抑うつ気分，気力低下，情動不安定，リビドー減退 錯感覚，神経過敏
循環器 動悸，高血圧 静脈瘤
呼吸器 鼻咽頭炎，アレルギー性鼻炎，気管支炎，喘息，口腔咽頭痛
肝臓 肝機能検査異常，AI－P低下，γ－GTP上昇
腎臓 尿中蛋白陽性 血漿中レニン活性上昇，血漿中アルドステロン活性上昇
血液 凝固検査異常，プラスミノーゲン上昇，トロンビン・アンチトロンビンIII複合体上昇 フィブリンDダイマー上昇，プロテインS低下，フィブリノゲン上昇，血清鉄低下 プロトロンビン時間短縮，鉄欠乏性貧血，白血球増加，血小板減少，貧血，白血球減少，プロテインC上昇，血清鉄上昇
内分泌・代謝系 トリグリセリド上昇，コレステロール上昇 脂質異常
筋・骨格系 背部痛 四肢痛，筋骨格硬直，筋痙縮
皮膚 ざ瘡 湿疹，発疹，蕁麻疹，色素沈着 多形紅斑，掻痒症
眼 アレルギー性結膜炎
その他 浮腫，倦怠感 発熱，CRP上昇，体重増加，膀胱炎，顔面浮腫，ほてり 急性胆嚢炎，無力症，多汗，体重減少
(表終了)

ルナベル配合錠ULD（1錠）
外 内服 流通

【YJコード】2482009F2020
【薬効分類】2．4．8 混合ホルモン剤
【一般名】ノルエチステロン・エチニルエストラジオール
【メーカー】製)ノーベルファーマ 販)日本新薬 販)富士製薬工業
【薬価】150.4円/1T
【薬価収載日】2013/08/27
【標榜薬効】月経困難症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．月経困難症
2．生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
本剤含む低用量卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤で調節卵巣刺激の開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】月経困難症
1日1錠 定刻に 21日間 内服，以後7日間休薬。以上28日間が投与1周期。出血にかかわらず，29日目から次の周期の錠剤を投与し，以後同様に繰り返す。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1日1錠 定刻に 14～21日間 内服。
注意
効能共通
1．定刻に服用。
2．飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。
3．前日の飲み忘れに気付いた時，直ちに前日の飲み忘れた錠剤を服用し，当日の錠剤も定刻に服用。2日以上服薬を忘れた時は，気付いた時点で前日分の1錠を服用し，当日の錠剤も定刻に服用し，以後は当初の服薬スケジュール通り服用を継続。
月経困難症
4．初めて服用の時，月経第1～5日目に服用を開始。
5．1年を超える投与の有効性・安全性は未確立，1年を超える投与は治療上必要と判断時のみ，定期的に画像診断・臨床検査(血液検査等)を実施。
6．ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠ULDのエチニルエストラジオールの用量はノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠LDより低用量，臨床試験ではノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠LDと比べ不正性器出血の発現率が高いため，症状や治療目標により治療薬を選択。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏性素因。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・子宮頸癌・その疑い。
3．診断未確定の異常性器出血。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5．35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6．前兆(閃輝暗点，星型閃光等)を伴う片頭痛。
7．肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8．血管病変を伴う糖尿病(糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等)。
9．血栓性素因。
10．抗リン脂質抗体症候群。
11．術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12．重篤な肝障害。
13．肝腫瘍。
14．脂質代謝異常。
15．高血圧(軽度の高血圧除く)。
16．耳硬化症。
17．妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18．妊婦・妊娠の可能性。
19．授乳婦。
20．骨成長が終了していない可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓症(四肢，肺，心，脳，網膜等)(頻度不明)(下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等)。
2．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫，掻痒感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，薬疹，顔面浮腫
血液 貧血
内分泌代謝 浮腫，体重増加，体重減少，高プロラクチン血症 高脂血症
精神神経 頭痛(15．5%) 倦怠感，眩暈，いらいら感，ふらつき，感覚鈍麻，嗅覚錯誤，眠気，不眠症，感情不安定，顔面感覚鈍麻，片頭痛，異常感，知覚過敏，睡眠障害 神経過敏，頭重，しびれ感，振戦，抑うつ
眼 霧視 視覚障害(視力低下，視野欠損等)
循環器 血圧上昇，動悸，ほてり，末梢性浮腫，起立性低血圧
消化器 悪心(17．9%)，上腹部痛 嘔吐，腹痛，下痢，便秘，胃痛，腹部膨満，鼓腸，胃炎，過敏性腸症候群，胃不快感，歯痛，排便痛，消化管運動障害，口内炎，食欲不振，痔核，腸炎，腹部不快感，消化不良，胃腸炎 口渇，胸やけ，食欲亢進
肝臓 肝機能異常 黄疸
皮膚 ざ瘡，湿疹，蕁麻疹，多形紅斑，アトピー性皮膚炎，女性陰部掻痒症，紅斑，掻痒症，皮膚乾燥，紫斑 色素沈着，脱毛症，結節性紅斑
筋・骨格 背部痛 四肢痛，筋痙縮，筋骨格硬直
腎・尿路 尿道炎，尿中蛋白陽性
卵巣 出血性卵巣嚢胞，卵巣新生物，卵巣嚢胞，卵巣血腫，卵巣出血
子宮 不正性器出血(破綻出血，点状出血)(LD；60．0%，ULD；81．1%)，希発月経(LD；14．1%，ULD；35．8%)，月経過多，下腹部痛，過少月経，頻発月経 無月経，不規則月経，性器分泌物，子宮肥大，消退出血不規則，性交出血，子宮類線維腫の変性，子宮平滑筋腫，子宮頸管ポリープ，月経前症候群，子宮出血 経血量の変化，帯下の増加
乳房 乳房痛，乳房不快感 乳房緊満感，乳房萎縮，乳汁分泌，乳癌，乳房腫瘤，乳汁漏出症，線維嚢胞性乳腺疾患，乳腺線維腺腫
臨床検査 AST増加，ALT増加，γ－GTP増加，プラスミノーゲン増加，血中トリグリセリド増加，血中コレステロール増加，血中フィブリノゲン増加，血中鉄減少，血小板数増加，血中ビリルビン増加，血中鉄増加，子宮頸部スミア異常 フィブリンDダイマー増加
その他 性欲減退，熱感，胸部不快感，炎症性疼痛，帯状疱疹，副鼻腔炎，齲歯，カンジダ症，鼻炎，髄膜腫，発熱，耳鳴，外陰腟乾燥，アレルギー性鼻炎 多汗
(表終了)

2．4．9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)

アピドラ注ソロスター（300単位1キット）
外 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492418G1027
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】インスリン グルリジン(遺伝子組換え)
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】994円/1kit
【薬価収載日】2009/06/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】超速効型インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人　1回2～20単位　毎食直前　皮下注。中間型又は持効型溶解インスリン製剤と併用することあり。適宜増減，中間型又は持効型溶解インスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～100単位。
注意
1. 血糖降下作用は速効型インスリンと同等だが，作用発現は速効型インスリン製剤より速い。食直前（15分以内）に投与。
2. 経口血糖降下剤から本剤に変更時及び経口血糖降下剤と併用時低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮の上投与。
3. 経口血糖降下剤と併用時は，経口血糖降下剤の投与量及び投与スケジュールの調整が必要なことあり。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（3. 4%）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（全身性皮膚反応，血管神経性浮腫，気管支痙攣，低血圧等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
眼 糖尿病性網膜症の顕在化・増悪
注射部位　注射部位反応（発赤，腫脹，掻痒感等），リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
過敏症　発疹，全身性掻痒症
（表終了）

クロミッド錠50mg（50mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2499009F1080
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】クロミフェンクエン酸塩
【メーカー】(製)富士製薬工業　(販)塩野義製薬
【薬価】92.4円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】排卵誘発剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇排卵障害による不妊症の排卵誘発
〇生殖補助医療の調節卵巣刺激
〇乏精子症の精子形成の誘導
注意
効能共通
1. 頭蓋内の病変（下垂体腫瘍等）には投与しない。
排卵障害による不妊症の排卵誘発
2. 排卵障害による不妊症の排卵誘発の対象は間脳・下垂体前葉の機能障害に由来する性腺刺激ホルモン低分泌無排卵なので，下記には投与しない。
・原発性卵巣不全による尿中性腺刺激ホルモン分泌が高い。
・副腎・甲状腺機能の異常による無排卵。
・無排卵症以外の不妊症。
3. 無月経には，投与前にGestagen　testで第1度無月経を確認，Estrogen　testで子宮性無月経は除外。
排卵障害による不妊症の排卵誘発，生殖補助医療の調節卵巣刺激
4. 投与の適否は，患者・パートナーの検査を実施後判断。原発性卵巣不全，妊娠不能な性器奇形，妊娠に不適切な子宮筋腫の合併等の妊娠に不適当な時は投与しない。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
乏精子症の精子形成の誘導
5. 精液検査，内分泌学的検査，精巣エコー検査等の検査結果で，乏精子症の原因探索を行い，特発性の乏精子症を確認。血中FSH，LH，テストステロン値を踏まえ，適否を判断。
乏精子症の原因が特定された時，当該原因の治療を行う。
【用法用量】排卵障害の不妊症の排卵誘発
無排卵症に排卵誘発を試みる時
Gestagen，Estrogen　testを行って，消退性出血の出現を確認。子宮性無月経を除外後，内服を開始。
第1クール1日50mgから開始　5日間。第1クールで無効の時，1日100mg　5日間に増量。
1日100mg　5日間まで。
生殖補助医療の調節卵巣刺激
1日50mg　月経周期3日目から5日間　内服。効果不十分時は，次周期以降1日100mgに増量。
乏精子症の精子形成の誘導
1回50mg　隔日　内服。
注意
排卵障害の不妊症の排卵誘発
3クール反復投与しても排卵性月経なければ，投与中止。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2. 肝障害・肝疾患。
3. アンドロゲン依存性悪性腫瘍（例 前立腺癌）・その疑い。
排卵障害にもとづく不妊症の排卵誘発，生殖補助医療の調節卵巣刺激
4. 卵巣腫瘍，多嚢胞性卵巣症候群が原因でない卵巣腫大。
5. 妊婦。
6. 活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
卵巣過剰刺激症候群（頻度不明）（卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難），卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0. 1～5%未満 0. 1%未満
眼 虚血性視神経症 霧視等の視覚症状
過敏症 発疹等
精神神経系 精神変調 頭痛，情動不安等
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇　5%以上
のBSP排泄遅延
消化器　悪心・嘔吐，食欲不振等
その他 男性；女性化乳房，ざ瘡，脱毛 顔面潮紅，尿量増加，口渇，疲労感
（表終了）

ザガーロカプセル0. 5mg（0. 5mg1カプセル）

外　内服　流通
劇

【YJコード】249900AM2020
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】デュタステリド
【メーカー】(製)グラクソ・スミスクライン
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】男性型脱毛症
注意
1. 男性型脱毛症のみの適応。他の脱毛症への適応はない。
2. 20歳未満の安全性・有効性は未確立。
【用法用量】男性成人　1回0. 1mg　1日1回　内服。必要時　1回0. 5mg　1日1回　内服。
注意
1. 投与開始後12週間で改善が認められる場合もあるが，治療効果の評価には，6ヵ月間の治療が必要。
2. 6ヵ月以上投与しても男性型脱毛症の改善なければ投薬中止。6ヵ月以上の投与時も定期的に効果を確認し，継続投与の必要性を検討。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他の5α還元酵素阻害薬に過敏症の既往。
2. 女性。
3. 小児等。
4. 重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害（AST，ALT，ビリルビンの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹 蕁麻疹，アレルギー反応，掻痒症，限局性浮腫，血管性浮腫
精神神経系　頭痛，抑うつ気分 浮動性眩暈，味覚異常
生殖系・乳房障害 性機能不全（リビドー減退，勃起不全，射精障害）乳房障害（女性化乳房，乳頭痛，乳房痛，乳房不快感）精巣痛，精巣腫脹
皮膚　脱毛症（主に体毛脱落），多毛症
消化器　腹部不快感 腹痛，下痢
その他　倦怠感，血中CK増加
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

スプレキュア点鼻液0．15%（15．75mg 10mL1瓶）

外 外用 流通

【YJコード】2499701R1052
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】ブセレリン酢酸塩
【メーカー】製)クリニジェン 販)持田製薬
【薬価】7014.1円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】GnRH誘導体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇子宮内膜症
〇中枢性思春期早発症
〇子宮筋腫の縮小・子宮筋腫による下記の改善
過多月経，下腹痛，腰痛，貧血
〇生殖補助医療の卵胞成熟
〇生殖補助医療の早発排卵の防止
注意
子宮筋腫
1．手術適応患者の手術までの保存療法として適用。投与初期の下腹痛，腰痛は対症療法を考慮。
生殖補助医療の卵胞成熟
2．全胚凍結を予定する患者への投与を考慮。卵巣過剰刺激症候群のリスク等を考慮し，投与の適否を判断。
生殖補助医療の早発排卵の防止
3．患者・パートナーの検査を実施し，投与の適否を判断。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
【用法用量】子宮内膜症，子宮筋腫
成人 1回左右の鼻腔に各々1噴霧（ブセレリン 1回計300μg） 1日3回 月経周期1～2日目より 投与。適宜増減。
中枢性思春期早発症
1回左右の鼻腔に各々1噴霧（ブセレリン 1回計300μg） 1日3～6回 投与。効果不十分時 皮下注に切りかえる。
効果は投与前と比べ，投与2週以降のGnRHテストの血中LH，FSHの反応性の低下，血中性ステロイドの低下で判断。
生殖補助医療の卵胞成熟
1回左右の鼻腔に各々1噴霧（ブセレリン 1回計300μg） 採卵の34～36時間前 2回 投与。1～4回 適宜調節。
生殖補助医療の早発排卵の防止
1回左右の鼻腔に各々1噴霧（ブセレリン 1回計300μg） 1日2～3回 投与。効果不十分時 1日4回。
注意
子宮内膜症，子宮筋腫
1．GnRH誘導体製剤の6ヵ月を超える継続投与はしない。
2．妊娠していないことを確認，必ず月経周期1～2日目から開始。治療期間中は避妊させる。
生殖補助医療の卵胞成熟
3．超音波検査や血清エストラジオール濃度で卵胞の発育を確認後投与。
生殖補助医療の早発排卵の防止
4．下記のいずれかで投与。
・調節卵巣刺激を行う前の月経周期の黄体期中期又は2日目から開始し，下垂体脱感作を確認後に調節卵巣刺激を開始。調節卵巣刺激に引き続く最終的な卵胞成熟の誘発まで継続。
・調節卵巣刺激を行う月経周期の1又は2日目から開始し，調節卵巣刺激に引き続く最終的な卵胞成熟の誘発まで継続。

■禁忌

【禁忌】1．診断未確定の異常性器出血。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．授乳婦。
4．本剤の成分・他のGnRH誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，熱感，全身紅潮，血圧低下等）。
2．更年期障害様のうつ症状（頻度不明）。
3．脱毛（頻度不明）。
4．狭心症，心筋梗塞，脳梗塞（各頻度不明）。
5．血小板減少，白血球減少（各頻度不明）。
6．不正出血（頻度不明）。
7．卵巣嚢胞破裂（頻度不明），膨満感，下腹部痛（圧痛等）等。
8．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
9．糖尿病の発症・増悪（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 0．1～3%未満 0．1%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 ほてり リビドー減退，外陰部掻痒感，膣乾燥 膣炎，性交痛，視力異常，眼精疲労
子宮・卵巣 帯下 子宮萎縮，卵巣過剰刺激症状，卵巣嚢胞 卵巣機能不全，卵巣過剰刺激症候群
乳房 乳房緊満 乳房萎縮，乳房痛 乳汁分泌
皮膚 ざ瘡 爪の割れ 多毛，皮膚乾燥
過敏症 発疹，蕁麻疹 湿疹，掻痒
消化器 食欲亢進，嘔気・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，食欲減退，便秘，下痢，口渇 口内炎
肝臓 AST，ALT，LDH，ビリルビン上昇 AI－P，γ－GTP上昇
筋骨格系 肩こり 関節痛，腰痛，頸・背部痛 痙攣，筋肉痛，胸痛 骨・四肢等の疼痛
精神神経系 頭痛 眩暈，多汗，神経過敏，傾眠，不眠，しびれ感 嗄声，不安，健忘 昏迷，片頭痛
循環器 動悸，浮腫 四肢冷感，血圧上昇
呼吸器 鼻炎 鼻出血，呼吸困難 咽頭痛，喘息様症状
血液 貧血
その他 体重増加，疲労，倦怠，トリグリセライド上昇，耳鳴 咳，耐糖能の悪化，体重減少，悪寒，発熱，コレステロール上昇，脱力感，味覚・嗅覚異常 甲状腺腫大，下垂体腺腫，難聴
（表終了）

セキソビット錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2499001F1032
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】シクロフェニル
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】27.8円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】排卵誘発剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】第1度無月経，無排卵性月経，希発月経の排卵誘発
注意
効能共通
1．対象は間脳・下垂体前葉の機能障害に由来する性腺刺激ホルモン低分泌無排卵症，下記は除外。
（1）．原発性卵巣機能不全による尿中性腺刺激ホルモン分泌が高い。
（2）．副腎・甲状腺機能の異常による無排卵症。
（3）．頭蓋内に病変（下垂体腫瘍等）。
（4）．無排卵症以外の不妊症。
第1度無月経
2．無月経には，プロゲステロンテストで消退性出血の出現を確認，第2度無月経は除外。
【用法用量】1日400～600mg 1日2～3回 分割 5～10日間 内服。適宜これを反復。
注意
3クール反復投与しても排卵性月経なければ，投与中止。

■禁忌

【禁忌】1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．卵巣腫瘍，多嚢胞性卵巣症候群が原因でない卵巣腫大。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の上昇，発熱，倦怠感等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
卵巣過剰刺激 下腹部痛等の卵巣腫大症状
子宮 不正出血
過敏症 発疹等
消化器 悪心，嘔吐，便秘，下痢，食欲不振，胃痛，腹部膨満感等
精神神経系 頭痛，眩暈，情動不安，眼精疲労等
その他 顔面潮紅，全身倦怠感，頻尿，尿量増加，鼻出血，口中異和感，体重増加
（表終了）

ソマバート皮下注用10mg（10mg1瓶（溶解液付））

外 注射 自注 流通
劇

【YJコード】2499409D1022
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】ペグビソマント（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ファイザー 販)ファイザー製薬
【薬価】8321円/1V
【薬価収載日】2007/03/16
【標榜薬効】成長ホルモン受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記のIGF－I（ソマトメジン－C）分泌過剰状態・諸症状の改善
先端巨大症（外科的処置，他剤による治療で効果不十分時又は施行困

2 個々の器官系用医薬品

難な時）
【用法用量】成人 初日 40mg 1日1回 皮下注。2日目以降 1回10mg 1日1回 投与。血清中IGF－I値及び症状に応じ 5mgずつ適宜増減，1日30mgまで。
注意
1．4～8週間隔で血清中IGF－I値を測定し，その値が性別・年齢別正常値内に収まる範囲で投与量の調整を行う。
2．初期維持用量での投与時・継続治療中に最低用量まで減量しても，血清中IGF－I値が正常範囲の下限を下回った場合は，休薬・投与中止を考慮。
3．3ヵ月以上投与しても，血清中IGF－I値の正常化が認められずかつ血清中IGF－I値の低下傾向も認められない時は，投与中止を考慮。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 アナフィラキシー様反応
血液 出血傾向 白血球増加症，血小板数減少，白血球数減少
代謝異常 糖尿病，低血糖症，限局性皮下脂肪貯留，グリコヘモグロビン増加，血中コレステロール増加，血中トリグリセリド増加 高脂血症，血中ブドウ糖増加，肥満
精神神経系 頭痛 振戦，浮動性眩暈，傾眠，異常な夢，浅眠 感覚減退，健忘，突発的睡眠，ナルコレプシー，過眠症，リビドー亢進，錯乱状態，怒り，不眠症，無感情，末梢ピリピリ感
感覚器 眼痛 眼精疲労，眼圧迫感，視力低下，眼球運動異常，メニエール病，耳鳴
循環器 血圧上昇，高血圧 ほてり，不整脈
呼吸器 低換気
消化器 下痢 悪心，嘔吐，胃不快感，鼓腸，腹部膨満，腹痛，軟便，便秘 口内乾燥，歯間の増大，歯肉腫脹，流涎過多，消化不良，痔核
肝臓 AST増加，ALT増加，トランスアミナーゼ上昇，肝機能検査値異常 肝酵素上昇，血中血中AI－P増加
皮膚 掻痒症，多汗症 顔面腫脹，丘疹，紅斑，紅斑性皮疹，挫傷発生の増加傾向，寝汗，皮膚乾燥，皮膚乾燥・皮膚過敏，皮膚疼痛
筋・骨格系 関節痛 関節炎，筋痛，頚部痛
腎臓 血尿，尿潜血陽性，多尿，蛋白尿，腎機能障害
全身症状 疲労 インフルエンザ様疾患，空腹感，末梢性浮腫，無力症，倦怠感 異常感，創傷治癒不良，発熱，胸部不快感
注射部位 注射部位出血，注射部位反応 注射部位紅斑，注射部位疼痛 注射部位腫脹
その他 体重増加 鼻咽頭炎 挫傷，乳房腫瘤，総蛋白減少
（表終了）

ソマバート皮下注用15mg（15mg1瓶（溶解液付））

外 注射 自注 流通
劇

【YJコード】2499409D2029
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】ペグビソマント（遺伝子組換え）
【メーカー】製）ファイザー 販）ファイザー製薬
【薬価】10851円/1V
【薬価収載日】2007/03/16
【標榜薬効】成長ホルモン受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記のIGF－I（ソマトメジン－C）分泌過剰状態・諸症状の改善
先端巨大症（外科的処置，他剤による治療で効果不十分時又は施行困難な時）
【用法用量】成人 初日 40mg 1日1回 皮下注。2日目以降 1回10mg 1日1回 投与。血清中IGF－I値及び症状に応じ 5mgずつ適宜増減，1日30mgまで。
注意
1．4～8週間隔で血清中IGF－I値を測定し，その値が性別・年齢別正常値内に収まる範囲で投与量の調整を行う。
2．初期維持用量での投与時・継続治療中に最低用量まで減量しても，血清中IGF－I値が正常範囲の下限を下回った場合は，休薬・投与中止を考慮。
3．3ヵ月以上投与しても，血清中IGF－I値の正常化が認められずかつ血清中IGF－I値の低下傾向も認められない時は，投与中止を考慮。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 アナフィラキシー様反応
血液 出血傾向 白血球増加症，血小板数減少，白血球数減少
代謝異常 糖尿病，低血糖症，限局性皮下脂肪貯留，グリコヘモグロビン増加，血中コレステロール増加，血中トリグリセリド増加 高脂血症，血中ブドウ糖増加，肥満
精神神経系 頭痛 振戦，浮動性眩暈，傾眠，異常な夢，浅眠 感覚減退，健忘，突発的睡眠，ナルコレプシー，過眠症，リビドー亢進，錯乱状態，怒り，不眠症，無感情，末梢ピリピリ感
感覚器 眼痛 眼精疲労，眼圧迫感，視力低下，眼球運動異常，メニエール病，耳鳴
循環器 血圧上昇，高血圧 ほてり，不整脈
呼吸器 低換気
消化器 下痢 悪心，嘔吐，胃不快感，鼓腸，腹部膨満，腹痛，軟便，便秘 口内乾燥，歯間の増大，歯肉腫脹，流涎過多，消化不良，痔核
肝臓 AST増加，ALT増加，トランスアミナーゼ上昇，肝機能検査値異常 肝酵素上昇，血中血中AI－P増加
皮膚 掻痒症，多汗症 顔面腫脹，丘疹，紅斑，紅斑性皮疹，挫傷発生の増加傾向，寝汗，皮膚乾燥，皮膚乾燥・皮膚過敏，皮膚疼痛
筋・骨格系 関節痛 関節炎，筋痛，頚部痛
腎臓 血尿，尿潜血陽性，多尿，蛋白尿，腎機能障害
全身症状 疲労 インフルエンザ様疾患，空腹感，末梢性浮腫，無力症，倦怠感 異常感，創傷治癒不良，発熱，胸部不快感
注射部位 注射部位出血，注射部位反応 注射部位紅斑，注射部位疼痛 注射部位腫脹
その他 体重増加 鼻咽頭炎 挫傷，乳房腫瘤，総蛋白減少
（表終了）

ディナゲスト錠0．5mg（0．5mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2499010F3026
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】ジエノゲスト
【メーカー】製）持田製薬
【薬価】86.1円/1T
【薬価収載日】2020/05/27
【標榜薬効】月経困難症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】月経困難症
【用法用量】成人 1日1mg 1日2回 分割 月経周期2～5日目から内服。
注意
妊娠していないことを確認，必ず月経周期2～5日目から開始。治療期間中は非ホルモン性の避妊をさせる。

■禁忌
【禁忌】1．診断未確定の異常性器出血。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．高度の子宮腫大・重度の貧血。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な不正出血（頻度不明），重度の貧血（頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，血管浮腫，蕁麻疹，掻痒感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 3%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 頭痛 ほてり，眩暈，不眠，動悸 不安，抑うつ，発汗
子宮 不正出血（93．8%） 腹痛
乳房 乳房緊満感 乳房痛 乳汁分泌
皮膚 外陰部かぶれ・かゆみ ざ瘡，脱毛 皮膚乾燥
精神神経系 傾眠 いらいら感，しびれ感 片頭痛
過敏症 発疹等 掻痒感
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・ビリルビン上昇等の肝機能検査値異常
消化器 悪心，腹痛，便秘，胃部不快感，下痢，口内炎 腹部膨満感，嘔吐
血液 貧血，白血球減少
筋骨格系 関節痛 背部痛，肩こり，骨塩量低下
その他 倦怠感 浮腫，耳鳴，体重増加 疲労，発熱，血糖値上昇，コレステロール上昇
（表終了）

デソパン錠60mg（60mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2499008F1034
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】トリロスタン
【メーカー】製）持田製薬
【薬価】401.8円/1T
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン合成阻害剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 特発性アルドステロン症
2. 手術適応でない原発性アルドステロン症，クッシング症候群
上記のアルドステロン，コルチゾール分泌過剰状態の改善，それに伴う諸症状の改善
注意
手術適応とならないクッシング症候群
下垂体性ACTH過剰分泌によるクッシング症候群（クッシング病）には，原疾患の治療も考慮。
【用法用量】成人　初期量　1日240mg（本剤　4錠）　1日3～4回　分割　内服。維持量　1日240～480mg（本剤　4～8錠）　1日3～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～10%未満
肝臓 AST・ALT・AI－P・γ－GTPの上昇等
過敏症 発疹・紅斑，潮紅，掻痒感等
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃・腹部不快感，胸やけ，下痢，口渇等
その他 倦怠感，眠気，脱毛，関節痛
（表終了）

バクスミー点鼻粉末剤3mg（3mg1瓶）
外　外用　流通
劇

【YJコード】2492700R1022
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】グルカゴン
【メーカー】製)グローバルレギュラトリーパートナーズ　販)日本イーライリリー
【薬価】8368.6円/1V
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】低血糖時救急治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】低血糖時の救急処置
注意
グルカゴンの血糖上昇作用は，肝グリコーゲンの分解による，飢餓状態，副腎機能低下症，頻発する低血糖，一部糖原病，肝硬変等，血糖上昇効果は殆どない。アルコール性低血糖は，血糖上昇効果はない。
【用法用量】1回3mg　鼻腔内投与。

■禁忌
【禁忌】1. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。

フィアスプ注 フレックスタッチ（300単位1キット）
外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492415G7021
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　アスパルト（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1529円/1kit
【薬価収載日】2019/11/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】超速効型インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤。
成人　初期　1回2～20単位　毎食事開始時　皮下注。必要時　食事開始後の投与もできる。適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～100単位。
小児　毎食事開始時　皮下注。必要時　食事開始後の投与もできる。適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日0．5～1．5単位／kg。
注意
1. ノボラピッド注より作用発現が速いため，食事開始時（開始前の2分以内）に投与。食事開始後の投与時は，食事開始から20分以内に投与。食事開始後の投与は，血糖コントロールや低血糖の発現に関する臨床試験成績を踏まえ，状況により判断。
2. 他の追加インスリン製剤から本剤へ切りかえる時，前治療で使用していた製剤と同じ単位数を目安として投与開始し，切りかえ時・その後の数週間は血糖コントロールのモニタリングを行う。
3. 小児 インスリン治療開始時の初期量は，個別に決定。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. アナフィラキシーショック（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．2～3%未満 頻度不明
免疫系障害　過敏症
代謝・栄養障害　抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
眼障害 糖尿病網膜症の顕在化・増悪
皮膚・皮下組織障害 リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），アレルギー性皮膚疾患（発疹，蕁麻疹，掻痒等）皮膚アミロイドーシス
全身障害・投与部位状態 注射部位／注入部位反応
（表終了）

プロペシア錠1mg（1mg1錠）
外　内服　流通
劇

【YJコード】249900XF2028
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】フィナステリド
【メーカー】製)オルガノン
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】男性型脱毛症の進行遅延
注意
1. 男性型脱毛症のみの適応。他の脱毛症への適応はない。
2. 20歳未満の安全性・有効性は未確立。
3. 女性への適応はない。
【用法用量】成人　1回0．2mg　1日1回　内服。適宜増量，1日1mgまで。
注意
効果が確認できるまで6ヵ月の連日投与が必要。効果持続のためには継続的に服用。増量による効果の増強は，未確認。
6ヵ月以上投与しても男性型脱毛症の進行遅延なければ，投薬中止。
6ヵ月以上の投与時も定期的に効果を確認し，継続投与の必要性を検討。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒症，蕁麻疹，発疹，血管浮腫（口唇，舌，咽喉，顔面腫脹含む）
生殖器 リビドー減退 勃起機能不全，射精障害，精液量減少 睾丸痛，血精液症，男性不妊症・精液の質低下（精子濃度減少，無精子症，精子運動性低下，精子形態異常等）
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　乳房圧痛，乳房肥大，抑うつ症状，眩暈
（表終了）

ボンゾール錠100mg（100mg1錠）
外　内服　流通

【YJコード】2499007F1021
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】ダナゾール
【メーカー】製)田辺三菱製薬　販)三菱ウェルファーマ　販)三菱東京製薬

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】100円/1T
【薬価収載日】1996/07/05
【標榜薬効】子宮内膜症・乳腺症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】子宮内膜症，乳腺症
【用法用量】子宮内膜症
成人　1日200～400mg　1日2回　分割　月経周期第2～5日より約4ヵ月間連続　内服。適宜増量。
乳腺症
成人　1日200mg　1日2回　分割　月経周期第2～5日より　4～6週間連続　内服。
注意
女性胎児の男性化の可能性，下記に注意。
(1). 投与開始は妊娠してないことを確認し，必ず月経周期第2～5日より行う。
(2). 治療期間中はホルモン剤以外で避妊。

■禁忌
【禁忌】1. 血栓症の既往。
2. アンチトロンビンIII，プロテインC，プロテインS等の凝固制御因子の欠損・減少。
3. 重篤な肝障害，肝疾患。
4. 重篤な心疾患。
5. 重篤な腎疾患。
6. ポルフィリン症。
7. アンドロゲン依存性腫瘍。
8. 診断未確定の異常性器出血。
9. 妊婦・妊娠の可能性。
10. 授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓症(頻度不明)(脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症，網膜血栓症等)。
2. 心筋梗塞(頻度不明)。
3. 劇症肝炎(頻度不明)。
4. 肝腫瘍，肝臓紫斑病(肝ペリオーシス)(各頻度不明)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 0. 5～10%未満 0. 5%未満 頻度不明
肝臓 ALT上昇(13. 53%) LDH上昇，AST上昇 黄疸，Al－P上昇 γ－GTP上昇
皮膚 ざ瘡(16. 25%) 発疹，色素沈着，皮脂の分泌増加 脱毛，紅斑(多形滲出性紅斑等)，はだあれ，蕁麻疹，点状出血 光線過敏症
男性化現象　嗄声，多毛 陰核肥大
電解質代謝 浮腫(10. 31%) 体重増加
子宮　性器出血 帯下の増加，無月経
乳房　乳房変化(乳房縮小，乳頭痛等)
血液　白血球減少 白血球増多，赤血球増多，血小板増多，血小板減少
消化器　悪心・嘔吐，胃不快感，胃痛，便秘，食欲亢進 下痢，食欲不振，口内炎，口渇
筋肉　筋肉痛，関節痛，しびれ，肩こり 筋拘縮，痙攣，四肢の感覚異常 手根管症候群，CK上昇
精神神経系　神経過敏，頭痛，眩暈，倦怠感 眠気，耳鳴，不眠，精神不安 良性頭蓋内圧亢進(頭痛，悪心・嘔吐，一過性視力障害・複視)，抑うつ
低エストロゲン症状　熱感 掻痒，発汗，顔面潮紅，腟炎，乾燥感
その他　心悸亢進，眼精疲労，味覚異常，性欲減退，性欲亢進，コレステロール上昇 耐糖能の異常，立ちくらみ，血圧上昇
(表終了)

マンジャロ皮下注10mgアテオス（10mg 0. 5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G4023
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】(製)日本イーライリリー　販)田辺三菱製薬
【薬価】7696円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2. 5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2. 5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1. 本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2. 忘れた時は，次回投与まで3日間(72時間)以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間(72時間)未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間(72時間)以上間隔をあける。
3. 胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4. 本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3. 重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(頻度不明)(脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等)。
重篤な低血糖症状，意識消失(インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用)。
2. 急性膵炎(0. 1%未満)(嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等)。
3. 胆嚢炎(頻度不明)，胆管炎(0. 1%未満)，胆汁うっ滞性黄疸(頻度不明)。
4. アナフィラキシー，血管性浮腫(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応(紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等)
免疫系　過敏症(湿疹，発疹，掻痒性皮疹等)
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
(表終了)

マンジャロ皮下注12. 5mgアテオス（12. 5mg0. 5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G5020
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】(製)日本イーライリリー　販)田辺三菱製薬
【薬価】9620円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2. 5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2. 5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1. 本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2. 忘れた時は，次回投与まで3日間(72時間)以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間(72時間)未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間(72時間)以上間隔をあける。
3. 胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4. 本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3. 重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(頻度不明)(脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動

2 個々の器官系用医薬品

悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%未満）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎（頻度不明），胆管炎（0．1%未満），胆汁うっ滞性黄疸（頻度不明）。
4．アナフィラキシー，血管性浮腫（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応（紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等）
免疫系　過敏症（湿疹，発疹，掻痒性皮疹等）
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
（表終了）

マンジャロ皮下注15mgアテオス（15mg0．5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G6026
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】製）日本イーライリリー　販）田辺三菱製薬
【薬価】11544円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2．5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2．5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2．忘れた時は，次回投与まで3日間（72時間）以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間（72時間）未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間（72時間）以上間隔をあける。
3．胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4．本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%未満）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎（頻度不明），胆管炎（0．1%未満），胆汁うっ滞性黄疸（頻度不明）。
4．アナフィラキシー，血管性浮腫（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応（紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等）
免疫系　過敏症（湿疹，発疹，掻痒性皮疹等）
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
（表終了）

マンジャロ皮下注2．5mgアテオス（2．5mg0．5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G1024
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】製）日本イーライリリー　販）田辺三菱製薬
【薬価】1924円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2．5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2．5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2．忘れた時は，次回投与まで3日間（72時間）以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間（72時間）未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間（72時間）以上間隔をあける。
3．胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4．本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%未満）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎（頻度不明），胆管炎（0．1%未満），胆汁うっ滞性黄疸（頻度不明）。
4．アナフィラキシー，血管性浮腫（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応（紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等）
免疫系　過敏症（湿疹，発疹，掻痒性皮疹等）
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
（表終了）

マンジャロ皮下注5mgアテオス（5mg0．5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G2020
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】製）日本イーライリリー　販）田辺三菱製薬
【薬価】3848円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意

2 個々の器官系用医薬品

食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2．5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2．5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2．忘れた時は，次回投与まで3日間（72時間）以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間（72時間）未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間（72時間）以上間隔をあける。
3．胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4．本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%未満）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎（頻度不明），胆管炎（0．1%未満），胆汁うっ滞性黄疸（頻度不明）。
4．アナフィラキシー，血管性浮腫（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応（紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等）
免疫系　過敏症（湿疹，発疹，掻痒性皮疹等）
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
（表終了）

マンジャロ皮下注7．5mgアテオス（7．5mg0．5mL1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499422G3027
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】チルゼパチド
【メーカー】製）日本イーライリリー　販）田辺三菱製薬
【薬価】5772円/1kit
【薬価収載日】2023/03/15
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GIP／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　週1回5mg　皮下注。週1回2．5mgから開始し，4週間投与後，週1回5mgに増量。
適宜増減，週1回5mgで効果不十分時，4週間以上の間隔で2．5mgずつ増量できる。最大週1回15mgまで。
注意
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与させる。
2．忘れた時は，次回投与まで3日間（72時間）以上であれば，気づいた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間（72時間）未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間（72時間）以上間隔をあける。
3．胃腸障害等の発現により忍容性がなければ減量・漸増の延期を考慮。
4．本剤投与による用量依存的な体重減少があるため，血糖コントロールだけでなく，体重減少にも注意し，増量の必要性を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%未満）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎（頻度不明），胆管炎（0．1%未満），胆汁うっ滞性黄疸（頻度不明）。
4．アナフィラキシー，血管性浮腫（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
循環器　心拍数増加，低血圧，血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，便秘，腹痛，消化不良，食欲減退 腹部膨満，胃食道逆流性疾患，おくび 鼓腸
肝胆道　胆石症
眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応（紅斑，掻痒感，疼痛，腫脹等）
免疫系　過敏症（湿疹，発疹，掻痒性皮疹等）
精神神経系　味覚不全，異常感覚
臨床検査　膵アミラーゼ増加，リパーゼ増加，体重減少
その他　疲労
（表終了）

ランタス注ソロスター（300単位1キット）

外　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492416G2024
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　グラルギン（遺伝子組換え）
【メーカー】製）サノフィ
【薬価】1049円/1kit
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人　初期　1回4～20単位　1日1回　朝食前又は就寝前（定刻）　皮下注。ときに他のインスリン製剤を併用。
適宜増減。その他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1．作用時間，1mLあたりのインスリン含有単位と患者の病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急の時，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
3．中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時
下記を参考に投与を開始し，適宜増減等，作用特性を考慮。
（1）．インスリン　グラルギン300単位／mL製剤から本剤に変更時
初期量は，前治療のインスリン　グラルギン300単位／mL製剤の1日量と同単位よりも低用量を目安として投与を開始。
（2）．インスリン　グラルギン300単位／mL製剤以外の中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時
［1］．1日1回投与の中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は，前治療の中間型又は持続型インスリン製剤の1日量と同単位を目安として投与を開始。
［2］．1日2回投与の中間型インスリン製剤から本剤への切りかえは，国内では使用経験なし。
4．インスリン　グラルギン300単位／mL製剤又は中間型インスリン製剤から本剤への切りかえ直後に低血糖あり。中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時，併用している速効型インスリン製剤，超速効型インスリンアナログ製剤又は他の糖尿病用薬の投与量及び投与スケジュールの調整が必要。
5．インスリン製剤以外の他の糖尿病用薬から本剤に変更する場合又はインスリン製剤以外の他の糖尿病用薬と本剤を併用時 低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮。
6．本剤の作用は皮下注で，ピークを示さず，ほぼ24時間持続することから，他のインスリン製剤からの切りかえ時等，低血糖発現状態の変化に注意。

■禁忌
【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分・他のインスリン　グラルギン製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（0．7%）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，

2 個々の器官系用医薬品

集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（全身性皮膚反応，血管神経性浮腫，気管支痙攣，低血圧等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，掻痒感
肝臓　肝機能異常（AST，ALTの上昇等）
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪
注射部位 浮腫，疼痛，掻痒感，硬結 発赤，蕁麻疹，腫脹，炎症，リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
その他　ナトリウム貯留，浮腫
（表終了）

リベルサス錠14mg（14mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499014F3024
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】セマグルチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】488.5円/1T
【薬価収載日】2020/11/18
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　1回7mg　1日1回　内服。1回3mg　1日1回から開始し，4週間以上投与後，1回7mg　1日1回に増量。適宜増減，4週間以上投与しても効果不十分時，1回14mg　1日1回まで。
注意
1．本剤の吸収は胃の内容物により低下，1日の最初の食事・飲水前に，空腹でコップ約半分の水（約120mL以下）とともに1錠内服。服用時・服用後最低30分は，飲食・他剤の内服を避ける。分割・粉砕・かみ砕いて内服しない。
2．14mgを投与時は，7mg錠を2錠投与は避ける。
3．投与を忘れた時はその日は投与せず，翌日投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．5～1%未満 頻度不明
免疫系障害　過敏症（発疹，蕁麻疹等）
代謝・栄養障害　食欲減退
神経系障害　頭痛 浮動性眩暈，味覚異常
眼障害　糖尿病網膜症
心臓障害　心拍数増加
胃腸障害 悪心，下痢 便秘，嘔吐，腹部不快感，腹痛，消化不良，上腹部痛，腹部膨満，胃食道逆流性疾患 鼓腸，胃炎，おくび 胃排出遅延
肝胆道系障害　胆石症
全身障害・投与部位状態　疲労，無力症
臨床検査　リパーゼ増加 体重減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，アミラーゼ増加
（表終了）

リベルサス錠3mg（3mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499014F1021
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】セマグルチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】139.6円/1T
【薬価収載日】2020/11/18
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　1回7mg　1日1回　内服。1回3mg　1日1回から開始し，4週間以上投与後，1回7mg　1日1回に増量。適宜増減，4週間以上投与しても効果不十分時，1回14mg　1日1回まで。
注意
1．本剤の吸収は胃の内容物により低下，1日の最初の食事・飲水前に，空腹でコップ約半分の水（約120mL以下）とともに1錠内服。服用時・服用後最低30分は，飲食・他剤の内服を避ける。分割・粉砕・かみ砕いて内服しない。
2．14mgを投与時は，7mg錠を2錠投与は避ける。
3．投与を忘れた時はその日は投与せず，翌日投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．急性膵炎（0．1%）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3．胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．5～1%未満 頻度不明
免疫系障害　過敏症（発疹，蕁麻疹等）
代謝・栄養障害　食欲減退
神経系障害　頭痛 浮動性眩暈，味覚異常
眼障害　糖尿病網膜症
心臓障害　心拍数増加
胃腸障害 悪心，下痢 便秘，嘔吐，腹部不快感，腹痛，消化不良，上腹部痛，腹部膨満，胃食道逆流性疾患 鼓腸，胃炎，おくび 胃排出遅延
肝胆道系障害　胆石症
全身障害・投与部位状態　疲労，無力症
臨床検査　リパーゼ増加 体重減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，アミラーゼ増加
（表終了）

リベルサス錠7mg（7mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499014F2028
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】セマグルチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】325.7円/1T
【薬価収載日】2020/11/18
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　1回7mg　1日1回　内服。1回3mg　1日1回から開始し，4週間以上投与後，1回7mg　1日1回に増量。適宜増減，4週間以上投与しても効果不十分時，1回14mg　1日1回まで。
注意
1．本剤の吸収は胃の内容物により低下，1日の最初の食事・飲水前に，空腹でコップ約半分の水（約120mL以下）とともに1錠内服。服用時・服用後最低30分は，飲食・他剤の内服を避ける。分割・粉砕・かみ砕いて内服しない。
2．14mgを投与時は，7mg錠を2錠投与は避ける。
3．投与を忘れた時はその日は投与せず，翌日投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常等）。

重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2. 急性膵炎（0. 1%）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
3. 胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0. 5～1%未満 頻度不明
免疫系障害　過敏症（発疹，蕁麻疹等）
代謝・栄養障害　食欲減退
神経系障害　頭痛 浮動性眩暈，味覚異常
眼障害　糖尿病網膜症
心臓障害　心拍数増加
胃腸障害 悪心，下痢 便秘，嘔吐，腹部不快感，腹痛，消化不良，上腹部痛，腹部膨満，胃食道逆流性疾患 鼓腸，胃炎，おくび 胃排出遅延
肝胆道系障害　胆石症
全身障害・投与部位状態　疲労，無力症
臨床検査　リパーゼ増加 体重減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，アミラーゼ増加
（表終了）

レルミナ錠40mg（40mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】2499013F1027
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】レルゴリクス
【メーカー】製)あすか製薬　販)武田薬品工業
【薬価】858.1円/1T
【薬価収載日】2019/02/26
【標榜薬効】GnRHアンタゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】子宮筋腫の下記の改善
過多月経，下腹痛，腰痛，貧血
子宮内膜症による疼痛の改善
注意
子宮筋腫
根治療法でない。手術適応患者の手術までの保存療法，閉経前の保存療法として適用。
【用法用量】成人　1回40mg　1日1回　食前　内服。初回　月経周期1～5日目に行う。
注意
1. 妊娠していないことを確認，必ず月経周期1～5日目から開始。治療期間中は非ホルモン性の避妊をさせる。
2. エストロゲン低下作用による骨塩量の低下の可能性，6ヵ月を超える投与は行わない（安全性は未確立）。長期投与・再投与時は，骨塩量の検査を実施。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
2. 診断未確定の異常性器出血。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 更年期障害様のうつ状態（1%未満）。
2. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等）。
3. 狭心症（1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 ほてり（43. 0%），頭痛，多汗 眩暈，不眠，閉経期症状
女性生殖器 不正出血（46. 8%），月経異常（15. 5%） 外陰膣炎
筋・骨格系 骨吸収試験異常 関節痛，手指等のこわばり，骨塩量の低下 血清リン上昇
皮膚　脱毛 発疹，ざ瘡，蕁麻疹
精神神経系　眠気，しびれ 抑うつ気分
肝臓　AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇，肝機能異常　血中ビリルビン上昇
消化器　悪心，下腹部痛 下痢，嘔吐
その他　倦怠感，総コレステロール上昇，浮腫 動悸，LDLコレステロール上昇，高脂血症，疲労 高血圧
（表終了）

2. 5　泌尿生殖器官及び肛門用薬

2. 5. 4　避妊剤

アンジュ21錠（（21日分）1組）

外　内服　流通

【YJコード】254910BF3058
【薬効分類】2. 5. 4　避妊剤
【一般名】レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール
【メーカー】製)あすか製薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】避妊
注意
経口避妊剤使用開始1年間の飲み忘れを含めた一般的使用で失敗率は9%との報告あり。
【用法用量】1周期目　1日1錠　定刻に　赤褐色錠から開始。指定の順番で　21日間連続　内服，7日間休薬。
2周期目　1周期服用開始29日目より1周期目と同様に赤褐色錠から1日1錠　21日間連続　内服，7日間休薬。
3周期目以降　2周期目と同様。
注意
1. 定刻に服用。
2. 服用開始日 経口避妊剤を初めて服用の時，月経第1日目から服用を開始。服用開始日が月経第1日目から遅れた時，飲みはじめの最初の1週間は他の避妊法を併用。
3. 飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。万一飲み忘れた時（28錠製剤の赤色錠除く），翌日までに気づけば，直ちに飲み忘れた錠剤を服用し，その日の錠剤も定刻に服用。
2日以上連続して飲み忘れた時は服用中止，次の月経を待ち投与再開。飲み忘れにより妊娠する可能性が高くなるので，その周期は他の避妊法を使用。
4. 他の経口避妊剤から本剤に切りかえ時
（1）. 21錠タイプから切りかえ時
前に服用していた薬剤をすべて服用し7日間の休薬の後，続けて本剤を開始。服用開始が遅れた時，妊娠の可能性。
（2）. 28錠タイプから切りかえ時
前に服用していた薬剤をすべて服用後，続けて本剤を開始。服用開始が遅れた時，妊娠の可能性。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏性素因。
2. エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・子宮頸癌・その疑い。
3. 診断未確定の異常性器出血。
4. 血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5. 35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6. 前兆（閃輝暗点，星型閃光等）を伴う片頭痛。
7. 肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8. 血管病変を伴う糖尿病（糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等）。
9. 血栓性素因。
10. 抗リン脂質抗体症候群。
11. 術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12. 重篤な肝障害。
13. 肝腫瘍。
14. 脂質代謝異常。
15. 高血圧（軽度の高血圧除く）。
16. 耳硬化症。
17. 妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18. 妊婦・妊娠の可能性。
19. 授乳婦。
20. 骨成長が終了していない可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
血栓症（四肢，肺，心，脳，網膜等）（0. 1%未満）（下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症　発疹
眼　網膜血流障害による視力障害
肝臓　肝機能異常 黄疸等
電解質代謝　浮腫，体重増加
子宮　不正性器出血（破綻出血，点状出血），白帯下，下腹部痛 経血量変化，カンジダ膣炎
乳房　乳汁分泌，乳房痛，乳房緊満感，乳房萎縮，乳房腫大
循環器　血圧上昇，動悸
消化器 悪心，嘔吐 下痢，食欲不振，胃痛，便秘 口渇，口内炎，腹痛，食欲亢進
精神神経系 頭痛 眠気，神経過敏，眩暈 抑うつ
皮膚　ざ瘡 色素沈着
その他　肩こり，腰痛，倦怠感 冷感，しびれ，代償性鼻出血，熱感，総コレステロール上昇，トリグリセリド上昇
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

シンフェーズT28錠（(28日分)1組）

外 内服 流通

【YJコード】254910AF1042
【薬効分類】2．5．4 避妊剤
【一般名】ノルエチステロン・エチニルエストラジオール
【メーカー】製)科研製薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】避妊
注意
経口避妊剤使用開始1年間の飲み忘れを含めた一般的使用で失敗率は9%との報告あり。
【用法用量】1周期目 1日1錠 定刻に 淡青色錠から開始。指定の順番で 28日間連続 内服。
2周期目 1周期服用開始29日目より1周期目と同様に淡青色錠から1日1錠 28日間連続 内服。
3周期目以降 2周期目と同様。
注意
1．定刻に服用。
2．服用開始日 経口避妊剤を初めて服用の時，月経が始まった次の日曜日から(月経が日曜日に始まった場合は，その日から)服用を開始。この時，飲みはじめの最初の1週間は他の避妊法を併用。
3．飲み忘れ等がないよう服用方法を指導。万一飲み忘れた時(だいだい色錠除く)，翌日までに気づけば，直ちに飲み忘れた錠剤を服用し，その日の錠剤も通常どおりに服用。
2日以上連続して飲み忘れた時は服用中止，次の月経を待ち投与再開。飲み忘れにより妊娠する可能性が高くなるので，その周期は他の避妊法を使用。
4．他の経口避妊剤から本剤に切りかえ時
(1)．21錠タイプから切りかえ時
前に服用していた薬剤をすべて服用し7日間の休薬中の日曜日から開始。服用開始が遅れた時，妊娠の可能性。
(2)．28錠タイプから切りかえ時
前に服用していた薬剤のプラセボ錠服用中の日曜日から開始。服用開始が遅れた時，妊娠の可能性。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏性素因。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍(例 乳癌，子宮内膜癌)・子宮頸癌・その疑い。
3．診断未確定の異常性器出血。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・脳血管障害・冠動脈疾患・その既往。
5．35歳以上で1日15本以上の喫煙者。
6．前兆(閃輝暗点，星型閃光等)を伴う片頭痛。
7．肺高血圧症・心房細動を合併する心臓弁膜症，亜急性細菌性心内膜炎の既往のある心臓弁膜症。
8．血管病変を伴う糖尿病(糖尿病性腎症，糖尿病性網膜症等)。
9．血栓性素因。
10．抗リン脂質抗体症候群。
11．術前4週以内，術後2週以内，産後4週以内，長期間安静状態。
12．重篤な肝障害。
13．肝腫瘍。
14．脂質代謝異常。
15．高血圧(軽度の高血圧除く)。
16．耳硬化症。
17．妊娠中に黄疸，持続性掻痒症，妊娠ヘルペスの既往。
18．妊婦・妊娠の可能性。
19．授乳婦。
20．骨成長が終了していない可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓症(四肢，肺，心，脳，網膜等)(頻度不明)(下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等)。
2．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫，掻痒感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
眼 網膜血流障害による視力障害
肝臓 黄疸，肝機能異常
電解質代謝 浮腫，体重増加
子宮 不正性器出血(破綻出血，点状出血)(17．2%) 無月経，月経困難症，月経過多
乳房 乳房痛，乳房緊満感
循環器 血圧上昇
消化器 悪心 嘔吐，食欲不振，腹痛，下痢，便秘，口内炎
精神神経系 頭痛，倦怠感，眠気，眩暈 抑うつ
皮膚 ざ瘡 色素沈着
その他 トリグリセリド上昇，血小板数増加 しびれ感
(表終了)

2．5．5 痔疾用剤

ボラザG軟膏（1g）

外 外用 流通

【YJコード】2559813M1021
【薬効分類】2．5．5 痔疾用剤
【一般名】トリベノシド・リドカイン
【メーカー】製)天藤製薬 販)武田薬品工業
【薬価】28.2円/1g
【薬価収載日】1995/07/01
【標榜薬効】痔疾用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．痔核に伴う症状(出血，疼痛，腫脹)の緩解
2．裂肛に伴う症状(出血，疼痛)の緩解，裂創上皮化の促進
【用法用量】内痔核
1回1容器分(トリベノシド 200mg，リドカイン 40mg) 1日2回 朝・夕 肛門内注入。適宜回数増減。
裂肛，外痔核
1日2回 朝・夕 塗布・注入。適宜回数増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．トリベノシド・アニリド系局所麻酔剤(リドカイン等)に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(顔面浮腫，蕁麻疹，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感，局所の刺激感 接触性皮膚炎
消化器 下痢，嘔気
循環器 動悸
(表終了)

2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬

イミダフェナシンOD錠0．1mg「トーワ」（0．1mg1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】2590013F2104
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】イミダフェナシン
【先発品】ウリトスOD錠0．1mg，ステーブラOD錠0．1mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】16.3円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】過活動膀胱治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患(尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等)に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患(前立腺肥大症等)の合併では，その治療を優先。
3．過活動膀胱を認識できない認知症・認知機能障害は対象外。
【用法用量】成人 1回0．1mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
効果不十分時 1回0．2mg 1日0．4mgまで。
注意
1．1回0．1mgを1日2回投与し，効果不十分で安全性に問題がない場合に増量を検討。1回0．2mg1日2回で投与開始時の有効性・安全性は未確立。
2．中等度以上の肝障害 1回0．1mgを1日2回投与。
3．重度の腎障害 1回0．1mgを1日2回投与。

■禁忌

【禁忌】1．尿閉。
2．幽門・十二指腸・腸管閉塞，麻痺性イレウス。
3．消化管運動・緊張の低下。
4．閉塞隅角緑内障。
5．重症筋無力症。
6．重篤な心疾患。
7．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

2 個々の器官系用医薬品

【副作用】重大な副作用
1. 急性緑内障(0. 06%), 眼圧亢進。
2. 尿閉(頻度不明)。
3. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, ビリルビンの上昇等)。
4. 麻痺性イレウス(頻度不明)(著しい便秘, 腹部膨満感等)。
5. 幻覚・せん妄(頻度不明)。
6. QT延長, 心室性頻拍(各頻度不明)(房室ブロック, 徐脈等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒等
精神神経系 眠気, 味覚異常, 眩暈, 頭痛 しびれ
消化器 便秘 胃・腹部不快感, 悪心, 腹痛, 腹部膨満, 下痢, 食欲不振, 消化不良, 胃炎, 嘔吐, 口唇乾燥, 異常便, 口内炎
循環器 動悸, 期外収縮, 血圧上昇
呼吸器 咽喉頭疼痛, 咳嗽, 咽喉乾燥, 嗄声
血液 赤血球減少, 白血球減少, 血小板減少
泌尿器・腎臓 排尿困難, 残尿, 尿中白血球・赤血球陽性, 尿路感染(膀胱炎, 腎盂腎炎等), 尿中蛋白陽性, クレアチニン増加
眼 羞明, 霧視, 眼の異常感, 眼球乾燥, 眼精疲労, 眼瞼浮腫, 複視
肝臓 γ－GTP, AI－P, AST, ALT, ビリルビンの上昇
その他 口渇・口内乾燥 (33. 1%) トリグリセリド増加, 浮腫, LDH増加, 血中尿酸上昇, 倦怠感, コレステロール増加, 胸痛, 背部痛, 脱力感, 皮膚乾燥
(表終了)

ザルティア錠2. 5mg (2. 5mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2590016F1020
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】タダラフィル
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】51.2円/1T
【薬価収載日】2014/04/17
【標榜薬効】前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
1. 前立腺肥大症の診断・診療に関する国内外のガイドライン等の最新情報を参考に, 適切な検査で診断を確定。
2. 原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 内服。
注意
1. 中等度の腎障害 血漿中濃度上昇のおそれ。1日1回2. 5mgから開始等も考慮。
2. CYP3A4を強く阻害する薬剤の投与患者 1日1回2. 5mgから開始し, 5mgへ増量。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 硝酸剤・一酸化窒素供与剤(ニトログリセリン, 亜硝酸アミル, 硝酸イソソルビド, ニコランジル等)の投与患者。
3. 可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤(リオシグアト)の投与患者。
4. 下記の心血管系障害
(1). 不安定狭心症。
(2). 心不全(NYHA分類Ⅲ度以上)。
(3). コントロール不良の不整脈, 低血圧(血圧＜90／50mmHg), コントロール不良の高血圧(安静時血圧＞170／100mmHg)。
(4). 最近3ヵ月以内に心筋梗塞の既往。
(5). 最近6ヵ月以内に脳梗塞・脳出血の既往。
5. 重度の腎障害。
6. 重度の肝障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
過敏症(頻度不明)(発疹, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 剥脱性皮膚炎, Stevens－Johnson症候群等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 動悸, ほてり, 潮紅 心筋梗塞, 胸痛, 心突然死, 失神, 低血圧
感覚器 眼痛, 霧視, 結膜充血, 網膜動脈閉塞, 網膜静脈閉塞, 眼瞼腫脹, 視野欠損, 非動脈炎性前部虚血性視神経症, 突発性難聴, 中心性漿液性脈絡網膜症
消化器 消化不良 胃食道逆流性疾患, 下痢, 胃炎 腹痛
腎臓 腎クレアチニンクリアランス減少
筋骨格 筋肉痛, 背部痛 四肢痛
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈 片頭痛, 脳卒中
泌尿・生殖器 勃起増強, 自発陰茎勃起 持続勃起症, 勃起の延長
呼吸器 呼吸困難, 鼻出血
皮膚 多汗症
その他 CK上昇
(表終了)

シアリス錠20mg (20mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2590016F7029
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】タダラフィル
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】1300.6円/1T
【薬価収載日】2022/04/01
【標榜薬効】勃起不全治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】勃起不全(満足な性行為に十分な勃起とその維持が出来ない)
注意
1. 勃起不全・その基礎疾患の診断のため, 既往や諸検査を行い, 客観的な診断により臨床上治療が必要な患者のみ。
2. 催淫剤・性欲増進剤ではない。
【用法用量】成人 1回10mg 1日1回 性行為の約1時間前 内服。10mgの投与で効果不十分, 忍容性が良好と判断された器質性又は混合型勃起不全 1回20mgまで。
軽度・中等度の肝障害 1回10mgまで。
いずれも1日1回 投与間隔 24時間以上。
中等度・重度の腎障害 5mgから開始。投与間隔 24時間以上。
中等度の腎障害 最高10mg。10mg投与時 投与間隔 48時間以上。
重度の腎障害 1回5mgまで。
注意
CYP3A4を強く阻害する薬剤の投与患者 低用量(5mg)から開始し, 投与間隔をあける(10mg投与時は投与間隔を48時間以上)等注意。10mgまで。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 硝酸剤・一酸化窒素供与剤(ニトログリセリン, 亜硝酸アミル, 硝酸イソソルビド, ニコランジル等)の投与患者。
3. 可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤(リオシグアト)の投与患者。
4. 心血管系障害を有する等性行為が不適当な患者。
5. 不安定狭心症, 性交中に狭心症の既往。
6. コントロール不良の不整脈, 低血圧(血圧＜90／50mmHg)又はコントロール不良の高血圧(安静時血圧＞170／100mmHg)。
7. 最近3ヵ月以内に心筋梗塞の既往。
8. 最近6ヵ月以内に脳梗塞・脳出血の既往。
9. 重度の肝障害。
10. 網膜色素変性症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
過敏症(頻度不明)(発疹, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 剥脱性皮膚炎, Stevens－Johnson症候群等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 2～1%未満 0. 2%未満 頻度不明
循環器 潮紅 動悸, ほてり 血管拡張, 心拍数増加, 胸痛, 狭心症, 頻脈, 高血圧, 低血圧 心筋梗塞, 心臓突然死, 失神, 起立性低血圧
感覚器 霧視, 眼の充血, 眼の異常感 耳鳴, 視覚障害, 眼痛, 流涙増加, 眼刺激, 結膜充血, 視野欠損, 結膜炎, 乾性角結膜炎, 眼瞼腫脹 色覚変化, 回転性眩暈, 網膜静脈閉塞, 非動脈炎性前部虚血性視神経症, 網膜動脈閉塞, 中心性漿液性脈絡網膜症
消化器 消化不良 上腹部痛, 悪心, 胃食道逆流性疾患, 下痢, 口内乾燥, 胃炎, 嘔吐, 腹痛, 胃(胸部)不快感 便秘, 腹部膨満, 軟便, 胃刺激症状, 嚥下障害 食道炎
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇含む) AI－P上昇
腎臓 腎機能障害, 尿酸値上昇
筋骨格 背部痛, 筋痛, 四肢痛 関節痛, 筋痙攣(筋収縮), 筋骨格痛 筋骨格硬直, 頚部痛, 殿部痛
精神神経系 頭痛 眩暈, 睡眠障害 錯感覚, 傾眠, 不安, 片頭痛 脳卒中, 感覚鈍麻
泌尿・生殖器 排尿困難, 勃起増強, 意図しない勃起 持続勃起症, 勃起の延長
呼吸器 鼻閉 鼻炎, 副鼻腔うっ血 呼吸困難, 喀血 鼻出血, 咽頭炎
皮膚 紅斑, 多汗, 爪囲炎 掻痒症
その他 疲労, 無力症, 疼痛, 体重増加, 倦怠感 熱感, 末梢性浮腫, 粘膜浮腫, 口渇
(表終了)

セルニルトン錠 (1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2590003F1023
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】セルニチンポーレンエキス
【メーカー】製)東菱薬品工業 販)扶桑薬品工業
【薬価】19円/1T

2 個々の器官系用医薬品

【標榜薬効】前立腺疾患治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○慢性前立腺炎
○初期前立腺肥大症による下記
排尿困難，頻尿，残尿・残尿感，排尿痛，尿線細小，会陰部不快感
【用法用量】1回2錠　1日2～3回　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚 発疹，蕁麻疹等の過敏症状
消化器 嘔気，食欲不振，胃部不快感，便秘等
（表終了）

トビエース錠4mg（4mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2590015G1021
【薬効分類】2．5．9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】フェソテロジンフマル酸塩
【メーカー】製)ファイザー　販)ファイザー製薬
【薬価】135円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
神経因性膀胱の排尿管理
注意
過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
3．認知症，認知機能障害で過活動膀胱の自覚症状の把握困難時は，投与対象とならない。
神経因性膀胱の排尿管理
4．本剤の薬理作用（排尿筋の収縮の抑制）を踏まえ，投与の適否を判断。
【用法用量】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿・切迫性尿失禁
成人　1回4mg　1日1回　内服。症状により　1回8mg　1日1回まで。
神経因性膀胱の排尿管理
体重25kg超の小児　開始量　1回4mg　1日1回　内服。投与開始から1週間後以降　状態により　1回8mg　1日1回まで。
注意
重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満），中等度の肝障害（Child－Pugh分類B），強力なチトクロムP450（CYP）3A4阻害薬の投与患者 1日量は4mgとし，8mgへの増量はしない。

■禁忌
【禁忌】1．尿閉。
2．眼圧が調節できない閉塞隅角緑内障。
3．幽門・十二指腸・腸管閉塞，麻痺性イレウス。
4．胃アトニー・腸アトニー。
5．重症筋無力症。
6．重度の肝障害（Child－Pugh分類C）。
7．重篤な心疾患。
8．本剤の成分・酒石酸トルテロジンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．尿閉（2．0%）。
2．血管性浮腫（頻度不明）（顔面浮腫，口唇腫脹，舌腫脹，喉頭浮腫，咽頭腫脹，咽頭浮腫等）。
3．QT延長（頻度不明），心室性頻拍（頻度不明），房室ブロック（頻度不明），徐脈（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 0．3～1%未満 頻度不明
眼障害　眼乾燥 霧視
神経系障害　頭痛，眩暈 傾眠，味覚異常 感覚鈍麻
精神障害　　錯乱状態
心臓障害　心電図QT延長，頻脈，動悸（注）
血管障害　高血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咽喉乾燥 鼻乾燥，咳嗽，口腔咽頭痛，鼻出血
肝胆道系障害　AST増加（注），ALT増加，γ－GTP増加
胃腸障害 口内乾燥（36．5%） 便秘，消化不良，腹痛，悪心，下痢 胃食道逆流性疾患，腹部不快感，腹部膨満，嘔吐，胃炎，鼓腸（注）
腎・尿路障害　排尿困難，尿路感染 膀胱炎，排尿躊躇，尿流量減少，残尿，尿失禁
皮膚・皮下組織障害　皮膚乾燥，発疹，掻痒症 蕁麻疹，血管性浮腫
全身障害・投与局所様態　CK増加，疲労，浮腫
（表終了）
（注）0．3%未満。

トビエース錠8mg（8mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2590015G2028
【薬効分類】2．5．9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】フェソテロジンフマル酸塩
【メーカー】製)ファイザー　販)ファイザー製薬
【薬価】200.8円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
神経因性膀胱の排尿管理
注意
過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
3．認知症，認知機能障害で過活動膀胱の自覚症状の把握困難時は，投与対象とならない。
神経因性膀胱の排尿管理
4．本剤の薬理作用（排尿筋の収縮の抑制）を踏まえ，投与の適否を判断。
【用法用量】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿・切迫性尿失禁
成人　1回4mg　1日1回　内服。症状により　1回8mg　1日1回まで。
神経因性膀胱の排尿管理
体重25kg超の小児　開始量　1回4mg　1日1回　内服。投与開始から1週間後以降　状態により　1回8mg　1日1回まで。
注意
重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満），中等度の肝障害（Child－Pugh分類B），強力なチトクロムP450（CYP）3A4阻害薬の投与患者 1日量は4mgとし，8mgへの増量はしない。

■禁忌
【禁忌】1．尿閉。
2．眼圧が調節できない閉塞隅角緑内障。
3．幽門・十二指腸・腸管閉塞，麻痺性イレウス。
4．胃アトニー・腸アトニー。
5．重症筋無力症。
6．重度の肝障害（Child－Pugh分類C）。
7．重篤な心疾患。
8．本剤の成分・酒石酸トルテロジンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．尿閉（2．0%）。
2．血管性浮腫（頻度不明）（顔面浮腫，口唇腫脹，舌腫脹，喉頭浮腫，咽頭腫脹，咽頭浮腫等）。
3．QT延長（頻度不明），心室性頻拍（頻度不明），房室ブロック（頻度不明），徐脈（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 0．3～1%未満 頻度不明
眼障害　眼乾燥 霧視
神経系障害　頭痛，眩暈 傾眠，味覚異常 感覚鈍麻
精神障害　　錯乱状態
心臓障害　心電図QT延長，頻脈，動悸（注）
血管障害　高血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咽喉乾燥 鼻乾燥，咳嗽，口腔咽頭痛，鼻出血
肝胆道系障害　AST増加（注），ALT増加，γ－GTP増加
胃腸障害 口内乾燥（36．5%） 便秘，消化不良，腹痛，悪心，下痢 胃食道逆流性疾患，腹部不快感，腹部膨満，嘔吐，胃炎，鼓腸（注）
腎・尿路障害　排尿困難，尿路感染 膀胱炎，排尿躊躇，尿流量減少，残尿，尿失禁
皮膚・皮下組織障害　皮膚乾燥，発疹，掻痒症 蕁麻疹，血管性浮腫
全身障害・投与局所様態　CK増加，疲労，浮腫
（表終了）
（注）0．3%未満。

ネオキシテープ73．5mg（73．5mg1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2590700S1025
【薬効分類】2．5．9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】オキシブチニン塩酸塩
【メーカー】製)久光製薬　販)旭化成ファーマ

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】135.1円/1枚
【薬価収載日】2013/05/24
【標榜薬効】経皮吸収型過活動膀胱治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
3．過活動膀胱を認識できない認知症・認知機能障害は対象外。
【用法用量】成人　1回1枚（オキシブチニン塩酸塩　73．5mg）　1日1回　下腹部，腰部，大腿部のいずれかに貼付し　24時間ごと　貼りかえ。

■禁忌

【禁忌】1．尿閉。
2．閉塞隅角緑内障。
3．重篤な心疾患。
4．幽門・十二指腸・腸管閉塞，麻痺性イレウス。
5．胃アトニー・腸アトニー。
6．重症筋無力症。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血小板減少（頻度不明）。
2．麻痺性イレウス（頻度不明）（著しい便秘，腹部膨満等）。
3．尿閉（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 口内乾燥 便秘，上腹部痛，胃炎，下痢，口内炎，口唇炎，消化不良，腹痛
精神神経系　傾眠，浮動性眩暈
泌尿器・腎臓　排尿困難，膀胱炎，残尿，尿中蛋白陽性，尿中白血球陽性，尿中赤血球陽性
皮膚 適用部位皮膚炎（46．6%）適用部位紅斑，適用部位掻痒感，適用部位湿疹，発汗障害
循環器　心室性期外収縮
過敏症　蕁麻疹，湿疹
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，血中ビリルビン上昇，尿中ウロビリノーゲン上昇
血液　好酸球増加，単球増加，白血球数増加，白血球数減少，リンパ球減少，好中球増加，好中球減少，好塩基球増加，血小板数増加
その他　倦怠感，LDH増加，LDH減少，血中コレステロール増加 浮腫
（表終了）

バイアグラ錠50mg（50mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2590018F2026
【薬効分類】2．5．9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】シルデナフィルクエン酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬
【薬価】1150.2円/1T
【薬価収載日】2022/04/01
【標榜薬効】勃起不全治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】勃起不全（満足な性行為に十分な勃起とその維持が出来ない）
注意
1．勃起不全・その基礎疾患の診断のため，既往や諸検査を行い，客観的な診断により臨床上治療が必要な患者のみ。
2．催淫剤・性欲増進剤ではない。
【用法用量】成人　1回25～50mg　1日1回　性行為の約1時間前　内服。
高齢者（65歳以上），肝障害，重度の腎障害（Ccr＜30mL／分）開始量　25mg（本剤の血漿中濃度の増加あり）。
1日1回　投与間隔　24時間以上。
注意
食事とともに投与時，空腹時に比べ効果発現が遅れることあり。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．硝酸剤・一酸化窒素供与剤（ニトログリセリン，亜硝酸アミル，硝酸イソソルビド，ニコランジル等）の投与患者。
3．心血管系障害を有する等性行為が不適当な患者。
4．重度の肝機能障害。
5．低血圧（血圧＜90／50mmHg）・未治療の高血圧（安静時収縮期血圧＞170mmHg又は安静時拡張期血圧＞100mmHg）。
6．最近6ヵ月以内に脳梗塞・脳出血・心筋梗塞の既往。
7．網膜色素変性症。
8．アミオダロン塩酸塩（経口剤）の投与患者。
9．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血管拡張（ほてり，潮紅）（5．78%）胸痛，動悸，頻脈 高血圧，不整脈，不完全右脚ブロック，末梢性浮腫 心筋梗塞，低血圧，失神
精神神経系 頭痛（3．87%）眩暈，傾眠，昏迷 異常感覚，下肢痙攣，記憶力低下，興奮，緊張亢進，錯乱，思考異常，神経炎，神経過敏，神経症，不安，不眠症，無気力
肝臓　AST増加 ALT増加，LAP上昇，LDH増加，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，血清リン脂質上昇，血中アミラーゼ増加，血中アルブミン減少，血中ビリルビン増加，総蛋白減少
消化器　悪心，胃腸障害，口渇，消化不良，腹痛 おくび，胃炎，胃不快感，下痢，口唇乾燥，舌障害，白舌，腹部膨満，便秘，嘔吐，嚥下障害
泌尿・生殖器　陰茎痛，射精障害，朝立ちの延長，半勃起持続 勃起の延長，持続勃起，尿路感染，前立腺疾患
呼吸器　鼻炎 呼吸障害，鼻閉，咽頭炎，喘息 鼻出血，気道感染症，副鼻腔炎
筋・骨格系　関節痛，筋肉痛 骨痛，背部痛
皮膚　発疹 掻痒症，眼瞼掻痒症，脱毛症，男性型多毛症，発汗，皮膚乾燥，皮膚障害，紅斑
血液　ヘマトクリット減少，ヘマトクリット増加，ヘモグロビン減少，リンパ球減少症，リンパ球増加症，好酸球増加症，赤血球減少症，赤血球増加症，白血球増加症
感覚器　眼充血，結膜炎，彩視症，視覚障害 眼乾燥，眼痛，屈折障害，光視症，味覚異常，味覚消失，流涙異常，羞明 霧視，視力低下，網膜出血，網膜静脈閉塞，突発性難聴
その他　CK増加，疼痛，熱感 BUN増加，インフルエンザ症候群，リンパ節症，血中ナトリウム減少，血中リン増加，体重増加，血中尿酸増加，ウロビリノーゲン陽性，尿中ブドウ糖陽性，尿中赤血球陽性，尿中蛋白陽性，疲労，無力症 過敏性反応，感染症
（表終了）

バップフォー錠10（10mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】2590007F1021
【薬効分類】2．5．9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】プロピベリン塩酸塩
【メーカー】製)大鵬薬品工業　販)ユーシービージャパン
【薬価】24.3円/1T
【薬価収載日】1993/05/28
【標榜薬効】尿失禁・頻尿・過活動膀胱治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の頻尿，尿失禁
神経因性膀胱，神経性頻尿，不安定膀胱，膀胱刺激状態（慢性膀胱炎，慢性前立腺炎）
2．過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
【用法用量】成人　1回20mg　1日1回　食後　内服。
適宜増減，効果不十分時　1回20mg　1日2回まで。
注意
20mgを1日1回投与で効果不十分であり，安全性に問題がない場合に増量を検討。

■禁忌

【禁忌】1．幽門・十二指腸・腸管閉塞。
2．胃アトニー・腸アトニー。
3．尿閉。
4．閉塞隅角緑内障。
5．重症筋無力症。
6．重篤な心疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．急性緑内障発作（頻度不明）（眼圧亢進，嘔気，頭痛を伴う眼痛，視力低下等）。
2．尿閉（0．62%）。
3．麻痺性イレウス（頻度不明）（著しい便秘，腹部膨満等）。
4．幻覚・せん妄（0．25%）。
5．腎機能障害（頻度不明）（BUN，血中クレアチニンの上昇）。
6．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
7．血小板減少（0．12%）。
8．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
9．QT延長（0．25%），心室性頻拍（頻度不明），房室ブロック，徐脈

2 個々の器官系用医薬品

等。
10. 肝機能障害(1. 0%)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
消化器 口渇(12. 8%) 便秘, 腹痛, 嘔気・嘔吐, 食欲不振, 下痢, 口内炎 消化不良, 舌炎
泌尿器 排尿困難, 残尿 尿意消失
精神神経系 眩暈, 頭痛, しびれ, 眠気 意識障害(見当識障害, 一過性健忘), パーキンソン症状(すくみ足, 小刻み歩行等の歩行障害, 振戦等), ジスキネジア
循環器 血圧上昇 動悸, 徐脈, 期外収縮, 胸部不快感
過敏症 掻痒, 発疹, 蕁麻疹
眼 調節障害, 眼球乾燥
肝臓 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
血液 白血球減少
その他 浮腫, 脱力感, 味覚異常 倦怠感, 咽頭部痛, 腰痛, 嗄声, 痰のからみ
(表終了)

ハルナールD錠0. 2mg (0. 2mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2590008F2022
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】タムスロシン塩酸塩
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】25.3円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】前立腺肥大症排尿障害改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
1. 原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
2. 前立腺肥大症の診断・診療は国内外のガイドライン等の最新情報を参考。
【用法用量】成人 1回0. 2mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減。
注意
高齢者 腎機能低下時は0. 1mgから開始し, 経過観察後に0. 2mgに増量。効果なければそれ以上増量せず, 他の処置を実施。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 失神・血圧低下に伴う一過性の意識喪失(頻度不明)等。
2. 肝機能障害, 黄疸(各頻度不明)(AST上昇, ALT上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈, ふらふら感 立ちくらみ, 頭痛, 眠気, いらいら感, しびれ感
循環器 頻脈 血圧低下, 起立性低血圧, 動悸, 不整脈
過敏症 発疹 掻痒感, 蕁麻疹, 多形紅斑, 血管浮腫
消化器 胃不快感, 嘔気, 嘔吐, 胃重感, 胃痛, 食欲不振, 嚥下障害 口渇, 便秘, 下痢
その他 咽頭灼焼感, 全身倦怠感 鼻閉, 浮腫, 尿失禁, 味覚異常, 女性化乳房, 持続勃起症, 射精障害, 術中虹彩緊張低下症候群, 霧視, 視力障害, ほてり, 熱感, 灼熱感, 胸部不快感
(表終了)

フリバスOD錠75mg (75mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】2590009F5026
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ナフトピジル
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】44.7円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】成人 1回25mgから開始 1日1回 食後 内服。効果不十分時 1～2週間あけて 50～75mgに漸増 1日1回 食後 内服。適宜増減, 1日最高75mg。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP等の上昇), 黄疸(頻度不明)。
2. 失神, 血圧低下に伴う一過性の意識喪失(頻度不明)等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感, 蕁麻疹 多形紅斑
精神神経系 眩暈・ふらつき, 頭痛・頭重 倦怠感, 眠気, 耳鳴, しびれ感, 振戦, 味覚異常 頭がボーッとする
循環器 立ちくらみ, 低血圧 動悸, ほてり, 不整脈(期外収縮, 心房細動等) 頻脈
消化器 胃部不快感, 下痢 便秘, 口渇, 嘔気, 嘔吐, 膨満感, 腹痛
肝臓 AST, ALTの上昇 LDH, AI－Pの上昇
血液 血小板数減少
眼 霧視 術中虹彩緊張低下症候群, 色視症
その他 浮腫, 尿失禁, 悪寒, 眼瞼浮腫, 肩こり, 鼻閉, 勃起障害 女性化乳房, 胸痛
(表終了)

ベタニス錠50mg (50mg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】2590014F2028
【薬効分類】2. 5. 9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ミラベグロン
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】141.7円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【標榜薬効】選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感, 頻尿, 切迫性尿失禁
注意
1. 十分な問診により臨床症状を確認, 類似の疾患(尿路感染症, 尿路結石, 膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等)に注意し, 尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2. 下部尿路閉塞疾患(前立腺肥大症等)の合併では, その治療を優先。
【用法用量】成人 1回50mg 1日1回 食後 内服。
注意
1. 中等度の肝機能障害(Child－Pughスコア7～9)
1日1回25mgから開始。
2. 重度の腎機能障害(eGFR15～29mL/分/1. 73m2)
1日1回25mgから開始。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な心疾患。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 授乳婦。
5. 重度の肝機能障害(Child－Pughスコア10以上)。
6. フレカイニド酢酸塩・プロパフェノン塩酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 尿閉(頻度不明)。
2. 高血圧(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 血小板数増加, 白血球数増加, 血小板数減少, 白血球数減少
心臓障害 右脚ブロック, 動悸, 上室性期外収縮, 頻脈, 心室性期外収縮, 血圧上昇, 心拍数増加 心房細動
耳・迷路障害 回転性眩暈
眼障害 霧視
胃腸障害 便秘, 口内乾燥 腹部不快感, 腹部膨満, 下痢, 十二指腸潰瘍, 胃炎, 口内炎 悪心, 嘔吐, 腹痛, 上腹部痛, 下腹部痛
全身障害・投与局所様態 倦怠感, 浮腫, 口渇 胸部不快感, 胸痛
肝胆道系障害 AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇, AI－P上昇 ビリルビン上昇
感染症 尿沈渣異常 膀胱炎
代謝・栄養障害 CK上昇 CK減少, 血中ブドウ糖増加, 血中ブドウ糖減少, コレステロール上昇, 尿酸上昇 食欲減退
神経系障害 浮動性眩暈, 頭痛 振戦, 感覚鈍麻, 傾眠
腎・尿路障害 尿中蛋白陽性 尿中ブドウ糖陽性, クレアチニン上昇, BUN上昇, BUN減少, 残尿

2 個々の器官系用医薬品

皮膚・皮下組織障害 発疹，蕁麻疹 掻痒症
血管障害 高血圧
（表終了）

ポラキス錠3（3mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】2590005F2029
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】オキシブチニン塩酸塩
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)サノフィ 販)サノフィ・アベンティス
【薬価】10.8円/1T
【標榜薬効】尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の頻尿，尿意切迫感，尿失禁
〇神経因性膀胱
〇不安定膀胱（無抑制収縮を伴う過緊張性膀胱状態）
【用法用量】成人 1回2～3mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．下部尿路閉塞症状である排尿困難・尿閉等。
2．閉塞隅角緑内障。
3．重篤な心疾患。
4．麻痺性イレウス。
5．衰弱患者・高齢者の腸アトニー，重症筋無力症。
6．授乳婦。
7．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血小板減少（0．1%未満）。
2．麻痺性イレウス（頻度不明）（著しい便秘，腹部膨満等）。
3．尿閉（0．28%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈，眠気，頭痛 しびれ，振戦等 認知機能障害，抑うつ
循環器 頻脈
消化器 口渇 下痢，胃腸障害，胃部不快感，嘔気，食欲不振，胸やけ，便秘，腹部膨満感，口内炎 嘔吐，舌炎等 嚥下障害
過敏症 発疹等 血管浮腫，蕁麻疹
泌尿器 排尿困難，残尿等
肝臓 AST，ALTの上昇
その他 浮腫，倦怠感，口が苦い 発熱，熱感，目のかすみ，眼瞼結膜充血，汗が出なくなる，咽頭部痛，胸痛，皮膚乾燥，嗄声等 眼乾燥，潮紅
（表終了）

2．6 外皮用薬

2．6．3 化膿性疾患用剤

ゼビアックスローション2%（2%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2639701Q1025
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】オゼノキサシン
【メーカー】製)マルホ
【薬価】51.4円/1g
【薬価収載日】2015/11/26
【標榜薬効】キノロン系外用抗菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，アクネ菌
適応症 表在性皮膚感染症，ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
注意
結節・嚢腫には，他の治療を行う。
【用法用量】1日1回 塗布。ざ瘡は洗顔後 塗布。
注意
表在性皮膚感染症
1．1週間で効果なければ使用中止。
ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
2．4週間で効果なければ使用中止。炎症性皮疹が消失した時には継続使用しない。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
皮膚 乾燥 刺激感，鱗屑・落屑，紅斑，掻痒，ほてり，乾皮症 接触皮膚炎，違和感
その他 血中ビリルビン増加 AST増加，ALT増加，γ－GTP増加，好酸球増加
（表終了）

2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤

インテバンクリーム1%（1%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2649719N1106
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】インドメタシン
【メーカー】製)帝國製薬 販)住友ファーマ
【薬価】3.3円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎（テニス肘等），筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日数回 塗擦。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・他のインドメタシン製剤に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）（軟膏，外用液）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 掻痒，発赤，発疹 ヒリヒリ感，乾燥感，熱感，腫脹
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（クリーム）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
皮膚 発疹，掻痒，発赤，ヒリヒリ感，乾燥感，腫脹，熱感
（表終了）

エアゾリンD1（1g）

外 外用

【YJコード】2647701R1022
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】フラジオマイシン硫酸塩・プレドニゾロン
【メーカー】製)武田薬品工業
【経過措置期限】2017/03/31
【標榜薬効】フラジオマイシン硫酸塩・プレドニゾロン噴霧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 フラジオマイシン感性菌
適応症
深在性皮膚感染症，慢性膿皮症
湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記
（1）．湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む）
（2）．皮膚掻痒症（陰部・肛門部）
（3）．薬疹・中毒疹
（4）．虫さされ
（5）．紅斑症（滲出性紅斑）
【用法用量】患部から約10～15cm離して 1回1～2秒間 1日1～数回 噴霧（用時振盪）。容器は立てて使用。

■禁忌

【禁忌】1．フラジオマイシン耐性菌・非感性菌による皮膚感染。
2．皮膚結核，単純疱疹，水痘，帯状疱疹，種痘疹。
3．真菌症（白癬，カンジダ症等）。
4．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．フラジオマイシン，カナマイシン，ストレプトマイシン，ゲンタマイシン等のアミノ糖系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。
7．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明

2 個々の器官系用医薬品

皮膚の感染症 フラジオマイシン耐性菌・非感性菌による感染症，真菌症（白癬，カンジダ症等），ウイルス感染症
過敏症 皮膚の刺激感，発疹等
その他の皮膚症状 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張），魚鱗癬様変化，色素脱失，紫斑，多毛等
（表終了）

エクラー軟膏0．3%（0．3%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2646729M1048
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】デプロドンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)久光製薬 販)エスエス製薬 販)鳥居薬品
【薬価】12.6円/1g
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，日光皮膚炎，皮脂欠乏性湿疹，脂漏性皮膚炎含む），薬疹・中毒疹，虫さされ，痒疹群（蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，結節性痒疹（固定蕁麻疹）含む），乾癬，紅皮症，紅斑症（多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑），ジベルバラ色粃糠疹，掌蹠膿疱症，特発性色素性紫斑（マヨッキー紫斑，シャンバーク病），円形脱毛症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤（全身適用），抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。

■禁忌

【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
緑内障，後嚢白内障（頻度不明），眼圧亢進。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満
皮膚の感染症 皮膚の真菌性（カンジダ症，白癬等）・細菌性（伝染性膿痂疹，毛嚢炎等）感染症，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド酒さ・口囲皮膚炎（顔面の紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑）ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張），魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，多毛，色素脱失等
過敏症 皮膚の刺激感，発疹等
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
（表終了）

キンダベート軟膏0．05%（0．05%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2646722M1100
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】クロベタゾン酪酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】13.8円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．アトピー性皮膚炎（乳幼児湿疹含む）
2．顔面，頸部，腋窩，陰部の湿疹・皮膚炎
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
3．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
皮膚の感染症 真菌症（カンジダ症，白癬等），細菌感染症（伝染性膿痂疹，毛嚢炎等），ウイルス感染症
過敏症 紅斑，発疹，蕁麻疹，掻痒，皮膚灼熱感，接触性皮膚炎
その他の皮膚症状 ステロイドざ瘡，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎（頬，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑），魚鱗癬様皮膚変化，多毛，色素脱失，一過性の刺激感，乾燥
その他 下垂体・副腎皮質系機能抑制，中心性漿液性網脈絡膜症
（表終了）

コンベック軟膏5%（5%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2649727M1040
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ウフェナマート
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】13.2円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】皮膚疾患消炎鎮痛外用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○急性湿疹
○慢性湿疹
○脂漏性湿疹
○貨幣状湿疹
○接触皮膚炎
○アトピー皮膚炎
○おむつ皮膚炎
○酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎
○帯状疱疹
【用法用量】1日数回 塗布・貼布。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発赤，掻痒，丘疹，接触皮膚炎，腫脹，潮紅
皮膚 刺激感，灼熱感，皮膚乾燥 糜爛
（表終了）

スチックゼノールA（10g）

外 外用 流通

【YJコード】2649858M1036
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】サリチル酸メチル・グリチルレチン酸配合剤
【メーカー】製)三笠製薬
【薬価】36.2円/10g
【薬価収載日】1994/07/08
【標榜薬効】鎮痛・消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の鎮痛・消炎
打撲，捻挫，筋肉痛，関節痛，骨折痛，虫さされ
【用法用量】1日1～数回 塗擦。

■禁忌

【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
過敏症 発赤，発疹，腫脹
（表終了）

ゼポラスパップ40mg（10cm×14cm1枚）

外 外用 流通

【YJコード】2649732S1164
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】フルルビプロフェン
【メーカー】製)三笠製薬
【薬価】16.7円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・消炎剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎（テニス肘等），筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日2回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のフルルビプロフェン製剤に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（胸内苦悶，悪寒，冷汗，呼吸困難，四肢しびれ感，血圧低下，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．喘息発作の誘発（アスピリン喘息）（頻度不明）（乾性ラ音，喘鳴，呼吸困難感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 掻痒，発赤，発疹 かぶれ，ヒリヒリ感
（表終了）

セルタッチパップ70（10cm×14cm1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2649731S1143
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】フェルビナク
【メーカー】製)帝國製薬　販)武田薬品工業　販)ファイザー
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎（テニス肘等），筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日2回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のフェルビナク製剤に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚炎（発疹，湿疹含む），掻痒，発赤，接触皮膚炎 刺激感 水疱
（表終了）

テクスメテン ユニバーサル クリーム0．1%（0．1%1g）

外　外用　流通
劇

【YJコード】2646700N1142
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフルコルトロン吉草酸エステル
【メーカー】製)佐藤製薬
【薬価】19.2円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，日光皮膚炎含む）
○乾癬
○掌蹠膿疱症
○痒疹群（蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹含む）
○紅皮症
○慢性円板状エリテマトーデス
○アミロイド苔癬
○扁平紅色苔癬
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤（全身適用），抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～3回　塗布。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．皮膚結核，梅毒性皮膚疾患，単純疱疹，水痘，帯状疱疹，種痘疹。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．眼圧亢進，緑内障（頻度不明）。
2．後嚢白内障，緑内障（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症　皮膚の真菌性（カンジダ症，白癬等）感染症 皮膚の細菌性（伝染性膿痂疹，毛嚢炎等）感染症
その他の皮膚症状 乾燥感 多毛等 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張），ステロイド酒さ・口囲皮膚炎（口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑），魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，色素脱失
過敏症 皮膚の刺激感 発疹等
下垂体・副腎皮質系機能　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
（表終了）

ナパゲルン軟膏3%（3%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2649731M1071
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】フェルビナク
【メーカー】製)帝國製薬　販)武田薬品工業　販)ファイザー
【薬価】4.4円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，筋・筋膜性腰痛症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎（テニス肘等），筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日数回　塗擦。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満
皮膚 掻痒，皮膚炎，発赤 接触皮膚炎，刺激感，水疱
（表終了）

フェルビナクテープ70mg「EMEC」（10cm×14cm1枚）

外　外用　後発　流通

【YJコード】2649731S1178
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】フェルビナク
【先発品】セルタッチテープ70，セルタッチパップ70
【メーカー】製)救急薬品工業　販)エルメッド　販)日医工
【薬価】14.4円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎（テニス肘等），筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日2回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のフェルビナク製剤に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚炎(発疹，湿疹含む)，掻痒，発赤，接触皮膚炎 刺激感 水疱
(表終了)

ボルタレンゲル1%（1%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2649734Q1069
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)同仁医薬化工 販)ノバルティスファーマ
【薬価】3.2円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛(筋・筋膜性腰痛症等)，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日数回 塗擦。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等)。
2．接触皮膚炎(頻度不明)(発赤，紅斑，発疹，掻痒感，疼痛，腫脹，浮腫，水疱・糜爛等)(全身拡大し重篤化することあり)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚炎，掻痒感，発赤，皮膚のあれ，刺激感 水疱，色素沈着 光線過敏症，浮腫，腫脹，皮膚剥脱
(表終了)

マイザークリーム0．05%（0．05%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2646725N1150
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフルプレドナート
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】11.1円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，脂漏性皮膚炎，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む)，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹，結節性痒疹含む)，虫さされ，乾癬，掌蹠膿疱症，扁平紅色苔癬，ジベルバラ色粃糠疹，薬疹・中毒疹，慢性円板状エリテマトーデス，紅斑症(多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑，遠心性丘疹性紅斑)，特発性色素性紫斑(マヨッキー紫斑，シャンバーク病，紫斑性色素性苔癬様皮膚炎)，紅皮症，肉芽腫症(サルコイドーシス，環状肉芽腫)，円形脱毛症，アミロイド苔癬(斑状アミロイドーシス含む)，肥厚性瘢痕・ケロイド
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．細菌・真菌・ウイルス皮膚感染症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 細菌感染症(毛嚢炎等) 細菌感染症(伝染性膿痂疹)
皮膚の真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ステロイド皮膚(毛細血管拡張，皮膚萎縮，紫斑)，ざ瘡様発疹，刺激感，乾燥 軟毛の濃色化 色素脱失
過敏症 接触皮膚炎 紅斑
内分泌系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

モーラステープ20mg（7cm×10cm1枚）

外 外用 流通

【YJコード】2649729S2169
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ケトプロフェン
【メーカー】製)久光製薬 販)祐徳薬品工業
【薬価】18.8円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の鎮痛・消炎
腰痛症(筋・筋膜性腰痛症，変形性脊椎症，椎間板症，腰椎捻挫)，変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
○関節リウマチにおける関節局所の鎮痛
注意
重篤な接触皮膚炎，光線過敏症の可能性，重度の全身性発疹の報告あり，有益性が危険性を上回る時のみ使用。
【用法用量】1日1回 貼付。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。
3．チアプロフェン酸・スプロフェン・フェノフィブラート・オキシベンゾン・オクトクリレン含有製品(サンスクリーン，香水等)に過敏症の既往。
4．光線過敏症の既往。
5．妊娠後期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(0．1%未満)(蕁麻疹，呼吸困難，顔面浮腫等)。
2．喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0．1%未満)(乾性ラ音，喘鳴，呼吸困難感等)。
3．接触皮膚炎(5%未満，重篤例は頻度不明)(発疹・発赤，掻痒感，刺激感，紅斑等の悪化，腫脹，浮腫，水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状，色素沈着，色素脱失，全身の皮膚炎症状)。
4．光線過敏症(頻度不明)(強い掻痒を伴う紅斑，発疹，刺激感，腫脹，浮腫，水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状，色素沈着，色素脱失，全身の皮膚炎症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 局所の発疹，発赤，腫脹，掻痒感，刺激感，水疱・糜爛，色素沈着 皮下出血 皮膚剥脱
過敏症 蕁麻疹，眼瞼浮腫，顔面浮腫
消化器 消化性潰瘍
(表終了)

モーラスパップXR120mg（10cm×14cm1枚）

外 外用 流通

【YJコード】2649729S5028
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ケトプロフェン
【メーカー】製)久光製薬 販)祐徳薬品工業
【薬価】28.9円/1枚
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の鎮痛・消炎
腰痛症(筋・筋膜性腰痛症，変形性脊椎症，椎間板症，腰椎捻挫)，変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
○関節リウマチにおける関節局所の鎮痛
注意
重篤な接触皮膚炎，光線過敏症の可能性，重度の全身性発疹の報告あり，有益性が危険性を上回る時のみ使用。
【用法用量】1日1回 貼付。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。
3．チアプロフェン酸・スプロフェン・フェノフィブラート・オキシベンゾン・オクトクリレン含有製品(サンスクリーン，香水等)に過敏症の既往。
4．光線過敏症の既往。
5．妊娠後期。

■副作用

2 個々の器官系用医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(0. 1%未満)(蕁麻疹, 呼吸困難, 顔面浮腫等)。
2. 喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0. 1%未満)(乾性ラ音, 喘鳴, 呼吸困難感等)。
3. 接触皮膚炎(5%未満, 重篤例は頻度不明)(発疹・発赤, 掻痒感, 刺激感, 紅斑等の悪化, 腫脹, 浮腫, 水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状, 色素沈着, 色素脱失, 全身の皮膚炎症状)。
4. 光線過敏症(頻度不明)(強い掻痒を伴う紅斑, 発疹, 刺激感, 腫脹, 浮腫, 水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状, 色素沈着, 色素脱失, 全身の皮膚炎症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 局所の発疹, 発赤, 腫脹, 掻痒感, 刺激感, 水疱・糜爛, 色素沈着 皮下出血 皮膚剥脱
過敏症 蕁麻疹, 眼瞼浮腫, 顔面浮腫
消化器 消化性潰瘍
(表終了)

ユベラ軟膏（1g）

外 外用 流通

【YJコード】2649805M1026
【薬効分類】2. 6. 4 鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】トコフェロール・ビタミンA油
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】2.5円/1g
【標榜薬効】外用ビタミンE・A剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇凍瘡
〇進行性指掌角皮症
〇尋常性魚鱗癬
〇毛孔性苔癬
〇単純性粃糠疹
〇掌蹠角化症
【用法用量】1日1～数回 塗布。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満
過敏症 紅斑, 掻痒
(表終了)

リドメックスコーワクリーム0. 3%（0. 3%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2646720N1093
【薬効分類】2. 6. 4 鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル
【メーカー】製)興和
【薬価】14.7円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬含む), 痒疹群(固定蕁麻疹, ストロフルス含む), 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿疱症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。必要時, 密封法。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進, 緑内障, 白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌症(カンジダ症, 白癬症等), 細菌感染症(伝染性膿痂疹, 毛嚢炎等), ウイルス感染症
その他の皮膚症状 魚鱗癬様皮膚変化, 一過性の刺激感, 乾燥 ざ瘡様発疹, 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬, 口囲等に潮紅, 丘疹, 膿疱, 毛細血管拡張), ステロイド皮膚(皮膚萎縮, 毛細血管拡張, 紫斑), 多毛, 色素脱失等
過敏症 紅斑等の過敏症状
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

リドメックスコーワローション0. 3%（0. 3%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2646720Q1065
【薬効分類】2. 6. 4 鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル
【メーカー】製)興和
【薬価】14.7円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬含む), 痒疹群(固定蕁麻疹, ストロフルス含む), 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿疱症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。必要時, 密封法。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進, 緑内障, 白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌症(カンジダ症, 白癬症等), 細菌感染症(伝染性膿痂疹, 毛嚢炎等), ウイルス感染症
その他の皮膚症状 魚鱗癬様皮膚変化, 一過性の刺激感, 乾燥 ざ瘡様発疹, 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬, 口囲等に潮紅, 丘疹, 膿疱, 毛細血管拡張), ステロイド皮膚(皮膚萎縮, 毛細血管拡張, 紫斑), 多毛, 色素脱失等
過敏症 紅斑等の過敏症状
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

リンデロンーDP軟膏（0. 064%1g）

外 外用 流通
劇

【YJコード】2646703M1094
【薬効分類】2. 6. 4 鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】ベタメタゾンジプロピオン酸エステル
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】9.3円/1g
【標榜薬効】皮膚外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬含む), 乾癬, 掌蹠膿疱症, 紅皮症, 薬疹・中毒疹, 虫さされ, 痒疹群(蕁麻疹様苔癬, ストロフルス, 固定蕁麻疹含む), 紅斑症(多形滲出性紅斑, ダリエ遠心性環状紅斑, 遠心性丘疹性紅斑), 慢性円板状エリテマトーデス, 扁平紅色苔癬, 毛孔性紅色粃糠疹, 特発性色素性紫斑(マヨッキー紫斑, シャンバーク病, 紫斑性色素性苔癬様皮膚炎), 肥厚性瘢痕・ケロイド, 肉芽腫症(サルコイドーシス, 環状肉芽腫), 悪性リンパ腫(菌状息肉症含む), 皮膚アミロイドーシス, 天疱瘡群(ヘイリーヘイリー病含む), 類天疱瘡(ジューリング疱疹状皮膚炎含む), 円形脱毛症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(頻度不明)，白内障。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　紅斑
皮膚 一過性の刺激感 魚鱗癬様皮膚変化，皮膚乾燥
皮膚の感染症　細菌感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎・せつ等)，真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡様発疹，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑) 多毛，色素脱失 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張)
下垂体・副腎皮質系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

リンデロンーVG軟膏0．12%（1g）

外　外用　流通

【YJコード】2647709M1102
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】27.7円/1g
【標榜薬効】皮膚外用合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ゲンタマイシン感性菌
適応症
○湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記
湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む)，乾癬，掌蹠膿疱症
○外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
注意
湿疹・皮膚炎群，乾癬，掌蹠膿疱症，外傷・熱傷，手術創等に対し，湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発に使用。症状が改善した場合は，使用を中止。抗生剤を含有しない薬剤に切りかえる。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による皮膚感染。
2．真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
5．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。
6．ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　皮膚の刺激感，接触性皮膚炎，発疹
眼　中心性漿液性網脈絡膜症
皮膚 魚鱗癬様皮膚変化
皮膚の感染症　ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による感染症，真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状　ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張，紫斑)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，多毛，色素脱失
下垂体・副腎皮質系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
長期連用　腎障害，難聴
(表終了)

ロキソニンテープ100mg（10cm×14cm 1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2649735S3020
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)リードケミカル　販)第一三共
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日1回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮下出血，皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　浮腫
(表終了)

ロキソニンテープ50mg（7cm×10cm1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2649735S2024
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)リードケミカル　販)第一三共
【薬価】12.7円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日1回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮下出血，皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　浮腫
(表終了)

ロキソニンパップ100mg（10cm×14cm 1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2649735S1028
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)リードケミカル　販)第一三共
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2006/04/28
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日1回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮下出血，皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　浮腫
（表終了）

ロコアテープ（10cm×14cm1枚）

外　外用　流通
劇

【YJコード】2649896S1022
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】エスフルルビプロフェン・ハッカ油
【メーカー】製)大正製薬　販)大正富山医薬品　販)帝人ファーマ
【薬価】33.3円/1枚
【薬価収載日】2015/11/26
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】変形性関節症の鎮痛・消炎
【用法用量】1日1回　貼付。同時に2枚を超えて貼付しない。
注意
本剤2枚貼付時の全身曝露量がフルルビプロフェン経口剤の通常量投与時と同程度に達することから，1日貼付枚数は2枚まで。本剤投与時は他の全身作用を期待する消炎鎮痛剤との併用は避け，やむを得ず併用時は，必要最小限の使用。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重篤な心機能不全。
6．重篤な高血圧症。
7．本剤の成分・フルルビプロフェンに過敏症の既往。
8．アスピリン喘息・その既往。
9．エノキサシン水和物・ロメフロキサシン・ノルフロキサシン・プルリフロキサシンの投与患者。
10．妊娠後期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（胸内苦悶，悪寒，冷汗，呼吸困難，四肢しびれ感，血圧低下，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．急性腎障害，ネフローゼ症候群（各頻度不明）（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
3．胃腸出血（頻度不明）。
4．再生不良性貧血（頻度不明）。
5．喘息発作の誘発（アスピリン喘息）（頻度不明）（乾性ラ音，喘鳴，呼吸困難感等）。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
7．意識障害，意識喪失を伴う痙攣（0．1%未満）。
8．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
適用部位障害 皮膚炎 紅斑，掻痒感，湿疹，発疹 内出血，刺激感，色素沈着 浮腫，変色，疼痛，熱感
神経系障害　浮動性眩暈 頭痛
胃腸障害　腹部不快感，胃炎，消化性潰瘍，腹痛，悪心，嘔吐，口内炎 便秘，下痢，食欲減退，変色便
過敏症　発疹 血管浮腫（顔面，眼瞼等），湿疹，紅斑，蕁麻疹，潮紅，掻痒症
臨床検査　血中尿素増加 血中クレアチニン増加，AST増加，ALT増加，尿中血陽性，血中ビリルビン増加，血中乳酸脱水素酵素増加，尿中ブドウ糖陽性，尿中蛋白陽性 血圧上昇
その他　動悸 末梢性浮腫
（表終了）

2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤

アスタット軟膏1%（1%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2655710M1034
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ラノコナゾール
【メーカー】製)マルホ
【薬価】19.1円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬
足白癬，体部白癬，股部白癬
○カンジダ症
間擦疹，指間糜爛症，爪囲炎
○癜風
【用法用量】1日1回　塗布。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 皮膚炎（接触皮膚炎等），刺激感，発赤 小水疱，掻痒感，亀裂，乾燥，腫脹
（表終了）

アトラント軟膏1%（1%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2655711M1039
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ネチコナゾール塩酸塩
【メーカー】製)久光製薬　販)エスエス製薬　販)田辺三菱製薬　販)鳥居薬品　販)三菱ウェルファーマ
【薬価】24.3円/1g
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
（1）．白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
（2）．皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹
（3）．癜風
【用法用量】1日1回　塗布。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 局所の刺激感，皮膚炎，発赤・紅斑，掻痒感，湿潤，落屑の増加等 亀裂，白癬疹 自家感作性皮膚炎
（表終了）

ニゾラールローション2%（2%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2655709Q1025
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ケトコナゾール
【メーカー】製)岩城製薬　販)ヤンセンファーマ
【薬価】22.1円/1g
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
（1）．白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
（2）．皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹（乳児寄生菌性紅斑含む）
（3）．癜風
（4）．脂漏性皮膚炎
【用法用量】白癬，皮膚カンジダ症，癜風
1日1回　塗布。
脂漏性皮膚炎
1日2回　塗布。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚 刺激感 掻痒，接触皮膚炎，紅斑，水疱 皮膚灼熱感，発疹，皮膚

2 個々の器官系用医薬品

剥脱，皮膚のべとつき感，蕁麻疹，糜爛，亀裂，疼痛
全身障害・投与局所様態　適用部位反応(出血，不快感，乾燥，炎症，錯感覚，浮腫)
免疫系障害　過敏症
その他　尿蛋白陽性
(表終了)

ペキロンクリーム0．5%（0．5%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2659711N1033
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】アモロルフィン塩酸塩
【メーカー】製)テイカ製薬　販)ガルデルマ　販)杏林製薬　販)佐藤製薬　販)マルホ
【薬価】22.9円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足白癬，手白癬，体部白癬，股部白癬
○皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹(乳児寄生菌性紅斑含む)，爪囲炎
○癜風
【用法用量】1日1回　塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 局所の刺激感，接触皮膚炎，発赤，掻痒，紅斑 糜爛，疼痛
(表終了)

ボレー外用液1%（1%1mL）

外　外用　流通

【YJコード】2659708Q1054
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ブテナフィン塩酸塩
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】23円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】ベンジルアミン系抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足部白癬，股部白癬，体部白癬
○癜風
【用法用量】1日1回　塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 接触皮膚炎，局所の発赤・紅斑，刺激感，掻痒，水疱 落屑 糜爛，亀裂
(表終了)

ラミシールクリーム1%（1%1g）

外　外用　流通

【YJコード】2659710N1152
【薬効分類】2．6．5　寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】テルビナフィン塩酸塩
【メーカー】製)サンファーマ　販)田辺三菱製薬　販)ノバルティスファーマ
【薬価】18.5円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】アリルアミン系抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
○皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹(乳児寄生菌性紅斑含む)
○癜風
【用法用量】1日1回　塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒症，紅斑 ー 発疹，蕁麻疹，血管浮腫
適用部位 接触皮膚炎，発赤，刺激感 鱗屑，落屑，皮膚亀裂 湿疹，皮膚乾燥，疼痛，色素沈着，皮膚灼熱感
(表終了)

2．6．6　皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)

イオウ・カンフルローション「東豊」（10mL）

外　外用　流通

【YJコード】2669700X1040
【薬効分類】2．6．6　皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)
【一般名】イオウ・カンフルローション
【メーカー】製)東豊薬品　販)日医工　販)丸石製薬　販)ヤクハン製薬　販)山善製薬　販)吉田製薬
【薬価】29.6円/10mL
【薬価収載日】2008/07/18
【標榜薬効】皮膚軟化剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ざ瘡，酒さ
【用法用量】1日2回　塗布。朝は上清液，晩は混濁液を使用。

■禁忌
【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発赤，発疹等
皮膚 皮膚炎
(表終了)

スピール膏M（25平方cm1枚）

外　外用　流通

【YJコード】2661701X1020
【薬効分類】2．6．6　皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)
【一般名】サリチル酸
【メーカー】製)ニチバン
【薬価】70.6円/1枚
【標榜薬効】皮膚軟化剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】疣贅，鶏眼，胼胝腫の角質剥離
【用法用量】患部大に切って貼付し　移動しないように固定。2～5日目ごと　取りかえる。

■禁忌
【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
長期・大量使用 食欲不振，悪心・嘔吐，消化管出血
過敏症 過敏症状
皮膚 発赤，紅斑
(表終了)

2．6．7　毛髪用剤(発毛剤，脱毛剤，染毛剤，養毛剤)

フロジン外用液5%（5%1mL）

外　外用　後発　流通

【YJコード】2679701Q1055
【薬効分類】2．6．7　毛髪用剤(発毛剤，脱毛剤，染毛剤，養毛剤)
【一般名】カルプロニウム塩化物水和物
【メーカー】製)ニプロファーマ　販)第一三共　販)ニプロ

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】17.6円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】脱毛症・白斑用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 下記の脱毛防止，発毛促進
円形脱毛症(多発性円形脱毛症含む)，悪性脱毛症，びまん性脱毛症，粃糠性脱毛症，壮年性脱毛症，症候性脱毛症等
2. 乾性脂漏
3. 尋常性白斑
【用法用量】脱毛症・乾性脂漏
1日2～3回　塗布，又は被髪部全体にふりかけ軽くマッサージ。
尋常性白斑
1日3～4回　塗布。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 一過性の発赤，掻痒感
アセチルコリン様作用 刺激痛，局所発汗，熱感 全身性の発汗，悪寒，戦慄，嘔気，嘔吐
(表終了)

2. 6. 9 その他の外皮用薬

オキサロールローション25μg／g（0. 0025%1g）
外　外用　流通
劇

【YJコード】2691702Q1020
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】マキサカルシトール
【メーカー】製)マルホ
【薬価】50.2円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】角化症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性乾癬，魚鱗癬群，掌蹠角化症，掌蹠膿疱症
【用法用量】1日2回　塗擦。適宜回数減。
注意
1. マキサカルシトール　1日250μg(マキサカルシトール外用製剤　10g)まで。
2. 使用後6週目までに効果なければ，漫然と使用を継続しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 高カルシウム血症(頻度不明)(口渇，倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(血中カルシウム増加)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，皮膚刺激，紅斑，皮膚剥脱 発疹，湿疹，接触皮膚炎，水疱，腫脹，疼痛，毛包炎，色素沈着，糜爛，浮腫，熱感
腎臓 尿中蛋白陽性，血中クレアチニン増加，増殖性糸球体腎炎 尿路結石，BUN増加
代謝 血中カルシウム増加 血中リン増加，AI－P増加，CK増加，尿中ブドウ糖陽性，血中アルブミン減少，血中カリウム減少
消化器 口渇，食欲不振，糜爛性胃炎
肝臓 γ－GTP増加，AST増加，ALT増加，血中ビリルビン増加，尿中ウロビリン陽性
血液 白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少
筋・骨格系 背部痛
(表終了)

ドボネックス軟膏50μg／g（0. 005%1g）
外　外用　流通
劇

【YJコード】2691701M1031
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】カルシポトリオール
【メーカー】製)レオファーマ　販)鳥居薬品
【薬価】75.6円/1g
【薬価収載日】2009/09/25

【標榜薬効】尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性乾癬
【用法用量】1日2回　塗布。
注意
1. 1週90gまで。
2. 投与後4～6週目までに効果あり，症状の改善なければ，漫然と使用を継続しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 高カルシウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(血清カルシウムの上昇，血清クレアチニン上昇，BUN上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5～10%未満 1～5%未満 0. 1～1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑・発赤，刺激感・ヒリヒリ感 落屑，皮疹，腫脹，毛嚢炎 接触性皮膚炎，皮膚糜爛，乾癬悪化，色素沈着，疼痛，灼熱感
肝臓　総ビリルビン，AST，ALTの上昇 γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇
腎臓　尿中クレアチニン上昇 BUN，血清クレアチニンの上昇
血液　白血球減少・増多，ヘモグロビン減少，リンパ球減少，単球増多，好中球減少
その他 血清1α，25(OH)2D3低下 血清リン低下，血清1α，25(OH)2D3上昇 尿中カルシウム上昇，血清リン上昇，尿中リン低下 血清カルシウム上昇
(表終了)

ドボベットゲル（1g）
外　外用　流通
劇

【YJコード】2699802Q1026
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】カルシポトリオール水和物・ベタメタゾンジプロピオン酸エステル
【メーカー】製)レオファーマ　販)協和キリン
【薬価】154.1円/1g
【薬価収載日】2018/05/30
【標榜薬効】尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性乾癬
【用法用量】1日1回　塗布。
注意
1. 1週90gまで。
2. 使用開始後4週間を目安に必要性を検討，漫然と使用を継続しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症。
2. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
3. 潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 高カルシウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(血清カルシウムの上昇，血清クレアチニン上昇，BUN上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5%以上 0. 5%未満 頻度不明
過敏症　紅斑・発赤
皮膚　疼痛，乾癬の悪化 掻痒，発疹，灼熱感，刺激感，皮膚炎，魚鱗癬様皮膚変化，皮膚乾燥，皮膚糜爛，接触性皮膚炎，落屑，皮疹，腫脹
皮膚の感染症 毛包炎　細菌感染症(伝染性膿痂疹，せつ等)，真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状　膿疱性発疹，色素脱失 色素沈着，膿疱性乾癬，ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，多毛
肝臓　肝機能異常 AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，総ビリルビンの上昇
腎臓　BUN，血清クレアチニンの上昇，尿中クレアチニン上昇
血液　白血球増加症，貧血 白血球減少・増多，ヘモグロビン減少，リンパ球減少，単球増多，好中球減少
感染症　単純ヘルペス
下垂体・副腎皮質系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
その他　末梢性浮腫，挫傷，尿中ブドウ糖陽性，血清カルシウム上昇

2 個々の器官系用医薬品

尿中カルシウム上昇，血清リン上昇・低下，尿中リン低下，血清1α，25(OH)2D3上昇・低下，乾癬のリバウンド
(表終了)

ドボベット軟膏（1g）

外 外用 流通
劇

【YJコード】2699802M1024
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】カルシポトリオール水和物・ベタメタゾンジプロピオン酸エステル
【メーカー】製)レオファーマ 販)協和キリン
【薬価】154.1円/1g
【薬価収載日】2014/09/02
【標榜薬効】尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】尋常性乾癬
【用法用量】1日1回 塗布。
注意
1．1週90gまで。
2．使用開始後4週間を目安に必要性を検討，漫然と使用を継続しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
3．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高カルシウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2．急性腎障害(頻度不明)(血清カルシウムの上昇，血清クレアチニン上昇，BUN上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5%以上 0．5%未満 頻度不明
過敏症 紅斑・発赤
皮膚 疼痛，乾癬の悪化 掻痒，発疹，灼熱感，刺激感，皮膚炎，魚鱗癬様皮膚変化，皮膚乾燥，皮膚糜爛，接触性皮膚炎，落屑，皮疹，腫脹
皮膚の感染症 毛包炎 細菌感染症(伝染性膿痂疹，せつ等)，真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 膿疱性発疹，色素脱失 色素沈着，膿疱性乾癬，ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，多毛
肝臓 肝機能異常 AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，総ビリルビンの上昇
腎臓 BUN，血清クレアチニンの上昇，尿中クレアチニン上昇
血液 白血球増加症，貧血 白血球減少・増多，ヘモグロビン減少，リンパ球減少，単球増多，好中球減少
感染症 単純ヘルペス
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
その他 末梢性浮腫，挫傷，尿中ブドウ糖陽性，血清カルシウム上昇
尿中カルシウム上昇，血清リン上昇・低下，尿中リン低下，血清1α，25(OH)2D3上昇・低下，乾癬のリバウンド
(表終了)

ドボベットフォーム（1g）

外 外用 流通
劇

【YJコード】2699802R1021
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】カルシポトリオール水和物・ベタメタゾンジプロピオン酸エステル
【メーカー】製)レオファーマ 販)協和キリン
【薬価】154.1円/1g
【薬価収載日】2021/06/18
【標榜薬効】尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】尋常性乾癬
【用法用量】1日1回 塗布。
注意
1．1週90gまで。
2．使用開始後4週間を目安に必要性を検討，漫然と使用を継続しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
3．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高カルシウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2．急性腎障害(頻度不明)(血清カルシウムの上昇，血清クレアチニン上昇，BUN上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5%以上 0．5%未満 頻度不明
過敏症 紅斑・発赤
皮膚 疼痛，乾癬の悪化 掻痒，発疹，灼熱感，刺激感，皮膚炎，魚鱗癬様皮膚変化，皮膚乾燥，皮膚糜爛，接触性皮膚炎，落屑，皮疹，腫脹
皮膚の感染症 毛包炎 細菌感染症(伝染性膿痂疹，せつ等)，真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 膿疱性発疹，色素脱失 色素沈着，膿疱性乾癬，ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，多毛
肝臓 肝機能異常 AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，総ビリルビンの上昇
腎臓 BUN，血清クレアチニンの上昇，尿中クレアチニン上昇
血液 白血球増加症，貧血 白血球減少・増多，ヘモグロビン減少，リンパ球減少，単球増多，好中球減少
感染症 単純ヘルペス
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
その他 末梢性浮腫，挫傷，尿中ブドウ糖陽性，血清カルシウム上昇
尿中カルシウム上昇，血清リン上昇・低下，尿中リン低下，血清1α，25(OH)2D3上昇・低下，乾癬のリバウンド
(表終了)

ブイタマークリーム1%（1%1g）

外 外用 流通

【YJコード】2699717N1028
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】タピナロフ
【メーカー】製)日本たばこ産業 販)鳥居薬品
【薬価】300.8円/1g
【薬価収載日】2024/08/15
【標榜薬効】アトピー性皮膚炎・尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○アトピー性皮膚炎
○尋常性乾癬
【用法用量】アトピー性皮膚炎
成人・12歳以上の小児 1日1回 塗布。
尋常性乾癬
成人 1日1回 塗布。
注意
効能共通
1．症状が改善した時には継続投与の必要性を検討し，漫然と長期使用しない。
アトピー性皮膚炎
2．治療開始8週間以内に改善なければ，使用中止。
尋常性乾癬
3．治療開始12週間以内に改善なければ，使用中止。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 適用部位毛包炎(17．0%) 毛包炎
神経系障害 頭痛
胃腸障害 上腹部痛，悪心
皮膚・皮下組織障害 接触皮膚炎 ざ瘡，乾癬，アトピー性皮膚炎 皮膚炎，毛孔性角化症，掻痒症，皮脂欠乏症，ざ瘡様皮膚炎，湿疹，色素沈着障害
一般・全身障害・投与部位の状態 適用部位ざ瘡 適用部位刺激感，適用部位掻痒感，適用部位変色，適用部位多毛症，適用部位湿疹 適用部位疼痛，適用部位腫脹
(表終了)

プロトピック軟膏0．03%小児用（0．03%1g）

外 外用 流通
劇

【YJコード】2699709M2024
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】タクロリムス水和物

2 個々の器官系用医薬品

【メーカー】製)マルホ 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】72.6円/1g
【薬価収載日】2003/12/12
【標榜薬効】アトピー性皮膚炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アトピー性皮膚炎
注意
ステロイド外用剤等の既存療法では効果が不十分又は副作用で投与できない等，治療がより適切な時に使用。
【用法用量】小児 1日1～2回 塗布。1回5gまで。
適宜減量。
注意
1. 1回あたりの最大塗布量は，下表を目安。
(表開始)
年齢(体重)区分 塗布量の上限(g)
2～5歳(20kg未満) 1
6～12歳(20～50kg未満) 2～4
13歳以上(50kg以上) 5
(表終了)
参考 臨床試験時の用量
2. 皮疹の増悪期 角質層のバリア機能が低下し，血中濃度が高くなる可能性，2週間以内に皮疹の改善なければ使用中止。皮疹の悪化時も使用中止。
3. 症状改善で必要がなくなれば速やかに中止。漫然と長期使用しない。
4. 1日2回では約12時間間隔で塗布。

■禁忌
【禁忌】1. 患部に潰瘍，局面を形成している糜爛。
2. 高度の腎障害，高度の高カリウム血症。
3. 魚鱗癬様紅皮症(Netherton症候群等)。
4. 低出生体重児，新生児，乳児，2歳未満の幼児。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。
6. PUVA療法等の紫外線療法を実施中。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
適用部位の皮膚刺激感 疼痛(ヒリヒリ感，しみる等)(36. 5%)，熱感(灼熱感，ほてり感等)(16. 3%)，掻痒感
皮膚感染症 細菌性感染症(毛嚢炎，伝染性膿痂疹等)(16. 3%)，ウイルス性感染症(単純疱疹，カポジ水痘様発疹症等) 真菌性感染症(白癬等)
その他の皮膚症状 ざ瘡，丘疹 ざ瘡様皮疹，皮膚乾燥，接触皮膚炎，紅斑，酒さ様皮膚炎，適用部位浮腫
皮膚以外の症状 皮膚以外の感染症(上気道炎，リンパ節炎等) 頭痛，頭重感
(表終了)

ベピオゲル2. 5% (2. 5%1g)
外 外用 流通

【YJコード】2699712Q1021
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】過酸化ベンゾイル
【メーカー】製)マルホ
【薬価】87.1円/1g
【薬価収載日】2015/02/24
【標榜薬効】尋常性ざ瘡治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性ざ瘡
注意
結節・嚢腫には，他の適切な処置。
【用法用量】1日1回 洗顔後 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
皮膚 皮膚剥脱(鱗屑・落屑)(15. 3%)，紅斑(12. 3%)，刺激感(11. 4%)，乾燥 掻痒，接触皮膚炎(アレルギー性接触皮膚炎含む)，皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，間擦疹，乾皮症，脂腺機能亢進，腫脹，ピリピリ感，灼熱感 汗疹，違和感，皮脂欠乏症，ほてり，浮腫，丘疹，疼痛，水疱，糜爛
その他 口角炎，眼瞼炎，白血球数減少，白血球数増加，血小板数増加，血中ビリルビン増加，ALT増加 血中コレステロール減少，血中尿素減少，呼吸困難感
(表終了)

マーデュオックス軟膏 (1g)
外 外用 流通
劇

【YJコード】2699804M1023
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】マキサカルシトール・ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
【メーカー】製)マルホ
【薬価】139.4円/1g
【薬価収載日】2016/05/25
【標榜薬効】尋常性乾癬治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性乾癬
【用法用量】1日1回 塗布。
注意
1. 1日10g(マキサカルシトール 250μg)まで。
2. 使用開始後4週間を目安に必要性を検討，漫然と使用を継続しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往
2. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
3. 潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 高カルシウム血症(頻度不明)(口渇，倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(血中カルシウム増加)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 皮膚の刺激感，発疹
皮膚 皮膚の感染症 毛包炎 ウイルス感染症，真菌症(カンジダ症，白癬等)，細菌感染症(伝染性膿痂疹，せつ等)
皮膚 その他の皮膚症状 掻痒，紅斑，湿疹(発赤，苔癬化，腫脹，糜爛等)，接触皮膚炎，色素沈着，魚鱗癬様皮膚変化，ざ瘡(ざ瘡様発疹，ステロイドざ瘡等)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，ステロイド潮紅等)，水疱，腫脹，疼痛，皮膚剥脱，ステロイド酒さ・口囲皮膚炎(口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑)，紫斑，多毛，色素脱失，皮膚乾燥，糜爛，浮腫，熱感
腎臓 血中クレアチニン増加 尿路結石，尿中蛋白陽性，BUN増加，増殖性糸球体腎炎
代謝 血中カルシウム増加 血中リン減少，血中リン増加，AI－P増加，CK増加，尿中ブドウ糖陽性，血中アルブミン減少，血中カリウム減少
消化器 口渇，食欲不振，糜爛性胃炎
肝臓 肝機能異常 γ－GTP増加，AST増加，ALT増加，血中ビリルビン増加，尿中ウロビリン陽性
血液 白血球数減少 白血球数増加，血小板数減少
下垂体・副腎皮質系 血中コルチゾール減少 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
筋・骨格系 背部痛
(表終了)

2. 9 その他の個々の器官系用医薬品

2. 9. 0 その他の個々の器官系用医薬品

ハイゼット錠25mg (25mg1錠)
外 内服 流通

【YJコード】2900002F4065
【薬効分類】2. 9. 0 その他の個々の器官系用医薬品
【一般名】ガンマオリザノール
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】6.3円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】高脂血症・心身症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高脂血症
2. 心身症(更年期障害，過敏性腸症候群)の身体症候・不安・緊張・抑うつ
注意
高脂血症
十分な検査を実施し，高脂血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】高脂血症
成人 1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
心身症(更年期障害，過敏性腸症候群)の身体症候・不安・緊張・抑うつ

2 個々の器官系用医薬品

成人 1日10～50mg 内服。
適宜増減。
過敏性腸症候群 1日最高50mg。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈・ふらつき，浮上感 眠気 頭痛・頭重感，いらいら感等
消化器 嘔気・嘔吐，腹痛，下痢，便秘，腹部膨満感，食欲不振 腹部不快感，腹鳴，胸やけ，げっぷ，無味感，口内炎等
過敏症 発疹，掻痒，皮膚異常感 潮紅等
循環器 血圧上昇 動悸等
肝臓 AST，ALT上昇等の肝機能障害
その他 倦怠感，体のほてり，不快感，夜間頻尿 口渇，浮腫，脱力感
（表終了）

ハイゼット錠25mg

3 代謝性医薬品

3 代謝性医薬品

3．1 ビタミン剤

3．1．1 ビタミンA及びD剤

アルファカルシドールカプセル1．0μg「BMD」（1μg1カプセル）

外 内服 後発 流通
劇

【YJコード】3112001M3367
【薬効分類】3．1．1 ビタミンA及びD剤
【一般名】アルファカルシドール
【先発品】アルファロールカプセル1μg
【メーカー】製)ビオメディクス 販)高田製薬 販)日本ジェネリック 販)フェルゼンファーマ
【薬価】6.1円/1C
【薬価収載日】2015/04/24
【標榜薬効】Ca・骨代謝改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記ビタミンD代謝異常に伴う諸症状（低カルシウム血症，テタニー，骨痛，骨病変等）の改善
慢性腎不全，副甲状腺機能低下症，ビタミンD抵抗性クル病・骨軟化症
○骨粗鬆症
【用法用量】効能共通
血清カルシウム濃度の管理のもとに，投与量を調整。
慢性腎不全，骨粗鬆症
成人 1回0．5～1μg 1日1回 内服。
適宜増減。
副甲状腺機能低下症，その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患
成人 1回1～4μg 1日1回 内服。
適宜増減。
（小児量）
骨粗鬆症 1回0．01～0．03μg／kg 1日1回 内服。その他の疾患 1回0．05～0．1μg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．急性腎障害（頻度不明）（血清カルシウム上昇）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 食欲不振，悪心・嘔気，下痢，便秘，胃痛 嘔吐，腹部膨満感，胃部不快感，消化不良，口内異和感，口渇等
精神神経系 頭痛・頭重，不眠・いらいら感，脱力・倦怠感，眩暈，しびれ感，眠気，記憶力・記銘力の減退，耳鳴り，老人性難聴，背部痛，肩こり，下肢のつっぱり感，胸痛等
循環器 軽度の血圧上昇，動悸
肝臓 AST，ALTの上昇 LDH，γ－GTPの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇（腎機能の低下） 腎結石
皮膚 掻痒感 発疹，熱感
眼 結膜充血
骨 関節周囲の石灰化（化骨形成）
その他 嗄声，浮腫
（表終了）

チガソンカプセル10（10mg1カプセル）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3119001M1020
【薬効分類】3．1．1 ビタミンA及びD剤
【一般名】エトレチナート
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬 販)日本ロシュ
【薬価】467.7円/1C
【標榜薬効】角化症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○諸治療が無効かつ重症な下記
乾癬群（尋常性乾癬，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症，乾癬性関節炎）
魚鱗癬群（尋常性魚鱗癬，水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症，非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症），掌蹠角化症，ダリエー病，掌蹠膿疱症，毛孔性紅色粃糠疹・紅斑性角化症
口腔白板症，口腔乳頭腫・口腔扁平苔癬
【用法用量】成人 寛解導入量 1日40～50mg 1日2～3回 分割 2～4週間 内服。1日最高75mg。その後，寛解維持量 1日10～30mg 1日1～3回 分割 内服。
幼・小児 寛解導入量 1日1mg／kg 1日1～3回 分割 2～4週間 内服。その後，寛解維持量 1日0．6～0．8mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．肝障害。
4．腎障害。
5．ビタミンA製剤の投与患者。
6．ビタミンA過剰症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
中毒性表皮壊死症，多形紅斑，血管炎（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 落屑（63．5%），皮膚菲薄化（28．7%），掻痒（33．4%），脱毛（14．4%），爪囲炎，発汗 爪脆弱化，皮下出血，発疹，紅斑，色素沈着，亀裂 ざ瘡，水疱，皮膚乾燥 毛髪異常（縮れ，変色等）
粘膜 口唇炎（80．7%），口内乾燥（61．5%），鼻腔乾燥（6．3%），口角炎 口腔内糜爛 口内炎，咽頭痛，舌痛
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDHの上昇 黄疸
骨・関節 関節痛 骨異常（過骨症，骨端の早期閉鎖，骨痛等）
脂質代謝 トリグリセライド値の上昇 血清コレステロール値の上昇
腎臓 頻尿，BUN上昇 クレアチニン値上昇
血液 貧血，白血球減少，白血球増多
眼 結膜炎 眼瞼腫脹（乾燥，掻痒） 眼脂，眼痛，眼精疲労，目のかすみ 夜間視力低下
消化器 嘔気，嘔吐 腹痛，下痢，食欲不振
精神神経系 頭痛・頭重 眩暈，しびれ感，不眠 頭蓋内圧亢進（うっ血乳頭，頭痛，悪心，嘔吐，視覚異常）
その他 ほてり，倦怠感（脱力感） 悪寒，発熱，体重減少，浮腫，中耳炎（耳漏），耳鳴，味覚異常，耐糖能異常 肉芽腫，筋肉痛
（表終了）

3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）

ハイボン錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3131002F1276
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】リボフラビン酪酸エステル
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】高コレステロール血症改善ビタミン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高コレステロール血症（効果なければ漫然使用しない）
2．ビタミンB2欠乏症の予防・治療
3．下記のうちビタミンB2の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
口角炎，口唇炎，舌炎，脂漏性湿疹，結膜炎，びまん性表層角膜炎
4．ビタミンB2の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，妊産婦，授乳婦，激しい肉体労働時等）
【用法用量】成人 1日5～20mg 1日2～3回 分割 内服。
高コレステロール血症 成人 1日60～120mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃膨満，腹部膨満 胃不快感，食欲不振
（表終了）

メチコバール錠500μg（0．5mg1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】3136004F2138
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】メコバラミン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】10.4円/1T

3 代謝性医薬品

【標榜薬効】末梢性神経障害治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】末梢性神経障害
【用法用量】成人 1日3錠(メコバラミン 1500μg) 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢
過敏症 発疹
(表終了)

3.1.7 混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)

ビタメジン配合カプセルB25 (1カプセル)

外 内服 流通

【YJコード】3179109M1074
【薬効分類】3.1.7 混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)
【一般名】ベンフォチアミン・B6・B12配合剤
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】5.9円/1C
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】複合ビタミンB剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 本剤含有ビタミン類の需要が増大し, 食事での摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦等)
2. 下記のうち本剤含有ビタミン類の欠乏・代謝障害の関与が推定される時
神経痛, 筋肉痛・関節痛, 末梢神経炎・末梢神経麻痺
効果なければ漫然使用しない
【用法用量】成人 1日3～4カプセル 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心・嘔吐, 下痢
(表終了)

3.1.9 その他のビタミン剤

ビオチン散0.2%「ホエイ」(0.2%1g)

外 内服 流通

【YJコード】3190001B1050
【薬効分類】3.1.9 その他のビタミン剤
【一般名】ビオチン
【メーカー】製)東洋製薬化成 販)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー 販)マイラン製薬
【薬価】6.7円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】抗皮膚炎ビタミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】急・慢性湿疹, 小児湿疹, 接触皮膚炎, 脂漏性湿疹, 尋常性ざ瘡
【用法用量】成人 1日0.5～2mg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1日の製剤量
(表開始)
1日量
本剤 0.25～1g
(表終了)

3.2 滋養強壮薬

3.2.2 無機質製剤

アスパラカリウム散50% (50%1g)

外 内服 流通

【YJコード】3229005B1038
【薬効分類】3.2.2 無機質製剤
【一般名】L-アスパラギン酸カリウム
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】6.7円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】Kアスパルテート製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記のカリウム補給
○降圧利尿剤, 副腎皮質ホルモン, 強心配糖体, インスリン, ある種の抗生剤等の連用時
○低カリウム血症型周期性四肢麻痺
○心疾患時の低カリウム状態
○重症嘔吐, 下痢, カリウム摂取不足, 術後
【用法用量】成人 1日L-アスパラギン酸カリウム0.9～2.7g 1日3回 分割 内服。
症状により 1回3gまで。
注意
1. 剤形換算
(表開始)
剤形 1日量(g) 症状により増量(1回)
散 1.8～5.46g
(表終了)
2. 低クロール血症性アルカローシスを伴う低カリウム血症 本剤とともにクロールを補給。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な腎機能障害(前日の尿量が500mL以下・投与直前の排尿が20mL/時以下)。
2. 副腎機能障害(アジソン病)。
3. 高カリウム血症。
4. 消化管通過障害。
(1). 食道狭窄(心肥大, 食道癌, 胸部大動脈瘤, 逆流性食道炎, 心臓手術等による食道圧迫)。
(2). 消化管狭窄・消化管運動機能不全。
5. 高カリウム血性周期性四肢麻痺。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。
7. エプレレノン(高血圧症), エサキセレノンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心臓伝導障害(頻度不明), 高カリウム血症。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満
消化器 胃腸障害, 食欲不振, 心窩部重圧感
その他 耳鳴
(表終了)

アスパラカリウム錠300mg (300mg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】3229005F1080
【薬効分類】3.2.2 無機質製剤
【一般名】L-アスパラギン酸カリウム
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】Kアスパルテート製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記のカリウム補給
○降圧利尿剤, 副腎皮質ホルモン, 強心配糖体, インスリン, ある種の抗生剤等の連用時
○低カリウム血症型周期性四肢麻痺
○心疾患時の低カリウム状態
○重症嘔吐, 下痢, カリウム摂取不足, 術後
【用法用量】成人 1日0.9～2.7g 1日3回 分割 内服。
症状により 1回3gまで。
注意
1. 剤形換算
(表開始)
剤形 1日量(錠) 症状により増量(1回)
錠 3～9 10錠
(表終了)
2. 低クロール血症性アルカローシスを伴う低カリウム血症 本剤とともにクロールを補給。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な腎機能障害(前日の尿量が500mL以下・投与直前の

3 代謝性医薬品

排尿が20mL／時以下)。
2. 副腎機能障害(アジソン病)。
3. 高カリウム血症。
4. 消化管通過障害。
(1). 食道狭窄(心肥大, 食道癌, 胸部大動脈瘤, 逆流性食道炎, 心臓手術等による食道圧迫)。
(2). 消化管狭窄・消化管運動機能不全。
5. 高カリウム血性周期性四肢麻痺。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。
7. エプレレノン(高血圧症), エサキセレノンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心臓伝導障害(頻度不明), 高カリウム血症。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満
消化器 胃腸障害, 食欲不振, 心窩部重圧感
その他 耳鳴
(表終了)

ソリターT配合顆粒3号（4g1包）
外 内服 流通

【YJコード】3229101D2035
【薬効分類】3. 2. 2 無機質製剤
【一般名】ナトリウム・カリウム・マグネシウム配合剤
【メーカー】製)エイワイファーマ 販)EAファーマ 販)陽進堂
【薬価】33.9円/1包
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】電解質剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】軽症・中等症の脱水症, 術後の回復期の電解質補給・維持
【用法用量】1包(4g)を用時100mLの水又は微温湯に撹拌溶解。成人 1回100mL 1日数回 口渇に応じ 内服。小児 1回20～100mL 1日8～10回 2～3時間ごと 内服。
適宜増減。
注意
乳幼児 初回 約20mL投与し, 30～60分間経過後嘔吐のないことを確かめてから, 追加。

■禁忌
【禁忌】1. 腸管閉塞, 腸穿孔, 小腸機能障害。
2. 重篤な腎障害。
3. 激しい嘔吐。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 嘔吐, 下痢等
大量投与 水中毒
(表終了)

フェロミア錠50mg（鉄50mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】3222013F1025
【薬効分類】3. 2. 2 無機質製剤
【一般名】クエン酸第一鉄ナトリウム
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】可溶性非イオン型鉄剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】鉄欠乏性貧血
【用法用量】成人 1日100～200mg(本剤 2～4錠) 1日1～2回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】鉄欠乏状態にない患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐 上腹部不快感, 胃・腹痛, 下痢, 食欲不振, 便秘, 胸やけ 腹部膨満感
過敏症 発疹 掻痒感 光線過敏症
肝臓 AST, ALTの上昇等 AI－Pの上昇等
精神神経系 頭痛, 眩暈
その他 倦怠感, 浮腫
(表終了)

3. 2. 5 たん白アミノ酸製剤

イノラス配合経腸用液（10mL）
外 内服 流通

【YJコード】3259120S1021
【薬効分類】3. 2. 5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)イーエヌ大塚製薬 販)大塚製薬
【薬価】14.1円/10mL
【薬価収載日】2019/05/29
【標榜薬効】経腸栄養剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】術後の栄養保持, 長期に経口摂取困難時の経管栄養補給
注意
術後投与時, 胃, 腸管の運動機能が回復し, 水分の摂取が可能になったことを確認。
【用法用量】成人 1日562. 5～937. 5mL(900～1500kcal) 経管又は内服。
経管投与の投与速度 50～400mL／時, 持続的又は1日数回 分割投与。
内服 1日1～数回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1. 投与初期には低速度から開始。
2. 経口食により栄養摂取が可能となれば, 速やかに経口食に切りかえる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 牛乳蛋白アレルギー。
3. イレウス。
4. 腸管の機能が残存してない患者。
5. 高度の肝・腎障害。
6. 重症糖尿病等の糖代謝異常。
7. 先天性アミノ酸代謝異常。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下, 意識障害, 呼吸困難, チアノーゼ, 悪心, 胸内苦悶, 顔面潮紅, 掻痒感, 発汗等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
消化器 下痢, 軟便, 便秘 腹部膨満感, 腹痛, 悪心, 嘔吐, 肝機能検査値の異常
その他 皮疹, 蕁麻疹, 発熱, 頭痛
臨床検査値の異常変動(血液) ナトリウム低下, 血糖値の上昇, 中性脂肪の上昇, 白血球数の増加 AST, ALT, AI－P, LDH, γ－GTP, LAP, 尿素窒素, カリウム, クレアチニン, カルシウム, クロールの上昇, クロール, カルシウム, 総コレステロール, 遊離脂肪酸, 総ビリルビン, 尿酸, 総蛋白, アルブミンの低下, 血糖値の低下, 血小板数の増加, 赤血球数の減少, 血色素量, ヘマトクリット値の低下
臨床検査値の異常変動(尿) 蛋白定性, ウロビリノーゲン定性, ケトン体定性, 尿糖定性の陽性, ナトリウム, クロール, カルシウム, カリウムの低下と上昇, pHの上昇
(表終了)

エネーボ配合経腸用液（10mL）
外 内服 流通

【YJコード】3259119S1029
【薬効分類】3. 2. 5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)アボットジャパン
【薬価】8.3円/10mL
【薬価収載日】2014/05/30
【標榜薬効】経腸栄養剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】術後の栄養保持, 長期に経口摂取困難時の経管栄養補給
注意
術後投与時, 胃, 腸管の運動機能が回復し, 水分の摂取が可能になったことを確認。
【用法用量】成人 1日1000～1667mL(1200～2000kcal) 経管又は内服。経管投与 62. 5～104mL／時(75～125kcal)で持続的, 又は1日数回 分割 投与。内服 1日1～数回 分割もできる。初期量 333mL／日(400kcal／日)を目安とし 低速度(約41. 7mL／時(50kcal／時)以下) 投与。以後 漸増し 標準量とする。
適宜増減。初期 水で希釈しての投与も考慮。
注意

3 代謝性医薬品

1. 経口食により栄養摂取が可能となれば，速やかに経口食に切りかえる。
2. 臨床試験で2週間を超える時期での効果は未確認。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 牛乳蛋白アレルギー。
3. イレウス。
4. 腸管の機能が残存してない患者。
5. 高度の肝・腎障害。
6. 重症糖尿病等の糖代謝異常。
7. 先天性アミノ酸代謝異常。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満
消化器 下痢（40．7%），便秘（15．3%），腹部膨満（10．2%），腹痛
腹水，悪心，門脈ガス血症
代謝・栄養 低ナトリウム血症，高カリウム血症
肝臓 肝機能異常
呼吸器 乳び胸
血液 γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血中AI－P増加 血中カリウム増加，アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，好酸球数増加，肝機能検査異常
尿 尿量減少
（表終了）

3．3 血液・体液用薬

3．3．2 止血剤

アドナ錠30mg（30mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】3321002F2366
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】7.7円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】対血管薬剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 毛細血管抵抗性の減弱，透過性の亢進によると考えられる出血傾向（例，紫斑病等）
2. 毛細血管抵抗性の減弱による皮膚，粘膜，内膜からの出血，眼底出血・腎出血・子宮出血
3. 毛細血管抵抗性の減弱による術中・術後の異常出血
【用法用量】成人 1日30～90mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
（1日量剤形換算）
（表開始）
剤形 成人
本剤 1～3錠
（表終了）

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感 悪心，嘔吐
過敏症 発疹，掻痒
（表終了）

トランサミン散50%（50%1g）
外 内服 流通

【YJコード】3327002B1027
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】トラネキサム酸
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】10.3円/1g
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】抗プラスミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向（白血病，再生不良性貧血，紫斑病等，術中・術後の異常出血）
2. 局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血（肺出血，鼻出血，性器出血，腎出血，前立腺手術中・術後の異常出血）
3. 下記の紅斑・腫脹・掻痒等の症状
湿疹・その類症，蕁麻疹，薬疹・中毒疹
4. 下記の咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状
扁桃炎，咽喉頭炎
5. 口内炎の口内痛・口内粘膜アフタ
【用法用量】成人 1日トラネキサム酸750～2000mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】トロンビンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
痙攣（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満
過敏症 掻痒感，発疹等
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，胸やけ
その他 眠気
（表終了）

3．3．3 血液凝固阻止剤

ヒルドイドソフト軟膏0．3%（1g）
外 外用 流通

【YJコード】3339950M1137
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【メーカー】製)マルホ
【薬価】18.2円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】血栓性静脈炎（痔核含む），血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結・疼痛），凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 塗擦，又はガーゼ等にのばして貼付。

■禁忌
【禁忌】1. 出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2. 僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

ヒルドイドフォーム0．3%（1g）
外 外用 流通

【YJコード】3339950R1177
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【メーカー】製)マルホ
【薬価】18.7円/1g
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】血栓性静脈炎（痔核含む），血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結・疼痛），凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 塗布。

■禁忌
【禁忌】1. 出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2. 僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

3 代謝性医薬品

発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

ヒルドイドローション0．3%（1g）

外 外用 流通

【YJコード】3339950Q1074
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【メーカー】製)マルホ
【薬価】18.2円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血栓性静脈炎（痔核含む），血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結・疼痛），凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 塗布。

■禁忌

【禁忌】1．出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2．僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

ヘパリンカルシウム皮下注5千単位／0．2mLシリンジ「モチダ」（5000単位0．2mL1筒）

外 注射 自注 後発 流通

【YJコード】3334400G1022
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリンカルシウム
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】522円/1筒
【薬価収載日】2009/09/18
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．DICの治療
2．血栓塞栓症（静脈血栓症，心筋梗塞症，肺塞栓症，脳塞栓症，四肢動脈血栓塞栓症，術中・術後の血栓塞栓症等）の治療・予防
【用法用量】下記の各投与法は，症例又は適応領域，目的により決定。
投与後，全血凝固時間（Lee－White法）又は全血活性化部分トロンボプラスチン時間（WBAPTT）が正常値の2～3倍になるように適宜コントロール。
初回 15000～20000単位，維持量 1回10000～15000単位 1日2回 12時間間隔 皮下注。
術後又は心筋梗塞等に続発する静脈血栓症の予防 5000単位 12時間ごと 7～10日間 皮下注。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，意識低下，呼吸困難，チアノーゼ，蕁麻疹等）。
2．重篤な出血（頻度不明）（脳出血，消化管出血，肺出血，硬膜外血腫，後腹膜血腫，腹腔内出血，術後出血，刺入部出血等）。
3．血小板減少（頻度不明），HIT等に伴う血小板減少・血栓症（頻度不明）（著明な血小板減少，脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等，シャント閉塞，回路内閉塞等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 掻痒感，蕁麻疹，悪寒，発熱，鼻炎，気管支喘息，流涙等
皮膚 脱毛，白斑，出血性壊死等
肝臓 AST上昇，ALT上昇
長期投与 骨粗鬆症，低アルドステロン症
投与部位 発赤，腫脹，硬結，掻痒感，局所の疼痛性血腫等
（表終了）

ヘパリン類似物質外用スプレー0．3%「日医工」（1g）

外 外用 後発 流通

【YJコード】3339950R1126
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【先発品】ヒルドイドフォーム0．3%
【メーカー】製)日医工 販)持田製薬
【薬価】7.4円/1g
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血栓性静脈炎（痔核含む），血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結・疼痛），凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 噴霧。

■禁忌

【禁忌】1．出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2．僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

ヘパリン類似物質クリーム0．3%「日医工」（1g）

外 外用 後発 流通

【YJコード】3339950N1094
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【先発品】ヒルドイドクリーム0．3%
【メーカー】製)帝國製薬 販)日医工 販)持田製薬
【薬価】3.7円/1g
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮脂欠乏症，進行性指掌角皮症，凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結，疼痛），血栓性静脈炎（痔核含む），外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 塗擦，又はガーゼ等にのばして貼付。

■禁忌

【禁忌】1．出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2．僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

3．3．9 その他の血液・体液用薬

アンプラーグ錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3399006F2022
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】サルポグレラート塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ 販)三菱東京製薬
【薬価】52.6円/1T
【薬価収載日】1993/08/27
【標榜薬効】5－HT2ブロッカー

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症

3 代謝性医薬品

状の改善
【用法用量】成人 1回100mg 1日3回 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 毛細血管脆弱症, 消化管潰瘍, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳出血, 消化管出血(各0.1%未満)(吐血, 下血等)。
2. 血小板減少(頻度不明)。
3. 肝機能障害(AST, ALT, AI−P, γ−GTP, LDHの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
4. 無顆粒球症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1〜5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤 丘疹, 掻痒 紅斑, 蕁麻疹
肝臓 肝機能障害(ビリルビン, AST, ALT, AI−P, γ−GTP, LDHの上昇等)
出血傾向 出血(鼻出血, 皮下出血等)
消化器 嘔気, 胸やけ, 腹痛, 便秘 異物感(食道), 食欲不振, 腹部膨満感, 下痢 嘔吐, 口内炎
循環器 心悸亢進 息切れ, 胸痛, ほてり
精神神経系 頭痛 眠気, 味覚異常, 眩暈
腎臓 蛋白尿, 尿潜血, BUN上昇, クレアチニン上昇
血液 貧血 血小板減少 白血球減少
その他 血清中性脂肪の上昇, 血清コレステロールの上昇, 血清アルブミンの減少, 尿糖, 尿沈渣 体重の増加, 浮腫, 倦怠感, 血清カルシウムの減少 しびれ感, 発熱, 咽頭痛, 咽頭不快感, 咽頭灼熱感
(表終了)

エパデールS600(600mg1包)

外 内服 流通

【YJコード】3399004M3029
【薬効分類】3.3.9 その他の血液・体液用薬
【一般名】イコサペント酸エチル
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】35.7円/1包
【薬価収載日】1998/12/04
【標榜薬効】EPA製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感の改善
○高脂血症
注意
高脂血症
適用前に検査を実施し, 高脂血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感の改善
成人 1回600mg 1日3回 食直後 内服。
適宜増減。
高脂血症
成人 1回900mg 1日2回, 又は1回600mg 1日3回 食直後 内服。
トリグリセリドの異常時 1回900mg 1日3回まで。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 毛細血管脆弱症, 消化管潰瘍, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. ミフェプリストン・ミソプロストールの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, AI−P, γ−GTP, LDH, ビリルビン等の上昇), 黄疸(頻度不明)。
2. 心房細動(頻度不明), 心房粗動(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1〜5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感等
出血傾向 皮下出血 血尿, 歯肉出血, 眼底出血, 鼻出血, 消化管出血等
血液 貧血等
消化器 悪心, 胸やけ, 腹部不快感, 下痢, 便秘, 腹部膨満感, 腹痛 嘔吐, 食欲不振, 口内炎, 口渇, 鼓腸等
肝臓 AST・ALT・AI−P・γ−GTP・LDH・ビリルビンの上昇等の肝機能障害
腎臓 BUN・クレアチニンの上昇
呼吸器 咳嗽, 呼吸困難
精神神経系 頭痛・頭重感, ふらつき, しびれ 眩暈, 眠気, 不眠
筋骨格系 関節痛, 筋肉痛, 四肢痛, 筋痙攣(こむら返り等)
その他 浮腫, 尿酸上昇, CKの上昇, 動悸 顔面潮紅, ほてり, 発熱, 頻尿, 全身倦怠感, 血圧上昇, 女性化乳房, 耳鳴, 発汗, ざ瘡
(表終了)

エパデールS900(900mg1包)

外 内服 流通

【YJコード】3399004M4025
【薬効分類】3.3.9 その他の血液・体液用薬
【一般名】イコサペント酸エチル
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】46.2円/1包
【薬価収載日】2004/06/25
【標榜薬効】EPA製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感の改善
○高脂血症
注意
高脂血症
適用前に検査を実施し, 高脂血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感の改善
成人 1回600mg 1日3回 食直後 内服。
適宜増減。
高脂血症
成人 1回900mg 1日2回, 又は1回600mg 1日3回 食直後 内服。
トリグリセリドの異常時 1回900mg 1日3回まで。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 毛細血管脆弱症, 消化管潰瘍, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. ミフェプリストン・ミソプロストールの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, AI−P, γ−GTP, LDH, ビリルビン等の上昇), 黄疸(頻度不明)。
2. 心房細動(頻度不明), 心房粗動(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1〜5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感等
出血傾向 皮下出血 血尿, 歯肉出血, 眼底出血, 鼻出血, 消化管出血等
血液 貧血等
消化器 悪心, 胸やけ, 腹部不快感, 下痢, 便秘, 腹部膨満感, 腹痛 嘔吐, 食欲不振, 口内炎, 口渇, 鼓腸等
肝臓 AST・ALT・AI−P・γ−GTP・LDH・ビリルビンの上昇等の肝機能障害
腎臓 BUN・クレアチニンの上昇
呼吸器 咳嗽, 呼吸困難
精神神経系 頭痛・頭重感, ふらつき, しびれ 眩暈, 眠気, 不眠
筋骨格系 関節痛, 筋肉痛, 四肢痛, 筋痙攣(こむら返り等)
その他 浮腫, 尿酸上昇, CKの上昇, 動悸 顔面潮紅, ほてり, 発熱, 頻尿, 全身倦怠感, 血圧上昇, 女性化乳房, 耳鳴, 発汗, ざ瘡
(表終了)

オパルモン錠5μg(5μg1錠)

外 内服 流通

【YJコード】3399003F1073
【薬効分類】3.3.9 その他の血液・体液用薬
【一般名】リマプロスト アルファデクス
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】19.3円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】PGE1誘導体製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感等の虚血性諸症状の改善
2. 後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で, 両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛, 下肢しびれ)・歩行能力の改善
注意
後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で, 両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛, 下肢しびれ)・歩行能力の改善手術適応となる重症例の有効性は未確立。
【用法用量】1. 閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍, 疼痛, 冷感等の虚血性諸症状の改善
成人 1日30μg 1日3回 分割 内服。
2. 後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で, 両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛, 下肢しびれ)・歩行能力の改

3 代謝性医薬品

善
成人 1日15μg 1日3回 分割 内服。

■禁忌
【禁忌】妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALTの著しい上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感等 蕁麻疹 光線過敏症
出血傾向 出血
血液 貧血, 血小板減少
消化器 下痢, 悪心, 腹部不快感, 腹痛, 食欲不振, 胸やけ 嘔吐, 腹部膨満感, 口渇, 口内炎 舌しびれ
肝臓 AST・ALTの上昇等の肝機能異常
循環器 心悸亢進 頻脈, 低血圧, 四肢のチアノーゼ, 血圧上昇
精神神経系 頭痛, 眩暈 しびれ感, 眠気, 不眠
その他 潮紅, ほてり 全身倦怠感, 胸痛, 胸部不快感, 四肢痛, 浮腫, 乳腺腫脹, 身ぶるい, 下肢多毛, 味覚異常
(表終了)

コンプラビン配合錠(1錠)

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399101F1021
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】クロピドグレル硫酸塩・アスピリン
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】58.7円/1T
【薬価収載日】2013/11/29
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患
急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞
注意
1. クロピドグレルとアスピリンの併用による治療が適切な時のみ使用。投与が適切か慎重に判断。
2. PCIが適用予定の虚血性心疾患への投与は可能。冠動脈造影により, 保存的治療・冠動脈バイパス術が選択され, PCI不適用時には, 以後の投与は控える。
【用法用量】成人 1回1錠(クロピドグレル 75mg, アスピリン 100mg) 1日1回 内服。
注意
1. クロピドグレルのローディングドーズ投与(投与開始日に300mg)には本剤を用いず, クロピドグレル硫酸塩(クロピドグレル75mg)単剤を用いる。PCI施行の4日以上前からクロピドグレルを投与されている時, ローディングドーズ投与は必須ではない。
2. ステント留置患者では該当医療機器の電子添文を必ず参照。投与終了後は単剤の抗血小板剤に切りかえる。
3. 空腹時は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 頭蓋内出血, 消化管出血, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. 出血傾向。
3. 本剤の成分・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
4. 消化性潰瘍。
5. アスピリン喘息・その既往。
6. 出産予定日12週以内の妊婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 出血(脳出血等の頭蓋内出血(1%未満)(頭痛, 悪心・嘔吐, 意識障害, 片麻痺等), 硬膜下血腫(頻度不明), 吐血(頻度不明), 下血(1%未満), 胃腸出血(1%未満), 眼底出血(1%未満), 関節血腫(頻度不明), 腹部血腫(0. 1%未満), 後腹膜出血(頻度不明), 肺出血(頻度不明)等)。
2. 出血を伴う胃・十二指腸潰瘍(1%未満), 小腸・大腸潰瘍(頻度不明)(狭窄・閉塞)。
3. 肝機能障害(ALT上昇(7. 9%), γ－GTP上昇(5. 1%), AST上昇(5. 6%)), 黄疸(頻度不明), 急性肝不全(頻度不明), 肝炎(頻度不明)等。
4. 血栓性血小板減少性紫斑病(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 出血症状(紫斑等), 精神神経症状(意識障害等), 血小板減少, 溶血性貧血(破砕赤血球の出現), 発熱, 腎機能障害等)。
5. 間質性肺炎(頻度不明), 好酸球性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
6. 血小板減少(1%未満), 白血球減少(1%未満), 無顆粒球症(頻度不明), 再生不良性貧血含む汎血球減少症(頻度不明)。
7. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形滲出性紅斑, 急性汎発性発疹性膿疱症, 剥脱性皮膚炎(各頻度不明)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
9. 後天性血友病(頻度不明)。
10. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK(CPK)上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害等の重篤な腎障害。
11. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
12. 喘息発作(頻度不明)。
13. インスリン自己免疫症候群(頻度不明)(重度の低血糖)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
血液 皮下出血 貧血, 紫斑(病), 鼻出血, 止血延長, 眼出血, 歯肉出血, 痔出血, 血痰, 穿刺部位出血, 処置後出血, 口腔内出血, 術中出血, カテーテル留置部位血腫, ヘモグロビン減少, 赤血球減少, ヘマトクリット減少, 好中球減少, 好酸球増多 月経過多, 口唇出血, 陰茎出血, 尿道出血 好酸球減少, 血清病
肝臓 AI－P上昇, LDH上昇, 血清ビリルビン上昇 胆石症, 胆嚢炎
消化器 消化器不快感, 腹痛, 胃腸炎, 食道炎, 下痢, 便秘, 嘔気, 口内炎 腹部膨満, 腸管虚血, 消化不良, 嘔吐, 食欲不振 耳下腺痛, 歯肉腫脹, 歯肉(齦)炎, 唾液分泌過多, 粘膜出血, 口渇, 胃腸障害, 胸やけ, 口唇腫脹, 大腸炎(潰瘍性大腸炎, リンパ球性大腸炎), 膵炎
代謝異常 中性脂肪上昇, CK(CPK)上昇, K上昇, 血糖上昇, 血中尿酸上昇 Na下降, 総コレステロール上昇, 総蛋白低下 アルブミン低下, アミラーゼ上昇, Cl下降, Na上昇, K下降, 代謝性アシドーシス, 低血糖
過敏症 発疹, 掻痒感, 湿疹, 蕁麻疹, 紅斑 斑状丘疹性皮疹, 血管浮腫, 気管支痙攣, 光線過敏性皮膚炎, 眼瞼浮腫
皮膚 脱毛 皮膚乾燥 膨疹, 発汗, 水疱性皮疹, 扁平苔癬
感覚器 眼充血 味覚異常 眼精疲労, 眼瞼炎, 結膜炎, 複視, 嗅覚障害, 視力低下, 角膜炎, 耳鳴, 難聴, 味覚消失
精神神経系 頭痛, 眩暈, 高血圧 不眠症, 意識障害 意識喪失, 音声変調, 低血圧, てんかん, 眠気, 皮膚感覚過敏, 流涙, 筋骨格硬直(肩こり, 手指硬直), 気分変動, しびれ
循環器 浮腫, 不整脈 徐脈 胸痛, 血管炎, 心電図異常, 脈拍数低下, 頻脈, 動悸, 心窩部痛
腎臓 BUN上昇, 尿蛋白増加, 血尿, 尿沈渣異常, 腎機能障害 尿路感染, 血中クレアチニン上昇, 尿糖陽性 急性腎障害, 尿閉, 頻尿, 糸球体症
呼吸器 気管支肺炎, 咳 胸水, 痰, 気管支炎, 鼻炎, 過呼吸
その他 関節炎, 発熱, CRP上昇 多発性関節炎, 肩痛, 腱鞘炎, 注射部位腫脹, 異常感(浮遊感, 気分不良) ほてり, 多発性筋炎, 滑液包炎, 男性乳房痛, 乳汁分泌過多, 乳腺炎, 女性化乳房, 倦怠感, 腰痛, 筋痛, 関節痛
(表終了)

タケルダ配合錠(1錠)

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399102F1026
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】アスピリン・ランソプラゾール配合剤
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】19.4円/1T
【薬価収載日】2014/05/30
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】アスピリン／ランソプラゾール配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の血栓・塞栓形成の抑制(胃潰瘍, 十二指腸潰瘍の既往のみ)
・狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞, 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作, 脳梗塞)
・冠動脈バイパス術, 経皮経管冠動脈形成術施行後
【用法用量】成人 1回1錠(アスピリン／ランソプラゾール 100mg／15mg) 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。
3. 消化性潰瘍。
4. 出血傾向。
5. アスピリン喘息・その既往。
6. 出産予定日12週以内の妊婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(呼吸困難, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)(各頻度不明)。

3 代謝性医薬品

2. 汎血球減少，無顆粒球症，再生不良性貧血，溶血性貧血，顆粒球減少，血小板減少，貧血(各頻度不明)。
3. 重篤な肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎(各頻度不明)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常(捻髪音)等)。
6. 尿細管間質性腎炎(頻度不明)，急性腎障害(BUN，クレアチニン上昇等)。
7. 出血(頻度不明)(脳出血等の頭蓋内出血(頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等)，肺出血，消化管出血，鼻出血，眼底出血等)。
8. 喘息発作(頻度不明)。
9. 消化性潰瘍(下血(メレナ)を伴う胃潰瘍・十二指腸潰瘍等)，小腸・大腸潰瘍(各頻度不明)(消化管出血，腸管穿孔，狭窄・閉塞)。
10. 視力障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹，発疹，掻痒 浮腫，多形紅斑
皮膚 亜急性皮膚エリテマトーデス
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇 LDHの上昇
血液 好酸球増多 貧血，血小板機能低下(出血時間延長)
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，口内炎，悪心，大腸炎(collagenous colitis等含む) 口渇，腹痛，胃部不快感 嘔吐，胸やけ，食欲不振，カンジダ症，味覚異常，舌炎，口唇腫脹，胃腸障害，吐血，食道炎
精神神経系 頭痛，眩暈 眠気，うつ状態，不眠，振戦，興奮
循環器 血圧低下，血管炎，心窩部痛
呼吸器 気管支炎，鼻炎
その他 結膜炎 腎障害，舌・口唇のしびれ感，難聴 発汗，発熱，女性化乳房，倦怠感，脱力感，四肢のしびれ感，角膜炎，かすみ目，耳鳴，筋肉痛，関節痛，脱毛，過呼吸，代謝性アシドーシス，低血糖，低ナトリウム血症，低マグネシウム血症，低カリウム血症，低カルシウム血症，総コレステロール，尿酸の上昇
(表終了)

チクロピジン塩酸塩錠100mg「サワイ」(100mg1錠)

外 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3399001F1406
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】チクロピジン塩酸塩
【先発品】パナルジン錠100mg
【メーカー】製)メディサ新薬 販)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/10/22
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○血管手術・血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療，血流障害の改善
○慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の阻血性諸症状の改善
○虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作，脳梗塞)に伴う血栓・塞栓の治療
○くも膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善
【用法用量】血管手術，血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療，血流障害の改善
成人 1日200～300mg(本剤 2～3錠) 1日2～3回 分割 食後 内服。
慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の阻血性諸症状の改善
成人 1日300～600mg(本剤 3～6錠) 1日2～3回 分割 食後 内服。
虚血性脳血管障害に伴う血栓・塞栓の治療
成人 1日200～300mg(本剤 2～3錠) 1日2～3回 分割 食後 内服，又は1日200mg(本剤 2錠) 1日1回 内服。
くも膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善
成人 1日300mg(本剤 3錠) 1日3回 分割 食後 内服。
効能共通
適宜増減。
注意
投与開始後2ヵ月間は，1回2週間分を処方。重大な副作用を回避するため，定期的な血液検査が必要。

■禁忌

【禁忌】1．出血(血友病，毛細血管脆弱症，消化管潰瘍，尿路出血，喀血，硝子体出血等)。
2．重篤な肝障害。
3．白血球減少症。
4．チクロピジン塩酸塩による白血球減少症の既往。
5．チクロピジン塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓性血小板減少性紫斑病(頻度不明)(血小板減少，溶血性貧血(破砕赤血球の出現)，動揺する精神神経症状，発熱，腎機能障害，倦怠感，食欲不振，出血症状(紫斑等)，精神神経症状(意識障害等)等)。
2．無顆粒球症(頻度不明)(発熱，咽頭痛，倦怠感等)。
3．重篤な肝障害(頻度不明)(肝機能障害(劇症肝炎，胆汁うっ滞型肝障害)(悪心・嘔吐，食欲不振，倦怠感，掻痒感，眼球黄染，皮膚の黄染，褐色尿等，著しいAST，ALT，ビリルビン，総コレステロールの上昇))。
4．再生不良性貧血含む汎血球減少症(頻度不明)。
5．赤芽球癆(頻度不明)。
6．血小板減少症(頻度不明)。
7．出血(脳出血等の頭蓋内出血(頻度不明)(頭痛，意識障害，片麻痺等)，消化管出血等の重篤な出血(頻度不明))。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)。
9．消化性潰瘍(頻度不明)。
10．急性腎障害(頻度不明)。
11．間質性肺炎(頻度不明)。
12．SLE様症状(頻度不明)(発熱，関節痛，胸部痛，胸水貯留，抗核抗体陽性等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少，貧血，顆粒球減少 好酸球増多
過敏症 発疹，掻痒感，蕁麻疹，発熱等 発赤，紅斑，浮腫等
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，黄疸等 LDH上昇，ビリルビン上昇，総コレステロール上昇等
腎臓 クレアチニン上昇，BUN上昇等
消化器 悪心，嘔吐，嘔気，食欲不振，胃不快感，下痢 口内炎，腹痛
味覚障害，膵酵素上昇
その他 頭痛，鼻出血，皮下出血，歯肉出血 眩暈，易疲労感，心悸亢進，全身倦怠感，血尿 眼底出血，結膜出血
(表終了)

ドルナー錠20μg(20μg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】3399005F1021
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】ベラプロストナトリウム
【メーカー】製)東レ 販)アステラス製薬 販)トーアエイヨー 販)東レ・メディカル
【薬価】20.8円/1T
【薬価収載日】1992/04/17
【標榜薬効】PGI2誘導体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
○原発性肺高血圧症
注意
原発性肺高血圧症
1．原発性肺高血圧症のみ使用。
2．内服のため，重症度の高い患者等は効果が得難い。改善なければ，注射剤や他の治療に切りかえる等の処置。
【用法用量】慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
成人 1日120μg 1日3回 分割 食後 内服。
原発性肺高血圧症
成人 1日60μgから開始 1日3回 分割 食後 内服。以後，漸増。
増量時 1日3～4回，1日最高180μg。
注意
原発性肺高血圧症
薬物療法への忍容性が患者により異なるので，少量から開始し，増量は状態を観察しながら行う。

■禁忌

【禁忌】1．出血(血友病，毛細血管脆弱症，上部消化管出血，尿路出血，喀血，眼底出血等)。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血傾向(頻度不明)(脳出血，消化管出血，肺出血，眼底出血)。
2．ショック，失神，意識消失(各頻度不明)(血圧低下，頻脈，顔面蒼白，嘔気等)。
3．間質性肺炎(頻度不明)。
4．肝機能障害(頻度不明)(黄疸，著しいAST，ALTの上昇)。
5．狭心症(頻度不明)。
6．心筋梗塞(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
出血傾向 出血傾向，皮下出血，鼻出血
血液 貧血，白血球増多 好酸球増多，血小板減少，白血球減少
過敏症 発疹，湿疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑
精神神経系 頭痛 眠気，ふらつき 眩暈，立ちくらみ，もうろう状態，しびれ感，振戦，不眠，浮遊感

3 代謝性医薬品

消化器系 下痢，嘔気，食欲不振，腹痛 嘔吐，口渇，胃不快感 上腹部痛，胃潰瘍，胃障害，胸やけ
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇 ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇 血尿 頻尿
循環器系 顔面潮紅 ほてり，のぼせ 動悸，潮紅 血圧低下，頻脈
その他 トリグリセライド上昇 倦怠感，疼痛，関節痛，息苦しさ，耳鳴，発汗，冷汗 浮腫，胸部不快感，胸痛，発熱，熱感，顎痛，気分不良，背部痛，頸部痛，脱毛，咳嗽，筋痛，脱力感
（表終了）

パナルジン錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399001F1384
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】チクロピジン塩酸塩
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)サノフィ 販)第一三共
【薬価】12円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．血管手術・血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療，血流障害の改善
2．慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の阻血性諸症状の改善
3．虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作，脳梗塞）に伴う血栓・塞栓の治療
4．くも膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善
【用法用量】血管手術，血液体外循環に伴う血栓・塞栓の治療，血流障害の改善
成人 1日200～300mg（錠 2～3錠，細粒 2～3g） 1日2～3回 分割 食後 内服。
慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の阻血性諸症状の改善
成人 1日300～600mg（錠 3～6錠，細粒 3～6g） 1日2～3回 分割 食後 内服。
虚血性脳血管障害に伴う血栓・塞栓の治療
成人 1日200～300mg（錠 2～3錠，細粒 2～3g） 1日2～3回 分割 食後 内服，又は1日200mg（錠 2錠，細粒 2g） 1日1回 内服。
くも膜下出血術後の脳血管攣縮に伴う血流障害の改善
成人 1日300mg（錠 3錠，細粒 3g） 1日3回 分割 食後 内服。
効能共通
適宜増減。
注意
投与開始後2ヵ月間は，1回2週間分を処方。重大な副作用を回避するため，定期的な血液検査が必要。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，消化管潰瘍，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．重篤な肝障害。
3．白血球減少症。
4．チクロピジン塩酸塩による白血球減少症の既往。
5．チクロピジン塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓性血小板減少性紫斑病（頻度不明）（血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），動揺する精神神経症状，発熱，腎機能障害，倦怠感，食欲不振，出血症状（紫斑等），精神神経症状（意識障害等）等）。
2．無顆粒球症（頻度不明）（発熱，咽頭痛，倦怠感等）。
3．重篤な肝障害（頻度不明）（肝機能障害（劇症肝炎，胆汁うっ滞型肝障害）（悪心・嘔吐，食欲不振，倦怠感，掻痒感，眼球黄染，皮膚の黄染，褐色尿等，著しいAST，ALT，ビリルビン，総コレステロールの上昇））。
4．再生不良性貧血含む汎血球減少症（頻度不明）。
5．赤芽球癆（頻度不明）。
6．血小板減少症（頻度不明）。
7．出血（脳出血等の頭蓋内出血（頻度不明）（頭痛，意識障害，片麻痺等），消化管出血等の重篤な出血（頻度不明））。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明）。
9．消化性潰瘍（頻度不明）。
10．急性腎障害（頻度不明）。
11．間質性肺炎（頻度不明）。
12．SLE様症状（頻度不明）（発熱，関節痛，胸部痛，胸水貯留，抗核抗体陽性等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少，貧血，顆粒球減少 好酸球増多
過敏症 発疹，掻痒感，蕁麻疹，発熱等 発赤，紅斑，浮腫等
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，黄疸等 LDH上昇，ビリルビン上昇，総コレステロール上昇等
腎臓 クレアチニン上昇，BUN上昇等
消化器 悪心，嘔吐，嘔気，食欲不振，胃不快感，下痢 口内炎，腹痛 味覚障害，膵酵素上昇
その他 頭痛，鼻出血，皮下出血，歯肉出血 眩暈，易疲労感，心悸亢進，全身倦怠感，血尿 眼底出血，結膜出血
（表終了）

バファリン配合錠A81（81mg1錠）

外 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3399100F1116
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】アスピリン・ダイアルミネート
【メーカー】製)ライオン 販)エーザイ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の血栓・塞栓形成の抑制
（1）．狭心症（慢性安定狭心症，不安定狭心症）
（2）．心筋梗塞
（3）．虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作，脳梗塞）
2．冠動脈バイパス術，経皮経管冠動脈形成術施行後の血栓・塞栓形成の抑制
3．川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
【用法用量】1．狭心症（慢性安定狭心症，不安定狭心症），心筋梗塞，虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作，脳梗塞）の血栓・塞栓形成の抑制，冠動脈バイパス術，経皮経管冠動脈形成術施行後の血栓・塞栓形成の抑制
成人 1回1錠（アスピリン 81mg） 1日1回 内服。
症状により 1回4錠（アスピリン 324mg）まで。
2．川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
急性期有熱期間 1日アスピリン30～50mg／kg 1日3回 分割 内服。
解熱後の回復期から慢性期 1日アスピリン3～5mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
1．空腹時は避ける。
2．心筋梗塞，経皮経管冠動脈形成術 初期量として維持量の数倍が必要。
3．川崎病の診断後，投与を開始。
4．川崎病の回復期 発症後数ヵ月間，血小板凝集能が亢進しているので，本剤を発症後2～3ヵ月間投与し，その後断層心エコー図等の冠動脈検査で冠動脈障害が認められない時は，投与中止。冠動脈瘤を形成した症例では，退縮が確認される時期まで投与を継続。
5．川崎病 低用量では血小板機能の抑制が認められない時もあるため，適宜，血小板凝集能の測定等を考慮。
6．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・本剤の成分・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
2．消化性潰瘍。
3．出血傾向。
4．アスピリン喘息・その既往。
5．出産予定日12週以内の妊婦。
6．低出生体重児，新生児，乳児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．出血（頻度不明）（脳出血等の頭蓋内出血（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等），肺出血，消化管出血，鼻出血，眼底出血等）。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
4．再生不良性貧血，血小板減少，白血球減少（各頻度不明）。
5．喘息発作の誘発（頻度不明）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
7．消化性潰瘍（下血（メレナ）を伴う胃潰瘍・十二指腸潰瘍等），小腸・大腸潰瘍（消化管出血，腸管穿孔，狭窄・閉塞）（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 胃腸障害，嘔吐，腹痛，胸やけ，便秘，下痢，食道炎，口唇腫脹，吐血，吐気，悪心，食欲不振，胃部不快感
過敏症 蕁麻疹，発疹，浮腫
皮膚 掻痒，皮疹，膨疹，発汗
精神神経系 眩暈，興奮，頭痛
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓 腎障害

3 代謝性医薬品

循環器 血圧低下，血管炎，心窩部痛
呼吸器 過呼吸，気管支炎，鼻出血，鼻炎
感覚器 角結膜炎，耳鳴，難聴
血液 貧血
その他 代謝性アシドーシス，倦怠感
（表終了）

プラビックス錠75mg（75mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399008F2021
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】クロピドグレル硫酸塩
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】58.2円/1T
【薬価収載日】2006/04/28
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
2．経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される下記の虚血性心疾患
急性冠症候群（不安定狭心症，非ST上昇心筋梗塞，ST上昇心筋梗塞），安定狭心症，陳旧性心筋梗塞
3．末梢動脈疾患の血栓・塞栓形成の抑制
注意
PCIが適用される虚血性心疾患 PCIが適用予定患者への投与は可能。冠動脈造影により，保存的治療・冠動脈バイパス術が選択され，PCI不適用時には，以後の投与は控える。
【用法用量】1．虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
成人 クロピドグレル 1回75mg 1日1回 内服。
年齢，体重，症状により クロピドグレル 1回50mg 1日1回 内服。
2．経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される虚血性心疾患
成人 投与開始日 クロピドグレル 300mg 1日1回 内服，その後，維持量 1回75mg 1日1回 内服。
3．末梢動脈疾患の血栓・塞栓形成の抑制
成人 クロピドグレル 1回75mg 1日1回 内服。
注意
効能共通
1．空腹時は避ける（国内臨床試験で絶食投与時に消化器症状あり）。
虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
2．出血を増強する可能性，出血傾向，その素因がある患者は，50mg 1日1回から投与。
経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される虚血性心疾患
3．抗血小板薬二剤併用療法期間はアスピリン（81～100mg／日）と併用。抗血小板薬二剤併用療法期間終了後の投与法は，国内外の最新のガイドライン等を参考。
4．ステント留置患者では該当医療機器の電子添文を必ず参照。
5．PCI施行前にクロピドグレル75mgを最低4日間投与されている時，ローディングドーズ投与（投与開始日に300mgを投与）は必須ではない。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血（脳出血等の頭蓋内出血（1%未満）（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等），硬膜下血腫（0．1%未満），吐血（頻度不明），下血，胃腸出血，眼底出血（各1%未満），関節血腫（0．1%未満），腹部血腫（0．1%未満），後腹膜出血（頻度不明）等）。
2．出血を伴う胃・十二指腸潰瘍（頻度不明）。
3．肝機能障害（ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇），黄疸，急性肝不全（頻度不明），肝炎（頻度不明）等。
4．血栓性血小板減少性紫斑病（頻度不明）（倦怠感，食欲不振，出血症状（紫斑等），精神神経症状（意識障害等），血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），発熱，腎機能障害等）。
5．間質性肺炎（0．1%未満），好酸球性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
6．血小板減少，無顆粒球症，再生不良性貧血含む汎血球減少症（頻度不明）。
7．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
9．後天性血友病（頻度不明）。
10．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
11．インスリン自己免疫症候群（頻度不明）（重度の低血糖）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 皮下出血，貧血，紫斑（病），鼻出血，止血延長，眼出血，歯肉出血，痔出血，血痰，穿刺部位出血，処置後出血，ヘモグロビン減少，赤血球減少，ヘマトクリット減少，白血球減少，好中球減少，好酸球増多
月経過多，口腔内出血，術中出血，カテーテル留置部位血腫，口唇出血，陰茎出血，尿道出血，好酸球減少 血清病
肝臓 AI－P上昇，LDH上昇，血清ビリルビン上昇 胆嚢炎，胆石症，黄疸
消化器 消化器不快感，胃腸炎，口内炎，腹痛，嘔気，下痢，食欲不振，便秘，食道炎，嘔吐 腹部膨満，消化不良，口渇，耳下腺痛，歯肉（齦）炎，歯肉腫脹，唾液分泌過多，粘膜出血，腸管虚血 大腸炎（潰瘍性大腸炎，リンパ球性大腸炎），膵炎
代謝異常 中性脂肪上昇，CK上昇，総コレステロール上昇，総蛋白低下，K上昇，アルブミン低下 血糖上昇，K下降，血中尿酸上昇，アミラーゼ上昇，Cl下降，Na上昇，Na下降
過敏症 発疹，掻痒感，湿疹，蕁麻疹，紅斑 光線過敏性皮膚炎，眼瞼浮腫 アナフィラキシー，斑状丘疹性皮疹，血管浮腫，気管支痙攣
皮膚 脱毛，皮膚乾燥 水疱性皮疹，扁平苔癬
感覚器 眼充血，眼瞼炎，眼精疲労，視力低下，複視，嗅覚障害，結膜炎，味覚異常 味覚消失
精神神経系 頭痛，高血圧，眩暈 しびれ，筋骨格硬直（肩こり，手指硬直），意識障害，不眠症，意識喪失，音声変調，低血圧，てんかん，眠気，皮膚感覚過敏，流涙，気分変動
循環器 浮腫，頻脈，不整脈 動悸，心電図異常，胸痛，脈拍数低下，徐脈 血管炎
腎臓 BUN上昇，血中クレアチニン上昇，尿蛋白増加，血尿，尿沈渣異常，尿糖陽性，腎機能障害 急性腎障害，尿閉，頻尿，尿路感染 糸球体症
呼吸器 咳，気管支肺炎，胸水，痰
その他 ほてり，関節炎，発熱，異常感（浮遊感，気分不良） 多発性筋炎，滑液包炎，男性乳房痛，乳汁分泌過多，乳腺炎，倦怠感，腰痛，多発性関節炎，肩痛，腱鞘炎，注射部位腫脹，CRP上昇 筋痛，関節痛，女性化乳房
（表終了）

プレタールOD錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399002F4027
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】シロスタゾール
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】30.2円/1T
【薬価収載日】2010/04/23
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．慢性動脈閉塞症による潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症状の改善
2．脳梗塞（心原性脳塞栓症除く）発症後の再発抑制
注意
無症候性脳梗塞における脳梗塞発作の抑制効果は未検討。
【用法用量】成人 1回100mg 1日2回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．うっ血性心不全。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．うっ血性心不全（0．1%未満），心筋梗塞，狭心症，心室頻拍（各頻度不明）。
2．出血（脳出血等の頭蓋内出血（頻度不明）（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺），消化管出血（0．1～5%未満），眼底出血（0．1%未満），肺出血，鼻出血（各頻度不明））。
3．出血を伴う胃・十二指腸潰瘍（0．1～5%未満）。
4．血小板減少，汎血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多）。
6．肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，AI－P，LDH等の上昇），黄疸（頻度不明）。
7．急性腎不全（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，皮疹，掻痒感 蕁麻疹 光線過敏症，紅斑
循環器 動悸，頻脈，ほてり，心房細動・上室性頻拍・上室性期外収縮・心室性期外収縮等の不整脈 血圧上昇 血圧低下
精神神経系 頭痛・頭重感 眠気，眩暈，不眠，しびれ感 振戦，肩こり 失神・一過性の意識消失

3 代謝性医薬品

消化器 腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，胸やけ，腹部膨満感，味覚異常 口渇
血液 貧血，白血球減少，好酸球増多
出血傾向 皮下出血 血尿
肝臓 AST・ALT・AI－P・LDHの上昇
腎臓 尿酸値上昇，頻尿 BUN上昇，クレアチニン上昇，排尿障害
その他 浮腫，胸痛，耳鳴，倦怠感，発熱 発汗，疼痛，脱力感，血糖上昇，脱毛 結膜炎，筋痛
（表終了）

プレタールOD錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399002F3020
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】シロスタゾール
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】19.1円/1T
【薬価収載日】2010/04/23
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．慢性動脈閉塞症による潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症状の改善
2．脳梗塞（心原性脳塞栓症除く）発症後の再発抑制
注意
無症候性脳梗塞における脳梗塞発作の抑制効果は未検討。
【用法用量】成人 1回100mg 1日2回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．うっ血性心不全。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．うっ血性心不全（0．1%未満），心筋梗塞，狭心症，心室頻拍（各頻度不明）。
2．出血（脳出血等の頭蓋内出血（頻度不明）（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺），消化管出血（0．1～5%未満），眼底出血（0．1%未満），肺出血，鼻出血（各頻度不明））。
3．出血を伴う胃・十二指腸潰瘍（0．1～5%未満）。
4．血小板減少，汎血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多）。
6．肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，AI－P，LDH等の上昇），黄疸（頻度不明）。
7．急性腎不全（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，皮疹，掻痒感 蕁麻疹 光線過敏症，紅斑
循環器 動悸，頻脈，ほてり，心房細動・上室性頻拍・上室性期外収縮・心室性期外収縮等の不整脈 血圧上昇 血圧低下
精神神経系 頭痛・頭重感 眠気，眩暈，不眠，しびれ感 振戦，肩こり 失神・一過性の意識消失
消化器 腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，胸やけ，腹部膨満感，味覚異常 口渇
血液 貧血，白血球減少，好酸球増多
出血傾向 皮下出血 血尿
肝臓 AST・ALT・AI－P・LDHの上昇
腎臓 尿酸値上昇，頻尿 BUN上昇，クレアチニン上昇，排尿障害
その他 浮腫，胸痛，耳鳴，倦怠感，発熱 発汗，疼痛，脱力感，血糖上昇，脱毛 結膜炎，筋痛
（表終了）

3．9 その他の代謝性医薬品

3．9．2 解毒剤

クレメジン速崩錠500mg（500mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3929003F1020
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】球形吸着炭
【メーカー】製)クレハ 販)田辺三菱製薬
【薬価】23.7円/1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】慢性腎不全用剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の尿毒症症状の改善・透析導入の遅延
慢性腎不全（進行性）
注意
1．進行性の慢性腎不全と診断された保存療法期の患者が対象。血清クレアチニンの上昇による進行性の慢性腎不全を確認し，適用を考慮。
2．透析導入の遅延は，適用前の血清クレアチニン（S－Cr）上昇の割合が中等度以上（1ヵ月あたりの1／S－Crの変化が0．01dL／mg以上）を確認し，適用を考慮。血清クレアチニン値の目安は下表の通り。
（表開始）
1ヵ月前（mg／dL）→現在（mg／dL）
2．9→3．0
4．8→5．0
6．5→7．0
（表終了）
【用法用量】成人 1日6g 1日3回 分割 内服。
注意
服用中は，血清クレアチニン，尿毒症症状の変化等を観察し，投与開始6ヵ月を目標に投与継続の適否を検討。改善なければ，中止又は他の療法を考慮。

■禁忌

【禁忌】消化管の通過障害。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満
皮膚 掻痒感，皮疹
消化器 便秘，食欲不振，悪心・嘔吐 腹部膨満感，胃重感，腹痛，下痢
（表終了）

ジャドニュ顆粒分包360mg（360mg1包）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3929008D2029
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】デフェラシロクス
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】1978.5円/1包
【薬価収載日】2017/11/29
【標榜薬効】鉄キレート剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】輸血による慢性鉄過剰症（注射用鉄キレート剤治療が不適当な時）
注意
1．まず注射用鉄キレート剤による治療を考慮し，本剤は血小板減少や白血球減少を併発していて注射による出血や感染のおそれがある時，又は頻回の通院治療が困難な時等，連日の鉄キレート剤注射の実施が不適当な患者に使用。
2．原疾患の支持療法のため継続して頻回輸血の必要な患者に使用。
3．治療前に，下記の総輸血量及び血清フェリチンを参考。
（1）．人赤血球濃厚液約100mL／kg以上（成人では約40単位以上に相当）の輸血を受けた時。
（2）．輸血による慢性鉄過剰症の所見として，血清フェリチンが継続的に高値を示す時。
【用法用量】1回12mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減，1日18mg／kgまで。
注意
1．1ヵ月あたりの輸血量が人赤血球濃厚液7mL／kg未満（成人では4単位／月未満に相当）の時は，初期量1日6mg／kgを考慮。
2．中等度（Child－Pugh分類クラスB）の肝機能障害 開始量を約半量に減量。
3．投与開始後は血清フェリチンを毎月測定。用量調節は，血清フェリチンの推移を3～6ヵ月間観察し，その他の状態（安全性，輸血量等）・治療目的（体内鉄蓄積量の維持・減少）も考慮して3～6mg／kgの間で段階的に増減。本剤による過剰な鉄除去には注意。
4．血清クレアチニンの増加の可能性，投与開始前に血清クレアチニンを2回測定し，開始後は4週ごとに測定。腎機能障害や，腎機能を低下させる薬剤の投与中では，腎機能が悪化するおそれ，治療開始又は投与量変更後1ヵ月間は毎週血清クレアチニンを測定。投与後，成人では，連続2回の来院時に，治療前の平均値の33%を超える血清クレアチニンの増加があれば，6mg／kg減量。減量後もさらに血清クレアチニンが増加し，かつ施設基準値を超える時には休薬。小児では，連続2回の来院時に血清クレアチニンが基準範囲の上限を超えている時には，6mg／kg減量。減量後もさらに血清クレアチニンの増加があれば休薬。
5．肝機能検査値異常の可能性，投与開始前・開始後1ヵ月間は2週ごと，投与開始1ヵ月以降は4週ごとに血清トランスアミナーゼ，ビリルビン，AI－Pの測定を行う。本剤に起因した血清トランスアミナーゼ等の持続的な上昇あれば休薬。肝機能検査値異常の原因が本剤によらないと

3 代謝性医薬品

判明し，肝機能検査値が正常化した時に本剤による治療を再開時は，減量して治療を再開。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高度の腎機能障害。
3．全身状態の悪い高リスク骨髄異形成症候群。
4．全身状態の悪い進行した悪性腫瘍。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血管神経性浮腫）。
2．急性腎障害（頻度不明），腎尿細管障害（ファンコニー症候群，尿細管壊死）（0．1～1%未満）。
3．肝炎（0．1～1%未満），肝不全（頻度不明）。
4．消化管穿孔（頻度不明），胃潰瘍（多発性潰瘍含む），十二指腸潰瘍，胃腸出血（各0．1～1%未満）。
5．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
6．聴力障害（難聴）（0．1～1%未満）。
7．水晶体混濁（初期の白内障）（0．1～1%未満），視神経炎（0．01～0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 0．1～1%未満 0．01～0．1%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 － － － － 食欲不振
精神障害 － － 不安，睡眠障害 － －
神経系障害 － 頭痛 浮動性眩暈 － －
眼障害 － － 黄斑症 － －
呼吸器系障害 － － 咽喉頭痛 － －
胃腸障害 － 下痢，便秘，嘔吐，悪心，腹痛，腹部膨満，消化不良 胃炎，急性膵炎 食道炎 －
肝胆道系障害 － 臨床検査値異常（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，血中ビリルビンの増加） 胆石症 － －
皮膚・皮下組織障害 － 発疹，掻痒症 色素沈着障害 － 白血球破砕性血管炎，蕁麻疹，脱毛症
腎・尿路障害 血中クレアチニン増加 蛋白尿 － － －
全身障害 － － 発熱，浮腫，疲労 － －
（表終了）

ジャドニュ顆粒分包90mg（90mg1包）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3929008D1022
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】デフェラシロクス
【メーカー】製）ノバルティスファーマ
【薬価】478.4円/1包
【薬価収載日】2017/11/29
【標榜薬効】鉄キレート剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】輸血による慢性鉄過剰症（注射用鉄キレート剤治療が不適当な時）
注意
1．まず注射用鉄キレート剤による治療を考慮し，本剤は血小板減少や白血球減少を併発していて注射による出血や感染のおそれがある時，又は頻回の通院治療が困難な時等，連日の鉄キレート剤注射の実施が不適当な患者に使用。
2．原疾患の支持療法のため継続して頻回輸血の必要な患者に使用。
3．治療前に，下記の総輸血量及び血清フェリチンを参考。
（1）．人赤血球濃厚液約100mL／kg以上（成人では約40単位以上に相当）の輸血を受けた時。
（2）．輸血による慢性鉄過剰症の所見として，血清フェリチンが継続的に高値を示す時。
【用法用量】1回12mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減，1日18mg／kgまで。
注意
1．1ヵ月あたりの輸血量が人赤血球濃厚液7mL／kg未満（成人では4単位／月未満に相当）の時は，初期量1日6mg／kgを考慮。
2．中等度（Child－Pugh分類クラスB）の肝機能障害 開始量を約半量に減量。
3．投与開始後は血清フェリチンを毎月測定。用量調節は，血清フェリチンの推移を3～6ヵ月間観察し，その他の状態（安全性，輸血量等）・治療目的（体内鉄蓄積量の維持・減少）も考慮して3～6mg／kgの間で段階的に増減。本剤による過剰な鉄除去には注意。
4．血清クレアチニンの増加の可能性，投与開始前に血清クレアチニンを2回測定し，開始後は4週ごとに測定。腎機能障害や，腎機能を低下させる薬剤の投与中では，腎機能が悪化するおそれ，治療開始又は投与量変更後1ヵ月間は毎週血清クレアチニンを測定。投与後，成人では，連続2回の来院時に，治療前の平均値の33%を超える血清クレアチニンの増加があれば，6mg／kg減量。減量後もさらに血清クレアチニンが増加し，かつ施設基準値を超える時には休薬。小児では，連続2回の来院時に血清クレアチニンが基準範囲の上限を超えている時には，6mg／kg減量。減量後もさらに血清クレアチニンの増加があれば休薬。
5．肝機能検査値異常の可能性，投与開始前・開始後1ヵ月間は2週ごと，投与開始1ヵ月以降は4週ごとに血清トランスアミナーゼ，ビリルビン，AI－Pの測定を行う。本剤に起因した血清トランスアミナーゼ等の持続的な上昇あれば休薬。肝機能検査値異常の原因が本剤によらないと判明し，肝機能検査値が正常化した時に本剤による治療を再開時は，減量して治療を再開。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高度の腎機能障害。
3．全身状態の悪い高リスク骨髄異形成症候群。
4．全身状態の悪い進行した悪性腫瘍。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血管神経性浮腫）。
2．急性腎障害（頻度不明），腎尿細管障害（ファンコニー症候群，尿細管壊死）（0．1～1%未満）。
3．肝炎（0．1～1%未満），肝不全（頻度不明）。
4．消化管穿孔（頻度不明），胃潰瘍（多発性潰瘍含む），十二指腸潰瘍，胃腸出血（各0．1～1%未満）。
5．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
6．聴力障害（難聴）（0．1～1%未満）。
7．水晶体混濁（初期の白内障）（0．1～1%未満），視神経炎（0．01～0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 0．1～1%未満 0．01～0．1%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 － － － － 食欲不振
精神障害 － － 不安，睡眠障害 － －
神経系障害 － 頭痛 浮動性眩暈 － －
眼障害 － － 黄斑症 － －
呼吸器系障害 － － 咽喉頭痛 － －
胃腸障害 － 下痢，便秘，嘔吐，悪心，腹痛，腹部膨満，消化不良 胃炎，急性膵炎 食道炎 －
肝胆道系障害 － 臨床検査値異常（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，血中ビリルビンの増加） 胆石症 － －
皮膚・皮下組織障害 － 発疹，掻痒症 色素沈着障害 － 白血球破砕性血管炎，蕁麻疹，脱毛症
腎・尿路障害 血中クレアチニン増加 蛋白尿 － － －
全身障害 － － 発熱，浮腫，疲労 － －
（表終了）

タチオン錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3922001F2248
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】グルタチオン
【メーカー】製）長生堂製薬 販）アステラス製薬 販）ニプロESファーマ 販）日本ジェネリック
【薬価】12.6円/1T
【標榜薬効】グルタチオン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇薬物中毒
〇アセトン血性嘔吐症（自家中毒，周期性嘔吐症）
〇金属中毒
〇妊娠悪阻
〇妊娠高血圧症候群
【用法用量】成人 1回還元型グルタチオン50～100mg 1日1～3回 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹等
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，胃痛等
（表終了）

ノベルジン顆粒5%（5%1g）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3929007D1028
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】酢酸亜鉛水和物
【メーカー】製）ノーベルファーマ
【薬価】402.2円/1g
【薬価収載日】2021/05/26
【標榜薬効】ウイルソン病・低亜鉛血症治療剤

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】○ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
○低亜鉛血症
注意
低亜鉛血症
食事等による亜鉛摂取で効果が期待できない患者に使用。
【用法用量】ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
成人　亜鉛　1回50mg　1日3回　内服。適宜増減，1日最大250mg（1回50mgを1日5回投与）。
6歳以上の小児　亜鉛　1回25mg　1日3回　内服。
1～6歳未満の小児　亜鉛　1回25mg　1日2回　内服。
いずれも，食前1時間以上又は食後2時間以上あけて投与。
低亜鉛血症
成人，体重30kg以上の小児　開始量　亜鉛　1回25～50mg　1日2回　内服。
体重30kg未満の小児　開始量　亜鉛　1回0．5～0．75mg／kg　1日2回　内服，患者の状態により1回25mg　1日1回　内服。
適宜増減，最大量は下記。
（表開始）
対象 最大量／日
成人，体重30kg以上の小児 150mg（1回50mg　1日3回）
体重10～30kg未満の小児 75mg（1回25mg　1日3回）
体重10kg未満の小児 25mg（1回12．5mg　1日2回，又は1回25mg　1日1回）
（表終了）
いずれも食後に内服。
注意
ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
1．症候性のウィルソン病の初期治療 トリエンチン塩酸塩等のキレート剤と併用。無症候性のウィルソン病の初期治療は本剤単独投与でもよい。
2．食物と同時摂取時，本剤の効果が遅延するおそれ。
3．妊婦は，1ヵ月ごとに尿中銅排泄量検査を実施，銅欠乏をきたすことがないよう，亜鉛として1回25mgに減量する等尿中銅排泄量に応じて用量を調節。
4．開始初期には，最低1ヵ月ごとに尿中銅排泄量検査を実施，尿中銅排泄量に応じて用量を調節。投与継続中も症状推移を勘案し，定期的に検査。
（表開始）
項目 参考値
尿中銅排泄量（スポット尿中銅濃度）50～125μg／24時間（0．1μg／mg・クレアチニン以下）
（表終了）
5．用量変更時は，尿中銅排泄量検査に加え，必要時，尿中亜鉛排泄量検査・肝機能検査（AST，ALT等）を実施。
（表開始）
項目 参考値
尿中亜鉛排泄量（スポット尿中亜鉛濃度）2000μg／24時間以上（1．8μg／mg・クレアチニン以上）
（表終了）
低亜鉛血症
6．本剤投与開始時及び用量変更時には，血清亜鉛濃度の確認。血清亜鉛濃度を測定するための採血は本剤服薬前に行う。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．銅欠乏症（頻度不明）（汎血球減少，貧血，神経障害）。
2．出血を伴う胃潰瘍（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器　胃不快感，悪心，口内炎，嘔吐，腹痛，下痢，心窩部不快感，便秘 胃炎，口腔内痛，口腔内不快感
肝胆道系　肝腫大，AI－P増加，AST増加，ALT増加，総ビリルビン増加，アンモニア増加，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加
膵臓 リパーゼ増加（27．6%）アミラーゼ増加（17．1%）急性膵炎
血液　白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少，平均赤血球ヘモグロビン濃度減少 貧血
皮膚　アレルギー性皮膚炎，掻痒症 湿疹，発疹
その他 血清鉄減少（15．5%）総コレステロール減少，アルブミン減少，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性，HDL－コレステロール減少，トリグリセリド増加，総蛋白減少，麦粒腫，膀胱炎，頭痛，血清鉄増加，血清銅減少，咳嗽，発熱 眩暈，食欲減退，変色便，倦怠感
（表終了）

ノベルジン錠25mg（25mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】3929007F1029
【薬効分類】3．9．2　解毒剤
【一般名】酢酸亜鉛水和物
【メーカー】製）ノーベルファーマ
【薬価】201.1円/1T
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】ウイルソン病・低亜鉛血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
○低亜鉛血症
注意
低亜鉛血症
食事等による亜鉛摂取で効果が期待できない患者に使用。
【用法用量】ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
成人　亜鉛　1回50mg　1日3回　内服。適宜増減，1日最大250mg（1回50mgを1日5回投与）。
6歳以上の小児　亜鉛　1回25mg　1日3回　内服。
1～6歳未満の小児　亜鉛　1回25mg　1日2回　内服。
いずれも，食前1時間以上又は食後2時間以上あけて投与。
低亜鉛血症
成人，体重30kg以上の小児　開始量　亜鉛　1回25～50mg　1日2回　内服。
体重30kg未満の小児　開始量　亜鉛　1回0．5～0．75mg／kg　1日2回　内服，患者の状態により1回25mg　1日1回　内服。
適宜増減，最大量は下記。
（表開始）
対象 最大量／日
成人，体重30kg以上の小児 150mg（1回50mg　1日3回）
体重10～30kg未満の小児 75mg（1回25mg　1日3回）
体重10kg未満の小児 25mg（1回12．5mg　1日2回，又は1回25mg　1日1回）
（表終了）
いずれも食後に内服。
注意
ウィルソン病（肝レンズ核変性症）
1．症候性のウィルソン病の初期治療 トリエンチン塩酸塩等のキレート剤と併用。無症候性のウィルソン病の初期治療は本剤単独投与でもよい。
2．食物と同時摂取時，本剤の効果が遅延するおそれ。
3．妊婦は，1ヵ月ごとに尿中銅排泄量検査を実施，銅欠乏をきたすことがないよう，亜鉛として1回25mgに減量する等尿中銅排泄量に応じて用量を調節。
4．開始初期には，最低1ヵ月ごとに尿中銅排泄量検査を実施，尿中銅排泄量に応じて用量を調節。投与継続中も症状推移を勘案し，定期的に検査。
（表開始）
項目 参考値
尿中銅排泄量（スポット尿中銅濃度）50～125μg／24時間（0．1μg／mg・クレアチニン以下）
（表終了）
5．用量変更時は，尿中銅排泄量検査に加え，必要時，尿中亜鉛排泄量検査・肝機能検査（AST，ALT等）を実施。
（表開始）
項目 参考値
尿中亜鉛排泄量（スポット尿中亜鉛濃度）2000μg／24時間以上（1．8μg／mg・クレアチニン以上）
（表終了）
低亜鉛血症
6．本剤投与開始時及び用量変更時には，血清亜鉛濃度の確認。血清亜鉛濃度を測定するための採血は本剤服薬前に行う。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．銅欠乏症（頻度不明）（汎血球減少，貧血，神経障害）。
2．出血を伴う胃潰瘍（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器　胃不快感，悪心，口内炎，嘔吐，腹痛，下痢，心窩部不快感，便秘 胃炎，口腔内痛，口腔内不快感
肝胆道系　肝腫大，AI－P増加，AST増加，ALT増加，総ビリルビン増加，アンモニア増加，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加
膵臓 リパーゼ増加（27．6%）アミラーゼ増加（17．1%）急性膵炎
血液　白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少，平均赤血球ヘモグロビン濃度減少 貧血
皮膚　アレルギー性皮膚炎，掻痒症 湿疹，発疹
その他 血清鉄減少（15．5%）総コレステロール減少，アルブミン減少，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性，HDL－コレステロール減少，トリグリセリド増加，総蛋白減少，麦粒腫，膀胱炎，頭痛，血清鉄増加，血清銅減少，咳嗽，発熱 眩暈，食欲減退，変色便，倦怠感
（表終了）

メタルカプターゼカプセル100mg（100mg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】3929001M2035

3 代謝性医薬品

【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】ペニシラミン
【メーカー】(製)大正製薬 (販)大正富山医薬品
【薬価】34.4円/1C
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】抗リウマチ・ウイルソン病治療・金属解毒剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○関節リウマチ
○ウイルソン病(肝レンズ核変性症)
○鉛・水銀・銅の中毒
【用法用量】関節リウマチ
消炎鎮痛剤等で効果不十分時に使用。
成人 ペニシラミン 1回100mg 1日1～3回 食間空腹時 内服。
適宜増減。
成人 初期量 1日100mg 増量時 4週間以上あけて 100mgずつ漸増。維持量は効果がある最低量に調節。投与再開時 低用量から開始。
1日300mgでは効果不十分で増量により有効性が期待される時は状態を観察し1日600mgまで。効果あれば減量して有効最少量で維持。
ウイルソン病(肝レンズ核変性症)
成人 ペニシラミン 1日1000mg 1日1～数回 分割 食前空腹時 内服。
1日600～1400mgで増減。投与法は連日，間欠，漸増法等各症例ごとに決定。
鉛・水銀・銅の中毒
成人 ペニシラミン 1日1000mg 1日数回 分割 食前空腹時 内服。
1日600～1400mgで増減。投与法は連日，間欠，漸増法等各症例ごとに決定。
小児 ペニシラミン 1日20～30mg／kg 1日数回 分割 食前空腹時 内服。適宜増減。1日量は，成人の標準用量(1日1000mg)まで。
注意
関節リウマチ
1．1日100mgの低用量から開始。リウマチの活動性を指標として増量の必要時，4週間以上あけて徐々に行う。
低用量でも効果がある時が多いので，効果あれば少量(200mg以下)で維持。
2．1日600mgを超える量を投与しても，効果が増強する可能性は少ない。
3．遅効性のため(効果は4週間以上投与後より発現)効果があるまでは，従来より投与している消炎鎮痛剤等は継続して併用。6ヵ月間継続投与しても効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．金剤の投与患者。
関節リウマチ
2．血液障害，骨髄機能低下。
3．腎機能障害。
4．SLE。
5．成長期の小児で結合組織の代謝障害。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．白血球減少症(0．8%)，無顆粒球症(頻度不明)，顆粒球減少症(0．1%未満)，好酸球増多症(0．1%未満)，血小板減少症(1．1%)，再生不良性貧血(0．1%未満)，貧血(低色素性貧血，溶血性貧血等)(0．6%)，汎血球減少症(0．1%未満)，血栓性血小板減少性紫斑病(モスコビッチ症候群)(頻度不明)，ネフローゼ症候群(膜性腎症等)(0．1%未満)。
2．肺胞炎，間質性肺炎・好酸球性肺浸潤症候群，閉塞性細気管支炎(各頻度不明)。
3．グッドパスチュア症候群(頻度不明)(尿所見の異常，喀血，肺浸潤)。
4．味覚脱失(0．4%)，視神経炎(頻度不明)。
5．SLE様症状(0．1%未満)，天疱瘡様症状(0．3%)，重症筋無力症(0．1%未満)。
6．神経炎(0．1%未満)，ギランバレー症候群含む多発性神経炎(頻度不明)。
7．多発性筋炎(0．1%未満)，筋不全麻痺(頻度不明)。
8．血栓性静脈炎，アレルギー性血管炎(白血球破砕性血管炎等)，多発性血管炎(各頻度不明)(肺・腎臓等に多様な臓器障害，抗好中球細胞質抗体陽性)。
9．胆汁うっ滞性肝炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5～10%未満 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈，頭痛 知覚障害，眼瞼下垂 昏迷，痙攣
感覚器 味覚異常，耳鳴，視力異常 複視，白内障，聴力低下
消化器 口内炎・口角炎，腹痛，食欲不振，嘔気，嘔吐，下痢，消化性潰瘍，舌炎，消化不良，口内乾燥 胃炎，口唇炎，下血，歯肉炎，便秘 膵炎
皮膚 発疹，掻痒 脱毛，皮膚炎，紫斑，潮紅，皮下出血 結節性紅斑，多形紅斑，創傷治癒障害，穿孔性弾力線維症 爪の異常
肝臓 肝機能障害(AST，ALT上昇等) 黄疸
腎臓 腎機能障害(尿蛋白，血尿，BUN上昇，クレアチニン上昇) 腎炎
血液 鼻出血，リンパ球減少，白血球増多
血管 毛細血管脆弱
免疫グロブリン 免疫グロブリン(IgA，IgG，IgM)減少
筋・骨格 関節痛，筋肉痛
その他 浮腫，発熱，倦怠感，咽頭炎 無力症，動悸，体重減少，疼痛，陰門糜爛，体重増加 ビタミンB6欠乏，乳房肥大，尿失禁
(表終了)

ユーゼル錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3929004F2021
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】ホリナートカルシウム水和物
【メーカー】(製)大鵬薬品工業
【薬価】702.9円/1T
【薬価収載日】2003/09/12
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】還元型葉酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】ホリナート・テガフール・ウラシル療法
結腸・直腸癌へのテガフール・ウラシルの抗腫瘍効果の増強
注意
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】ホリナート・テガフール・ウラシル療法
成人 1日ホリナート75mg 1日3回 分割 約8時間ごと テガフール・ウラシル配合剤と同時に 内服。
テガフール・ウラシル配合剤の投与量 1日テガフール300～600mg(300mg／m2) 1日3回 分割 約8時間ごと 食事の前後1時間を避けて内服。
以上を28日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
注意
食事の影響を受けるため，食事の前後1時間を避けて投与。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．下痢(水様便)。
3．重篤な感染症の合併。
4．本剤の成分・テガフール・ウラシル配合剤に重篤な過敏症の既往。
5．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤の投与中・中止後7日以内。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制(頻度不明)，血液障害(頻度不明)(汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，倦怠感等)，白血球減少，血小板減少，貧血，出血傾向，溶血性貧血等)。
2．劇症肝炎等の重篤な肝障害(頻度不明)。
3．肝硬変(頻度不明)(AST，ALTの上昇を伴わない)(プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下，血小板減少等)。
4．激しい下痢，脱水症状(頻度不明)。
5．重篤な腸炎(頻度不明)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6．白質脳症(意識障害，小脳失調，認知症様症状等)等含む精神神経障害(頻度不明)(意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害等)。
7．狭心症(頻度不明)，心筋梗塞(頻度不明)，不整脈(頻度不明)(心室頻拍等含む)(胸痛，失神，息切れ，動悸，心電図異常等)。
8．急性腎障害(頻度不明)，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
9．嗅覚障害，嗅覚脱失(頻度不明)。
10．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
11．急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等)。
12．重篤な口内炎(頻度不明)，消化管潰瘍(頻度不明)，消化管出血(頻度不明)。
13．皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)。
14．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(発疹，呼吸困難，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 赤血球減少，血色素減少，ヘマトクリット値減少，好中球減少，好酸球増多，リンパ球減少 好塩基球増多 平均赤血球容積増加
肝臓 肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，総ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，脂肪肝
腎臓 蛋白尿 腎機能障害(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，便秘，味覚異常 腹痛，心窩部痛，腹部膨満感，胃不快感，胃重感，舌炎，口唇炎 胸やけ，口角炎，口渇，胃炎，嚥下困難，腹鳴
精神神経系 倦怠感 頭痛，頭重感，耳鳴 眩暈，しびれ，興奮，末梢性ニューロパチー
皮膚 色素沈着 皮膚炎，皮膚の乾燥，手足症候群 皮膚糜爛，角化，紅潮，光線過敏症，水疱，DLE様皮疹，爪の異常，脱毛，浮腫

3 代謝性医薬品

過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹，発赤
循環器 動悸，胸痛，胸内苦悶感，心電図異常（ST上昇等）
その他 総蛋白低下，LDH上昇，発熱，血糖値上昇，糖尿，血清ナトリウム低下，血清カルシウム低下 頻尿，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下，血清カルシウム上昇 血痰，高トリグリセリド血症，高コレステロール血症，無月経，関節痛，灼熱感，結膜充血，咳・痰，血清尿酸値上昇，女性型乳房，筋肉痛，CK上昇
（表終了）

3．9．4 痛風治療剤

ウリアデック錠40mg（40mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3949004F2024
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】トピロキソスタット
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】28.1円/1T
【薬価収載日】2013/08/27
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】痛風，高尿酸血症
注意
最新の治療指針等を参考に，薬物治療が必要とされる患者が対象。
【用法用量】成人 1回20mgから開始 1日2回 朝夕 内服。以後必要時，漸増。維持量 1回60mg 1日2回 内服。
適宜増減，1回最大80mg 1日2回。
注意
尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎（痛風発作）が誘発される可能性，1回20mg 1日2回から開始し，開始から2週間以降 1回40mg 1日2回，開始から6週間以降 1回60mg 1日2回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．メルカプトプリン水和物・アザチオプリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（2．9%）（重篤な肝機能障害（0．2%））（AST，ALT等の上昇）。
2．多形紅斑（0．5%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
胃腸 口内炎 下痢，悪心，腹部不快感
肝・胆道系 ALT増加，AST増加 γ－GTP増加 LDH増加，血中ビリルビン増加，AI－P増加
代謝 血中トリグリセリド増加 血中アミラーゼ増加，血中K増加，血中リン増加
筋・骨格系 痛風関節炎 四肢痛，四肢不快感，血中CK増加 関節痛，関節炎，血中CK減少 筋肉痛
腎・泌尿器系 β－Nアセチル-Dグルコサミニダーゼ増加，α1ミクログロブリン増加 尿中β2ミクログロブリン増加，β2ミクログロブリン増加 尿中アルブミン陽性，血中クレアチニン増加，尿中血陽性，頻尿，尿中赤血球陽性，尿中蛋白陽性
皮膚 発疹
血液 白血球数増加，白血球数減少，単球百分率増加
神経系 眩暈，しびれ
その他 口渇，血圧上昇，異常感 浮腫，倦怠感
（表終了）

コルヒチン錠0．5mg「タカタ」（0．5mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3941001F1077
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】コルヒチン
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】9.6円/1T
【薬価収載日】2010/03/05
【標榜薬効】痛風・家族性地中海熱治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○痛風発作の緩解・予防
○家族性地中海熱
【用法用量】痛風発作の緩解・予防
成人 1日3～4mg 1日6～8回 分割 内服。
適宜増減。
発病予防 成人 1日0．5～1mg 内服。発作予感時 成人 1回0．5mg 内服。
家族性地中海熱
成人 1日0．5mg 1日1回又は2回 分割 内服。
適宜増減，1日最大1．5mg。
小児 1日0．01～0．02mg／kg 1日1回又は2回 分割 内服。
適宜増減，1日最大0．03mg／kg，かつ成人の1日最大量まで。
注意
痛風発作の緩解・予防
1．痛風発作の発現後，服用開始が早い程効果的。
2．大量使用，誤用により，服用後数時間以内に急性中毒症状の可能性，用法・用量を厳守し，下記に注意。
・痛風発作の治療 1回0．5mg，緩解するまで3～4時間ごとに投与。投与量の増加に伴い，下痢等の胃腸障害の発現が増加するため，1日1．8mgまで。
・発作3～4時間前に先行する予兆を感知したら服用。
3．長期の痛風発作の予防的投与 血液障害，生殖器障害，肝・腎障害，脱毛等重篤な副作用の可能性，有用性が少なくすすめられない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．肝臓・腎臓に障害のあるCYP3A4を強く阻害又はP糖蛋白を阻害する薬剤の服用患者。
痛風発作の緩解・予防
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，顆粒球減少，白血球減少，血小板減少（頻度不明）。
2．横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（頻度不明）（筋肉痛，筋力低下，CK上昇等）。
3．末梢神経障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 全身の掻痒，発疹，発熱
消化器 下痢，悪心・嘔吐，腹痛，腹部疝痛
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白陽性，血尿，乏尿
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇），AI－P上昇
その他 脱力感，脱毛
（表終了）

ザイロリック錠100（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3943001F1314
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】アロプリノール
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】11.8円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の高尿酸血症の是正
痛風，高尿酸血症を伴う高血圧症
【用法用量】成人 1日200～300mg 1日2～3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
注意
血中尿酸値を測定し，治療初期1週間は1日100mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎等の重篤な皮膚障害・過敏性血管炎（各頻度不明）（発熱，発疹等）。
2．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現，肝機能障害等の臓器障害を伴う遅発性の重篤な過敏症状），1型糖尿病（劇症1型糖尿病含む），ケトアシドーシス，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化，脳炎等。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
5．劇症肝炎等の重篤な肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
6．腎不全，腎不全の増悪，間質性腎炎含む腎障害（各頻度不明）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
9．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意

3 代謝性医薬品

識障害等)。

フェブリク錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3949003F1023
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】フェブキソスタット
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】14.2円/1T
【薬価収載日】2011/03/11
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○痛風，高尿酸血症
○癌化学療法に伴う高尿酸血症
注意
痛風，高尿酸血症
1．最新の治療指針等を参考に，薬物治療が必要とされる患者が対象。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
2．腫瘍崩壊症候群の発症リスクを考慮し適応患者を選択。
3．既に生成された尿酸を分解する作用なし，血中尿酸値を急速に低下させる効果は期待できない。
4．癌化学療法後に発症した高尿酸血症への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】痛風，高尿酸血症
成人
フェブキソスタット 1日10mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回40mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大60mg 1日1回。
小児
フェブキソスタットを下記量 1日1回 内服。
体重40kg未満 1日5mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回20mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大30mg 1日1回。
体重40kg以上 1日10mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回40mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大60mg 1日1回。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
成人 フェブキソスタット 1回60mg 1日1回 内服。
注意
痛風，高尿酸血症
1．成人 尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎(痛風発作)が誘発される可能性，1回10mg 1日1回から開始し，開始から2週間以降 1回20mg 1日1回，開始から6週間以降 1回40mg 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。
2．小児 尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎(痛風発作)が誘発される可能性，1回5mg(40kg未満)又は10mg(40kg以上) 1日1回から開始し，開始から6週間以降1回10mg(40kg未満)又は20mg(40kg以上) 1日1回，開始から14週間以降 1回20mg(40kg未満)又は40mg(40kg以上) 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
3．癌化学療法開始1～2日前から投与開始。
4．臨床症状・血中尿酸値をモニタリングし，化学療法開始5日目まで投与。投与期間を適宜延長。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．メルカプトプリン水和物・アザチオプリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT等の上昇)。
2．過敏症(頻度不明)(全身性皮疹，発疹等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液 白血球数減少 血小板数減少，貧血
内分泌系 TSH増加
神経系 手足のしびれ感，浮動性眩暈，傾眠 頭痛，味覚異常
心臓 心電図異常 動悸
胃腸 下痢，腹部不快感，悪心，腹痛
肝・胆道系 肝機能検査値異常(AST増加，ALT増加，γ－GTP増加等)
皮膚 発疹，掻痒症，紅斑 蕁麻疹，脱毛
筋骨格系 関節痛 四肢痛，四肢不快感，CK増加，筋肉痛
腎・尿路 β－Nアセチルdグルコサミニダーゼ増加，尿中β2ミクログロブリン増加，血中クレアチニン増加，血中尿素増加，頻尿 尿量減少
その他 倦怠感，口渇，血中トリグリセリド増加，CRP増加，血中カリウム増加 浮腫
(表終了)

フェブリク錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3949003F2020
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】フェブキソスタット
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】27.7円/1T
【薬価収載日】2011/03/11
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○痛風，高尿酸血症
○癌化学療法に伴う高尿酸血症
注意
痛風，高尿酸血症
1．最新の治療指針等を参考に，薬物治療が必要とされる患者が対象。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
2．腫瘍崩壊症候群の発症リスクを考慮し適応患者を選択。
3．既に生成された尿酸を分解する作用なし，血中尿酸値を急速に低下させる効果は期待できない。
4．癌化学療法後に発症した高尿酸血症への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】痛風，高尿酸血症
成人
フェブキソスタット 1日10mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回40mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大60mg 1日1回。
小児
フェブキソスタットを下記量 1日1回 内服。
体重40kg未満 1日5mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回20mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大30mg 1日1回。
体重40kg以上 1日10mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回40mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大60mg 1日1回。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
成人 フェブキソスタット 1回60mg 1日1回 内服。
注意
痛風，高尿酸血症
1．成人 尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎(痛風発作)が誘発される可能性，1回10mg 1日1回から開始し，開始から2週間以降 1回20mg 1日1回，開始から6週間以降 1回40mg 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。
2．小児 尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎(痛風発作)が誘発される可能性，1回5mg(40kg未満)又は10mg(40kg以上) 1日1回から開始し，開始から6週間以降1回10mg(40kg未満)又は20mg(40kg以上) 1日1回，開始から14週間以降 1回20mg(40kg未満)又は40mg(40kg以上) 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
3．癌化学療法開始1～2日前から投与開始。
4．臨床症状・血中尿酸値をモニタリングし，化学療法開始5日目まで投与。投与期間を適宜延長。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．メルカプトプリン水和物・アザチオプリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT等の上昇)。
2．過敏症(頻度不明)(全身性皮疹，発疹等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液 白血球数減少 血小板数減少，貧血
内分泌系 TSH増加
神経系 手足のしびれ感，浮動性眩暈，傾眠 頭痛，味覚異常
心臓 心電図異常 動悸
胃腸 下痢，腹部不快感，悪心，腹痛
肝・胆道系 肝機能検査値異常(AST増加，ALT増加，γ－GTP増加等)
皮膚 発疹，掻痒症，紅斑 蕁麻疹，脱毛
筋骨格系 関節痛 四肢痛，四肢不快感，CK増加，筋肉痛
腎・尿路 β－Nアセチルdグルコサミニダーゼ増加，尿中β2ミクログロブリン増加，血中クレアチニン増加，血中尿素増加，頻尿 尿量減少
その他 倦怠感，口渇，血中トリグリセリド増加，CRP増加，血中カリウム増加 浮腫
(表終了)

ユリノーム錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3949002F2114
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】ベンズブロマロン

3 代謝性医薬品

【メーカー】製)トーアエイヨー 販)鳥居薬品
【薬価】11円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】尿酸排泄剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の高尿酸血症の改善
痛風，高尿酸血症を伴う高血圧症
【用法用量】痛風
成人 1回1／2錠又は1錠(ベンズブロマロン 25mg又は50mg) 1日1回 内服。維持量 1回1錠 1日1～3回(ベンズブロマロン 50～150mg) 内服。
適宜増減。
高尿酸血症を伴う高血圧症
成人 1回1錠 1日1～3回(ベンズブロマロン 50～150mg) 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 肝障害。
2. 腎結石を伴う患者。
3. 高度の腎機能障害。
4. 妊婦・妊娠の可能性。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
劇症肝炎等の重篤な肝障害(頻度不明)，黄疸。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1%以上 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感，発疹，蕁麻疹 顔面発赤，紅斑 光線過敏症
肝臓 AST上昇，ALT上昇 Al－P上昇 黄疸
消化器 胃部不快感，胃腸障害，下痢，軟便，胸やけ 胃痛，腹痛，悪心，口内の荒れ
その他 浮腫，心窩部不快感，頭痛
(表終了)

3．9．6 糖尿病用剤

イニシンク配合錠（1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969105F1023
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩配合剤
【メーカー】製)帝人ファーマ 販)武田薬品工業
【薬価】129.9円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩の併用による治療が適切な時のみ
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2．下記に使用を検討。
・既にアログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩を併用し状態が安定している時
・アログリプチン安息香酸塩単剤の治療で効果不十分時。
・メトホルミン塩酸塩単剤の治療で効果不十分時。
3．投与中は，アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
4．中等度の腎機能障害(eGFR30～60mL／分／1．73m2未満)では，アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩を腎機能の程度により減量等慎重な投与が必要，本剤を使用せず，各単剤の併用を検討。
5．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人 1回1錠(アログリプチン／メトホルミン塩酸塩 25mg／500mg) 1日1回 食直前又は食後 内服。

■禁忌

【禁忌】1．下記の患者
(1)．乳酸アシドーシスの既往。
(2)．重度の腎機能障害(eGFR30mL／分／1．73m2未満)，透析患者(腹膜透析含む)。
(3)．重度の肝機能障害。
(4)．心血管系，肺機能に高度の障害(ショック，心不全，心筋梗塞，肺塞栓等)・その他の低酸素血症を伴いやすい状態。
(5)．脱水症，脱水状態の懸念(下痢，嘔吐等の胃腸障害，経口摂取が困難等)。
(6)．過度のアルコール摂取者。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
4．栄養不良状態，飢餓状態，衰弱状態，脳下垂体機能不全，副腎機能不全。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．本剤の各成分・ビグアナイド系薬剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．乳酸アシドーシス(頻度不明)(血中乳酸値の上昇，乳酸／ピルビン酸比の上昇，血液pHの低下等，胃腸症状，倦怠感，筋肉痛，過呼吸等)。
2．低血糖(頻度不明)，低血糖症状(脱力感，高度の空腹感，発汗等)。
重篤な低血糖症状，意識消失(DPP－4阻害剤)。
3．急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
4．肝機能障害(AST，ALT，Al－P等の著しい上昇)，黄疸(頻度不明)。
5．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(頻度不明)。
6．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
7．腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
8．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
9．類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹
消化器 胃腸障害，便秘 下痢，食欲不振，腹痛，悪心，嘔吐，腹部膨満感，鼓腸，消化不良，胃炎，胃腸炎，放屁増加
血液 貧血，白血球減少，血小板減少，白血球増加，好酸球増加
肝臓 肝機能異常
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
精神神経系 四肢のしびれ
代謝異常 CK上昇，ケトーシス，乳酸上昇，血中カリウム上昇，血中尿酸増加
その他 倦怠感 頭痛，頭重，眠気，筋肉痛，眩暈・ふらつき，味覚異常，鼻咽頭炎，浮腫，発汗，脱力感，関節痛，動悸，空腹感，ビタミンB12減少
(表終了)

エクメット配合錠HD（1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969104F2025
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩配合剤
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)住友ファーマ
【薬価】46.5円/1T
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の併用による治療が適切な時のみ
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
3．本剤HDは，既にビルダグリプチン50mg・メトホルミン塩酸塩500mgを併用し状態が安定している時，ビルダグリプチン50mg・メトホルミン塩酸塩250mgの治療で効果不十分時，又はメトホルミン塩酸塩500mgの単剤の治療で効果不十分時に，使用を検討。
4．投与中は，ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
5．中等度の腎機能障害(eGFR30～60mL／分／1．73m2未満)では，ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩を腎機能により減量等慎重な投与が必要，本剤を使用せず，各単剤の併用を検討。
6．食事療法，運動療法を行う。
【用法用量】成人 1回1錠(ビルダグリプチン／メトホルミン塩酸塩 50mg／250mg又は50mg／500mg) 1日2回 朝・夕 内服。
注意
1．ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の用法・用量を考慮して，患者ごとに用量を決定。
2．ビルダグリプチン50mg1日2回の単剤の治療で効果不十分時は，LDから投与開始。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ビグアナイド系薬剤に過敏症の既往。
2．下記の患者
(1)．乳酸アシドーシスの既往。
(2)．重度の腎機能障害(eGFR30mL／分／1．73m2未満)，透析患者(腹膜透析含む)。
(3)．心血管系，肺機能に高度の障害(ショック，心不全，心筋梗塞，肺塞栓等)・その他の低酸素血症を伴いやすい状態。

3 代謝性医薬品

(4). 脱水症，脱水状態の懸念(下痢，嘔吐等の胃腸障害，経口摂取が困難等)。
(5). 過度のアルコール摂取者。
3. 糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
4. 重度の肝機能障害。
5. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6. 栄養不良状態，飢餓状態，衰弱状態，脳下垂体機能不全，副腎機能不全。
7. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 乳酸アシドーシス(頻度不明)(血中乳酸値の上昇，乳酸／ピルビン酸比の上昇，血液pHの低下等，胃腸症状，倦怠感，筋肉痛，過呼吸等)。
2. 肝炎，肝機能障害，黄疸(頻度不明)(ALT，AST，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇等)。
3. 血管浮腫(頻度不明)。
4. 低血糖(頻度不明)。
重篤な低血糖症状，意識消失(スルホニルウレア剤併用)。
5. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
6. 急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
7. 腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
9. 類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 － 白血球数増加，貧血 白血球数減少，血小板数減少，好酸球数増加
神経系障害 眩暈・ふらつき 振戦 味覚異常，頭重，頭痛，眠気
心臓障害 － － 動悸
血管障害 － 高血圧 －
胃腸障害 便秘，アミラーゼ増加，下痢，悪心 胃炎，腹部不快感，腹部膨満，鼓腸，放屁増加，胃食道逆流性疾患，リパーゼ増加 腹痛，食欲減退，消化不良，嘔吐，胃腸障害
肝胆道系障害 － ALT増加，AST増加，AI－P増加 γ－GTP増加，胆嚢炎
腎・尿路障害 － － クレアチニン増加，BUN増加
代謝・栄養障害 － 乳酸増加，尿酸増加 ケトーシス，カリウム増加，ビタミンB12減少
筋骨格系障害 － 関節痛 筋肉痛
皮膚障害 － 多汗症 湿疹，発疹，掻痒症，蕁麻疹，皮膚剥脱，水疱，皮膚血管炎
その他 空腹 無力症，CRP増加，CK－MB増加，CK増加，体重増加，悪寒 倦怠感，浮腫
(表終了)

エクメット配合錠LD（1錠）
外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969104F1029
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩配合剤
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)住友ファーマ
【薬価】47.2円/1T
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の併用による治療が適切な時のみ
注意
1. 本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2. 本剤LDは，既にビルダグリプチン50mg・メトホルミン塩酸塩250mgを併用し状態が安定している時，ビルダグリプチン50mg又はメトホルミン塩酸塩250mgの単剤の治療で効果不十分時に，使用を検討。
4. 投与中は，ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
5. 中等度の腎機能障害(eGFR30～60mL／分／1．73m2未満)では，ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩を腎機能により減量等慎重な投与が必要，本剤を使用せず，各単剤の併用を検討。
6. 食事療法，運動療法を行う。
【用法用量】成人 1回1錠(ビルダグリプチン／メトホルミン塩酸塩 50mg／250mg又は50mg／500mg) 1日2回 朝・夕 内服。
注意
1. ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩の用法・用量を考慮して，患者ごとに用量を決定。
2. ビルダグリプチン50mg1日2回の単剤の治療で効果不十分時は，LDから投与開始。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・ビグアナイド系薬剤に過敏症の既往。
2. 下記の患者
(1). 乳酸アシドーシスの既往。
(2). 重度の腎機能障害(eGFR30mL／分／1．73m2未満)，透析患者(腹膜透析含む)。
(3). 心血管系，肺機能に高度の障害(ショック，心不全，心筋梗塞，肺塞栓等)・その他の低酸素血症を伴いやすい状態。
(4). 脱水症，脱水状態の懸念(下痢，嘔吐等の胃腸障害，経口摂取が困難等)。
(5). 過度のアルコール摂取者。
3. 糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
4. 重度の肝機能障害。
5. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6. 栄養不良状態，飢餓状態，衰弱状態，脳下垂体機能不全，副腎機能不全。
7. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 乳酸アシドーシス(頻度不明)(血中乳酸値の上昇，乳酸／ピルビン酸比の上昇，血液pHの低下等，胃腸症状，倦怠感，筋肉痛，過呼吸等)。
2. 肝炎，肝機能障害，黄疸(頻度不明)(ALT，AST，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇等)。
3. 血管浮腫(頻度不明)。
4. 低血糖(頻度不明)。
重篤な低血糖症状，意識消失(スルホニルウレア剤併用)。
5. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
6. 急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
7. 腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
9. 類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 － 白血球数増加，貧血 白血球数減少，血小板数減少，好酸球数増加
神経系障害 眩暈・ふらつき 振戦 味覚異常，頭重，頭痛，眠気
心臓障害 － － 動悸
血管障害 － 高血圧 －
胃腸障害 便秘，アミラーゼ増加，下痢，悪心 胃炎，腹部不快感，腹部膨満，鼓腸，放屁増加，胃食道逆流性疾患，リパーゼ増加 腹痛，食欲減退，消化不良，嘔吐，胃腸障害
肝胆道系障害 － ALT増加，AST増加，AI－P増加 γ－GTP増加，胆嚢炎
腎・尿路障害 － － クレアチニン増加，BUN増加
代謝・栄養障害 － 乳酸増加，尿酸増加 ケトーシス，カリウム増加，ビタミンB12減少
筋骨格系障害 － 関節痛 筋肉痛
皮膚障害 － 多汗症 湿疹，発疹，掻痒症，蕁麻疹，皮膚剥脱，水疱，皮膚血管炎
その他 空腹 無力症，CRP増加，CK－MB増加，CK増加，体重増加，悪寒 倦怠感，浮腫
(表終了)

カナリア配合錠（1錠）
外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969106F1028
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物・カナグリフロジン水和物配合剤
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】208.5円/1T
【薬価収載日】2017/08/30
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物，カナグリフロジン水和物の併用による治療が適切な時のみ
注意
1. 本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2. 既にテネリグリプチン臭化水素酸塩水和物・カナグリフロジン水和物を併用し状態が安定している時，テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物・カナグリフロジン水和物の単剤治療で効果不十分時に，使用を検討。
3. 2型糖尿病のみ使用。
4. 高度腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
5. 中等度腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の

3 代謝性医薬品

必要性を慎重に判断。
6. 投与中は，テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物・カナグリフロジン水和物の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
7. 食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回1錠(テネリグリプチン／カナグリフロジン　20mg／100mg)　1日1回　朝食前又は後　内服。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖。
重篤な低血糖症状，意識消失(DPP－4阻害剤)。
2. 脱水(頻度不明)(口渇，多尿，頻尿，血圧低下等)，脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
3. ケトアシドーシス(頻度不明)(糖尿病性ケトアシドーシス含む)。
4. 腎盂腎炎，外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎，敗血症(頻度不明)(敗血症性ショック含む)。
5. 腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
6. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALTの上昇等)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
8. 類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
9. 急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 頻度不明
精神神経系　浮動性眩暈，感覚鈍麻
消化器 口渇，便秘 裂肛，消化器カンジダ症 腹部膨満，上腹部痛，悪心，下痢
循環器　心筋梗塞，高血圧，起立性低血圧
泌尿器 頻尿，多尿 膀胱炎，尿閉
皮膚 湿疹 発疹，酒さ，足部白癬 掻痒症
耳　耳不快感
生殖器 外陰部腟カンジダ症 亀頭包皮炎，外陰腟掻痒症，陰部掻痒症
臨床検査 血中ケトン体増加 血中ブドウ糖減少
全身症状　疲労 空腹
筋骨格系　関節痛
その他　熱中症
(表終了)

グリベンクラミド錠2. 5mg「トーワ」(2. 5mg1錠)

外　内服　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】3961003F2172
【薬効分類】3. 9. 6　糖尿病用剤
【一般名】グリベンクラミド
【先発品】オイグルコン錠2. 5mg
【メーカー】製)東和薬品　販)和薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】血糖降下剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン非依存型糖尿病(食事療法・運動療法のみで効果不十分時)
【用法用量】1日1. 25～2. 5mg　1日1回　朝食前又は後　内服，又は1日2回　朝・夕それぞれ食前又は後　内服。
適宜増量し維持量を決定。1日最高10mg。

■禁忌
【禁忌】1. 重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，インスリン依存型糖尿病(若年型糖尿病，ブリットル型糖尿病等)。
2. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3. 重篤な肝・腎機能障害。
4. 下痢，嘔吐等の胃腸障害。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. 本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。
7. ボセンタン水和物の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(8. 9%)(脱力感，高度の空腹感，発汗，動悸，振戦，頭痛，知覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，意識障害，痙攣等)。
2. 無顆粒球症，溶血性貧血(各頻度不明)。
3. 肝炎(AST・ALT・γ－GTPの上昇等)，肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
血液　血小板減少，白血球減少
肝臓　AST・ALTの上昇
消化器　下痢，胃部膨満感，便秘，悪心，食欲不振，心窩部痛
過敏症 掻痒感 発疹，光線過敏症
精神神経系　眩暈，倦怠感，眠気
その他 脱毛 流涙，視力低下，浮腫，アルコール耐性低下
(表終了)

グルベス配合錠（1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969102F1020
【薬効分類】3. 9. 6　糖尿病用剤
【一般名】ミチグリニドカルシウム水和物・ボグリボース配合剤
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】25.8円/1T
【薬価収載日】2011/07/19
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】速効型インスリン分泌促進薬／食後過血糖改善薬配合剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
ミチグリニドカルシウム水和物・ボグリボースの併用による治療が適切な時のみ
注意
1. 食事療法，運動療法を行う。
2. 本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
3. 下記に使用を検討。
(1). 既にミチグリニドカルシウム水和物及びボグリボースを併用し状態が安定している時。
(2). ミチグリニドカルシウム水和物単剤の治療で効果不十分時。
(3). ボグリボース単剤の治療で効果不十分時。
4. ミチグリニドカルシウム水和物・ボグリボースの使用は，投与時の空腹時血糖が126mg／dL以上か，食後血糖1又は2時間値が200mg／dL以上を目安。
【用法用量】成人　1回1錠(ミチグリニドカルシウム水和物／ボグリボース　10mg／0. 2mg)　1日3回　食直前　内服。
注意
ミチグリニドカルシウム水和物は，食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱。効果的に食後の血糖上昇を抑制するため，投与は食直前(5分以内)とする。ミチグリニドカルシウム水和物は投与後速やかに薬効を発現するため，食前30分投与では食前15分に血中インスリン値が上昇し食事開始時の血糖値低下の報告あり，食事開始前に低血糖を誘発する可能性。

■禁忌
【禁忌】1. 重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
2. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心筋梗塞(頻度不明)。
2. 低血糖(頻度不明)(眩暈，空腹感，振戦，脱力感，冷汗，意識消失等)。
3. 腸閉塞(頻度不明)(腹部膨満，鼓腸，放屁増加等，持続する腹痛，嘔吐等)。
4. 劇症肝炎，重篤な肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
5. 意識障害を伴う高アンモニア血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
代謝 低血糖症状(眩暈，空腹感，振戦，脱力感，冷汗，発汗，悪寒，意識低下，倦怠感，動悸，頭重感，眼のしょぼしょぼ感，嘔気，気分不良，しびれ感，眠気，歩行困難，あくび等)
消化器　口渇，胸やけ，嘔気，胃不快感，胃炎，胃潰瘍，腹部膨満，腹鳴，腹痛，放屁増加，下痢，軟便，便秘，空腹感，味覚異常，食欲不振
口内炎，舌のしびれ，嘔吐，胃痛，胃腸炎，腸管嚢胞様気腫症，食欲亢進
皮膚　湿疹 発疹，掻痒，皮膚乾燥，光線過敏症
筋骨格系　背部痛，筋肉痛，関節痛，下肢痙直，筋骨格硬直
精神神経系　頭痛，眩暈，しびれ感 眠気，不眠，ふらつき
耳　耳痛
肝臓　胆嚢ポリープ，総ビリルビン上昇，AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，Al－P上昇，LDH上昇
循環器　心拡大，心室性期外収縮，血圧上昇 動悸，高血圧悪化
呼吸器　咳，咽頭異和感，かぜ症候群
腎臓・泌尿器　尿蛋白，尿潜血，BUN上昇 腎嚢胞，頻尿
その他　倦怠感，冷汗，ほてり，胸部不快感，四肢痛，体重増加，好酸球数増加，好中球数増加，トリグリセリド上昇，遊離脂肪酸上昇，尿酸

3 代謝性医薬品

上昇，カリウム上昇 脱力感，発汗，浮腫，脱毛，眼のしょぼしょぼ感，眼のかすみ，胸痛，右季肋部痛，貧血，血小板減少，顆粒球減少，血清アミラーゼ上昇，乳酸上昇，総コレステロール上昇，LDL－コレステロール上昇，HDL－コレステロール低下，CK上昇，高カリウム血症，ピルビン酸上昇，BNP上昇
（表終了）

スージャヌ配合錠（1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969107F1022
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】シタグリプチンリン酸塩水和物・イプラグリフロジン　L－プロリン配合剤
【メーカー】製)MSD　販)アステラス製薬
【薬価】178.8円/1T
【薬価収載日】2018/05/22
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
シタグリプチンリン酸塩水和物・イプラグリフロジン　L－プロリンの併用による治療が適切な時のみ。
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2．下記に使用を検討。
（1）．既にシタグリプチン50mg1日1回・イプラグリフロジン50mg1日1回を併用し状態が安定している時。
（2）．シタグリプチン50mg1日1回の治療で効果不十分時。
（3）．イプラグリフロジン50mg1日1回の単剤治療で効果不十分時。
3．シタグリプチン・イプラグリフロジンの各単剤の併用より適切か慎重に判断。
4．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
5．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全ではイプラグリフロジンの効果が期待できず，シタグリプチンの最大量は25mg1日1回なので，本剤を投与しない。
6．中等度の腎機能障害ではイプラグリフロジンの効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人　1回1錠(シタグリプチン／イプラグリフロジン　50mg／50mg)　1日1回　朝食前又は後　内服。
注意
中等度の腎機能障害 シタグリプチンの用量調節が必要，下記の時に使用を検討。
（1）．シタグリプチン25mg　1日1回（中等度の腎機能障害の開始量）・イプラグリフロジン50mg　1日1回の併用で効果不十分時。
（2）．シタグリプチン50mg　1日1回（中等度の腎機能障害の最大量）の単剤治療で効果不十分時。
（3）．既にシタグリプチン50mg　1日1回・イプラグリフロジン50mg　1日1回を併用し状態の安定時。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤，スルホニルウレア剤併用）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
3．皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
4．肝機能障害，黄疸（各頻度不明）（AST，ALT等の著しい上昇）。
5．急性腎障害（頻度不明）。
6．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
出血性膵炎，壊死性膵炎（外国）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
8．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
10．血小板減少（頻度不明）。
11．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
12．腎盂腎炎，外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎，敗血症（各頻度不明）（敗血症性ショック含む）。
13．脱水（頻度不明）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
14．ケトアシドーシス（頻度不明）（糖尿病性ケトアシドーシス含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 頻度不明
神経系障害　浮動性眩暈，感覚鈍麻，糖尿病性ニューロパチー，体位性眩暈，頭痛
血液・リンパ系障害　貧血
眼障害　糖尿病網膜症，糖尿病網膜症の悪化，眼瞼浮腫
耳・迷路障害　回転性眩暈
心臓障害　上室性期外収縮，心室性期外収縮，動悸
呼吸器，胸郭・縦隔障害　上気道の炎症，上気道感染
感染症　膀胱炎，外陰部腟カンジダ症，鼻咽頭炎，細菌尿
代謝・栄養障害　ケトーシス
胃腸障害　便秘 腹部不快感（胃不快感含む），腹部膨満，腹痛，上腹部痛，悪心，下痢，鼓腸，胃ポリープ，胃炎，萎縮性胃炎，糜爛性胃炎，歯周炎，胃食道逆流性疾患，口内炎，嘔吐，齲歯
肝胆道系障害　肝機能異常，脂肪肝
腎・尿路障害 頻尿　多尿，尿管結石，腎結石症
生殖系・乳房障害　陰部掻痒症
皮膚・皮下組織障害　発疹，湿疹，冷汗，多汗症，蕁麻疹，皮膚血管炎，血管浮腫，掻痒症，薬疹
筋骨格系・結合組織障害　関節痛，筋肉痛，四肢痛，背部痛，RS3PE症候群，筋痙縮
全身障害・投与局所様態　口渇 空腹，浮腫，倦怠感，体重減少，顔面浮腫，脱力感
血管障害　高血圧
臨床検査　心電図T波振幅減少，体重増加，赤血球数減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，白血球数増加，ALT増加，AST増加，γ－GTP増加，血中ビリルビン増加，血中LDH増加，CK増加，血中コレステロール増加，血中尿酸増加，血中尿素増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖減少，低比重リポ蛋白増加，血中トリグリセリド増加，尿中蛋白陽性，尿中β2ミクログロブリン増加，尿中β－Nアセチルグルコサミニダーゼ増加，尿潜血陽性，尿中アルブミン／クレアチニン比増加，尿中ケトン体陽性，血中ケトン体増加，尿中α1ミクログロブリン増加，尿量増加
（表終了）

セイブル錠50mg（50mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969009F2020
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】ミグリトール
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】19.5円/1T
【薬価収載日】2005/12/09
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病食後過血糖改善剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】糖尿病の食後過血糖の改善（食事療法・運動療法が効果不十分時，食事療法・運動療法に加えスルホニルウレア剤，ビグアナイド系薬剤又はインスリン製剤が効果不十分時のみ）
注意
1．食事療法・運動療法のみでは，食後血糖1又は2時間値が200mg／dL以上。
2．食事療法，運動療法に加え経口血糖降下剤・インスリン製剤を使用で，投与時の空腹時血糖値は140mg／dL以上を目安。
【用法用量】成人　1回50mg　1日3回　食直前　内服。
効果不十分時　1回75mgまで。
注意
高齢者は，低用量（例 1回25mg）から開始する等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明，糖尿病用薬併用時0．1～5%未満）。
2．腸閉塞（頻度不明）（腹部膨満，鼓腸，放屁増加等，腸内ガス等の増加，持続する腹痛，嘔吐等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 腹部膨満，鼓腸，下痢 便秘，腸雑音異常，腹痛，嘔気，嘔吐，食欲不振，口渇，消化不良，胃不快感，おくび，胃炎，排便障害，痔核 口内炎，味覚異常，腸管嚢胞様気腫症
過敏症　発疹，紅斑，蕁麻疹，掻痒
肝臓　ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，AI－P上昇
精神神経系　眩暈，頭痛 しびれ，眠気
血液　白血球数減少
代謝　血中アミラーゼ増加，血中カリウム増加，血中尿酸増加
その他　頻尿，咳嗽 倦怠感，浮腫
（表終了）

3 代謝性医薬品

ソリクア配合注ソロスター（1キット）

外 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969501G1023
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】インスリン グラルギン（遺伝子組換え）・リキシセナチド配合剤
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】4723円/1kit
【薬価収載日】2020/05/20
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤／GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる2型糖尿病
注意
食事療法・運動療法・糖尿病用薬で効果不十分時に検討。
【用法用量】成人 1回5～20ドーズ（インスリン グラルギン／リキシセナチド 5～20単位／5～20μg） 1日1回 朝食前 皮下注。1日1回5～10ドーズから開始。
適宜増減，1日20ドーズまで。
なお，本剤の用量単位である1ドーズには，インスリン グラルギン1単位及びリキセシナチド1μgが含まれる。
注意
1．朝食前1時間以内に投与，食後投与はしない。
2．インスリン グラルギンとリキシセナチドを配合した製剤であるため，適宜増減等，投与量は慎重に決定。1ドーズ刻みで調節可能。
3．インスリン製剤以外の糖尿病用薬の治療で効果不十分時，5ドーズを目安に投与を開始。
（1）．GLP－1受容体作動薬の治療で効果不十分時，前治療のGLP－1受容体作動薬を投与中止し，本剤と併用しない。週1回投与等の持続性GLP－1受容体作動薬から本剤に変更時，その作用持続性を考慮し，次回に予定の投与タイミングから投与開始。
4．基礎インスリン製剤の治療で効果不十分時，前治療の基礎インスリン製剤の種類に応じ，下記を参考に投与開始。いずれも初期量として10ドーズまで。
（1）．インスリン グラルギン100単位／mL製剤から本剤に変更時，初期量は前治療のインスリン グラルギン100単位／mL製剤の1日量と同単位を目安とし投与開始。
（2）．インスリン グラルギン300単位／mL製剤又は1日2回投与の基礎インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は前治療の基礎インスリン製剤の1日量より低用量を目安とし投与開始。
（3）．インスリン グラルギン以外の1日1回投与の基礎インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は前治療の基礎インスリン製剤の1日量と同単位を目安とし投与開始。
（4）．前治療の基礎インスリン製剤を投与中止し，本剤と併用しない。
5．1日量として20ドーズを超える用量が必要時は，他の糖尿病用薬への切りかえを検討。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・他のインスリン グラルギン製剤に過敏症の既往。
2．低血糖症状。
3．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
4．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．急性膵炎（頻度不明）（嘔吐を伴う持続的な腹痛等）。
3．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（全身性皮膚反応，血管神経性浮腫，気管支痙攣，低血圧等）。
4．胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心 腹部不快感，下痢，嘔吐，消化不良，便秘，胃腸炎，食欲不振 腹部膨満，腹痛
肝胆道 胆石症
皮膚 多汗症 蕁麻疹
精神神経系 眩暈，振戦 傾眠 頭痛
注射部位 注射部位反応（内出血，紅斑，浮腫，掻痒等） リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
感染 上咽頭炎，上気道感染
その他 疲労 倦怠感，空腹感
（表終了）

ツイミーグ錠500mg（500mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969026F1027
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】イメグリミン塩酸塩
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】34.1円/1T
【薬価収載日】2021/08/12
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病用剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
1．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
2．腎機能障害では，程度により腎臓からの排泄が遅延し，血中濃度が上昇する。中等度・重度（eGFRが45mL／分／1．73m2未満）の有効性・安全性を指標とした臨床試験は未実施，投与は推奨されない。
【用法用量】成人 1回1000mg 1日2回 朝，夕 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
低血糖（6．7%），低血糖症状（脱力感，高度の空腹感，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 膀胱炎
代謝・栄養障害 食欲減退
眼障害 糖尿病網膜症，糖尿病性網膜浮腫・黄斑浮腫
胃腸障害 悪心，下痢，便秘 嘔吐，腹部不快感，消化不良，上腹部痛，軟便，腹部膨満，胃食道逆流性疾患
臨床検査 血中乳酸増加，リパーゼ増加，体重減少
（表終了）

デベルザ錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969021F1032
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】トホグリフロジン水和物
【メーカー】製)興和
【薬価】154.4円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
1．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
2．2型糖尿病のみ使用し，1型糖尿病には投与しない。
3．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
4．中等度の腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 朝食前又は後 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．5～38．6%）（脱力感，高度の空腹感，発汗等）。
2．腎盂腎炎，外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎，敗血症（各頻度不明）（敗血症性ショック含む）。
3．脱水（頻度不明）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
4．ケトアシドーシス（糖尿病性ケトアシドーシス含む）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 掻痒症
腎臓 頻尿 尿路感染，尿量増加，尿中ケトン体陽性 尿路結石，夜間頻尿，尿中β2ミクログロブリン増加
消化器 便秘，空腹 下痢，腹痛
精神神経系 眩暈 頭痛
生殖器 性器感染（外陰部腟カンジダ症等） 陰部掻痒症
循環器 血圧上昇，起立性低血圧

3 代謝性医薬品

呼吸器　上気道炎
その他 血中ケトン体増加，口渇　倦怠感，体重減少
（表終了）

トラディアンス配合錠AP（1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969108F1027
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】エンパグリフロジン・リナグリプチン配合剤
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】235.8円/1T
【薬価収載日】2018/11/20
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
エンパグリフロジン・リナグリプチンの併用による治療が適切な時のみ
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2．トラディアンス配合錠APについては，下記に使用を検討。
（1）．既にエンパグリフロジン10mg・リナグリプチン5mgを併用し状態が安定している時。
（2）．エンパグリフロジン10mgの単剤治療で効果不十分時。
（3）．リナグリプチン5mgの単剤治療で効果不十分時。
4．2型糖尿病のみ使用し，1型糖尿病には投与しない。
5．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
6．高度腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
7．中等度腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
8．投与中は，エンパグリフロジン・リナグリプチンの各単剤の併用より適切か慎重に判断。
【用法用量】成人　1回1錠（エンパグリフロジン／リナグリプチン　10mg／5mg又は25mg／5mg）　1日1回　朝食前又は後　内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（0．5%）。
重篤な低血糖，意識消失（スルホニルウレア剤併用）。
2．脱水（頻度不明）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
3．ケトアシドーシス（頻度不明）（糖尿病性ケトアシドーシス含む）。
4．腎盂腎炎（頻度不明），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（頻度不明），敗血症（頻度不明）（敗血症性ショック含む）。
5．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
6．肝機能障害（0．2%）（AST，ALTの上昇等）。
7．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
9．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．2～1%未満 頻度不明
過敏症　血管浮腫，蕁麻疹，気管支収縮
感染症 尿路感染，膀胱炎，性器感染（外陰部腟炎，外陰部腟カンジダ症，亀頭炎等）
代謝・栄養障害 脂質異常症 体液量減少
血液・リンパ系障害　血液濃縮
神経障害　眩暈，味覚異常
呼吸器，胸郭・縦隔障害　鼻咽頭炎，咳嗽
胃腸障害 便秘 鼓腸 腹部膨満，胃腸炎，口内炎
皮膚・皮下組織障害　発疹 掻痒症
腎・尿路障害 頻尿 多尿 尿量増加，排尿困難
生殖系障害　外陰腟掻痒症 陰部掻痒症
一般・全身障害　口渇 空腹感，浮腫
臨床検査 血中ケトン体陽性，膵酵素（血中アミラーゼ，リパーゼ）増加，尿中ケトン体陽性 体重減少，血中クレアチニン上昇 体重増加，糸球体濾過量減少，ヘマトクリット上昇
（表終了）

ネシーナ錠25mg（25mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969012F3028
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】アログリプチン安息香酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ　販)武田薬品工業
【薬価】156.7円/1T
【薬価収載日】2010/06/11
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回25mg　1日1回　内服。
注意
中等度以上の腎機能障害 排泄の遅延により本剤の血中濃度が上昇するため，腎機能の程度により，投与量を適宜減量。
中等度以上の腎機能障害の投与量
（表開始）
血清クレアチニン（mg／dL）（注1）クレアチニンクリアランス（Ccr，mL／分）投与量
中等度腎機能障害 男性；1．4＜～≦2．4 女性；1．2＜～≦2 30≦～＜50 12．5mg，1日1回
高度腎機能障害／末期腎不全（注2）男性；＞2．4 女性；＞2 ＜30 6．25mg，1日1回
（表終了）
（注1）Ccrに相当する換算値（年齢60歳，体重65kg）
（注2）末期腎不全 血液透析との時間関係は問わない。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（0．1～5%未満）。
重篤な低血糖症状，意識消失（スルホニルウレア剤又はインスリン製剤併用）。
2．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等の異常）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P等の著しい上昇），黄疸（頻度不明）。
4．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（頻度不明）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
6．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
8．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹
消化器 腹部膨満，鼓腸，腹痛，胃腸炎，便秘
精神神経系 頭痛，眩暈，四肢のしびれ
その他 倦怠感，鼻咽頭炎，浮腫，動悸，関節痛，筋肉痛，貧血
（表終了）

ピオグリタゾンOD錠30mg「NS」（30mg1錠）

外　内服　後発　流通
ハイリスク

【YJコード】3969007F4066
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】ピオグリタゾン塩酸塩
【先発品】アクトスOD錠30
【メーカー】製)日新製薬　販)科研製薬
【薬価】21円/1T
【薬価収載日】2011/06/24
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】インスリン抵抗性改善剤－2型糖尿病治療剤－
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
下記治療が効果不十分でインスリン抵抗性の推定される時のみ
1．
（1）．食事療法，運動療法のみ
（2）．食事療法，運動療法に加えスルホニルウレア剤を使用
（3）．食事療法，運動療法に加えα－グルコシダーゼ阻害剤を使用
（4）．食事療法，運動療法に加えビグアナイド系薬剤を使用
2．食事療法，運動療法に加えインスリン製剤を使用
注意
インスリン抵抗性が推定される患者に限定。インスリン抵抗性の目安は肥満度（BMI　kg／m2）で24以上，インスリン分泌状態が空腹時血中インスリン値で5μU／mL以上。

3 代謝性医薬品

【用法用量】食事療法，運動療法のみ及び食事療法，運動療法に加えスルホニルウレア剤又はα－グルコシダーゼ阻害剤又はビグアナイド系薬剤を使用時
成人　1回15～30mg　1日1回　朝食前又は後　内服。適宜増減，1日45mgまで。
食事療法，運動療法に加えインスリン製剤を使用時
成人　1回15mg　1日1回　朝食前又は後　内服。適宜増減，1日30mgまで。
注意
1．女性は，浮腫に注意し，1日1回15mgから開始。
2．1日1回30mgから45mgに増量時，浮腫の発現が多い。
3．インスリンとの併用時に，浮腫が多く報告あり，1日1回15mgから開始。本剤を増量時は浮腫及び心不全の症状・徴候を観察。1日30mgまで。
4．高齢者は，1日1回15mgから開始。

■禁忌
【禁忌】1．心不全・その既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心不全（頻度不明）の増悪・発症（浮腫，急激な体重増加，息切れ，動悸，心胸比増大，胸水等）。
2．循環血漿量の増加による浮腫（8．2%）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P等の著しい上昇），黄疸（頻度不明）。
4．低血糖（0．1～5%未満），低血糖症状（糖尿病用薬併用時）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
7．胃潰瘍の再燃（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液　貧血，白血球減少，血小板減少
循環器　血圧上昇，心胸比増大，心電図異常，動悸，胸部圧迫感，顔面潮紅
過敏症　発疹，湿疹，掻痒
消化器　悪心・嘔吐，胃部不快感，胸やけ，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘，食欲亢進，食欲不振
肝臓　AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇
精神神経系　眩暈，ふらつき，頭痛，眠気，倦怠感，脱力感，しびれ
その他 LDH・CKの上昇 BUN・カリウムの上昇，総蛋白・カルシウムの低下，体重・尿蛋白の増加，息切れ 関節痛，ふるえ，急激な血糖下降に伴う糖尿病性網膜症の悪化 骨折（注），糖尿病性黄斑浮腫の発症・増悪
（表終了）
（注）外国。

マリゼブ錠12．5mg（12．5mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969025F1022
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】オマリグリプチン
【メーカー】製)キッセイ薬品工業　販)MSD
【薬価】308.5円/1T
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病用剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回25mg　週1回　内服。
注意
1．重度腎機能障害，血液透析又は腹膜透析を要する末期腎不全 本剤は主に腎臓で排泄されるため，下表を目安に用量調節。用法・用量はシミュレーション結果で設定。
（表開始）
腎機能障害 eGFR（mL／分／1．73m2） 血清クレアチニン値（mg／dL）（注） 投与量
重度，末期腎不全 eGFR＜30 男性；Cr＞1．9 女性；Cr＞1．4 12．5mg週1回
（表終了）
（注）eGFRに相当する換算値（年齢60歳）。
2．末期腎不全 血液透析との時間関係は問わない。
3．下記を指導。
・本剤は週1回服用する薬剤であり，同一曜日に服用。
・服用を忘れた時は，気づいた時点で1回分を服用し，以後あらかじめ定められた曜日に服用。ただし，同日中に2回分を服用しない。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．インスリン注射で血糖管理が望まれる重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．5%）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
3．急性膵炎（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
4．腸閉塞（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．2～1%未満
胃腸障害 便秘，下痢
皮膚・皮下組織障害 湿疹
臨床検査 ALT増加，グリコヘモグロビン増加，血中ブドウ糖増加
（表終了）

リオベル配合錠HD（1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969103F2020
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩配合剤
【メーカー】製)帝人ファーマ　販)武田薬品工業
【薬価】159.8円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の併用による治療が適切な時のみ
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2．下記に使用を検討。
（1）．既にアログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩を併用し状態が安定している時。
（2）．アログリプチン安息香酸塩単剤の治療で効果不十分時。
（3）．ピオグリタゾン塩酸塩単剤の治療で効果不十分時。
3．アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
4．インスリン抵抗性が推定される患者に限定。インスリン抵抗性の目安は肥満度（BMI　kg／m2）で24以上，インスリン分泌状態が空腹時血中インスリン値で5μU／mL以上。
5．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回1錠（アログリプチン／ピオグリタゾン　25mg／30mg）　1日1回　朝食前又は後　内服。
注意
1．中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランス値が50mL／分未満（注））排泄の遅延によりアログリプチンの血中濃度が上昇，本剤は使用せず，アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の各単剤を併用。
（注）クレアチニンクリアランスに相当する血清クレアチニンの換算値 男性では＞1．4mg／dL，女性では＞1．2mg／dL（年齢60歳，体重65kgの場合）
2．ピオグリタゾン塩酸塩の投与により浮腫が比較的女性に多く報告，女性に投与時は，浮腫の発現に注意，ピオグリタゾンの投与量を考慮，アログリプチン／ピオグリタゾンとして1日1回25mg／15mgからの投与開始を検討。
3．高齢者は，アログリプチン／ピオグリタゾンとして1日1回25mg／15mgからの投与開始を検討。

■禁忌
【禁忌】1．心不全・その既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用

3 代謝性医薬品

1. 心不全(頻度不明)の増悪・発症(浮腫，急激な体重増加，息切れ，動悸，心胸比増大，胸水等)。
2. 循環血漿量の増加による浮腫(頻度不明)(男性4．2%，女性12．2%，糖尿病性網膜症合併例10．4%，糖尿病性神経障害合併例11．4%，糖尿病性腎症合併例10．6%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，AI－P等の著しい上昇)，黄疸(頻度不明)。
4. 低血糖(0．1～5%未満)。
重篤な低血糖症状，意識消失(DPP－4阻害剤)。
5. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
7. 急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
8. 皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(頻度不明)。
9. 腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
10. 類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
11. 胃潰瘍の再燃。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 貧血 白血球減少，血小板減少
循環器 血圧上昇 心胸比増大，心電図異常，動悸，胸部圧迫感，顔面潮紅
過敏症 発疹，湿疹，掻痒 蕁麻疹
消化器 腹部膨満，便秘，胃腸炎 悪心・嘔吐，胃部不快感，胸やけ，腹痛，鼓腸，下痢，食欲亢進，食欲不振
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇
精神神経系 脱力感，しびれ 眩暈，ふらつき，頭痛，眠気，倦怠感
その他 息切れ，筋肉痛 LDH・CKの上昇，BUN・カリウムの上昇，総蛋白・カルシウムの低下，体重・尿蛋白の増加，鼻咽頭炎，関節痛，ふるえ，急激な血糖下降に伴う糖尿病性網膜症の悪化，骨折(注)，糖尿病性黄斑浮腫の発症・増悪
(表終了)
(注)外国。

リオベル配合錠LD（1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969103F1024
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩配合剤
【メーカー】製)帝人ファーマ 販)武田薬品工業
【薬価】132.1円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の併用による治療が適切な時のみ
注意
1．本剤を2型糖尿病治療の第一選択薬にしない。
2．下記に使用を検討。
(1)．既にアログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩を併用し状態が安定している時。
(2)．アログリプチン安息香酸塩単剤の治療で効果不十分時。
(3)．ピオグリタゾン塩酸塩単剤の治療で効果不十分時。
3．アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の各単剤の併用より適切か慎重に判断。
4．インスリン抵抗性が推定される患者に限定。インスリン抵抗性の目安は肥満度(BMI kg／m2)で24以上，インスリン分泌状態が空腹時血中インスリン値で5μU／mL以上。
5．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人 1回1錠(アログリプチン／ピオグリタゾン 25mg／15mg) 1日1回 朝食前又は後 内服。
注意
1．中等度以上の腎機能障害(クレアチニンクリアランス値が50mL／分未満(注)) 排泄の遅延によりアログリプチンの血中濃度が上昇，本剤は使用せず，アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩の各単剤を併用。
(注)クレアチニンクリアランスに相当する血清クレアチニンの換算値 男性では＞1．4mg／dL，女性では＞1．2mg／dL(年齢60歳，体重65kgの場合)
2．ピオグリタゾン塩酸塩の投与により浮腫が比較的女性に多く報告，女性に投与時は，浮腫の発現に注意，ピオグリタゾンの投与量を考慮，アログリプチン／ピオグリタゾンとして1日1回25mg／15mgからの投与開始を検討。
3．高齢者は，アログリプチン／ピオグリタゾンとして1日1回25mg／15mgからの投与開始を検討。

■禁忌

【禁忌】1．心不全・その既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全(頻度不明)の増悪・発症(浮腫，急激な体重増加，息切れ，動悸，心胸比増大，胸水等)。
2．循環血漿量の増加による浮腫(頻度不明)(男性4．2%，女性12．2%，糖尿病性網膜症合併例10．4%，糖尿病性神経障害合併例11．4%，糖尿病性腎症合併例10．6%)。
3．肝機能障害(AST，ALT，AI－P等の著しい上昇)，黄疸(頻度不明)。
4．低血糖(0．1～5%未満)。
重篤な低血糖症状，意識消失(DPP－4阻害剤)。
5．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
6．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
7．急性膵炎(頻度不明)(持続的な激しい腹痛，嘔吐等)。
8．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(頻度不明)。
9．腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
10．類天疱瘡(頻度不明)(水疱，糜爛等)。
11．胃潰瘍の再燃。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 貧血 白血球減少，血小板減少
循環器 血圧上昇 心胸比増大，心電図異常，動悸，胸部圧迫感，顔面潮紅
過敏症 発疹，湿疹，掻痒 蕁麻疹
消化器 腹部膨満，便秘，胃腸炎 悪心・嘔吐，胃部不快感，胸やけ，腹痛，鼓腸，下痢，食欲亢進，食欲不振
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇
精神神経系 脱力感，しびれ 眩暈，ふらつき，頭痛，眠気，倦怠感
その他 息切れ，筋肉痛 LDH・CKの上昇，BUN・カリウムの上昇，総蛋白・カルシウムの低下，体重・尿蛋白の増加，鼻咽頭炎，関節痛，ふるえ，急激な血糖下降に伴う糖尿病性網膜症の悪化，骨折(注)，糖尿病性黄斑浮腫の発症・増悪
(表終了)
(注)外国。

ルセフィ錠2．5mg（2．5mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969020F1020
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ルセオグリフロジン水和物
【メーカー】製)大正製薬 販)大正富山医薬品 販)ノバルティスファーマ
【薬価】142.3円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
1．2型糖尿病のみ使用し，1型糖尿病には投与しない。
2．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
3．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
4．中等度の腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人 1回2．5mg 1日1回 朝食前又は後 内服。効果不十分時 1回5mg 1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖(1．0%)。
2．腎盂腎炎(0．1%)，外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎(頻度不明)，敗血症(頻度不明)(敗血症性ショック含む)。
3．脱水(0．1%)(口渇，多尿，頻尿，血圧低下等)，脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
4．ケトアシドーシス(頻度不明)(糖尿病性ケトアシドーシス含む)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 1%未満 頻度不明
感染症 膀胱炎 性器カンジダ症，尿路感染，性器感染

3 代謝性医薬品

血液系障害 赤血球増加症
神経系障害 体位性眩暈，浮動性眩暈，頭痛 眠気
耳・迷路障害 回転性眩暈
血管障害 低血圧
胃腸障害 便秘 下痢，胃食道逆流性疾患，腹痛，腹部膨満 悪心，嘔吐，腹部不快感
皮膚・皮下組織障害 発疹，湿疹 掻痒症，蕁麻疹
筋骨格系・結合組織障害 筋痙縮
腎・尿路障害 頻尿 多尿
生殖系・乳房障害 陰部掻痒症 亀頭包皮炎
一般・全身障害 口渇，倦怠感 脱力感，空腹
臨床検査 血中ケトン体増加，尿中β2ミクログロブリン増加，尿中白血球陽性，尿中アルブミン陽性 CRP増加，白血球数増加，ヘマトクリット増加，ヘモグロビン増加，尿中ケトン体陽性，尿細菌検査陽性，尿中血陽性，尿中蛋白陽性，尿中赤血球陽性，NAG増加 体重減少，血中クレアチニン増加
（表終了）

3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品

ATP腸溶錠20mg「AFP」（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3992001F1360
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物
【メーカー】製)アルフレッサファーマ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2019/03/15 【経過措置期限】2026/03/31
【標榜薬効】ATP製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記に伴う諸症状の改善
頭部外傷後遺症
2．心不全
3．調節性眼精疲労の調節機能の安定化
4．消化管機能低下のある慢性胃炎
【用法用量】1回40～60mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
消化器 悪心，食欲不振，胃腸障害，便秘傾向，口内炎等
循環器 全身拍動感
過敏症 掻痒感等
精神神経系 頭痛，眠気，気分が落ち着かない
感覚器 耳鳴
その他 脱力感
（表終了）

アダリムマブBS皮下注40mgペン0．4mL「CTNK」（40mg0．4mL1キット）

外 注射 自注 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999472G4023
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アダリムマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】18636円/1kit
【薬価収載日】2023/11/22
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヒト型抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
〇多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
〇関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止含む）
〇尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
〇強直性脊椎炎
〇腸管型ベーチェット病
〇非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
〇中等症・重症の活動期のクローン病の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
〇中等症・重症の潰瘍性大腸炎の治療（既存治療で効果不十分時のみ）
注意
関節リウマチ
1．既存治療で効果不十分な関節リウマチのみ。関節の構造的損傷の進展が早いと予想される患者は，抗リウマチ薬の治療歴がない時でも使用できる。最新のガイドライン等を参照し，使用の必要性を慎重に判断。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
2．最低1種類の既存の全身療法（紫外線療法含む）で効果不十分で，皮疹が体表面積の10%以上に投与。
3．難治性の皮疹，関節症状，膿疱に投与。
強直性脊椎炎
4．過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
5．過去，最低1剤の抗リウマチ薬（生物製剤除く）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。全身型若年性特発性関節炎は，全身症状に対する有効性・安全性が未確立なため，全身症状が安定し，多関節炎が主症状の時に投与。
腸管型ベーチェット病
6．過去，既存治療薬（ステロイド又は免疫調節剤等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
クローン病
7．過去，栄養療法，他の薬物療法（5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。寛解維持投与は漫然と行わず経過観察しながら行う。
潰瘍性大腸炎
8．過去，他の薬物療法（ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。本剤よりも先に他の抗TNF製剤による治療を考慮（国内臨床試験では，主要評価項目の1つである投与8週時の寛解率ではプラセボ群との差は未確認）。
9．維持投与は漫然と行わず経過観察しながら行う。
非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
10．過去，既存治療薬（ベーチェット病によるぶどう膜炎ではシクロスポリン等，その他の非感染性ぶどう膜炎では経口ステロイド剤等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
【用法用量】関節リウマチ
成人 40mg 2週に1回 皮下注。効果不十分時 1回80mgまで。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
成人 初回 80mg 皮下注，以後2週に1回 40mg 皮下注。効果不十分時 1回80mgまで。
強直性脊椎炎
成人 40mg 2週に1回 皮下注。効果不十分時 1回80mgまで。
多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
体重15～30kg未満 20mg 2週に1回 皮下注。
体重30kg以上 40mg 2週に1回 皮下注。
腸管型ベーチェット病
成人 初回 160mg 2週間後 80mg 皮下注。4週間後以降 40mg 2週に1回 皮下注。
クローン病
成人 初回 160mg 2週間後 80mg 皮下注。4週間後以降 40mg 2週に1回 皮下注。効果減弱時 1回80mgまで。
潰瘍性大腸炎
成人 初回 160mg 2週間後 80mg 皮下注。4週間後以降 40mg 2週に1回 皮下注。4週間後以降状態により 40mg 週1回 又は80mg 2週に1回 皮下注。
非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
成人 初回 80mg 1週間後 40mg 皮下注。3週間後以降 40mg 2週に1回 皮下注。
注意
効能共通
1．メトトレキサート等の抗リウマチ薬と併用時 80mg隔週投与への増量はしない。
2．他の生物製剤の併用について有効性・安全性が未確立なので併用を避ける。
関節リウマチ，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
3．アバタセプト（遺伝子組換え）と併用しない。プラセボを対照とした臨床試験（外国）で，抗TNF製剤とアバタセプト（遺伝子組換え）の併用療法は併用による効果の増強はなく，感染症・重篤な感染症の発現率が抗TNF製剤のみの治療での発現率と比べて高かった。
関節リウマチ
4．治療反応は，投与開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
強直性脊椎炎
5．治療反応は，投与開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
6．治療反応は，投与開始から16週以内にあり。16週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
7．治療反応は，投与開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。
腸管型ベーチェット病
8．12週以内に臨床症状や内視鏡所見等の治療反応なければ，継続投与の必要性を再考。
クローン病
9．治療反応は，投与開始から4週以内にあり。4週時点で臨床症状や内視鏡所見等による治療反応なければ，継続投与の必要性を検討し，他の治療法への切りかえを考慮。
80mgへの増量は，40mgによる治療で効果は認められたものの，維持療法中に効果が減弱した患者に行う。80mgに増量しても効果なければ，継続投与の必要性を慎重に再考。
潰瘍性大腸炎

3 代謝性医薬品

10. 治療反応は，投与開始から8週以内にあり。8週時点で臨床症状や内視鏡所見等による改善がなければ，投与中止。

■禁忌

【禁忌】1. 重篤な感染症（敗血症等）。
2. 活動性結核。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 脱髄疾患（多発性硬化症等）・その既往。
5. うっ血性心不全。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症（敗血症（0. 3%），肺炎（2. 6%）等）（細菌，真菌（ニューモシスティス等），ウイルス等の日和見感染），死亡。
2. 結核（0. 3%）（肺外結核（胸膜，リンパ節等），播種性結核含む）。
3. ループス様症候群（0. 1%）。
4. 脱髄疾患（頻度不明）（多発性硬化症，視神経炎，横断性脊髄炎，ギラン・バレー症候群等）。
5. 重篤なアレルギー反応（頻度不明）（アナフィラキシー等）。
6. 重篤な血液障害（頻度不明）（再生不良性貧血含む汎血球減少症，血球減少症（血小板減少症，白血球減少症，顆粒球減少症等））。
7. 間質性肺炎（0. 8%）（肺線維症含む）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
8. 劇症肝炎，肝機能障害（著しいAST，ALT等の上昇），黄疸，肝不全（頻度不明），B型肝炎ウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛 不眠症，回転性眩暈，浮動性眩暈，感覚減退 脳出血，脳梗塞，味覚異常，ラクナ梗塞，神経痛，健忘，筋萎縮性側索硬化症，脳虚血，頚髄症，頭蓋内動脈瘤，頭蓋内圧上昇，片頭痛，腓骨神経麻痺，神経根障害，傾眠，くも膜下出血，振戦，三叉神経痛，迷走神経障害，不安障害，せん妄，摂食障害，神経症，良性神経鞘腫，意識消失，脳炎，錯覚，末梢性ニューロパチー，気分変化，体位性眩暈，うつ病，感情障害，構音障害 気分障害，神経過敏，激越，落ち着きのなさ，神経感覚障害（錯感覚含む），睡眠障害
血液・リンパ 自己抗体陽性（抗DNA抗体陽性，抗核抗体陽性）（14. 7%）貧血，リンパ球数減少，好酸球数増加，白血球百分率数異常（白血球数増加含む）リンパ球形態異常，血小板数増加，リンパ節症，リンパ節炎，脾臓出血，脾臓梗塞，リンパ管炎，リウマトイド因子（RF）増加，血中β－Dーグルカン増加，リンパ球百分率異常（百分率増加含む），単球数異常（百分率増加・減少含む），大小不同赤血球陽性，赤血球連銭形成，赤血球数増加，好中球数増加，血中免疫グロブリンE増加，リンパ球数増加，トロンビン・アンチトロンビンIII複合体増加，血中アミラーゼ増加，血中トリプシン増加 特発性血小板減少性紫斑病（ITP），APTT延長
代謝・栄養 血中トリグリセリド上昇，血中尿酸増加，血中コレステロール上昇，乳酸脱水素酵素（LDH）上昇，体重増加，高血糖，CK上昇，CRP上昇，高脂血症，糖尿病 体重減少，血中リン減少，食欲不振，血中アルブミン減少，総蛋白増加，血中カリウム減少，血中カルシウム減少，血中カルシウム増加，血中クロール減少，血中コレステロール減少，血中ナトリウム減少，血中トリグリセリド減少，CK減少，総蛋白減少，脱水，高カリウム血症，痛風，食欲亢進，肥満，低血糖，血中マグネシウム増加，血中リン増加，グリコヘモグロビン増加
感覚器 結膜炎，眼の異常感 麦粒腫，難聴，中耳炎，耳鳴，眼瞼浮腫，外耳炎，白内障，耳不快感，耳出血，結膜出血，眼脂，乾性角結膜炎，乱視，眼瞼炎，霰粒腫，複視，角膜炎，角膜症，高眼圧症，光視症，網膜変性，網膜静脈閉塞，高血圧性網膜症，強膜出血，強膜炎，真珠腫，緑内障，耳痛，角膜損傷，耳垢栓塞，角膜糜爛，眼出血，硝子体浮遊物，耳感染，聴覚刺激検査異常，流涙増加，霧視，一過性視力低下，網膜出血，眼圧上昇 眼の刺激・炎症，視覚障害，眼球感覚障害，全眼球炎，虹彩炎，耳介腫脹，耳掻痒症
循環器 高血圧 動悸，期外収縮，低血圧，心房細動，狭心症，心弁膜疾患，不整脈，心房頻脈，心不全，心タンポナーデ，心血管障害，冠動脈疾患，心室拡張，左房拡張，フィブリンDダイマー増加，頻脈，血栓性静脈炎，動脈硬化症，出血，ほてり，不安定血圧，末梢動脈瘤，静脈炎，壊死性血管炎，血管拡張，急性心筋梗塞，心電図異常，レイノー現象 心停止，冠動脈不全，心嚢液貯留，血腫，血管閉塞，大動脈狭窄，大動脈瘤
呼吸器 上気道感染（鼻咽頭炎等）（50. 0%），咳嗽 インフルエンザ，鼻炎，鼻漏，鼻閉 慢性気管支炎，喘息，気管支肺炎，喉頭気管気管支炎，インフルエンザ性肺炎，鼻出血，特発性器質化肺炎，発声障害，呼吸困難，中葉症候群，咽頭紅斑，くしゃみ，気管支狭窄，過換気，胸水，胸膜線維症，胸膜炎，気胸，喘鳴，声帯ポリープ，百日咳，喀血，下気道の炎症，肺塞栓症，扁桃肥大 肺水腫，咽頭浮腫
消化器 下痢，腹痛，歯周病，便秘，悪心，口内炎，腸炎，齲歯，嘔吐，胃炎，口唇炎，腹部膨満，口腔ヘルペス イレウス，胃不快感，ウイルス性胃腸炎，痔核，食道炎，歯痛（歯知覚過敏含む），胃潰瘍，口腔カンジダ症，口内乾燥，消化不良，歯肉腫脹，腹部不快感，腹部腫瘤，痔瘻，結腸ポリープ，腸憩室，十二指腸潰瘍，十二指腸炎，心窩部不快感，胃ポリープ，消化管アミロイドーシス，胃腸出血，歯肉形成不全，歯肉痛，舌痛，口の感覚鈍麻，過敏性腸症候群，食道潰瘍，腹膜炎，肛門周囲痛，顎下腺腫大，舌苔，歯の脱落，食道静脈瘤，腹部膿瘍，胃腸感染，ヘリコバクター感染，耳下腺炎，歯膿瘍，歯感染，血便，便通不規則，歯不快感，口唇乾燥，耳下腺腫大，舌腫脹，歯の障害，カンピロバクター腸感染，肛門周囲膿瘍，歯髄炎，膵臓の良性新生物，腸管穿孔，肛門性器疣贅，肛門狭窄，横隔膜下膿瘍，瘢痕ヘルニア，鼠径ヘルニア，胃酸過多，膵腫大，急性膵炎，直腸腺腫，胃腸異形成，口唇痛，唾液腺炎 憩室炎，口腔内潰瘍形成，直腸出血，大腸炎，小腸炎
肝臓 肝酵素上昇 脂肪肝，血中ビリルビン増加 胆石症，アルコール性肝疾患，原発性胆汁性肝硬変，胆嚢ポリープ，肝臓うっ血，肝機能検査値異常，AIーP減少，胆嚢炎，胆管炎 肝壊死，肝炎，B型肝炎の再燃
皮膚 発疹，掻痒症，湿疹 白癬感染，紅斑，蕁麻疹，毛包炎，皮膚炎（接触性皮膚炎，アレルギー性皮膚炎含む），皮膚乳頭腫，帯状疱疹，ざ瘡 皮膚真菌感染，爪囲炎，皮下出血，脱毛症，皮膚潰瘍，皮膚乾燥，過角化，皮下組織膿瘍，紫斑，感染性表皮嚢胞，伝染性軟属腫，皮膚細菌感染，手足口病，膿痂疹，膿皮症，挫傷，結核菌皮膚テスト陽性，メラノサイト性母斑，脂漏性角化症，脂肪腫，黄色腫，紅色汗疹，ヘノッホ・シェンライン紫斑病，膿疱性乾癬，多汗症，嵌入爪，乾癬，水疱，褥瘡性潰瘍，皮膚嚢腫，発汗障害，皮膚疼痛，光線過敏性反応，脂漏，皮膚糜爛，皮膚剥脱，皮膚硬結，顔面腫脹，乾皮症，黄色爪症候群，せつ，冷汗，面皰，皮膚エリテマトーデス，痂皮，皮膚小結節，肉芽腫，肥厚性瘢痕，多形紅斑，爪の障害，口唇色素沈着，禿瘡 血管浮腫，斑状出血，脂肪織炎，血管神経性浮腫，皮膚血管炎，苔癬様皮膚反応
筋骨格系 背部痛，関節痛 骨折，四肢痛，筋痛，骨粗鬆症，滑液嚢腫，腱断裂，骨密度減少，筋骨格硬直，変形性脊椎炎，関節破壊，筋骨格系胸痛，筋骨格痛，環軸椎不安定，鼡径部腫瘤，椎間板突出，関節腫脹，四肢不快感，腰部脊柱管狭窄，筋痙縮，筋力低下，頚部痛，骨関節炎，肩回旋筋腱板症候群，筋肉減少症，関節炎，関節障害，四肢の結節，脊椎すべり症，臀部痛，椎間板変性症，関節周囲炎，肩痛，椎間板炎，関節捻挫，頚部腫瘤，筋炎，手根管症候群，滑液包炎，ミオパシー，骨壊死 横紋筋融解症
内分泌系 甲状腺腫，甲状腺機能亢進症，血中ヒト絨毛性ゴナドトロピン増加，甲状腺機能低下症，副腎腺腫，クッシング様症状 甲状腺障害
泌尿器・生殖器 血尿，膀胱炎，女性生殖器系感染，蛋白尿，尿沈渣陽性 血中尿素増加，尿中白血球エステラーゼ陽性，尿中ブドウ糖陽性，尿中ケトン体陽性，尿中細菌検出，夜間頻尿，不正子宮出血，腎・尿路結石，腎膿瘍，血中クレアチニン増加，子宮平滑筋腫，腎機能障害，頻尿，慢性腎不全，水腎症，腎梗塞，腺筋症，性器出血，月経過多，前立腺炎，陰部掻痒症，膣分泌物，尿pH上昇，陰嚢水瘤，尖圭コンジローマ，淋疾，尿道炎，尿中結晶陽性，排尿困難，尿意切迫，腎血管障害，良性前立腺肥大症，精巣上体炎，膣腫脹，前立腺特異性抗原増加，緊張性膀胱，無月経，不規則月経，閉経期症状 膀胱・尿道症状，腎臓痛，月経周期障害
全身症状 発熱 倦怠感，浮腫，胸痛，季節性アレルギー，単純ヘルペス感染 異常感，胸部不快感，ウイルス感染，悪寒，冷感，化膿，口渇，疲労，腫瘤，顔面浮腫，熱感，低体温，治癒不良，異物感，潰瘍，食物アレルギー，抗酸性桿菌感染，クリプトコッカス症，感染，転倒，背部損傷，創腐敗，CT異常，胸部X線異常，免疫学的検査異常，全身性エリテマトーデス，線維腺腫，乳房の良性新生物，乳房痛，乳頭痛，側腹部痛，真菌感染，腋窩痛，細菌感染，疼痛，圧迫感，腫脹，金属アレルギー，大腸菌感染，無力症，成長遅延 インフルエンザ様疾患，サルコイドーシス
投与部位 注射部位反応（紅斑，掻痒感，発疹，出血，腫脹，硬結等）（23. 7%）
（表終了）

アダリムマブBS皮下注80mgペン0. 8mL「CTNK」（80mg0. 8mL1キット）

外 注射 自注 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999472G5020
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アダリムマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）日本化薬
【薬価】39302円/1kit
【薬価収載日】2023/11/22
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヒト型抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止含む）
既存治療で効果不十分な下記
〇尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
〇強直性脊椎炎
〇腸管型ベーチェット病
〇非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
〇中等症・重症の活動期のクローン病の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
〇中等症・重症の潰瘍性大腸炎の治療（既存治療で効果不十分時のみ）
注意
関節リウマチ
1. 既存治療で効果不十分な関節リウマチのみ。関節の構造的損傷の進展が早いと予想される患者は，抗リウマチ薬の治療歴がない時でも使用できる。最新のガイドライン等を参照し，使用の必要性を慎重に判断。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
2. 最低1種類の既存全身療法（紫外線療法含む）で効果不十分，皮疹が体表面積の10%以上に投与。
3. 難治性の皮疹，関節症状，膿疱に投与。
強直性脊椎炎
4. 過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）による治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
腸管型ベーチェット病
6. 過去，既存治療薬（ステロイド又は免疫調節剤等）の治療を行って

3 代謝性医薬品

も，疾患による臨床症状が残る時に投与。
クローン病
7. 過去，栄養療法，他の薬物療法（5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。寛解維持投与は漫然と行わず経過観察しながら行う。
潰瘍性大腸炎
8. 過去，他の薬物療法（ステロイド，アザチオプリン等）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。本剤よりも先に他の抗TNF製剤による治療を考慮（国内臨床試験では，主要評価項目の1つである投与8週時の寛解率ではプラセボ群との差は未確認）。
9. 維持投与は漫然と行わず経過観察しながら行う。
非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
10. 過去，既存治療薬（ベーチェット病によるぶどう膜炎ではシクロスポリン等，その他の非感染性ぶどう膜炎では経口ステロイド剤等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
【用法用量】関節リウマチ
成人　40mg　2週に1回　皮下注。効果不十分時　1回80mgまで。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
成人　初回　80mg　皮下注，以後2週に1回　40mg　皮下注。効果不十分時　1回80mgまで。
強直性脊椎炎
成人　40mg　2週に1回　皮下注。効果不十分時　1回80mgまで。
腸管型ベーチェット病
成人　初回　160mg　2週間後　80mg　皮下注。4週間後以降　40mg　2週に1回　皮下注。
クローン病
成人　初回　160mg　2週間後　80mg　皮下注。4週間後以降　40mg　2週に1回　皮下注。効果減弱時　1回80mgまで。
潰瘍性大腸炎
成人　初回　160mg　2週間後　80mg　皮下注。4週間後以降　40mg　2週に1回　皮下注。4週間後以降状態により　40mg　週1回　又は80mg　2週に1回　皮下注。
非感染性の中間部，後部・汎ぶどう膜炎
成人　初回　80mg　1週間後　40mg　皮下注。3週間後以降　40mg　2週に1回　皮下注。
注意
効能共通
1. メトトレキサート等の抗リウマチ薬と併用時 80mg隔週投与への増量はしない。
2. 他の生物製剤の併用について有効性・安全性が未確立なので併用を避ける。
関節リウマチ，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
3. アバタセプト（遺伝子組換え）と併用しない。プラセボを対照とした臨床試験（外国）で，抗TNF製剤とアバタセプト（遺伝子組換え）の併用療法は併用による効果の増強はなく，感染症・重篤な感染症の発現率が抗TNF製剤のみの治療での発現率と比べて高かった。
関節リウマチ
4. 治療反応は，投与開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
強直性脊椎炎
5. 治療反応は，投与開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬
6. 治療反応は，投与開始から16週以内にあり。16週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を再考。増量を行っても効果なければ，治療計画の継続を再考。
腸管型ベーチェット病
8. 12週以内に臨床症状や内視鏡所見等の治療反応なければ，継続投与の必要性を再考。
クローン病
9. 治療反応は，投与開始から4週以内にあり。4週時点で臨床症状や内視鏡所見等による治療反応なければ，継続投与の必要性を検討し，他の治療法への切りかえを考慮。
80mgへの増量は，40mgによる治療で効果は認められたものの，維持療法中に効果が減弱した患者に行う。80mgに増量しても効果なければ，継続投与の必要性を慎重に再考。
潰瘍性大腸炎
10. 治療反応は，投与開始から8週以内にあり。8週時点で臨床症状や内視鏡所見等による改善がなければ，投与中止。

■禁忌

【禁忌】1. 重篤な感染症（敗血症等）。
2. 活動性結核。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 脱髄疾患（多発性硬化症等）・その既往。
5. うっ血性心不全。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症（敗血症（0. 3%），肺炎（2. 6%）等）（細菌，真菌（ニューモシスティス等），ウイルス等の日和見感染），死亡。
2. 結核（0. 3%）（肺外結核（胸膜，リンパ節等），播種性結核含む）。
3. ループス様症候群（0. 1%）。
4. 脱髄疾患（頻度不明）（多発性硬化症，視神経炎，横断性脊髄炎，ギラン・バレー症候群等）。
5. 重篤なアレルギー反応（頻度不明）（アナフィラキシー等）。
6. 重篤な血液障害（頻度不明）（再生不良性貧血含む汎血球減少症，血球減少症（血小板減少症，白血球減少症，顆粒球減少症等））。
7. 間質性肺炎（0. 8%）（肺線維症含む）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
8. 劇症肝炎，肝機能障害（著しいAST，ALT等の上昇），黄疸，肝不全（頻度不明），B型肝炎ウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛 不眠症，回転性眩暈，浮動性眩暈，感覚減退 脳出血，脳梗塞，味覚異常，ラクナ梗塞，神経痛，健忘，筋萎縮性側索硬化症，脳虚血，頚髄症，頭蓋内動脈瘤，頭蓋内圧上昇，片頭痛，腓骨神経麻痺，神経根障害，傾眠，くも膜下出血，振戦，三叉神経痛，迷走神経障害，不安障害，せん妄，摂食障害，神経症，良性神経鞘腫，意識消失，脳炎，錯覚，末梢性ニューロパチー，気分変化，体位性眩暈，うつ病，感情障害，構音障害 気分障害，神経過敏，激越，落ち着きのなさ，神経感覚障害（錯感覚含む），睡眠障害
血液・リンパ 自己抗体陽性（抗DNA抗体陽性，抗核抗体陽性）（14. 7%）貧血，リンパ球数減少，好酸球数増加，白血球百分率数異常（白血球数増加含む）リンパ球形態異常，血小板数増加，リンパ節症，リンパ節炎，脾臓出血，脾臓梗塞，リンパ管炎，リウマトイド因子（RF）増加，血中β－Dーグルカン増加，リンパ球百分率異常（百分率増加含む），単球数異常（百分率増加・減少含む），大小不同赤血球陽性，赤血球連銭形成，赤血球数増加，好中球数増加，血中免疫グロブリンE増加，リンパ球数増加，トロンビン・アンチトロンビンIII複合体増加，血中アミラーゼ増加，血中トリプシン増加 特発性血小板減少性紫斑病（ITP），APTT延長
代謝・栄養　血中トリグリセリド上昇，血中尿酸増加，血中コレステロール上昇，乳酸脱水素酵素（LDH）上昇，体重増加，高血糖，CK上昇，CRP上昇，高脂血症，糖尿病 体重減少，血中リン減少，食欲不振，血中アルブミン減少，総蛋白増加，血中カリウム減少，血中カルシウム減少，血中カルシウム増加，血中クロール減少，血中コレステロール減少，血中ナトリウム減少，血中トリグリセリド減少，CK減少，総蛋白減少，脱水，高カリウム血症，痛風，食欲亢進，肥満，低血糖，血中マグネシウム増加，血中リン増加，グリコヘモグロビン増加
感覚器　結膜炎，眼の異常感 麦粒腫，難聴，中耳炎，耳鳴，眼瞼浮腫，外耳炎，白内障，耳不快感，耳出血，結膜出血，眼脂，乾性角結膜炎，乱視，眼瞼炎，霰粒腫，複視，角膜炎，角膜症，高眼圧症，光視症，網膜変性，網膜静脈閉塞，高血圧性網膜症，強膜出血，強膜炎，真珠腫，緑内障，耳痛，角膜損傷，耳垢栓塞，角膜糜爛，眼出血，硝子体浮遊物，耳感染，聴覚刺激検査異常，流涙増加，霧視，一過性視力低下，網膜出血，眼圧上昇 眼の刺激・炎症，視覚障害，眼球感覚障害，全眼球炎，虹彩炎，耳介腫脹，耳掻痒症
循環器　高血圧 動悸，期外収縮，低血圧，心房細動，狭心症，心弁膜疾患，不整脈，心房頻脈，心不全，心タンポナーデ，心血管障害，冠動脈疾患，心室拡張，左房拡張，フィブリンDダイマー増加，頻脈，血栓性静脈炎，動脈硬化症，出血，ほてり，不安定血圧，末梢動脈瘤，静脈炎，壊死性血管炎，血管拡張，急性心筋梗塞，心電図異常，レイノー現象 心停止，冠動脈不全，心嚢液貯留，血腫，血管閉塞，大動脈狭窄，大動脈瘤
呼吸器 上気道感染（鼻咽頭炎等）（50. 0%），咳嗽 インフルエンザ，鼻炎，鼻漏，鼻閉 慢性気管支炎，喘息，気管支肺炎，喉頭気管気管支炎，インフルエンザ性肺炎，鼻出血，特発性器質化肺炎，発声障害，呼吸困難，中葉症候群，咽頭紅斑，くしゃみ，気管支狭窄，過換気，胸水，胸膜線維症，胸膜炎，気胸，喘鳴，声帯ポリープ，百日咳，喀血，下気道の炎症，肺塞栓症，扁桃肥大 肺水腫，咽頭浮腫
消化器　下痢，腹痛，歯周病，便秘，悪心，口内炎，腸炎，齲歯，嘔吐，胃炎，口唇炎，腹部膨満，口腔ヘルペス イレウス，胃不快感，ウイルス性胃腸炎，痔核，食道炎，歯痛（歯知覚過敏含む），胃潰瘍，口腔カンジダ症，口内乾燥，消化不良，歯肉腫脹，腹部不快感，腹部腫瘤，痔瘻，結腸ポリープ，腸憩室，十二指腸潰瘍，十二指腸炎，心窩部不快感，胃ポリープ，消化管アミロイドーシス，胃腸出血，歯肉形成不全，歯肉痛，舌痛，口の感覚鈍麻，過敏性腸症候群，食道潰瘍，腹膜炎，肛門周囲痛，顎下腺腫大，舌苔，歯の脱落，食道静脈瘤，腹部膿瘍，胃腸感染，ヘリコバクター感染，耳下腺炎，歯膿瘍，歯感染，血便，便通不規則，歯不快感，口唇乾燥，耳下腺腫大，舌腫脹，歯の障害，カンピロバクター腸感染，肛門周囲膿瘍，歯髄炎，膵臓の良性新生物，腸管穿孔，肛門性器疣贅，肛門狭窄，横隔膜下膿瘍，瘢痕ヘルニア，鼡径ヘルニア，胃酸過多，膵腫大，急性膵炎，直腸腺腫，胃腸異形成，口唇痛，唾液腺炎 憩室炎，口腔内潰瘍形成，直腸出血，大腸炎，小腸炎
肝臓 肝酵素上昇 脂肪肝，血中ビリルビン増加 胆石症，アルコール性肝疾患，原発性胆汁性肝硬変，胆嚢ポリープ，肝臓うっ血，肝機能検査値異常，AIーP減少，胆嚢炎，胆管炎 肝壊死，肝炎，B型肝炎の再燃
皮膚 発疹，掻痒症，湿疹 白癬感染，紅斑，蕁麻疹，毛包炎，皮膚炎（接触性皮膚炎，アレルギー性皮膚炎含む），皮膚乳頭腫，帯状疱疹，ざ瘡 皮膚真菌感染，爪囲炎，皮下出血，脱毛症，皮膚潰瘍，皮膚乾燥，過角化，皮下組織膿瘍，紫斑，感染性表皮嚢胞，伝染性軟属腫，皮膚細菌感染，手足口病，膿痂疹，膿皮症，挫傷，結核菌皮膚テスト陽性，メラノサイト性母斑，脂漏性角化症，脂肪腫，黄色腫，紅色汗疹，ヘノッホ・シェンライン紫斑病，膿疱性乾癬，多汗症，嵌入爪，乾癬，水疱，褥瘡性潰瘍，皮膚嚢腫，発汗障害，皮膚疼痛，光線過敏性反応，脂漏，皮膚糜爛，皮膚剥脱，皮膚硬結，顔面腫脹，乾皮症，黄色爪症候群，せつ，冷汗，面皰，皮膚エリテマトーデス，痂皮，皮膚小結節，肉芽腫，肥厚性瘢痕，多形紅斑，爪の障害，口唇色素沈着，禿瘡 血管浮腫，斑状出血，脂肪織炎，血管神経性浮腫，皮膚血管炎，苔癬様皮膚反応
筋骨格系　背部痛，関節痛 骨折，四肢痛，筋痛，骨粗鬆症，滑液嚢腫，腱断裂，骨密度減少，筋骨格硬直，変形性脊椎炎，関節破壊，筋骨格系胸痛，筋骨格痛，環軸椎不安定，鼡径部腫瘤，椎間板突出，関節腫脹，四肢不快感，腰部脊柱管狭窄，筋痙縮，筋力低下，頚部痛，骨関節炎，肩回旋筋腱板症候群，筋肉減少症，関節炎，関節障害，四肢の結節，脊椎すべり症，臀部痛，椎間板変性症，関節周囲炎，肩痛，

アダリムマブBS皮下注80mgペン0. 8mL「CTNK」

3 代謝性医薬品

椎間板炎，関節捻挫，頚部腫瘤，筋炎，手根管症候群，滑液包炎，ミオパシー，骨壊死 横紋筋融解症
内分泌系　甲状腺腫，甲状腺機能亢進症，血中ヒト絨毛性ゴナドトロピン増加，甲状腺機能低下症，副腎腺腫，クッシング様症状 甲状腺障害
泌尿器・生殖器　血尿，膀胱炎，女性生殖器系感染，蛋白尿，尿沈渣陽性 血中尿素増加，尿中白血球エステラーゼ陽性，尿中ブドウ糖陽性，尿中ケトン体陽性，尿中細菌検出，夜間頻尿，不正子宮出血，腎・尿路結石，腎膿瘍，血中クレアチニン増加，子宮平滑筋腫，腎機能障害，頻尿，慢性腎不全，水腎症，腎梗塞，腺筋症，性器出血，月経過多，前立腺炎，陰部掻痒症，膣分泌物，尿pH上昇，陰嚢水瘤，尖圭コンジローマ，淋疾，尿道炎，尿中結晶陽性，排尿困難，尿意切迫，腎血管障害，良性前立腺肥大症，精巣上体炎，膣腫脹，前立腺特異性抗原増加，緊張性膀胱，無月経，不規則月経，閉経期症状 膀胱・尿道症状，腎臓痛，月経周期障害
全身症状 発熱 倦怠感，浮腫，胸痛，季節性アレルギー，単純ヘルペス感染 異常感，胸部不快感，ウイルス感染，悪寒，冷感，化膿，口渇，疲労，腫瘤，顔面浮腫，熱感，低体温，治癒不良，異物感，潰瘍，食物アレルギー，抗酸性桿菌感染，クリプトコッカス症，感染，転倒，背部損傷，創腐敗，CT異常，胸部X線異常，免疫学的検査異常，全身性エリテマトーデス，線維腺腫，乳房の良性新生物，乳房痛，乳頭痛，側腹部痛，真菌感染，腋窩痛，細菌感染，疼痛，圧迫感，腫脹，金属アレルギー，大腸菌感染，無力症，成長遅延 インフルエンザ様疾患，サルコイドーシス
投与部位 注射部位反応（紅斑，掻痒感，発疹，出血，腫脹，硬結等）（23．7%）
（表終了）

エタネルセプトBS皮下注25mgシリンジ0．5mL「MA」（25mg0．5mL1筒）

外　注射　自注　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】3999448G1020
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エタネルセプト（遺伝子組換え）
【メーカー】製）持田製薬　販）あゆみ製薬
【薬価】6234円/1筒
【薬価収載日】2018/05/30
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】完全ヒト型可溶性TNFα／LTαレセプター製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止含む）
注意
過去，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬等による治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
【用法用量】成人　1回10～25mg　1日1回　週2回，又は1回25～50mg　1日1回　週1回　皮下注。
注意
1．週2回投与時は，投与間隔を3～4日間隔とする。
2．アバタセプト（遺伝子組換え）と併用しない。プラセボを対照とした臨床試験（外国）で，抗TNF製剤とアバタセプト（遺伝子組換え）の併用療法は併用による効果の増強はなく，感染症・重篤な感染症の発現率が抗TNF製剤のみの治療での発現率と比べて高かった。他の生物製剤の併用について安全性・有効性は未確立なので併用を避ける。

■禁忌

【禁忌】1．敗血症・そのリスク。
2．重篤な感染症。
3．活動性結核。
4．本剤の成分に過敏症の既往。
5．脱髄疾患（多発性硬化症等）・その既往。
6．うっ血性心不全。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な感染症（敗血症（0．2%），肺炎（ニューモシスチス肺炎含む）（1．5%），真菌感染症（0．2%）等の日和見感染症（2．5%）），死亡。
2．結核（0．1%未満），肺外結核（胸膜，リンパ節等）。
3．重篤なアレルギー反応（0．5%）（血管浮腫，アナフィラキシー，気管支痙攣，蕁麻疹等）。
4．重篤な血液障害（0．8%）（再生不良性貧血，汎血球減少，白血球減少，好中球減少，血小板減少，貧血，血球貪食症候群）。
5．脱髄疾患（頻度不明）（多発性硬化症，視神経炎，横断性脊髄炎，ギラン・バレー症候群等）。
6．間質性肺炎（0．7%）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
7．抗dsDNA抗体の陽性化を伴うループス様症候群（0．1%未満）（関節痛，筋肉痛，皮疹等）。
8．肝機能障害（3．1%）（AST，ALT等の上昇）。
9．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満），多形紅斑（0．1%未満）。
10．抗好中球細胞質抗体陽性血管炎（頻度不明）。
11．急性腎障害（0．1%），ネフローゼ症候群（0．1%未満）。
12．心不全（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

発現部位等	1%以上	0．1～1%未満	0．1%未満	頻度不明
呼吸器	感冒，上気道感染，気管支炎	咳嗽，咽頭炎，鼻炎，副鼻腔炎，鼻漏，扁桃炎	胸水，喘息，喀痰，嗄声，鼻閉，血痰，気管狭窄，気管支拡張症，気管支肺異形成症，肺嚢胞	
皮膚	発疹（湿疹，皮膚炎，紅斑等），掻痒症	蕁麻疹，白癬，脱毛，爪囲炎	膿痂疹，皮膚乾燥，爪感染，爪の異常，胼胝，光線過敏症，膿疱性乾癬，乾癬（悪化含む），凍瘡，化膿性汗腺炎，色素性母斑	乾癬様皮疹
消化器	胃腸炎，下痢・軟便，口内炎，腹痛，咽喉頭疼痛，悪心，嘔吐，便秘，歯周炎，食欲不振，歯肉炎，齲歯，胃部不快感，消化性潰瘍	咽頭不快感，口唇炎（口角炎等），腹部膨満，歯痛，歯髄炎，口腔感染，歯の知覚過敏，歯肉腫脹，舌苔，膵炎		
投与部位	注射部位反応（紅斑，出血斑，掻痒感，皮膚炎，疼痛，挫傷等）			
泌尿器	尿路感染（膀胱炎等），腎盂腎炎，BUN増加，尿沈渣，血尿	蛋白尿，クレアチニン上昇，頻尿，尿糖，残尿感，腎結石	糸球体腎炎	
精神神経系	頭痛，浮動性眩暈，感覚減退（しびれ感等），不眠	錯感覚（ピリピリ感等），眠気，味覚異常，手根管症候群，不安，嗅覚異常，四肢異常感覚		
肝臓	ALT上昇，AST上昇，Al－P上昇，LDH上昇			
循環器	高血圧，血圧上昇，動悸，潮紅	期外収縮，頻脈，血管炎（白血球破砕性血管炎，IgA血管炎等）		
血液	白血球増加，貧血（鉄欠乏性含む），ヘモグロビン減少	好酸球増加，ヘマトクリット減少，赤血球減少，血小板増加，リンパ球増加，血沈亢進，好中球増加，赤血球形態異常，白血球分画異常，網状赤血球増加		
眼	結膜炎，麦粒腫	ブドウ膜炎，白内障，結膜充血，角膜潰瘍，眼精疲労，眼乾燥，眼のちらつき，眼痛，強膜炎，眼の異常感		
筋・骨格系	化膿性関節炎，疼痛（四肢，腰，背部，臀部等）	関節痛，筋痛，ループス様症候群，滑膜炎，肩こり，靭帯障害，関節脱臼，脊椎症		
抵抗機構	帯状疱疹，インフルエンザ，蜂巣炎，膿瘍	創傷感染，化膿性リンパ節炎，サルコイドーシス		
生殖器	月経不順，乳腺炎			
その他	発熱	倦怠感，浮腫（局所性含む），出血，胸痛，中耳炎，胸部X線異常	コレステロール上昇，胸部不快感，疲労，脱力感，アルブミン減少，口渇，自己抗体陽性，難聴，気分不良，CRP増加，体重減少，痙攣，外耳炎，四肢不快感，総蛋白増加，脱水，耳下腺腫脹，総蛋白減少	

（表終了）

エベレンゾ錠100mg（100mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】3999047F3020
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ロキサデュスタット
【メーカー】製）アステラス製薬
【薬価】1341.3円/1T
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，腹膜透析・保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人　開始量　1回50mg　週3回　内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人　開始量　1回70mg又は100mg　週3回　内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
注意
1．赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
（表開始）

エリスロポエチン製剤（IU／週）	ダルベポエチンアルファ（μg／週）	エポエチンベータペゴル（μg／4週）	本剤（mg／回）
4500未満	20未満	100以下	70
4500以上	20以上	100超	100

（表終了）
2．投与量調整
用量調整が必要時は，下表[投与量増減表]，[投与量調整表]を参考に投与量を増減。用量調整時は，最低4週間は同一量を維持。増量後4週以内にヘモグロビン濃度が急激に上昇（2g／dLを超える）時，速やかに減量・休薬。
[投与量増減表]
（表開始）

4週前から当該週までのHb値変化量	当該週のHb値	当該週のHb値	当該週のHb値
4週前から当該週までのHb値変化量	10．5g／dL未満	10．5～11．5g／dL以下	11．5～12．5g／dL以下	12．5g／dLを超える
	－1g／dL未満	1段階増量	1段階増量	変更なし	休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
	－1～1g／dL以下	1段階増量	変更なし	1段階減量	休薬し，Hb値が

3 代謝性医薬品

11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
1～2g／dL以下 変更なし 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
2g／dLを超える 1段階減量 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
（表終了）
[投与量調整表]
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量（mg）（注） 20 40 50 70 100 120 150 200
（表終了）
（注）1回量は3mg／kgまで。また，200mgを超える時は，50mgずつ増量。
3. 週3回投与
2～3日に1回（例 月・水・金，又は火・木・土等）で週3回投与。
4. 本剤の服用を忘れた時
次の定日の服用時間帯と24時間以上間隔があく時は，直ちに服用。以後は定日に服用。次の定日の服用時間帯との間隔が24時間未満の時は服用せず，次の定日に服用。同日に2回分を服用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓塞栓症（2. 3%）（脳梗塞（0. 5%），急性心筋梗塞（0. 1%），肺塞栓症（0. 1%），シャント閉塞（0. 8%）等）。
2. 痙攣発作（頻度不明）。
3. 中枢性甲状腺機能低下症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
心臓障害 うっ血性心不全，動悸
内分泌障害 甲状腺機能低下症
眼障害 網膜出血
胃腸障害 嘔吐，下痢，便秘 悪心，腹部不快感 腹痛，消化不良，胃障害
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫，末梢性浮腫，倦怠感
感染症・寄生虫症 結膜炎
傷害，中毒，処置合併症 シャント狭窄
臨床検査 リパーゼ増加 ALT増加，CK増加 TSH減少，遊離T3減少，遊離T4減少，血中ビリルビン増加
代謝・栄養障害 高カリウム血症，高リン酸塩血症，鉄欠乏，食欲減退，低アルブミン血症
神経系障害 浮動性眩暈
精神障害 不眠症
生殖系・乳房障害 女性化乳房
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽，間質性肺疾患
皮膚・皮下組織障害 掻痒症 全身性剥脱性皮膚炎
血管障害 高血圧
その他 医療機器内血栓
（表終了）

エベレンゾ錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999047F1028
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ロキサデュスタット
【メーカー】製）アステラス製薬
【薬価】360.1円/1T
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，腹膜透析・保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 1回50mg 週3回 内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 1回70mg又は100mg 週3回 内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
注意
1. 赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
（表開始）
エリスロポエチン製剤（IU／週） ダルベポエチンアルファ（μg／週） エポエチンベータペゴル（μg／4週） 本剤（mg／回）
4500未満 20未満 100以下 70
4500以上 20以上 100超 100
（表終了）
2. 投与量調整
用量調整が必要時は，下表[投与量増減表]，[投与量調整表]を参考に投与量を増減。用量調整時は，最低4週間は同一量を維持。増量後4週以内にヘモグロビン濃度が急激に上昇（2g／dLを超える）時，速やかに減量・休薬。
[投与量増減表]
（表開始）
4週前から当該週までのHb値変化量 当該週のHb値 当該週のHb値 当該週のHb値 当該週のHb値
4週前から当該週までのHb値変化量 10. 5g／dL未満 10. 5～11. 5g／dL以下 11. 5～12. 5g／dL以下 12. 5g／dLを超える
－1g／dL未満 1段階増量 1段階増量 変更なし 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
－1～1g／dL以下 1段階増量 変更なし 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
1～2g／dL以下 変更なし 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
2g／dLを超える 1段階減量 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
（表終了）
[投与量調整表]
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量（mg）（注） 20 40 50 70 100 120 150 200
（表終了）
（注）1回量は3mg／kgまで。また，200mgを超える時は，50mgずつ増量。
3. 週3回投与
2～3日に1回（例 月・水・金，又は火・木・土等）で週3回投与。
4. 本剤の服用を忘れた時
次の定日の服用時間帯と24時間以上間隔があく時は，直ちに服用。以後は定日に服用。次の定日の服用時間帯との間隔が24時間未満の時は服用せず，次の定日に服用。同日に2回分を服用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓塞栓症（2. 3%）（脳梗塞（0. 5%），急性心筋梗塞（0. 1%），肺塞栓症（0. 1%），シャント閉塞（0. 8%）等）。
2. 痙攣発作（頻度不明）。
3. 中枢性甲状腺機能低下症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
心臓障害 うっ血性心不全，動悸
内分泌障害 甲状腺機能低下症
眼障害 網膜出血
胃腸障害 嘔吐，下痢，便秘 悪心，腹部不快感 腹痛，消化不良，胃障害
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫，末梢性浮腫，倦怠感
感染症・寄生虫症 結膜炎
傷害，中毒，処置合併症 シャント狭窄
臨床検査 リパーゼ増加 ALT増加，CK増加 TSH減少，遊離T3減少，遊離T4減少，血中ビリルビン増加
代謝・栄養障害 高カリウム血症，高リン酸塩血症，鉄欠乏，食欲減退，低アルブミン血症
神経系障害 浮動性眩暈
精神障害 不眠症
生殖系・乳房障害 女性化乳房
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽，間質性肺疾患
皮膚・皮下組織障害 掻痒症 全身性剥脱性皮膚炎
血管障害 高血圧
その他 医療機器内血栓
（表終了）

エベレンゾ錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999047F2024
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ロキサデュスタット
【メーカー】製）アステラス製薬
【薬価】743.9円/1T
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，腹膜透析・保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。

3 代謝性医薬品

【用法用量】赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 1回50mg 週3回 内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 1回70mg又は100mg 週3回 内服。以後，適宜増減，1回3mg／kgまで。
注意
1．赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
（表開始）
エリスロポエチン製剤（IU／週） ダルベポエチンアルファ（μg／週） エポエチンベータペゴル（μg／4週） 本剤（mg／回）
4500未満 20未満 100以下 70
4500以上 20以上 100超 100
（表終了）
2．投与量調整
用量調整が必要時は，下表[投与量増減表]，[投与量調整表]を参考に投与量を増減。用量調整時は，最低4週間は同一量を維持。増量後4週以内にヘモグロビン濃度が急激に上昇（2g／dLを超える）時，速やかに減量・休薬。
[投与量増減表]
（表開始）
4週前から当該週までのHb値変化量 当該週のHb値 当該週のHb値 当該週のHb値 当該週のHb値
4週前から当該週までのHb値変化量 10．5g／dL未満 10．5～11．5g／dL以下 11．5～12．5g／dL以下 12．5g／dLを超える
－1g／dL未満 1段階増量 1段階増量 変更なし 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
－1～1g／dL以下 1段階増量 変更なし 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
1～2g／dL以下 変更なし 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
2g／dLを超える 1段階減量 1段階減量 1段階減量 休薬し，Hb値が11g／dL未満になった時から1段階減量して再開
（表終了）
[投与量調整表]
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量（mg）（注） 20 40 50 70 100 120 150 200
（表終了）
（注）1回量は3mg／kgまで。また，200mgを超える時は，50mgずつ増量。
3．週3回投与
2～3日に1回（例 月・水・金，又は火・木・土等）で週3回投与。
4．本剤の服用を忘れた時
次の定日の服用時間帯と24時間以上間隔があく時は，直ちに服用。以後は定日に服用。次の定日の服用時間帯との間隔が24時間未満の時は服用せず，次の定日に服用。同日に2回分を服用しない。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（2．3%）（脳梗塞（0．5%），急性心筋梗塞（0．1%），肺塞栓症（0．1%），シャント閉塞（0．8%）等）。
2．痙攣発作（頻度不明）。
3．中枢性甲状腺機能低下症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
心臓障害 うっ血性心不全，動悸
内分泌障害 甲状腺機能低下症
眼障害 網膜出血
胃腸障害 嘔吐，下痢，便秘 悪心，腹部不快感 腹痛，消化不良，胃障害
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫，末梢性浮腫，倦怠感
感染症・寄生虫症 結膜炎
傷害，中毒，処置合併症 シャント狭窄
臨床検査 リパーゼ増加 ALT増加，CK増加 TSH減少，遊離T3減少，遊離T4減少，血中ビリルビン増加
代謝・栄養障害 高カリウム血症，高リン酸塩血症，鉄欠乏，食欲減退，低アルブミン血症
神経系障害 浮動性眩暈
精神障害 不眠症
生殖系・乳房障害 女性化乳房
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽，間質性肺疾患
皮膚・皮下組織障害 掻痒症 全身性剥脱性皮膚炎
血管障害 高血圧
その他 医療機器内血栓
（表終了）

エルカルチンFF錠250mg（250mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】3999033F2022
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】レボカルニチン
【メーカー】(製)大塚製薬
【薬価】160.3円/1T
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】レボカルニチン製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】カルニチン欠乏症
注意
1．臨床症状・検査所見からカルニチン欠乏症と診断時，カルニチン欠乏症発症の可能性が高い時のみ投与。
2．カルニチンの欠乏状態の検査に加え，カルニチン欠乏の原因となる原疾患を特定。
【用法用量】成人 1日1．5～3g 1日3回 分割 内服。適宜増減。
小児 1日25～100mg／kg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
注意
1．低用量から開始し，臨床症状・副作用の程度・定期的な臨床検査，バイタルサイン，カルニチンの欠乏状態等から投与量を総合的に判断。増量時は，漫然と投与継続しない。
2．血液透析患者 高用量を長期間投与は避ける。血液透析日には透析終了後に投与。
3．小児 成人量まで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，軟便，腹部膨満感 悪心・嘔吐，腹痛
過敏症 発疹，掻痒感
その他 顔面浮腫，血尿，貧血 体臭
（表終了）

オテズラ錠10mg（10mg1錠）
外 内服 流通
劇

【YJコード】3999042F1025
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アプレミラスト
【メーカー】(製)アムジェン
【薬価】329.9円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】PDE4阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇局所療法で効果不十分な尋常性乾癬
〇乾癬性関節炎
〇局所療法で効果不十分なベーチェット病による口腔潰瘍
注意
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎
下記の尋常性乾癬，乾癬性関節炎に投与。
・ステロイド外用剤等で効果不十分，皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹，関節症状。
【用法用量】成人 下記の通り 内服，6日目以降 1回30mg 1日2回朝・夕 内服。
（表開始）
1日目 2日目 2日目 3日目 3日目 4日目 4日目 5日目 5日目 6日目以降 6日目以降
朝 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕
10mg 10mg 10mg 20mg 20mg 20mg 20mg 30mg 30mg 30mg
（表終了）
注意
効能共通
1．投与開始時に漸増投与をしない時，悪心，下痢，嘔吐等の発現率が高い，用法・用量を遵守。
2．重度の腎機能障害（Cockcroft－Gault式のクレアチニンクリアランス値が30mL／分未満）本剤の血漿中濃度上昇の可能性，30mg1日1回投与等，減量も考慮し，慎重投与。30mg1日1回投与とする時，投与開始時は朝の用量のみ投与。
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎
3．治療反応は，開始から24週以内にあり。24週以内に治療反応なければ，治療計画の継続を慎重に再考。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

3 代謝性医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症(0. 7%)(ウイルス, 細菌, 真菌等)。
2. 重篤な過敏症(0. 1%未満)(アナフィラキシー等の過敏症)。
3. 重度の下痢(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 上気道感染, ウイルス性上気道感染, 気管支炎, 副鼻腔炎 尿路感染, 咽頭炎, 上咽頭炎
胃腸障害 下痢, 悪心 嘔吐, 消化不良, 腹痛, 上腹部痛, 排便回数増加, 腹部不快感, 胃食道逆流性疾患, 軟便 腹部膨満
神経系障害・精神障害 頭痛 緊張性頭痛, 片頭痛 浮動性眩暈, 不眠症, うつ病
代謝・栄養障害 食欲減退, 体重減少
その他 疲労, 乾癬 咳嗽, 高血圧, 掻痒症, 発疹, 背部痛, 過敏症
(表終了)

オテズラ錠20mg (20mg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999042F2021
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アプレミラスト
【メーカー】製)アムジェン
【薬価】659.7円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】PDE4阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○局所療法で効果不十分な尋常性乾癬
○乾癬性関節炎
○局所療法で効果不十分なベーチェット病による口腔潰瘍
注意
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬, 乾癬性関節炎
下記の尋常性乾癬, 乾癬性関節炎に投与。
・ステロイド外用剤等で効果不十分, 皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹, 関節症状。
【用法用量】成人 下記の通り 内服, 6日目以降 1回30mg 1日2回朝・夕 内服。
(表開始)
1日目 2日目 2日目 3日目 3日目 4日目 4日目 5日目 5日目 6日目以降 6日目以降
朝 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕
10mg 10mg 10mg 10mg 20mg 20mg 20mg 20mg 30mg 30mg 30mg
(表終了)
注意
効能共通
1. 投与開始時に漸増投与をしない時, 悪心, 下痢, 嘔吐等の発現率が高い, 用法・用量を遵守。
2. 重度の腎機能障害(Cockcroft－Gault式のクレアチニンクリアランス値が30mL／分未満) 本剤の血漿中濃度上昇の可能性, 30mg1日1回投与等, 減量も考慮し, 慎重投与。30mg1日1回投与とする時, 投与開始時は朝の用量のみ投与。
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬, 乾癬性関節炎
3. 治療反応は, 開始から24週以内にあり。24週以内に治療反応なければ, 治療計画の継続を慎重に再考。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症(0. 7%)(ウイルス, 細菌, 真菌等)。
2. 重篤な過敏症(0. 1%未満)(アナフィラキシー等の過敏症)。
3. 重度の下痢(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 上気道感染, ウイルス性上気道感染, 気管支炎, 副鼻腔炎 尿路感染, 咽頭炎, 上咽頭炎
胃腸障害 下痢, 悪心 嘔吐, 消化不良, 腹痛, 上腹部痛, 排便回数増加, 腹部不快感, 胃食道逆流性疾患, 軟便 腹部膨満
神経系障害・精神障害 頭痛 緊張性頭痛, 片頭痛 浮動性眩暈, 不眠症, うつ病
代謝・栄養障害 食欲減退, 体重減少
その他 疲労, 乾癬 咳嗽, 高血圧, 掻痒症, 発疹, 背部痛, 過敏症
(表終了)

オテズラ錠30mg (30mg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999042F3028
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アプレミラスト
【メーカー】製)アムジェン 販)セルジーン
【薬価】989.6円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】PDE4阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○局所療法で効果不十分な尋常性乾癬
○乾癬性関節炎
○局所療法で効果不十分なベーチェット病による口腔潰瘍
注意
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬, 乾癬性関節炎
下記の尋常性乾癬, 乾癬性関節炎に投与。
・ステロイド外用剤等で効果不十分, 皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹, 関節症状。
【用法用量】成人 下記の通り 内服, 6日目以降 1回30mg 1日2回朝・夕 内服。
(表開始)
1日目 2日目 2日目 3日目 3日目 4日目 4日目 5日目 5日目 6日目以降 6日目以降
朝 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕 朝 夕
10mg 10mg 10mg 10mg 20mg 20mg 20mg 20mg 30mg 30mg 30mg
(表終了)
注意
効能共通
1. 投与開始時に漸増投与をしない時, 悪心, 下痢, 嘔吐等の発現率が高い, 用法・用量を遵守。
2. 重度の腎機能障害(Cockcroft－Gault式のクレアチニンクリアランス値が30mL／分未満) 本剤の血漿中濃度上昇の可能性, 30mg1日1回投与等, 減量も考慮し, 慎重投与。30mg1日1回投与とする時, 投与開始時は朝の用量のみ投与。
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬, 乾癬性関節炎
3. 治療反応は, 開始から24週以内にあり。24週以内に治療反応なければ, 治療計画の継続を慎重に再考。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症(0. 7%)(ウイルス, 細菌, 真菌等)。
2. 重篤な過敏症(0. 1%未満)(アナフィラキシー等の過敏症)。
3. 重度の下痢(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 上気道感染, ウイルス性上気道感染, 気管支炎, 副鼻腔炎 尿路感染, 咽頭炎, 上咽頭炎
胃腸障害 下痢, 悪心 嘔吐, 消化不良, 腹痛, 上腹部痛, 排便回数増加, 腹部不快感, 胃食道逆流性疾患, 軟便 腹部膨満
神経系障害・精神障害 頭痛 緊張性頭痛, 片頭痛 浮動性眩暈, 不眠症, うつ病
代謝・栄養障害 食欲減退, 体重減少
その他 疲労, 乾癬 咳嗽, 高血圧, 掻痒症, 発疹, 背部痛, 過敏症
(表終了)

オルミエント錠2mg (2mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999043F1020
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】バリシチニブ
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】2472.5円/1T
【薬価収載日】2017/08/30
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○既存治療で効果不十分な下記
関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止含む)
アトピー性皮膚炎(注)
多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
○SARS－CoV－2による肺炎(酸素吸入を要する患者のみ)

3 代謝性医薬品

○円形脱毛症(脱毛部位が広範囲で難治のみ)
(注)最適使用推進ガイドライン対象
注意
関節リウマチ
1. 過去，メトトレキサート等最低1剤の抗リウマチ薬等による治療を行っても，疾患に症状が残る時に投与。
アトピー性皮膚炎
2. ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤等の抗炎症外用剤の治療を一定期間施行しても，効果不十分，強い炎症を伴う皮疹が広範囲の患者に使用。
3. アトピー性皮膚炎の病変部位の状態に応じて抗炎症外用剤を併用。
4. 本剤投与時も保湿外用剤を継続使用。
SARS－CoV－2による肺炎
5. 酸素吸入，人工呼吸管理，体外式膜型人工肺導入の患者に入院下で投与。
円形脱毛症
6. 投与開始時に，頭部全体の50%以上に脱毛があり，過去6ヵ月程度毛髪の自然再生がない患者に投与。
7. 円形脱毛症以外の脱毛症への適応はない。
多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
8. 過去，最低1剤の抗リウマチ薬等による治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
9. 若年性特発性関節炎の全身型若年性特発性関節炎では，有効性・安全性は未確立のため，投与しない。
【用法用量】関節リウマチ，アトピー性皮膚炎(成人)，円形脱毛症
成人　1回4mg　1日1回　内服。状態に応じ　2mgに減量。
アトピー性皮膚炎(小児)，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
2歳以上　体重により下記の投与量　1日1回　内服。
・30kg以上 4mg，状態により2mgに減量。
・30kg未満 2mg，状態により1mgに減量。
SARS－CoV－2による肺炎
レムデシビルとの併用 成人　1回4mg　1日1回　内服。総投与期間は14日間まで。
注意
関節リウマチ，アトピー性皮膚炎(成人)，SARS－CoV－2による肺炎，円形脱毛症
1. プロベネシドとの併用時には本剤を2mg1日1回に減量する等注意。
関節リウマチ，アトピー性皮膚炎(成人)，円形脱毛症
2. 4mg1日1回投与で効果あれば，2mg1日1回投与への減量を検討。
3. 中等度の腎機能障害 1回2mg　1日1回　内服。
(表開始)
腎機能障害の程度 推算糸球体ろ過量 (eGFR;mL／分／1．73m2) 投与量(1日1回)
正常・軽度 eGFR≧60 4mg
中等度 30≦eGFR＜60 2mg
重度 eGFR＜30 投与しない
(表終了)
関節リウマチ，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
4. 免疫抑制作用の増強で感染症のリスク増加の可能性，抗リウマチ生物製剤，他の経口ヤヌスキナーゼ阻害剤との併用はしない。これらの薬剤との併用経験はない。
アトピー性皮膚炎，円形脱毛症
5. 免疫抑制作用の増強で感染症のリスク増加の可能性，免疫調整生物製剤，他の経口JAK阻害剤，シクロスポリン等の強力な免疫抑制剤との併用はしない。これらの薬剤との併用経験はない。
アトピー性皮膚炎
6. 治療反応は，開始から8週以内にあり。8週以内に治療反応なければ，投与中止を考慮。
SARS－CoV－2による肺炎
7. SARS－CoV－2による肺炎のレムデシビル以外の併用について，有効性・安全性は未確立。
8. 中等度の腎機能障害 1回2mg　1日1回　内服。重度の腎機能障害(15≦eGFR＜30mL／分／1．73m2)は有益性が危険性を上回る時，下表を参考に投与できる。
(表開始)
腎機能障害の程度 推算糸球体ろ過量 (eGFR;mL／分／1．73m2) 投与量
正常・軽度 eGFR≧60 4mg　1日1回
中等度 30≦eGFR＜60 2mg　1日1回
重度 15≦eGFR＜30 2mg　48時間ごと1回(投与回数は最大7回)
重度 eGFR＜15 投与しない
(表終了)
円形脱毛症
9. 治療反応は，開始から36週以内にあり。36週以内に治療反応なければ，投与中止を考慮。
アトピー性皮膚炎(小児)，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎
10. 体重30kg以上は本剤4mg　1日1回，体重30kg未満は本剤2mg　1日1回で治療効果が認められた時は，体重30kg以上は本剤2mg1日1回，体重30kg未満は本剤1mg　1日1回への減量を検討。
11. プロベネシドとの併用時 体重30kg以上は本剤を2mg　1日1回に，体重30kg未満は本剤を1mg　1日1回に減量する等用量に注意。
12. 中等度の腎機能障害 体重30kg以上は2mgを，体重30kg未満は1mgを1日1回内服。
(表開始)
腎機能障害の程度 推算糸球体ろ過量 (eGFR;mL／分／1．73m2) 投与量(1日1回)
正常・軽度 eGFR≧60 体重30kg以上;4mg 体重30kg未満;2mg
中等度 30≦eGFR＜60 体重30kg以上;2mg 体重30kg未満;1mg
重度 eGFR＜30 投与しない
(表終了)

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 活動性結核。
3. 好中球数が500／mm3未満。
4. 妊婦・妊娠の可能性。
関節リウマチ，アトピー性皮膚炎，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎，円形脱毛症
5. 重篤な感染症(敗血症等)。
6. 重度の腎機能障害。
7. リンパ球数が500／mm3未満。
8. ヘモグロビン値が8g／dL未満。
SARS－CoV－2による肺炎
9. 透析患者・末期腎不全(eGFR15mL／分／1．73m2未満)。
10. リンパ球数が200／mm3未満。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症(日和見感染症含む)(帯状疱疹(2．6%)，肺炎(0．6%)，ニューモシスティス肺炎(0．1%未満)，敗血症(0．1%未満)，結核(0．1%未満)等)。
2. 消化管穿孔(0．1%未満)。
3. 好中球減少(0．9%)，リンパ球減少(1．1%)，ヘモグロビン減少(0．1%)。
4. 肝機能障害(AST(0．7%)，ALT(0．9%)の上昇等)，黄疸(頻度不明)。
5. 間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
6. 静脈血栓塞栓症(0．2%(注1)，1．0%(注2))(肺塞栓症・深部静脈血栓症)。
(注1)関節リウマチ，アトピー性皮膚炎，多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎，円形脱毛症。
(注2)SARS－CoV－2による肺炎。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 0．1～1%未満 頻度不明
胃腸障害　悪心，腹痛
感染症・寄生虫症　上気道感染(鼻炎，上咽頭炎，副鼻腔炎，急性副鼻腔炎，慢性副鼻腔炎，口腔咽頭痛，咽頭炎，咽頭扁桃炎，扁桃炎，喉頭炎，喉頭蓋炎，気管炎含む)，帯状疱疹，単純ヘルペス(ヘルペス性状湿疹，性器ヘルペス，カポジ水痘様発疹，眼部単純ヘルペス，口腔ヘルペス含む)，尿路感染
精神神経系　頭痛
皮膚・皮下組織障害　ざ瘡　発疹，顔面腫脹，蕁麻疹
臨床検査 LDLコレステロール上昇 ALT上昇，AST上昇，血小板増加症，トリグリセリド上昇，CK上昇
その他　体重増加
(表終了)

キネダック錠50mg（50mg1錠）
外　内服　流通

【YJコード】3999013F1231
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エパルレスタット
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)小野薬品工業
【薬価】28.2円/1T
【薬価収載日】2005/12/16
【標榜薬効】アルドース還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】糖尿病性末梢神経障害に伴う自覚症状(しびれ感，疼痛)，振動覚異常，心拍変動異常の改善
(糖化ヘモグロビンが高値の時)
注意
1. 食事療法，運動療法，経口血糖降下剤，インスリン等の治療を実施後，糖化ヘモグロビンが高値の患者に適用を考慮。
2. 対象は糖化ヘモグロビンが，HbA1c(NGSP値)7．0%以上(JDS値6．6%以上)を目安。
3. 不可逆的な器質的変化を伴う糖尿病性末梢神経障害は効果が未確立。
【用法用量】成人　1回50mg　1日3回　毎食前　内服。
適宜増減。
注意
12週間投与し効果なければ，他の治療に切りかえる。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血小板減少(頻度不明)。
2. 劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1%未満)(著しいAST・ALTの上昇等)，黄疸(頻度不明)，肝不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

3 代謝性医薬品

発現部位等 0．1～0．5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 － 発疹，掻痒，紅斑，水疱等 －
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等 ビリルビン上昇 －
消化器 腹痛，嘔気 嘔吐，下痢，食欲不振，腹部膨満感，便秘 胸やけ
腎臓 － BUN上昇，クレアチニン上昇 尿量減少，頻尿
血液 － 貧血，白血球減少 －
その他 － 倦怠感，眩暈，頭痛，こわばり，脱力感，四肢疼痛，胸部不快感，動悸，浮腫，ほてり しびれ，脱毛，紫斑，CK上昇，発熱
（表終了）

グラセプターカプセル0．5mg（0．5mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999014N1028
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】タクロリムス水和物
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】318.3円/1C
【薬価収載日】2008/09/12
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植
〇骨髄移植の拒絶反応，移植片対宿主病の抑制
注意
効能共通
1．腎移植，肝移植以外の新規臓器移植への有効性・安全性は未確立。
骨髄移植
2．HLA適合同胞間移植では第一選択薬にしない。
【用法用量】腎移植
初期 1回0．15～0．2mg／kg 1日1回 朝 内服。適宜増減。
肝移植
術後初期 1回0．1～0．15mg／kg 1日1回 朝 内服。適宜増減。
プログラフ経口剤から切りかえ時（腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植，骨髄移植）
同一1日量 1日1回 朝 内服。
内服時の吸収は個人差あり，血中濃度の高い時の副作用，血中濃度が低い時の拒絶反応，移植片対宿主病の発現を防ぐため，適宜血中濃度を測定。トラフレベルの血中濃度を参考にし投与量を調節。特に移植直後又は投与開始直後は頻回に血中濃度測定を行う。血中トラフ濃度が20ng／mLを超える期間が長いと副作用が発現しやすい。
注意
効能共通
1．血液中のタクロリムスの多くは赤血球画分に分布，投与量の調節時には全血中濃度を測定。
2．術後初期 プログラフ経口剤より血中濃度が低く推移するので，術後数日間は連日血中濃度を測定し，投与量を調節。
3．プログラフ経口剤と本剤の切りかえは，血中濃度の推移を確認し，投与量を調節。
プログラフ経口剤からの切りかえは状態が安定した患者に行う。
4．高い血中濃度の持続時に腎障害あり，血中濃度（投与約24時間後）を20ng／mL以下に維持。
5．他の免疫抑制剤の併用で過度の免疫抑制の可能性。多剤免疫抑制療法では，本剤の初期量を低く設定が可能な場合もあるが，移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
肝移植・腎移植
6．市販後の調査で，承認された用量に比べ低用量を投与した成績あり，投与量設定時に考慮。
骨髄移植
7．クレアチニン値が投与前の25%以上上昇した時，本剤の25%以上の減量又は休薬等の処置を考慮。
8．血中濃度が低い時に移植片対宿主病あり，移植片対宿主病好発時期には血中濃度を10～20ng／mL。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．シクロスポリン・ポセンタンの投与患者。
3．カリウム保持性利尿剤の投与患者。
4．生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．急性腎障害（0．1～5%未満），ネフローゼ症候群（0．1%未満）。
2．心不全，心室性・上室性の不整脈，心筋梗塞，狭心症，心膜液貯留，心筋障害（各0．1～5%未満）（ST－T変化，心機能低下，心内腔拡大，壁肥厚等）。
3．中枢神経系障害（0．1～5%未満）（可逆性後白質脳症症候群，高血圧性脳症等）（全身痙攣，意識障害，錯乱，言語障害，視覚障害，麻痺等）。
4．脳血管障害（0．1～5%未満）（脳梗塞，脳出血等）。
5．血栓性微小血管障害（0．1～5%未満）（溶血性尿毒症症候群，血栓性血小板減少性紫斑病等）。
6．汎血球減少症，血小板減少性紫斑病（各0．1～5%未満），無顆粒球症，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
7．イレウス（0．1～5%未満）。
8．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
9．呼吸困難，急性呼吸窮迫症候群（各0．1～5%未満）。
10．感染症（15%以上）（細菌性，ウイルス性，真菌性，原虫性感染症），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
11．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
12．BKウイルス腎症（頻度不明）。
13．リンパ腫等の悪性腫瘍（0．1～5%未満）（Epstein－Barrウイルスに関連したリンパ増殖性疾患・リンパ腫）（発熱，リンパ節腫大等）。
14．膵炎（0．1～5%未満）。
15．糖尿病，糖尿病の悪化（0．1～5%未満），高血糖（15%以上）。
16．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
腎臓 腎障害（BUN上昇，クレアチニン上昇，クレアチニンクリアランス低下，尿蛋白）（23．1%） 尿量減少，血尿，多尿 頻尿，残尿感
代謝異常 高カリウム血症，高尿酸血症，低マグネシウム血症 アシドーシス，高コレステロール血症，高リン酸血症，低リン酸血症，高クロール血症，高カルシウム血症，低カルシウム血症，低蛋白血症，低ナトリウム血症，低カリウム血症，高トリグリセリド血症，尿糖 CK上昇
循環器 血圧上昇 浮腫，頻脈，動悸，心電図異常，血圧低下 徐脈
精神神経系 振戦 しびれ，不眠，失見当識，せん妄，不安，頭痛，感覚異常 眩暈，眼振，外転神経麻痺，四肢硬直，傾眠，意識混濁，うつ病，興奮 運動失調，幻覚
消化器 腸管運動障害，食欲不振，下痢，腹痛，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，大腸炎，口内炎，悪心，嘔吐，腹部膨満感 下血 胸やけ，消化管出血
膵臓 アミラーゼ上昇
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇）
血液 貧血，血小板増多，血小板減少，白血球増多，白血球減少 リンパ球減少 好中球減少
皮膚 発疹，紅斑，掻痒，脱毛
その他 胸水，腹水，喘息，発熱，全身倦怠感，体重減少，ほてり，月経過多 咽喉頭異和感，筋肉痛，関節痛，味覚異常 疼痛，発赤，眼痛，多汗，口渇，冷感，胸痛
（表終了）

グラセプターカプセル1mg（1mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999014N2024
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】タクロリムス水和物
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】557.8円/1C
【薬価収載日】2008/09/12
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植
〇骨髄移植の拒絶反応，移植片対宿主病の抑制
注意
効能共通
1．腎移植，肝移植以外の新規臓器移植への有効性・安全性は未確立。
骨髄移植
2．HLA適合同胞間移植では第一選択薬にしない。
【用法用量】腎移植
初期 1回0．15～0．2mg／kg 1日1回 朝 内服。適宜増減。
肝移植
術後初期 1回0．1～0．15mg／kg 1日1回 朝 内服。適宜増減。
プログラフ経口剤から切りかえ時（腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植，骨髄移植）
同一1日量 1日1回 朝 内服。
内服時の吸収は個人差あり，血中濃度の高い時の副作用，血中濃度が低い時の拒絶反応，移植片対宿主病の発現を防ぐため，適宜血中濃度を測定。トラフレベルの血中濃度を参考にし投与量を調節。特に移植直後又は投与開始直後は頻回に血中濃度測定を行う。血中トラフ濃度が20ng／mLを超える期間が長いと副作用が発現しやすい。
注意
効能共通
1．血液中のタクロリムスの多くは赤血球画分に分布，投与量の調節時には全血中濃度を測定。
2．術後初期 プログラフ経口剤より血中濃度が低く推移するので，術後

3 代謝性医薬品

数日間は連日血中濃度を測定し，投与量を調節。
3. プログラフ経口剤と本剤の切りかえは，血中濃度の推移を確認し，投与量を調節。
プログラフ経口剤からの切りかえは状態が安定した患者に行う。
4. 高い血中濃度の持続時に腎障害あり，血中濃度（投与約24時間後）を20ng／mL以下に維持。
5. 他の免疫抑制剤の併用で過度の免疫抑制の可能性。多剤免疫抑制療法では，本剤の初期量を低く設定が可能な場合もあるが，移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
肝移植・腎移植
6. 市販後の調査で，承認された用量に比べ低用量を投与した成績あり，投与量設定時に考慮。
骨髄移植
7. クレアチニン値が投与前の25%以上上昇した時，本剤の25%以上の減量又は休薬等の処置を考慮。
8. 血中濃度が低い時に移植片対宿主病あり，移植片対宿主病好発時期には血中濃度を10～20ng／mL。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. シクロスポリン・ボセンタンの投与患者。
3. カリウム保持性利尿剤の投与患者。
4. 生ワクチンを接種しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 急性腎障害（0. 1～5%未満），ネフローゼ症候群（0. 1%未満）。
2. 心不全，心室性・上室性の不整脈，心筋梗塞，狭心症，心膜液貯留，心筋障害（各0. 1～5%未満）（ST－T変化，心機能低下，心内腔拡大，壁肥厚等）。
3. 中枢神経系障害（0. 1～5%未満）（可逆性後白質脳症症候群，高血圧性脳症等）（全身痙攣，意識障害，錯乱，言語障害，視覚障害，麻痺等）。
4. 脳血管障害（0. 1～5%未満）（脳梗塞，脳出血等）。
5. 血栓性微小血管障害（0. 1～5%未満）（溶血性尿毒症症候群，血栓性血小板減少性紫斑病等）。
6. 汎血球減少症，血小板減少性紫斑病（各0. 1～5%未満），無顆粒球症，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
7. イレウス（0. 1～5%未満）。
8. 皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
9. 呼吸困難，急性呼吸窮迫症候群（各0. 1～5%未満）。
10. 感染症（15%以上）（細菌性，ウイルス性，真菌性，原虫性感染症），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
11. 進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
12. BKウイルス腎症（頻度不明）。
13. リンパ腫等の悪性腫瘍（0. 1～5%未満）（Epstein－Barrウイルスに関連したリンパ増殖性疾患・リンパ腫）（発熱，リンパ節腫大等）。
14. 膵炎（0. 1～5%未満）。
15. 糖尿病，糖尿病の悪化（0. 1～5%未満），高血糖（15%以上）。
16. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 腎障害（BUN上昇，クレアチニン上昇，クレアチニンクリアランス低下，尿蛋白）（23. 1%） 尿量減少，血尿，多尿 頻尿，残尿感
代謝異常 高カリウム血症，高尿酸血症，低マグネシウム血症 アシドーシス，高コレステロール血症，高リン酸血症，低リン酸血症，高クロール血症，高カルシウム血症，低カルシウム血症，低蛋白血症，低ナトリウム血症，低カリウム血症，高トリグリセリド血症，尿糖 CK上昇
循環器 血圧上昇 浮腫，頻脈，動悸，心電図異常，血圧低下 徐脈
精神神経系 振戦 しびれ，不眠，失見当識，せん妄，不安，頭痛，感覚異常 眩暈，眼振，外転神経麻痺，四肢硬直，傾眠，意識混濁，うつ病，興奮 運動失調，幻覚
消化器 腸管運動障害，食欲不振，下痢，腹痛，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，大腸炎，口内炎，悪心，嘔吐，腹部膨満感 下血 胸やけ，消化管出血
膵臓 アミラーゼ上昇
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇）
血液 貧血，血小板増多，血小板減少，白血球増多，白血球減少 リンパ球減少 好中球減少
皮膚 発疹，紅斑，掻痒，脱毛
その他 胸水，腹水，喘息，発熱，全身倦怠感，体重減少，ほてり，月経過多 咽喉頭異和感，筋肉痛，関節痛，味覚異常 疼痛，発赤，眼痛，多汗，口渇，冷感，胸痛
（表終了）

セルセプトカプセル250（250mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999017M1026

【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ミコフェノール酸 モフェチル
【メーカー】(製)中外製薬 (販)日本ロシュ
【薬価】91.1円/1C
【薬価収載日】1999/11/19
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○腎移植後の難治性拒絶反応の治療
（既存の治療薬が無効・副作用等で投与できず，難治性拒絶反応と診断時）
○下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，心移植，肝移植，肺移植，膵移植
○ループス腎炎
○造血幹細胞移植の移植片対宿主病の抑制
○全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
注意
ループス腎炎，全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
診療ガイドライン等の最新情報を参考に，投与が適切な患者に投与。
【用法用量】腎移植
○腎移植後の難治性拒絶反応の治療
成人 1回1500mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減。
○腎移植の拒絶反応の抑制
成人 1回1000mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日3000mgまで。
小児 1回300～600mg／m2 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日2000mgまで。
心移植，肝移植，肺移植，膵移植の拒絶反応の抑制
成人 1回500～1500mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
用量を慎重に増減。
ループス腎炎
成人 1回250～1000mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日3000mgまで。
小児 1回150～600mg／m2 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日2000mgまで。
造血幹細胞移植の移植片対宿主病の抑制
成人 1回250～1500mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日3000mgまで，1日3回 食後 内服もできる。
小児 1回300～600mg／m2 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日2000mgまで。
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
成人 1回250～1000mg 1日2回 12時間ごと 食後 内服。
適宜増減，1日3000mgまで。
注意
効能共通
製剤共通
1. 重度の慢性腎不全（糸球体濾過率25mL／分／1. 73m2未満）血中濃度が高くなるおそれ，1回1000mgまで（1日2回）。
ループス腎炎
製剤共通
3. 投与開始時は副腎皮質ステロイド剤を併用。
＜参考 懸濁液の投与量（mL）＞
（表開始）
1回量（mg） 懸濁液200mg／mLの液量（mL）
200 1
500 2. 5
1000 5
2000 10
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 生ワクチンを接種しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 感染症（頻度不明）（日和見感染，サイトメガロウイルス感染症，非定型抗酸菌感染症，アスペルギルス感染症，カンジダ感染症，ムコール感染症，ニューモシスティス感染症，パルボウイルス感染症，ノカルジア感染症，黄色ブドウ球菌感染症，リステリア感染症，結核等，肺炎，敗血症，感染性心内膜炎，帯状疱疹，単純疱疹，上気道感染，気管支炎，感冒，髄膜炎，創感染，腹膜炎，食道炎，腸炎，胆管炎，膿瘍），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
2. 進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
3. BKウイルス腎症（頻度不明）。
4. 血液障害（汎血球減少（1. 4%），好中球減少（0. 6%），無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（12. 0%），血小板減少（1. 7%），貧血（5. 8%），赤芽球癆（0. 1%））。
5. 悪性リンパ腫（0. 2%），リンパ増殖性疾患，悪性腫瘍（特に皮膚）（各0. 7%）。
6. 消化管障害（消化管潰瘍（1. 1%），消化管出血（0. 3%），消化管穿孔（0. 1%），イレウス（0. 4%））。
7. 重度の下痢（頻度不明），脱水症状。
8. アシドーシス，低酸素症（各頻度不明），糖尿病（0. 5%），脱水症

3 代謝性医薬品

(0. 2%)。
9. 血栓症(0. 2%)(脳梗塞, 網膜静脈血栓症, 動脈血栓症)。
10. 重度の腎障害(頻度不明)(腎不全, 腎尿細管壊死, 水腎症, 腎機能障害)。
11. 心障害(心不全(0. 3%), 狭心症(0. 1%), 心停止(頻度不明), 不整脈(期外収縮, 心房細動, 心房粗動, 上室性・心室性頻脈等)(0. 1%), 肺高血圧症, 心嚢液貯留(各頻度不明))。
12. 肝機能障害(1. 8%)(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, ビリルビン, LDHの上昇), 黄疸(0. 2%)。
13. 肺水腫(0. 1%), 無呼吸(頻度不明), 気胸(0. 1%)。
14. 痙攣(0. 3%), 錯乱, 幻覚, 精神病(各頻度不明)。
15. アレルギー反応(頻度不明), 難聴(0. 1%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液 ヘマトクリット値減少, ヘモグロビン減少, 赤血球数減少, 好中球数増加, 白血球数増加 網赤血球増加・減少, 低色素性貧血 赤血球増加症, プロトロンビン時間延長, トロンボプラスチン時間延長, 斑状出血, 点状出血
消化器 下痢(12. 0%), 腹痛, 嘔吐, 嘔気, 食欲不振, アミラーゼ上昇, 腸炎, 腹部膨満 胃炎, 口内炎, 便秘, 膵炎, メレナ, 消化不良, 嚥下障害 腸絨毛萎縮(遷延する下痢, 体重減少), 直腸障害, 鼓腸, 歯肉炎, 歯肉肥厚, 口渇, 口内乾燥
精神神経系 頭痛, しびれ(四肢・舌等), 眩暈, うつ, 振戦, 不眠, 失神, ニューロパシー, 不安, せん妄 筋緊張亢進, 異常感覚, 傾眠, 発声障害, 激越, 情動障害, 思考異常
肝臓 AST, ALT, γ－GTP, LDHの上昇 AI－P, ビリルビン, LAPの上昇
腎臓 尿路感染 出血性膀胱炎, BUN上昇, 蛋白尿, クレアチニン上昇, 血尿, 尿閉 頻尿, 遺尿, 尿失禁, 排尿困難
代謝異常 高尿酸血症(4. 9%), Mg上昇, トリグリセライド上昇, 高脂血症 コレステロール上昇, コリンエステラーゼ低下, 血清総蛋白減少, AG比異常, 血清アルブミン低下, 血糖値上昇, K上昇・低下, P, Cl, Naの低下, 低カルシウム血症, 高リン酸血症, 痛風, 低マグネシウム血症 循環血液量増加・減少, 高カルシウム血症, 低血糖, アルカローシス
皮膚 脱毛, 発疹, 蜂巣炎, ざ瘡, 小水疱性皮疹, 皮膚潰瘍 真菌性皮膚炎, 皮膚肥厚, 掻痒, 発汗, 男性型多毛症
呼吸器 鼻咽頭炎 副鼻腔炎, 咳増加, 胸水, 喘息 呼吸困難, 喀痰増加, 過換気, 無気肺, 鼻出血, 喀血, しゃっくり
筋・骨格 骨粗鬆症, 関節痛, 筋力低下, 筋痛 下腿痙直
循環器 高血圧, 頻脈 起立性低血圧, 低血圧, 血管拡張, 徐脈, 静脈圧増加, 血管痙攣
眼 白内障 結膜炎, 視覚障害, 弱視, 眼出血
耳 耳痛, 耳鳴
内分泌 甲状腺機能低下 副甲状腺障害, クッシング症候群
その他 免疫グロブリン減少(3. 6%), 発熱, サイトメガロウイルス抗体増加, CRP上昇 倦怠感, 浮腫, 胸痛, 体重減少, 免疫グロブリン増加, ヘルニア, 悪寒, 出血, 無力症 顔面浮腫, 腹水, 嚢腫(リンパ嚢腫, 陰嚢水腫含む), 体重増加, インフルエンザ様症状, 疼痛, 骨盤痛, 頚部痛, インポテンス, 蒼白, 急性炎症反応(発熱, 関節痛, 関節炎, 筋肉痛, CRP等の炎症マーカーの上昇)
(表終了)

タクロリムスカプセル0. 5mg「VTRS」(0. 5mg1カプセル)

外 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999014M2070
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】タクロリムス水和物
【先発品】プログラフカプセル0. 5mg
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】90円/1C
【薬価収載日】2022/04/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植, 肝移植, 心移植, 肺移植, 膵移植, 小腸移植
○骨髄移植の拒絶反応, 移植片対宿主病の抑制
○重症筋無力症
○関節リウマチ(既存治療で効果不十分時のみ)
○ループス腎炎(ステロイド剤の投与が効果不十分, 副作用で困難な時)
○難治性(ステロイド抵抗性, ステロイド依存性)の活動期潰瘍性大腸炎(中等症～重症のみ)
○多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
注意
骨髄移植
1. HLA適合同胞間移植では第一選択薬にしない。
重症筋無力症
2. 単独使用時・ステロイド剤未治療例使用時の有効性・安全性は未確立。
関節リウマチ
3. 過去, 非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬等の治療を行っても, 疾患による症状が残る時に投与。
ループス腎炎
4. 急性期で疾患活動性の高い時期の有効性・安全性は未確立。
潰瘍性大腸炎
5. 治療指針等を参考に, 難治性(ステロイド抵抗性, ステロイド依存性)を確認。
6. 維持療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】腎移植
初期 タクロリムス 1回0. 15mg／kg 1日2回 内服。以後, 漸減。
維持量 1回0. 06mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
肝移植
初期 タクロリムス 1回0. 15mg／kg 1日2回 内服。以後, 漸減。
維持量 1日0. 1mg／kg。適宜増減。
心移植
初期 タクロリムス 1回0. 03～0. 15mg／kg 1日2回 内服。拒絶反応発現後に投与開始の時 1回0. 075～0. 15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
肺移植
初期 タクロリムス 1回0. 05～0. 15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
膵移植
初期 タクロリムス 1回0. 15mg／kg 1日2回 内服。以後, 漸減して有効最少量で維持。
小腸移植
初期 タクロリムス 1回0. 15mg／kg 1日2回 内服。以後, 漸減して有効最少量で維持。
骨髄移植
移植1日前より タクロリムス 1回0. 06mg／kg 1日2回 内服。移植初期 タクロリムス 1回0. 06mg／kg 1日2回 内服。以後, 漸減。移植片対宿主病発現後に投与開始の時 タクロリムス 1回0. 15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
内服時の吸収は個人差あり, 血中濃度の高い時の副作用, 血中濃度が低い時の拒絶反応, 移植片対宿主病の発現を防ぐため, 適宜血中濃度を測定。トラフレベルの血中濃度を参考にし投与量を調節。特に移植直後又は投与開始直後は頻回に血中濃度測定を行う。血中トラフ濃度が20ng／mLを超える期間が長いと副作用が発現しやすい。
重症筋無力症
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
関節リウマチ
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。高齢者 1回1. 5mgから開始 1日1回 夕食後 内服, 症状により 1回3mg 1日1回まで。
ループス腎炎
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
潰瘍性大腸炎
成人 初期 タクロリムス 1回0. 025mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後2週間, 目標血中トラフ濃度を10～15ng／mLとし, 血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。2週以降, 目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし投与量を調節。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
成人 初期 1回0. 0375mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後, 目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし, 血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。
注意
効能共通
1. 血液中のタクロリムスの多くは赤血球画分に分布, 投与量の調節時には全血中濃度を測定。
2. カプセルを使用にあたり下記に注意。
(1). 顆粒とカプセルの生物学的同等性は未検証。
(2). カプセルと顆粒の切りかえ及び併用時, 血中濃度を測定することで製剤による吸収の変動がないことを確認。切りかえ又は併用に伴う吸収の変動がみられた時, 必要により投与量を調節。
3. 高い血中濃度の持続時に腎障害あり, 血中濃度(投与約12時間後)を20ng／mL以下に維持。
4. 他の免疫抑制剤の併用で過度の免疫抑制の可能性。特に, 臓器移植において3剤又は4剤の免疫抑制剤を組み合わせた多剤免疫抑制療法では, 本剤の初期量を低く設定が可能な場合もあるが, 移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
肝移植, 腎移植, 骨髄移植
5. 市販後の調査で, 承認された用量に比べ低用量を投与した成績あり, 投与量設定時に考慮。
骨髄移植
6. クレアチニン値が投与前の25%以上上昇した時, 本剤の25%以上の減量又は休薬等の処置を考慮。
7. 血中濃度が低い時に移植片対宿主病あり, 移植片対宿主病好発時期には血中濃度を10～20ng／mL。
重症筋無力症
8. 副作用を防ぐため, 投与開始3ヵ月間は月1回, 以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し, 投与量を調節。十分な効果あれば, 効果が維持できる用量まで減量。
関節リウマチ
9. 高齢者に投与開始4週後まで1日1. 5mgとして安全性を確認後, 効果不十分時, 1日3mgに増量。増量時, 副作用を防ぐため, 投与約12時間後の血中濃度を測定し, 投与量を調節。
ループス腎炎
10. 副作用を防ぐため, 投与開始3ヵ月間は月1回, 以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し, 投与量を調節。本剤を2ヵ月以上継続投与しても, 尿蛋白等の腎炎臨床所見及び免疫学的所見で効果なければ投与中止か, 他の治療法に変更。十分な効果あれば, その

3 代謝性医薬品

効果が維持できる用量まで減量。
潰瘍性大腸炎
11. 治療初期は頻回に血中トラフ濃度を測定し投与量を調節するため，入院又はそれに準じた管理下で投与。
12. 1日0．3mg／kgまで，下記に注意し用量を調節。
（1）．初回投与から2週間まで
・初回投与後12時間及び24時間の血中トラフ濃度に基づき，1回目の用量調節を実施。
・1回目の用量調節後2日以上経過後に測定された2点の血中トラフ濃度に基づき，2回目の用量調節を実施。
・2回目の用量調節から1．5日以上経過後に測定された1点の血中トラフ濃度に基づき，2週時（3回目）の用量調節を実施。
（2）．2週以降
・投与開始後2週時（3回目）の用量調節から1週間程度後に血中トラフ濃度を測定し，用量調節を実施。投与開始4週以降は4週間に1回を目安とし，定期的に血中トラフ濃度を測定。
（3）．用量調節にあたっては服薬時の食事条件（食後投与／空腹時投与）が同じ血中トラフ濃度を用いる。
13. カプセル剤のみを用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
14. 2週間投与して臨床症状の改善なければ，投与中止。
15. 3ヵ月までの投与。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
16. 1日0．3mg／kgまで，血中トラフ濃度に基づき投与量を調節。
17. カプセル剤のみ用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
18. 投与開始時はステロイド剤を併用。症状安定後はステロイド剤の漸減を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．シクロスポリン・ボセンタンの投与患者。
3．カリウム保持性利尿剤の投与患者。
4．生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．急性腎障害（0．1～5%未満），ネフローゼ症候群（0．1%未満）。
2．心不全，心室性・上室性の不整脈，心筋梗塞，狭心症，心膜液貯留，心筋障害（各0．1～5%未満）（ST－T変化，心機能低下，心内腔拡大，壁肥厚等）。
3．中枢神経系障害（0．1～5%未満）（可逆性後白質脳症症候群，高血圧性脳症等）（全身痙攣，意識障害，錯乱，言語障害，視覚障害，麻痺等）。
4．脳血管障害（0．1～5%未満）（脳梗塞，脳出血等）。
5．血栓性微小血管障害（0．1～5%未満）（溶血性尿毒症症候群，血栓性血小板減少性紫斑病等）。
6．汎血球減少症，血小板減少性紫斑病（各0．1～5%未満），無顆粒球症，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
7．イレウス（0．1～5%未満）。
8．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
9．呼吸困難，急性呼吸窮迫症候群（各0．1～5%未満）。
10．感染症（15%以上）（細菌性，ウイルス性，真菌性，原虫性感染症），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
11．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
12．BKウイルス腎症（頻度不明）。
13．リンパ腫等の悪性腫瘍（0．1～5%未満）（Epstein－Barrウイルスに関連したリンパ増殖性疾患・リンパ腫）（発熱，リンパ節腫大等）。
14．膵炎（0．1～5%未満）。
15．糖尿病，糖尿病の悪化（0．1～5%未満），高血糖（15%以上）。
16．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
重症筋無力症
17．クリーゼ（頻度不明）。
関節リウマチ
18．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
腎臓 腎障害（BUN上昇，クレアチニン上昇，クレアチニンクリアランス低下，尿蛋白）（23．1%） 尿量減少，血尿，多尿 頻尿，残尿感
代謝異常 高カリウム血症，高尿酸血症，低マグネシウム血症 アシドーシス，高コレステロール血症，高リン酸血症，低リン酸血症，高クロール血症，高カルシウム血症，低カルシウム血症，低蛋白血症，低ナトリウム血症，低カリウム血症，高トリグリセリド血症，尿糖 CK上昇
循環器 血圧上昇 浮腫，頻脈，動悸，心電図異常，血圧低下 徐脈
精神神経系 振戦 しびれ，不眠，失見当識，せん妄，不安，頭痛，感覚異常 眩暈，眼振，外転神経麻痺，四肢硬直，傾眠，意識混濁，うつ病，興奮 運動失調，幻覚
消化器 腸管運動障害，食欲不振，下痢，腹痛，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，大腸炎，口内炎，悪心，嘔吐，腹部膨満感 下血 胸やけ，消化管出血
膵臓 アミラーゼ上昇
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇）
血液 貧血，血小板増多，血小板減少，白血球増多，白血球減少 リンパ球減少 好中球減少
皮膚 発疹，紅斑，掻痒，脱毛
その他 胸水，腹水，喘息，発熱，全身倦怠感，体重減少，ほてり，月経過多 咽喉頭異和感，筋肉痛，関節痛，味覚異常 疼痛，発赤，眼痛，多汗，口渇，冷感，胸痛
（表終了）

ダーブロック錠2mg（2mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999049F2023
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダプロデュスタット
【メーカー】製）グラクソ・スミスクライン 販）協和キリン
【薬価】157.4円／1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】HIF－PH阻害薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】1．保存期慢性腎臓病
赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 1回2又は4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 1回4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
2．透析患者
成人 開始量 1回4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
注意
1．赤血球造血刺激因子製剤で未治療の保存期慢性腎臓病の開始量
開始時のヘモグロビン濃度に応じて，下記量で開始。
（表開始）
ヘモグロビン濃度（g／dL） 開始量（1日1回）
9未満 4mg
9以上 2mg
（表終了）
2．投与量調節
投与量調節が必要な時は，下表を参考に1段階ずつ増量・減量。
休薬時は，休薬前より最低1段階低い用量で投与再開。用量調節時は，最低4週間は同一量を維持とするが，ヘモグロビン濃度が急激に（4週以内に2g／dLを超える）上昇時は，速やかに減量・休薬。
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
投与量（mg） 1 2 4 6 8 12 18 24
（表終了）

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
血栓塞栓症（0．8%）（脳梗塞（0．3%），肺塞栓症（0．3%），網膜静脈閉塞（0．3%），深部静脈血栓症（0．3%），バスキュラーアクセス血栓症（シャント閉塞等）（頻度不明）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 網膜出血
過敏症 過敏症（発疹，皮膚炎，蕁麻疹）
循環器 高血圧
消化器 腹痛 便秘
全身症状 末梢性浮腫
（表終了）

ダーブロック錠4mg（4mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999049F3020
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダプロデュスタット
【メーカー】製）グラクソ・スミスクライン 販）協和キリン
【薬価】278.5円／1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】HIF－PH阻害薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグ

3 代謝性医薬品

ロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】1. 保存期慢性腎臓病
赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 1回2又は4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 1回4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
2. 透析患者
成人 開始量 1回4mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高24mg 1日1回。
注意
1. 赤血球造血刺激因子製剤で未治療の保存期慢性腎臓病の開始量開始時のヘモグロビン濃度に応じて，下記量で開始。
（表開始）
ヘモグロビン濃度（g／dL） 開始量（1日1回）
9未満 4mg
9以上 2mg
（表終了）
2. 投与量調節
投与量調節が必要な時は，下表を参考に1段階ずつ増量・減量。
休薬時は，休薬前より最低1段階低い用量で投与再開。用量調節時は，最低4週間は同一量を維持とするが，ヘモグロビン濃度が急激に（4週以内に2g／dLを超える）上昇時は，速やかに減量・休薬。
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
投与量（mg） 1 2 4 6 8 12 18 24
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
血栓塞栓症（0. 8%）（脳梗塞（0. 3%），肺塞栓症（0. 3%），網膜静脈閉塞（0. 3%），深部静脈血栓症（0. 3%），バスキュラーアクセス血栓症（シャント閉塞等）（頻度不明）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 網膜出血
過敏症 過敏症（発疹，皮膚炎，蕁麻疹）
循環器 高血圧
消化器 腹痛 便秘
全身症状 末梢性浮腫
（表終了）

バフセオ錠150mg（150mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999050F1020
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】バダデュスタット
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】184円/1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】腎性貧血治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】成人 開始量 1回300mg 1日1回 内服。以後，適宜増減，1日最高600mg 1日1回。
注意
1. 増量時は，増量幅は150mgとし，増量間隔は4週間以上。
2. 休薬時は，1段階低い用量で投与再開。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓塞栓症（4. 2%）（脳梗塞（0. 4%），シャント閉塞（1. 0%）等）。
2. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，総ビリルビンの上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 睡眠障害，傾眠
眼 網膜出血
耳 回転性眩暈
循環器 高血圧 動悸
血液 赤血球増加症
消化器 下痢，悪心 腹部不快感，嘔吐，軟便，胃炎，胃腸炎，口内炎
食欲減退
皮膚 発疹，掻痒症，湿疹，紅斑，脱毛症，冷汗
泌尿器 頻尿
臨床検査 血清フェリチン減少，トランスフェリン飽和度低下，血中クレアチニン増加
その他 倦怠感，胸部不快感，乳頭痛，末梢性浮腫
（表終了）

ビビアント錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3999027F1020
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】バゼドキシフェン酢酸塩
【メーカー】製)ファイザー 販)ファイザー製薬
【薬価】51.7円/1T
【薬価収載日】2010/09/17
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】閉経後骨粗鬆症
【用法用量】1回20mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1. 深部静脈血栓症，肺塞栓症，網膜静脈血栓症等の静脈血栓塞栓症・その既往。
2. 長期不動状態（術後回復期，長期安静期等）。
3. 抗リン脂質抗体症候群。
4. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
静脈血栓塞栓症（頻度不明）（深部静脈血栓症，肺塞栓症，網膜静脈血栓症，表在性血栓性静脈炎）（下肢の疼痛・浮腫，突然の呼吸困難，息切れ，胸痛，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 霧視・視力低下等の視力障害
皮膚 発疹 蕁麻疹，掻痒症
循環器 血管拡張（ほてり）
消化器 腹痛，口渇 口内乾燥
血液 貧血
肝臓 ALT上昇 AST上昇
精神神経系 傾眠
乳房 線維嚢胞性乳腺疾患
筋・骨格系 筋痙縮（下肢痙攣含む），関節痛
その他 耳鳴 末梢性浮腫 過敏症，トリグリセリド上昇
（表終了）

フオイパン錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】3999003F1297
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】カモスタットメシル酸塩
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】9.9円/1T
【薬価収載日】2005/12/16
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇慢性膵炎の急性症状の緩解
〇術後逆流性食道炎
注意
慢性膵炎の急性症状の緩解
1. 胃液吸引，絶食，絶飲等の食事制限が必要な慢性膵炎の重症患者に投与しない。
術後逆流性食道炎
2. 胃液の逆流による術後逆流性食道炎には，効果が期待できないので使用しない。
【用法用量】慢性膵炎の急性症状の緩解
1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
術後逆流性食道炎
1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

3 代謝性医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，掻痒感等）。
2. 血小板減少（頻度不明）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4. 重篤な高カリウム血症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～0．5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少，赤血球減少 好酸球増多
過敏症 発疹，掻痒等
消化器 嘔気，腹部不快感，腹部膨満感，下痢 食欲不振，嘔吐，口渇，胸やけ，腹痛，便秘
肝臓 AST・ALTの上昇等
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇
その他 浮腫，低血糖
（表終了）

プラケニル錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
毒

【YJコード】3999038F1029
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ヒドロキシクロロキン硫酸塩
【メーカー】製)サノフィ 販)旭化成ファーマ
【薬価】277.3円/1T
【薬価収載日】2015/08/31
【標榜薬効】免疫調整剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮膚エリテマトーデス，全身性エリテマトーデス
注意
皮膚エリテマトーデス
1．限局的な皮膚症状のみを有する皮膚エリテマトーデスに，ステロイド等の外用剤が効果不十分時又は外用剤が適切でない皮膚状態の時，投与を考慮。
全身性エリテマトーデス
2．全身性エリテマトーデスに，皮膚症状，倦怠感等の全身症状，筋骨格系症状等がある時，投与を考慮。
【用法用量】1回200mg又は400mg 1日1回 食後 内服。
1日量はブローカ式桂変法で求められる下記の理想体重に基づく用量。
女性の理想体重（kg）＝（身長（cm）－100）×0．85
男性の理想体重（kg）＝（身長（cm）－100）×0．9
・理想体重が31～46kg未満 1日1回1錠（200mg）を内服。
・理想体重が46～62kg未満 1日1回1錠（200mg）と1日1回2錠（400mg）を1日おきに内服。
・理想体重が62kg以上 1日1回2錠（400mg）を内服。
注意
1．投与後の脂肪組織中濃度は低いことから，実体重で投与時，肥満患者では過量投与となり，網膜障害等の副作用発現リスクが高まる可能性があるため，下表に基づき投与量を決定。
身長（理想体重）と1回量
女性
（表開始）
身長（理想体重（kg））1回量（mg）
136～154cm未満（31～46未満）1錠（200）
154～173cm未満（46～62未満）1錠（200）と2錠（400）を1日おき
173cm以上（62以上）2錠（400）
（表終了）
男性
（表開始）
身長（理想体重（kg））1回量（mg）
134～151cm未満（31～46未満）1錠（200）
151～169cm未満（46～62未満）1錠（200）と2錠（400）を1日おき
169cm以上（62以上）2錠（400）
（表終了）
2．本剤には網膜障害を含む眼障害の発現リスクがあり，1日平均投与量とし6．5mg／kg（理想体重）を超えると発現リスクが高くなる報告あり。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．網膜症（SLE網膜症除く）・黄斑症・それらの既往。
3．低出生体重児，新生児，乳児，6歳未満の幼児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．眼障害（網膜症，黄斑症，黄斑変性）（各頻度不明）（部分的な視野の喪失，一時的な傍中心暗点，輪状暗点，色覚異常）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（5%未満），多形紅斑（頻度不明），紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明），薬剤性過敏症症候群（頻度不明），急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明），急性熱性好中球性皮膚症（頻度不明）。
3．骨髄抑制（血小板減少症，無顆粒球症，白血球減少症，再生不良性貧血）（各頻度不明）。
4．心筋症（頻度不明）（心不全，致死的転帰をたどる心筋症）。
5．ミオパシー，ニューロミオパシー（各頻度不明）（脱力）。
6．意識障害に至る重度の低血糖（頻度不明）。
7．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む）（各頻度不明）。
8．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
消化器 下痢 腹痛，便秘，胃腸炎，口唇炎，鼓腸，胃食道逆流性疾患 嘔吐，嘔気
精神障害 感情不安定，神経過敏，精神症状
神経系障害 頭痛，神経痛，傾眠，肋間神経痛 浮動性眩暈，痙攣，ジストニア・ジスキネジア・振戦等の錐体外路障害
眼 網脈絡膜萎縮，硝子体浮遊物，結膜炎，眼乾燥 視野欠損，網膜色素沈着，色覚異常，角膜浮腫，角膜混濁，霧視，光輪視，羞明
過敏症 蕁麻疹，発疹，全身性皮疹，掻痒症 血管浮腫，気管支痙攣，光線過敏症
皮膚 中毒性皮疹，薬疹，色素沈着障害，皮膚潰瘍，帯状疱疹，爪囲炎 毛髪の変色，脱毛症
呼吸器 気管支炎，口腔咽頭痛
循環器 伝導障害，脚ブロック，房室ブロック，心室肥大
筋・骨格系 腱反射減退，感覚運動障害，神経伝導検査異常
代謝 食欲減退
腎臓 蛋白尿，血尿
肝臓 肝機能検査異常
その他 発熱，腎盂腎炎，蜂巣炎，限局性感染 回転性眩暈，耳鳴，難聴
（表終了）

ブレディニンOD錠25（25mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3999002F3023
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ミゾリビン
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】50.7円/1T
【薬価収載日】2016/12/09
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○腎移植の拒否反応の抑制
○原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群（副腎皮質ホルモン剤のみでは治療困難な時のみ。頻回再発型のネフローゼ症候群除く）
○ループス腎炎（持続性蛋白尿，ネフローゼ症候群，腎機能低下があり，副腎皮質ホルモン剤のみで治療困難な時のみ）
○関節リウマチ（過去の治療で，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬の最低1剤で効果不十分時のみ）
注意
原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群
1．副腎皮質ホルモン剤のみで効果不十分・副作用，合併症等で副腎皮質ホルモン剤の減量が必要な患者のみ使用。特に副腎皮質ホルモン剤の1日投与量がプレドニゾロン換算で20mg以上の患者には，副腎皮質ホルモン剤の減量目的にのみ投与。
ループス腎炎
2．投与は下記の条件をいずれも満たす患者のみ。
（1）．全身性エリテマトーデス（SLE）と診断され，アメリカリウマチ協会の1982年改訂SLE分類基準の4項目以上を満たす。
（2）．ループス腎炎の存在が下記のうち，最低1項目確認（SLE以外の原因による腎障害除く）。
・4週以上の持続性蛋白尿。
・ネフローゼ症候群。
・腎機能低下（クレアチニンクリアランス（Ccr）70mL／分以下又は血清クレアチニン値1．5mg／dL以上）。
（3）．副腎皮質ホルモン剤のみで効果不十分・副作用，合併症等で副腎皮質ホルモン剤の減量が必要な患者。
関節リウマチ
3．活動性関節リウマチのみ投与を考慮。
4．過去，非ステロイド性抗炎症剤で効果不十分，金剤（注射用，経口用），D－ペニシラミン，ブシラミン，ロベンザリットニナトリウム等の抗リウマチ薬を使用して効果不十分，投与中止を必要とする副作用の発現した患者のみ使用。
【用法用量】腎移植の拒否反応の抑制
下記1日量 1日1～3回 分割 内服。用量を慎重に増減。
初期量 2～3mg／kg。
維持量 1～3mg／kg。
原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群，ループス腎炎
成人 1回50mg 1日3回 内服。腎機能の程度により減量等。
使用以前に副腎皮質ホルモン剤が維持投与されている時は，維持量に本剤を上乗せして使用。副腎皮質ホルモン剤の用量は適宜減量。
関節リウマチ
成人 1回50mg 1日3回 内服。適宜増減。腎機能の程度により減量

3 代謝性医薬品

等。
注意
効能共通
1. 腎機能障害 排泄が遅延し，骨髄機能抑制等の重篤な副作用の可能性，低用量から開始等，用量に注意し慎重投与。
原発性糸球体疾患を原因とするネフローゼ症候群
2. 投与開始後6ヵ月を目標とし，尿蛋白，腎機能等を定期的に測定し経過をみながら以降の投与継続可否を検討。1日尿蛋白量，クレアチニンクリアランス，血清総蛋白，その他臨床諸症状の経過を総合的に判定し，改善効果を認め投与継続時は，以後も定期的に尿蛋白，腎機能等を測定しながら投与。病態の急速な進展があれば，中止又は他の治療法を考慮する等の処置。
従来の治療薬剤は継続併用。
関節リウマチ
3. 遅効性で，効果発現まで2～4ヵ月間の継続投与が必要。6ヵ月間継続投与しても効果なければ投与中止。従来の非ステロイド性抗炎症剤は継続併用。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤に重篤な過敏症の既往。
2. 白血球数3000／mm3以下。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な血液障害（骨髄機能抑制（2. 19%）（汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘマトクリット値の低下等））。
2. 感染症（1. 32%）（肺炎，髄膜炎，敗血症，帯状疱疹等），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
3. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常）。
4. 急性腎障害（0. 04%）。
5. 肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（1. 74%）。
6. 消化管潰瘍，消化管出血，消化管穿孔（0. 39%）。
7. 皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死症等の重篤な皮膚障害（頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
8. 膵炎（頻度不明）。
9. 高血糖，糖尿病（0. 11%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 腎機能異常（蛋白尿，血尿，BUN，クレアチニンの上昇等）
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，LAP，ビリルビンの上昇等）
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，腹痛，便秘，口内炎，舌炎 腹部膨満感，軟便，舌苔
過敏症 発疹，掻痒感，発熱
代謝異常 尿酸値の上昇，AI－P上昇 痛風
皮膚 脱毛
精神神経系 眩暈，頭痛，味覚異常，しびれ 眠気，耳鳴，四肢異常知覚
その他 全身倦怠感，浮腫，口渇 ガンマグロブリン低下，動悸，悪寒，ほてり，月経異常，胸痛 眼球充血
（表終了）

ブレディニンOD錠50（50mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3999002F4020
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ミゾリビン
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】80.5円/1T
【薬価収載日】2016/12/09
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○腎移植の拒否反応の抑制
○原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群（副腎皮質ホルモン剤のみでは治療困難な時のみ。頻回再発型のネフローゼ症候群除く）
○ループス腎炎（持続性蛋白尿，ネフローゼ症候群，腎機能低下があり，副腎皮質ホルモン剤のみで治療困難な時のみ）
○関節リウマチ（過去の治療で，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬の最低1剤で効果不十分時のみ）
注意
原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群
1. 副腎皮質ホルモン剤のみで効果不十分・副作用，合併症等で副腎皮質ホルモン剤の減量が必要な患者のみ使用。特に副腎皮質ホルモン剤の1日投与量がプレドニゾロン換算で20mg以上の患者には，副腎皮質ホルモン剤の減量目的にのみ投与。
ループス腎炎
2. 投与は下記の条件をいずれも満たす患者のみ。
（1）. 全身性エリテマトーデス（SLE）と診断され，アメリカリウマチ協会の1982年改訂SLE分類基準の4項目以上を満たす。
（2）. ループス腎炎の存在が下記のうち，最低1項目確認（SLE以外の原因による腎障害除く）。
・4週以上の持続性蛋白尿。
・ネフローゼ症候群。
・腎機能低下（クレアチニンクリアランス（Ccr）70mL／分以下又は血清クレアチニン値1. 5mg／dL以上）。
（3）. 副腎皮質ホルモン剤のみで効果不十分・副作用，合併症等で副腎皮質ホルモン剤の減量が必要な患者。
関節リウマチ
3. 活動性関節リウマチのみ投与を考慮。
4. 過去，非ステロイド性抗炎症剤で効果不十分，金剤（注射用，経口用），D－ペニシラミン，ブシラミン，ロベンザリットニナトリウム等の抗リウマチ薬を使用して効果不十分，投与中止を必要とする副作用の発現した患者のみ使用。
【用法用量】腎移植の拒否反応の抑制
下記1日量 1日1～3回 分割 内服。用量を慎重に増減。
初期量 2～3mg／kg。
維持量 1～3mg／kg。
原発性糸球体疾患が原因のネフローゼ症候群，ループス腎炎
成人 1回50mg 1日3回 内服。腎機能の程度により減量等。
使用以前に副腎皮質ホルモン剤が維持投与されている時は，維持量に本剤を上乗せして使用。副腎皮質ホルモン剤の用量は適宜減量。
関節リウマチ
成人 1回50mg 1日3回 内服。適宜増減。腎機能の程度により減量等。
注意
効能共通
1. 腎機能障害 排泄が遅延し，骨髄機能抑制等の重篤な副作用の可能性，低用量から開始等，用量に注意し慎重投与。
原発性糸球体疾患を原因とするネフローゼ症候群
2. 投与開始後6ヵ月を目標とし，尿蛋白，腎機能等を定期的に測定し経過をみながら以降の投与継続可否を検討。1日尿蛋白量，クレアチニンクリアランス，血清総蛋白，その他臨床諸症状の経過を総合的に判定し，改善効果を認め投与継続時は，以後も定期的に尿蛋白，腎機能等を測定しながら投与。病態の急速な進展があれば，中止又は他の治療法を考慮する等の処置。
従来の治療薬剤は継続併用。
関節リウマチ
3. 遅効性で，効果発現まで2～4ヵ月間の継続投与が必要。6ヵ月間継続投与しても効果なければ投与中止。従来の非ステロイド性抗炎症剤は継続併用。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤に重篤な過敏症の既往。
2. 白血球数3000／mm3以下。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な血液障害（骨髄機能抑制（2. 19%）（汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘマトクリット値の低下等））。
2. 感染症（1. 32%）（肺炎，髄膜炎，敗血症，帯状疱疹等），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
3. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常）。
4. 急性腎障害（0. 04%）。
5. 肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（1. 74%）。
6. 消化管潰瘍，消化管出血，消化管穿孔（0. 39%）。
7. 皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死症等の重篤な皮膚障害（頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
8. 膵炎（頻度不明）。
9. 高血糖，糖尿病（0. 11%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 腎機能異常（蛋白尿，血尿，BUN，クレアチニンの上昇等）
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，LAP，ビリルビンの上昇等）
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，腹痛，便秘，口内炎，舌炎 腹部膨満感，軟便，舌苔
過敏症 発疹，掻痒感，発熱
代謝異常 尿酸値の上昇，AI－P上昇 痛風
皮膚 脱毛
精神神経系 眩暈，頭痛，味覚異常，しびれ 眠気，耳鳴，四肢異常知覚
その他 全身倦怠感，浮腫，口渇 ガンマグロブリン低下，動悸，悪寒，ほてり，月経異常，胸痛 眼球充血
（表終了）

プログラフカプセル0. 5mg（0. 5mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999014M2029
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】タクロリムス水和物

3 代謝性医薬品

【メーカー】製)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】210.4円/1C
【薬価収載日】1996/06/21
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植
○骨髄移植の拒絶反応，移植片対宿主病の抑制
○重症筋無力症
○関節リウマチ（既存治療で効果不十分時のみ）
○ループス腎炎（ステロイド剤の投与が効果不十分，副作用で困難な時）
○難治性（ステロイド抵抗性，ステロイド依存性）の活動期潰瘍性大腸炎（中等症～重症のみ）
○多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
注意
骨髄移植
1. HLA適合同胞間移植では第一選択薬にしない。
重症筋無力症
2. 単独使用時・ステロイド剤未治療例使用時の有効性・安全性は未確立。
関節リウマチ
3. 過去，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬等の治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
ループス腎炎
4. 急性期で疾患活動性の高い時期の有効性・安全性は未確立。
潰瘍性大腸炎
5. 治療指針等を参考に，難治性（ステロイド抵抗性，ステロイド依存性）を確認。
6. 維持療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】腎移植
初期 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。維持量 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
肝移植
初期 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。維持量 1日0．1mg／kg。適宜増減。
心移植
初期 1回0．03～0．15mg／kg 1日2回 内服。拒絶反応発現後に投与開始の時 1回0．075～0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
肺移植
初期 1回0．05～0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
膵移植
初期 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減して有効最少量で維持。
小腸移植
初期 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減して有効最少量で維持。
骨髄移植
移植1日前より 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。移植初期 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。移植片対宿主病発現後に投与開始の時 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
内服時の吸収は個人差あり，血中濃度の高い時の副作用，血中濃度が低い時の拒絶反応，移植片対宿主病の発現を防ぐため，適宜血中濃度を測定。トラフレベルの血中濃度を参考にし投与量を調節。特に移植直後又は投与開始直後は頻回に血中濃度測定を行う。血中トラフ濃度が20ng／mLを超える期間が長いと副作用が発現しやすい。
重症筋無力症
成人 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
関節リウマチ
成人 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。高齢者 1回1．5mgから開始 1日1回 夕食後 内服，症状により 1回3mg 1日1回まで。
ループス腎炎
成人 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
潰瘍性大腸炎
成人 初期 1回0．025mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後2週間，目標血中トラフ濃度を10～15ng／mLとし，血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。2週以降，目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし投与量を調節。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
成人 初期 1回0．0375mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後，目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし，血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。
注意
効能共通
1. 血液中のタクロリムスの多くは赤血球画分に分布，投与量の調節時には全血中濃度を測定。
2. カプセル使用にあたり下記に注意。
（1）．顆粒とカプセルの生物学的同等性は未検証。
（2）．カプセルと顆粒の切りかえ及び併用時，血中濃度を測定することで製剤による吸収の変動がないことを確認。切りかえ又は併用に伴う吸収の変動がみられた時，必要により投与量を調節。
3. 高い血中濃度の持続時に腎障害あり，血中濃度（投与約12時間後）を20ng／mL以下に維持。
4. 他の免疫抑制剤の併用で過度の免疫抑制の可能性。特に，臓器移植において3剤又は4剤の免疫抑制剤を組み合わせた多剤免疫抑制療法では，本剤の初期量を低く設定が可能な場合もあるが，移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
肝移植，腎移植，骨髄移植
5. 市販後の調査で，承認された用量に比べ低用量を投与した成績あり，投与量設定時に考慮。
骨髄移植
6. クレアチニン値が投与前の25％以上上昇した時，本剤の25％以上の減量又は休薬等の処置を考慮。
7. 血中濃度が低い時に移植片対宿主病あり，移植片対宿主病好発時期には血中濃度を10～20ng／mL。
重症筋無力症
8. 副作用を防ぐため，投与開始3ヵ月間は月1回，以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。十分な効果あれば，効果が維持できる用量まで減量。
関節リウマチ
9. 高齢者に投与開始4週後まで1日1．5mgとして安全性を確認後，効果不十分時，1日3mgに増量。増量時，副作用を防ぐため，投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。
ループス腎炎
10. 副作用を防ぐため，投与開始3ヵ月間は月1回，以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。本剤を2ヵ月以上継続投与しても，尿蛋白等の腎炎臨床所見及び免疫学的所見で効果なければ投与中止か，他の治療法に変更。十分な効果あれば，その効果が維持できる用量まで減量。
潰瘍性大腸炎
11. 治療初期は頻回に血中トラフ濃度を測定し投与量を調節するため，入院又はそれに準じた管理下で投与。
12. 1日0．3mg／kgまで，下記に注意し用量を調節。
（1）．初回投与から2週間まで
・初回投与後12時間及び24時間の血中トラフ濃度に基づき，1回目の用量調節を実施。
・1回目の用量調節後2日以上経過後に測定された2点の血中トラフ濃度に基づき，2回目の用量調節を実施。
・2回目の用量調節から1．5日以上経過後に測定された1点の血中トラフ濃度に基づき，2週時（3回目）の用量調節を実施。
（2）．2週以降
・投与開始後2週時（3回目）の用量調節から1週間程度後に血中トラフ濃度を測定し，用量調節を実施。投与開始4週以降は4週間に1回を目安とし，定期的に血中トラフ濃度を測定。
（3）．服薬時の食事条件（食後投与／空腹時投与）が同じ血中トラフ濃度を用いる。
13. カプセル剤のみ用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
14. 2週間投与して臨床症状の改善なければ，投与中止。
15. 3ヵ月までの投与。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
16. 1日0．3mg／kgまで，血中トラフ濃度に基づき投与量を調節。
17. カプセル剤のみ用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
18. 開始時はステロイド剤を併用。症状安定後にはステロイド剤の漸減を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. シクロスポリン・ボセンタンの投与患者。
3. カリウム保持性利尿剤の投与患者。
4. 生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 急性腎障害（0．1～5％未満），ネフローゼ症候群（0．1％未満）。
2. 心不全，心室性・上室性の不整脈，心筋梗塞，狭心症，心膜液貯留，心筋障害（各0．1～5％未満）（ST－T変化，心機能低下，心内腔拡大，壁肥厚等）。
3. 中枢神経系障害（0．1～5％未満）（可逆性後白質脳症症候群，高血圧性脳症等）（全身痙攣，意識障害，錯乱，言語障害，視覚障害，麻痺等）。
4. 脳血管障害（0．1～5％未満）（脳梗塞，脳出血等）。
5. 血栓性微小血管障害（0．1～5％未満）（溶血性尿毒症症候群，血栓性血小板減少性紫斑病等）。
6. 汎血球減少症，血小板減少性紫斑病（各0．1～5％未満），無顆粒球症，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
7. イレウス（0．1～5％未満）。
8. 皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
9. 呼吸困難，急性呼吸窮迫症候群（各0．1～5％未満）。
10. 感染症（15％以上）（細菌性，ウイルス性，真菌性，原虫性感染症），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
11. 進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
12. BKウイルス腎症（頻度不明）。
13. リンパ腫等の悪性腫瘍（0．1～5％未満）（Epstein－Barrウイルスに関連したリンパ増殖性疾患・リンパ腫）（発熱，リンパ節腫大等）。
14. 膵炎（0．1～5％未満）。
15. 糖尿病，糖尿病の悪化（0．1～5％未満），高血糖（15％以上）。
16. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
重症筋無力症
17. クリーゼ（頻度不明）。
関節リウマチ

プログラフカプセル0．5mg

3 代謝性医薬品

18. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 腎障害(BUN上昇, クレアチニン上昇, クレアチニンクリアランス低下, 尿蛋白)(23. 1%) 尿量減少, 血尿, 多尿 頻尿, 残尿感
代謝異常 高カリウム血症, 高尿酸血症, 低マグネシウム血症 アシドーシス, 高コレステロール血症, 高リン酸血症, 低リン酸血症, 高クロール血症, 高カルシウム血症, 低カルシウム血症, 低蛋白血症, 低ナトリウム血症, 低カリウム血症, 高トリグリセリド血症, 尿糖 CK上昇
循環器 血圧上昇 浮腫, 頻脈, 動悸, 心電図異常, 血圧低下 徐脈
精神神経系 振戦 しびれ, 不眠, 失見当識, せん妄, 不安, 頭痛, 感覚異常 眩暈, 眼振, 外転神経麻痺, 四肢硬直, 傾眠, 意識混濁, うつ病, 興奮 運動失調, 幻覚
消化器 腸管運動障害, 食欲不振, 下痢, 腹痛, 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 大腸炎, 口内炎, 悪心, 嘔吐, 腹部膨満感 下血 胸やけ, 消化管出血
膵臓 アミラーゼ上昇
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇)
血液 貧血, 血小板増多, 血小板減少, 白血球増多, 白血球減少 リンパ球減少 好中球減少
皮膚 発疹, 紅斑, 掻痒, 脱毛
その他 胸水, 腹水, 喘息, 発熱, 全身倦怠感, 体重減少, ほてり, 月経過多 咽喉頭異和感, 筋肉痛, 関節痛, 味覚異常 疼痛, 発赤, 眼痛, 多汗, 口渇, 冷感, 胸痛
(表終了)

【副作用】重大な副作用
1. 上部消化管障害(食道穿孔(頻度不明), 食道狭窄(頻度不明), 食道潰瘍(頻度不明), 胃潰瘍(0. 1%未満), 食道炎(頻度不明), 十二指腸潰瘍(0. 1%未満)等)。
2. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
3. 顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
4. 外耳道骨壊死(頻度不明)。
5. 大腿骨転子下, 近位大腿骨骨幹部, 近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 便秘, 上腹部痛 悪心, 胃炎, 下痢, 腹部膨満感, 消化不良(胸やけ), 味覚異常, 口内炎, 口渇, 嘔吐, 食欲不振 軟便, おくび, 舌炎, 十二指腸炎, 鼓腸, 歯肉腫脹
過敏症 掻痒症, 発疹, 紅斑 蕁麻疹, 皮膚炎(水疱性含む), 血管浮腫
肝臓 γ－GTP増加, AST増加, ALT増加 血中AI－P増加 LDH増加
眼 霧視 眼痛, ぶどう膜炎
血液 貧血, 白血球数減少 好中球数減少, リンパ球数増加
精神神経系 眩暈, 頭痛, 感覚減退(しびれ), 傾眠 耳鳴
筋・骨格系 筋・骨格痛(関節痛, 背部痛, 骨痛, 筋痛, 頸部痛等), 血中カルシウム減少
その他 尿潜血陽性 倦怠感, BUN増加, 血中AI－P減少, 血中リン減少, 浮腫(顔面, 四肢等), ほてり, 無力症(疲労, 脱力等), 動悸, 血圧上昇, 発熱 尿中β2ミクログロブリン増加, 脱毛
(表終了)

ベネット錠17. 5mg (17. 5mg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999019F2030
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】リセドロン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】234.1円/1T
【薬価収載日】2007/06/08
【標榜薬効】骨粗鬆症・骨ページェット病治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○骨粗鬆症
○骨ページェット病
注意
骨粗鬆症
1. 日本骨代謝学会の原発性骨粗鬆症の診断基準等を参考に, 確定診断された患者が対象。
骨ページェット病
2. 日本骨粗鬆症学会の「骨Paget病の診断と治療ガイドライン」等を参考に確定診断された患者が対象。
【用法用量】骨粗鬆症
成人 1回17. 5mg 週1回 起床時 水約180mLとともに 内服。
服用後最低30分は横にならず, 水以外の飲食, 他剤の内服も避ける。
骨ページェット病
成人 1回17. 5mg 1日1回 起床時 水約180mLとともに 8週間連日 内服。
服用後最低30分は横にならず, 水以外の飲食, 他剤の内服も避ける。
注意
効能共通
1. 下記を指導。
・水以外の飲料(Ca, Mg等の含量の高いミネラルウォーター含む)や食物, 他剤を同時服用すると, 吸収を妨げる可能性, 起床後, 最初の飲食前に服用し, 服用後最低30分は水以外の飲食を避ける。
・食道炎や食道潰瘍の報告あり, 立位, 坐位で, 十分量(約180mL)の水とともに服用し, 服用後30分は横たわらない。
・就寝時・起床前に服用しない。
・口腔咽頭刺激の可能性, 噛まず, なめずに服用。
・食道疾患の症状(嚥下困難又は嚥下痛, 胸骨後部の痛み, 高度の持続する胸やけ等)の発現時は, 主治医に連絡。
骨粗鬆症
2. 本剤は週1回服用する薬剤であり, 同一曜日に服用。忘れた時は, 翌日に1錠服用し, その後は予定曜日に服用。1日に2錠服用しない。
骨ページェット病
3. 再治療は最低2ヵ月の休薬期間をおき, 生化学所見が正常化しない場合及び症状の進行が明らかな場合にのみ行う。

■禁忌

【禁忌】1. 食道狭窄・アカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害。
2. 本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
3. 低カルシウム血症。
4. 服用時に立位・坐位を30分以上保てない患者。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. 高度な腎機能障害(クレアチニンクリアランス値 約30mL／分未満)。

■副作用

ベネット錠75mg (75mg1錠)

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999019F3037
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】リセドロン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】1442.8円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨粗鬆症
注意
日本骨代謝学会の原発性骨粗鬆症の診断基準等を参考に, 確定診断された患者が対象。
【用法用量】成人 リセドロン酸ナトリウム 1回75mg 月1回 起床時 十分量(約180mL)の水とともに 内服。
服用後最低30分は横にならず, 水以外の飲食, 他剤の内服も避ける。
注意
下記を指導。
・水以外の飲料(Ca, Mg等の含量の高いミネラルウォーター含む)や食物, 他剤を同時服用すると, 吸収を妨げる可能性, 起床後, 最初の飲食前に服用し, 服用後最低30分は水以外の飲食を避ける。
・食道炎や食道潰瘍の報告あり, 立位, 坐位で, 十分量(約180mL)の水とともに服用し, 服用後30分は横たわらない。
・就寝時・起床前に服用しない。
・口腔咽頭刺激の可能性, 噛まず, なめずに服用。
・食道疾患の症状(嚥下困難又は嚥下痛, 胸骨後部の痛み, 高度の持続する胸やけ等)の発現時は, 主治医に連絡。
・月1回服用する薬剤で, 毎月同じ日に服用。忘れた時は, 翌日に1錠服用し, 以後定日に服用。

■禁忌

【禁忌】1. 食道狭窄・アカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害。
2. 本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
3. 低カルシウム血症。
4. 服用時に立位・坐位を30分以上保てない患者。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. 高度な腎機能障害(クレアチニンクリアランス値 約30mL／分未満)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 上部消化管障害(各頻度不明)(食道穿孔, 食道狭窄, 食道潰瘍, 胃潰瘍, 食道炎, 十二指腸潰瘍等)。
2. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
3. 顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
4. 外耳道骨壊死(頻度不明)。
5. 大腿骨転子下, 近位大腿骨骨幹部, 近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢 胃不快感, 胃炎, 上腹部痛 悪心, 嘔吐, 便秘, 消化不良

3 代謝性医薬品

(胸やけ), 腹部膨満感 口内炎, 口渇, 食欲不振, 軟便, おくび, 舌炎, 十二指腸炎, 鼓腸, 味覚異常, 歯肉腫脹
過敏症　蕁麻疹 紅斑, 掻痒症, 発疹, 皮膚炎(水疱性含む), 血管浮腫
肝臓　γ－GTP増加 AST増加, ALT増加, LDH増加, 血中AI－P増加
眼　眼痛, 霧視, ぶどう膜炎
血液　白血球数減少 貧血, 好中球数減少, リンパ球数増加
精神神経系　頭痛　眩暈, 感覚減退(しびれ), 耳鳴, 傾眠
筋・骨格系　筋・骨格痛(関節痛, 背部痛, 骨痛, 筋痛, 頸部痛等)　血中カルシウム減少
その他　発熱 倦怠感, BUN増加, 無力症(疲労, 脱力等), 浮腫(顔面, 四肢等) 尿潜血陽性, 尿中β2ミクログロブリン増加, 血中AI－P減少, 血中リン減少, ほてり, 動悸, 脱毛, 血圧上昇
(表終了)

ベンリスタ皮下注200mgオートインジェクター(200mg1mL1キット)

外　注射　自注　流通
劇

【YJコード】3999445G2023
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ベリムマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】26873円/1kit
【薬価収載日】2017/11/22
【標榜薬効】完全ヒト型抗BLySモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な全身性エリテマトーデス
注意
1．過去, ステロイド, 免疫抑制薬等による全身性エリテマトーデスに対する適切な治療を行っても, 疾患活動性を有する時に, 本剤を上乗せし投与。
2．抗核抗体, 抗dsDNA抗体等の自己抗体が陽性の全身性エリテマトーデスに使用。
3．臨床試験で重症のループス腎炎・重症の中枢神経ループスを有する全身性エリテマトーデスへの有効性・安全性は未検討。
4．臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人
1回200mg　1週間隔　皮下注。
小児
5歳以上　1回200mg　体重により下記の間隔で皮下注。
40kg以上 1週間隔。
15～40kg未満 2週間隔。
注意
1．治療反応は, 開始から6ヵ月以内にある。6ヵ月以内に治療反応なければ, 治療計画の継続を慎重に再考。
2．臨床試験で, 他の生物製剤・シクロホスファミド静注剤との併用の有効性・安全性は未検討。
3．5～18歳未満を対象とした臨床試験成績等を踏まえ, 1回200mgを1週間隔で皮下注した時に曝露量が増加する可能性を考慮し, 15～18歳未満で体重40kg未満では, 1回200mgを2週間隔で皮下注も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な感染症。
3．活動性結核。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な過敏症(頻度不明)(ショック, アナフィラキシー(血圧低下, 蕁麻疹, 血管性浮腫, 呼吸困難等)等)。
2．重篤な感染症(18．1%)(肺炎, 敗血症, 結核等)。
3．進行性多巣性白質脳症(頻度不明)(意識障害, 認知障害, 麻痺症状(片麻痺, 四肢麻痺), 言語障害等)。
4．間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難等)。
5．うつ病(0．3%), 自殺念慮(0．2%), 自殺企図(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満
過敏症　血管性浮腫
皮膚 注射部位反応 発疹, 蕁麻疹
その他 発熱
(表終了)

ボノテオ錠50mg(50mg1錠)

外　内服　流通
劇

【YJコード】3999026F2022
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ミノドロン酸水和物
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】1320.2円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨粗鬆症
注意
日本骨代謝学会の診断基準等を参考に, 確定診断された患者が対象。
【用法用量】成人　1回50mg　4週に1回　起床時　水(又はぬるま湯)約180mLとともに　内服。
服用後最低30分は横にならず, 飲食(水除く), 他剤の内服も避ける。
注意
下記を指導。
1．水(又はぬるま湯)で服用。水以外の飲料(Ca, Mg等の含量の特に高いミネラルウォーター含む), 食物, 他剤と一緒に服用すると, 吸収を妨げる可能性, 起床後, 最初の飲食前に服用し, 服用後最低30分は水以外の飲食を避ける。
2．食道及び局所への副作用の可能性を低下させるため, 速やかに胃内へと到達させることが重要。服用時, 下記に注意。
(1)．口腔咽頭刺激の可能性, 噛んだり又は口中で溶かさない。
(2)．十分量(約180mL)の水(又はぬるま湯)とともに服用し, 服用後30分は横たわらない。
(3)．就寝時・起床前に服用しない。
3．4週に1回服用する薬剤のため, 飲み忘れに注意。服用を忘れた場合は, 翌日に1錠服用。

■禁忌

【禁忌】1．食道狭窄・アカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害。
2．30分以上坐位を保てない患者。
3．本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
4．低カルシウム血症。
5．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．上部消化管障害(十二指腸潰瘍(0．4%), 胃潰瘍(頻度不明)等)。
2．顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
3．外耳道骨壊死(頻度不明)。
4．大腿骨転子下, 近位大腿骨骨幹部, 近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
5．肝機能障害(AST, ALT等の上昇), 黄疸(各頻度不明)。
6．低カルシウム血症(痙攣, テタニー, しびれ, 失見当識, QT延長等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹, 掻痒, アレルギー性皮膚炎
消化器 胃・腹部不快感, 腹痛, 胃炎 逆流性食道炎, 悪心 嘔吐, 下痢, 便秘, 腹部膨満, 消化不良, 食欲不振, 口内炎, 口唇炎, 口渇, 歯肉痛, 口の錯感覚
血液　白血球減少, 赤血球減少, 血小板減少, 単球増加
肝臓　AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇, ビリルビン上昇, AI－P上昇, LDH上昇
腎臓　BUN上昇, 尿酸上昇, クレアチニン上昇
筋・骨格系 AI－P減少　血中カルシウム減少, CK上昇, 筋・骨格痛(関節痛, 背部痛, 筋肉痛, 四肢痛, 疼痛, 骨痛等)
精神神経系　しびれ, 坐骨神経痛, 眩暈, 頭痛
その他　胸痛, コレステロール増加, 脱毛, 膀胱炎, 副鼻腔炎, 倦怠感, 血圧上昇, 血中リン上昇, 血中リン減少, 顔面浮腫, 発熱
(表終了)

マスーレッド錠5mg(5mg1錠)

外　内服　流通
劇

【YJコード】3999055F1022
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】モリデュスタットナトリウム
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】40.8円/1T
【薬価収載日】2021/04/21
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は, 保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満, 血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】保存期慢性腎臓病
赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人　開始量　モリデュスタット　1回25mg　1日1回　食後　内服。
適宜増減, 1回最高200mg。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時

3 代謝性医薬品

成人 開始量 モリデュスタット 1回25mg又は50mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
透析
成人 開始量 モリデュスタット 1回75mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
注意
1．保存期慢性腎臓病患者で，赤血球造血因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
（表開始）
本剤投与量（mg） ダルベポエチン アルファ（μg） ダルベポエチン アルファ（μg） エポエチン ベータ ペゴル（μg） エポエチン アルファ又はベータ（IU） エポエチン アルファ又はベータ（IU）
本剤投与量（mg） 2週に1回 4週に1回 4週に1回 週に1回 2週に1回
25 15以下 30以下 25以下 1500以下 3000以下
50 15超 30超 25超 1500超 3000超
（表終了）
2．投与量調節
用量調整が必要時は，下表を参考に1段階ずつ投与量を増減。
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量（mg） 5 12．5 25 50 75 100 150 200
（表終了）
赤血球造血刺激因子製剤で未治療時，投与開始4週後は［4週時投与量増減表］を，それ以降は［投与量増減表］を参考に投与量を増減。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時，［投与量増減表］を参考に投与量を増減。増量は4週間以上あける。休薬時は，1段階低い用量で投与再開。
［4週時投与量増減表（赤血球造血刺激因子製剤で未治療時）］
（表開始）
4週間のHb値上昇 Hb値 Hb値 用量調節
4週間のHb値上昇 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 血液透析 用量調節
0．5g／dL未満 10．5g／dL未満 9．5g／dL未満 1段階増量
0．5g／dL未満 10．5g／dL以上 9．5g／dL以上 同量を維持
0．5g／dL以上 1g／dL未満 すべての値 すべての値 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL以下 10g／dL以下 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL超 10g／dL超 1段階減量
2g／dL超 すべての値 すべての値 1段階減量
（表終了）
［投与量増減表］
（表開始）
用量調節 用量調節 1段階増量 同量を維持（注1） 1段階減量 休薬（注2）
Hb値 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 11g／dL未満 11g／dL以上 12．5g／dL未満 12．5g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
Hb値 血液透析 10g／dL未満 10g／dL以上 12g／dL未満 12g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
（表終了）
（注1）血栓塞栓症（心筋梗塞，肺血栓塞栓症，出血性脳卒中除く脳卒中，急性下肢虚血）の既往は，Hb値が12g／dLを超えた時，投与量を1段階減量してよい。
（注2）休薬後の再開の目安は，Hb値が保存期慢性腎臓病・腹膜透析で12．5g／dL未満，血液透析で12g／dL未満になった時点。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（0．3%）（脳梗塞（0．3%），心筋梗塞（頻度不明），シャント閉塞（頻度不明）等）。
2．間質性肺疾患（0．5%）（呼吸困難，咳嗽，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 鉄欠乏
精神障害 不眠症
神経系障害 眩暈（浮動性，回転性）
眼障害 眼出血，糖尿病網膜症 結膜炎，眼瞼炎
心臓障害 心嚢液貯留
血管障害 高血圧 血圧低下
胃腸障害 便秘，下痢，悪心，嘔吐，腹痛
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒症
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫
（表終了）

マスーレッド錠75mg（75mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】3999055F4021
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】モリデュスタットナトリウム
【メーカー】製）バイエル薬品
【薬価】386円/1T
【薬価収載日】2021/04/21
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】保存期慢性腎臓病
赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 モリデュスタット 1回25mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 モリデュスタット 1回25mg又は50mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
透析
成人 開始量 モリデュスタット 1回75mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
注意
1．保存期慢性腎臓病患者で，赤血球造血因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
（表開始）
本剤投与量（mg） ダルベポエチン アルファ（μg） ダルベポエチン アルファ（μg） エポエチン ベータ ペゴル（μg） エポエチン アルファ又はベータ（IU） エポエチン アルファ又はベータ（IU）
本剤投与量（mg） 2週に1回 4週に1回 4週に1回 週に1回 2週に1回
25 15以下 30以下 25以下 1500以下 3000以下
50 15超 30超 25超 1500超 3000超
（表終了）
2．投与量調節
用量調整が必要時は，下表を参考に1段階ずつ投与量を増減。
（表開始）
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量（mg） 5 12．5 25 50 75 100 150 200
（表終了）
赤血球造血刺激因子製剤で未治療時，投与開始4週後は［4週時投与量増減表］を，それ以降は［投与量増減表］を参考に投与量を増減。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時，［投与量増減表］を参考に投与量を増減。増量は4週間以上あける。休薬時は，1段階低い用量で投与再開。
［4週時投与量増減表（赤血球造血刺激因子製剤で未治療時）］
（表開始）
4週間のHb値上昇 Hb値 Hb値 用量調節
4週間のHb値上昇 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 血液透析 用量調節
0．5g／dL未満 10．5g／dL未満 9．5g／dL未満 1段階増量
0．5g／dL未満 10．5g／dL以上 9．5g／dL以上 同量を維持
0．5g／dL以上 1g／dL未満 すべての値 すべての値 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL以下 10g／dL以下 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL超 10g／dL超 1段階減量
2g／dL超 すべての値 すべての値 1段階減量
（表終了）
［投与量増減表］
（表開始）
用量調節 用量調節 1段階増量 同量を維持（注1） 1段階減量 休薬（注2）
Hb値 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 11g／dL未満 11g／dL以上 12．5g／dL未満 12．5g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
Hb値 血液透析 10g／dL未満 10g／dL以上 12g／dL未満 12g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
（表終了）
（注1）血栓塞栓症（心筋梗塞，肺血栓塞栓症，出血性脳卒中除く脳卒中，急性下肢虚血）の既往は，Hb値が12g／dLを超えた時，投与量を1段階減量してよい。
（注2）休薬後の再開の目安は，Hb値が保存期慢性腎臓病・腹膜透析で12．5g／dL未満，血液透析で12g／dL未満になった時点。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（0．3%）（脳梗塞（0．3%），心筋梗塞（頻度不明），シャント閉塞（頻度不明）等）。
2．間質性肺疾患（0．5%）（呼吸困難，咳嗽，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 鉄欠乏
精神障害 不眠症
神経系障害 眩暈（浮動性，回転性）
眼障害 眼出血，糖尿病網膜症 結膜炎，眼瞼炎

3 代謝性医薬品

心臓障害 心嚢液貯留
血管障害 高血圧 血圧低下
胃腸障害 便秘，下痢，悪心，嘔吐，腹痛
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒症
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫
（表終了）

ラクツロースシロップ65%「タカタ」（65%1mL）

外 内服 流通

【YJコード】3999001Q2090
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ラクツロース
【メーカー】製)高田製薬 販)日本化薬
【薬価】6.9円/1mL
【薬価収載日】2020/12/10
【標榜薬効】高アンモニア血症・腸管機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇高アンモニア血症に伴う下記の改善
精神神経障害，手指振戦，脳波異常
〇産婦人科術後の排ガス・排便の促進
〇小児の便秘の改善
【用法用量】高アンモニア血症に伴う症候の改善，産婦人科術後の排ガス・排便の促進
高アンモニア血症 成人 1日30～60mL 1日3回 分割 内服。産婦人科術後の排ガス・排便 成人 1日30～60mL 1日2回 分割 朝・夕 内服。
適宜増減。
小児の便秘の改善
1日0．5～2mL／kg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ガラクトース血症。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満
消化器 下痢 悪心，嘔吐，腹痛，腹鳴，鼓腸，食欲不振等
（表終了）

リウマトレックスカプセル2mg（2mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999016M1021
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】メトトレキサート
【メーカー】製)ファイザー 販)武田薬品工業 販)ファイザー製薬
【薬価】106.1円/1C
【薬価収載日】1999/05/07
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】抗リウマチ剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇関節リウマチ
〇局所療法で効果不十分な尋常性乾癬
〇乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
〇関節症状を伴う若年性特発性関節炎
注意
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
下記のいずれかを満たす患者に投与。
・ステロイド外用剤等で効果不十分，皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹，関節症状，膿疱。
【用法用量】関節リウマチ，局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
1週間単位の投与量6mg 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。
適宜増減，1週間単位16mgまで。
関節症状を伴う若年性特発性関節炎
1週間単位の投与量4～10mg／m2 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時 初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。
適宜増減。
注意
関節リウマチ，局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
4～8週間投与しても効果なければ，1回2～4mgずつ増量。増量前は，増量の可否を慎重に判断。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．骨髄抑制。
4．慢性肝疾患。
5．腎障害。
6．授乳婦。
7．胸水，腹水等。
8．活動性結核。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（冷感，呼吸困難，血圧低下等）。
2．骨髄抑制（0．1～5%未満）（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等），白血球減少，血小板減少，貧血等），再生不良性貧血。
3．感染症（0．1～5%未満）（呼吸不全にいたるような肺炎（ニューモシスティス肺炎等含む），敗血症，サイトメガロウイルス感染症，帯状疱疹等の重篤な感染症（日和見感染症含む））。
4．結核（頻度不明）。
5．劇症肝炎，肝不全（各頻度不明），肝組織の壊死・線維化，肝硬変等の重篤な肝障害（B・C型肝炎ウイルス含む）。
6．急性腎障害，尿細管壊死，重症ネフロパチー（各頻度不明）等の重篤な腎障害。
7．間質性肺炎（0．1～5%未満），肺線維症（0．1%未満），胸水（頻度不明）等，呼吸不全（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）等の重篤な皮膚障害（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
9．出血性腸炎，壊死性腸炎（各頻度不明）等の重篤な腸炎（激しい腹痛，下痢等）。
10．膵炎（0．1%未満）。
11．骨粗鬆症（頻度不明）（骨塩量減少等）。
12．脳症（白質脳症含む）（頻度不明）。
13．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知機能障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），構音障害，失語等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，発熱 蕁麻疹
血液 好酸球増多 出血 低ガンマグロブリン血症，リンパ節腫脹
肝臓 肝機能障害（ALT，AST，Al－Pの上昇等）LDHの上昇 黄疸，脂肪肝
腎臓 BUN上昇，血尿，クレアチニンの上昇，蛋白尿
消化器 嘔気，腹痛，下痢，口内炎，食欲不振，嘔吐，舌炎 口唇腫脹，消化管潰瘍・出血 メレナ，イレウス
皮膚 脱毛 紅斑，皮下斑状出血，皮膚潰瘍 光線過敏症，色素沈着，色素脱出，ざ瘡，結節，乾癬病変局面の有痛性糜爛
精神神経系 頭痛，眩暈 意識障害，眠気，目のかすみ，しびれ感，味覚異常 項部緊張，背部痛，錯感覚
呼吸器 咳嗽，呼吸困難
生殖器 無精子症，卵巣機能不全，月経不全，流産
その他 倦怠感，動悸，胸部圧迫感，低蛋白血症，血清アルブミン減少，浮腫 膀胱炎，結膜炎，関節痛 耳下腺炎，悪寒
（表終了）

リンヴォック錠15mg（15mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999048G2024
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ウパダシチニブ水和物
【メーカー】製)アッヴィ
【薬価】4325.8円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
〇関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止含む）
〇乾癬性関節炎
〇X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
〇強直性脊椎炎
〇アトピー性皮膚炎（注）
〇中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
〇中等症・重症の活動期クローン病の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
（注）最適使用推進ガイドライン対象

3 代謝性医薬品

注意
関節リウマチ
1. 過去，メトトレキサート等最低1剤の抗リウマチ薬等の治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
乾癬性関節炎
2. 既存の全身療法（従来型合成疾患修飾性抗リウマチ薬等）で効果不十分，難治性の関節症状を有する患者に投与。
X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
3. 過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）の治療を行っても，疾患による臨床症状・炎症の客観的徴候がある時に投与。
強直性脊椎炎
4. 過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
アトピー性皮膚炎
5. ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤等の抗炎症外用剤の治療を一定期間施行しても，効果不十分，強い炎症を伴う皮疹が広範囲の患者に使用。
6. アトピー性皮膚炎の病変部位の状態に応じて抗炎症外用剤を併用。
7. 本剤投与時も保湿外用剤を継続使用。
潰瘍性大腸炎
8. 過去，他の薬物療法（5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，免疫調節薬又は生物製剤）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
クローン病
9. 過去，栄養療法，他の薬物療法（ステロイド，免疫調節薬，生物製剤）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
【用法用量】関節リウマチ
成人　1回15mg　1日1回　内服。患者の状態により，1回7．5mg　1日1回まで。
乾癬性関節炎，X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎，強直性脊椎炎
成人　1回15mg　1日1回　内服。
アトピー性皮膚炎
成人・12歳以上かつ体重30kg以上の小児　1回15mg　1日1回　内服。患者の状態により，1回30mg　1日1回まで。
潰瘍性大腸炎
導入療法 成人　1回45mg　1日1回　8週間　内服。効果不十分時　さらに8週間投与できる。
維持療法 成人　1回15mg　1日1回　内服。患者の状態により，1回30mg　1日1回まで。
クローン病
導入療法 成人　1回45mg　1日1回　12週間　内服。
維持療法 成人　1回15mg　1日1回　内服。患者の状態により，1回30mg　1日1回まで。
注意
効能共通
1. 免疫抑制作用の増強で感染症のリスク増加の可能性，適応疾患の生物製剤，他の経口ヤヌスキナーゼ阻害剤，タクロリムス，シクロスポリン，アザチオプリン，ミゾリビン等の免疫抑制剤（局所製剤以外）と併用しない。本剤とこれらの併用経験はない。
乾癬性関節炎
2. 治療反応なければ，治療計画の継続を再考。治療反応は，投与開始から12週以内にあり。
X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎，強直性脊椎炎
3. 治療反応なければ，治療計画の継続を再考。治療反応は，投与開始から16週以内にあり。
アトピー性皮膚炎
4. 強いCYP3A4阻害剤を継続的に投与中は，1回15mg　1日1回。
5. 高度の腎機能障害は，1回15mg　1日1回。
6. 治療反応は，開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，用量調節・投与中止を考慮。
潰瘍性大腸炎
7. 強いCYP3A4阻害剤と併用時は，導入療法では1回30mg　1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
8. 高度の腎機能障害には導入療法では1回30mg　1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
9. 本剤の導入療法の開始後16週時点で治療反応なければ，他の治療への切りかえを考慮。
クローン病
10. 強いCYP3A4阻害剤と併用時は，導入療法では1回30mg　1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
11. 高度の腎機能障害には導入療法では1回30mg　1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
12. 導入療法後に1回30mg　1日1回投与し，投与開始24週後までに治療反応なければ，他の治療への切りかえを考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な感染症（敗血症等）。
3. 活動性結核。
4. 重度の肝機能障害。
5. 好中球数が1000／mm3未満。
6. リンパ球数が500／mm3未満。
7. ヘモグロビン値が8g／dL未満。
8. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症（日和見感染症含む）（帯状疱疹（4．9%），肺炎（1．1%），結核（頻度不明）等）。
2. 消化管穿孔（0．1%未満）。
3. 好中球減少（2．9%），リンパ球減少（1．7%），ヘモグロビン減少（0．5%）。
4. 肝機能障害（ALT上昇（2．9%），AST上昇（2．3%）等）。
5. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
6. 静脈血栓塞栓症（肺塞栓症（0．1%），深部静脈血栓症（0．1%未満））。
7. 重篤な過敏症（アナフィラキシー（頻度不明），血管浮腫（0．1%未満））。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
消化器 － 悪心，腹痛（上腹部痛含む） －
呼吸器 － 咳嗽 －
感染症 上気道感染（急性副鼻腔炎，喉頭炎，ウイルス性喉頭炎，上咽頭炎，口腔咽頭痛，咽頭膿瘍，咽頭炎，レンサ球菌性咽頭炎，咽頭扁桃炎，気道感染，ウイルス性気道感染，鼻炎，鼻喉頭炎，副鼻腔炎，扁桃炎，細菌性扁桃炎，ウイルス性咽頭炎，ウイルス性上気道感染含む） 気管支炎（ウイルス性気管支炎，細菌性気管支炎，気管気管支炎含む），単純ヘルペス（陰部ヘルペス，陰部単純ヘルペス，ヘルペス性皮膚炎，ヘルペス眼感染，鼻ヘルペス，眼部単純ヘルペス，ヘルペスウイルス感染，口腔ヘルペス含む），インフルエンザ，毛包炎 口腔カンジダ症
皮膚・皮下組織 － ざ瘡（嚢胞性ざ瘡，ざ瘡様皮膚炎含む），発疹（紅斑性皮疹，毛孔性皮疹，斑状皮疹，斑状丘疹状皮疹，丘疹性皮疹，掻痒性皮疹，膿疱性皮疹含む） 蕁麻疹，皮膚有棘細胞癌，基底細胞癌，皮膚乳頭腫
神経系障害 － 頭痛 －
一般・全身障害・投与部位の状態 － － 発熱，疲労
臨床検査値 － CK上昇，高コレステロール血症（血中コレステロール増加含む），高脂血症（脂質異常症，低比重リポ蛋白増加含む） 高トリグリセリド血症，体重増加
（表終了）

リンヴォック錠7．5mg（7．5mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】3999048G1028
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ウパダシチニブ水和物
【メーカー】(製)アッヴィ
【薬価】2205.4円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
〇関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止含む）
〇乾癬性関節炎
〇X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
〇強直性脊椎炎
〇アトピー性皮膚炎（注）
〇中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
〇中等症・重症の活動期クローン病の寛解導入・維持療法（既存治療で効果不十分時のみ）
（注）最適使用推進ガイドライン対象
注意
関節リウマチ
1. 過去，メトトレキサート等最低1剤の抗リウマチ薬等の治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
乾癬性関節炎
2. 既存の全身療法（従来型合成疾患修飾性抗リウマチ薬等）で効果不十分，難治性の関節症状を有する患者に投与。
X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
3. 過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）の治療を行っても，疾患による臨床症状・炎症の客観的徴候がある時に投与。
強直性脊椎炎
4. 過去，既存治療薬（非ステロイド性抗炎症薬等）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
アトピー性皮膚炎
5. ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤等の抗炎症外用剤の治療を一定期間施行しても，効果不十分，強い炎症を伴う皮疹が広範囲の患者に使用。
6. アトピー性皮膚炎の病変部位の状態に応じて抗炎症外用剤を併用。
7. 本剤投与時も保湿外用剤を継続使用。
潰瘍性大腸炎
8. 過去，他の薬物療法（5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，免疫調節薬又は生物製剤）の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
クローン病
9. 過去，栄養療法，他の薬物療法（ステロイド，免疫調節薬，生物製剤）等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
【用法用量】関節リウマチ

3 代謝性医薬品

成人 1回15mg 1日1回 内服。患者の状態により，1回7．5mg 1日1回まで。
乾癬性関節炎，X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎，強直性脊椎炎
成人 1回15mg 1日1回 内服。
アトピー性皮膚炎
成人・12歳以上かつ体重30kg以上の小児 1回15mg 1日1回 内服。患者の状態により，1回30mg 1日1回まで。
潰瘍性大腸炎
導入療法 成人 1回45mg 1日1回 8週間 内服。効果不十分時 さらに8週間投与できる。
維持療法 成人 1回15mg 1日1回 内服。患者の状態により，1回30mg 1日1回まで。
クローン病
導入療法 成人 1回45mg 1日1回 12週間 内服。
維持療法 成人 1回15mg 1日1回 内服。患者の状態により，1回30mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．免疫抑制作用の増強で感染症のリスク増加の可能性，適応疾患の生物製剤，他の経口ヤヌスキナーゼ阻害剤，タクロリムス，シクロスポリン，アザチオプリン，ミゾリビン等の免疫抑制剤（局所製剤以外）と併用しない。本剤とこれらの併用経験はない。
乾癬性関節炎
2．治療反応なければ，治療計画の継続を再考。治療反応は，投与開始から12週以内にあり。
X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎，強直性脊椎炎
3．治療反応なければ，治療計画の継続を再考。治療反応は，投与開始から16週以内にあり。
アトピー性皮膚炎
4．強いCYP3A4阻害剤を継続的に投与中は，1回15mg 1日1回。
5．高度の腎機能障害は，1回15mg 1日1回。
6．治療反応は，開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応なければ，用量調節・投与中止を考慮。
潰瘍性大腸炎
7．強いCYP3A4阻害剤と併用時は，導入療法では1回30mg 1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
8．高度の腎機能障害には導入療法では1回30mg 1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
9．本剤の導入療法の開始後16週時点で治療反応なければ，他の治療への切りかえを考慮。
クローン病
10．強いCYP3A4阻害剤と併用時は，導入療法では1回30mg 1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
11．高度の腎機能障害には導入療法では1回30mg 1日1回。維持療法では本剤30mgは投与しない。
12．導入療法後に1回30mg 1日1回投与し，投与開始24週後までに治療反応なければ，他の治療への切りかえを考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な感染症（敗血症等）。
3．活動性結核。
4．重度の肝機能障害。
5．好中球数が1000／mm3未満。
6．リンパ球数が500／mm3未満。
7．ヘモグロビン値が8g／dL未満。
8．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な感染症（日和見感染症含む）（帯状疱疹（4．9%），肺炎（1．1%），結核（頻度不明）等）。
2．消化管穿孔（0．1%未満）。
3．好中球減少（2．9%），リンパ球減少（1．7%），ヘモグロビン減少（0．5%）。
4．肝機能障害（ALT上昇（2．9%），AST上昇（2．3%）等）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
6．静脈血栓塞栓症（肺塞栓症（0．1%），深部静脈血栓症（0．1%未満））。
7．重篤な過敏症（アナフィラキシー（頻度不明），血管浮腫（0．1%未満））。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
消化器 ― 悪心，腹痛（上腹部痛含む） ―
呼吸器 ― 咳嗽 ―
感染症 上気道感染（急性副鼻腔炎，喉頭炎，ウイルス性喉頭炎，上咽頭炎，口腔咽頭痛，咽頭膿瘍，咽頭炎，レンサ球菌性咽頭炎，咽頭扁桃炎，気道感染，ウイルス性気道感染，鼻炎，鼻喉頭炎，副鼻腔炎，扁桃炎，細菌性扁桃炎，ウイルス性咽頭炎，ウイルス性上気道感染含む）気管支炎（ウイルス性気管支炎，細菌性気管支炎，気管気管支炎含む），単純ヘルペス（陰部ヘルペス，陰部単純ヘルペス，ヘルペス性皮膚炎，ヘルペス眼感染，鼻ヘルペス，眼部単純ヘルペス，ヘルペスウイルス感染，口腔ヘルペス含む），インフルエンザ，毛包炎 口腔カンジダ症
皮膚・皮下組織 ― ざ瘡（嚢胞性ざ瘡，ざ瘡様皮膚炎含む），発疹（紅斑性皮疹，毛孔性皮疹，斑状皮疹，斑状丘疹状皮疹，丘疹性皮疹，掻痒性皮疹，膿疱性皮疹含む） 蕁麻疹，皮膚有棘細胞癌，基底細胞癌，皮膚乳頭腫
神経系障害 ― 頭痛 ―
一般・全身障害・投与部位の状態 ― ― 発熱，疲労
臨床検査値 ― CK上昇，高コレステロール血症（血中コレステロール増加含む），高脂血症（脂質異常症，低比重リポ蛋白増加含む）高トリグリセリド血症，体重増加
（表終了）

リンヴォック錠7．5mg

4 組織細胞機能用医薬品

4 組織細胞機能用医薬品

4．2 腫瘍用薬

4．2．1 アルキル化剤

エンドキサン錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4211002F1044
【薬効分類】4．2．1 アルキル化剤
【一般名】シクロホスファミド水和物
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】21.6円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の自覚的・他覚的症状の緩解
多発性骨髄腫，悪性リンパ腫(ホジキン病，リンパ肉腫，細網肉腫)，乳癌
急性白血病，真性多血症，肺癌，神経腫瘍(神経芽腫，網膜芽腫)，骨腫瘍
下記は，他の抗腫瘍剤と併用
慢性リンパ性白血病，慢性骨髄性白血病，咽頭癌，胃癌，膵癌，肝癌，結腸癌，子宮頸癌，子宮体癌，卵巣癌，睾丸腫瘍，絨毛性疾患(絨毛癌，破壊胞状奇胎，胞状奇胎)，横紋筋肉腫，悪性黒色腫
2．細胞移植に伴う免疫反応の抑制
3．全身性ALアミロイドーシス
4．治療抵抗性の下記リウマチ性疾患
全身性エリテマトーデス，全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，結節性多発動脈炎，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症，高安動脈炎等)，多発性筋炎／皮膚筋炎，強皮症，混合性結合組織病，及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患
5．ネフローゼ症候群(副腎皮質ホルモン剤による治療で効果不十分時のみ)
注意
ネフローゼ症候群
診療ガイドラインの最新の情報を参考に，投与が適切な患者に投与。
【用法用量】自覚的・他覚的症状の緩解
1．単独使用時
成人 1日100～200mg 内服。
適宜増減。
2．他の抗腫瘍剤を併用時
単独使用時に準じ，適宜減量。
細胞移植に伴う免疫反応の抑制
再生医療等製品の用法・用量，使用方法に基づき使用。
全身性ALアミロイドーシス
他剤との併用時 成人 1回300mg／m2 週1回 内服。1回500mgまで。
治療抵抗性のリウマチ性疾患
成人 1日50～100mg 内服。
適宜増減。
ネフローゼ症候群
成人 1日50～100mg 8～12週間 内服。
適宜増減。
小児 1日2～3mg／kg 8～12週間 内服。
適宜増減，1日100mgまで。総量300mg／kgまで。
注意
ネフローゼ症候群
投与スケジュールは，国内のガイドライン等の最新の情報を参考。

■禁忌

【禁忌】1．ペントスタチンの投与患者。
2．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
3．重症感染症の合併。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，喘鳴，蕁麻疹，不快感等)。
2．骨髄抑制(頻度不明)(汎血球減少，貧血，白血球減少，血小板減少，出血)。
3．出血性膀胱炎，排尿障害(各頻度不明)。
4．イレウス，胃腸出血(0．1～5%未満)。
5．間質性肺炎，肺線維症(0．1～5%未満)。
6．心筋障害，心不全(0．1～5%未満)。
7．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
9．肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
10．急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
11．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
肝臓 肝障害，黄疸，コリンエステラーゼ値の低下等
腎臓 乏尿による尿浸透圧の上昇，蛋白尿，浮腫等
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，味覚異常，口渇，潰瘍性口内炎，胸やけ，おくび，腹部膨満感，腹痛，便秘，下痢等
過敏症 発疹等
皮膚 脱毛，皮膚炎，色素沈着，爪の変形・変色等
精神神経系 倦怠感 頭痛，眩暈，不眠 運動失調等
呼吸器 肺水腫等
循環器 心電図異常，心悸亢進，低血圧等
内分泌 副腎皮質機能不全，甲状腺機能亢進等
性腺 無精子症，卵巣機能不全，無月経等
その他 低ナトリウム血症 発熱，創傷の治癒遅延，高血糖，CK上昇
(表終了)

4．2．2 代謝拮抗剤

5－FU軟膏5%協和（5%1g）

外 外用 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4223701M1047
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】フルオロウラシル
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】225.1円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗腫瘍剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮膚悪性腫瘍(有棘細胞癌，基底細胞癌，皮膚附属器癌，皮膚転移癌，ボーエン病，パジェット病，放射線角化腫，老人性角化腫，紅色肥厚症，皮膚細網症，悪性リンパ腫の皮膚転移)
【用法用量】1日1～2回 塗布。
閉鎖密封療法を行う。

■副作用

【副作用】重大な副作用
皮膚塗布部の激痛(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚 色素沈着，発赤，局所の出血傾向 爪の変形，皮膚炎 光線過敏症，爪の変色
(表終了)

ティーエスワン配合OD錠T20（20mg1錠（テガフール相当量））

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101F1026
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】297.5円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1．術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2．術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法

4 組織細胞機能用医薬品

3. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4. 臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法　使用。
A法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　28日間連日　内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　21日間連日　内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　14日間連日　内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　14日間連日　内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　7日間連日　内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2）初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
F法 成人　初回量（1回量）　体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回　朝・夕食後　14日間連日　内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2）初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 朝　40，夕　20
1．25～1．5未満 40
1．5以上 50
（表終了）
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人　下記投与量　1日2回　朝・夕食後　14日間連日　内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
（表開始）
体表面積（m2）初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
注意
効能共通
1．治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立（使用経験はない）。
2．骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3．基礎的検討（動物）で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4．本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5．投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6．A法の増減時，下記量を参考。
（表開始）
減量 初回基準量（mg／回）増量（mg／回）
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
（表終了）
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7．初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8．他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9．クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（注）（mL／分）体表面積（m2）1回量（テガフール量）（mg／回）
50～80未満 1．25未満 朝　20 夕　40
50～80未満 1．25以上1．5未満 40
50～80未満 1．5以上 50
（表終了）
（注）実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値（Ccr推定値）を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝（（140－年齢）×体重（kg））／（72×血清クレアチニン（mg／dL））（女性は得られた値を0．85倍する）。
10．クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．重篤な骨髄抑制。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤（これらの薬剤との併用療法含む）の投与患者。
6．フルシトシンの投与患者。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な骨髄抑制（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，倦怠感等）（各頻度不明），白血球減少（46．7%），貧血（頻度不明），血小板減少（15．7%）等），溶血性貧血（頻度不明）。
2．DIC（0．4%）（血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常）。
3．劇症肝炎等の重篤な肝障害（B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む）（頻度不明）。
4．激しい下痢，脱水症状（頻度不明）。
5．重篤な腸炎（0．5%）（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等）（激しい腹痛・下痢等）。
6．間質性肺炎（0．3%）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
7．心筋梗塞，狭心症，不整脈（心室頻拍等含む），心不全（各頻度不明）（胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等）。
8．重篤な口内炎（頻度不明），消化管潰瘍（0．5%），消化管出血（0．3%），消化管穿孔（頻度不明）。
9．急性腎障害，ネフローゼ症候群（頻度不明）。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
11．白質脳症（意識障害，小脳失調，認知症様症状等）等含む精神神経障害（意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害（各頻度不明）等）。
12．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等）。
13．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
14．嗅覚障害（0．1%），嗅覚脱失（頻度不明）。
15．涙道閉塞（頻度不明）（流涙等）。
16．肝硬変（プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下等）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，好中球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少，リンパ球減少 出血傾向（皮下出血斑，鼻出血，凝固因子異常），好酸球増多，白血球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓　BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，味覚異常 腸管閉塞，イレウス，腹痛，腹部膨満感，心窩部痛，胃炎，腹鳴，白色便，便秘，口角炎，口唇炎，舌炎，口渇
皮膚 色素沈着 紅斑，落屑，潮紅，水疱，手足症候群，皮膚潰瘍，皮膚炎，脱毛，爪の異常，爪囲炎，単純疱疹，皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症，DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ，頭痛，頭重感，眩暈 ふらつき，末梢性ニューロパチー
循環器　血圧低下，血圧上昇，心電図異常，レイノー症状 動悸
眼　流涙，結膜炎，角膜炎，角膜糜爛，眼痛，視力低下，眼乾燥 角膜潰瘍，角膜混濁，輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇，総蛋白減少，アルブミン低下 発熱，全身熱感，鼻炎，咽頭炎，痰，糖尿，血糖値上昇，浮腫，筋肉痛，CK上昇，関節痛，電解質異常（血清ナトリウム上昇，血清ナトリウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下），体重減少 血清アミラーゼ値上昇
（表終了）

ティーエスワン配合OD錠T25（25mg1錠（テガフール相当量））

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4229101F2022

4 組織細胞機能用医薬品

【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】(製)大鵬薬品工業
【薬価】367円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1．術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2．術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3．術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4．臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法 使用。
A法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
(表終了)
F法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1．25未満 朝 40，夕 20
1．25～1．5未満 40
1．5以上 50
(表終了)
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール) (mg／回)
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
(表終了)
注意
効能共通
1．治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立(使用経験はない)。
2．骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3．基礎的検討(動物)で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4．本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5．投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6．A法の増減時，下記量を参考。
(表開始)
減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7．初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8．他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9．クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注)(mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量)(mg／回)
50～80未満 1．25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1．25以上1．5未満 40
50～80未満 1．5以上 50
(表終了)
(注)実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値(Ccr推定値)を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝((140－年齢)×体重(kg))／(72×血清クレアチニン(mg／dL))
(女性は得られた値を0．85倍する)。
10．クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．重篤な骨髄抑制。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(これらの薬剤との併用療法含む)の投与患者。
6．フルシトシンの投与患者。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な骨髄抑制(汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，倦怠感等)(各頻度不明)，白血球減少(46．7%)，貧血(頻度不明)，血小板減少(15．7%)等)，溶血性貧血(頻度不明)。
2．DIC(0．4%)(血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常)。
3．劇症肝炎等の重篤な肝障害(B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む)(頻度不明)。
4．激しい下痢，脱水症状(頻度不明)。
5．重篤な腸炎(0．5%)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6．間質性肺炎(0．3%)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
7．心筋梗塞，狭心症，不整脈(心室頻拍等含む)，心不全(各頻度不明)(胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等)。
8．重篤な口内炎(頻度不明)，消化管潰瘍(0．5%)，消化管出血(0．3%)，消化管穿孔(頻度不明)。
9．急性腎障害，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
11．白質脳症(意識障害，小脳失調，認知症様症状等)等含む精神神経障害(意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害(各頻度不明)等)。
12．急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等)。
13．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
14．嗅覚障害(0．1%)，嗅覚脱失(頻度不明)。
15．涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16．肝硬変(プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，好中球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少，リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑，鼻出血，凝固因子異常)，好酸球増多，白血球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，味覚異常 腸管閉塞，イレウス，腹痛，腹部膨満感，心窩部痛，胃炎，腹鳴，白色便，便秘，口角炎，口唇炎，舌炎，口渇
皮膚 色素沈着 紅斑，落屑，潮紅，水疱，手足症候群，皮膚潰瘍，皮膚炎，脱毛，爪の異常，爪囲炎，単純疱疹，皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症，DLE様皮疹

ティーエスワン配合OD錠T25

4 組織細胞機能用医薬品

過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ，頭痛，頭重感，眩暈 ふらつき，末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下，血圧上昇，心電図異常，レイノー症状 動悸
眼 流涙，結膜炎，角膜炎，角膜糜爛，眼痛，視力低下，眼乾燥 角膜潰瘍，角膜混濁，輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇，総蛋白減少，アルブミン低下 発熱，全身熱感，鼻炎，咽頭炎，痰，糖尿，血糖値上昇，浮腫，筋肉痛，CK上昇，関節痛，電解質異常(血清ナトリウム上昇，血清ナトリウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下)，体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

ティーエスワン配合カプセルT20（20mg1カプセル(テガフール相当量)）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101M1033
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】297.5円/1C
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1．術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2．術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3．術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4．臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法 使用。
A法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
(表終了)
F法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1．25未満 朝 40，夕 20
1．25～1．5未満 40
1．5以上 50
(表終了)
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
(表終了)
注意
効能共通
1．治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立(使用経験はない)。
2．骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3．基礎的検討(動物)で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4．本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。
胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5．投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6．A法の増減時，下記量を参考。
(表開始)
減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7．初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8．他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9．クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注)(mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量)(mg／回)
50～80未満 1．25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1．25以上1．5未満 40
50～80未満 1．5以上 50
(表終了)
(注)実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値(Ccr推定値)を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝((140－年齢)×体重(kg))／(72×血清クレアチニン(mg／dL))
(女性は得られた値を0．85倍する)。
10．クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．重篤な骨髄抑制。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(これらの薬剤との併用療法含む)の投与患者。
6．フルシトシンの投与患者。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な骨髄抑制(汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，倦怠感等)(各頻度不明)，白血球減少(46．7%)，貧血(頻度不明)，血小板減少(15．7%)等)，溶血性貧血(頻度不明)。
2．DIC(0．4%)(血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常)。
3．劇症肝炎等の重篤な肝障害(B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む)(頻度不明)。
4．激しい下痢，脱水症状(頻度不明)。
5．重篤な腸炎(0．5%)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6．間質性肺炎(0．3%)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
7．心筋梗塞，狭心症，不整脈(心室頻拍等含む)，心不全(各頻度不明)(胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等)。
8．重篤な口内炎(頻度不明)，消化管潰瘍(0．5%)，消化管出血(0．3%)，消化管穿孔(頻度不明)。
9．急性腎障害，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
11．白質脳症(意識障害，小脳失調，認知症様症状等)等含む精神神経障害(意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害(各頻度不明)等)。
12．急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等)。

4 組織細胞機能用医薬品

13. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
14. 嗅覚障害(0. 1%), 嗅覚脱失(頻度不明)。
15. 涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16. 肝硬変(プロトロンビン時間延長, アルブミン低下, コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少, 好中球減少, 血小板減少, 赤血球減少, ヘモグロビン減少, ヘマトクリット値減少, リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑, 鼻出血, 凝固因子異常), 好酸球増多, 白血球増多
肝臓 AST上昇, ALT上昇, ビリルビン上昇, AI－P上昇 黄疸, 尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇, 蛋白尿, 血尿
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢, 口内炎, 味覚異常 腸管閉塞, イレウス, 腹痛, 腹部膨満感, 心窩部痛, 胃炎, 腹鳴, 白色便, 便秘, 口角炎, 口唇炎, 舌炎, 口渇
皮膚 色素沈着 紅斑, 落屑, 潮紅, 水疱, 手足症候群, 皮膚潰瘍, 皮膚炎, 脱毛, 爪の異常, 爪囲炎, 単純疱疹, 皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症, DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ, 頭痛, 頭重感, 眩暈 ふらつき, 末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下, 血圧上昇, 心電図異常, レイノー症状 動悸
眼 流涙, 結膜炎, 角膜炎, 角膜糜爛, 眼痛, 視力低下, 眼乾燥 角膜潰瘍, 角膜混濁, 輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇, 総蛋白減少, アルブミン低下 発熱, 全身熱感, 鼻炎, 咽頭炎, 痰, 糖尿, 血糖値上昇, 浮腫, 筋肉痛, CK上昇, 関節痛, 電解質異常(血清ナトリウム上昇, 血清ナトリウム低下, 血清カリウム上昇, 血清カリウム低下, 血清カルシウム上昇, 血清カルシウム低下, 血清クロール上昇, 血清クロール低下), 体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

ティーエスワン配合カプセルT25（25mg1カプセル(テガフール相当量)）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101M2030
【薬効分類】4. 2. 2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】367円/1C
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌, ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1. 術後補助療法として, 有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2. 術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4. 臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌
胃癌 A法, B法, C法, 結腸・直腸癌 A法, C法, D法, 頭頸部癌 A法, 非小細胞肺癌 A法, B法, C法, 手術不能・再発乳癌 A法, 膵癌 A法, C法, 胆道癌 A法, E法, F法 使用。
A法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜増減。
増量は, 投与による臨床検査値異常(血液検査, 肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず, 安全性に問題がなく, 増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし, 1回75mgまで。
B法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
F法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
F法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 朝 40, 夕 20
1. 25～1. 5未満 40
1. 5以上 50
(表終了)
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間, 繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
注意
効能共通
1. 治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は, 臨床検査値異常(血液検査, 肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず, 安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立(使用経験はない)。
2. 骨髄抑制, 劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため, 異常時は休薬期間の延長, 減量, 投与中止等の処置。
3. 基礎的検討(動物)で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し, フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4. 本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。
胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌
5. 投与スケジュール, 周術期治療の投与期間, 腎機能に応じた投与量, 他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については, 国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6. A法の増減時, 下記量を参考。
(表開始)
減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと, 一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7. 初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9. クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は, 下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注)(mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量)(mg／回)
50～80未満 1. 25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1. 25以上1. 5未満 40
50～80未満 1. 5以上 50
(表終了)
(注)実測値が無い時は, 投与前血清クレアチニン値, 性別, 年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値(Ccr推定値)を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝((140－年齢)×体重(kg))／(72×血清クレアチニン(mg／dL))
(女性は得られた値を0. 85倍する)。
10. クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. 重篤な骨髄抑制。
3. 重篤な腎障害。
4. 重篤な肝障害。
5. 他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(これらの薬剤との併用療法含む)の投与患者。
6. フルシトシンの投与患者。
7. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用

4 組織細胞機能用医薬品

1. 重篤な骨髄抑制(汎血球減少, 無顆粒球症(発熱, 咽頭痛, 倦怠感等)(各頻度不明), 白血球減少(46. 7%), 貧血(頻度不明), 血小板減少(15. 7%)等), 溶血性貧血(頻度不明)。
2. DIC(0. 4%)(血小板数, 血清FDP値, 血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常)。
3. 劇症肝炎等の重篤な肝障害(B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む)(頻度不明)。
4. 激しい下痢, 脱水症状(頻度不明)。
5. 重篤な腸炎(0. 5%)(出血性腸炎, 虚血性腸炎, 壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6. 間質性肺炎(0. 3%)(咳嗽, 息切れ, 呼吸困難, 発熱等)。
7. 心筋梗塞, 狭心症, 不整脈(心室頻拍等含む), 心不全(各頻度不明)(胸痛, 失神, 動悸, 心電図異常, 息切れ等)。
8. 重篤な口内炎(頻度不明), 消化管潰瘍(0. 5%), 消化管出血(0. 3%), 消化管穿孔(頻度不明)。
9. 急性腎障害, ネフローゼ症候群(頻度不明)。
10. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
11. 白質脳症(意識障害, 小脳失調, 認知症様症状等)等含む精神神経障害(意識障害, 失見当識, 傾眠, 記憶力低下, 錐体外路症状, 言語障害, 四肢麻痺, 歩行障害, 尿失禁, 知覚障害(各頻度不明)等)。
12. 急性膵炎(頻度不明)(腹痛, 血清アミラーゼ値の上昇等)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
14. 嗅覚障害(0. 1%), 嗅覚脱失(頻度不明)。
15. 涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16. 肝硬変(プロトロンビン時間延長, アルブミン低下, コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少, 好中球減少, 血小板減少, 赤血球減少, ヘモグロビン減少, ヘマトクリット値減少, リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑, 鼻出血, 凝固因子異常), 好酸球増多, 白血球増多
肝臓 AST上昇, ALT上昇, ビリルビン上昇, AI－P上昇 黄疸, 尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇, 蛋白尿, 血尿
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢, 口内炎, 味覚異常 腸管閉塞, イレウス, 腹痛, 腹部膨満感, 心窩部痛, 胃炎, 腹鳴, 白色便, 便秘, 口角炎, 口唇炎, 舌炎, 口渇
皮膚 色素沈着 紅斑, 落屑, 潮紅, 水疱, 手足症候群, 皮膚潰瘍, 皮膚炎, 脱毛, 爪の異常, 爪囲炎, 単純疱疹, 皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症, DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ, 頭痛, 頭重感, 眩暈 ふらつき, 末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下, 血圧上昇, 心電図異常, レイノー症状 動悸
眼 流涙, 結膜炎, 角膜炎, 角膜糜爛, 眼痛, 視力低下, 眼乾燥 角膜潰瘍, 角膜混濁, 輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇, 総蛋白減少, アルブミン低下 発熱, 全身熱感, 鼻炎, 咽頭炎, 痰, 糖尿, 血糖値上昇, 浮腫, 筋肉痛, CK上昇, 関節痛, 電解質異常(血清ナトリウム上昇, 血清ナトリウム低下, 血清カリウム上昇, 血清カリウム低下, 血清カルシウム上昇, 血清カルシウム低下, 血清クロール上昇, 血清クロール低下), 体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

ティーエスワン配合顆粒T20（20mg1包（テガフール相当量））

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101D1025
【薬効分類】4. 2. 2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】424.1円/1包
【薬価収載日】2009/05/15
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌, ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1. 術後補助療法として, 有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2. 術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4. 臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌
胃癌 A法, B法, C法, 結腸・直腸癌 A法, C法, D法, 頭頸部癌 A法, 非小細胞肺癌 A法, B法, C法, 手術不能・再発乳癌 A法, 膵癌 A法, C法, 胆道癌 A法, E法, F法 使用。
A法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜増減。
増量は, 投与による臨床検査値異常(血液検査, 肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず, 安全性に問題がなく, 増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし, 1回75mgまで。
B法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
F法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし, 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
F法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 朝 40, 夕 20
1. 25～1. 5未満 40
1. 5以上 50
(表終了)
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間, 繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
注意
効能共通
1. 治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は, 臨床検査値異常(血液検査, 肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず, 安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立(使用経験はない)。
2. 骨髄抑制, 劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため, 異常時は休薬期間の延長, 減量, 投与中止等の処置。
3. 基礎的検討(動物)で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し, フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4. 本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。
胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能・再発乳癌, 膵癌, 胆道癌
5. 投与スケジュール, 周術期治療の投与期間, 腎機能に応じた投与量, 他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については, 国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6. A法の増減時, 下記量を参考。
(表開始)
減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと, 一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7. 初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9. クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は, 下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注)(mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量)(mg／回)
50～80未満 1. 25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1. 25以上1. 5未満 40
50～80未満 1. 5以上 50
(表終了)

4 組織細胞機能用医薬品

（注）実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値（Ccr推定値）を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝（（140－年齢）×体重（kg））／（72×血清クレアチニン（mg／dL））（女性は得られた値を0．85倍する）。
10．クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．重篤な骨髄抑制。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤（これらの薬剤との併用療法含む）の投与患者。
6．フルシトシンの投与患者。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な骨髄抑制（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，倦怠感等）（各頻度不明），白血球減少（46．7%），貧血（頻度不明），血小板減少（15．7%）等），溶血性貧血（頻度不明）。
2．DIC（0．4%）（血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常）。
3．劇症肝炎等の重篤な肝障害（B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む）（頻度不明）。
4．激しい下痢，脱水症状（頻度不明）。
5．重篤な腸炎（0．5%）（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等）（激しい腹痛・下痢等）。
6．間質性肺炎（0．3%）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
7．心筋梗塞，狭心症，不整脈（心室頻拍等含む），心不全（各頻度不明）（胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等）。
8．重篤な口内炎（頻度不明），消化管潰瘍（0．5%），消化管出血（0．3%），消化管穿孔（頻度不明）。
9．急性腎障害，ネフローゼ症候群（頻度不明）。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
11．白質脳症（意識障害，小脳失調，認知症様症状等）等含む精神神経障害（意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害（各頻度不明）等）。
12．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等）。
13．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
14．嗅覚障害（0．1%），嗅覚脱失（頻度不明）。
15．涙道閉塞（頻度不明）（流涙等）。
16．肝硬変（プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下等）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，好中球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少，リンパ球減少 出血傾向（皮下出血斑，鼻出血，凝固因子異常），好酸球増多，白血球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，味覚異常 腸管閉塞，イレウス，腹痛，腹部膨満感，心窩部痛，胃炎，腹鳴，白色便，便秘，口角炎，口唇炎，舌炎，口渇
皮膚 色素沈着 紅斑，落屑，潮紅，水疱，手足症候群，皮膚潰瘍，皮膚炎，脱毛，爪の異常，爪囲炎，単純疱疹，皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症，DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ，頭痛，頭重感，眩暈 ふらつき，末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下，血圧上昇，心電図異常，レイノー症状 動悸
眼 流涙，結膜炎，角膜炎，角膜糜爛，眼痛，視力低下，眼乾燥 角膜潰瘍，角膜混濁，輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇，総蛋白減少，アルブミン低下 発熱，全身熱感，鼻炎，咽頭炎，痰，糖尿，血糖値上昇，浮腫，筋肉痛，CK上昇，関節痛，電解質異常（血清ナトリウム上昇，血清ナトリウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下），体重減少 血清アミラーゼ値上昇
（表終了）

ティーエスワン配合顆粒T25（25mg1包（テガフール相当量））

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101D2021
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【メーカー】製）大鵬薬品工業
【薬価】605.4円/1包
【薬価収載日】2009/05/15
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1．術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2．術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3．術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4．臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法 使用。
A法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
F法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 朝 40，夕 20
1．25～1．5未満 40
1．5以上 50
（表終了）
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
注意
効能共通
1．治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立（使用経験はない）。
2．骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3．基礎的検討（動物）で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4．本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。
胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5．投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6．A法の増減時，下記量を参考。
（表開始）

4 組織細胞機能用医薬品

減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7. 初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9. クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注) (mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量) (mg／回)
50～80未満 1．25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1．25以上1．5未満 40
50～80未満 1．5以上 50
(表終了)
(注)実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値(Ccr推定値)を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝((140－年齢)×体重(kg))／(72×血清クレアチニン(mg／dL))
(女性は得られた値を0．85倍する)。
10. クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. 重篤な骨髄抑制。
3. 重篤な腎障害。
4. 重篤な肝障害。
5. 他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(これらの薬剤との併用療法含む)の投与患者。
6. フルシトシンの投与患者。
7. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な骨髄抑制(汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，倦怠感等)(各頻度不明)，白血球減少(46．7%)，貧血(頻度不明)，血小板減少(15．7%)等)，溶血性貧血(頻度不明)。
2. DIC(0．4%)(血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常)。
3. 劇症肝炎等の重篤な肝障害(B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む)(頻度不明)。
4. 激しい下痢，脱水症状(頻度不明)。
5. 重篤な腸炎(0．5%)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6. 間質性肺炎(0．3%)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
7. 心筋梗塞，狭心症，不整脈(心室頻拍等含む)，心不全(各頻度不明)(胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等)。
8. 重篤な口内炎(頻度不明)，消化管潰瘍(0．5%)，消化管出血(0．3%)，消化管穿孔(頻度不明)。
9. 急性腎障害，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
10. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
11. 白質脳症(意識障害，小脳失調，認知症様症状等)等含む精神神経障害(意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害(各頻度不明)等)。
12. 急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
14. 嗅覚障害(0．1%)，嗅覚脱失(頻度不明)。
15. 涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16. 肝硬変(プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，好中球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少，リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑，鼻出血，凝固因子異常)，好酸球増多，白血球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，味覚異常 腸管閉塞，イレウス，腹痛，腹部膨満感，心窩部痛，胃炎，腹鳴，白色便，便秘，口角炎，口唇炎，舌炎，口渇
皮膚 色素沈着 紅斑，落屑，潮紅，水疱，手足症候群，皮膚潰瘍，皮膚炎，脱毛，爪の異常，爪囲炎，単純疱疹，皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症，DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ，頭痛，頭重感，眩暈 ふらつき，末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下，血圧上昇，心電図異常，レイノー症状 動悸
眼 流涙，結膜炎，角膜炎，角膜糜爛，眼痛，視力低下，眼乾燥 角膜潰瘍，角膜混濁，輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇，総蛋白減少，アルブミン低下 発熱，全身熱感，鼻炎，咽頭炎，痰，糖尿，血糖値上昇，浮腫，筋肉痛，CK上昇，関節痛，電解質異常(血清ナトリウム上昇，血清ナトリウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下)，体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

フルツロンカプセル200（200mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4223004M2023
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】ドキシフルリジン
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬 販)日本ロシュ
【薬価】162.9円/1C
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，乳癌，子宮頸癌，膀胱癌
【用法用量】1日800～1200mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 脱水症状(頻度不明)(激しい下痢(腹痛，頻回の軟便等))。
2. 急性腎不全(頻度不明)(虚血性急性腎不全)(激しい下痢，脱水等による循環不全)。
3. 骨髄機能抑制，溶血性貧血(各頻度不明)(汎血球減少，白血球減少，血小板減少，貧血等)。
4. 重篤な腸炎(頻度不明)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等(腹痛，頻回の軟便，下痢等))。
5. 重篤な精神神経障害(白質脳症等)(健忘，歩行障害，知覚障害，錐体外路症状，口のもつれ，舌のもつれ，意識障害，麻痺，尿失禁(各頻度不明)，指南力低下，構音障害(各0．1%未満)等)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
7. 心不全(頻度不明)。
8. 劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸(各頻度不明)。
9. 急性膵炎(頻度不明)(血清アミラーゼ上昇，腹痛等)。
10. 嗅覚脱失(頻度不明)(嗅覚障害)。
11. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
12. 肝硬変(頻度不明)。
13. 安静狭心症，心筋梗塞，不整脈(心室性頻拍等含む)(各頻度不明)。
14. ネフローゼ症候群(頻度不明)。
15. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
肝臓 ビリルビンの上昇 AST，ALT，AI－Pの上昇
腎臓 BUN上昇，血尿，蛋白尿 頻尿
消化器 下痢(25．3%)，食欲不振(11．4%)，悪心・嘔吐(12．6%) 腹痛 麻痺性イレウス，口内炎，腹部膨満感，心窩部痛，口渇，口唇炎，便秘 消化管出血，舌炎，口角炎，胃潰瘍，胸やけ
精神神経系 倦怠感，ふらつき 眠気，頭痛，味覚異常，舌しびれ，耳鳴
皮膚 色素沈着 掻痒感，脱毛 皮膚炎，光線過敏症，紅斑，爪異常
過敏症 発疹 湿疹，蕁麻疹
循環器 胸部圧迫感 心悸亢進，不整脈，心電図異常(ST上昇，QT延長，T波逆転)
その他 発熱，咽頭異和感，眼精疲労 女性化乳房，浮腫
(表終了)

ユーエフティE配合顆粒T150（150mg1包(テガフール相当量)）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229100D4020
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ウラシル
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】193.1円/1包
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤

4 組織細胞機能用医薬品

【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】テガフール・ウラシル通常療法
下記の自覚的・他覚的症状の寛解
頭頸部癌，胃癌，結腸・直腸癌，肝臓癌，胆嚢・胆管癌，膵臓癌，肺癌，乳癌，膀胱癌，前立腺癌，子宮頸癌
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
結腸・直腸癌
注意
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】テガフール・ウラシル通常療法
1日テガフール300～600mg 1日2～3回 分割 内服。
子宮頸癌 1日テガフール600mg 1日2～3回 分割 内服。
他の抗悪性腫瘍剤との併用 上記に準じ投与。
製剤換算表
（表開始）
販売名 販売名 1日量 1日量
販売名 販売名 テガフール 300～600mg（子宮頸癌）テガフール 600mg
本剤 0．75g分包 1．5～3g 3g
（表終了）
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
結腸・直腸癌 1日テガフール300～600mg（300mg／m2を基準）
1日3回 分割 約8時間ごと 食事の前後1時間を避けて内服。
成人 1日ホリナート75mg 1日3回 分割 約8時間ごと テガフール・ウラシル配合剤と同時に内服。
以上を 28日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
注意
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
1．食事の影響を受けるため，食事の前後1時間を避けて投与。
2．1日の投与スケジュールは下記を参考。
（表開始）
体表面積（m2）UFT（mg／日）午前（mg）午後（mg）夜間（mg）
＜1．17 300 100 100 100
1．17－1．49 400 200 100 100
1．5－1．83 500 200 200 100
＞1．83 600 200 200 200
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．重篤な下痢。
3．重篤な感染症の合併。
4．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
5．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制，溶血性貧血（0．1%未満）等の血液障害（汎血球減少（0．1%未満），無顆粒球症（0．1%未満）（発熱，咽頭痛，倦怠感等），白血球減少（3．1%），血小板減少（1．1%），貧血（0．8%），出血傾向（0．1%未満）等）。
2．劇症肝炎等の重篤な肝障害（頻度不明）。
3．肝硬変（頻度不明）（AST，ALTの上昇を伴わない）（プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下，血小板減少等）。
4．激しい下痢，脱水症状（頻度不明）。
5．重篤な腸炎（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等（頻度不明））（激しい腹痛・下痢等）。
6．白質脳症（意識障害，小脳失調，認知症様症状等）（頻度不明）等含む精神神経障害（意識障害（頻度不明），失見当識（0．1%未満），傾眠（0．1%未満），記憶力低下（0．1%未満），錐体外路症状（0．1%未満），言語障害（0．1%未満），四肢麻痺（頻度不明），歩行障害（0．1%未満），尿失禁（頻度不明），知覚障害（0．1%未満）等）。
7．狭心症（0．1%未満），心筋梗塞（頻度不明），不整脈（心室頻拍等含む）（頻度不明）（胸痛，失神，息切れ，動悸，心電図異常等）。
8．急性腎障害（0．1%未満），ネフローゼ症候群（0．1%未満）。
9．嗅覚障害（0．1%未満），嗅覚脱失（頻度不明）。
10．間質性肺炎（0．1%未満）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
11．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等）。
12．重篤な口内炎（頻度不明），消化管潰瘍（0．1%），消化管出血（0．1%未満）。
13．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 赤血球減少，血色素減少，ヘマトクリット値減少，好中球減少，好酸球増多，リンパ球減少，好塩基球増多，平均赤血球容積増加
肝臓 肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸 脂肪肝，AI－P上昇 総ビリルビン上昇
腎臓 腎機能障害（BUN，クレアチニンの上昇等） 蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，口内炎，腹痛，味覚異常，心窩部痛，胸やけ 便秘，腹部膨満感，舌炎，口角炎，口渇，胃炎，嚥下困難，腹鳴 胃不快感，胃重感，口唇炎
精神神経系 倦怠感，眩暈，しびれ 頭痛，耳鳴 興奮，頭重感，末梢性ニューロパチー
皮膚 色素沈着，爪の異常，脱毛，浮腫 糜爛・皮膚炎，角化，紅潮，光線過敏症，水疱 DLE様皮疹，皮膚の乾燥，手足症候群
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹 発赤
循環器 動悸，胸痛，胸内苦悶感，心電図異常（ST上昇等）
その他 LDH上昇，発熱 関節痛，糖尿，血糖値上昇，灼熱感，結膜充血，咳・痰，血清尿酸値上昇，女性型乳房，筋肉痛 血痰，高トリグリセリド血症，高コレステロール血症，無月経，CK上昇，総蛋白低下，血清ナトリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下
（表終了）

ロイケリン散10%（10%1g）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4221001B1052
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】メルカプトプリン水和物
【メーカー】製)大原薬品工業
【薬価】93.6円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】白血病治療剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の自覚的・他覚的症状の緩解
急性白血病，慢性骨髄性白血病
【用法用量】緩解導入量 成人 1日メルカプトプリン水和物2～3mg／kg 単独又は他の抗腫瘍剤と併用し 内服。緩解後，緩解導入量を下回る量 単独又は他の抗腫瘍剤と併用し 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．フェブキソスタット，トピロキソスタットの投与患者。
3．生ワクチンを接種しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
骨髄抑制（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少，貧血等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 出血
肝臓 肝障害，黄疸，AST，ALTの上昇等肝機能検査値異常
腎臓 血尿，乏尿
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，潰瘍性口内炎，下痢
過敏症 発疹，紅斑
その他 発熱，脱毛，膵炎
（表終了）

4．2．4 抗腫瘍性植物成分製剤

ベプシドカプセル25mg（25mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4240001M1075
【薬効分類】4．2．4 抗腫瘍性植物成分製剤
【一般名】エトポシド
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】517.2円/1C
【薬価収載日】2007/12/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺小細胞癌，悪性リンパ腫，子宮頸癌，癌化学療法後に増悪した卵巣癌
注意
1．本剤の手術・放射線治療の補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
2．卵巣癌 白金製剤含む化学療法施行後を対象とし，白金製剤に対する感受性を考慮して本剤以外の治療法を検討した上で，投与開始。
【用法用量】肺小細胞癌

4 組織細胞機能用医薬品

成人 1日175～200mg 5日間連続 内服，3週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
悪性リンパ腫
状態に応じA法又はB法を選択。
A法 成人 1日175～200mg 5日間連続 内服，3週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
B法 成人 1日50mg 21日間連続 内服，1～2週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
子宮頸癌
成人 1日50mg 21日間連続 内服，1～2週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜減量。
癌化学療法後に増悪した卵巣癌
成人 1日50mg／m2 21日間連続 内服，1週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．本剤に重篤な過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制（汎血球減少（頻度不明），白血球減少（62．2%），好中球減少（13．1%），血小板減少（24．5%），出血（頻度不明），貧血（45．4%）等）。
2．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白
消化器 悪心・嘔吐（50．7%），食欲不振（45．0%） 口内炎，下痢，腹痛，便秘
過敏症 発疹
皮膚 脱毛（67．2%） 掻痒，色素沈着 紅斑
精神神経系 頭痛 しびれ，一過性皮質盲
循環器 心電図異常，頻脈 不整脈，血圧低下
電解質 ナトリウム異常，クロール異常，カリウム異常，カルシウム異常
その他 倦怠感 発熱，血清総蛋白減少 顔面潮紅，浮腫，味覚異常
（表終了）

ベプシドカプセル50mg（50mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4240001M2071
【薬効分類】4．2．4 抗腫瘍性植物成分製剤
【一般名】エトポシド
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】1040.8円/1C
【薬価収載日】2007/12/21
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】肺小細胞癌，悪性リンパ腫，子宮頸癌，癌化学療法後に増悪した卵巣癌
注意
1．本剤の手術・放射線治療の補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
2．卵巣癌 白金製剤含む化学療法施行後を対象とし，白金製剤に対する感受性を考慮して本剤以外の治療法を検討した上で，投与開始。
【用法用量】肺小細胞癌
成人 1日175～200mg 5日間連続 内服，3週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
悪性リンパ腫
状態に応じA法又はB法を選択。
A法 成人 1日175～200mg 5日間連続 内服，3週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
B法 成人 1日50mg 21日間連続 内服，1～2週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜増減。
子宮頸癌
成人 1日50mg 21日間連続 内服，1～2週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜減量。
癌化学療法後に増悪した卵巣癌
成人 1日50mg／m2 21日間連続 内服，1週間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．本剤に重篤な過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制（汎血球減少（頻度不明），白血球減少（62．2%），好中球減少（13．1%），血小板減少（24．5%），出血（頻度不明），貧血（45．4%）等）。
2．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白
消化器 悪心・嘔吐（50．7%），食欲不振（45．0%） 口内炎，下痢，腹痛，便秘
過敏症 発疹
皮膚 脱毛（67．2%） 掻痒，色素沈着 紅斑
精神神経系 頭痛 しびれ，一過性皮質盲
循環器 心電図異常，頻脈 不整脈，血圧低下
電解質 ナトリウム異常，クロール異常，カリウム異常，カルシウム異常
その他 倦怠感 発熱，血清総蛋白減少 顔面潮紅，浮腫，味覚異常
（表終了）

4．2．9 その他の腫瘍用薬

アナストロゾール錠1mg「トーワ」（1mg1錠）

外 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291010F1171
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】アナストロゾール
【先発品】アナストロゾール錠1mg「JG」，アリミデックス錠1mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】58.5円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】閉経後乳癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】閉経後乳癌
【用法用量】成人 1回1mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．授乳婦。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明），血管浮腫（頻度不明），蕁麻疹（1．0%）等の過敏症状。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．間質性肺炎（1．0%）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
5．血栓塞栓症（頻度不明）（深部静脈血栓症，肺塞栓症等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
全身 頭痛，ほてり，倦怠感 疲労，無力症
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，ビリルビン上昇
消化器 嘔気，嘔吐 下痢，食欲不振
精神神経系 感覚異常（錯感覚，味覚異常含む），傾眠，手根管症候群，抑うつ
皮膚 脱毛，発疹，皮膚血管炎，IgA血管炎

4 組織細胞機能用医薬品

筋・骨格系　関節痛，硬直，骨折，関節炎，骨粗鬆症，骨痛，弾発指，筋肉痛
生殖器　性器出血，膣乾燥
血液 白血球減少 好中球減少
その他　高コレステロール血症 高カルシウム血症
（表終了）

アフィニトール錠5mg（5mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291023F1020
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】エベロリムス
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】9089.1円/1T
【薬価収載日】2010/04/16
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇根治切除不能・転移性の腎細胞癌
〇神経内分泌腫瘍
〇手術不能・再発乳癌
〇結節性硬化症
注意
根治切除不能・転移性の腎細胞癌
1．スニチニブ・ソラフェニブの治療歴のない患者への有効性・安全性は未確立。
2．術後補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
神経内分泌腫瘍
3．臨床試験に組み入れられた原発部位，病理組織型，症候の有無等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
手術不能・再発乳癌
4．非ステロイド性アロマターゼ阻害剤の治療歴のない患者への有効性・安全性は未確立。
5．臨床試験に組み入れられたホルモン受容体・HER2の発現状況等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
6．手術の補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
結節性硬化症
7．成人腎血管筋脂肪腫，上衣下巨細胞性星細胞腫，てんかん部分発作は，臨床試験に組み入れられた腫瘍径やてんかん発作型等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，本剤以外の治療も検討し，適応患者の選択を行う。
8．成人腎血管筋脂肪腫，上衣下巨細胞性星細胞腫，てんかん部分発作以外の有効性・安全性は未確立。投与時は，リスクとベネフィットを考慮。
9．てんかん部分発作は，本剤単剤投与・抗てんかん薬で効果がある患者に，本剤の併用投与の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】根治切除不能・転移性の腎細胞癌，神経内分泌腫瘍
成人　エベロリムス　1回10mg　1日1回　内服。適宜減量。
手術不能・再発乳癌
内分泌療法剤との併用　成人　エベロリムス　1回10mg　1日1回　内服。適宜減量。
結節性硬化症
成人の結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫
エベロリムス　1回10mg　1日1回　内服。適宜増減。
上記以外
エベロリムス　1回3mg／m2　1日1回　内服。適宜増減。
注意
効能共通
1．食後に投与時，Cmax・AUCが低下するとの報告あり。投与時期は，臨床試験の設定内容に準じて選択し，食後又は空腹時のいずれか一定条件で投与。
2．間質性肺疾患の発現時は，症状，重症度等に応じて，下記を考慮し，減量・休薬・中止。
間質性肺疾患への減量・休薬・中止基準
（表開始）
グレード（注）（症状）投与の可否等
グレード1（無症候性の画像所見）投与継続
グレード2（症候性；日常生活に支障なし）症状が改善するまで休薬。再開時は，半量の投与。
グレード3（症候性；日常生活に支障あり，酸素療法を要する）投与中止し，再開しない。症状が改善し，有益性が危険性を上回る時のみ，半量で再開可能。
グレード4（生命を脅かす；人工呼吸を要する）投与中止
（表終了）
（注）NCI－CTCAE　v．3．0。
根治切除不能・転移性の腎細胞癌，神経内分泌腫瘍
3．サイトカイン製剤を含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
手術不能・再発乳癌
4．エキセメスタン以外の内分泌療法剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
結節性硬化症
5．本剤とアフィニトール分散錠の生物学的同等性は示されていない。切りかえ時は，切りかえから2週間後に血中トラフ濃度を測定。
6．成人腎血管筋脂肪腫以外 全血中濃度を測定し，血中トラフ濃度が5～15ng／mLとなるように投与量を調節。
7．成人腎血管筋脂肪腫 必要時全血中濃度を測定し，血中トラフ濃度が5～15ng／mLとなるように投与量を調節。
8．血中トラフ濃度は，投与開始又は用量変更から2週間後に測定し，状態により適宜測定。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・シロリムス・シロリムス誘導体に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺疾患（11．6%）（肺臓炎，間質性肺炎，肺浸潤，胞隔炎，肺胞出血，肺毒性等含む），死亡。
2．細菌，真菌，ウイルス，原虫による重篤な感染症（28．9%）（肺炎（ニューモシスチス肺炎含む），アスペルギルス症，カンジダ症，敗血症等），日和見感染の発現・悪化，B型肝炎ウイルスの再活性化，肝不全，死亡。
3．重篤な腎障害（腎不全（0．9%），腎不全の急速な悪化）。
4．高血糖（8．6%），糖尿病の発症・増悪（2．7%）。
5．貧血（14．1%），ヘモグロビン減少（2．1%），白血球減少（4．9%），リンパ球減少（3．8%），好中球減少（6．7%），血小板減少（8．6%），消化管出血等。
6．口内炎（62．1%），口腔粘膜炎，口腔内潰瘍等。
7．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，顔面紅潮，胸痛，血管浮腫等）。
8．急性呼吸窮迫症候群（0．1%）（急速に進行する呼吸困難，低酸素症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
9．肺塞栓症（0．3%），深部静脈血栓症（0．2%）。
10．悪性腫瘍（二次発癌）（0．1%未満）（特に皮膚），悪性リンパ腫，リンパ増殖性疾患。
11．創傷治癒不良（0．2%），創傷治癒不良による合併症（創傷感染（0．1%），瘢痕ヘルニア（頻度不明），創離開（0．1%未満）等）。
12．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
13．BKウイルス腎症（頻度不明）。
14．血栓性微小血管障害（頻度不明）（溶血性尿毒症症候群（血小板減少，溶血性貧血，腎不全），血栓性血小板減少性紫斑病様症状（血小板減少，微小血管性溶血性貧血，腎機能障害，精神症状）等）。
15．肺胞蛋白症（頻度不明）。
16．心嚢液貯留（0．3%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
代謝・栄養 食欲減退，高コレステロール血症 低リン酸血症，脱水，低カリウム血症，高トリグリセリド血症，高脂血症，低比重リポ蛋白（LDL）増加 鉄欠乏，低血糖症 血中カリウム増加
精神神経系 味覚異常 頭痛，不眠症 激越，味覚消失，攻撃性，痙攣
－
眼 － 結膜炎 － －
心血管系 － 高血圧 うっ血性心不全 －
呼吸器 咳嗽 鼻出血，呼吸困難 喀血，咽頭の炎症 －
消化器 下痢，悪心 嘔吐，口内乾燥，腹痛，消化不良，鼓腸，便秘，歯肉炎 胃腸潰瘍，嚥下障害，胃炎 －
肝臓 － AST，ALT，γ－GTP，Al－Pの増加 血中ビリルビン増加 －
皮膚 発疹（紅斑，丘疹，斑状丘疹状皮疹，全身性皮疹，斑状皮疹）掻痒症，皮膚乾燥，手足症候群，ざ瘡，爪の障害，ざ瘡様皮膚炎 血管浮腫 白血球破砕性血管炎
筋骨格系 － 関節痛 － －
腎臓・泌尿器 － 血中クレアチニン増加，蛋白尿 昼間頻尿 －
生殖器 － 不規則月経，無月経 月経過多，月経遅延，男性性腺機能低下（テストステロン減少，黄体形成ホルモン増加，卵胞刺激ホルモン増加），卵巣嚢胞，無精子症 －
全身症状 疲労，無力症，浮腫 体重減少，発熱，粘膜の炎症 胸痛，易刺激性，歩行障害 －
その他 － LDH増加，出血（膣出血，網膜出血，メレナ，血尿等）血中フィブリノーゲン減少，高クレアチン血症，APTT延長，血中アルブミン減少 血中IgG減少
（表終了）

アーリーダ錠60mg（60mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291059F1029
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】アパルタミド
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】2036円/1T
【薬価収載日】2019/05/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤

4 組織細胞機能用医薬品

【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌
〇遠隔転移を有する前立腺癌
注意
臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者を選択。遠隔転移を有する前立腺癌への投与時，臨床試験に組み入れられた外科的・内科的去勢術に係る治療歴等を確認。
【用法用量】成人　1回240mg　1日1回　内服。適宜減量。
注意
1．副作用発現時 下記を考慮し，休薬・減量・中止。
減量し投与を継続時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量（mg）
通常量 240
1段階減量 180
2段階減量 120
（表終了）
副作用発現時の用量調節基準
（表開始）
副作用 程度（注） 処置
痙攣発作 － 投与中止。
上記以外の副作用 Grade3・4 Grade1以下又はベースラインに回復するまで休薬。再開時は，下記の基準を参考に，減量等を考慮。・初回発現後に回復し再開時，減量せず投与。・再発後に回復し再開時，1段階減量し投与。
（表終了）
（注）GradeはNCI－CTCAE　ver4．0に準じる。
2．外科的・内科的去勢術と併用しない時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル　フマル酸，レナカパビルナトリウムの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．痙攣発作（0．2%）。
2．心臓障害（狭心症（0．2%），心筋梗塞（0．2%），心房細動（0．2%），心不全（0．3%）等）。
3．重度の皮膚障害（中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），多形紅斑（0．3%）等）。
4．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
5．間質性肺疾患（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
内分泌障害　甲状腺機能低下症
代謝・栄養障害 食欲減退 高コレステロール血症，高トリグリセリド血症
皮膚・皮下組織障害 皮疹（18．2%），掻痒症 脱毛症
神経系障害　味覚異常 下肢静止不能症候群
血管障害 ほてり 高血圧
胃腸障害 悪心，下痢
筋骨格系・結合組織障害　関節痛，筋痙縮
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労（18．8%） 無力症，体重減少
傷害，中毒，処置合併症　転倒，骨折
（表終了）

アロマシン錠25mg（25mg1錠）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】4291012F1022
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】エキセメスタン
【メーカー】製）ファイザー　販）カビ・ファルマシア
【薬価】149.9円/1T
【薬価収載日】2002/08/30
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】閉経後乳癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】閉経後乳癌
【用法用量】成人　1回25mg　1日1回　食後　内服。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．授乳婦。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AlーP，γーGTP等の上昇），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 多汗，眩暈 しびれ（感），頭痛，知覚障害，ふらつき（感），不眠（症），抑うつ，不安，手根管症候群 傾眠
消化器 悪心 食欲不振，腹痛，嘔吐，腸管閉塞，喉の通過障害感，胃もたれ感，心窩部痛（心窩部の疼痛），下痢
肝臓　肝機能異常，AlーP上昇
皮膚　発疹，脱毛（症），爪の変化 蕁麻疹，掻痒症
筋骨格系　関節痛，筋骨格痛 骨折，骨粗鬆症，弾発指，狭窄性腱鞘炎
循環器 高血圧 動悸，低血圧
呼吸器　鼻出血，かぜ症候群，肺炎
泌尿器　膀胱炎，尿検査異常
生殖器　不正（子宮）出血，帯下
その他 ほてり，疲労 疼痛，体重減少，倦怠（感），体臭，浮腫，味覚異常，嗅覚障害 過敏症
（表終了）

イクスタンジ錠40mg（40mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291031F1025
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】エンザルタミド
【メーカー】製）アステラス製薬
【薬価】2116円/1T
【薬価収載日】2018/05/30
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】去勢抵抗性前立腺癌
遠隔転移を有する前立腺癌
注意
臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人　1回160mg　1日1回　内服。
注意
1．外・内科的去勢術と非併用時の有効性・安全性は未確立。
2．グレード（注）3以上，忍容できない副作用発現時は，休薬（1週間又はグレード2以下になるまで），減量（1回120mg又は80mg　1日1回内服）を考慮。再開時は減量を考慮。
（注）グレードはNCI－CTCAEに準じる。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ドラビリン，エンシトレルビル　フマル酸，レナカパビルナトリウムの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．痙攣発作（0．2%）（痙攣，てんかん重積状態等）。
2．血小板減少（0．2%）。
3．間質性肺疾患（0．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
血液　貧血 ヘモグロビン減少，白血球減少症，好中球減少症
心臓　心電図QT延長
腎臓　頻尿，血尿
耳　回転性眩暈
眼　流涙増加
消化器 悪心，下痢 便秘，嘔吐，腹部膨満，消化不良，鼓腸 上腹部痛，口内乾燥，腹痛，胃炎，口内炎，腹部不快感，胃食道逆流性疾患
全身・投与局所 疲労，無力症 末梢性浮腫，体重減少，体重増加 疼痛，悪寒，倦怠感，顔面浮腫
肝臓　肝機能異常
代謝 食欲減退　低カリウム血症，脱水
筋骨格系　関節痛，筋肉痛，背部痛，筋力低下 筋骨格痛，筋痙縮，筋骨格硬直，四肢痛
神経系　頭痛，浮動性眩暈，味覚異常，錯感覚，嗜眠，記憶障害，下肢静止不能症候群 感覚鈍麻，傾眠，末梢性ニューロパチー，認知障害，注意力障害，失神，健忘
精神系　不眠症 不安，うつ病，錯乱状態，幻覚
生殖系・乳房　女性化乳房
呼吸器　呼吸困難 咳嗽，鼻出血
皮膚　皮膚乾燥，発疹，多汗症 掻痒症，寝汗，脱毛症，紅斑，斑状丘疹状皮疹
血管 ほてり 高血圧 潮紅
その他　転倒 脊椎圧迫骨折，骨折

4 組織細胞機能用医薬品

（表終了）

イブランス錠125mg（125mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291051F2029
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】パルボシクリブ
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】20538.9円/1T
【薬価収載日】2020/05/27
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】ホルモン受容体陽性でHER2陰性の手術不能・再発乳癌
注意
術前・術後薬物療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】内分泌療法剤との併用 成人 1回125mg 1日1回 3週間連続 内服，以後1週間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。
適宜減量。
注意
1．併用する内分泌療法剤等の臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で選択。
2．副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬・減量・中止。75mg／日未満に減量しない。
減量して投与を継続する時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量(mg／日)
通常量 125
一次減量 100
二次減量 75
（表終了）
好中球減少症・血小板減少症の用量調節
（表開始）
副作用 処置
Grade1・2 同一投与量を継続。
Grade3 休薬し，1週間以内に血液検査(血球数算定)を実施。Grade2以下に回復後，同一投与量で投与再開。Grade3の好中球減少の回復に日数を要する時(1週間以上)や次サイクルでGrade3の好中球減少の再発時は，減量を考慮。
Grade3 好中球減少に付随して38．5℃以上の発熱・感染症がある場合 Grade2以下に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
Grade4 Grade2以下に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
（表終了）
GradeはCTCAE ver．4．0に準ずる。
非血液系の副作用の用量調節
（表開始）
副作用 処置
Grade1・2 同一投与量を継続。
Grade3以上 治療しても症状が継続する時 Grade1以下又はGrade2で安全性に問題がない状態に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
（表終了）
GradeはCTCAE ver．4．0に準ずる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制(好中球減少(81．4%)，白血球減少(46．9%)，貧血(23．6%)，血小板減少(20．0%)，発熱性好中球減少症(1．4%)等)。
2．間質性肺疾患(0．5%)。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 20%以上 10～20%未満 10%未満 頻度不明
皮膚 脱毛症 発疹 皮膚乾燥，手足症候群 多形紅斑
眼 流涙増加，霧視，眼乾燥
代謝 食欲減退
神経系 味覚異常
呼吸器 鼻出血
消化器 悪心，口内炎 下痢 嘔吐
腎臓 腎機能障害(血中クレアチニン増加等)
その他 疲労 感染症(尿路感染，上気道感染，口腔ヘルペス，歯肉炎，上咽頭炎等) 無力症，発熱，AST増加，ALT増加
（表終了）

イブランス錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291051F1022
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】パルボシクリブ
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】5076.8円/1T
【薬価収載日】2020/05/27
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】ホルモン受容体陽性でHER2陰性の手術不能・再発乳癌
注意
術前・術後薬物療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】内分泌療法剤との併用 成人 1回125mg 1日1回 3週間連続 内服，以後1週間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。
適宜減量。
注意
1．併用する内分泌療法剤等の臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で選択。
2．副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬・減量・中止。75mg／日未満に減量しない。
減量して投与を継続する時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量(mg／日)
通常量 125
一次減量 100
二次減量 75
（表終了）
好中球減少症・血小板減少症の用量調節
（表開始）
副作用 処置
Grade1・2 同一投与量を継続。
Grade3 休薬し，1週間以内に血液検査(血球数算定)を実施。Grade2以下に回復後，同一投与量で投与再開。Grade3の好中球減少の回復に日数を要する時(1週間以上)や次サイクルでGrade3の好中球減少の再発時は，減量を考慮。
Grade3 好中球減少に付随して38．5℃以上の発熱・感染症がある場合 Grade2以下に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
Grade4 Grade2以下に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
（表終了）
GradeはCTCAE ver．4．0に準ずる。
非血液系の副作用の用量調節
（表開始）
副作用 処置
Grade1・2 同一投与量を継続。
Grade3以上 治療しても症状が継続する時 Grade1以下又はGrade2で安全性に問題がない状態に回復まで休薬。回復後，1レベル減量し投与再開。
（表終了）
GradeはCTCAE ver．4．0に準ずる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制(好中球減少(81．4%)，白血球減少(46．9%)，貧血(23．6%)，血小板減少(20．0%)，発熱性好中球減少症(1．4%)等)。
2．間質性肺疾患(0．5%)。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 20%以上 10～20%未満 10%未満 頻度不明
皮膚 脱毛症 発疹 皮膚乾燥，手足症候群 多形紅斑
眼 流涙増加，霧視，眼乾燥
代謝 食欲減退
神経系 味覚異常
呼吸器 鼻出血
消化器 悪心，口内炎 下痢 嘔吐
腎臓 腎機能障害(血中クレアチニン増加等)
その他 疲労 感染症(尿路感染，上気道感染，口腔ヘルペス，歯肉炎，上咽頭炎等) 無力症，発熱，AST増加，ALT増加
（表終了）

インライタ錠1mg（1mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291027F1029
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】アキシチニブ
【メーカー】製)ファイザー 販)ファイザー製薬
【薬価】1491.4円/1T

4 組織細胞機能用医薬品

【薬価収載日】2012/08/28
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】根治切除不能・転移性の腎細胞癌
注意
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人　アキシチニブ　1回5mg　1日2回　内服。
適宜増減，1回10mg　1日2回まで。
注意
1. 抗悪性腫瘍剤（サイトカイン製剤含む）の治療歴がなければPD－1／PD－L1阻害剤と併用。
2. 1回5mg1日2回，2週間連続投与し，忍容性があれば，1回7mg1日2回投与に増量できる。連続2週間投与して忍容性があれば，最大1回10mg1日2回に増量できる。
3. 副作用の発現時は，必要に応じ，減量，休薬，中止。減量して投与を継続する時は，1回3mg1日2回，又は1回2mg1日2回に減量。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 高血圧（45. 3%），高血圧クリーゼ（0. 3%）。
2. 動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
3. 動脈血栓塞栓症（一過性脳虚血発作（0. 4%），網膜動脈閉塞（0. 1%），脳卒中（頻度不明），心筋梗塞（頻度不明）等）。
4. 静脈血栓塞栓症（肺塞栓症（0. 8%），深部静脈血栓症（0. 3%），網膜静脈閉塞（0. 1%），網膜静脈血栓症（0. 1%）等）。
5. 出血（鼻出血（5. 9%），血尿（0. 8%），直腸出血（0. 9%），喀血（0. 6%），脳出血（0. 1%），下部消化管出血（0. 3%），胃出血（0. 4%）等），死亡。
6. 消化管穿孔（頻度不明），瘻孔（0. 1%），死亡。
7. 甲状腺機能障害（甲状腺機能低下症（21. 6%），甲状腺機能亢進症（3. 2%））。
8. 創傷治癒遅延（1. 0%）。
9. 可逆性後白質脳症症候群（0. 3%）（頭痛，痙攣発作，嗜眠，錯乱，盲目，視覚障害，神経障害）。
10. 肝機能障害（AST（6. 7%），ALT（8. 1%）の上昇等）。
11. 心不全（頻度不明）。
12. 間質性肺疾患（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
内分泌 TSH増加，甲状腺炎，副腎機能不全 コルチコトロピン増加，T4増加，T3減少，TSH減少，T3増加
精神神経系 味覚異常（11. 6%），頭痛（10. 1%） 浮動性眩暈，末梢性ニューロパチー，不眠症，錯感覚，傾眠，知覚過敏，振戦，記憶障害 不安，感覚鈍麻，うつ病，失神，味覚消失，失語症，睡眠障害，注意力障害，失神寸前の状態，片頭痛，落ち着きのなさ
眼　視力低下，霧視，流涙増加，羞明，眼瞼浮腫
耳　耳鳴 回転性眩暈，難聴，耳の障害，耳不快感
循環器 浮腫，低血圧，徐脈，動悸 潮紅，頻脈，トロポニン増加，不整脈，ほてり，QT延長，顔面浮腫
呼吸器 発声障害（27. 1%） 呼吸困難，咳嗽，口腔咽頭痛，鼻炎，労作性呼吸困難，鼻漏，上気道感染，肺炎 鼻閉，しゃっくり，鼻部障害
消化器 下痢（52. 7%），悪心（26. 2%），口内炎（18. 6%），嘔吐（12. 8%） 便秘，腹痛，消化不良，口内乾燥，口腔内痛，上腹部痛，鼓腸，舌痛，胃食道逆流性疾患，歯肉痛，腹部不快感，痔核，腹部膨満，嚥下障害，肛門の炎症，腸炎 肛門周囲痛，口腔知覚不全，口腔内潰瘍形成，舌炎，アフタ性口内炎，胃炎，歯肉炎，変色便，下腹部痛，歯痛，裂肛，嚥下痛，歯の障害，舌障害
膵臓　リパーゼ増加，アミラーゼ増加
腎臓　蛋白尿，クレアチニン増加，尿酸増加，腎不全 頻尿，クレアチニンクリアランス減少，尿意切迫，尿路感染，排尿困難
血液　血小板減少，貧血，好中球減少 白血球減少，リンパ球減少，ヘモグロビン減少 ヘモグロビン増加，赤血球増加
代謝 食欲減退（23. 7%） 脱水，高脂血症，低リン酸血症，低マグネシウム血症，カリウム減少，高コレステロール血症，高血糖，低ナトリウム血症，カリウム増加 カルシウム増加，アルブミン減少，カルシウム減少
皮膚 手足症候群（30. 4%），発疹（18. 6%），掻痒症（10. 8%） 皮膚乾燥，皮膚障害，脱毛症，紅斑，過角化，ざ瘡，皮膚炎，皮膚剥脱，水疱，湿疹，寝汗，爪の障害 擦過傷，皮膚感染，爪破損，皮膚刺激，毛髪変色，多汗症，爪囲炎，爪色素沈着
筋骨格系 関節痛（10. 3%） 四肢痛，筋肉痛，背部痛，CPK増加，筋力低下，筋痙縮，筋骨格痛 筋骨格系胸痛，関節炎，頚部痛，側腹部痛，骨痛，筋固縮
その他 疲労（35. 4%），粘膜の炎症（13. 9%），体重減少（13. 5%），無力症（12. 8%） 悪寒，発熱，γ－GTP増加，疼痛，胸痛，AI－P増加，インフルエンザ様疾患，倦怠感 体重増加，全身健康状態低下，カンジダ感染，粘膜乾燥，温度変化不耐症，乳頭痛，転倒，免疫応答低下，冷感，敗血症
（表終了）

インライタ錠5mg（5mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291027F2025
【薬効分類】4. 2. 9　その他の腫瘍用薬
【一般名】アキシチニブ
【メーカー】製）ファイザー　販）ファイザー製薬
【薬価】6766.9円/1T
【薬価収載日】2012/08/28
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】根治切除不能・転移性の腎細胞癌
注意
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人　アキシチニブ　1回5mg　1日2回　内服。
適宜増減，1回10mg　1日2回まで。
注意
1. 抗悪性腫瘍剤（サイトカイン製剤含む）の治療歴がなければPD－1／PD－L1阻害剤と併用。
2. 1回5mg1日2回，2週間連続投与し，忍容性があれば，1回7mg1日2回投与に増量できる。連続2週間投与して忍容性があれば，最大1回10mg1日2回に増量できる。
3. 副作用の発現時は，必要に応じ，減量，休薬，中止。減量して投与を継続する時は，1回3mg1日2回，又は1回2mg1日2回に減量。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 高血圧（45. 3%），高血圧クリーゼ（0. 3%）。
2. 動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
3. 動脈血栓塞栓症（一過性脳虚血発作（0. 4%），網膜動脈閉塞（0. 1%），脳卒中（頻度不明），心筋梗塞（頻度不明）等）。
4. 静脈血栓塞栓症（肺塞栓症（0. 8%），深部静脈血栓症（0. 3%），網膜静脈閉塞（0. 1%），網膜静脈血栓症（0. 1%）等）。
5. 出血（鼻出血（5. 9%），血尿（0. 8%），直腸出血（0. 9%），喀血（0. 6%），脳出血（0. 1%），下部消化管出血（0. 3%），胃出血（0. 4%）等），死亡。
6. 消化管穿孔（頻度不明），瘻孔（0. 1%），死亡。
7. 甲状腺機能障害（甲状腺機能低下症（21. 6%），甲状腺機能亢進症（3. 2%））。
8. 創傷治癒遅延（1. 0%）。
9. 可逆性後白質脳症症候群（0. 3%）（頭痛，痙攣発作，嗜眠，錯乱，盲目，視覚障害，神経障害）。
10. 肝機能障害（AST（6. 7%），ALT（8. 1%）の上昇等）。
11. 心不全（頻度不明）。
12. 間質性肺疾患（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
内分泌 TSH増加，甲状腺炎，副腎機能不全 コルチコトロピン増加，T4増加，T3減少，TSH減少，T3増加
精神神経系 味覚異常（11. 6%），頭痛（10. 1%） 浮動性眩暈，末梢性ニューロパチー，不眠症，錯感覚，傾眠，知覚過敏，振戦，記憶障害 不安，感覚鈍麻，うつ病，失神，味覚消失，失語症，睡眠障害，注意力障害，失神寸前の状態，片頭痛，落ち着きのなさ
眼　視力低下，霧視，流涙増加，羞明，眼瞼浮腫
耳　耳鳴 回転性眩暈，難聴，耳の障害，耳不快感
循環器 浮腫，低血圧，徐脈，動悸 潮紅，頻脈，トロポニン増加，不整脈，ほてり，QT延長，顔面浮腫
呼吸器 発声障害（27. 1%） 呼吸困難，咳嗽，口腔咽頭痛，鼻炎，労作性呼吸困難，鼻漏，上気道感染，肺炎 鼻閉，しゃっくり，鼻部障害
消化器 下痢（52. 7%），悪心（26. 2%），口内炎（18. 6%），嘔吐（12. 8%） 便秘，腹痛，消化不良，口内乾燥，口腔内痛，上腹部痛，鼓腸，舌痛，胃食道逆流性疾患，歯肉痛，腹部不快感，痔核，腹部膨満，嚥下障害，肛門の炎症，腸炎 肛門周囲痛，口腔知覚不全，口腔内潰瘍形成，舌炎，アフタ性口内炎，胃炎，歯肉炎，変色便，下腹部痛，歯痛，裂肛，嚥下痛，歯の障害，舌障害
膵臓　リパーゼ増加，アミラーゼ増加
腎臓　蛋白尿，クレアチニン増加，尿酸増加，腎不全 頻尿，クレアチニンクリアランス減少，尿意切迫，尿路感染，排尿困難
血液　血小板減少，貧血，好中球減少 白血球減少，リンパ球減少，ヘモグロビン減少 ヘモグロビン増加，赤血球増加
代謝 食欲減退（23. 7%） 脱水，高脂血症，低リン酸血症，低マグネシウム血症，カリウム減少，高コレステロール血症，高血糖，低ナトリウム血症，カリウム増加 カルシウム増加，アルブミン減少，カルシウム減少
皮膚 手足症候群（30. 4%），発疹（18. 6%），掻痒症（10. 8%） 皮膚乾燥，皮膚障害，脱毛症，紅斑，過角化，ざ瘡，皮膚炎，皮膚剥脱，水疱，湿疹，寝汗，爪の障害 擦過傷，皮膚感染，爪破損，皮膚刺激，毛髪変色，多汗症，爪囲炎，爪色素沈着

4 組織細胞機能用医薬品

筋骨格系 関節痛(10. 3%) 四肢痛, 筋肉痛, 背部痛, CPK増加, 筋力低下, 筋痙縮, 筋骨格痛 筋骨格系胸痛, 関節炎, 頚部痛, 側腹部痛, 骨痛, 筋固縮
その他 疲労(35. 4%), 粘膜の炎症(13. 9%), 体重減少(13. 5%), 無力症(12. 8%) 悪寒, 発熱, γ－GTP増加, 疼痛, 胸痛, AI－P増加, インフルエンザ様疾患, 倦怠感 体重増加, 全身健康状態低下, カンジダ感染, 粘膜乾燥, 温度変化不耐症, 乳頭痛, 転倒, 免疫応答低下, 冷感, 敗血症
(表終了)

ヴォトリエント錠200mg (200mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291028F1023
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】パゾパニブ塩酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)グラクソ・スミスクライン
【薬価】3783.7円/1T
【薬価収載日】2012/11/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○悪性軟部腫瘍
○根治切除不能・転移性の腎細胞癌
注意
悪性軟部腫瘍
1. 化学療法未治療例の有効性・安全性は未確立。
2. 臨床試験に組み入れられた病理組織型等, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
根治切除不能・転移性の腎細胞癌
3. 術後補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 1回800mg 1日1回 食事の1時間以上前又は食後2時間以降 内服。適宜減量。
注意
1. 他の抗悪性腫瘍剤(サイトカイン製剤含む)との併用について, 有効性・安全性は未確立。
2. 食後に投与時, Cmax・AUC上昇の報告あり。用法・用量を遵守。
3. 副作用の発現で減量して投与を継続する時は, 症状, 重症度等に応じて, 200mgずつ減量。減量後に増量する時は, 200mgずつ増量。800mgまで。
4. 臨床試験で, 中等度の肝機能障害の最大耐用量は200mgであり, 200mgを超える投与は, 推奨されない。
5. 肝機能検査値異常の発現時は, 下記を考慮し, 休薬・減量・中止。
肝機能検査値異常の休薬・減量・中止基準
(表開始)
肝機能検査値 処置
3×ULN≦ALT≦8×ULN 投与継続(Grade 1以下又は投与前値に回復するまで1週間ごとに肝機能検査を実施)。
ALT＞8×ULN Grade 1以下又は投与前値に回復するまで投与を中断し, 再開時は, 400mg投与。再開後, 肝機能検査値異常(ALT＞3×ULN)の再発時は, 投与中止。
ALT＞3×ULN, かつ総ビリルビン＞2×ULN(直接ビリルビン＞35%) 投与中止(Grade 1以下又は投与前値に回復するまで経過観察)。
(表終了)
GradeはNCI CTCAE。
ULN 基準値上限。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝不全(頻度不明), 肝機能障害(28. 4%)(AST, ALT, ビリルビン, γ－GTP上昇等), 死亡。
2. 高血圧(42. 0%), 高血圧クリーゼ(0. 6%)。
3. 心機能障害(2. 8%)(うっ血性心不全, 左室駆出率低下等)。
4. QT間隔延長(0. 6%), 心室性不整脈(Torsades de pointes含む)(0. 1%)。
5. 動脈血栓性事象(1. 8%)(心筋梗塞, 狭心症, 虚血性脳卒中, 一過性脳虚血発作, 心筋虚血等)。
6. 静脈血栓性事象(1. 1%)(静脈血栓症, 肺塞栓症)。
7. 動脈解離(頻度不明)(大動脈解離含む)。
8. 出血(13. 2%)(脳出血(0. 5%)(腫瘍関連出血含む), 喀血(1. 3%), 消化管出血(4. 1%), 血尿(1. 8%), 肺出血(0. 1%), 鼻出血(4. 9%)等)。
9. 消化管穿孔(頻度不明), 消化管瘻(0. 5%)。
10. 甲状腺機能障害(12. 6%)。
11. ネフローゼ症候群(0. 1%), 蛋白尿(12. 5%)。
12. 重篤な感染症(8. 6%)。
13. 創傷治癒遅延(0. 4%)。
14. 間質性肺炎(0. 1%)。
15. 血栓性微小血管症(0. 1%)(血栓性血小板減少性紫斑病, 溶血性尿毒症症候群等)(破砕赤血球を伴う貧血, 血小板減少, 腎機能障害等)。
16. 可逆性後白質脳症症候群(頻度不明)(高血圧, 頭痛, 覚醒低下, 精神機能変化, 視力消失(皮質盲含む)等)。
17. 膵炎(3. 8%)。
18. 網膜剥離(0. 1%)(飛蚊症, 光視症, 視野欠損, 視力低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 30%以上 5～30%未満 5%未満
代謝 食欲減退 体重減少 高カリウム血症, 高血糖
神経系 － 味覚異常, 頭痛 浮動性眩暈, 末梢性ニューロパチー, 不眠症, 傾眠
循環器 － － 徐脈(無症候性)
呼吸器 － 発声障害 呼吸困難, 咳嗽, 気胸
消化器 下痢, 悪心 嘔吐, 腹痛, 消化不良, 口内炎, 便秘 口内乾燥, 腹部膨満, 口腔咽頭痛, 胃炎, しゃっくり, 痔核, 嚥下障害, 鼓腸
皮膚 毛髪変色 手掌・足底発赤知覚不全症候群, 発疹, 脱毛症, 皮膚色素減少, 皮膚乾燥 剥脱性発疹, 掻痒症, 皮膚障害, 爪の障害, ざ瘡, 皮膚潰瘍, 毛髪成長異常
筋骨格 － 筋骨格痛 筋肉痛, 関節痛, 筋痙縮
血液 － 血小板減少症, 好中球減少症, 白血球減少症, 貧血 リンパ球減少症, 赤血球増加症
臨床検査 － － 血中クレアチニン増加, リパーゼ増加, 血中AI－P増加, LDH異常, 血中ナトリウム減少, 血中カルシウム減少, 血中マグネシウム減少, 血中尿素増加, 血中リン減少, 血中ブドウ糖減少, 血中アルブミン減少
その他 疲労 粘膜炎, 無力症 末梢性浮腫, 顔面浮腫, 胸痛, 霧視, ほてり, 発熱, 多汗症, 脱水, 腫瘍疼痛, 浮腫, 悪寒, 挫傷, 不規則月経
(表終了)

カソデックス錠80mg (80mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291009F1039
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】ビカルタミド
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】150.3円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺癌
注意
1. 根治療法でない。投与12週後をめどに, 効果不十分時又は病勢の進行があれば, 手術療法等他の処置を考慮。
2. 副作用の発現時は, 有益性を考慮の上, 必要時, 休薬・集学的治療法等の治療法に変更。
【用法用量】成人 1回80mg 1日1回 内服。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 小児。
3. 女性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 劇症肝炎, 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP, LDHの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
2. 白血球減少(1. 0%), 血小板減少(1. 9%)。
3. 間質性肺炎(頻度不明)。
4. 心不全, 心筋梗塞(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
内分泌 乳房腫脹(44. 7%), 乳房圧痛(46. 6%), ほてり
生殖器 勃起力低下
肝臓 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇 γ－GTP上昇, LDH上昇
泌尿器 腎機能障害(クレアチニン上昇, BUN上昇) 血尿, 夜間頻尿
皮膚 掻痒, 発疹 発汗, 皮膚乾燥, 脱毛, 多毛, 光線過敏症
精神神経系 性欲減退 傾眠 頭痛, 眩暈, 不眠, 抑うつ状態
循環器 心電図異常
消化器 便秘 口渇 食欲不振, 下痢, 悪心, 嘔吐, 消化不良, 鼓腸放屁, 腹痛
筋・骨格系 胸痛 骨盤痛
過敏症 血管浮腫, 蕁麻疹
その他 総コレステロール上昇, 中性脂肪上昇 さむけ 貧血, 浮腫, 倦怠感, 無力症, 疲労, 高血糖, 体重増加・減少
(表終了)

4 組織細胞機能用医薬品

カボメティクス錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291064F1020
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】カボザンチニブリンゴ酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】8007.6円/1T
【薬価収載日】2020/05/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇根治切除不能・転移性の腎細胞癌
〇癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
注意
根治切除不能・転移性の腎細胞癌
1．術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
2．臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。前治療歴がない患者への単独投与は，他の治療も検討。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
3．局所療法（経皮的エタノール注入療法，ラジオ波焼灼療法，マイクロ波凝固療法，肝動脈塞栓療法／肝動脈化学塞栓療法，放射線療法等）の適応となる肝細胞癌への有効性・安全性は未確立。
4．一次治療の有効性・安全性は未確立。
5．臨床試験の対象となった患者の前治療歴，肝機能障害の程度等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を十分理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】根治切除不能・転移性の腎細胞癌
成人 カボザンチニブ 1回60mg 1日1回 空腹時 内服。適宜減量。
ニボルマブ（遺伝子組換え）と併用
成人 カボザンチニブ 1回40mg 1日1回 空腹時 内服。適宜減量。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
成人 カボザンチニブ 1回60mg 1日1回 空腹時 内服。適宜減量。
注意
効能共通
1．食後投与時，Cmax・AUCが増加するとの報告あり。食事の1時間前から食後2時間までの服用は避ける。
2．副作用発現時は，下記を考慮し，休薬，減量，中止。
減量・中止時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量（mg／日） 単独投与 投与量（mg／日） ニボルマブ（遺伝子組換え）と併用
通常量 60 40
1段階減量 40 20
2段階減量 20 20 隔日
中止 20で忍容不能時，中止。20 隔日で忍容不能時，中止。
（表終了）
副作用発現時の休薬，減量，中止基準の目安
（表開始）
副作用 程度（注） 処置
ニボルマブ（遺伝子組換え）との併用の肝機能障害 ALT・ASTが基準値上限の3倍超5倍以下に増加，又は総ビリルビンが基準値上限の1．5倍超3倍以下 管理困難で忍容不能時は，Grade1以下に回復するまで1段階ずつ減量・休薬。休薬後に再開時は，1段階減量した用量から開始（休薬前の用量まで再増量不可）。
ニボルマブ（遺伝子組換え）との併用の肝機能障害 ALT・ASTが基準値上限の5倍超8倍以下に増加し，かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍以下 Grade1以下に回復するまで休薬。再開時，1段階減量した用量から開始（休薬前の用量まで再増量不可）。
ニボルマブ（遺伝子組換え）との併用の肝機能障害 ALT・ASTが基準値上限の8倍超，又はALT・ASTが基準値上限の3倍超，かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍超 中止
上記以外の副作用 Grade2 管理困難で忍容不能時は，Grade1以下に回復するまで1段階ずつ減量・休薬。休薬後に再開時は，1段階減量した用量から開始（単独投与時は休薬前の用量まで再増量可）。
上記以外の副作用 Grade3 Grade1以下に回復するまで1段階ずつ減量・休薬。休薬後に再開時は，1段階減量した用量から開始（単独投与時は休薬前の用量まで再増量可）。
上記以外の副作用 Grade4 Grade1以下に回復するまで休薬。再開時は，1段階減量した用量から開始（休薬前の用量まで再増量不可）。
（表終了）
（注）GradeはNCI－CTCAE ver．4．0に準ずる。
3．20mg錠と60mg錠の生物学的同等性は示されていないため，60mgを投与時は20mg錠を使用しない。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
4．他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．消化管穿孔（0．9%），瘻孔（0．7%）。
2．出血（7．7%）（消化管出血（0．9%），脳出血（0．2%）等）。
3．血栓塞栓症（4．1%）（肺塞栓症（1．7%），深部静脈血栓症（0．7%），虚血性脳卒中（0．2%）等）。
4．高血圧（32．6%）（高血圧クリーゼ（頻度不明））。
5．可逆性後白質脳症症候群（頻度不明）（痙攣，頭痛，錯乱，視覚障害，皮質盲等）。
6．顎骨壊死（0．2%）。
7．膵炎（0．6%）。
8．腎障害（13．6%）（急性腎障害（1．3%），蛋白尿（8．7%）等）。
9．肝不全（0．1%），肝機能障害（34．8%）（AST，ALT等の上昇，肝性脳症（0．7%），胆汁うっ滞性肝炎（0．1%）等）。
10．骨髄抑制（貧血（9．2%），好中球減少（8．1%），血小板減少（13．3%），リンパ球減少（2．5%）等）。
11．虚血性心疾患（0．1%），不整脈（1．3%），心不全（0．2%）。
12．横紋筋融解症（0．2%）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
13．間質性肺疾患（1．4%）。
14．手足症候群（44．3%）。
15．創傷治癒遅延（0．6%）。
16．重度の下痢（8．7%）。
17．動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
消化器 下痢（57．2%），食欲減退，悪心，口内炎，嘔吐，腹痛 消化不良，便秘 舌痛
皮膚 発疹 皮膚乾燥，脱毛，ざ瘡様皮膚炎，毛髪変色，紅斑，過角化 皮膚血管炎
その他 疲労，味覚異常，体重減少，甲状腺機能低下症，発声障害，粘膜の炎症，無力症 浮動性眩暈，頭痛，筋痙縮，四肢痛，関節痛，脱水，末梢性ニューロパチー，嚥下障害，低マグネシウム血症，低リン酸血症，低カリウム血症，低カルシウム血症，低アルブミン血症，アミラーゼ上昇，リパーゼ上昇 膿瘍
（表終了）

カボメティクス錠60mg（60mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291064F2026
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】カボザンチニブリンゴ酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】22333円/1T
【薬価収載日】2020/05/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇根治切除不能・転移性の腎細胞癌
〇癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
注意
根治切除不能・転移性の腎細胞癌
1．術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
2．臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。前治療歴がない患者への単独投与は，他の治療も検討。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
3．局所療法（経皮的エタノール注入療法，ラジオ波焼灼療法，マイクロ波凝固療法，肝動脈塞栓療法／肝動脈化学塞栓療法，放射線療法等）の適応となる肝細胞癌への有効性・安全性は未確立。
4．一次治療の有効性・安全性は未確立。
5．臨床試験の対象となった患者の前治療歴，肝機能障害の程度等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を十分理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】根治切除不能・転移性の腎細胞癌，癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
成人 1回60mg 1日1回 空腹時 内服。適宜減量。
注意
効能共通
1．食後投与時，Cmax・AUCが増加するとの報告あり。食事の1時間前から食後2時間までの服用は避ける。
2．副作用発現時は，下記を考慮し，休薬，減量，中止。
減量・中止時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量（mg／日） 単独投与
通常量 60
1段階減量 40
2段階減量 20
中止 20で忍容不能時，中止。
（表終了）
副作用発現時の休薬，減量又は中止基準の目安

4 組織細胞機能用医薬品

（表開始）
程度（注） 処置
Grade2 管理困難で忍容不能時は，Grade1以下に回復するまで1段階ずつ減量・休薬。休薬後に再開時は，1段階減量した用量から開始（単独投与時は休薬前の用量まで再増量可）。
Grade3 Grade1以下に回復するまで1段階ずつ減量・休薬。休薬後に再開時は，1段階減量した用量から開始（単独投与時は休薬前の用量まで再増量可）。
Grade4 Grade1以下に回復するまで休薬。再開時は，1段階減量した用量から開始（休薬前の用量まで再増量不可）。
（表終了）
（注）GradeはNCI－CTCAE ver. 4. 0に準ずる。
3. 20mg錠と60mg錠の生物学的同等性は示されていないため，60mgを投与時は20mg錠を使用しない。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
4. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 消化管穿孔（0. 9%），瘻孔（0. 7%）。
2. 出血（7. 7%）（消化管出血（0. 9%），脳出血（0. 2%）等）。
3. 血栓塞栓症（4. 1%）（肺塞栓症（1. 7%），深部静脈血栓症（0. 7%），虚血性脳卒中（0. 2%）等）。
4. 高血圧（32. 6%）（高血圧クリーゼ（頻度不明））。
5. 可逆性後白質脳症症候群（頻度不明）（痙攣，頭痛，錯乱，視覚障害，皮質盲等）。
6. 顎骨壊死（0. 2%）。
7. 膵炎（0. 6%）。
8. 腎障害（13. 6%）（急性腎障害（1. 3%），蛋白尿（8. 7%）等）。
9. 肝不全（0. 1%），肝機能障害（34. 8%）（AST，ALT等の上昇，肝性脳症（0. 7%），胆汁うっ滞性肝炎（0. 1%）等）。
10. 骨髄抑制（貧血（9. 2%），好中球減少（8. 1%），血小板減少（13. 3%），リンパ球減少（2. 5%）等）。
11. 虚血性心疾患（0. 1%），不整脈（1. 3%），心不全（0. 2%）。
12. 横紋筋融解症（0. 2%）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
13. 間質性肺疾患（1. 4%）。
14. 手足症候群（44. 3%）。
15. 創傷治癒遅延（0. 6%）。
16. 重度の下痢（8. 7%）。
17. 動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
消化器 下痢（57. 2%），食欲減退，悪心，口内炎，嘔吐，腹痛 消化不良，便秘 舌痛
皮膚 発疹 皮膚乾燥，脱毛，ざ瘡様皮膚炎，毛髪変色，紅斑，過角化 皮膚血管炎
その他 疲労，味覚異常，体重減少，甲状腺機能低下症，発声障害，粘膜の炎症，無力症 浮動性眩暈，頭痛，筋痙縮，四肢痛，関節痛，脱水，末梢性ニューロパチー，嚥下障害，低マグネシウム血症，低リン酸血症，低カリウム血症，低カルシウム血症，低アルブミン血症，アミラーゼ上昇，リパーゼ上昇 膿瘍
（表終了）

ザイティガ錠250mg（250mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291033F1024
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】アビラテロン酢酸エステル
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】3759.3円/1T
【薬価収載日】2014/09/02
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】去勢抵抗性前立腺癌
内分泌療法未治療のハイリスクの予後因子を有する前立腺癌
注意
ハイリスクの予後因子の定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。
【用法用量】プレドニゾロンとの併用 成人 1回1000mg 1日1回 空腹時 内服。
注意
1. 食事の影響でCmax・AUCが上昇するため，食事の1時間前から食後2時間までの服用は避ける。
2. プレドニゾロンの投与時は，臨床成績の項を熟知し投与。
3. 投与中に肝機能検査値の上昇があれば，下記を参考に，休薬・減量・中止。
（表開始）
検査項目 変更の目安
ALT，AST値＞施設正常値上限の5倍又はビリルビン値＞施設正常値上限の3倍 検査値が投与前値又はALT，AST値が施設正常値上限の2. 5倍以下かつビリルビン値が施設正常値上限の1. 5倍以下に回復するまで休薬。回復後は750mgに減量し再開。肝機能検査値異常の再発時，投与前値又はALT，AST値が施設正常値上限の2. 5倍以下かつビリルビン値が施設正常値上限の1. 5倍以下に回復するまで休薬。回復後は500mgに減量し再開。検査値が再度悪化時は投与中止。
ALT，AST値＞施設正常値上限の20倍又はビリルビン値＞施設正常値上限の10倍 投与中止。
（表終了）
4. 外・内科的去勢術と非併用時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害（Child－PughスコアC）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な心障害（心不全（0. 5%）等）。
2. 劇症肝炎（頻度不明），肝不全，肝機能障害（AST増加（7. 1%），ALT増加（7. 4%），ビリルビン上昇（1. 4%）等）。
3. 低カリウム血症（14. 0%）（痙攣，筋力低下等），QT延長，不整脈（Torsades de pointes含む）。
4. 血小板減少（0. 8%）。
5. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋力低下，筋肉痛，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 尿路感染
血液 リンパ球減少症，白血球減少 発熱性好中球減少症
内分泌 副腎不全
代謝・栄養 糖尿病，高脂血症 高アミラーゼ血症，脱水，低アルブミン血症
電解質 高カリウム血症，高マグネシウム血症
精神神経系 浮動性眩暈，頭痛，味覚異常
眼 眼精疲労，羞明
循環器 高血圧 心房細動，頻脈，狭心症，不整脈，徐脈，右脚ブロック，心室性頻脈
呼吸器 胸膜炎 アレルギー性胞隔炎
消化器 悪心，便秘，下痢 嘔吐，消化不良 胃潰瘍，膵炎
肝臓 AI－P増加 LDH増加
皮膚 皮疹
筋骨格 骨折，骨粗鬆症
腎臓・泌尿器 血尿
生殖器 精巣上体炎
全身 疲労，末梢性浮腫 浮腫，顔面浮腫，倦怠感
その他 ほてり 体重増加 血中尿酸減少，高比重リポ蛋白増加，膵管内乳頭粘液性腫瘍
（表終了）

スチバーガ錠40mg（40mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291029F1028
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】レゴラフェニブ水和物
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】5682.6円/1T
【薬価収載日】2013/05/24
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
○癌化学療法後に増悪した消化管間質腫瘍
○癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
注意
効能共通
1. 臨床試験の対象となった患者の前治療歴等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を十分理解した上で，適応患者の選択を行う。
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
2. 一次治療・二次治療の有効性・安全性は未確立。
3. 術後補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
癌化学療法後に増悪した消化管間質腫瘍
4. イマチニブ・スニチニブの治療後を対象。
5. 手術の補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
癌化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌
6. 局所療法（経皮的エタノール注入療法，ラジオ波焼灼療法，マイクロ波凝固療法，肝動脈塞栓療法／肝動脈化学塞栓療法，放射線療法等）の適応となる肝細胞癌患者への有効性・安全性は未確立。

4 組織細胞機能用医薬品

7. 一次治療の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 1回160mg 1日1回 食後 3週間連日 内服，以後1週間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。適宜減量。
注意
1. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
2. 空腹時に投与した時，食後投与と比較して未変化体のCmax・AUCの低下あり，空腹時投与を避ける。高脂肪食摂取後に投与した時，低脂肪食摂取後と比較して活性代謝物のCmax・AUCの低下あり，高脂肪食後の投与を避ける。
3. 副作用の発現時，下記を考慮し，減量・休薬・中止。減量して投与を継続する時は，40mg（1錠）ずつ減量（1日1回80mgを下限）。
・手足症候群
（表開始）
皮膚毒性のグレード 発現回数／用量調節・処置
グレード1 投与を継続し，対症療法を直ちに行う。
グレード2 1回目；投与量を40mg（1錠）減量し，対症療法を直ちに行う。改善なければ，7日間休薬。休薬でグレード0～1に軽快時，投与再開。7日以内に改善がない時，2回目又は3回目；グレード0～1に軽快するまで休薬。再開時，投与量を40mg（1錠）減量。4回目；投与中止。
グレード3 1回目又は2回目；対症療法を直ちに行い，グレード0～1に軽快するまで最低7日間は休薬。再開時，投与量を40mg（1錠）減量。3回目；投与中止。
（表終了）
・肝機能検査値異常
（表開始）
肝機能検査値異常の程度 発現回数／用量調節・処置
ALT・ASTが正常基準値上限の5倍以下 投与を継続し，検査値が正常基準値上限の3倍未満又は投与前値に回復するまで肝機能検査を頻回に実施。
ALT・ASTが正常基準値上限の5倍を超過，かつ20倍以下 1回目；検査値が正常基準値上限の3倍未満又は投与前値に回復するまで休薬。再開時，投与量を40mg（1錠）減量し，最低4週間は肝機能検査を頻回に実施。2回目；投与中止（注1）。
ALT・ASTが正常基準値上限の20倍を超過 投与中止（注1）。
ALT・ASTが正常基準値上限の3倍を超過，かつビリルビン値が正常基準値上限の2倍を超過 投与中止（注1）。ジルベール症候群（注2）でALT・ASTの上昇時は，本欄のビリルビン値の基準によらず，上欄のALT・ASTに従う。
（表終了）
（注1）肝機能検査値が正常範囲又は投与前値に回復するまで，肝機能検査を頻回に実施。
（注2）本剤はUGT1A1によるグルクロン酸抱合を阻害するため，ジルベール症候群で間接型ビリルビンが上昇する可能性。
・高血圧
（表開始）
高血圧のグレード 用量調節・処置
グレード2（無症候性） 投与を継続し，降圧剤投与。降圧剤の治療でコントロールできない時，投与量を40mg（1錠）減量。
グレード2（症候性） 症状が消失し，血圧がコントロールできるまで休薬し，降圧剤の治療を行う。再開後，降圧剤の治療でコントロールできない時，投与量を40mg（1錠）減量。
グレード3 症状が消失し，血圧がコントロールできるまで休薬し，降圧剤の治療を行う。再開時，投与量を40mg（1錠）減量。再開後，降圧剤の治療を行ってもコントロールできない時，投与量をさらに40mg（1錠）減量。
グレード4 投与中止。
（表終了）
・その他の副作用
グレード3以上の副作用発現時は，グレード2以下に軽快するまで休薬し，投与量を40mg（1錠）減量し再開，又は中止を考慮。
グレードはCommon Terminology Criteria for Adverse Events（CTCAE）に準じる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 手足症候群（50. 3%）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0. 1%），多形紅斑（0. 7%）。
3. 劇症肝炎（頻度不明），肝不全（0. 3%），肝機能障害（7. 7%）（AST，ALTの著しい上昇），黄疸（0. 9%），死亡。
4. 出血（8. 8%）（消化管出血（1. 8%），喀血（0. 2%），肺出血（0. 2%），腹腔内出血（0. 1%），膣出血（0. 1%），脳出血（頻度不明），鼻出血（4. 8%），血尿（0. 9%）等），重篤な出血，死亡。
5. 間質性肺疾患（頻度不明）。
6. 血栓塞栓症（心筋虚血（0. 2%），心筋梗塞（0. 2%）等）。
7. 高血圧（29. 2%），高血圧クリーゼ（0. 2%）。
8. 可逆性後白質脳症（0. 1%）（痙攣，頭痛，錯乱，視覚障害，皮質盲等）。
9. 消化管穿孔（0. 1%），消化管瘻（0. 1%），死亡。
10. 血小板減少（9. 0%），好中球減少（1. 9%），白血球減少（1. 7%）。
11. 動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，末梢性ニューロパチー，不眠，浮動性眩暈，錯感覚 回転性眩暈，失声症，傾眠，知覚過敏，振戦
感覚器 味覚異常，耳鳴 耳不快感
消化器 下痢，食欲減退，口内炎，悪心 便秘，嘔吐，口内乾燥，リパーゼ上昇，アミラーゼ上昇，消化不良，口腔内潰瘍形成 腹水，鼓腸，腹部膨満，胃腸炎，嚥下障害，口唇炎，痔核，肛門の炎症，歯周病，膵炎，胃食道逆流
循環器 頻脈，QT延長，動悸
呼吸器 発声障害 呼吸困難，咳嗽 鼻漏，鼻炎
血液 貧血 リンパ球減少，INR上昇
肝臓 高ビリルビン血症，AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇，LDH上昇 肝機能異常，γ－GTP上昇
腎臓 蛋白尿，血中クレアチニン上昇 BUN上昇，総蛋白減少，高尿酸血症
筋・骨格系 筋痙縮，関節痛 筋力低下，筋骨格硬直
皮膚 発疹 脱毛，皮膚乾燥，掻痒，紅斑，ざ瘡，皮膚剥脱，過角化 多汗症，蕁麻疹，爪の障害，剥脱性発疹，皮膚亀裂，皮膚毒性，皮膚肥厚
その他 疲労，疼痛，無力症，体重減少，粘膜炎 感染，発熱，低リン酸血症，甲状腺機能低下症，浮腫，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低アルブミン血症，脱水，低カルシウム血症，倦怠感，低マグネシウム血症 甲状腺機能亢進症，ほてり，全身健康状態低下，悪寒，高トリグリセリド血症，尿潜血 CK上昇
（表終了）

ゼジューラ錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291068F1028
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】ニラパリブトシル酸塩水和物
【メーカー】(製)武田薬品工業
【薬価】9316.8円/1T
【薬価収載日】2022/05/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇卵巣癌の初回化学療法後の維持療法
〇白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣癌の維持療法
〇白金系抗悪性腫瘍剤感受性の相同組換え修復欠損を有する再発卵巣癌
注意
卵巣癌の初回化学療法後の維持療法
1. 国際産婦人科連合進行期分類III期・IV期の卵巣癌と診断され，白金系抗悪性腫瘍剤含む初回化学療法で奏効が維持されている患者を対象。
2. 臨床試験に組み入れられた前治療歴等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣癌の維持療法
3. 再発時の白金系抗悪性腫瘍剤含む化学療法で，奏効が維持されている患者を対象。
4. 臨床試験に組み入れられた白金系抗悪性腫瘍剤含む化学療法終了後から疾患進行までの期間，前治療歴等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
白金系抗悪性腫瘍剤感受性の相同組換え修復欠損を有する再発卵巣癌
5. 3つ以上の化学療法歴のある患者を対象。
6. 承認された体外診断用医薬品・医療機器を用いた検査により，相同組換え修復欠損を有する患者に投与。
7. 臨床試験に組み入れられた白金系抗悪性腫瘍剤含む化学療法終了後から疾患進行までの期間，前治療歴等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，本剤以外の治療も検討し，適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人 1回200mg 1日1回 内服。初回投与前の体重が77kg以上で血小板数が150000／μL以上の成人 1回300mg 1日1回 内服。適宜減量。
注意
効能共通
1. 副作用が発現時は，下記を参考に，休薬，減量，中止。
減量・中止時の投与量
（表開始）
初回量 200mg 300mg
1段階減量 100mg 200mg
2段階減量 投与中止 100mg
3段階減量 投与中止
（表終了）
副作用発現時の休薬・減量・中止基準
（表開始）
副作用 程度（注1） 処置 再開時の投与量
血小板減少 血小板数 100000／μL未満 初回発現時 ・血小板数100000／μL以上に回復するまで最大28日間休薬。・28日間休薬しても回復しない時は投与中止。・同量・1段階減量 ・血小板数75000／μL未満に低下時は1段階減量
血小板減少 血小板数 100000／μL未満 2回目の発現時 ・血小板

4 組織細胞機能用医薬品

数100000／μL以上に回復するまで最大28日間休薬。・28日間休薬しても回復しない時は投与中止。1段階減量
好中球減少 好中球数 1000／μL未満 ・好中球数1500／μL以上に回復するまで最大28日間休薬。・28日間休薬しても回復しない時は投与中止。1段階減量
貧血 ヘモグロビン値 8g／dL未満 ・ヘモグロビン値9g／dL以上に回復するまで最大28日間休薬。・28日間休薬しても回復しない時は投与中止。1段階減量
上記以外の副作用(注2) Grade3以上 ・ベースライン又はGrade1以下に回復するまで最大28日間休薬。・28日間休薬しても回復しない時は投与中止。1段階減量
(表終了)
(注1)GradeはNCI－CTCAE ver. 4. 03に準じる。
(注2)副作用の予防・治療を行っても副作用が継続時。
2. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
卵巣癌の初回化学療法後の維持療法
3. 本剤を3年を超えて投与時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 骨髄抑制(78. 8%)(血小板減少(62. 0%)，貧血(55. 1%)，白血球減少(8. 5%)，好中球減少(21. 2%)，発熱性好中球減少症(0. 4%)，好中球減少性敗血症(0. 1%)，好中球減少性感染(頻度不明)，汎血球減少症(0. 3%)等)。
2. 高血圧(9. 8%)(高血圧クリーゼ(0. 2%))。
3. 可逆性後白質脳症症候群(頻度不明)(痙攣発作，頭痛，精神状態変化，視覚障害，皮質盲等)。
4. 間質性肺疾患(0. 6%)(肺臓炎(0. 5%)，間質性肺疾患(0. 1%)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 5%未満 頻度不明
感染 尿路感染，気管支炎，結膜炎，上咽頭炎
免疫障害 過敏症 アナフィラキシー
精神神経系 頭痛，不眠症 浮動性眩暈 不安，うつ病，幻覚，認知障害，集中力障害，記憶障害，錯乱状態 失見当識
循環器 動悸 頻脈 塞栓症
呼吸器 呼吸困難 鼻出血，咳嗽
消化器 悪心(59. 1%)，便秘(24. 2%)，嘔吐(20. 0%)，食欲減退，下痢 口内乾燥，味覚異常，消化不良，腹痛 口内炎
皮膚 光線過敏性反応 発疹
筋・骨格系 関節痛，筋肉痛，背部痛
全身 疲労(33. 2%)，無力症 粘膜の炎症，末梢性浮腫
その他 血中クレアチニン増加 AST増加，ALT増加，血中AI－P増加，γ－GTP増加，体重減少，低カリウム血症
(表終了)

タイケルブ錠250mg（250mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291022F1026
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】ラパチニブトシル酸塩水和物
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)グラクソ・スミスクライン
【薬価】908.2円/1T
【薬価収載日】2009/06/19
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】HER2過剰発現が確認された手術不能・再発乳癌
注意
1. 臨床成績を熟知し，適応患者の選択を行う。
2. 熟知した病理医・検査施設の検査で，HER2過剰発現を確認後投与。
3. カペシタビンと併用時は，アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤，タキサン系抗悪性腫瘍剤・トラスツズマブ(遺伝子組換え)による化学療法後の増悪・再発例を対象。
4. アロマターゼ阻害剤と併用時は，ホルモン受容体陽性かつ閉経後の患者を対象。
5. 術前・術後補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 下記量 1日1回 食事の1時間以上前又は食後1時間以降 内服。
適宜減量。
(1). カペシタビンと併用 1250mg。
(2). アロマターゼ阻害剤と併用 1500mg。
注意
1. カペシタビンと併用時，臨床成績の項，用法・用量及び用量調節方法を理解した上で行う。
2. 本剤単剤で使用時の有効性・安全性は未確立。
3. 食後に投与時，Cmax・AUC上昇の報告あり。食事の前後1時間以内の服用は避ける。
4. 1回の投与量を1日2回に分割投与時，AUC上昇の報告あり，分割投与しない。
5. 副作用で，休薬・減量・中止時は，下記を考慮。
臨床試験の本剤の休薬・減量・中止基準(外国)
駆出率低下及び間質性肺炎による休薬・減量・中止基準(＊A)
(表開始)
有害事象 発現回数 処置 処置 処置
無症候性の駆出率低下(注1) 1回目 投与継続 (1～2週後に再検) 回復;投与継続 回復;投与継続
無症候性の駆出率低下(注1) 1回目 投与継続 (1～2週後に再検) 持続;休薬 (3週以内に再検) 回復;カペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開可能
無症候性の駆出率低下(注1) 1回目 投与継続 (1～2週後に再検) 持続;休薬 (3週以内に再検) 持続;中止
無症候性の駆出率低下(注1) 2回目 (減量前) 1回目に準じる 1回目に準じる 1回目に準じる
無症候性の駆出率低下(注1) 2回目 (減量後) 中止 中止 中止
症候性の駆出率低下 (Grade3，4) － 中止 中止 中止
間質性肺炎 (Grade3，4) － 中止 中止 中止
(表終了)
(注1)LVEFがベースラインから20%以上低下かつ施設基準値を下回った時。
臨床試験の本剤の休薬・減量・中止基準(外国)
肝機能検査値異常による休薬・減量・中止基準(＊B)
(表開始)
有害事象 有害事象 処置
総ビリルビン ALT 処置
＞2×ULN (直接ビリルビン＞35%(注2)) ＞3×ULN 中止
上記以外 ＞8×ULN 休薬(2週後に再検) 有効性が得られた時，カペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開可能
上記以外 ＞5×ULN(注3) (無症候性にて2週間継続) 休薬(2週後に再検) 有効性が得られた時，カペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開可能
上記以外 ＞3×ULN (症候性(注4)) 休薬(2週後に再検) 有効性が得られた時，カペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開可能
上記以外 ＞3×ULN (無症候性) 継続(1週間ごとに再検) ALT＞3×ULNが4週間継続時は中止
－ ≦3×ULN 継続
(表終了)
(注2)測定していない場合は＞35%。
(注3)ALT＞5×ULN発現時点で3日以内に再検し，以後1週間ごとに検査。
(注4)肝炎又は過敏症の徴候・症状(疲労，嘔気，嘔吐，右上腹部の痛み又は圧痛，発熱，発疹又は好酸球増加)のいずれかの発現・増悪。
臨床試験の本剤の休薬・減量・中止基準(外国)
好中球数，血小板数，ヘモグロビン，クレアチニン・クレアチニンクリアランス検査値異常による休薬・減量・中止基準(＊C)
(表開始)
有害事象 処置
500／mm3≦Neu＜1000／mm3 25000／mm3≦Pt＜75000／mm3 6. 5g／dL≦Hb＜9g／dL(注5) 1. 5mg／dL＜Cre≦6×ULN CCr＜40mL／分 休薬(Grade1以下に回復するまで最大14日間可能)後，1回目;減量せず再開 2～3回目;減量せず又はカペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開
Neu＜500／mm3 Pt＜25000／mm3 Hb＜6. 5g／dL(注5) Cre＞6×ULN 休薬(Grade1以下に回復するまで最大14日間可能)後，減量，継続，再開等は事象ごとに判断
(表終了)
(注5)輸血時は輸血後の数値。
臨床試験の本剤の休薬・減量・中止基準(外国)
上記＊A～＊C以外の有害事象発現時の休薬・減量・中止基準
(表開始)
有害事象 処置
Grade2 1～2回目;減量せず継続 3回目;減量せず又はカペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して継続 4回目;カペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して継続
Grade3 休薬(Grade1以下に回復するまで最大14日間可能)後，発現回数にかかわらず，減量せず又はカペシタビンと併用時1000mg／日，アロマターゼ阻害剤と併用時1250mg／日に減量して再開可能
Grade4 休薬(Grade1以下に回復するまで最大14日間可能)後，減量，継続，再開等は事象ごとに判断
(表終了)
GradeはNCI CTCAE(ver3. 0)。
ULN 施設基準値上限。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な肝機能障害(8%(注))(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，血中ビリルビン等の著しい増加)，死亡。
2. 間質性肺疾患(0%(注))(間質性肺炎，肺臓炎等)。

4 組織細胞機能用医薬品

3. 重篤な心障害(左室駆出率低下(3%(注)), 心不全等)。
4. 下痢(56%(注))(脱水症状)。
5. QT間隔延長(0%(注))。
6. 重度の皮膚障害(中毒性表皮壊死融解症(0%(注)), 皮膚粘膜眼症候群(0%(注)), 多形紅斑(0. 2%(注))等)。
(注)外国。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
胃腸障害 下痢, 悪心, 嘔吐 口内炎, 消化不良, 腹痛, 上腹部痛, 口内乾燥, 便秘, 口腔内潰瘍形成, 胃食道逆流性疾患, 腹部膨満(鼓腸含む), 放屁 嚥下障害, 痔核, 口唇のひび割れ, 口唇乾燥, 歯肉炎, 舌痛, 胃炎, 口唇水疱, 歯肉痛, アフタ性口内炎, 口唇炎, 口唇潰瘍, 消化器痛, 大腸炎, レッチング, 胃腸炎, 口腔咽頭痛 消化管潰瘍, 胃不快感, 胃腸出血, 下腹部痛, 血便排泄, 口の錯感覚, 口唇糜爛, 歯肉出血, 心窩部不快感, 舌炎, 舌障害, 舌苔, 肛門出血
皮膚・皮下組織障害 手掌・足底発赤知覚不全症候群, 発疹, 爪の障害, 皮膚乾燥 掻痒症, 脱毛症, ざ瘡, ざ瘡様皮膚炎, 皮膚亀裂(ひび・あかぎれ含む), 紅斑, 爪破損, 皮膚色素過剰, 皮膚剥脱, 爪毒性, 皮膚炎 爪甲離床症, 斑状皮疹, 剥脱性発疹, 斑状丘疹状皮疹, 皮膚病変, 皮膚疼痛, 痂皮, 紅斑性皮疹, 多汗症, 皮膚障害, 全身性皮疹, 皮膚変色, 乾皮症, 皮膚刺激, 皮膚潰瘍, 毛髪成長異常, 手掌紅斑, 水疱, 多形紅斑, 過角化, 色素沈着障害, 斑, 皮膚肥厚 脂漏性皮膚炎, 湿疹, 皮膚反応, 接触性皮膚炎, 嵌入爪, 丘疹, 紅色汗疹, 爪痛, 皮脂欠乏性湿疹
全身障害・投与局所様態 疲労 疼痛, 無力症, 粘膜の炎症, 浮腫, 発熱, 末梢性浮腫, 粘膜乾燥, 悪寒 腋窩痛, 治癒不良, 顔面浮腫, 壊死, 不快感 倦怠感, 胸部不快感, 胸痛, 口渇, 熱感, 冷感
神経系障害 － 頭痛, 味覚異常, 嗜眠, 錯感覚, 末梢性ニューロパチー, 浮動性眩暈, 感覚鈍麻 末梢性感覚ニューロパチー, 異常感覚, 知覚過敏, 血管迷走神経性失神, 神経毒性, 嗅覚錯誤, 神経痛 傾眠, 体位性眩暈
代謝・栄養障害 － 食欲減退(食欲不振含む), 低カリウム血症, 脱水 低ナトリウム血症, ラクトース不耐性, 低蛋白血症 高血糖, 高カリウム血症(血中カリウム増加含む), 高尿酸血症(血中尿酸増加含む), 低アルブミン血症(血中アルブミン減少含む), 高カルシウム血症(血中カルシウム増加含む), 低クロール血症
筋骨格系・結合組織障害 － 四肢痛, 背部痛, 筋痙縮, 筋痛 関節痛, 筋骨格硬直, 骨痛, 関節硬直, 四肢不快感 筋骨格痛
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 － 鼻出血, 呼吸困難, 鼻乾燥, 咳嗽 鼻部不快感, 鼻潰瘍, アレルギー性鼻炎, 肺塞栓症, 鼻漏, 副鼻腔障害, 喘息 咽喉頭疼痛, 発声障害, 鼻閉
感染症・寄生虫症 － 爪囲炎, 限局性感染, 爪感染, 上気道感染, 口腔カンジダ症 真菌感染, 鼻炎, 皮膚感染, 足部白癬, 尿路感染, 鼻咽頭炎, 膀胱炎, インフルエンザ様疾患, 感染, 耳感染, 大腸菌性敗血症 咽頭炎, 帯状疱疹, 単純ヘルペス, 爪白癬, 肺感染, 蜂巣炎, 毛包炎
臨床検査 － 駆出率減少, 血中AI－P増加, 体重減少 ヘモグロビン減少, 腎クレアチニンクリアランス減少, 血中クレアチニン増加, アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加, 血中クレアチニン異常, 血中クレアチン異常 リンパ球数減少, アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加, 赤血球数減少, ヘマトクリット減少, γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加, C－反応性蛋白増加, 好塩基球数増加, 好酸球百分率増加, 総蛋白減少, 脳性ナトリウム利尿ペプチド上昇, リンパ球数増加, 血中クレアチンホスホキナーゼ増加, 血中コレステロール増加, 血中乳酸脱水素酵素減少, 血中乳酸脱水素酵素増加, 好塩基球百分率増加, 好酸球数増加, 単球百分率減少, 尿中ケトン体陽性, 尿比重増加
眼障害 － 眼乾燥, 結膜炎, 流涙増加 視覚障害, 霧視, 眼刺激, 角膜炎, 眼球乾燥, 眼瞼浮腫 眼の異常感, 眼掻痒症, 角膜糜爛, 眼部不快感, 羞明, 霰粒腫
血液・リンパ系障害 － 好中球減少症(好中球数減少含む), 白血球減少症(白血球数減少含む), 貧血 血小板減少症(血小板数減少含む), 白血球増加症, 血液毒性, 好中球増加症 －
精神障害 － 不眠症 うつ病, 抑うつ気分, 気分変動 －
肝胆道系障害 － 高ビリルビン血症(血中ビリルビン増加含む) 肝毒性, 胆嚢炎 －
生殖系・乳房障害 － － 腟分泌物, 腟の炎症, 腟出血, 女性生殖器痛, 生殖器の炎症 －
血管障害 － ほてり 蒼白, 低血圧 潮紅
心臓障害 － 心室機能不全 動悸, 心筋梗塞, 心房細動, プリンツメタル狭心症, 上室性期外収縮 洞性頻脈
その他 － 皮膚裂傷, 回転性眩暈 排尿困難, 皮膚の新生物, 急性骨髄性白血病 血尿(尿中血陽性含む), 蛋白尿(尿蛋白含む, 過敏症)
(表終了)

トルカプ錠160mg (160mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291082F1028
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】カピバセルチブ
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】11116.2円/1T
【薬価収載日】2024/05/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】内分泌療法後に増悪したPIK3CA, AKT1, PTEN遺伝子変異を有するホルモン受容体陽性でHER2陰性の手術不能・再発乳癌
注意
1. 術前・術後薬物療法の有効性・安全性は未確立。
2. 臨床試験に組み入れられた内分泌療法歴等について, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
3. 熟知した病理医・検査施設の検査で, PIK3CA, AKT1, PTEN遺伝子変異の患者に投与。検査時は, 承認された体外診断用医薬品・医療機器を使用。
【用法用量】フルベストラントとの併用 成人 1回400mg 1日2回 4日間連続 内服。以後3日間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。適宜減量。
注意
1. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について, 有効性・安全性は未確立。
2. 副作用が発現時は, 下記を目安に, 休薬・減量・中止。
減量の目安
(表開始)
減量レベル 1回量(mg)
通常量 400
1段階減量 320
2段階減量 200
3段階減量 投与中止
(表終了)
副作用発現時の用量調節基準
(表開始)
副作用 程度(注) 処置
高血糖 症候性のGrade2 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時, 同量で投与再開。21日過ぎて回復した時, 1段階減量し投与再開。
高血糖 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時, 1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時, 投与中止。
高血糖 Grade4 投与中止。
下痢 Grade2 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時, 同量又は1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時, 又は再発した時, 1段階減量し投与再開。
下痢 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時, 1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時, 投与中止。
下痢 Grade4 投与中止。
発疹, その他の皮膚障害 Grade2 持続する時, 休薬。再開する時, 同量で投与。
発疹, その他の皮膚障害 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。28日以内に回復した時, 1段階減量し投与再開。28日以内に回復しなかった時, 投与中止。Grade3以上の忍容不能な発疹, その他の皮膚障害が再発した時, 投与中止を検討。
発疹, その他の皮膚障害 Grade4 投与中止。
上記以外の副作用 Grade2(忍容不能な時) 及び Grade3 Grade1以下又は忍容可能なGrade2に回復するまで休薬。21日以内に回復した時, 同量又は1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時, 投与中止。
上記以外の副作用 Grade4 投与中止。
(表終了)
(注)高血糖のGradeはNCI－CTCAE ver4. 03に, その他の副作用のGradeはNCI－CTCAE ver5. 0に準じる。
3. 強いCYP3A阻害剤と併用時は, 本剤の1回量を320mgに減量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 高血糖(14. 1%)。
2. 重度の下痢(9. 3%)。
3. 重度の皮膚障害(多形紅斑(1. 7%), 全身性剥脱性皮膚炎(0. 6%)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 尿路感染
血液・リンパ系障害 貧血 好中球減少症, 血小板減少症, 白血球減少症, リンパ球減少症
免疫系障害 過敏症
代謝・栄養障害 食欲減退
神経系障害 味覚不全, 頭痛
胃腸障害 下痢(67. 3%), 悪心(27. 3%), 嘔吐, 口内炎 消化不良
皮膚・皮下組織障害 発疹(34. 1%) 掻痒症, 皮膚乾燥, 薬疹 皮膚炎
腎・尿路障害 急性腎障害 腎不全, 腎機能障害
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 粘膜の炎症, 無力症, 発熱
臨床検査 血中クレアチニン増加, グリコヘモグロビン増加, アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加, 白血球数減少 心電図QT延長, 糸球体濾過率減少
(表終了)

4 組織細胞機能用医薬品

トルカプ錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291082F2024
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】カピバセルチブ
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】13493.2円/1T
【薬価収載日】2024/05/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】内分泌療法後に増悪したPIK3CA，AKT1，PTEN遺伝子変異を有するホルモン受容体陽性でHER2陰性の手術不能・再発乳癌
注意
1．術前・術後薬物療法の有効性・安全性は未確立。
2．臨床試験に組み入れられた内分泌療法歴等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
3．熟知した病理医・検査施設の検査で，PIK3CA，AKT1，PTEN遺伝子変異の患者に投与。検査時は，承認された体外診断用医薬品・医療機器を使用。
【用法用量】フルベストラントとの併用 成人 1回400mg 1日2回 4日間連続 内服。以後3日間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。適宜減量。
注意
1．他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
2．副作用が発現時は，下記を目安に，休薬・減量・中止。
減量の目安
（表開始）
減量レベル 1回量（mg）
通常量 400
1段階減量 320
2段階減量 200
3段階減量 投与中止
（表終了）
副作用発現時の用量調節基準
（表開始）
副作用 程度（注） 処置
高血糖 症候性のGrade2 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時，同量で投与再開。21日過ぎて回復した時，1段階減量し投与再開。
高血糖 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時，1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時，投与中止。
高血糖 Grade4 投与中止。
下痢 Grade2 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時，同量又は1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時，又は再発した時，1段階減量し投与再開。
下痢 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。21日以内に回復した時，1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時，投与中止。
下痢 Grade4 投与中止。
発疹，その他の皮膚障害 Grade2 持続する時，休薬。再開する時，同量で投与。
発疹，その他の皮膚障害 Grade3 Grade1以下に回復するまで休薬。28日以内に回復した時，1段階減量し投与再開。28日以内に回復しなかった時，投与中止。Grade3以上の忍容不能な発疹，その他の皮膚障害が再発した時，投与中止を検討。
発疹，その他の皮膚障害 Grade4 投与中止。
上記以外の副作用 Grade2（忍容不能な時）及び Grade3 Grade1以下又は忍容可能なGrade2に回復するまで休薬。21日以内に回復した時，同量又は1段階減量し投与再開。21日以内に回復しなかった時，投与中止。
上記以外の副作用 Grade4 投与中止。
（表終了）
（注）高血糖のGradeはNCI－CTCAE ver4．03に，その他の副作用のGradeはNCI－CTCAE ver5．0に準じる。
3．強いCYP3A阻害剤と併用時は，本剤の1回量を320mgに減量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高血糖（14．1%）。
2．重度の下痢（9．3%）。
3．重度の皮膚障害（多形紅斑（1．7%），全身性剥脱性皮膚炎（0．6%）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 尿路感染
血液・リンパ系障害 貧血 好中球減少症，血小板減少症，白血球減少症，リンパ球減少症
免疫系障害 過敏症
代謝・栄養障害 食欲減退
神経系障害 味覚不全，頭痛
胃腸障害 下痢（67．3%），悪心（27．3%），嘔吐，口内炎 消化不良
皮膚・皮下組織障害 発疹（34．1%） 掻痒症，皮膚乾燥，薬疹 皮膚炎
腎・尿路障害 急性腎障害 腎不全，腎機能障害
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 粘膜の炎症，無力症，発熱
臨床検査 血中クレアチニン増加，グリコヘモグロビン増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，白血球数減少 心電図QT延長，糸球体濾過率減少
（表終了）

ニュベクオ錠300mg（300mg1錠）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291063F1025
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】ダロルタミド
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】2053.9円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌
遠隔転移を有する前立腺癌
注意
臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。遠隔転移を有する前立腺癌への投与時，臨床試験に組み入れられた外科的・内科的去勢術の治療歴等を確認。
【用法用量】遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌
1．成人 1回600mg 1日2回 食後 内服。適宜減量。
遠隔転移を有する前立腺癌
2．ドセタキセルとの併用 成人 1回600mg 1日2回 食後 内服。適宜減量。
注意
1．外・内科的去勢術と非併用時の有効性・安全性は未確立。
2．グレード3以上，忍容できない副作用発現時は，回復するまで休薬，回復後は1回300mg1日2回の再開を考慮。状態により，通常量に増量できる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
心臓障害（1．1%）（不整脈等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 2～5%未満 2%未満
血液・リンパ系障害 貧血 好中球減少
代謝・栄養障害 食欲減退
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈，味覚障害
血管障害 ほてり 高血圧
胃腸障害 下痢，悪心 便秘
肝胆道系障害 AST増加，ALT増加 ビリルビン増加
皮膚・皮下組織障害 発疹
筋骨格系・結合組織障害 関節痛，筋肉痛，筋力低下，四肢痛
生殖系・乳房障害 女性化乳房
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 無力症，浮腫
その他 体重増加
（表終了）

ノルバデックス錠20mg（20mg1錠）

外 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】4291003F2054
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】タモキシフェンクエン酸塩
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】67.4円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗乳癌剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】乳癌

4 組織細胞機能用医薬品

【用法用量】成人 1日1錠(タモキシフェン 20mg) 1日1回 内服。
適宜増量，1日最高2錠(タモキシフェン 40mg)。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 無顆粒球症，白血球減少，好中球減少，貧血，血小板減少(各頻度不明)。
2. 視力異常(0. 4%)，視覚障害(頻度不明)(角膜の変化，白内障，網膜症，網膜萎縮，視神経症，視神経炎，視神経萎縮等)(視力低下，かすみ目等)。
3. 血栓塞栓症，静脈炎(各頻度不明)(肺塞栓症，下肢静脈血栓症，脳血栓症，下肢血栓性静脈炎等)。
4. 劇症肝炎，肝炎，胆汁うっ滞等の重篤な肝障害，肝不全(各頻度不明)。
5. 高カルシウム血症(頻度不明)。
6. 子宮筋腫，子宮内膜ポリープ，子宮内膜増殖症，子宮内膜症(各頻度不明)(不正出血等の異常な婦人科学的症状)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)。
8. アナフィラキシー，血管浮腫(各頻度不明)等の過敏症状。
9. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
10. 水疱性類天疱瘡(頻度不明)。
11. 膵炎(頻度不明)(血清トリグリセライド上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常，脂肪肝(非アルコール性脂肪性肝炎含む)
生殖器 無月経，性器出血 月経異常，腟分泌物，卵巣嚢腫，卵巣嚢胞，陰部掻痒，子宮頸管ポリープ，腟ポリープ
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 腹痛
精神神経系 頭痛，眩暈・眩暈，不眠，抑うつ状態，感覚異常(錯感覚，味覚異常含む)
皮膚 発疹，発汗，脱毛 皮膚血管炎，皮膚エリテマトーデス，晩発性皮膚ポルフィリン症，放射線照射リコール反応
筋・骨格系 筋肉痛
その他 ほてり・潮紅 体重増加，浮腫，骨痛，腫瘍部の疼痛・発赤，倦怠感，疲労，頻尿，高トリグリセライド血症，下肢痙攣
(表終了)

フェアストン錠40 (40mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291007F1021
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】トレミフェンクエン酸塩
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】132.5円/1T
【薬価収載日】1995/05/26
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】乳癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】閉経後乳癌
【用法用量】成人 1回40mg 1日1回 内服。
既治療例(薬物療法・放射線療法等に無効例) 成人 1回120mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
2. QT延長・その既往(先天性QT延長症候群等)。
3. 低カリウム血症。
4. クラスIA(キニジン，プロカインアミド等)・クラスIII(アミオダロン，ソタロール等)の抗不整脈薬の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓塞栓症，静脈炎(頻度不明)(脳梗塞，肺塞栓，血栓性静脈炎)。
2. 肝機能障害，黄疸(頻度不明)。
3. 子宮筋腫(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振 胃部不快感，下痢
肝臓 ALT上昇，AST上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇 ビリルビン上昇
過敏症 発疹，かゆみ
血液 白血球減少，貧血 血小板減少
眼 視覚障害(角膜の変化等)
精神神経系 眩暈 頭痛，うつ症状
生殖器 性器出血 腟分泌物，子宮内膜増殖
皮膚 脱毛
その他 顔面潮紅，倦怠感，発汗 コレステロール上昇，ほてり，高カルシウム血症 トリグリセライド上昇，BUN上昇，浮腫
(表終了)

フェマーラ錠2. 5mg (2. 5mg1錠)

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291015F1026
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】レトロゾール
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)中外製薬
【薬価】172.7円/1T
【薬価収載日】2006/04/28
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】閉経後乳癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○閉経後乳癌
○生殖補助医療の調節卵巣刺激
○多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発
○原因不明不妊の排卵誘発
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
投与の適否は，患者・パートナーの検査を実施後判断。原発性卵巣不全，妊娠不能な性器奇形，妊娠に不適切な子宮筋腫の合併等の妊娠に不適当時は投与しない。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
【用法用量】閉経後乳癌
成人 1回2. 5mg 1日1回 内服。
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
1回2. 5mg 1日1回 月経周期3日目から5日間 内服。効果不十分時，次周期以降の1回量を5mgに増量できる。
注意
多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
本剤で周期を繰りかえしても効果不十分時は，漫然と周期を繰りかえさず，生殖補助医療含め他の治療を考慮。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 授乳婦。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
4. 活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血栓症，塞栓症(各頻度不明)(肺塞栓症，脳梗塞，動脈血栓症，血栓性静脈炎，心筋梗塞)。
2. 心不全，狭心症(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(AST，ALTの著しい上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死症，多形紅斑(各頻度不明)。
5. 卵巣過剰刺激症候群(頻度不明)(卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難)，卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
血液系障害 － 白血球数減少，リンパ球数減少，好塩基球数増加，単球数減少 血小板増加，白血球分画異常
代謝・栄養障害 血中コレステロール増加 食欲不振，体重増加 高カルシウム血症，アルブミン・グロブリン比減少，血中コレステロール減少，血中カリウム減少，低蛋白血症，血中クロール増加，食欲亢進，体重減少
精神障害 － － 易興奮性，うつ病，不安，不眠症
神経系障害 頭痛 浮動性眩暈，味覚障害 注意力障害，傾眠，しびれ感，回転性眩暈，記憶障害，異常感覚
眼障害 － － 白内障，眼刺激，霧視
耳・迷路障害 － 耳鳴 －
心臓障害 － 動悸 頻脈
血管障害 ほてり 高血圧 低血圧，潮紅
呼吸器系障害 － － 喉頭痛，呼吸困難
胃腸障害 － 悪心，嘔吐，消化不良，歯痛，口内炎 上腹部痛，軟便，便秘，腹痛，腹部膨満，下痢
肝・胆道系障害 AST増加，ALT増加，AI－P増加 γ－GTP増加，LDH増加 血中ビリルビン増加
皮膚障害 － 掻痒症，発疹，多汗，湿疹，脱毛症 冷汗，局所性表皮剥

4 組織細胞機能用医薬品

脱，皮膚乾燥，蕁麻疹
筋骨格系障害 関節痛 筋痛，関節硬直，背部痛，関節炎 骨痛，骨折，骨粗鬆症
腎・尿路障害 － 尿蛋白陽性 頻尿，尿路感染，BUN増加
生殖系・乳房障害 － 乳房痛，膣出血，膣分泌物 膣乾燥
全身障害 － 疲労，倦怠感，口渇，胸痛，上肢浮腫，全身浮腫 熱感，脱力，発熱，粘膜乾燥，腫瘍疼痛
（表終了）

フリュザクラカプセル1mg（1mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291088M1024
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】フルキンチニブ
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】6167.3円/1C
【薬価収載日】2024/11/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
注意
1．下記薬剤の治療歴のない患者の有効性・安全性は未確立。
・フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤，オキサリプラチン，イリノテカン，抗VEGF蛋白製剤。
・抗EGFR抗体（適応時のみ）。
2．レゴラフェニブ，トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤のいずれの治療歴もない患者では，これらの治療が困難な患者を対象。
3．術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 フルキンチニブ 1回5mg 1日1回 3週間連日 内服，以後1週間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。適宜減量。
注意
1．他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
2．副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬，減量，中止。
減量・中止時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量（mg／日）
1段階減量 4
2段階減量 3
中止 3で忍容性なければ，投与中止。
（表終了）
副作用発現時の休薬，減量，中止基準
（表開始）
副作用 程度（注） 処置
高血圧 Grade3 ・降圧剤の治療で血圧のコントロールができない時，Grade1又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
高血圧 Grade4 投与中止。
出血 Grade2 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
出血 Grade3以上 投与中止。
蛋白尿 尿蛋白量 2g／24時間以上 ・1g／24時間未満（Grade1）又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
蛋白尿 ネフローゼ症候群 投与中止。
肝機能検査値異常 ALT又はASTが正常値上限（ULN）の3倍超（ベースライン値異常時は，ベースラインの3倍超），又は総ビリルビンがULNの1．5倍超（ベースライン値異常時は，ベースライン値の1．5倍超）・ALT・ASTがULNの3倍以下又はベースラインに回復するまで休薬。・総ビリルビンがULNの1．5倍以下又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
肝機能検査値異常 ALT又はASTがULNの3倍超，かつ総ビリルビンがULNの2倍超で，他の原因がない時 投与中止。
肝機能検査値異常 AST又はALTがULNの20倍超（ベースライン値異常時，ベースライン値の20倍超），又は総ビリルビンがULNの10倍超（ベースライン値異常時，ベースライン値の10倍超） 投与中止。
皮膚障害 Grade2 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量と同一量で再開できる。
皮膚障害 Grade3 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
皮膚障害 Grade4 投与中止。
消化管穿孔 全Grade 投与中止。
可逆性後白質脳症症候群 全Grade 投与中止。
動脈血栓塞栓症 全Grade 投与中止。
その他の副作用 Grade3 ・Grade1又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
その他の副作用 Grade4 投与中止。
（表終了）
（注）GradeはNCI－CTCAEに準じる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高血圧（29．2%），高血圧クリーゼ（0．7%）等。
2．皮膚障害（28．3%）（手足症候群（18．6%），発疹（3．3%）等）。
3．出血（7．2%）（鼻出血（3．3%），血尿（1．3%），胃腸出血（0．2%），喀血（0．2%）等），死亡。
4．消化管穿孔（1．3%），死亡。
5．動脈血栓塞栓症（0．4%）（一過性脳虚血発作（0．2%），血栓性微小血管症（0．2%）等）。
6．静脈血栓塞栓症（0．7%）（肺塞栓症（0．7%），門脈血栓症（頻度不明），深部静脈血栓症（頻度不明）等）。
7．可逆性後白質脳症症候群（0．2%）（頭痛，痙攣，嗜眠，錯乱，精神機能の変化，失明，その他の視覚障害・神経学的障害等）。
8．動脈解離（頻度不明）（大動脈解離含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
感染 肺炎，上気道感染症
血液 血小板減少 白血球減少，好中球減少
消化器 下痢，口内炎 口腔内痛，膵酵素上昇 膵炎
肝臓 ALT増加
筋・骨格系 筋骨格不快感，関節痛
腎臓 蛋白尿
その他 無力症（24．6%），疲労，発声障害，甲状腺機能低下症，食欲減退，粘膜の炎症 体重減少，低カリウム血症 創傷治癒遅延，咽喉頭痛
（表終了）

フリュザクラカプセル5mg（5mg1カプセル）

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291088M2020
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】フルキンチニブ
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】28640.3円/1C
【薬価収載日】2024/11/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
注意
1．下記薬剤の治療歴のない患者の有効性・安全性は未確立。
・フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤，オキサリプラチン，イリノテカン，抗VEGF蛋白製剤。
・抗EGFR抗体（適応時のみ）。
2．レゴラフェニブ，トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤のいずれの治療歴もない患者では，これらの治療が困難な患者を対象。
3．術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 フルキンチニブ 1回5mg 1日1回 3週間連日 内服，以後1週間休薬。これを1サイクルとし繰り返す。適宜減量。
注意
1．他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
2．副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬，減量，中止。
減量・中止時の投与量
（表開始）
減量レベル 投与量（mg／日）
1段階減量 4
2段階減量 3
中止 3で忍容性なければ，投与中止。
（表終了）
副作用発現時の休薬，減量，中止基準
（表開始）
副作用 程度（注） 処置
高血圧 Grade3 ・降圧剤の治療で血圧のコントロールができない時，Grade1又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
高血圧 Grade4 投与中止。
出血 Grade2 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
出血 Grade3以上 投与中止。
蛋白尿 尿蛋白量 2g／24時間以上 ・1g／24時間未満（Grade1）又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
蛋白尿 ネフローゼ症候群 投与中止。
肝機能検査値異常 ALT又はASTが正常値上限（ULN）の3倍超（ベースライン値異常時は，ベースラインの3倍超），又は総ビリルビンがULNの1．5倍超（ベースライン値異常時は，ベースライン値の1．5倍超）・A

4 組織細胞機能用医薬品

LT・ASTがULNの3倍以下又はベースラインに回復するまで休薬。・総ビリルビンがULNの1．5倍以下又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
肝機能検査値異常 ALT又はASTがULNの3倍超，かつ総ビリルビンがULNの2倍超で，他の原因がない時 投与中止。
肝機能検査値異常 AST又はALTがULNの20倍超(ベースライン値異常時，ベースライン値の20倍超)，又は総ビリルビンがULNの10倍超(ベースライン値異常時，ベースライン値の10倍超) 投与中止。
皮膚障害 Grade2 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量と同一量で再開できる。
皮膚障害 Grade3 ・Grade1以下に回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
皮膚障害 Grade4 投与中止。
消化管穿孔 全Grade 投与中止。
可逆性後白質脳症症候群 全Grade 投与中止。
動脈血栓塞栓症 全Grade 投与中止。
その他の副作用 Grade3 ・Grade1又はベースラインに回復するまで休薬。・回復後，休薬前の用量から1段階減量して再開できる。
その他の副作用 Grade4 投与中止。
(表終了)
(注)GradeはNCI－CTCAEに準じる。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．高血圧(29．2%)，高血圧クリーゼ(0．7%)等。
2．皮膚障害(28．3%)(手足症候群(18．6%)，発疹(3．3%)等)。
3．出血(7．2%)(鼻出血(3．3%)，血尿(1．3%)，胃腸出血(0．2%)，喀血(0．2%)等)，死亡。
4．消化管穿孔(1．3%)，死亡。
5．動脈血栓塞栓症(0．4%)(一過性脳虚血発作(0．2%)，血栓性微小血管症(0．2%)等)。
6．静脈血栓塞栓症(0．7%)(肺塞栓症(0．7%)，門脈血栓症(頻度不明)，深部静脈血栓症(頻度不明)等)。
7．可逆性後白質脳症症候群(0．2%)(頭痛，痙攣，嗜眠，錯乱，精神機能の変化，失明，その他の視覚障害・神経学的障害等)。
8．動脈解離(頻度不明)(大動脈解離含む)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
感染　肺炎，上気道感染症
血液　血小板減少 白血球減少，好中球減少
消化器 下痢，口内炎 口腔内痛，膵酵素上昇 膵炎
肝臓　ALT増加
筋・骨格系　筋骨格不快感，関節痛
腎臓 蛋白尿
その他 無力症(24．6%)，疲労，発声障害，甲状腺機能低下症，食欲減退，粘膜の炎症 体重減少，低カリウム血症 創傷治癒遅延，咽喉頭痛
(表終了)

ベージニオ錠100mg（100mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291054F2022
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】アベマシクリブ
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】5567.7円/1T
【薬価収載日】2018/11/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能・再発乳癌
2．ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
効能共通
1．術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
2．再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。
【用法用量】内分泌療法剤との併用 成人　1回150mg　1日2回　内服。
術後薬物療法　投与期間　24ヵ月間まで。適宜減量。
注意
1．併用する内分泌療法剤等の臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で選択。
2．副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬・減量・中止。
減量の基準
(表開始)
減量レベル 投与量
通常量 1回150mg　1日2回
1段階減量 1回100mg　1日2回
2段階減量 1回50mg　1日2回
(表終了)
副作用発現時の用量調節基準
(表開始)
副作用 程度(注1) 処置
肝機能障害 持続・再発のグレード2のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード3のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード2以上のAST・ALT増加，かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍超(注2) 投与中止。
肝機能障害 グレード4のAST・ALT増加 投与中止。
下痢 グレード2で24時間以内に回復しない時 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には，減量は不要。
下痢 治療しても症状が継続する又は減量せずに再開後に再発したグレード2 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
下痢 入院を要する又はグレード3・4 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3(初回発現) グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3(2回目以降の発現)・4 グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 G－CSF製剤の投与時 G－CSF製剤の最終投与後最低48時間以上経過し，かつグレード2以下になるまで休薬。再開時には，投与量を1段階減量。
間質性肺疾患　投与中止。
静脈血栓塞栓症(術後薬物療法) グレード2～4 投与中止，又は適切な治療を行い，安定するまで休薬。再開時には必要時投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 治療しても症状が継続する又は再発のグレード2で，7日以内にベースライン又はグレード1まで回復しない時 ベースライン又はグレード1に回復するまで必要に応じ休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 グレード3・4 ベースライン又はグレード1に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
(表終了)
(注1)グレードはNCI－CTCAE　ver．4．0。
(注2)明らかな胆汁うっ滞を認めない時。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(ALT増加(8．1%)，AST増加(7．9%)等)。
2．重度の下痢(7．5%)。
3．骨髄抑制(好中球減少(42．2%)，白血球減少(32．0%)，貧血(19．1%)，血小板減少(11．0%)，リンパ球減少(10．6%)等)。
4．間質性肺疾患(1．2%)。
5．静脈血栓塞栓症(1．7%)(深部静脈血栓症(0．7%)，肺塞栓症(0．6%)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 20%以上 5～20%未満 5%未満
消化器 下痢，腹痛，悪心 嘔吐，食欲減退，口内炎 消化不良，便秘，胃炎
呼吸器　咳嗽，呼吸困難
循環器　高血圧
感染　上気道感染，尿路感染，肺感染，上咽頭炎，結膜炎，副鼻腔炎，膣感染，咽頭炎，敗血症
皮膚　脱毛症，発疹 掻痒症，皮膚乾燥，爪の障害，ざ瘡様皮膚炎
精神神経系　浮動性眩暈，味覚異常，うつ病
臨床検査値異常　血中クレアチニン増加 低カリウム血症，γ－GTP増加，高カリウム血症，低カルシウム血症
その他 疲労 ほてり，頭痛 流涙増加，体重減少，倦怠感，発熱，四肢痛，末梢性浮腫，眼乾燥，脱水，筋力低下，インフルエンザ様疾患，悪寒
(表終了)

ベージニオ錠150mg（150mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291054F3029
【薬効分類】4．2．9　その他の腫瘍用薬
【一般名】アベマシクリブ
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】7917.5円/1T
【薬価収載日】2018/11/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤

4 組織細胞機能用医薬品

【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能・再発乳癌
2. ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
効能共通
1. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
2. 再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。
【用法用量】内分泌療法剤との併用 成人　1回150mg　1日2回　内服。
術後薬物療法　投与期間　24ヵ月間まで。適宜減量。
注意
1. 併用する内分泌療法剤等の臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で選択。
2. 副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬・減量・中止。
減量の基準
（表開始）
減量レベル 投与量
通常量 1回150mg　1日2回
1段階減量 1回100mg　1日2回
2段階減量 1回50mg　1日2回
（表終了）
副作用発現時の用量調節基準
（表開始）
副作用 程度（注1） 処置
肝機能障害 持続・再発のグレード2のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード3のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード2以上のAST・ALT増加，かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍超（注2） 投与中止。
肝機能障害 グレード4のAST・ALT増加 投与中止。
下痢 グレード2で24時間以内に回復しない時 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には，減量は不要。
下痢 治療しても症状が継続する又は減量せずに再開後に再発したグレード2 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
下痢 入院を要する又はグレード3・4 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3（初回発現） グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3（2回目以降の発現）・4 グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 G－CSF製剤の投与時 G－CSF製剤の最終投与後最低48時間以上経過し，かつグレード2以下になるまで休薬。再開時には，投与量を1段階減量。
間質性肺疾患　投与中止。
静脈血栓塞栓症（術後薬物療法） グレード2～4 投与中止，又は適切な治療を行い，安定するまで休薬。再開時には必要時投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 治療しても症状が継続する又は再発のグレード2で，7日以内にベースライン又はグレード1まで回復しない時 ベースライン又はグレード1に回復するまで必要に応じ休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 グレード3・4 ベースライン又はグレード1に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
（表終了）
（注1）グレードはNCI－CTCAE　ver. 4. 0。
（注2）明らかな胆汁うっ滞を認めない時。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害（ALT増加（8. 1%），AST増加（7. 9%）等）。
2. 重度の下痢（7. 5%）。
3. 骨髄抑制（好中球減少（42. 2%），白血球減少（32. 0%），貧血（19. 1%），血小板減少（11. 0%），リンパ球減少（10. 6%）等）。
4. 間質性肺疾患（1. 2%）。
5. 静脈血栓塞栓症（1. 7%）（深部静脈血栓症（0. 7%），肺塞栓症（0. 6%）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 20%以上 5～20%未満 5%未満
消化器 下痢，腹痛，悪心 嘔吐，食欲減退，口内炎 消化不良，便秘，胃炎
呼吸器　咳嗽，呼吸困難
循環器　高血圧
感染　上気道感染，尿路感染，肺感染，上咽頭炎，結膜炎，副鼻腔炎，膣感染，咽頭炎，敗血症
皮膚　脱毛症，発疹 掻痒症，皮膚乾燥，爪の障害，ざ瘡様皮膚炎
精神神経系　浮動性眩暈，味覚異常，うつ病
臨床検査値異常　血中クレアチニン増加 低カリウム血症，γ－GTP増加，高カリウム血症，低カルシウム血症
その他 疲労 ほてり，頭痛 流涙増加，体重減少，倦怠感，発熱，四肢痛，末梢性浮腫，眼乾燥，脱水，筋力低下，インフルエンザ様疾患，悪寒
（表終了）

ベージニオ錠50mg（50mg1錠）

外　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】4291054F1026
【薬効分類】4. 2. 9　その他の腫瘍用薬
【一般名】アベマシクリブ
【メーカー】(製)日本イーライリリー
【薬価】3049.7円/1T
【薬価収載日】2018/11/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能・再発乳癌
2. ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
効能共通
1. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
2. 再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で適応患者の選択を行う。
【用法用量】内分泌療法剤との併用 成人　1回150mg　1日2回　内服。
術後薬物療法　投与期間　24ヵ月間まで。適宜減量。
注意
1. 併用する内分泌療法剤等の臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で選択。
2. 副作用の発現時は，下記を考慮し，休薬・減量・中止。
減量の基準
（表開始）
減量レベル 投与量
通常量 1回150mg　1日2回
1段階減量 1回100mg　1日2回
2段階減量 1回50mg　1日2回
（表終了）
副作用発現時の用量調節基準
（表開始）
副作用 程度（注1） 処置
肝機能障害 持続・再発のグレード2のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード3のAST・ALT増加 ベースライン又はグレード1以下に回復するまで休薬。再開する場合には投与量を1段階減量する。
肝機能障害 グレード2以上のAST・ALT増加，かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍超（注2） 投与中止。
肝機能障害 グレード4のAST・ALT増加 投与中止。
下痢 グレード2で24時間以内に回復しない時 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には，減量は不要。
下痢 治療しても症状が継続する又は減量せずに再開後に再発したグレード2 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
下痢 入院を要する又はグレード3・4 グレード1以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3（初回発現） グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
血液毒性 グレード3（2回目以降の発現）・4 グレード2以下に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
血液毒性 G－CSF製剤の投与時 G－CSF製剤の最終投与後最低48時間以上経過し，かつグレード2以下になるまで休薬。再開時には，投与量を1段階減量。
間質性肺疾患　投与中止。
静脈血栓塞栓症（術後薬物療法） グレード2～4 投与中止，又は適切な治療を行い，安定するまで休薬。再開時には必要時投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 治療しても症状が継続する又は再発のグレード2で，7日以内にベースライン又はグレード1まで回復しない時 ベースライン又はグレード1に回復するまで必要に応じ休薬。再開時には必要に応じ投与量を1段階減量。
上記以外の副作用 グレード3・4 ベースライン又はグレード1に回復するまで休薬。再開時には投与量を1段階減量。
（表終了）
（注1）グレードはNCI－CTCAE　ver. 4. 0。

4 組織細胞機能用医薬品

(注2)明らかな胆汁うっ滞を認めない時。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(ALT増加(8. 1%), AST増加(7. 9%)等)。
2. 重度の下痢(7. 5%)。
3. 骨髄抑制(好中球減少(42. 2%), 白血球減少(32. 0%), 貧血(19. 1%), 血小板減少(11. 0%), リンパ球減少(10. 6%)等)。
4. 間質性肺疾患(1. 2%)。
5. 静脈血栓塞栓症(1. 7%)(深部静脈血栓症(0. 7%), 肺塞栓症(0. 6%)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 20%以上 5～20%未満 5%未満
消化器 下痢, 腹痛, 悪心 嘔吐, 食欲減退, 口内炎 消化不良, 便秘, 胃炎
呼吸器 咳嗽, 呼吸困難
循環器 高血圧
感染 上気道感染, 尿路感染, 肺感染, 上咽頭炎, 結膜炎, 副鼻腔炎, 膣感染, 咽頭炎, 敗血症
皮膚 脱毛症, 発疹 掻痒症, 皮膚乾燥, 爪の障害, ざ瘡様皮膚炎
精神神経系 浮動性眩暈, 味覚異常, うつ病
臨床検査値異常 血中クレアチニン増加 低カリウム血症, γ－GTP増加, 高カリウム血症, 低カルシウム血症
その他 疲労 ほてり, 頭痛 流涙増加, 体重減少, 倦怠感, 発熱, 四肢痛, 末梢性浮腫, 眼乾燥, 脱水, 筋力低下, インフルエンザ様疾患, 悪寒
(表終了)

ロンサーフ配合錠T15 (15mg1錠(トリフルリジン相当量))

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4299100F1026
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】2511円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
○癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
注意
効能共通
1. 一次治療・二次治療の有効性・安全性は未確立。
2. 術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
3. 臨床試験に組み入れられた前治療歴, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし(1回トリフルリジン 約35mg／m2), 1日2回 朝・夕食後 5日間連続 内服後, 2日間休薬。これを2回繰り返し 14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。
適宜減量。
(表開始)
体表面積(m2) 初回量(mg／回)(トリフルリジン(mg／日))
1. 07未満 35(70)
1. 07～1. 23未満 40(80)
1. 23～1. 38未満 45(90)
1. 38～1. 53未満 50(100)
1. 53～1. 69未満 55(110)
1. 69～1. 84未満 60(120)
1. 84～1. 99未満 65(130)
1. 99～2. 15未満 70(140)
2. 15以上 75(150)
(表終了)
注意
効能共通
1. 空腹時に投与した時, 食後投与と比較してトリフルリジンのCmaxの上昇あり, 空腹時投与を避ける。
2. 下記を参考に必要時, 減量・休薬。
・各コース開始時,「投与開始基準」を満たさない場合は投与しない。
「休薬基準」に該当する有害事象の発現時は休薬し,「投与再開基準」まで回復を待ち投与再開。
(表開始)
投与開始基準 投与再開基準 休薬基準
血色素量 8g／dL以上 7g／dL未満
好中球数 1500／mm3以上 1000／mm3未満
血小板数 75000／mm3以上 50000／mm3未満
総ビリルビン 1. 5mg／dL以下 2mg／dLを超える
AST(GOT), ALT(GPT) 施設基準値上限の2. 5倍(肝転移は5倍)以下 施設基準値上限の2. 5倍(肝転移は5倍)を超える
クレアチニン 1. 5mg／dL以下 1. 5mg／dLを超える
末梢神経障害 Grade 2以下 Grade 3以上
非血液毒性 Grade 1以下(脱毛, 味覚異常, 色素沈着, 原疾患に伴う症状除く) Grade 3以上
(表終了)
GradeはCTCAE v3. 0。
・重度の腎機能障害は, 投与開始基準を参考に投与可否を検討し, 投与時は減量を考慮, 副作用の発現に注意。
・前コース(休薬期間含む)中に,「減量基準」に該当する有害事象の発現時は, 投与再開時に, コース単位で1日10mg単位で減量。1日最低30mg。
(表開始)
減量基準(mm3未満)
好中球数 500
血小板数 50000
(表終了)
3. 1日50mgを投与時は, 朝食後に20mg, 夕食後に30mgを投与。
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
4. 本剤とベバシズマブ以外の他の抗悪性腫瘍剤との併用について, 有効性・安全性は未確立。
5. ベバシズマブとの併用時は, 臨床成績の項, 用法・用量を理解した上で投与。
癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
6. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について, 有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 骨髄抑制(好中球減少(58. 2%), 貧血(29. 6%), 白血球減少(21. 0%), 血小板減少(18. 0%), リンパ球減少(4. 3%), 発熱性好中球減少症(2. 4%)等)。
2. 感染症(5. 6%)(肺炎(0. 8%), 敗血症(0. 4%)等), 死亡。
3. 間質性肺疾患(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 5%未満 頻度不明
消化器 下痢, 悪心, 嘔吐, 食欲減退 口内炎, 腹痛 便秘, イレウス, 腸炎, 胃炎
全身症状 疲労, 無力症 発熱, 浮腫, 脱水
肝臓胆道系 血中ビリルビン増加, 血中アルブミン減少
腎臓 尿中蛋白陽性
循環器 心房細動 心筋虚血, 心房粗動
精神神経 味覚異常, 頭痛, 眩暈, 末梢性感覚障害
筋骨格系 筋肉痛
皮膚皮下組織 脱毛症, 皮疹／落屑, 手足症候群, 掻痒症
その他 体重減少, 血中ナトリウム減少, 血中カリウム減少, インフルエンザ様症状, 鼻出血, 低血圧, 結膜炎 尿糖陽性
(表終了)

ロンサーフ配合錠T20 (20mg1錠(トリフルリジン相当量))

外 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4299100F2022
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】3369.2円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
○癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
注意
効能共通
1. 一次治療・二次治療の有効性・安全性は未確立。
2. 術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
3. 臨床試験に組み入れられた前治療歴, 臨床成績の項を熟知し, 有効性・安全性を理解した上で, 適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし(1回トリフルリジン 約35mg／m2), 1日2回 朝・夕食後 5日間連続 内服後, 2日間休薬。これを2回繰り返し 14日間休薬。これを1コースとし, 繰り返す。
適宜減量。

4 組織細胞機能用医薬品

(表開始)
体表面積(m2) 初回量(mg／回)(トリフルリジン(mg／日))
1. 07未満 35(70)
1. 07～1. 23未満 40(80)
1. 23～1. 38未満 45(90)
1. 38～1. 53未満 50(100)
1. 53～1. 69未満 55(110)
1. 69～1. 84未満 60(120)
1. 84～1. 99未満 65(130)
1. 99～2. 15未満 70(140)
2. 15以上 75(150)
(表終了)
注意
効能共通
1. 空腹時に投与した時，食後投与と比較してトリフルリジンのCmaxの上昇あり，空腹時投与を避ける。
2. 下記を参考に必要時，減量・休薬。
・各コース開始時，「投与開始基準」を満たさない場合は投与しない。
「休薬基準」に該当する有害事象の発現時は休薬し，「投与再開基準」まで回復を待ち投与再開。
(表開始)
投与開始基準 投与再開基準 休薬基準
血色素量 8g／dL以上 7g／dL未満
好中球数 1500／mm3以上 1000／mm3未満
血小板数 75000／mm3以上 50000／mm3未満
総ビリルビン 1. 5mg／dL以下 2mg／dLを超える
AST(GOT)，ALT(GPT) 施設基準値上限の2. 5倍(肝転移は5倍)以下 施設基準値上限の2. 5倍(肝転移は5倍)を超える
クレアチニン 1. 5mg／dL以下 1. 5mg／dLを超える
末梢神経障害 Grade 2以下 Grade 3以上
非血液毒性 Grade 1以下(脱毛，味覚異常，色素沈着，原疾患に伴う症状除く) Grade 3以上
(表終了)
GradeはCTCAE v3. 0。
・重度の腎機能障害は，投与開始基準を参考に投与可否を検討し，投与時は減量を考慮，副作用の発現に注意。
・前コース(休薬期間含む)中に，「減量基準」に該当する有害事象の発現時は，投与再開時に，コース単位で1日10mg単位で減量。1日最低30mg。
(表開始)
減量基準(mm3未満)
好中球数 500
血小板数 50000
(表終了)
3. 1日50mgを投与時は，朝食後に20mg，夕食後に30mgを投与。
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
4. 本剤とベバシズマブ以外の他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。
5. ベバシズマブとの併用時は，臨床成績の項，用法・用量を理解した上で投与。
癌化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
6. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について，有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 骨髄抑制(好中球減少(58. 2%)，貧血(29. 6%)，白血球減少(21. 0%)，血小板減少(18. 0%)，リンパ球減少(4. 3%)，発熱性好中球減少症(2. 4%)等)。
2. 感染症(5. 6%)(肺炎(0. 8%)，敗血症(0. 4%)等)，死亡。
3. 間質性肺疾患(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 5%未満 頻度不明
消化器 下痢，悪心，嘔吐，食欲減退 口内炎，腹痛 便秘，イレウス，腸炎，胃炎
全身症状 疲労，無力症 発熱，浮腫，脱水
肝臓胆道系 血中ビリルビン増加，血中アルブミン減少
腎臓 尿中蛋白陽性
循環器 心房細動 心筋虚血，心房粗動
精神神経 味覚異常，頭痛，眩暈，末梢性感覚障害
筋骨格系 筋肉痛
皮膚皮下組織 脱毛症，皮疹／落屑，手足症候群，掻痒症
その他 体重減少，血中ナトリウム減少，血中カリウム減少，インフルエンザ様症状，鼻出血，低血圧，結膜炎 尿糖陽性
(表終了)

4. 4 アレルギー用薬

4. 4. 1 抗ヒスタミン剤

ペリアクチン散1%（1%1g）

外 内服 流通
劇

【YJコード】4419005B1045
【薬効分類】4. 4. 1 抗ヒスタミン剤
【一般名】シプロヘプタジン塩酸塩水和物
【メーカー】製)日医工 販)MSD
【薬価】6.7円/1g
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】抗アレルギー剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症，蕁疹)
2. 蕁麻疹
3. 血管運動性浮腫
4. 枯草熱
5. アレルギー性鼻炎
6. 血管運動性鼻炎
7. 感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽
【用法用量】成人 1回4mg 1日1～3回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 狭窄性胃潰瘍。
3. 幽門十二指腸閉塞。
4. 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。
5. 気管支喘息の急性発作時。
6. 新生児・低出生体重児。
7. 老齢の衰弱。
8. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 錯乱，幻覚(各頻度不明)。
2. 痙攣(頻度不明)。
3. 無顆粒球症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
精神神経系 眠気 眩暈，もうろう感，倦怠感，頭痛，不眠，しびれ感 注意力低下，いらいら感，興奮，運動失調，意識レベルの低下
消化器 口渇，悪心，食欲不振，下痢，腹痛
血液 白血球減少，血小板減少，紫斑
その他 頻尿 食欲亢進，粘膜乾燥，浮腫，肝機能異常(AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇，LDH上昇等)，鼻出血
(表終了)

4. 4. 9 その他のアレルギー用薬

アイピーディカプセル100（100mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】4490016M2020
【薬効分類】4. 4. 9 その他のアレルギー用薬
【一般名】スプラタストトシル酸塩
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】14.3円/1C
【薬価収載日】1995/03/17
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，アトピー性皮膚炎，アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回100mg 1日3回 毎食後 内服。
適宜増減。
注意
高齢者 低用量(例 150mg／日)から開始し，増量時は副作用・臨床症状を観察しながら行う。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(0. 1%未満)(黄疸(頻度不明)，ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇，Al－P上昇，LDH上昇等，全身倦怠感，食欲不振，発熱，嘔気等)。
2. ネフローゼ症候群(頻度不明)。

4 組織細胞機能用医薬品

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
消化器 胃部不快感, 嘔気, 胃痛, 下痢 口渇, 食欲不振, 口内炎, 腹痛, 嘔吐, 腹部膨満感, 舌のあれ
精神神経系 眠気 頭痛, 痙攣, 振戦, 眩暈, しびれ
血液 好酸球増多 白血球減少
過敏症 発疹, 掻痒感 蕁麻疹
肝臓 AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇, LDH上昇 ビリルビン上昇, AI－P上昇
泌尿器 蛋白尿, 頻尿
その他 生理不順, 倦怠感・脱力感 浮腫, 耳鳴, 眼瞼乾燥感, 発熱, ほてり, 鼻出血, 味覚異常, 口臭 動悸, 咳, 胸部圧迫感
(表終了)

アレグラ錠30mg（30mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】4490023F2020
【薬効分類】4.4.9 その他のアレルギー用薬
【一般名】フェキソフェナジン塩酸塩
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】20.4円/1T
【薬価収載日】2006/12/01
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, アトピー性皮膚炎)に伴う掻痒
【用法用量】成人 フェキソフェナジン塩酸塩 1回60mg 1日2回 内服。
小児 下記1回量 1日2回 内服。
7～12歳未満 フェキソフェナジン塩酸塩 30mg。
12歳以上 フェキソフェナジン塩酸塩 60mg。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 血圧低下, 意識消失, 血管浮腫, 胸痛, 潮紅等の過敏症状)。
2. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
3. 無顆粒球症(頻度不明), 白血球減少(0.2%), 好中球減少(0.1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眠気, 疲労, 倦怠感, 眩暈, 不眠, 神経過敏 悪夢, 睡眠障害, しびれ感
消化器 嘔気, 嘔吐, 口渇, 腹痛, 下痢, 消化不良 便秘
過敏症 掻痒 蕁麻疹, 潮紅, 発疹 血管浮腫
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 頻尿 排尿困難
循環器 動悸, 血圧上昇
その他 呼吸困難, 味覚異常, 浮腫, 胸痛, 月経異常
(表終了)

アレグラ錠60mg（60mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】4490023F1024
【薬効分類】4.4.9 その他のアレルギー用薬
【一般名】フェキソフェナジン塩酸塩
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】26.1円/1T
【薬価収載日】2000/11/17
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, アトピー性皮膚炎)に伴う掻痒
【用法用量】成人 フェキソフェナジン塩酸塩 1回60mg 1日2回 内服。
小児 下記1回量 1日2回 内服。
7～12歳未満 フェキソフェナジン塩酸塩 30mg。
12歳以上 フェキソフェナジン塩酸塩 60mg。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 血圧低下, 意識消失, 血管浮腫, 胸痛, 潮紅等の過敏症状)。
2. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
3. 無顆粒球症(頻度不明), 白血球減少(0.2%), 好中球減少(0.1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眠気, 疲労, 倦怠感, 眩暈, 不眠, 神経過敏 悪夢, 睡眠障害, しびれ感
消化器 嘔気, 嘔吐, 口渇, 腹痛, 下痢, 消化不良 便秘
過敏症 掻痒 蕁麻疹, 潮紅, 発疹 血管浮腫
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 頻尿 排尿困難
循環器 動悸, 血圧上昇
その他 呼吸困難, 味覚異常, 浮腫, 胸痛, 月経異常
(表終了)

アレサガテープ8mg（8mg1枚）

外 外用 流通

【YJコード】4490700S2025
【薬効分類】4.4.9 その他のアレルギー用薬
【一般名】エメダスチンフマル酸塩
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】72.1円/1枚
【薬価収載日】2018/04/18
【標榜薬効】経皮吸収型アレルギー性鼻炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回4mg 胸部, 上腕部, 背部, 腹部のいずれかに貼付し 24時間ごと 貼りかえ。1回8mgまで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0.1～5%未満 頻度不明
皮膚 適用部位紅斑 適用部位掻痒感, 適用部位丘疹, 適用部位色素沈着, 適用部位発疹 適用部位皮膚炎
精神神経 眠気 脱力感, 頭痛・頭重感, 頭がボーッとする, ふらつき
肝臓 ALT上昇, AST上昇 LDH上昇, γ－GTP上昇
泌尿器・腎臓 血中尿酸増加
血液 好中球減少, リンパ球増加
消化器 口渇 腹痛
その他 倦怠感, 血中コレステロール増加, 鼻乾燥
(表終了)

アレジオン錠20（20mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】4490014F2021
【薬効分類】4.4.9 その他のアレルギー用薬
【一般名】エピナスチン塩酸塩
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム 販)第一三共
【薬価】22.3円/1T
【薬価収載日】1994/05/27
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 気管支喘息
2. アレルギー性鼻炎
3. 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬
【用法用量】1. 気管支喘息, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬
成人 1回20mg 1日1回 内服。
適宜増減。
2. アレルギー性鼻炎
成人 1回10～20mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの上昇等, 全身倦怠感, 食欲不振, 発熱, 嘔気・嘔吐等), 黄疸(頻度不明)。
2. 血小板減少(頻度不明)。

4 組織細胞機能用医薬品

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，かゆみ，掻痒性紅斑 浮腫(顔面，手足等)
精神神経系 眠気，倦怠感，頭痛，眩暈 不眠，悪夢，しびれ感，頭がボーッとした感じ 幻覚，幻聴
消化器 嘔気，食欲不振，胃部不快感，胃もたれ感，腹痛，下痢，口渇 嘔吐，胃重感，便秘，口唇乾燥感，腹部膨満感 口内炎
腎臓 蛋白尿
泌尿器 尿閉 頻尿，血尿等の膀胱炎様症状
循環器 心悸亢進
呼吸器 呼吸困難，去痰困難，鼻閉
血液 白血球数増加 血小板減少
その他 月経異常，ほてり，にがみ，味覚低下，胸痛 女性型乳房，乳房腫大
(表終了)

アレロック顆粒0．5%（0．5%1g）

外 内服 流通

【YJコード】4490025D1022
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】オロパタジン塩酸塩
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】28.4円/1g
【薬価収載日】2011/09/12
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人 アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症，尋常性乾癬，多形滲出性紅斑)
小児 アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患(湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症)に伴う掻痒
【用法用量】成人 1回5mg(本剤 1g) 1日2回 朝・就寝前 内服。
適宜増減。
小児 下記量 1日2回 朝・就寝前 内服。
7歳以上 1回5mg(本剤 1g)。
2～7歳未満 1回2．5mg(本剤 0．5g)。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
劇症肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 紅斑等の発疹 浮腫(顔面・四肢等)，掻痒，呼吸困難
精神神経系 眠気 倦怠感，口渇，頭痛・頭重感，眩暈 集中力低下，しびれ感 不随意運動(顔面・四肢等)
消化器 腹部不快感，腹痛，下痢，嘔気 便秘，口内炎・口角炎・舌痛，胸やけ，食欲亢進 嘔吐
肝臓 肝機能異常(ALT，AST，LDH，γ－GTP，AI－P，総ビリルビン上昇)
血液 白血球増多，好酸球増多，リンパ球減少 白血球減少，血小板減少
腎臓・泌尿器 尿潜血 BUN上昇，尿蛋白陽性，血中クレアチニン上昇，頻尿，排尿困難
循環器 動悸，血圧上昇
その他 血清コレステロール上昇 尿糖陽性，胸部不快感，味覚異常，体重増加，ほてり 月経異常，筋肉痛，関節痛
(表終了)

エバステルOD錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】4490019F4027
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】エバスチン
【メーカー】製)住友ファーマ 販)MeijiSeikaファルマ
【薬価】43.4円/1T
【薬価収載日】2005/07/08
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇蕁麻疹
〇湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症
〇アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回5～10mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
高齢者は，1日1回5mgから投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，喉頭浮腫等)。
2．肝機能障害(AST，ALT，LDH，γ－GTP，AI－P，ビリルビンの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，浮腫，蕁麻疹
循環器 動悸 血圧上昇
精神神経系 眠気，倦怠感 頭痛，眩暈，しびれ感 不眠
消化器 口渇 胃部不快感，鼻・口腔内乾燥 下痢，舌炎 嘔気・嘔吐，腹痛
肝臓 AST，ALT，LDH，γ－GTP，AI－P，ビリルビンの上昇
泌尿器 排尿障害，頻尿
その他 胸部圧迫感 ほてり 好酸球増多，体重増加，月経異常，脱毛，味覚異常，BUNの上昇，尿糖
(表終了)

キプレス細粒4mg（4mg1包）

外 内服 流通

【YJコード】4490026C1021
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】モンテルカストナトリウム
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】76.2円/1包
【薬価収載日】2007/09/21
【標榜薬効】気管支喘息治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息
【用法用量】1～6歳未満の小児 1回4mg(本剤 1包) 1日1回 就寝前 内服。
注意
1．体重，年齢，症状等による用量調節をせず，全量を服用。
2．6歳以上の小児 モンテルカストチュアブル錠5mgを1日1回就寝前に内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)。
2．血管浮腫(頻度不明)。
3．劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
5．血小板減少(頻度不明)(紫斑，鼻出血，歯肉出血等の出血傾向)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮疹 掻痒，蕁麻疹，肝臓の好酸球浸潤
精神神経系 頭痛，傾眠 異夢，易刺激性，情緒不安，痙攣，不眠，幻覚，眩暈，感覚異常(しびれ等)，激越，振戦，夢遊症，失見当識，集中力低下，記憶障害，せん妄，強迫性症状
呼吸器 肺好酸球増多症
消化器系 下痢，腹痛，胃不快感，嘔気，胸やけ，嘔吐，便秘 消化不良，口内炎
肝臓 肝機能異常，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇
筋骨格系 筋痙攣含む筋痛，関節痛
その他 口渇，尿潜血，血尿，尿糖，浮腫，倦怠感，白血球数増加，尿蛋白，トリグリセリド上昇 出血傾向(鼻出血，紫斑等)，挫傷，動悸，頻尿，発熱，脱力，疲労，脱毛，遺尿
(表終了)

クラリチンレディタブ錠10mg（10mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】4490027F2029
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】ロラタジン
【メーカー】製)バイエル薬品 販)MSD 販)シェリング・プラウ 販)塩野義製薬
【薬価】31.7円/1T
【薬価収載日】2004/06/25
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

4 組織細胞機能用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】成人 1回10mg 1日1回 食後 内服。適宜増減。
小児 7歳以上 1回10mg 1日1回 食後 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（チアノーゼ，呼吸困難，血圧低下，血管浮腫等）。
2. てんかん（頻度不明）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，ビリルビン等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，倦怠感 眩暈，頭痛
呼吸器 鼻の乾燥感，咽頭痛
消化器 腹痛，口渇，嘔気・嘔吐，下痢，便秘，口内炎 口唇乾燥 胃炎
過敏症 発疹 蕁麻疹 発赤，紅斑，掻痒
皮膚 脱毛
肝臓 ALT上昇，AST上昇，ビリルビン値上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇
腎臓 BUN上昇，蛋白尿 尿閉
循環器 動悸 頻脈
血液 好酸球増多，白血球減少，好中球減少，単球増多，リンパ球減少，白血球増多，リンパ球増多，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，好塩基球増多，血小板減少，好中球増多
その他 尿糖，眼球乾燥，耳鳴，ほてり 味覚障害，月経不順，胸部不快感 不正子宮出血，胸痛，難聴，浮腫（顔面・四肢）
（表終了）

ケタスカプセル10mg（10mg1カプセル）
外 内服 流通

【YJコード】4490010N1021
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】イブジラスト
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】12.4円/1C
【薬価収載日】1993/03/20
【標榜薬効】気管支喘息・脳血管障害改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．気管支喘息
2．脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害による眩暈の改善
【用法用量】気管支喘息
成人 1回10mg 1日2回 内服。
脳循環障害の眩暈
成人 1回10mg 1日3回 内服。
適宜増減。
注意
脳循環障害の眩暈
投与期間は，臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し，投与12週で効果なければ中止。

■禁忌
【禁忌】止血が未完成の頭蓋内出血。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血小板減少（頻度不明）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP，総ビリルビン等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
精神神経系 眩暈，頭痛，不眠，ぼっとする 振戦，眠気
消化器 食欲不振，嘔気，腹痛，消化不良，腹部膨満感，下痢 嘔吐，胃潰瘍
循環器 心悸亢進，ほてり 起立性低血圧
血液 貧血，白血球減少
肝臓 AST，ALT，γ－GTPの上昇 AI－P，総ビリルビン等の上昇
その他 倦怠感 耳鳴，顔面浮腫，浮遊感，味覚異常
（表終了）

ザイザル錠5mg（5mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490028F1027
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】レボセチリジン塩酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】41.1円/1T
【薬価収載日】2010/12/10
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症
小児
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】成人
1回5mg 1日1回 就寝前 内服。適宜増減，1日最高10mg。
小児
7～15歳未満 1回2．5mg 1日2回 朝食後・就寝前 内服。
注意
1．腎障害 血中濃度半減期が延長し，血中濃度が増大，下表の通り投与量の調節が必要。
成人の腎機能に対する用法・用量の目安
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧80 50～79 30～49 10～29
推奨量 5mg 1日1回 2．5mg 1日1回 2．5mg 2日に1回 2．5mg 週に2回（3～4日に1回）
（表終了）
腎障害を有する小児 各患者の腎クリアランスと体重を考慮し，個別に用量を調整。
2．高齢者 低用量（例 2．5mg）から開始する等慎重投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ピペラジン誘導体（セチリジン，ヒドロキシジン含む）に過敏症の既往。
2．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス10mL／分未満）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，蕁麻疹，発赤等）。
2．痙攣（頻度不明）。
3．肝機能障害（0．6%）（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等，全身倦怠感，食欲不振，発熱，嘔気等），黄疸（頻度不明）。
4．血小板減少（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，倦怠感 頭痛，頭重感，ふらふら感，しびれ感，眩暈，浮遊感 不眠，振戦，抑うつ，激越，攻撃性，傾眠，疲労，無力症，睡眠障害，錯感覚，幻覚，自殺念慮，失神，健忘（注），不随意運動（注），意識消失（注），悪夢
消化器 口渇，嘔気，食欲不振 胃不快感，下痢，消化不良，腹痛，腹部不快感，胃痛，口唇炎，便秘，口唇乾燥感，嘔吐，味覚異常，口内炎 腹部膨満感，食欲亢進
循環器 動悸，血圧上昇，不整脈（房室ブロック（注），期外収縮，頻脈，発作性上室性頻拍（注），心房細動）
血液 好酸球増多（注） 好中球減少，リンパ球増多（注），白血球増多，白血球減少，単球増多（注），血小板増加（注），血小板減少（注）
過敏症 発疹，蕁麻疹，浮腫，かぶれ，掻痒感，血管性浮腫 多形紅斑，薬疹
眼 結膜充血，霧視 視覚障害，眼球回転発作
肝臓 ALT上昇，AST上昇，総ビリルビン上昇 AI－P上昇
腎臓・泌尿器 尿蛋白（注），BUN上昇，尿糖（注），ウロビリノーゲンの異常（注），頻尿，血尿（注） 排尿困難，尿閉，遺尿（注）
その他 耳鳴，月経異常，胸痛，ほてり，息苦しさ 関節痛，手足のこわばり，嗅覚異常，鼻出血，脱毛，咳嗽，体重増加，筋肉痛，呼吸困難
（表終了）
（注）セチリジン塩酸塩。

ザジテンドライシロップ0．1%（0．1%1g）
外 内服 流通

【YJコード】4490003R1228
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】ケトチフェンフマル酸塩
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】9.8円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○気管支喘息
○アレルギー性鼻炎
○蕁麻疹，湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症
【用法用量】小児 1日0．06g／kg（ケトチフェン 0．06mg／kg） 1日2回 分割 朝食後・就寝前 内服（用時溶解）。

4 組織細胞機能用医薬品

適宜増減。
年齢別 下記1日量 1日2回 分割 朝食後・就寝前 内服。
(表開始)
年齢 本剤(g) ケトチフェン(mg)
6ヵ月～3歳未満 0．8 0．8
3～7歳未満 1．2 1．2
7歳以上 2 2
(表終了)
1歳未満 適宜投与量を決める。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．てんかん・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．痙攣，興奮(頻度不明)。
2．肝機能障害(AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
泌尿器 ― ― 頻尿，排尿痛，血尿，残尿感等の膀胱炎様症状
過敏症 ― 発疹，蕁麻疹 浮腫，多形紅斑
精神神経系 眠気 眩暈，ふらつき，倦怠感，口渇 一過性の意識消失，頭痛，味覚異常，しびれ感，易刺激性，不眠，神経過敏，鎮静
消化器 ― 悪心，下痢，嘔吐，便秘 腹痛，胃部不快感，食欲不振，口内炎
肝臓 ― AST，ALT，AI－Pの上昇 LDH，γ－GTPの上昇
その他 ― 体重増加 ほてり，鼻出血，動悸，月経異常
(表終了)

ジルテック錠10（10mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490020F2027
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】セチリジン塩酸塩
【メーカー】製)ユーシービージャパン 販)グラクソ・スミスクライン 販)住友製薬 販)第一三共 販)第一製薬
【薬価】21円/1T
【薬価収載日】1998/08/28
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人
アレルギー性鼻炎
蕁麻疹，湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症
【用法用量】成人 1回10mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減，1日最高20mg。
注意
1．腎機能障害 血中濃度半減期が延長し，血中濃度が増大，下表の通り投与量の調節が必要。
成人の腎機能に対する用法・用量の目安
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL／分) ≧80 50～79 30～49 10～29
推奨量 10mg 1日1回 10mg 1日1回 5mg 1日1回 5mg 2日に1回
(表終了)
腎機能障害を有する小児 各患者の腎クリアランスと体重を考慮し，個別に用量を調整。
2．重度の肝機能障害 低用量(例 通常の半量)から開始する等慎重投与。
3．高齢者 低用量(例 5mg)から開始する等慎重投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ピペラジン誘導体(レボセチリジン，ヒドロキシジン含む)に過敏症の既往。
2．重度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス10mL／分未満)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，蕁麻疹，発赤等)。
2．痙攣(頻度不明)。
3．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等，全身倦怠感，食欲不振，発熱，嘔気等)，黄疸(各頻度不明)。
4．血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，倦怠感 頭痛，頭重感，ふらふら感，しびれ感，眩暈，浮遊感 不眠，振戦，抑うつ，激越，攻撃性，無力症，錯感覚，幻覚，不随意運動，意識消失，健忘，自殺念慮，悪夢
消化器 口渇，嘔気，食欲不振 胃不快感，下痢，消化不良，腹痛，腹部不快感，胃痛，口唇炎，便秘，口唇乾燥感，嘔吐，味覚異常，口内炎
腹部膨満感，食欲亢進
循環器 動悸，血圧上昇，不整脈(房室ブロック，期外収縮，頻脈，発作性上室性頻拍，心房細動)
血液 好酸球増多 好中球減少，リンパ球増多，白血球増多，白血球減少，単球増多，血小板増加，血小板減少
過敏症 発疹，蕁麻疹，浮腫，かぶれ，掻痒感，血管浮腫 多形紅斑
眼 結膜充血，霧視 眼球回転発作
肝臓 ALT上昇，AST上昇，総ビリルビン上昇 AI－P上昇
腎臓・泌尿器 尿蛋白，BUN上昇，尿糖，ウロビリノーゲンの異常，頻尿，血尿 排尿困難，遺尿，尿閉
その他 耳鳴，月経異常，胸痛，ほてり，息苦しさ 関節痛，手足のこわばり，嗅覚異常，鼻出血，脱毛，咳嗽，体重増加，筋肉痛
(表終了)

タリオン錠10mg（10mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490022F2034
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】ベポタスチンベシル酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】20.3円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症)
小児
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患(湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症)に伴う掻痒
【用法用量】成人
1回10mg 1日2回 内服。
適宜増減。
7歳以上の小児
1回10mg 1日2回 内服。
注意
腎機能障害 低用量(例 1回5mg)から投与する等慎重投与し，異常時は減量，休薬等の処置。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球数増加，白血球数減少，好酸球増多
精神神経系 眠気，倦怠感，頭痛，眩暈 頭重感
消化器 口渇，悪心，胃痛，胃部不快感，下痢，口内乾燥，嘔吐 舌炎，腹痛 便秘
過敏症 発疹，蕁麻疹 腫脹
肝臓 AST，ALT，γ－GTPの上昇，LDH，総ビリルビンの上昇
腎臓 尿潜血，尿蛋白，尿糖，尿ウロビリノーゲン 尿量減少，排尿困難，尿閉
その他 月経異常，浮腫，味覚異常 動悸，呼吸困難，しびれ
(表終了)

ディレグラ配合錠（1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490100F1021
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】フェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プソイドエフェドリン配合剤
【メーカー】製)LTLファーマ 販)サノフィ
【薬価】27.1円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
注意
鼻閉症状が中等症以上の時に使用。
【用法用量】成人・12歳以上の小児 1回2錠(フェキソフェナジン塩酸塩 60mg，塩酸プソイドエフェドリン 120mg) 1日2回，朝・夕の空腹時 内服。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・塩酸プソイドエフェドリンと化学構造が類似する化合物(エフェドリン塩酸塩・メチルエフェドリン塩酸塩含有製剤)に過敏症の既往。
2．重症の高血圧。
3．重症の冠動脈疾患。

4 組織細胞機能用医薬品

4. 閉塞隅角緑内障。
5. 尿閉。
6. 交感神経刺激薬による不眠，眩暈，脱力，振戦，不整脈等の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，意識消失，血管浮腫，胸痛，潮紅等の過敏症状）。
2. 痙攣（頻度不明）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4. 無顆粒球症，白血球減少，好中球減少（各頻度不明）。
5. 急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）（発熱，紅斑，多数の小膿疱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～0．5%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，疲労 しびれ感，眠気，倦怠感，眩暈，不眠，神経過敏，悪夢，睡眠障害，中枢神経刺激，激越，落ち着きのなさ，脱力，恐怖，不安，緊張，振戦，幻覚
消化器 口渇 便秘，嘔気，嘔吐，腹痛，下痢，消化不良，虚血性大腸炎
過敏症 発疹 血管浮腫，掻痒，蕁麻疹，潮紅
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓・泌尿器 頻尿，排尿困難，尿閉
循環器 頻脈，動悸，血圧上昇，高血圧，不整脈，循環虚脱
その他 味覚異常，浮腫，胸痛，呼吸困難，食欲不振，蒼白，月経異常
（表終了）

デザレックス錠5mg（5mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490032F1023
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】デスロラタジン
【メーカー】製)オルガノン 販)杏林製薬
【薬価】38.7円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】12歳以上の小児・成人 1回5mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ロラタジンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（チアノーゼ，呼吸困難，血圧低下，血管浮腫等）。
2. てんかん（頻度不明）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，ビリルビン等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%未満 頻度不明
神経系障害 傾眠 頭痛，精神運動亢進
心臓障害 頻脈，動悸
胃腸障害 口内乾燥
皮膚・皮下組織障害 発疹
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労
その他 白血球数増加，血中コレステロール増加 食欲亢進
（表終了）

ビラノア錠20mg（20mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490033F1028
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】ビラスチン
【メーカー】製)大鵬薬品工業 販)MeijiSeikaファルマ
【薬価】48.7円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 空腹時 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，頭痛 眩暈，不眠，不安
消化器 口渇，下痢，腹痛 胃不快感，口内乾燥，消化不良，胃炎，悪心
循環器 右脚ブロック，洞性不整脈，心電図QT延長，心電図異常，頻脈，動悸
肝臓 AST上昇，γ－GTP上昇 ALT上昇
腎臓 血中クレアチニン上昇
呼吸器 鼻乾燥 呼吸困難，鼻部不快感
過敏症 発疹，掻痒症，血管性浮腫，多形紅斑
その他 耳鳴，発熱，体重増加，トリグリセリド上昇，無力症，口腔ヘルペス，食欲亢進，疲労
（表終了）

ミティキュアダニ舌下錠10000JAU（10000JAU1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490031F2025
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】アレルゲンエキス
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】197.8円/1T
【薬価収載日】2015/11/26
【標榜薬効】減感作療法（アレルゲン免疫療法）薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎への減感作療法
注意
1. 投与開始時，皮膚反応テスト（スクラッチテスト（プリックテスト），皮内テスト），特異的IgE抗体検査を実施，ダニアレルギー性鼻炎の確定診断を行う。
2. 症状等を踏まえ，他の治療法も勘案した上で，適用の可否を判断。
3. ダニ抗原以外のアレルゲンにも反応性が高い（特異的IgE抗体価が高い）ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】投与開始後1週間 1回ミティキュアダニ舌下錠3300JAU1錠 1日1回 舌下にて1分間保持し 飲み込む。
投与2週目以降 1回ミティキュアダニ舌下錠10000JAU1錠 1日1回 舌下にて1分間保持し 飲み込む。
以後5分間 うがい・飲食を控える。
注意
1年以上投与しても治療効果なければ，それ以降の本剤投与継続を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤にショックの既往。
2. 重症の気管支喘息。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，全身潮紅，顔面浮腫・咽頭浮腫等の血管浮腫，蕁麻疹，喘息等，口腔内異常感，皮膚の掻痒感，紅斑・皮膚の発赤，胃痛，腹痛，吐気，嘔吐，下痢，視覚異常，視野狭窄，鼻閉塞感，くしゃみ，嗄声，咽喉頭掻痒感・異常感，胸部絞扼感，息苦しさ，咳嗽，喘鳴，チアノーゼ，頭痛，耳鳴，不快感，悪寒，四肢や顔のしびれ，顔面潮紅，発汗，眩暈感，振戦，蒼白，動悸，頻脈，不整脈，不安，恐怖感，意識混濁等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
口腔内 口腔腫脹・浮腫，口腔掻痒症，口腔内不快感，口の錯感覚 口内炎，舌炎，口の感覚鈍麻，舌掻痒症，口腔粘膜紅斑，舌腫脹・浮腫 口腔内痛
呼吸器 咽喉刺激感，咽喉頭不快感 咽頭浮腫，咽頭痛 咽喉絞扼感，発声障害，喉頭刺激感，咽喉頭異物感，胸部不快感，胸痛，咳嗽，呼吸困難
消化器 腹部不快感，悪心 腹痛，嘔吐，上腹部痛，胸やけ，口渇 好酸球性食道炎
皮膚 湿疹 蕁麻疹，アトピー性皮膚炎，掻痒症，発疹
その他 耳掻痒症 口唇腫脹・浮腫，口唇掻痒症 顎下腺腫大，口唇炎，頭痛，好酸球数増加，動悸
（表終了）

ミティキュアダニ舌下錠3300JAU（3300JAU1錠）
外 内服 流通

【YJコード】4490031F1029
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬

4 組織細胞機能用医薬品

【一般名】アレルゲンエキス
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】65.6円/1T
【薬価収載日】2015/11/26
【標榜薬効】減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎への減感作療法
注意
1. 投与開始時，皮膚反応テスト(スクラッチテスト(プリックテスト)，皮内テスト)，特異的IgE抗体検査を実施，ダニアレルギー性鼻炎の確定診断を行う。
2. 症状等を踏まえ，他の治療法も勘案した上で，適用の可否を判断。
3. ダニ抗原以外のアレルゲンにも反応性が高い(特異的IgE抗体価が高い)ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】投与開始後1週間　1回ミティキュアダニ舌下錠3300JAU1錠　1日1回　舌下にて1分間保持し　飲み込む。
投与2週目以降　1回ミティキュアダニ舌下錠10000JAU1錠　1日1回　舌下にて1分間保持し　飲み込む。
以後5分間　うがい・飲食を控える。
注意
1年以上投与しても治療効果なければ，それ以降の本剤投与継続を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤にショックの既往。
2. 重症の気管支喘息。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，全身潮紅，顔面浮腫・咽頭浮腫等の血管浮腫，蕁麻疹，喘息等，口腔内異常感，皮膚の掻痒感，紅斑・皮膚の発赤，胃痛，腹痛，吐気，嘔吐，下痢，視覚異常，視野狭窄，鼻閉塞感，くしゃみ，嗄声，咽喉頭掻痒感・異常感，胸部絞扼感，息苦しさ，咳嗽，喘鳴，チアノーゼ，頭痛，耳鳴，不快感，悪寒，四肢や顔のしびれ，顔面潮紅，発汗，眩暈感，振戦，蒼白，動悸，頻脈，不整脈，不安，恐怖感，意識混濁等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
口腔内 口腔腫脹・浮腫，口腔掻痒症，口腔内不快感，口の錯感覚 口内炎，舌炎，口の感覚鈍麻，舌掻痒症，口腔粘膜紅斑，舌腫脹・浮腫 口腔内痛
呼吸器 咽喉刺激感，咽喉頭不快感 咽頭浮腫，咽頭痛 咽喉絞扼感，発声障害，喉頭刺激感，咽喉頭異物感，胸部不快感，胸痛，咳嗽，呼吸困難
消化器　腹部不快感，悪心 腹痛，嘔吐，上腹部痛，胸やけ，口渇 好酸球性食道炎
皮膚　湿疹 蕁麻疹，アトピー性皮膚炎，掻痒症，発疹
その他 耳掻痒症 口唇腫脹・浮腫，口唇掻痒症 顎下腺腫大，口唇炎，頭痛，好酸球数増加，動悸
(表終了)

リザベンカプセル100mg（100mg1カプセル）
外　内服　流通

【YJコード】4490002M1315
【薬効分類】4. 4. 9　その他のアレルギー用薬
【一般名】トラニラスト
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】10.4円/1C
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】アレルギー性疾患・ケロイド・肥厚性瘢痕治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，アレルギー性鼻炎，アトピー性皮膚炎，ケロイド・肥厚性瘢痕
【用法用量】成人　1回1カプセル(トラニラスト　100mg)　1日3回　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦(特に約3ヵ月以内)・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 膀胱炎様症状(頻度不明)(頻尿，排尿痛，血尿，残尿感等)。
2. 肝機能障害(AST，ALT，AI－P等の著しい上昇)，肝炎，黄疸(各頻度不明)。
3. 腎機能障害(頻度不明)(BUN，クレアチニンの上昇等)。
4. 白血球減少(0. 14%)，血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹 紅斑，湿疹，落屑
消化器 食欲不振，腹痛，下痢，胃部不快感，消化不良，便秘，嘔気，嘔吐
血液 貧血，好酸球増多　溶血性貧血
精神神経系 頭痛，眠気，眩暈 不眠，倦怠感 しびれ感
その他　動悸，浮腫，潮紅，口内炎 月経異常，発熱，脱毛，緑色尿
(表終了)

ルパフィン錠10mg（10mg1錠）
外　内服　流通

【YJコード】4490034F1022
【薬効分類】4. 4. 9　その他のアレルギー用薬
【一般名】ルパタジンフマル酸塩
【メーカー】製)帝國製薬　販)田辺三菱製薬
【薬価】42.4円/1T
【薬価収載日】2017/11/22
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患(湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症)に伴う掻痒
【用法用量】12歳以上の小児・成人　1回10mg　1日1回　内服。
1回20mgまで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(チアノーゼ，呼吸困難，血圧低下，血管浮腫等)。
2. てんかん(頻度不明)。
3. 痙攣(頻度不明)。
4. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDH，ビリルビン等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気(9. 3%) 倦怠感 頭痛，しびれ感，眩暈 注意力障害，疲労，無力症，易刺激性
呼吸器系　　口腔咽頭痛，鼻乾燥，鼻出血，咽頭炎，咽喉乾燥，鼻炎，咳嗽
消化器　口渇，便秘 下痢，腹部不快感，口内乾燥 悪心，嘔吐，消化不良，腹痛，食欲亢進
循環器　　動悸，頻脈
血液　リンパ球形態異常，白血球数増加
過敏症　発疹，浮腫(顔面，手足等) 蕁麻疹
肝臓　AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇
腎・泌尿器　尿蛋白，尿糖，尿中ウロビリノーゲン異常，血尿 BUN上昇
その他　CPK上昇 筋痙縮 関節痛，体重増加，筋肉痛，背部痛，発熱
(表終了)

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5．2 漢方製剤

5．2．0 漢方製剤

クラシエ桂枝加苓朮附湯エキス細粒（1g）

外 内服 流通
劇

【YJコード】5200036C1030
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】桂枝加苓朮附湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】10.8円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】関節痛，神経痛
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
その他 心悸亢進，のぼせ，舌のしびれ，悪心等
（表終了）

クラシエ柴胡桂枝湯エキス細粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200051C1069
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】柴胡桂枝湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】20.9円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】多くは腹痛を伴う胃腸炎，微熱・寒け・頭痛・吐気等のある感冒，風邪の後期の症状
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
3．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
4．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
消化器 下痢，便秘，消化不良等
泌尿器 頻尿，排尿痛，血尿，残尿感，膀胱炎等
（表終了）

クラシエ小柴胡湯エキス細粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200073C1081
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】小柴胡湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】30.5円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．体力中等度で上腹部がはって苦しく，舌苔を生じ，口中不快，食欲不振，ときに微熱，悪心等のある下記
諸種の急性熱性病，肺炎，気管支炎，気管支喘息，感冒，リンパ腺炎，慢性胃腸障害，産後回復不全
2．慢性肝炎の肝機能障害の改善
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．インターフェロン製剤の投与患者。
2．肝硬変，肝癌。
3．慢性肝炎の肝機能障害で血小板数が10万／mm3以下。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
3．ミオパシー，横紋筋融解症（各頻度不明）（脱力感，筋力低下，筋肉痛，四肢痙攣・麻痺，CK上昇，血中・尿中のミオグロビン上昇）。
4．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，腹痛，下痢，便秘等
泌尿器 頻尿，排尿痛，血尿，残尿感，膀胱炎等
（表終了）

クラシエ猪苓湯エキス細粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200103C1092
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】猪苓湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】14.8円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】尿量が減少し，尿が出にくく，排尿痛・残尿感のあるもの
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
消化器 胃部不快感等
（表終了）

クラシエ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス細粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200110C1041
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス
【メーカー】製)大峰堂薬品工業 販)クラシエ薬品
【薬価】13.6円/1g
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】手足の冷えを感じ，下肢が冷えると下肢・下腹部が痛くなりやすい下記
しもやけ，頭痛，下腹部痛，腰痛
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
肝臓 肝機能異常(AST, ALT等の上昇)
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 下痢等
(表終了)

クラシエ防風通聖散料エキス細粒（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200130C1065
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】防風通聖散エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】10.1円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腹部に皮下脂肪が多く, 便秘がちな下記
高血圧の随伴症状(動悸, 肩こり, のぼせ), 肥満症, むくみ, 便秘
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
2. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
3. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
4. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
5. 腸間膜静脈硬化症(頻度不明)(腹痛, 下痢, 便秘, 腹部膨満等, 便潜血陽性)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒等
自律神経系 不眠, 発汗過多, 頻脈, 動悸, 全身脱力感, 精神興奮等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 軟便, 下痢等
泌尿器 排尿障害等
(表終了)

ツムラ茵ちん蒿湯エキス顆粒(医療用)（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200003D1049
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】茵ちん蒿湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.7円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】尿量減少, 便秘がちで比較的体力のある下記
黄疸, 肝硬変症, ネフローゼ, 蕁麻疹, 口内炎
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
2. 腸間膜静脈硬化症(頻度不明)(腹痛, 下痢, 便秘, 腹部膨満等, 便潜血陽性)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 腹痛, 下痢等
(表終了)

ツムラ温経湯エキス顆粒(医療用)（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200005D1030
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】温経湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】37.2円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】手足がほてり, 唇が渇く下記
月経不順, 月経困難, こしけ, 更年期障害, 不眠, 神経症, 湿疹, 足腰の冷え, しもやけ
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒, 蕁麻疹等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 下痢等
(表終了)

ツムラ乙字湯エキス顆粒(医療用)（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200012D1080
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】乙字湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】15.2円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】病状がそれほど激しくなく, 体力が中位で衰弱していない下記
キレ痔, イボ痔
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
2. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
3. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
4. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 腹痛, 下痢等
(表終了)

ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒(医療用)（1g）

外 内服 流通

【YJコード】5200016D1054
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】加味帰脾湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】26円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】虚弱体質で血色の悪い下記
貧血, 不眠症, 精神不安, 神経症
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
3. 腸間膜静脈硬化症(頻度不明)(腹痛，下痢，便秘，腹部膨満等，便潜血陽性)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，腹痛，下痢等
(表終了)

ツムラ桂枝加芍薬湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200032D1045
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】桂枝加芍薬湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】7.5円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】腹部膨満感のある下記
しぶり腹，腹痛
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
(表終了)

ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200035D1030
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】桂枝加竜骨牡蛎湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えている下記
小児夜尿症，神経衰弱，性的神経衰弱，遺精，陰萎
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
(表終了)

ツムラ桂枝湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200028D1049
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】桂枝湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】6.7円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】体力が衰えた時の風邪の初期
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
(表終了)

ツムラ香蘇散エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200043D1027
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】香蘇散エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】10.7円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】胃腸虚弱で神経質の人の風邪の初期
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。

ツムラ五積散エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200045D1034
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】五積散エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性に経過し，症状の激しくない下記
胃腸炎，腰痛，神経痛，関節痛，月経痛，頭痛，冷え症，更年期障害，感冒
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
自律神経系 不眠，発汗過多，頻脈，動悸，全身脱力感，精神興奮等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，下痢等
泌尿器 排尿障害等
(表終了)

ツムラ呉茱萸湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200046D1039
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】呉茱萸湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】15.3円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】手足の冷えやすい中等度以下の体力の下記
習慣性片頭痛，習慣性頭痛，嘔吐，脚気衝心
【用法用量】成人　1日7．5g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
肝臓 肝機能異常（AST，ALT等の上昇）
（表終了）

ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒（医療用）（1g）

外　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】5200050D1094
【薬効分類】5．2．0　漢方製剤
【一般名】柴胡加竜骨牡蛎湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】20.3円/1g
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】比較的体力があり，心悸亢進，不眠，いらだち等の精神症状のある下記
高血圧症，動脈硬化症，慢性腎臓病，神経衰弱症，神経性心悸亢進症，てんかん，ヒステリー，小児夜啼症，陰萎
【用法用量】成人　1日7．5g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
消化器 胃部不快感等
（表終了）

ツムラ酸棗仁湯エキス顆粒（医療用）（1g）

外　内服　流通

【YJコード】5200056D1032
【薬効分類】5．2．0　漢方製剤
【一般名】酸棗仁湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】18円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】心身が疲れ弱って眠れないもの
【用法用量】成人　1日7．5g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，腹痛，下痢等
（表終了）

ツムラ四物湯エキス顆粒（医療用）（1g）

外　内服　流通

【YJコード】5200065D1031
【薬効分類】5．2．0　漢方製剤
【一般名】四物湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.5円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】皮膚が枯燥し，色つやの悪い体質で胃腸障害のない下記
産後・流産後の疲労回復，月経不順，冷え症，しもやけ，しみ，血の道症
【用法用量】成人　1日7．5g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，下痢等
（表終了）

ツムラ小建中湯エキス顆粒（医療用）（1g）

外　内服　流通

【YJコード】5200072D1058
【薬効分類】5．2．0　漢方製剤
【一般名】小建中湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】6.9円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】体質虚弱で疲労しやすく，血色がすぐれず，腹痛，動悸，手足のほてり，冷え，頻尿・多尿等のいずれかを伴う下記
小児虚弱体質，疲労倦怠，神経質，慢性胃腸炎，小児夜尿症，夜なき
【用法用量】成人　1日15g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
（表終了）

ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）（1g）

外　内服　流通

【YJコード】5200075D1086
【薬効分類】5．2．0　漢方製剤
【一般名】小青竜湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】12.8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の水様の痰，水様鼻汁，鼻閉，くしゃみ，喘鳴，咳嗽，流涙
気管支炎，気管支喘息，鼻炎，アレルギー性鼻炎，アレルギー性結膜炎，感冒
【用法用量】成人　1日9g　1日2～3回　分割　食前又は食間　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．アルドステロン症。
2．ミオパシー。
3．低カリウム血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
3．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
4．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
自律神経系 不眠, 発汗過多, 頻脈, 動悸, 全身脱力感, 精神興奮等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 下痢等
泌尿器 排尿障害等
(表終了)

ツムラ桃核承気湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200106D1059
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】桃核承気湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】12.8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】比較的体力があり, のぼせて便秘しがちな下記
月経不順, 月経困難症, 月経時や産後の精神不安, 腰痛, 便秘, 高血圧の随伴症状(頭痛, 眩暈, 肩こり)
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 腹痛, 下痢等
(表終了)

ツムラ女神散エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200115D1023
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】女神散エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】21.8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】のぼせと眩暈のある下記
産前産後の神経症, 月経不順, 血の道症
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
3. 肝機能障害(AST, ALT, AlーP, γーGTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒, 蕁麻疹等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 下痢等
(表終了)

ツムラ人参湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200116D1060
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】人参湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.9円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】体質虚弱の人, 又は虚弱で体力低下した下記
急性・慢性胃腸カタル, 胃アトニー症, 胃拡張, 悪阻(つわり), 萎縮腎
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. アルドステロン症。
2. ミオパシー。
3. 低カリウム血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹等
(表終了)

ツムラ半夏白朮天麻湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200124D1022
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】半夏白朮天麻湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】23.2円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】胃腸虚弱で下肢が冷え, 眩暈, 頭痛等があるもの
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹等
(表終了)

ツムラ麻黄湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200132D1035
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】麻黄湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】11.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】悪寒, 発熱, 頭痛, 腰痛, 自然に汗の出ない下記
感冒, インフルエンザ(初期), 関節リウマチ, 喘息, 乳児の鼻閉塞, 哺乳困難
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
自律神経系 不眠, 発汗過多, 頻脈, 動悸, 全身脱力感, 精神興奮等
肝臓 肝機能異常(AST, ALT等の上昇)
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐等
泌尿器 排尿障害等
(表終了)

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

ツムラ麻黄附子細辛湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200133D1021
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】麻黄附子細辛湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】18.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】悪寒, 微熱, 全身倦怠, 低血圧で頭痛, 眩暈あり, 四肢に疼痛冷感のある下記
感冒, 気管支炎
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤等
自律神経系 不眠, 発汗過多, 頻脈, 動悸, 全身脱力感, 精神興奮等
消化器 口渇, 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐等
泌尿器 排尿障害等
その他 のぼせ, 舌のしびれ等
(表終了)

ツムラ麻子仁丸エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200136D1033
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】麻子仁丸エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】9.9円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】便秘
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振, 腹痛, 下痢等
(表終了)

ツムラ抑肝散加陳皮半夏エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200140D1021
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】抑肝散加陳皮半夏エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】14.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】虚弱体質で神経がたかぶる下記
神経症, 不眠症, 小児夜なき, 小児疳症
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 下痢等
(表終了)

ツムラ竜胆瀉肝湯エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200142D1047
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】竜胆瀉肝湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】16.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】比較的体力があり, 下腹部筋肉が緊張する傾向のある下記
排尿痛, 残尿感, 尿の濁り, こしけ
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
2. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
3. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
4. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
5. 腸間膜静脈硬化症(頻度不明)(腹痛, 下痢, 便秘, 腹部膨満等, 便潜血陽性)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 下痢等
(表終了)

ツムラ六味丸エキス顆粒(医療用)(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5200146D1029
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】六味丸エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】疲れやすくて, 尿量減少, 多尿で, ときに口渇がある下記
排尿困難, 頻尿, むくみ, かゆみ
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 下痢等
(表終了)

5. 9 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5. 9. 0 その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品

ヨクイニンエキス散「コタロー」(1g)

外 内服 流通

【YJコード】5900003B1020
【薬効分類】5. 9. 0 その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品

５ 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

【一般名】ヨクイニンエキス
【メーカー】製)小太郎漢方製薬
【薬価】17.8円/1g
【標榜薬効】生薬製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】青年性扁平疣贅，尋常性疣贅
【用法用量】成人　1日1～2g(本剤　3～6g)　1日3回　分割　内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
消化器 胃部不快感，下痢等
(表終了)

ヨクイニンエキス散「コタロー」

6 病原生物に対する医薬品

6 病原生物に対する医薬品

6．1 抗生物質製剤

6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの

オラペネム小児用細粒10%（100mg1g）

外 内服 流通

【YJコード】6139002C1026
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】テビペネム ピボキシル
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】372.3円/1g
【薬価収載日】2009/06/19
【標榜薬効】カルバペネム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 黄色ブドウ球菌，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，インフルエンザ菌
適応症 肺炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
効能共通
1．カルバペネム系抗生剤の臨床的位置づけを考慮した上で，他の抗菌薬による治療効果が期待できない症例のみ使用。
2．肺炎球菌にはペニシリン耐性肺炎球菌・マクロライド耐性肺炎球菌含む。
3．インフルエンザ菌にはアンピシリン耐性インフルエンザ菌含む。
中耳炎，副鼻腔炎
4．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児 1回テビペネム ピボキシル4mg／kg 1日2回 食後 内服。
必要時 1回6mg／kgまで。
注意
投与期間は，7日間以内を目安。耐性菌の発現等を防ぐため，感受性を確認し，必要最小限の期間にとどめる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．バルプロ酸ナトリウムの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低カルニチン血症に伴う低血糖(頻度不明)(痙攣，意識障害等の低血糖症状)。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等)。
3．痙攣，意識障害(各頻度不明)等の中枢神経症状。
4．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢)。
5．急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
6．劇症肝炎等の重篤な肝障害(頻度不明)，黄疸。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
過敏症 発疹 紅斑，皮膚炎
血液 血小板増多 白血球増多，好酸球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓 血中尿素増加，着色尿，排尿困難，尿蛋白陽性
消化器 下痢・軟便(19．5%) 嘔吐 口内炎，腹痛，上腹部痛，変色便，口渇
その他 頭痛，傾眠，倦怠感，発熱，咳嗽，鼻出血
(表終了)

ケフラール細粒小児用100mg（100mg1g）

外 内服 流通

【YJコード】6132005C1053
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セファクロル
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】44.3円/1g
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌
適応症
1．表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症
2．外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎
3．咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染
4．膀胱炎，腎盂腎炎
5．麦粒腫
6．中耳炎
7．歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
8．猩紅熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】幼・小児 1日セファクロル20～40mg／kg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各0．1%未満)(呼吸困難，喘鳴，全身潮紅，浮腫等)。
2．急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
4．偽膜性大腸炎(0．1%未満)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
6．間質性肺炎，PIE症候群(各頻度不明)等(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
7．肝機能障害(AST，ALT，AI－Pの著しい上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
8．溶血性貧血。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒，発熱等 リンパ腺腫脹，関節痛
血液 顆粒球減少，貧血(赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少)，血小板減少，好酸球増多等
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，血清クレアチニン上昇
消化器 悪心，下痢，腹痛 嘔吐，胃不快感，胸やけ，食欲不振等
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
その他 頭痛，眩暈等
(表終了)

ケフレックスカプセル250mg（250mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】6132002M2183
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セファレキシン
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】31.5円/1C
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，大腸菌，クレブシエラ属，エンテロバクター属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌
適応症
1．表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症
2．外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎
3．骨髄炎，筋炎
4．咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染
5．膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)
6．淋菌感染症，子宮頸管炎
7．バルトリン腺炎，子宮内感染
8．涙嚢炎，麦粒腫，角膜炎(角膜潰瘍含む)
9．外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎
10．歯周組織炎，歯冠周囲炎，上顎洞炎，顎炎，抜歯創・口腔手術創の二次感染

6 病原生物に対する医薬品

注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人，体重20kg以上の小児　1回250mg　6時間ごと　内服。
重症時や分離菌の感受性が比較的低い症例 1回500mg　6時間ごと　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，浮腫等）。
2. 急性腎障害（0．1%未満）等の重篤な腎障害。
3. 溶血性貧血（0．1%未満）。
4. 偽膜性大腸炎（0．1%未満）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各0．1%未満）。
6. 間質性肺炎，PIE症候群（各0．1%未満）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，紅斑，掻痒，発熱，リンパ腺腫脹，関節痛等
血液　顆粒球減少，好酸球増多，血小板減少
肝臓　黄疸，AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇
消化器 悪心，嘔吐，下痢，軟便，腹痛，食欲不振，胃不快感等
菌交代症　口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他　頭痛，眩暈，全身倦怠感
（表終了）

セフジニルカプセル100mg「日医工」（100mg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】6132013M2114
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフジニル
【メーカー】製)日医工
【薬価】59.7円/1C
【薬価収載日】2009/05/15
【標榜薬効】セフェム系製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，アクネ菌
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，尿道炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1回100mg　1日3回　内服。
適宜増減。
注意
血液透析患者 1日100mg，1日1回投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(0．1%未満)（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2. アナフィラキシー(0．1%未満)（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
3. 皮膚障害(頻度不明)（中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各0．1%未満)）(発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
4. 血液障害(頻度不明)（汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，頭痛，倦怠感等)，血小板減少(点状出血，紫斑等)，溶血性貧血(発熱，ヘモグロビン尿，貧血症状等)(各0．1%未満))。
5. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0．1%未満)（腹痛，頻回の下痢)。
6. 間質性肺炎，PIE症候群(各0．1%未満)等(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
7. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0．1%未満)。
8. 劇症肝炎等の重篤な肝炎，肝機能障害(著しいAST，ALT，Al－Pの上昇等)，黄疸(各0．1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒，発熱，浮腫 紅斑
血液 好酸球増多 顆粒球減少
腎臓　BUN上昇
消化器 下痢，腹痛，胃部不快感 悪心，嘔吐，胸やけ，食欲不振，便秘
菌交代症　口内炎 カンジダ症，黒毛舌
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
その他　眩暈，頭痛，胸部圧迫感 しびれ
(表終了)

セフゾンカプセル100mg（100mg1カプセル）

外　内服　流通

【YJコード】6132013M2025
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフジニル
【メーカー】製)LTLファーマ　販)アステラス製薬　販)藤沢薬品工業
【薬価】59.7円/1C
【薬価収載日】1993/03/20
【標榜薬効】セフェム系製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，アクネ菌
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，尿道炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1回100mg　1日3回　内服。
適宜増減。
注意
血液透析患者 1日100mg，1日1回投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(0．1%未満)（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2. アナフィラキシー(0．1%未満)（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
3. 皮膚障害(頻度不明)（中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各0．1%未満)）(発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
4. 血液障害(頻度不明)（汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，頭痛，倦怠感等)，血小板減少(点状出血，紫斑等)，溶血性貧血(発熱，ヘモグロビン尿，貧血症状等)(各0．1%未満))。
5. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0．1%未満)（腹痛，頻回の下痢)。
6. 間質性肺炎，PIE症候群(各0．1%未満)等(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
7. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0．1%未満)。
8. 劇症肝炎等の重篤な肝炎，肝機能障害(著しいAST，ALT，Al－Pの上昇等)，黄疸(各0．1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒，発熱，浮腫 紅斑
血液 好酸球増多 顆粒球減少
腎臓　BUN上昇
消化器 下痢，腹痛，胃部不快感 悪心，嘔吐，胸やけ，食欲不振，便秘
菌交代症　口内炎 カンジダ症，黒毛舌
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
その他　眩暈，頭痛，胸部圧迫感 しびれ
(表終了)

6 病原生物に対する医薬品

フロモックス錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6132016F2020
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】41.1円/1T
【薬価収載日】1997/06/20
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属(プレボテラ・ビビア除く)，アクネ菌
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，尿道炎，子宮頸管炎，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回100mg 1日3回 食後 内服。
適宜増減。難治性・効果不十分時 1回150mg 1日3回 食後 内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，呼吸困難，血圧低下等)。
2．急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
3．無顆粒球症，血小板減少，溶血性貧血(各頻度不明)。
4．偽膜性大腸炎，出血性大腸炎(各頻度不明)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6．間質性肺炎，好酸球性肺炎(各頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
7．劇症肝炎等の重篤な肝炎，肝機能障害(AST，ALT，Al－P等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
8．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5% 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒感，発赤，紅斑，腫脹 関節痛，発熱
血液 好酸球増多 貧血(赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少) 顆粒球減少，血小板減少
肝臓 ALT上昇，AST上昇，LDH上昇，Al－P上昇，γ－GTP上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，蛋白尿，血尿 クレアチニン上昇 浮腫
消化器 下痢，腹痛，胃不快感，胃痛，嘔気，嘔吐 食欲不振，便秘，口渇，口内しびれ感
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
その他 CK上昇，アルドラーゼ上昇 眩暈，頭痛，倦怠感，眠気 心悸亢進，四肢しびれ感，筋肉痛，血清カルニチン低下
(表終了)

6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの

クラリシッド錠200mg（200mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6149003F2020
【薬効分類】6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの
【一般名】クラリスロマイシン
【メーカー】製)日本ケミファ 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)大日本住友製薬
【薬価】24.9円/1T
【標榜薬効】マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，インフルエンザ菌，レジオネラ属，カンピロバクター属，ペプトストレプトコッカス属，クラミジア属，マイコプラズマ属
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，尿道炎，子宮頸管炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
2．非結核性抗酸菌症
適応菌種 マイコバクテリウム属
適応症 マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症を含む非結核性抗酸菌症
3．ヘリコバクター・ピロリ感染症
適応菌種 ヘリコバクター・ピロリ
適応症 胃潰瘍・十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
一般感染症 咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
1．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
2．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
3．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
4．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
5．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】一般感染症 成人 1日400mg 1日2回 分割 内服。適宜増減。
非結核性抗酸菌症 成人 1日800mg 1日2回 分割 内服。適宜増減。
ヘリコバクター・ピロリ感染症 成人 1回クラリスロマイシン200mg，1回アモキシシリン水和物750mg，プロトンポンプインヒビターの3剤を同時に1日2回 7日間 内服。クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
注意
一般感染症
1．免疫不全等合併症を有さない軽症～中等症のレジオネラ肺炎 1日400mg分2投与で，2～5日で症状は改善。軽快しても投与は2～3週間継続。レジオネラ肺炎は再発の頻度が高い感染症，特に免疫低下の状態では，治療終了後，2～3週間投与を継続し症状を観察。投与期間中に症状の悪化時は，速やかにレジオネラに有効な注射剤(キノロン系薬剤等)への変更が必要。
2．レジオネラ肺炎の治療は単独使用だが，併用が必要な時は下記の報告を参考に併用薬の特徴を考慮し選択。
(1)．中等症以上にリファンピシンと併用し有効の報告あり。
(2)．in vitro抗菌力の検討において，本剤とレボフロキサシン又はシプロフロキサシンとの併用効果(相乗ないし相加作用)の報告あり。
3．クラミジア感染症の投与期間は14日間とし，必要時，投与期間を延長。
非結核性抗酸菌症
4．肺MAC症及び後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症 国内外の最新のガイドライン等を参考に併用療法を行う。
5．投与期間は，下記を参照。
(表開始)
疾患名 投与期間
肺MAC症 排菌陰性を確認後，1年以上の投与継続と定期的な検査を実施。再発する可能性，治療終了後も定期的な検査が必要。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症 臨床的・細菌学的な改善が認められた後も継続投与。
(表終了)
ヘリコバクター・ピロリ感染症
6．プロトンポンプインヒビターは1回ランソプラゾール30mg，1回オメプラゾール20mg，1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回エソメプラゾール20mg又は1回ボノプラザン20mgのいずれか1剤を選択。

■禁忌

【禁忌】1．本剤に過敏症の既往。
2．ピモジド，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩，スボレキサント，ロミタピドメシル酸塩，タダラフィル(アドシルカ)，チカグレロル，イブルチニブ，イバブラジン塩酸塩，ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期)，ルラシドン塩酸塩，アナモレリン塩酸塩，フィネレノン，イサブコナゾニウム硫酸塩の投与患者。
3．肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用

6 病原生物に対する医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，痙攣，発赤等）。
2. QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動（各頻度不明）。
3. 劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等），黄疸，肝不全（各頻度不明）。
4. 血小板減少，汎血球減少，溶血性貧血，白血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
6. PIE症候群・間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7. 偽膜性大腸炎，出血性大腸炎（各頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
8. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
9. 痙攣（頻度不明）（強直間代性，ミオクロヌス，意識消失発作等）。
10. 急性腎障害，尿細管間質性腎炎（各頻度不明）（乏尿等，血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下）。
11. IgA血管炎（頻度不明）。
12. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
その他の副作用（発現時中止等）（一般感染症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感
精神神経系 眩暈 頭痛 幻覚 失見当識 意識障害 せん妄 躁病 眠気 振戦 しびれ（感） 錯感覚 不眠
感覚器 味覚異常（にがみ等） 耳鳴 聴力低下 嗅覚異常
消化器 悪心 嘔吐 胃部不快感 腹部膨満感 腹痛 下痢 食欲不振 軟便 口内炎 舌炎 口渇 口腔内糜爛 胸やけ 歯牙変色 舌変色
血液 好酸球増多
肝臓 AST上昇 ALT上昇 γ－GTP上昇 LDH上昇 AI－P上昇
筋・骨格 筋肉痛
その他 倦怠感 浮腫 カンジダ症 発熱 動悸 CK上昇 脱毛 頻尿 低血糖
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（非結核性抗酸菌症）
（表開始）
発現部位等 5～10%未満 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 不眠症 頭痛 眩暈 激越 神経過敏症 感覚異常 痙攣 妄想 幻覚 運動過多 躁病反応 偏執反応 末梢神経炎 精神病
感覚器 味覚減退 味覚倒錯 難聴 耳鳴 味覚喪失 結膜炎
皮膚 発疹 掻痒感 斑状丘疹状皮疹 ざ瘡 帯状疱疹 紫斑皮疹 光線過敏性反応 発汗
消化器 下痢 悪心 食欲不振 腹痛 嘔吐 逆流性食道炎 鼓腸放屁 消化不良 便秘 おくび 口渇 舌炎 舌変色
血液 白血球減少 貧血 再生不良性貧血 好中球減少 骨髄機能不全
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇 AI－P上昇 AST上昇 ALT上昇 胆汁うっ滞性黄疸 肝炎 ビリルビン上昇
腎臓 急性腎障害 BUN上昇 クレアチニン上昇
生殖器 子宮頸部上皮異形成 腟カンジダ症
筋・骨格 筋肉痛 関節痛
その他 高脂血症 トリグリセリド上昇 高尿酸血症 低カリウム血症 徐脈 無力症 アミラーゼ上昇 カンジダ症 疼痛 しゃっくり 発熱 胸痛 さむけ 酵素上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリ感染症）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 頭痛 しびれ感 眩暈 眠気 不眠 うつ状態
消化器 下痢（15．5%） 軟便（13．5%） 味覚異常 腹痛 腹部膨満感 口内炎 便秘 食道炎 口渇 悪心 舌炎 胃食道逆流 胸やけ 十二指腸炎 嘔吐 痔核 食欲不振
血液 好中球減少 好酸球増多 貧血 白血球増多 血小板減少
肝臓 AST上昇 ALT上昇 LDH上昇 γ－GTP上昇 AI－P上昇 ビリルビン上昇
その他 尿蛋白陽性 トリグリセリド上昇 総コレステロール上昇・減少 尿糖陽性 尿酸上昇 倦怠感 熱感 動悸 発熱 QT延長 カンジダ症 浮腫 血圧上昇 霧視
（表終了）

クラリス錠50小児用（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6149003F1031
【薬効分類】6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの
【一般名】クラリスロマイシン
【メーカー】製）大正製薬 販）大正富山医薬品
【薬価】21円/1T
【標榜薬効】マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，インフルエンザ菌，レジオネラ属，百日咳菌，カンピロバクター属，クラミジア属，マイコプラズマ属
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱，百日咳
2．後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症
適応菌種 マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス
適応症 後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症
注意
一般感染症 咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
一般感染症 小児 1日10～15mg／kg 1日2～3回 分割 内服。
レジオネラ肺炎；1日15mg／kg 1日2～3回 分割 内服。適宜増減。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症 小児 1日15mg／kg 1日2回 分割 内服。適宜増減。
（表終了）
注意
一般感染症
1．小児は1日400mgまで。
2．免疫不全等合併症を有さない軽症～中等症のレジオネラ肺炎 1日400mg分2投与で，2～5日で症状は改善。軽快しても投与は2～3週間継続。レジオネラ肺炎は再発の頻度が高い感染症，特に免疫低下の状態では，治療終了後，2～3週間投与を継続し症状を観察。投与期間中に症状の悪化時は，速やかにレジオネラに有効な注射剤（キノロン系薬剤等）への変更が必要。
3．レジオネラ肺炎の治療は単独使用だが，併用が必要な時は下記の報告を参考に併用薬の特徴を考慮し選択。
（1）．中等症以上にリファンピシンと併用し有効の報告あり。
（2）．in vitro抗菌力の検討において，本剤とレボフロキサシン又はシプロフロキサシンとの併用効果（相乗ないし相加作用）の報告あり。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症
4．国内外の最新のガイドライン等を参考に併用療法を行う。
5．臨床的，細菌学的な改善が認められた後も継続投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤に過敏症の既往。
2．ピモジド，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩，スボレキサント，ロミタピドメシル酸塩，タダラフィル（アドシルカ），チカグレロル，イブルチニブ，イバブラジン塩酸塩，ベネトクラクス（再発・難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）用量漸増期），ルラシドン塩酸塩，アナモレリン塩酸塩，フィネレノン，イサブコナゾニウム硫酸塩の投与患者。
3．肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，痙攣，発赤等）。
2．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動（各頻度不明）。
3．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等），黄疸，肝不全（各頻度不明）。
4．血小板減少，汎血球減少，溶血性貧血，白血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
6．PIE症候群・間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7．偽膜性大腸炎，出血性大腸炎（各頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
9．痙攣（頻度不明）（強直間代性，ミオクロヌス，意識消失発作等）。
10．急性腎障害，尿細管間質性腎炎（各頻度不明）（乏尿等，血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下）。
11．IgA血管炎（頻度不明）。
12．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
その他の副作用（発現時中止等）（一般感染症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感
精神神経系 眩暈 頭痛 幻覚 失見当識 意識障害 せん妄 躁病 眠気 振戦 しびれ（感） 錯感覚 不眠
感覚器 味覚異常（にがみ等） 耳鳴 聴力低下 嗅覚異常
消化器 悪心 嘔吐 胃部不快感 腹部膨満感 腹痛 下痢 食欲不振 軟便

6 病原生物に対する医薬品

口内炎 舌炎 口渇 口腔内糜爛 胸やけ 歯牙変色 舌変色
血液 好酸球増多
肝臓 AST上昇 ALT上昇 γ－GTP上昇 LDH上昇 AI－P上昇
筋・骨格 筋肉痛
その他 倦怠感 浮腫 カンジダ症 発熱 動悸 CK上昇 脱毛 頻尿 低血糖
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症）
（表開始）
発現部位等 5～10%未満 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 不眠症 頭痛 眩暈 激越 神経過敏症 感覚異常 痙攣 妄想 幻覚 運動過多 躁病反応 偏執反応 末梢神経炎 精神病
感覚器 味覚減退 味覚倒錯 難聴 耳鳴 味覚喪失 結膜炎
皮膚 発疹 掻痒感 斑状丘疹状皮疹 ざ瘡 帯状疱疹 紫斑皮疹 光線過敏性反応 発汗
消化器 下痢 悪心 食欲不振 腹痛 嘔吐 逆流性食道炎 鼓腸放屁 消化不良 便秘 おくび 口渇 舌炎 舌変色
血液 白血球減少 貧血 再生不良性貧血 好中球減少 骨髄機能不全
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇 AI－P上昇 AST上昇 ALT上昇 胆汁うっ滞性黄疸 肝炎 ビリルビン上昇
腎臓 急性腎障害 BUN上昇 クレアチニン上昇
生殖器 子宮頸部上皮異形成 腟カンジダ症
筋・骨格 筋肉痛 関節痛
その他 高脂血症 トリグリセリド上昇 高尿酸血症 低カリウム血症 徐脈 無力症 アミラーゼ上昇 カンジダ症 疼痛 しゃっくり 発熱 胸痛 さむけ 酵素上昇
（表終了）

ルリッド錠150（150mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6149002F1029
【薬効分類】6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの
【一般名】ロキシスロマイシン
【メーカー】製）サノフィ 販）エーザイ
【薬価】23.4円/1T
【標榜薬効】酸安定性・持続型マクロライド系抗生剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，アクネ菌，肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの），咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日300mg 1日2回 分割 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤に過敏症の既往。
2．エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（不快感，口内異常感，眩暈，便意，耳鳴，発汗，喘鳴，呼吸困難，血管浮腫，全身の潮紅・蕁麻疹等）。
2．偽膜性大腸炎，出血性大腸炎（頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢，血便等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
4．血小板減少症（頻度不明）。
5．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
7．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹等 発熱，多形紅斑
精神神経系 頭痛，浮動性眩暈，舌のしびれ感，しびれ 眠気，錯乱
血液 好酸球増多 白血球減少
肝臓 AST，ALT，AI－P等の上昇 胆汁うっ滞等の肝機能障害
消化器 胃部不快感，腹痛，下痢，嘔吐等 口渇，食欲不振，腹部膨満感 胸やけ
感覚器 味覚異常，嗅覚異常，難聴，耳鳴，回転性眩暈，視力障害，霧視
その他 浮腫，菌交代症 全身倦怠感，脱力感，動悸，関節痛，鼻出血，月経異常
（表終了）

6．1．5 主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの

ビブラマイシン錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6152004F2089
【薬効分類】6．1．5 主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの
【一般名】ドキシサイクリン塩酸塩水和物
【メーカー】製）ファイザー
【薬価】22円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】TC系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，炭疽菌，大腸菌，赤痢菌，肺炎桿菌，ペスト菌，コレラ菌，ブルセラ属，Q熱リケッチア（コクシエラ・ブルネティ），クラミジア属
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），尿道炎，淋菌感染症，感染性腸炎，コレラ，子宮内感染，子宮付属器炎，眼瞼膿瘍，涙嚢炎，麦粒腫，角膜炎（角膜潰瘍含む），中耳炎，副鼻腔炎，歯冠周囲炎，化膿性唾液腺炎，猩紅熱，炭疽，ブルセラ症，ペスト，Q熱，オウム病
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 初日 1日200mg 1日1～2回 分割 内服。2日目より 1日100mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
コレラ，ペスト，ブルセラ症，Q熱
1．国内外のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
炭疽
2．国内外のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
3．体重45kg以上の小児 成人と同量投与できる。体重45kg未満の小児は体重換算に基づき適切な量を投与。
4．炭疽の発症，進展抑制 米国疾病管理センターが60日間の投与を推奨。
クラミジア感染症
5．投与期間は14日間とし，必要時，投与期間を延長。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・テトラサイクリン系抗生剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（呼吸困難，血管神経性浮腫等）（頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），剥脱性皮膚炎（頻度不明）。
3．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
4．偽膜性大腸炎（頻度不明）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
5．肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALTの上昇
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐 腹痛，下痢，口内炎，舌炎 膵炎，食道潰瘍，食道炎，嚥下障害，消化不良，腸炎，肛門周囲炎
血液 顆粒球減少，血小板減少，溶血性貧血，好酸球増多
循環器 潮紅，低血圧，心膜炎，末梢性浮腫，頻脈
腎臓 BUN上昇
過敏症 発疹（斑状丘疹性皮疹，紅斑性発疹含む）発熱，蕁麻疹，光線過敏症（爪甲剥離症含む），多形紅斑，固定薬疹
皮膚 色素沈着
筋・骨格系 関節痛，筋肉痛
その他 頭蓋内圧上昇（嘔吐，頭痛，複視，うっ血乳頭，大泉門膨隆等）に伴う症状，ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等），全身性エリテマトーデスの悪化，血清病，耳鳴
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

ミノマイシン顆粒2%（20mg1g）

外 内服 流通

【YJコード】6152005D1094
【薬効分類】6．1．5 主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの
【一般名】ミノサイクリン塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー 販)武田薬品工業
【薬価】20円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】TC系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，炭疽菌，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，リケッチア属(オリエンチア・ツツガムシ)，クラミジア属，肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，涙嚢炎，麦粒腫，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎，歯周組織炎，感染性口内炎，猩紅熱，炭疽，つつが虫病，オウム病
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児 1日0．1～0．2g／kg(ミノサイクリン塩酸塩 2～4mg／kg) 12又は24時間ごと 粉末のまま内服。適宜増減。
用時水を加えシロップ状で使用できる。
注意
炭疽
発症，進展抑制 類薬のドキシサイクリンで米国疾病管理センターが60日間の投与を推奨。

■禁忌

【禁忌】テトラサイクリン系薬剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，全身潮紅，呼吸困難，血管浮腫(顔面浮腫，喉頭浮腫等)，意識障害等)。
2．ループス様症候群(頻度不明)。
3．結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎(各頻度不明)(発熱，倦怠感，体重減少，関節痛，筋肉痛，網状皮斑，しびれ等)。
4．自己免疫性肝炎(頻度不明)(抗核抗体陽性)。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，剥脱性皮膚炎(各頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
6．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
7．血液障害(頻度不明)(汎血球減少，無顆粒球症，顆粒球減少，白血球減少，血小板減少，貧血)。
溶血性貧血(注射剤)。
8．重篤な肝機能障害(頻度不明)(肝不全等)。
9．急性腎障害，間質性腎炎(各頻度不明)。
10．呼吸困難，間質性肺炎，PIE症候群(各頻度不明)(発熱，咳嗽，労作時息切れ，呼吸困難等)。
11．膵炎(頻度不明)。
12．痙攣，意識障害等の精神神経障害(頻度不明)。
13．出血性腸炎，偽膜性大腸炎(各頻度不明)等の重篤な腸炎。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発熱，蕁麻疹，浮腫(四肢，顔面)
皮膚 光線過敏症，色素沈着(皮膚・爪・粘膜)，急性熱性好中球性皮膚症
精神神経系 眩暈感，頭痛，しびれ感
肝臓 AST，ALTの上昇等肝機能検査値異常，黄疸
消化器 悪心，食欲不振 舌炎，下痢，嘔吐，腹痛，口内炎 便秘，肛門周囲炎，味覚異常，胃腸障害，歯牙着色，舌変色
血液 好酸球増多
腎臓 BUN上昇
菌交代症 菌交代症に基づく新しい感染症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
頭蓋内圧上昇 頭蓋内圧上昇に伴う症状(嘔吐，頭痛，複視，うっ血乳頭，大泉門膨隆等)
感覚器 耳鳴，聴覚障害
その他 倦怠感，関節痛
(表終了)

6．1．7 主としてカビに作用するもの

ブイフェンド錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】6179001F1023
【薬効分類】6．1．7 主としてカビに作用するもの
【一般名】ボリコナゾール
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】300.3円/1T
【薬価収載日】2005/06/03
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の重症・難治性真菌感染症
・侵襲性アスペルギルス症，肺アスペルギローマ，慢性壊死性肺アスペルギルス症
・カンジダ血症，食道カンジダ症，カンジダ腹膜炎，気管支・肺カンジダ症
・クリプトコックス髄膜炎，肺クリプトコックス症
・フサリウム症
・スケドスポリウム症
○造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
注意
カンジダ感染の治療
1．他の抗真菌剤が無効・忍容性に問題がある時に使用を考慮。
造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
2．真菌感染に高リスクの患者(好中球数が500／mm3未満に減少することが予測される等)が対象。
【用法用量】(表開始)
成人(体重40kg以上) 初日 ボリコナゾール 1回300mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回150mg又は1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時は増量できる。初日 1回400mg 1日2回，2日目以降 1回300mg 1日2回まで。
成人(体重40kg未満) 初日 ボリコナゾール 1回150mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回100mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 2日目以降 1回150mg 1日2回まで。
小児(2～12歳未満，12歳以上で体重50kg未満) ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回9mg／kg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1mg／kgずつ増量。忍容性不十分時 1mg／kgずつ減量(最大量350mgを使用時は50mgずつ減量)。1回350mg 1日2回まで。
小児(12歳以上で体重50kg以上) ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1回300mg 1日2回まで。
(表終了)
注意
効能共通
1．注射剤からボリコナゾールの投与を開始した成人にて，内服可能と医師が判断した時は，錠剤又はDSに切りかえができる。
2．小児は，注射剤から投与開始。内服可能と医師が判断した時に，錠剤又はDSに切りかえができるが，投与開始から1週間未満で注射剤から経口剤に変更時の有効性・安全性は未検討のため慎重に判断。ボリコナゾール注射剤では食道カンジダ症の適応はないため，小児の食道カンジダ症への使用は推奨されない。
3．腎機能障害の患者で注射剤の投与ができない成人患者に対し，錠剤又はDSを使用。
4．軽度～中等度の肝機能低下(Child Pugh分類クラスA，Bの肝硬変)は初日は通常の初日投与量とし，2日目以降は通常の2日目以降投与量の半量。
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
5．好中球数が500／mm3以上に回復，又は免疫抑制剤の投与終了等，適切な時期に投与終了。臨床試験で，180日を超えた投与の有効性・安全性は未検討。

■禁忌

【禁忌】1．下記の投与患者
リファンピシン，リファブチン，エファビレンツ，リトナビル，ロピナビル・リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，カルバマゼピン，バルビタール，フェノバルビタール，ピモジド，キニジン，イバブラジン，麦角アルカロイド(エルゴタミン・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，エルゴメトリン，メチルエルゴメトリン)，トリアゾラム，チカグレロル，アスナプレビル，ロミタピド，ブロナンセリン，スボレキサント，リバーロキサバン，リオシグアト，アゼルニジピン，オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン，ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期)，アナモレリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，フィネレノン。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，多形紅斑(頻度不明)(皮疹等)。
3．重篤な肝障害(5．0%)(肝炎，黄疸，肝不全，肝性昏睡等)，死亡。
4．心電図QT延長(頻度不明)，心室頻拍(1．0%)(Torsades de pointes含む)，心室細動(頻度不明)，不整脈(頻度不明)，完全房室ブ

6 病原生物に対する医薬品

ロック(頻度不明), 心室性二段脈, 心室性期外収縮, 頻脈等。
5. 心不全(3. 0%)。
6. 重篤な腎障害(1. 0%)(急性腎障害, 腎炎, 腎尿細管壊死等)。
7. 呼吸窮迫症候群(頻度不明)。
8. ギラン・バレー症候群(頻度不明)。
9. 骨髄抑制, 汎血球減少, 再生不良性貧血, 無顆粒球症, 播種性血管内凝固等の重篤な血液障害(2. 0%)。
10. 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の重篤な大腸炎(腹痛, 下痢)。
11. 痙攣(頻度不明)等の神経障害。
12. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
13. 間質性肺炎(0. 2%)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
14. 重篤な低血糖(頻度不明)。
15. 意識障害(0. 1%)(意識消失, 意識レベルの低下等)。
16. 高カリウム血症(1. 0%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 白血球減少症, 血小板減少症 貧血, リンパ節症
心臓障害 動悸, 心嚢液貯留 肺水腫, 脚ブロック
耳・迷路障害 聴覚過敏, 耳鳴, 回転性眩暈
内分泌障害 ADH不適合分泌 副腎皮質機能不全, 甲状腺機能亢進症, 甲状腺機能低下症
眼障害 羞明, 霧視, 視覚障害 眼の異常感, 調節障害, 色覚異常, 複視, 眼瞼浮腫, 流涙増加, 縮瞳, 視神経乳頭浮腫, 光視症, 網膜滲出物, 網膜出血, 網膜毛細血管瘤, 網膜裂孔, 網膜血管炎, 黄視症 眼瞼炎, 視神経炎, 強膜炎, 角膜混濁, 視神経萎縮
胃腸障害 悪心, 嘔吐 腹部膨満, 口唇のひび割れ, 便秘, 下痢, 消化不良, 胃潰瘍, 痔核, イレウス, 口唇乾燥, 口唇粘膜脱落, 口唇炎, 逆流性食道炎, 口内炎 腹痛, 胃腸炎, 十二指腸炎, 歯肉炎, 舌炎, 膵炎, 舌浮腫, 腹膜炎
全身障害・投与局所様態 無力症, 胸痛, 胸部圧迫感, 異常感, 倦怠感, 末梢性浮腫, 発熱, 口渇 悪寒, 注射部位反応／炎症, インフルエンザ症候群
肝胆道系障害 胆嚢炎, 胆石症, 肝腫大
感染症・寄生虫症 副鼻腔炎
代謝・栄養障害 食欲不振 高血糖, 低カリウム血症 低ナトリウム血症 高コレステロール血症
筋骨格・結合組織障害 背部痛, 四肢痛 関節炎 骨膜炎
神経系障害 頭痛 認知不能症, 健忘, 浮動性眩暈, 味覚異常, 感覚減退, 傾眠, 会話障害, 振戦, 視野欠損 末梢性ニューロパチー 錯感覚, 失調, 脳浮腫, 筋緊張亢進, 眼振, 失神, 注視痙攣, 錐体外路症候群 精神障害 不眠症 錯乱状態, 幻覚, 幻聴, 幻視 不安 うつ病, 激越
腎・尿路障害 血尿, アルブミン尿
呼吸器, 気管支・縦隔障害 喀血
皮膚・皮下組織障害 皮膚乾燥, 湿疹, 紅斑, 結節性紅斑, 発疹, 毛髪変色, 光線過敏性反応, 多汗, 掻痒症, 丘疹, 皮膚落屑 蕁麻疹 顔面浮腫, 斑状丘疹状皮疹, 脱毛症, 剥脱性皮膚炎, 紫斑, 固定薬疹, 乾癬, 血管浮腫, 皮膚エリテマトーデス, 偽性ポルフィリン症
血管障害 潮紅 低血圧, 血栓性静脈炎, 静脈炎, リンパ管炎
臨床検査 ALT増加, AST増加, Al－P増加, γ－GTP増加 血中ビリルビン増加, 血中カルシウム増加, 血中クレアチニン増加, LDH増加, 血中カリウム減少, 血中カリウム増加, 血圧低下, 血圧上昇, フィブリンDダイマー増加, 血清FDP増加, 膵アミラーゼ増加, 好酸球増加, 血小板数減少 BUN増加
(表終了)

6. 1. 9 その他の抗生物質製剤(複合抗生物質製剤を含む。)

ボノサップパック400 (1シート)

外 内服 流通

【YJコード】6199104X1023
【薬効分類】6. 1. 9 その他の抗生物質製剤(複合抗生物質製剤を含む。)
【一般名】ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】464.6円/1シート
【薬価収載日】2016/05/25
【標榜薬効】ヘリコバクター・ピロリ除菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ヘリコバクター・ピロリ
適応症
胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
1. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
2. 特発性血小板減少性紫斑病では, ガイドライン等を参照し, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
3. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
4. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は, ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】成人 1回ボノプラザンとして20mg, 1回アモキシシリン水和物750mg, 1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量, 1回400mg 1日2回まで。

■禁忌

【禁忌】1. 各製剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩, リルピビリン塩酸塩, ピモジド, エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩, スボレキサント, ロミタピドメシル酸塩, タダラフィル(アドシルカ), チカグレロル, イブルチニブ, イバブラジン塩酸塩, ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期), ルラシドン塩酸塩, アナモレリン塩酸塩, フィネレノン, イサブコナゾニウム硫酸塩の投与患者。
3. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。
4. 伝染性単核症。
5. 高度の腎障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ボノプラザンフマル酸塩
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 汎血球減少, 無顆粒球症, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
アモキシシリン水和物
5. ショック, アナフィラキシー(各0. 1%未満)(不快感, 口内異常感, 眩暈, 便意, 耳鳴, 発汗, 喘鳴, 呼吸困難, 血管浮腫, 全身の潮紅・蕁麻疹等)。
6. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
7. 薬剤により誘発される胃腸炎症候群(頻度不明)(反復性嘔吐, 下痢, 嗜眠, 顔面蒼白, 低血圧, 腹痛, 好中球増加等を伴う, 食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎)。
8. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各0. 1%未満), 多形紅斑, 急性汎発性発疹性膿疱症, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)(発熱, 頭痛, 関節痛, 皮膚・粘膜の紅斑・水疱, 膿疱, 皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
9. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0. 1%未満)。
10. 顆粒球減少(0. 1%未満), 血小板減少(頻度不明)。
11. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0. 1%未満)(腹痛, 頻回の下痢)。
12. 肝機能障害(AST, ALTの上昇等), 黄疸(各0. 1%未満)。
13. 間質性肺炎, 好酸球性肺炎(各頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱等)。
14. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直, 発熱, 頭痛, 悪心・嘔吐, 意識混濁等)。
クラリスロマイシン
15. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 痙攣, 発赤等)。
16. QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む), 心室細動(各頻度不明)。
17. 劇症肝炎, 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, LDH, Al－Pの上昇等), 黄疸, 肝不全(各頻度不明)。
18. 血小板減少, 汎血球減少, 溶血性貧血, 白血球減少, 無顆粒球症(各頻度不明)。
19. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
20. PIE症候群・間質性肺炎(各頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
21. 偽膜性大腸炎, 出血性大腸炎(各頻度不明)等の重篤な大腸炎(腹痛, 頻回の下痢)。
22. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
23. 痙攣(頻度不明)(強直間代性, ミオクロヌス, 意識消失発作等)。
24. 急性腎障害, 尿細管間質性腎炎(各頻度不明)(乏尿等, 血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下)。
25. IgA血管炎(頻度不明)。
26. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍・十二指腸潰瘍のヘリコバクター・ピロリ感染症)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満
消化器 下痢(10. 6%) 味覚異常, 口内炎, 腹部不快感, 腹部膨満感
過敏症 発疹
肝臓 AST, ALTの上昇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ボノプラザンフマル酸塩)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満
消化器 便秘, 下痢, 腹部膨満感, 悪心

6 病原生物に対する医薬品

過敏症 発疹
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
その他 浮腫，好酸球増多
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（アモキシシリン水和物）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発熱，発疹，蕁麻疹 掻痒
血液 好酸球増多，貧血
肝臓 AST，ALTの上昇
消化器 下痢，悪心，食欲不振 黒毛舌
菌交代症 口内炎，大腸炎（カンジダ，非感受性のクレブシエラ等による）
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 梅毒のヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応（発熱，全身倦怠感，頭痛等の発現，病変部の悪化）
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（クラリスロマイシン）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感
精神神経系 眩暈，頭痛 幻覚，失見当識，意識障害，せん妄，躁病，眠気，振戦，しびれ（感），錯感覚，不眠
感覚器 味覚異常（にがみ等） 耳鳴，聴力低下，嗅覚異常
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹部膨満感，腹痛，下痢 食欲不振，軟便，口内炎，舌炎，口渇 口腔内糜爛，胸やけ，歯牙変色，舌変色
血液 好酸球増多
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P上昇
筋・骨格 筋肉痛
その他 倦怠感，浮腫，カンジダ症，発熱 動悸，CK上昇，脱毛，頻尿，低血糖
（表終了）

ボノピオンパック（1シート）

外 内服 流通

【YJコード】6199105X1028
【薬効分類】6．1．9 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む。）
【一般名】ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール
【メーカー】製）武田薬品工業
【薬価】430.6円/1シート
【薬価収載日】2016/05/25
【標榜薬効】ヘリコバクター・ピロリ除菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ヘリコバクター・ピロリ
適応症
胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
1．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
2．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
3．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
4．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時
成人 1回ボノプラザンとして20mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。

■禁忌

【禁忌】1．各製剤の成分に過敏症の既往。
2．アタザナビル硫酸塩，リルピビリン塩酸塩の投与患者。
3．伝染性単核症。
4．高度の腎障害。
5．脳，脊髄に器質的疾患（脳膿瘍除く）。
6．妊娠3ヵ月以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ボノプラザンフマル酸塩
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少（各頻度不明）。
3．肝機能障害（頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
アモキシシリン水和物
5．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（不快感，口内異常感，眩暈，便意，耳鳴，発汗，喘鳴，呼吸困難，血管浮腫，全身の潮紅・蕁麻疹等）。
6．アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
7．薬剤により誘発される胃腸炎症候群（頻度不明）（反復性嘔吐，下痢，嗜眠，顔面蒼白，低血圧，腹痛，好中球増加等を伴う，食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎）。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各0．1%未満），多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，膿疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等）。
9．急性腎障害等の重篤な腎障害（0．1%未満）。
10．顆粒球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
11．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0．1%未満）（腹痛，頻回の下痢）。
12．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各0．1%未満）。
13．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
14．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
メトロニダゾール
15．末梢神経障害（頻度不明）（四肢のしびれ，異常感等）。
16．中枢神経障害（頻度不明）（脳症，痙攣，錯乱，幻覚，小脳失調等，ふらつき，歩行障害，意識障害，構語障害，四肢のしびれ等）。
17．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
18．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
19．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，背部痛，悪心・嘔吐，血清アミラーゼ値の上昇等）。
20．白血球減少，好中球減少（各頻度不明）。
21．出血性大腸炎（頻度不明）（腹痛，血便，頻回の下痢）。
22．肝機能障害（頻度不明）。
23．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む）（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（胃潰瘍・十二指腸潰瘍のヘリコバクター・ピロリ感染症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 下痢，腹部不快感，腹部膨満感
肝臓 AST，ALTの上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ボノプラザンフマル酸塩）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，悪心
過敏症 発疹
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
その他 浮腫，好酸球増多
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（アモキシシリン水和物）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発熱，発疹，蕁麻疹 掻痒
血液 好酸球増多，貧血
肝臓 AST，ALTの上昇
消化器 下痢，悪心，食欲不振 黒毛舌
菌交代症 口内炎，大腸炎（カンジダ，非感受性のクレブシエラ等による）
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 梅毒のヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応（発熱，全身倦怠感，頭痛等の発現，病変部の悪化）
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（メトロニダゾール）（トリコモナス症（腟トリコモナスによる感染症），嫌気性菌感染症，感染性腸炎，細菌性腟症，アメーバ赤痢，ランブル鞭毛虫感染症）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 舌苔，食欲不振，悪心，胃不快感，下痢，腹痛，味覚異常
肝臓 AST上昇，ALT上昇，総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
生殖器 Candida albicansの出現
その他 暗赤色尿，発熱
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリ感染症）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
血液 好塩基球増多
消化器 下痢，胸やけ，悪心，上腹部痛，味覚異常，口腔アフタ，舌炎，鼓腸，黒色便
精神神経系 うつ病，頭痛，浮動性眩暈，不安定感
その他 眼精疲労，疲労，しびれ感
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

6．2 化学療法剤

6．2．1 サルファ剤

サラゾピリン坐剤500mg（500mg1個）

外 外用 流通

【YJコード】6219700J1034
【薬効分類】6．2．1 サルファ剤
【一般名】サラゾスルファピリジン
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】119.8円/1個
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎
【用法用量】成人 1回1～2個 1日2回 朝排便後・就寝前 肛門内挿入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．サルファ剤・サリチル酸製剤に過敏症の既往。
2．低出生体重児，新生児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血（頻度不明），汎血球減少症（頻度不明），無顆粒球症（頻度不明），血小板減少（頻度不明），貧血（溶血性貧血，巨赤芽球性貧血（葉酸欠乏）等）（頻度不明），DIC（頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），紅皮症型薬疹（頻度不明）。
3．過敏症症候群（頻度不明），伝染性単核球症様症状（頻度不明）（発疹，発熱，感冒様症状，リンパ節腫脹，肝機能障害，肝腫，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
4．間質性肺炎（頻度不明），薬剤性肺炎（頻度不明），PIE症候群（頻度不明），線維性肺胞炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，喀痰，呼吸困難等）。
5．急性腎障害（頻度不明），ネフローゼ症候群（頻度不明），間質性腎炎（頻度不明）。
6．消化性潰瘍（出血，穿孔を伴うことあり）（頻度不明），S状結腸穿孔（頻度不明）。
7．脳症（頻度不明）（意識障害，痙攣等）。
8．無菌性髄膜（脳）炎（頻度不明）（頸部（項部）硬直，発熱，頭痛，悪心，嘔吐，意識混濁等）。
9．心膜炎（頻度不明），胸膜炎（頻度不明）（呼吸困難，胸部痛，胸水等）。
10．SLE様症状（頻度不明）。
11．劇症肝炎（頻度不明），肝炎（頻度不明）（AST，ALTの著しい上昇等），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明），肝不全。
12．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（発疹，血圧低下，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，顆粒球減少 異型リンパ球出現，免疫グロブリン減少，好酸球増多
肝臓 AST・ALTの上昇
腎臓 尿路結石，腫脹，浮腫，糖尿，蛋白尿，BUN上昇，血尿
皮膚 脱毛
消化器 下痢・下腹痛等の直腸刺激，悪心 口内炎，口唇炎，舌炎，膵炎，口渇，嘔吐，胃不快感，腹痛，食欲不振，腹部膨満感，胸やけ，便秘，口腔咽頭痛
肛門 刺激感
過敏症 発疹，掻痒感 光線過敏症，血清病，紅斑，顔面潮紅，蕁麻疹
精神神経系 眩暈 頭痛，末梢神経炎，うとうと状態，耳鳴，抑うつ
その他 発熱 精子数・精子運動性の可逆的な減少，倦怠感，胸痛，筋肉痛，関節痛，心悸亢進，味覚異常，嗅覚異常
（表終了）

6．2．4 合成抗菌剤

オゼックス細粒小児用15%（150mg1g）

外 内服 流通

【YJコード】6241010C1024
【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】トスフロキサシントシル酸塩水和物
【メーカー】製)富士フイルム富山化学 販)大正富山医薬品
【薬価】306.1円/1g
【薬価収載日】2009/12/11
【標榜薬効】ニューキノロン系経口抗菌製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 肺炎球菌（ペニシリン耐性肺炎球菌含む），モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，炭疽菌，コレラ菌，インフルエンザ菌，肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）
適応症 肺炎，コレラ，中耳炎，炭疽
注意
効能共通
1．他の経口抗菌薬で治療効果が期待できない症例に使用。
2．関節障害のおそれ，リスクとベネフィットを考慮。
肺炎
3．肺炎球菌（ペニシリンGに対するMIC≧4μg／mL）に対する使用経験はない（CLSI法）。
4．インフルエンザ菌にはβ－ラクタム耐性インフルエンザ菌含む。
中耳炎
5．肺炎球菌（ペニシリンGに対するMIC≧4μg／mL）に対する使用経験はない（CLSI法）。
6．インフルエンザ菌にはβ－ラクタム耐性インフルエンザ菌含む。
7．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児 トスフロキサシントシル酸塩水和物 1回6mg／kg（トスフロキサシン 4．1mg／kg） 1日2回 内服。
1回180mg，1日360mg（トスフロキサシン1回122．4mg トスフロキサシン1日244．8mg）まで。
注意
効能共通
1．食直前又は食後に投与。
2．小児用60mg錠の体重換算による服用量は，下表の通り。体重・状態から錠剤の投与が難しい時は，15%細粒剤の投与を検討。
（表開始）
体重（kg） 15 20 25 30～
1回量（mg）（錠数） 90（1．5） 120（2） 150（2．5） 180（3）
（表終了）
炭疽
3．炭疽の発症，進展抑制 シプロフロキサシンで米国疾病管理センターが60日間の投与を推奨。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
肺炎，中耳炎
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（呼吸困難，浮腫，発赤等）（各頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
3．痙攣，意識障害（意識喪失等）（各頻度不明）。
4．急性腎障害，間質性腎炎，腎性尿崩症（各頻度不明）等の重篤な腎障害。
5．肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
6．無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）（発熱，咽頭痛，皮下・粘膜出血等）。
7．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
8．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴う）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
10．低血糖（頻度不明）。
11．大動脈瘤，大動脈解離（各頻度不明）。
12．末梢神経障害（頻度不明）（しびれ，筋力低下，痛み等）。
13．アキレス腱炎，腱断裂等の腱障害（頻度不明）（腱周辺の痛み，浮腫，発赤等）。
14．精神症状（頻度不明）（幻覚，せん妄等）。
15．重症筋無力症の悪化（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発熱，発疹，紅斑 潮紅，掻痒症，湿疹，蕁麻疹 光線過敏性反応
腎臓 尿円柱 尿中血陽性，尿中赤血球陽性，遺尿，BUN増加，血尿 血中クレアチニン増加
肝臓 － AST増加，ALT増加，Al－P増加，LDH増加，γ－GTP増加，ビリルビン増加 －
消化器 下痢（5．2%），嘔吐（3．7%），食欲不振，腹痛，口渇，便秘 悪心，口唇水疱，腹部膨満，胃・腹部不快感，口内炎，舌炎 －
血液 好酸球数増加，白血球数減少 単球数増加 血小板数減少，貧血
精神神経系 傾眠 せん妄，頭痛，浮動性眩暈，しびれ，不眠症，振戦 幻覚
その他 － 関節痛，蒼白，血中CK増加，血中クロール減少，血中クロール増加，亀頭包皮炎，倦怠感 味覚異常
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

クラビット錠500mg（500mg1錠(レボフロキサシンとして)）

外 内服 流通

【YJコード】6241013F3027
【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】115.2円/1T
【薬価収載日】2009/06/19
【標榜薬効】広範囲経口抗菌製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，炭疽菌，結核菌，大腸菌，赤痢菌，サルモネラ属，チフス菌，パラチフス菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，ペスト菌，コレラ菌，インフルエンザ菌，緑膿菌，アシネトバクター属，レジオネラ属，ブルセラ属，野兎病菌，カンピロバクター属，ペプトストレプトコッカス属，アクネ菌，Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ)，トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)，肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)，肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，尿道炎，子宮頸管炎，胆嚢炎，胆管炎，感染性腸炎，腸チフス，パラチフス，コレラ，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，炭疽，ブルセラ症，ペスト，野兎病，肺結核・その他の結核症，Q熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，感染性腸炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回500mg 1日1回 内服。適宜減量。
肺結核・その他の結核症 他の抗結核薬と併用。
腸チフス，パラチフス 1回500mg 1日1回 14日間 内服。
注意
効能共通
1．耐性菌の出現を抑制するため，用量調節時を含め分割投与は避け，必ず1日量を1回で投与。
2．腎機能低下 高い血中濃度が持続，下記を目安とし，必要時減量し，投与間隔をあけて投与。
(表開始)
腎機能クレアチニンクリアランス(CLcr)値(mL／分) 用法・用量
20≦CLcr＜50 初日1回500mg，2日目以降 1回250mg 1日1回。
CLcr＜20 初日1回500mg，3日目以降 1回250mg 2日に1回。
(表終了)
腸チフス，パラチフス
3．注射剤より本剤に切りかえた時は注射剤の投与期間も含め14日間投与。
炭疽
4．炭疽の発症，進展抑制 欧州医薬品庁が60日間の投与を推奨。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・オフロキサシンに過敏症の既往。
炭疽等の重篤な疾患以外
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．小児等。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(紅斑，悪寒，呼吸困難等)。
2．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3．痙攣(頻度不明)。
4．QT延長(頻度不明)，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
5．急性腎障害(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
6．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)(嘔気・嘔吐，食欲不振，倦怠感，掻痒等)。
7．汎血球減少症(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)(発熱，咽頭痛，倦怠感等)，溶血性貧血(頻度不明)(ヘモグロビン尿等)，血小板減少(頻度不明)。
8．間質性肺炎(頻度不明)，好酸球性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
9．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢等)。
10．横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11．低血糖(頻度不明)，低血糖性昏睡。
12．アキレス腱炎，腱断裂等の腱障害(頻度不明)(腱周辺の痛み，浮腫，発赤等)。
13．錯乱(頻度不明)，せん妄(頻度不明)，抑うつ等の精神症状(頻度不明)。
14．過敏性血管炎(頻度不明)(発熱，腹痛，関節痛，紫斑，斑状丘疹，皮膚生検で白血球破砕性血管炎等)。
15．重症筋無力症の悪化(頻度不明)。
16．大動脈瘤(頻度不明)，大動脈解離(頻度不明)。
17．末梢神経障害(頻度不明)(しびれ，筋力低下，痛み等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症 蕁麻疹，光線過敏症
精神神経系 眩暈，不眠，頭痛 傾眠，振戦，意識障害 幻覚，錐体外路障害，ぼんやり，しびれ感
泌尿器 血尿，クレアチニン上昇 頻尿，尿閉，無尿，尿蛋白陽性，BUN上昇
肝臓 ALT上昇，LDH上昇，AST上昇 肝機能異常，γ－GTP上昇，血中ビリルビン増加，AI－P上昇
血液 白血球数減少，好酸球数増加，好中球数減少，血小板数減少 リンパ球数減少，貧血
消化器 悪心，嘔吐，下痢，腹部不快感，食欲不振 腹痛，口渇，腹部膨満，胃腸障害，消化不良，便秘 口内炎，舌炎
感覚器 味覚異常，耳鳴 味覚消失，視覚異常，無嗅覚，嗅覚錯誤
循環器 動悸 低血圧，頻脈
その他 胸部不快感，CK上昇，四肢痛，関節痛，咽喉乾燥，尿中ブドウ糖陽性，熱感，浮腫 高血糖，筋肉痛，発熱，関節障害，発汗，胸痛，脱力感，倦怠感
(表終了)

グレースビット錠50mg（50mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6241018F1027
【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】シタフロキサシン水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】85.2円/1T
【薬価収載日】2008/04/18
【標榜薬効】広範囲経口抗菌製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，緑膿菌，レジオネラ・ニューモフィラ，ペプトストレプトコッカス属，プレボテラ属，ポルフィロモナス属，フソバクテリウム属，トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)，肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)，肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症
○咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染
○膀胱炎，腎盂腎炎，尿道炎
○子宮頸管炎
○中耳炎，副鼻腔炎
○歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
効能共通
1．下痢，軟便が高頻度に認められているため，リスクとベネフィットを考慮。
咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，副鼻腔炎
2．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回50mg 1日2回，又は1回100mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回100mg 1日2回 内服。
注意
腎機能低下 血中濃度が上昇するため，投与量，投与間隔を調節。
参考 腎機能障害のシタフロキサシンの用法・用量の目安
(表開始)
クレアチニンクリアランス(CLcr)値(mL／分) 用法・用量の目安 (体重60kg)
50≦CLcr 1回50mg 1日2回 又は1回100mg 1日1回
30≦CLcr＜50 1回50mg 1日1回
10≦CLcr＜30 1回50mgを48時間以上の間隔ごと
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・他のキノロン系抗菌剤に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．小児等。

6 病原生物に対する医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下, 呼吸困難, 皮疹, 血管性浮腫等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3. 急性腎障害(頻度不明)。
4. 肝機能障害(頻度不明), 黄疸(頻度不明)(AST上昇, ALT上昇等)。
5. 汎血球減少症(頻度不明), 無顆粒球症(頻度不明), 溶血性貧血(頻度不明), 血小板減少(頻度不明)。
6. 偽膜性大腸炎(頻度不明)(腹痛, 頻回の下痢等)。
7. 低血糖(頻度不明), 低血糖性昏睡。
8. 錯乱(頻度不明), せん妄(頻度不明), 幻覚等の精神症状(頻度不明)。
9. 大動脈瘤(頻度不明), 大動脈解離(頻度不明)。
10. アキレス腱炎, 腱断裂等の腱障害(頻度不明)(腱周辺の痛み, 浮腫, 発赤等)。
11. 痙攣(頻度不明)。
12. QT延長(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
13. 間質性肺炎(頻度不明)。
14. 横紋筋融解症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 0. 1～1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症, 蕁麻疹 光線過敏症
精神神経系 頭痛 眩暈, 不眠症
消化器 軟便, 下痢, 腹痛 腹部不快感, 悪心, 腹部膨満, 便秘, 消化不良, 口唇炎, 嘔吐, 口渇, 口内炎, 排便回数増加, 舌炎, 口の錯感覚
肝臓 ALT上昇, AST上昇, γ－GTP上昇 AI－P上昇, LDH上昇
血液 好酸球数増加 好中球数減少, 血小板数増加, 白血球数減少, 白血球数増加
その他 CK上昇, 血糖減少, 血中カリウム増加, トリグリセリド増加, 尿蛋白陽性, 膣カンジダ症, 異常感, 血中カリウム減少, 背部痛, 悪寒, 倦怠感 浮腫
(表終了)

ラスビック錠75mg（75mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】6241019F1021
【薬効分類】6. 2. 4 合成抗菌剤
【一般名】ラスクフロキサシン塩酸塩
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】277.9円/1T
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】ニューキノロン系経口抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス, クレブシエラ属, エンテロバクター属, インフルエンザ菌, レジオネラ・ニューモフィラ, プレボテラ属, 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症
咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎
注意
咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍含む), 急性気管支炎, 副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照, 抗菌薬投与の必要性を判断し, 適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回75mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他のキノロン系抗菌剤に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 小児等。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 血圧低下, 浮腫, 発赤等)。
2. 白血球減少症(0. 2%)。
3. 間質性肺炎(0. 2%)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
4. QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各頻度不明)。
5. 低血糖(頻度不明)。
6. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛, 頻回の下痢等)。
7. アキレス腱炎, 腱断裂等の腱障害(頻度不明)(腱周辺の痛み, 浮腫, 発赤等)。
8. 肝機能障害(頻度不明)(AST上昇, ALT上昇等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
10. 痙攣(頻度不明)。
11. 錯乱, せん妄等の精神症状(頻度不明)。
12. 重症筋無力症の悪化(頻度不明)。
13. 大動脈瘤, 大動脈解離(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5～2%未満 0. 5%未満
消化器 下痢 悪心
血液 好酸球数増加, 白血球数減少
皮膚 掻痒症, 発疹
肝臓 ALT上昇, γ－GTP上昇 AST上昇
その他 頭痛, 血中インスリン増加, 尿中蛋白陽性
(表終了)

6. 2. 5 抗ウイルス剤

アメナリーフ錠200mg（200mg1錠）
外 内服 流通

【YJコード】6250046F1028
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】アメナメビル
【メーカー】製)マルホ
【薬価】1148.7円/1T
【薬価収載日】2017/08/30
【標榜薬効】抗ヘルペスウイルス剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 帯状疱疹
2. 再発性単純疱疹
注意
再発性単純疱疹
1. 単純疱疹(口唇・性器ヘルペス)の同じ病型の再発を繰り返す患者を臨床症状・病歴で確認。
2. 患部の違和感, 灼熱感, 掻痒等の初期症状の患者に処方。
3. 口唇・性器ヘルペス以外の臨床試験は未実施。
【用法用量】帯状疱疹
成人 1回400mg 1日1回 食後 内服。
再発性の単純疱疹
成人 1200mg 食後 単回投与。
注意
効能共通
1. 空腹時に投与するとアメナメビルの吸収が低下し, 効果減弱のおそれ, 食後に服用するよう患者に指導。食前又は食間のタイミングで服用する必要がある時は, 軽食等を摂取し服用させる。
帯状疱疹
2. 早期に投与開始。目安は皮疹出現後5日以内に投与開始。
3. 7日間使用。改善がないか悪化時は, 速やかに他の治療に切りかえる。
再発性の単純疱疹
4. 初期症状発現後速やかに服用。初期症状発現から6時間経過後, 口唇ヘルペスでは皮疹(水疱, 膿疱, 糜爛, 潰瘍, 痂皮)発現後の有効性データなし。
5. 次回再発分の処方は1回分にとどめる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. リファンピシンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
多形紅斑(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 薬疹(紅斑, 湿疹, 発疹等) 蕁麻疹, 掻痒
精神神経系 頭痛, 頭重, 眩暈, しびれ感 味覚異常, 傾眠
腎臓 NAG増加, α1ミクログロブリン増加 BUN増加, 尿中蛋白陽性
血中クレアチニン増加
血液 FDP増加, 好塩基球数増加, 好酸球数増加, リンパ球数増加, 赤血球数減少, 白血球数減少, 白血球数増加, 血小板数増加, 好中球減少症, 単球数増加 ヘマトクリット減少, ヘモグロビン減少, 貧血
肝臓 AI－P増加, 肝機能異常, 肝機能検査異常, 肝酵素上昇, ALT増加, 直接ビリルビン増加, 血中ビリルビン増加 γ－GTP増加, AST増加
消化器 下痢, 軟便, 胃炎, 悪心, 腹部不快感, 腹部膨満, 腹痛, 嘔吐, 口の錯感覚, 口内炎 便秘, 放屁, 口渇, 食欲減退
循環器 QT延長, 高血圧, 血圧上昇, ST上昇, 動悸 心拍数増加
その他 血中尿酸増加, 尿糖陽性, 歯周炎, 歯膿瘍, 血中コレステロール増加, アミラーゼ増加, 血中クロール減少, 血中カリウム増加, 倦怠感, 悪寒, 発熱, 四肢痛, 息苦しさ, 視力障害, 色覚異常, 羞明 浮腫, 鼻咽頭炎, 総蛋白減少
(表終了)

6 病原生物に対する医薬品

エプクルーサ配合錠（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6250116F1025
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】ソホスブビル・ベルパタスビル
【メーカー】製)ギリアド・サイエンシズ
【薬価】61157.8円/1T
【薬価収載日】2019/02/26
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】C型慢性肝炎，C型代償性肝硬変，C型非代償性肝硬変のウイルス血症の改善
注意
効能・効果共通
HCV RNAが陽性を確認。
【用法用量】1．未治療・前治療歴のないC型慢性肝炎・C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
C型非代償性肝硬変のウイルス血症の改善
成人 1回1錠（ソホスブビル 400mg，ベルパタスビル 100mg） 1日1回 12週間 内服。
2．前治療歴を有するC型慢性肝炎・C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
リバビリンとの併用 成人 1回1錠（ソホスブビル 400mg，ベルパタスビル 100mg） 1日1回 24週間 内服。
注意
共通
1．肝予備能，臨床症状等を観察し，適切な用法・用量を選択。
2．有効成分としてソホスブビル，ベルパタスビルを含有した配合錠。有効成分のソホスブビル含有製剤と併用しない。
未治療・前治療歴のないC型慢性肝炎・C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
3．国内臨床試験は，未治療，NS5A阻害剤，NS3／4Aプロテアーゼ阻害剤，NS5Bポリメラーゼ阻害剤の前治療歴（インターフェロン併用NS3／4Aプロテアーゼ阻害剤による治療歴はNS3／4Aプロテアーゼ阻害剤による前治療歴として取り扱わない）のない患者を対象に有効性・安全性の検討を目的として実施。
前治療歴を有するC型慢性肝炎・C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
4．国内臨床試験は，NS5A阻害剤，NS3／4Aプロテアーゼ阻害剤，NS5Bポリメラーゼ阻害剤の前治療歴を対象に有効性・安全性の検討を目的として実施。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の腎機能障害（eGFR＜30mL／分／1．73m2），透析を要する腎不全。
3．下記の投与患者
カルバマゼピン，フェニトイン，フェノバルビタール，リファンピシン，セイヨウオトギリソウ含有食品。

■副作用

【副作用】重大な副作用（共通）
1．高血圧（頻度不明）。
2．脳血管障害（頻度不明）（脳梗塞，脳出血等）。
重大な副作用（リバビリンと併用）
3．貧血（21．7%）。
その他の副作用（発現時中止等）（リバビリンと併用）
（表開始）
発現部位等 5%未満 5～10%未満 頻度不明
感染 咽頭炎
神経系 頭痛
循環器 徐脈
消化器 悪心，口内炎
皮膚 掻痒症，発疹 血管性浮腫
その他 倦怠感
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（リバビリンと併用しない）
（表開始）
発現部位等 5%未満 頻度不明
神経系 頭痛
循環器 徐脈
皮膚 発疹 血管性浮腫
（表終了）

ゼフィックス錠100（100mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】6250020F1023
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】ラミブジン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】276.5円/1T
【薬価収載日】2000/11/17
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能異常が確認されたB型慢性肝疾患のB型肝炎ウイルスの増殖抑制
注意
1．投与開始前，HBV－DNA，DNAポリメラーゼ・HBe抗原で，ウイルスの増殖を確認。
2．無症候性キャリア・他の治療法等で肝機能検査値が正常範囲内は対象ではない。
3．投与終了後，肝機能の悪化・肝炎の重症化が認められた時は，再治療・既存療法の有益性に関して限られたデータしかない。
【用法用量】成人 ラミブジン 1回100mg 1日1回 内服。
注意
1．本剤投与中にYMDD変異ウイルス（DNAポリメラーゼの活性中心のアミノ酸配列がYMDDからYIDD又はYVDDに変異したウイルスで，本剤への感受性低下のため，抗ウイルス効果は期待できない）が発現時，本剤を中止すると，それまで増殖を抑制されていた野生型ウイルスの再出現を招くので，一般的には，野生型ウイルスを抑制するため本剤による治療継続が有益。しかし，一部の症例では投与中にYMDD変異ウイルスの増殖により肝機能が悪化の可能性，注意しながら投与継続。本剤を継続しても，YMDD変異ウイルスにより肝炎の症状が治療前より悪化する等，有益性が失われた時は，本剤の投与中止を考慮。
2．投与中に下記状態に至った時には投与終了を検討。
・HBe抗原陽性の患者で，HBe抗原からHBe抗体へのセロコンバージョン（HBe－SC）の持続時。
・HBe抗原陰性の患者で，HBs抗原の消失，ALT正常化を伴うHBV－DNA陰性化が6ヵ月以上の持続時。
終了後に肝機能悪化の可能性，いずれも終了後最低4ヵ月間は2週間ごとに臨床症状・検査値（HBV－DNA，ALT，総ビリルビン）を観察し，以後も観察を継続。
3．HBe－SC持続に基づき投与を終了した時，投与終了後もセロコンバージョンの長期維持には限られたデータしかない。
4．腎機能障害 血中濃度半減期が延長し，血中濃度が増大，下記の通り投与量の調節が必要。血液透析患者（4時間までの透析を2～3回／週施行）にも，下表の通り投与量を調節。
腎機能に対する用法・用量の目安（外国）
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧50 30～49 15～29 5～14 ＜5
推奨量 100mg 1日1回 初回100mg，以後50mg 1日1回 初回100mg，以後25mg 1日1回 初回35mg，以後15mg 1日1回 初回35mg，以後10mg 1日1回
（表終了）

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血小板減少（4．1%），赤芽球癆（頻度不明），汎血球減少（頻度不明），白血球減少（3．7%），好中球減少（2．6%），貧血（頻度不明）。
2．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
3．膵炎（頻度不明）。
4．乳酸アシドーシス，脂肪沈着による重度の肝腫大（脂肪肝）（頻度不明）。
5．ニューロパシー，錯乱，痙攣（各頻度不明）。
6．心不全（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛
消化器系 腹痛，下痢，嘔気 嘔吐
筋骨格系 CK上昇 筋痛，筋痙攣
その他 倦怠感，発疹，感冒様症状
（表終了）

ゾビラックス錠200（200mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6250002F1025
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】アシクロビル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】15.6円/1T
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
1．単純疱疹
2．造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
3．帯状疱疹
小児
1．単純疱疹

6 病原生物に対する医薬品

2. 造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
3. 帯状疱疹
4. 性器ヘルペスの再発抑制
注意
効能共通
1. 免疫機能の低下を伴わない患者が適応。悪性腫瘍，自己免疫疾患等の免疫機能の低下には，アシクロビル注射剤の点滴静注等を考慮。
性器ヘルペスの再発抑制
2. 性器ヘルペスの発症を繰り返す患者（免疫正常患者は，年6回以上の頻度で再発する者）に投与。
3. 体重40kg以上のみ投与。
【用法用量】成人
単純疱疹
アシクロビル　1回200mg　1日5回　内服。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
アシクロビル　1回200mg　1日5回　造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで　内服。
帯状疱疹
アシクロビル　1回800mg　1日5回　内服。
適宜増減。
小児
単純疱疹
アシクロビル　1回20mg／kg　1日4回　内服。1回最高200mg。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
アシクロビル　1回20mg／kg　1日4回　造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで　内服。1回最高200mg。
帯状疱疹
アシクロビル　1回20mg／kg　1日4回　内服。1回最高800mg。
性器ヘルペスの再発抑制
アシクロビル　1回20mg／kg　1日4回　内服。1回最高200mg。
適宜増減。
注意
効能共通
1. 早期に投与開始。
2. 腎障害 成人のクレアチニンクリアランスの投与間隔の目安は下表の通り（外国）。小児の投与間隔，投与量調節の目安は未確立。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分／1．73m2）単純疱疹 帯状疱疹
＞25 1回200mg　1日5回 1回800mg　1日5回
10～25 1回200mg　1日5回 1回800mg　1日3回
＜10 1回200mg　1日2回 1回800mg　1日2回
（表終了）
単純疱疹
3. 5日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。初発型性器ヘルペスは重症化の可能性，10日間まで使用可能。
帯状疱疹
4. 皮疹出現後5日以内に投与開始。
5. 7日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。
性器ヘルペスの再発抑制
6. 1年間投与後，投与継続の必要性を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・バラシクロビル塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
（1）．アナフィラキシーショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血管性浮腫等）。
（2）．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少，DIC，血小板減少性紫斑病（各頻度不明）。
（3）．急性腎障害，尿細管間質性腎炎（各頻度不明）。
（4）．精神神経症状（頻度不明）（意識障害（昏睡），せん妄，妄想，幻覚，錯乱，痙攣，てんかん発作，麻痺，脳症等）。
（5）．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
（6）．呼吸抑制，無呼吸（各頻度不明）。
（7）．間質性肺炎（頻度不明）。
（8）．肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
（9）．急性膵炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発熱，発疹，水疱，紅斑，蕁麻疹，掻痒 固定薬疹，光線過敏症
血液 貧血，顆粒球減少，白血球増多，好酸球増多 リンパ球増多，血小板増多 出血，紫斑，血小板減少，好塩基球増多，リンパ球減少
肝臓 肝腫大，肝機能検査値異常（AST，ALT等の上昇）
腎臓・泌尿器 BUN上昇 血清クレアチニン値上昇，血尿，尿円柱，蛋白尿，膿尿，排尿困難 乏尿，結晶尿，尿閉
消化器 下痢，軟便，嘔気，嘔吐，腹痛，胃痛，心窩部痛，胃不快感 消化不良，食欲不振 胃炎，舌炎，口渇，便秘，鼓腸放屁
精神神経系 傾眠，眠気 振戦，眩暈，感情鈍麻 意識障害，見当識障害，情動失禁，うつ状態，そう状態，集中力障害，徘徊，離人症，興奮，健忘，多弁，不眠，不安，言語障害，独語，異常感覚，運動失調，歩行異常，不随意運動，攣縮，しびれ感，眼振等
循環器　動悸 頻脈，不整脈，胸痛，血圧上昇，血圧低下
筋骨格　関節痛，筋肉痛
全身症状 頭痛 悪寒，発熱，全身倦怠感 失神，蒼白，ほてり，浮腫，脱力感，筋力低下
その他 血清トリグリセライド値上昇，AG比低下，血清コレステロール値上昇，尿糖 血清アルブミン低下，血清カリウム値上昇 肺炎，咽頭炎，呼吸困難，喘鳴，胸水，疼痛，難聴，結膜炎，視力異常，味覚障害，脱毛，発汗，低ナトリウム血症，血清蛋白低下
（表終了）

バラクルード錠0．5mg（0．5mg1錠）

外　内服　流通
劇

【YJコード】6250029F1024
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】エンテカビル水和物
【メーカー】製）ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】380.7円／1T
【薬価収載日】2006/09/15
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能異常が確認されたB型慢性肝疾患のB型肝炎ウイルスの増殖抑制
注意
HBV　DNA，HBV　DNAポリメラーゼ，HBe抗原により，ウイルスの増殖を確認。
【用法用量】成人　エンテカビル　1回0．5mg　1日1回　空腹時（食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前）　内服。
ラミブジン不応（ラミブジン投与中にB型肝炎ウイルス血症が認められる又はラミブジン耐性変異ウイルスを有する等）エンテカビル　1回1mg　1日1回　内服。
注意
1. 食事の影響により吸収率が低下，空腹時（食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前）に投与。
2. 腎機能障害 下記を参考にクレアチニンクリアランスが50mL／分未満，血液透析・持続携行式腹膜透析を施行中の患者は，投与間隔の調節が必要。
腎機能障害 用法・用量の目安
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）通常量 ラミブジン不応患者
30～50未満 0．5mg　2日に1回 1mg　2日に1回
10～30未満 0．5mg　3日に1回 1mg　3日に1回
10未満 0．5mg　7日に1回 1mg　7日に1回
血液透析（注）又は持続携行式腹膜透析患者 0．5mg　7日に1回 1mg　7日に1回
（表終了）
（注）血液透析日は透析後に投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇）。
2. 投与終了後の肝炎の悪化（頻度不明）。
3. アナフィラキシー（頻度不明）。
4. 乳酸アシドーシス（頻度不明），死亡。
5. 脂肪沈着による重度の肝腫大（脂肪肝）（頻度不明），死亡。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 3～10%未満 3%未満
胃腸障害　下痢，悪心，便秘，上腹部痛
全身障害・投与局所様態　倦怠感
感染症・寄生虫症　鼻咽頭炎
筋骨格系・結合組織障害　筋硬直
神経系障害 頭痛　浮動性眩暈
皮膚・皮下組織障害　発疹，脱毛
臨床検査 血中アミラーゼ増加，リパーゼ増加，血中乳酸増加，白血球数減少 AST上昇，ALT上昇，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，BUN上昇，尿潜血陽性，尿中白血球陽性，好酸球数増加
（表終了）

ファムビル錠250mg（250mg1錠）

外　内服　流通

【YJコード】6250031F1021
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】ファムシクロビル
【メーカー】製）旭化成ファーマ　販）マルホ
【薬価】221.2円／1T
【薬価収載日】2008/06/13
【標榜薬効】抗ヘルペスウイルス剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

6 病原生物に対する医薬品

【効能効果】単純疱疹
帯状疱疹
【用法用量】単純疱疹
成人 1回250mg 1日3回 内服。再発性 成人 1回1000mg 2回 内服。
帯状疱疹
成人 1回500mg 1日3回 内服。
注意
効能共通
1. 腎機能障害 投与間隔をあけて減量。腎機能に応じた投与量・投与間隔の目安は下表の通り。
腎機能に応じた減量の目安(注)
(表開始)
単純疱疹 単純疱疹 帯状疱疹
用法・用量 1回250mg1日3回 1回1000mgを2回 1回500mg1日3回
クレアチニンクリアランス(mL/分) ≧60 1回250mg1日3回 1回1000mgを2回 1回500mg1日3回
クレアチニンクリアランス(mL/分) 40－59 1回250mg1日3回 1回500mgを2回 1回500mg1日2回
クレアチニンクリアランス(mL/分) 20－39 1回250mg1日2回 500mg単回 1回500mg1日1回
クレアチニンクリアランス(mL/分) ＜20 1回250mg1日1回 250mg単回 1回250mg1日1回
(表終了)
(注)外国。
2. 血液透析患者 本剤250mgを透析直後に投与。次回透析前に追加投与は行わない。
単純疱疹に1回250mgを1日3回投与時
3. 発病初期に近いほど効果が期待できるので，早期に投与開始。
4. 5日間使用。改善がないか悪化時は，速やかに他の治療に切りかえる。
単純疱疹に1回1000mgを2回投与時
5. 単純疱疹(口唇ヘルペス・性器ヘルペス)の同じ病型の再発を繰り返すことを臨床症状に基づき確認。
6. 服用は，初期症状発現後，速やかに開始(発症から6時間経過後の開始で有効性データなし)。臨床試験で，2回目は，初回投与後12時間後(許容範囲として6～18時間後)に投与された。
7. 次回の再発分として処方時は，下記に注意。
・再発頻度が年間3回以上等の病歴を参考に判断。
・再発の初期症状(患部の違和感，灼熱感，掻痒等)を正確に判断可能であることを確認。
・再発頻度・腎機能の状態等を勘案し，処方時に，服用時の適切な用法・用量が選択可能時のみ処方。
・1回の再発分の処方にとどめる。
8. 国内臨床試験は，口唇ヘルペス・性器ヘルペスを対象に有効性・安全性の検討を目的として実施。
帯状疱疹
9. 早期に投与開始。目安は皮疹出現後5日以内に投与開始。
10. 7日間使用。改善がないか悪化時は，速やかに他の治療に切りかえる。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 精神神経症状(頻度不明)(錯乱，幻覚，意識消失，痙攣，せん妄，脳症，意識障害(昏睡)，てんかん発作等)。
2. 重篤な皮膚障害(頻度不明)(中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑等)。
3. 急性腎障害(頻度不明)。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血圧低下，呼吸困難等)。
6. 汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少，血小板減少性紫斑病(各頻度不明)。
7. 呼吸抑制(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
9. 肝炎，肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
10. 急性膵炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，傾眠，眩暈 鎮静，失見当識，意識障害
腎臓 尿中蛋白陽性，BUN増加，血中クレアチニン増加，尿中血陽性 尿失禁，尿円柱，尿中白血球，尿中赤血球
血液 白血球数増加，白血球数減少，赤血球数減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，好酸球増加，血小板数増加 血小板減少症，好中球減少，好中球増加，単球増加，リンパ球増加，リンパ球減少，ヘマトクリット増加
肝臓 ALT増加，AST増加，LDH増加，尿中ウロビリノーゲン増加，γ－GTP増加，Al－P増加，黄疸
消化器 下痢，悪心，腹部不快感，腹痛，口渇，嘔吐，口唇乾燥，便秘 胃炎，白色便，口内炎，食欲減退
過敏症 発疹 蕁麻疹 掻痒症
皮膚 白血球破砕性血管炎
循環器 動悸 高血圧
その他 CK増加，血中カリウム増加，倦怠感，発熱，尿糖陽性 浮腫，総蛋白減少，咳嗽，異常感，筋力低下，CK減少，口腔咽頭痛 胸部不快感
(表終了)

ベムリディ錠25mg（25mg1錠）

外 内服 流通
劇

【YJコード】6250045F1023
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
【メーカー】製)ギリアド・サイエンシズ
【薬価】903.5円/1T
【薬価収載日】2017/02/15
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能異常が確認されたB型慢性肝疾患のB型肝炎ウイルスの増殖抑制
注意
1．投与開始前，HBV－DNA定量で，ウイルスの増殖を確認。
2．投与開始時期，他の抗ウイルス剤に耐性がある患者への使用等は，国内外のガイドライン等を参考。
【用法用量】成人 テノホビル アラフェナミド 1回25mg 1日1回 内服。
注意
1．投与期間，併用薬等は，国内外のガイドライン等を参考。
2．有効成分のテノホビル アラフェナミド，テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩含有製剤と併用しない。
3．投与後，クレアチニンクリアランスが15mL/分未満に低下時は，維持血液透析を実施の患者を除き，投与中止を考慮。透析日に本剤を投与時は，透析後に1日量を投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の投与患者
リファンピシン，セイヨウオトギリソウ含有食品。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．腎不全等の重度の腎機能障害(頻度不明)(腎機能不全，急性腎不全，近位腎尿細管機能障害，ファンコニー症候群，急性腎尿細管壊死，腎性尿崩症，腎炎等)。
2．乳酸アシドーシス，脂肪沈着による重度の肝腫大(脂肪肝)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 頻度不明
消化器 悪心，腹部膨満 消化不良，下痢，放屁，上腹部痛，便秘
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労
臨床検査 ALT増加
筋・骨格系 関節痛
神経系 頭痛 浮動性眩暈
精神系 不眠症
皮膚・皮下組織 掻痒症，発疹 血管性浮腫，蕁麻疹
(表終了)

マヴィレット配合錠（1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6250113F1021
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】グレカプレビル水和物・ピブレンタスビル
【メーカー】製)アッヴィ
【薬価】17422.8円/1T
【薬価収載日】2017/11/22
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】C型慢性肝炎，C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
注意
HCV RNAが陽性を確認。肝予備能，臨床症状等により，非代償性肝硬変でないことを確認。
【用法用量】セログループ1(ジェノタイプ1)・セログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎
成人・12歳以上の小児・3歳以上12歳未満かつ体重45kg以上の小児 1回3錠(グレカプレビル 300mg，ピブレンタスビル 120mg) 1日1回 食後 内服。投与期間 8週間。C型慢性肝炎の前治療歴により投与期間 12週間。
セログループ1(ジェノタイプ1)・セログループ2(ジェノタイプ2)のC型代償性肝硬変
セログループ1(ジェノタイプ1)・セログループ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しないC型慢性肝炎・C型代償性肝硬変
成人・12歳以上の小児・3歳以上12歳未満かつ体重45kg以上の小

6 病原生物に対する医薬品

児 1回3錠(グレカプレビル 300mg, ピブレンタスビル 120mg) 1日1回 食後 内服。投与期間 12週間。
注意
1. セログループ1(ジェノタイプ1)・セログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎患者では, 前治療の有無により投与期間を考慮。国内臨床試験において前治療歴を有する患者に対する本剤の投与期間は12週間。
2. 本剤とグレカプレビル・ピブレンタスビル配合顆粒小児用の生物学的同等性は示されていないため, 互換使用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害(Child－Pugh分類C)。
3. アタザナビル硫酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物・リファンピシンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALT, ビリルビンの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%未満 頻度不明
消化器 悪心, 腹痛, 腹部膨満 嘔吐, 上腹部痛
代謝・栄養 食欲減退 －
精神神経 頭痛, 傾眠 －
皮膚 掻痒, 発疹, 薬疹, 血管炎性皮疹 血管性浮腫
泌尿器・生殖器 蛋白尿 －
全身症状 倦怠感, 疲労, 悪寒, 活動性低下 無力症
臨床検査 血中ビリルビン増加, ALT増加, 尿中結晶陽性 －
(表終了)

リレンザ(5mg1ブリスター)
外 外用 流通

【YJコード】6250702G1028
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】ザナミビル水和物
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】113.6円/1ブリスター
【薬価収載日】2001/02/02
【標榜薬効】抗インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症の治療・その予防
注意
効能共通
1. C型インフルエンザウイルス感染症には効果なし。
2. 細菌感染症には効果なし。
治療
3. 抗ウイルス薬の投与が全てのA型・B型インフルエンザウイルス感染症の治療に必須ではない。本剤の必要性を検討。
4. インフルエンザ様症状の発現から2日以内に投与を開始。
予防
5. インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族・共同生活者である下記を対象。
(1). 高齢者(65歳以上)
(2). 慢性心疾患
(3). 代謝性疾患(糖尿病等)
(4). 腎機能障害
【用法用量】1. 治療
成人・小児 1回10mg(本剤 2ブリスター) 1日2回 5日間 専用の吸入器で吸入。
2. 予防
成人・小児 1回10mg(本剤 2ブリスター) 1日1回 10日間 専用の吸入器で吸入。
注意
1. 治療 発症後, 速やかに投与を開始(発症から48時間経過後の開始で有効性データなし)。
2. 予防
・インフルエンザウイルス感染症患者に接触後1. 5日以内に投与を開始(接触後36時間経過後の開始で有効性データなし)。
・インフルエンザウイルス感染症への予防効果は, 連続使用している期間のみ持続。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下, 呼吸困難, 咽頭・喉頭浮腫等)。
2. 気管支攣縮, 呼吸困難(各頻度不明)。
3. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
4. 異常行動(0. 06%)(急に走り出す, 徘徊する等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～1% 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 顔面浮腫, 蕁麻疹
精神神経系 頭痛, 手指のしびれ感, 不眠症 血管迷走神経反応
消化器 下痢, 悪心・嘔吐 咽喉乾燥, 口渇, 口内炎, 舌あれ, 食欲不振, 胃部不快感
呼吸器 嗄声, 咽喉刺激感, 鼻道刺激感, 喘鳴, 鼻出血, 鼻漏, 痰
感覚器 嗅覚障害, 耳鳴
循環器 動悸
全身症状 発汗, 発熱, 頚部痛, 背部痛, 低体温
(表終了)

レベトールカプセル200mg(200mg1カプセル)
外 内服 流通
劇

【YJコード】6250022M1021
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】リバビリン
【メーカー】製)MSD 販)シェリング・プラウ
【薬価】257.5円/1C
【薬価収載日】2001/12/07
【標榜薬効】抗ウイルス剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. インターフェロン ベータとの併用による下記C型慢性肝炎のウイルス血症の改善
(1). 血中HCV RNA量が高値
(2). インターフェロン製剤単独療法で無効, インターフェロン製剤単独療法後再燃
2. ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤との併用による, 前治療歴を有するC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変のウイルス血症の改善
注意
併用薬剤共通
1. C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変のウイルス血症の改善に対する本剤の併用はHCV RNAが陽性, 及び組織像又は肝予備能, 血小板数等により慢性肝炎, 代償性肝硬変であることを確認。
インターフェロン ベータとの併用
2. 血中HCV RNA量が高値のC型慢性肝炎には, 血中HCV RNA量がRT－PCR法で10^5IU／mL以上又はb－DNA法で1Meq. ／mL以上を確認。
ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤との併用
3. C型代償性肝硬変の治療は, ウイルス血症の改善を目的としたものであり, 併用療法によりウイルス学的効果が得られても, 肝硬変が治癒しないため, 肝硬変に適切な処置は継続する。
【用法用量】成人は, 下記の用法・用量のリバビリンを内服。
患者の状態を考慮し, 減量・中止等の処置。
インターフェロン ベータ又はソホスブビル・ベルパタスビル配合剤との併用
(表開始)
体重 1日量(mg) 朝食後(mg) 夕食後(mg)
60kg以下 600 200 400
60kgを超え80kg以下 800 400 400
80kgを超える 1000 400 600
(表終了)
注意
併用薬剤共通
1. C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変のウイルス血症の改善への単独療法は無効。
2. 投与期間は, 効果(HCV RNA, ALT等)・副作用を考慮しながら慎重に決定。好中球数, 血小板数, ヘモグロビン濃度の推移に注意し, 本剤の減量・中止基準に従う。
インターフェロン ベータとの併用
3. インターフェロン ベータ 成人 1日600万国際単位で投与開始, 投与後4週間までは連日, 以後週3回 静注又は点滴静注。
(1). セログループ1(ジェノタイプ1(1a)又はII(1b))で血中HCV RNA量が高値の患者の投与期間は48週間。24週間以上の投与で効果なければ中止を考慮。
(2). それ以外の投与期間は24週間。
4. 下表の臨床検査値を確認。国内臨床試験の, リバビリンとして1日13mg／kgを超える量を投与した時, 貧血の発現頻度が増加。
C型慢性肝炎のウイルス血症の改善
(表開始)
検査項目 投与前値
白血球数 4000／mm3以上
血小板数 100000／mm3以上
ヘモグロビン濃度 12g／dL以上
(表終了)
5. 投与中は, 定期的に血液学的検査を実施し, 好中球数, 血小板数, ヘモグロビン濃度の低下が認められた時は, 下表を参考に用量を変更。
C型慢性肝炎のウイルス血症の改善(インターフェロン ベータ併用時の用量調整)
(表開始)
検査項目 数値 本剤 インターフェロン ベータ
白血球数 1500／mm3未満 変更なし 半量に減量

6 病原生物に対する医薬品

白血球数 1000／mm3未満 中止 中止
好中球数 750／mm3未満 変更なし 半量に減量
好中球数 500／mm3未満 中止 中止
血小板数 50000／mm3未満 変更なし 半量に減量
血小板数 25000／mm3未満 中止 中止
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）10g／dL未満 減量 600mg／日→400mg／日 800mg／日→600mg／日 1000mg／日→600mg／日 変更なし
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）8．5g／dL未満 中止 中止
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）10g／dL未満，又は投与中，投与前値に比べ2g／dL以上の減少が4週間持続 減量 600mg／日→400mg／日 800mg／日→600mg／日 1000mg／日→600mg／日 変更なし
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）8．5g／dL未満，又は減量後，4週間経過しても12g／dL未満 中止 中止
（表終了）
ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤との併用
6．投与中は，定期的に血液学的検査を実施し，好中球数，血小板数，ヘモグロビン濃度の低下時は，下表を参考に用量を変更。
投与再開時は，臨床検査値が下表の中止基準を上回ったことを確認。
血小板数の減少による投与中止後の再開は，下表を参考。
C型慢性肝炎のウイルス血症の改善（ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤併用時の用量調整）
（表開始）
検査項目 数値 本剤
好中球数 500／mm3未満 中止
血小板数 50000／mm3未満 中止
血小板数 25000／mm3未満 中止（再開不可）
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）10g／dL未満 減量 600mg／日→400mg／日 800mg／日→600mg／日 1000mg／日→600mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）8．5g／dL未満 中止
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）10g／dL未満，又は投与中，投与前値に比べ2g／dL以上の減少が4週間持続 減量 600mg／日→400mg／日 800mg／日→600mg／日 1000mg／日→600mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）8．5g／dL未満，又は減量後，4週間経過しても12g／dL未満 中止
（表終了）
C型代償性肝硬変のウイルス血症の改善（ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤併用時の用量調整）
（表開始）
検査項目 数値 本剤
好中球数 500／mm3未満 中止
血小板数 50000／mm3未満 中止
血小板数 25000／mm3未満 中止（再開不可）
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）投与開始1～4週時11g／dL未満 減量 600mg／日→200mg／日 800mg／日→400mg／日 1000mg／日→400mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）投与開始5週時以降10g／dL未満 減量 600mg／日→200mg／日 800mg／日→400mg／日 1000mg／日→400mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往なし）8．5g／dL未満 中止
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）投与開始1～4週時11g／dL未満，又は投与中，投与前値に比べ2g／dL以上の減少が4週間持続 減量 600mg／日→200mg／日 800mg／日→400mg／日 1000mg／日→400mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）投与開始5週時以降10g／dL未満，又は投与中，投与前値に比べ2g／dL以上の減少が4週間持続 減量 600mg／日→200mg／日 800mg／日→400mg／日 1000mg／日→400mg／日
ヘモグロビン濃度（心疾患又はその既往あり）8．5g／dL未満，又は減量後，4週間経過しても12g／dL未満 中止
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
2．本剤の成分・他のヌクレオシドアナログ（アシクロビル，ガンシクロビル，ビダラビン等）に過敏症の既往。
3．コントロールの困難な心疾患（心筋梗塞，心不全，不整脈等）。
4．異常ヘモグロビン症（サラセミア，鎌状赤血球性貧血等）。
5．慢性腎不全又はクレアチニンクリアランスが50mL／分以下の腎機能障害。
6．重度のうつ病，自殺念慮又は自殺企図等の重度の精神病状態・その既往。
7．重篤な肝機能障害。
8．自己免疫性肝炎。

■副作用

【副作用】重大な副作用（インターフェロン ベータとの併用）
1．貧血（赤血球減少（250万／mm3未満）（5%未満），ヘモグロビン減少（8g／dL未満）（5%未満），ヘモグロビン減少（8以上9．5g／dL未満）（5%以上），ヘモグロビン減少（9．5以上11g／dL未満）（5%以上））。
2．白血球減少（2000／mm3未満）（5%以上），顆粒球減少（1000／mm3未満）（5%以上），血小板減少（50000／mm3未満）（5%未満）。
3．重篤な肝障害（5%未満）（著しいトランスアミナーゼの上昇）。
4．自己免疫現象（甲状腺機能異常（5%以上）等）。
5．脳梗塞（5%未満）。
6．重篤なうつ状態，自殺企図，躁状態，攻撃的行動（各頻度不明），他害行為（不眠，不安，焦燥，興奮，攻撃性，易刺激性等）。
7．せん妄，幻覚（各頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難等，胸部X線異常）。
9．心不全（頻度不明）。
10．溶血性尿毒症症候群（頻度不明）（血小板減少，貧血，腎不全）。
11．ネフローゼ症候群（頻度不明）（血清総蛋白減少，血清アルブミン低下を伴う重篤な蛋白尿）。
12．糖尿病（1型・2型）（頻度不明）の増悪・発症，昏睡。
13．敗血症（頻度不明），易感染性。
14．網膜症（頻度不明）（網膜出血，軟性白斑，糖尿病網膜症の増悪）。
重大な副作用（ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤併用）
15．貧血（21．7%）。
16．高血圧（頻度不明）。
17．脳血管障害（頻度不明）（脳梗塞，脳出血等）。
その他の副作用（発現時中止等）（インターフェロン ベータとの併用）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
全身症状 発熱，悪寒（82．2%），全身倦怠感（88．5%），かぜ症候群 インフルエンザ様症状
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 白血球数減少（75．3%），血小板数減少（62．1%），顆粒球数減少（81．6%），白血球分画異常（96．6%），赤血球数減少（70．7%），ヘモグロビン減少（76．4%），ヘマトクリット減少（71．3%），網状赤血球数減少，網状赤血球数増多（75．9%），好酸球数増多，好中球数増多，血小板数増多 出血傾向，白血球数増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇，LDH上昇，総ビリルビン上昇，γーGTP上昇
腎臓 蛋白尿（50．6%），BUN上昇，血尿 クレアチニン上昇，膀胱炎，頻尿，排尿障害
精神神経系 頭痛・頭重（80．5%），不眠，眩暈，抑うつ，焦燥，手足のしびれ，不安 意識障害，傾眠，知覚異常，振戦，無気力，歩行困難，健忘，異常感，感情不安定，耳閉，注意力障害 妄想，怒り
循環器 血圧上昇，動悸，潮紅，四肢冷感 不整脈，血圧低下
呼吸器 咳嗽，上気道炎，呼吸困難，鼻出血 肺炎，鼻漏，血痰，嗄声，鼻炎，気管支炎，鼻閉
消化器 食欲不振（59．2%），悪心・嘔吐，下痢，腹痛，消化不良，便秘，口内・口唇炎，味覚異常 腹部膨満感，口渇，歯周・歯髄・歯肉炎，歯痛，胃炎，歯の異常，排便障害，腸炎，舌炎，痔核，おくび，鼓腸放屁，腸管機能異常 膵炎
皮膚 湿疹，脱毛 ざ瘡，発汗，皮膚乾燥，白癬，紅斑，紫斑，脂漏，爪の異常，過角化，皮膚潰瘍，毛質異常，落屑 丘疹
眼 眼底出血等の網膜の微小循環障害 眼痛，視力異常，結膜下出血，眼球充血，結膜炎，眼の異和感，眼掻痒症，眼精疲労，硝子体浮遊物，羞明，視覚異常，視野欠損，麦粒腫
注射部位 発赤 疼痛，熱感，腫脹，色素沈着，掻痒，出血
その他 関節痛（58．0%），筋肉痛，肩こり等の緊張亢進，背部・腰部痛，浮腫，胸部圧迫感，疼痛，咽頭炎，体重減少，尿糖，血清アルブミン低下（54．0%），血清総蛋白減少，血清コレステロール上昇，血中コレステロール低下，血中尿酸上昇，血清カルシウム低下，血清無機リン低下，CRP上昇 疲労，脱力感，難聴，単純疱疹，帯状疱疹，蜂窩織炎，筋痙直，手指関節拘縮，耳鳴，冷汗，不正出血，神経痛，頚部痛，易感染性，花粉症，外耳炎，耳痛，中耳炎，前立腺炎，嗅覚異常，四肢不快感，サルコイドーシス，トリグリセライド上昇，血清アミラーゼ上昇，血糖上昇 CK上昇，血清カリウム上昇，ヘモグロビンA1C上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ソホスブビル・ベルパタスビル配合剤との併用）
（表開始）
発現部位等 5～10%未満 5%未満 頻度不明
感染 咽頭炎
神経系 頭痛
循環器 徐脈
消化器 悪心，口内炎
皮膚・皮下組織 掻痒症，発疹 血管性浮腫
その他 倦怠感
（表終了）

6．2．9 その他の化学療法剤

イトラコナゾール錠100mg「日医工」（100mg1錠）

外 内服 後発 流通

【YJコード】6290004F2069
【薬効分類】6．2．9 その他の化学療法剤
【一般名】イトラコナゾール
【メーカー】製）日医工
【薬価】157.4円／1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】抗真菌剤
【粉砕情報】粉砕不可

6 病原生物に対する医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
皮膚糸状菌(トリコフィトン属, ミクロスポルム属, エピデルモフィトン属), カンジダ属, マラセチア属, アスペルギルス属, クリプトコックス属, スポロトリックス属, ホンセカエア属
適応症
〇内臓真菌症(深在性真菌症)
真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化器真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎
〇深在性皮膚真菌症
スポロトリコーシス, クロモミコーシス
〇表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
白癬 体部白癬, 股部白癬, 手白癬, 足白癬, 頭部白癬, ケルスス禿瘡, 白癬性毛瘡
カンジダ症 口腔カンジダ症, 皮膚カンジダ症, 爪カンジダ症, カンジダ性爪囲爪炎, カンジダ性毛瘡, 慢性皮膚粘膜カンジダ症
癜風, マラセチア毛包炎
〇爪白癬
注意
表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
1. 難治性又は汎発性の病型に使用。
爪白癬(パルス療法)
2. 抗菌薬のため, 新しい爪が伸びてこない限り, 変色した爪所見を回復させるものではない。
【用法用量】1. 内臓真菌症(深在性真菌症)
成人 1回100～200mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減。イトラコナゾール注射剤からの切りかえ 1回200mg 1日400mg 1日2回 食直後 内服。
2. 深在性皮膚真菌症
成人 1回100～200mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減, 1日最高200mg。
3. 表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
成人 1回50～100mg 1日1回 食直後 内服。
爪カンジダ症・カンジダ性爪囲爪炎 1回100mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減, 1日最高200mg。
4. 爪白癬(パルス療法)
成人 1回200mg 1日400mg 1日2回 食直後 1週間 内服, 以後3週間休薬。これを1サイクルとし, 3サイクル繰り返す。適宜減量。
注意
効能共通
1. イトリゾール内用液から本剤への切りかえは, イトラコナゾールの血中濃度が低下する可能性, 添加剤のヒドロキシプロピル－β－シクロデキストリンに起因する胃腸障害(下痢, 軟便等)による異常時等を除き行わない。
爪白癬(パルス療法)
2. 減量時の有効率は, 臨床成績の項を参照。
爪カンジダ症, カンジダ性爪囲爪炎
3. 長期(6ヵ月程度)投与しても改善なければ, 投与中止。

■禁忌
【禁忌】1. ピモジド, キニジン, ベプリジル, トリアゾラム, シンバスタチン, アゼルニジピン, アゼルニジピン・オルメサルタン メドキソミル, ニソルジピン, エルゴタミン・カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミン, エルゴメトリン, メチルエルゴメトリン, バルデナフィル, エプレレノン, ブロナンセリン, シルデナフィル(レバチオ), タダラフィル(アドシルカ), スボレキサント, イブルチニブ, チカグレロル, ロミタピド, イバブラジン, ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期), ルラシドン塩酸塩, アナモレリン塩酸塩, フィネレノン, イサブコナゾニウム硫酸塩, アリスキレン, ダビガトラン, リバーロキサバン, リオシグアトの投与患者。
2. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 重篤な肝疾患・その既往。
5. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. うっ血性心不全(頻度不明), 肺水腫(頻度不明)(下肢浮腫, 呼吸困難等)。
2. 肝障害(0. 25%), 胆汁うっ滞(頻度不明), 黄疸(0. 1%未満)(食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 倦怠感, 腹痛, 褐色尿等)。
3. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(0. 1%未満), 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明), 剥脱性皮膚炎(頻度不明), 多形紅斑(頻度不明)。
4. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(チアノーゼ, 冷汗, 血圧低下, 呼吸困難, 胸内苦悶等)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
6. 低カリウム血症(0. 1%未満)。
7. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
感染症 鼻炎
過敏症 血管浮腫
循環器 不整脈 心室性期外収縮, 房室ブロック, 動悸, 狭心症発作, 徐脈, 心電図異常, 血管障害, 血圧上昇, 頻脈, 高血圧, 低血圧
消化器 腹痛, 嘔気, 便秘, 下痢, 嘔吐, 消化不良, 食欲不振, 鼓腸放屁 おくび, 舌炎, 口内炎, 腹部腰背部痛 軟便, 腹部不快感, 口腔内痛, 歯周炎, 胃炎, 胃十二指腸潰瘍
肝臓 肝機能異常, AST増加, ALT増加, LDH増加, γ－GTP増加, Al－P増加 血中ビリルビン増加, LAP増加
呼吸器 咽喉頭疼痛, 呼吸困難, 咳嗽
皮膚 発疹, 掻痒症 紅斑性発疹, 脱毛, 蕁麻疹, 光線過敏性反応 白血球破砕性血管炎, 湿疹, 皮膚乾燥, 皮膚腫脹
精神神経系 倦怠感 肩こり, 不眠, 眩暈, 頭痛, 末梢神経障害 眠気, 錯感覚, 感覚鈍麻, 不安, 傾眠, 発声障害, 錯乱状態, 振戦
腎臓 BUNの上昇 尿蛋白・尿糖の陽性, 腎障害 頻尿, 尿失禁, 血尿, 尿検査異常, 尿円柱, 尿量減少, 腎機能検査値異常, 腎尿細管障害
血液 好酸球増多, 白血球減少, 血小板減少 貧血 白血球増多, 顆粒球減少, 好中球減少
生殖器 月経異常, 勃起不全
その他 浮腫 発熱, ほてり, 味覚異常, 耳鳴, 難聴 胸痛, 血清病, 視覚障害(霧視, 複視含む), 筋痛, 関節痛, 悪寒, 異常感, 無力症, 腫脹, 自傷, 体重増加, 高血糖, 多汗症, 顔面浮腫
臨床検査 トリグリセライドの上昇 血清尿酸上昇, 血清カリウムの上昇, 血中アミラーゼ増加, 総蛋白増加, 総コレステロール増加 血中リン増加, 血中コレステロール減少, 血中ナトリウム減少, CRP増加, CK増加
(表終了)

イトリゾールカプセル50 (50mg1カプセル)

外 内服 流通

【YJコード】6290004M1029
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】イトラコナゾール
【メーカー】製)ヤンセンファーマ 販)協和発酵キリン
【薬価】111.7円/1C
【薬価収載日】1993/08/27
【標榜薬効】抗真菌剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
皮膚糸状菌(トリコフィトン属, ミクロスポルム属, エピデルモフィトン属), カンジダ属, マラセチア属, アスペルギルス属, クリプトコックス属, スポロトリックス属, ホンセカエア属
適応症
〇内臓真菌症(深在性真菌症)
真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化器真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎
〇深在性皮膚真菌症
スポロトリコーシス, クロモミコーシス
〇表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
白癬 体部白癬, 股部白癬, 手白癬, 足白癬, 頭部白癬, ケルスス禿瘡, 白癬性毛瘡
カンジダ症 口腔カンジダ症, 皮膚カンジダ症, 爪カンジダ症, カンジダ性爪囲爪炎, カンジダ性毛瘡, 慢性皮膚粘膜カンジダ症
癜風, マラセチア毛包炎
〇爪白癬
注意
表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
1. 難治性又は汎発性の病型に使用。
爪白癬(パルス療法)
2. 抗菌薬のため, 新しい爪が伸びてこない限り, 変色した爪所見を回復させるものではない。
【用法用量】内臓真菌症(深在性真菌症)
成人 1回100～200mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減。イトラコナゾール注射剤からの切りかえ 1回200mg 1日400mg 1日2回 食直後 内服。
深在性皮膚真菌症
成人 1回100～200mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減, 1日最高200mg。
表在性皮膚真菌症(爪白癬以外)
成人 1回50～100mg 1日1回 食直後 内服。
爪カンジダ症・カンジダ性爪囲爪炎 1回100mg 1日1回 食直後 内服。
適宜増減, 1日最高200mg。
爪白癬(パルス療法)
成人 1回200mg 1日400mg 1日2回 食直後 1週間 内服, 以後3週間休薬。これを1サイクルとし, 3サイクル繰り返す。適宜減量。
注意
効能共通
1. イトリゾール内用液から本剤への切りかえは, イトラコナゾールの血中濃度が低下する可能性, 添加剤のヒドロキシプロピル－β－シクロデキストリンに起因する胃腸障害(下痢, 軟便等)による異常時等を除き行わない。
爪白癬(パルス療法)
2. 減量時の有効率は, 臨床成績の項を参照。
爪カンジダ症, カンジダ性爪囲爪炎
3. 長期(6ヵ月程度)投与しても改善なければ, 投与中止。

■禁忌
【禁忌】1. ピモジド, キニジン, ベプリジル, トリアゾラム, シンバスタチ

6 病原生物に対する医薬品

ン，アゼルニジピン，アゼルニジピン・オルメサルタン メドキソミル，ニソルジピン，エルゴタミン・カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，エルゴメトリン，メチルエルゴメトリン，バルデナフィル，エプレレノン，ブロナンセリン，シルデナフィル（レバチオ），タダラフィル（アドシルカ），スボレキサント，イブルチニブ，チカグレロル，ロミタピド，イバブラジン，ベネトクラクス（再発・難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）用量漸増期），ルラシドン塩酸塩，アナモレリン塩酸塩，フィネレノン，イサブコナゾニウム硫酸塩，アリスキレン，ダビガトラン，リバーロキサバン，リオシグアトの投与患者。
2. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 重篤な肝疾患・その既往。
5. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. うっ血性心不全（頻度不明），肺水腫（頻度不明）（下肢浮腫，呼吸困難等）。
2. 肝障害（0．25%），胆汁うっ滞（頻度不明），黄疸（0．1%未満）（食欲不振，嘔気，嘔吐，倦怠感，腹痛，褐色尿等）。
3. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満），急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明），剥脱性皮膚炎（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）。
4. ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（チアノーゼ，冷汗，血圧低下，呼吸困難，胸内苦悶等）。
5. 間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
6. 低カリウム血症（0．1%未満）。
7. 偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
感染症　鼻炎
過敏症　血管浮腫
循環器　不整脈 心室性期外収縮，房室ブロック，動悸，狭心症発作，徐脈，心電図異常，血管障害，血圧上昇，頻脈，高血圧，低血圧
消化器 腹痛，嘔気，便秘，下痢，嘔吐，消化不良，食欲不振，鼓腸放屁 おくび，舌炎，口内炎，腹部腰背部痛 軟便，腹部不快感，口腔内痛，歯周炎，胃炎，胃十二指腸潰瘍
肝臓 肝機能異常，AST増加，ALT増加，LDH増加，γ－GTP増加，Al－P増加 血中ビリルビン増加，LAP増加
呼吸器　咽喉頭疼痛，呼吸困難，咳嗽
皮膚 発疹，掻痒症 紅斑性発疹，脱毛，蕁麻疹，光線過敏性反応 白血球破砕性血管炎，湿疹，皮膚乾燥，皮膚腫脹
精神神経系 倦怠感 肩こり，不眠，眩暈，頭痛，末梢神経障害 眠気，錯感覚，感覚鈍麻，不安，傾眠，発声障害，錯乱状態，振戦
腎臓 BUNの上昇 尿蛋白・尿糖の陽性，腎障害 頻尿，尿失禁，血尿，尿検査異常，尿円柱，尿量減少，腎機能検査値異常，腎尿細管障害
血液 好酸球増多，白血球減少，血小板減少 貧血 白血球増多，顆粒球減少，好中球減少
生殖器　月経異常，勃起不全
その他 浮腫 発熱，ほてり，味覚異常，耳鳴，難聴 胸痛，血清病，視覚障害（霧視，複視含む），筋痛，関節痛，悪寒，異常感，無力症，腫脹，自傷，体重増加，高血糖，多汗症，顔面浮腫
臨床検査 トリグリセライドの上昇 血清尿酸上昇，血清カリウムの上昇，血中アミラーゼ増加，総蛋白増加，総コレステロール増加 血中リン増加，血中コレステロール減少，血中ナトリウム減少，CRP増加，CK増加
（表終了）

クレナフィン爪外用液10%（10%1g）
外　外用　流通

【YJコード】6290702Q1029
【薬効分類】6．2．9　その他の化学療法剤
【一般名】エフィナコナゾール
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】1396.8円/1g
【薬価収載日】2014/09/02
【標榜薬効】爪白癬治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 皮膚糸状菌（トリコフィトン属）
適応症 爪白癬
注意
1. 直接鏡検・培養等で爪白癬と確定診断された患者に使用。
2. 重症患者の有効性・安全性は未確認。
【用法用量】1日1回　罹患爪全体に塗布。
注意
長期間使用しても改善なければ中止を考慮等，漫然と長期使用しない（48週を超えて使用時の有効性・安全性は未確立）。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．10～1%未満
適用部位（投与部位）皮膚炎，水疱 紅斑，腫脹，疼痛，掻痒，皮膚剥脱，異常感覚，爪甲脱落，変色，湿疹
その他　鼻咽頭炎，頭痛
（表終了）

ジフルカンカプセル100mg（100mg1カプセル）
外　内服　流通

【YJコード】6290002M2026
【薬効分類】6．2．9　その他の化学療法剤
【一般名】フルコナゾール
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】140.3円/1C
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】カンジダ属，クリプトコッカス属による下記感染症
真菌血症，呼吸器真菌症，消化管真菌症，尿路真菌症，真菌髄膜炎
造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
カンジダ属による腟炎・外陰腟炎
【用法用量】（表開始）
成人 カンジダ症；フルコナゾール　1回50～100mg　1日1回　内服。
クリプトコッカス症；フルコナゾール　1回50～200mg　1日1回　内服。
重症・難治性真菌感染症；1日400mgまで。造血幹細胞移植における深在性真菌症の予防；フルコナゾール　1回400mg　1日1回　内服。
カンジダ属による腟炎・外陰腟炎；フルコナゾール　1回150mg　内服。
小児 カンジダ症；フルコナゾール　1回3mg／kg　1日1回　内服。クリプトコッカス症；フルコナゾール　1回3～6mg／kg　1日1回　内服。重症・難治性真菌感染症；1日12mg／kgまで。造血幹細胞移植における深在性真菌症の予防；フルコナゾール　1回12mg／kg　1日1回　内服。適宜減量。1日400mgまで。
新生児 生後14日まで　小児と同量　72時間ごと　投与。生後15日以降　小児と同量　48時間ごと　投与。
（表終了）
注意
効能共通（カンジダ属による腟炎・外陰腟炎除く）
1. 腎機能障害への用量調節の目安
腎機能障害 下記値を参考に用量を調節。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）用量の目安
＞50 通常量
≦50（透析患者除く）半量
透析患者 透析終了後に通常量
（表終了）
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
2. 好中球減少症が予想される数日前から開始。
3. 好中球数が1000／mm3を超えてから7日間投与。
カンジダ属による腟炎・外陰腟炎
4. 効果判定は投与後4～7日目を目安に行い，効果なければ，他剤を投与等の処置。

■禁忌
【禁忌】1. 下記の投与患者
トリアゾラム，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，キニジン，ピモジド，アスナプレビル，ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル，アゼルニジピン，オルメサルタン　メドキソミル・アゼルニジピン，ロミタピド，ブロナンセリン，ルラシドン。
2. 本剤に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（血管浮腫，顔面浮腫，掻痒等）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 無顆粒球症，汎血球減少症，血小板減少，白血球減少，貧血等の重篤な血液障害（頻度不明）。
5. 急性腎障害（頻度不明）等の重篤な腎障害。
6. 肝障害（頻度不明）（黄疸，肝炎，胆汁うっ滞性肝炎，肝壊死，肝不全等），死亡。
7. 意識障害（頻度不明）（錯乱，見当識障害等）。
8. 痙攣（頻度不明）等の神経障害。
9. 高カリウム血症（頻度不明）。
10. 心室頻拍（頻度不明）（Torsades de pointes含む），QT延長（頻度不明），不整脈（頻度不明），心室細動，房室ブロック，徐脈等。
11. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻

6 病原生物に対する医薬品

髪音)等)。
12. 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の重篤な大腸炎(発熱, 腹痛, 頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 頻度不明
肝臓 AST, ALTの上昇 AI－P, LDH, ビリルビンの上昇 黄疸
皮膚 発疹 剥脱性皮膚炎
消化器 悪心, しゃっくり, 食欲不振, 下痢, 腹部不快感, 腹痛 口渇, 嘔吐, 消化不良, 鼓腸放屁
精神神経系 頭痛, 手指のこわばり 眩暈, 傾眠, 振戦
腎臓 BUN, クレアチニンの上昇, 乏尿
代謝異常 低カリウム血症 高コレステロール血症, 高トリグリセリド血症, 高血糖
血液 好酸球増多, 好中球減少
その他 浮腫, 発熱, 倦怠感 熱感, 脱毛, 味覚倒錯, 副腎機能不全
(表終了)

ネイリンカプセル100mg（100mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】6290007M1022
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】ホスラブコナゾール L－リシンエタノール付加物
【メーカー】製)佐藤製薬
【薬価】814.8円/1C
【薬価収載日】2018/05/22
【標榜薬効】経口抗真菌剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
皮膚糸状菌(トリコフィトン属)
適応症
爪白癬
注意
1. 直接鏡検・培養等で爪白癬と確定診断された患者に使用。
2. 新しい爪が伸びてこない限り, 変色した爪所見を回復させるものではない。
【用法用量】成人 1回1カプセル(ラブコナゾール 100mg) 1日1回 12週間 内服。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(頻度不明)。
2. 多形紅斑(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹部不快感, 便秘 消化不良, 腹部膨満, 上腹部痛, 糜爛性胃炎 悪心, 嘔吐, 下痢, 食欲不振, 口渇
肝臓 γ－GTP増加 ALT増加, AST増加, 血中AI－P増加 血中LDH増加
腎臓 血中クレアチニン増加
皮膚 円形脱毛症, 皮脂欠乏性湿疹, 痒疹 発疹, 湿疹, 紅斑, 掻痒
臨床検査 白血球数減少, 白血球数増加, 赤血球数減少, ヘモグロビン減少 CK増加
その他 口角口唇炎 膀胱炎, 高尿酸血症 倦怠感, 眩暈, 頭痛
(表終了)

ベセルナクリーム5%（5%250mg1包）

外 外用 流通

【YJコード】6290701N1028
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】イミキモド
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】652.6円/1包
【薬価収載日】2007/09/21
【標榜薬効】尖圭コンジローマ治療薬, 日光角化症治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 尖圭コンジローマ(外性器・肛門周囲のみ)
2. 日光角化症(顔面・禿頭部のみ)
注意
日光角化症
1. 顔面・禿頭部以外の日光角化症への有効性・安全性は未確立。
2. 真皮内浸潤性の有棘細胞癌でないことを確認。視診, 触診による鑑別困難時, 組織学的検査を実施。
【用法用量】1. 尖圭コンジローマ(外性器・肛門周囲のみ)
1日1回 週3回 就寝前 塗布。塗布後はそのままの状態で, 起床後に塗布した薬剤を石鹸を用い, 水又は温水で洗い流す。
2. 日光角化症(顔面・禿頭部のみ)
1日1回 週3回 就寝前 塗布。塗布後はそのままの状態で, 起床後に塗布した薬剤を石鹸を用い, 水又は温水で洗い流す。4週間塗布後, 4週間休薬し, 病変消失時は終了, 効果不十分時はさらに4週間塗布。
注意
重度の炎症反応の可能性, 下記に注意。
効能共通
・連日塗布を避け, 週3回塗布。
尖圭コンジローマ
・外性器・肛門周囲の疣贅にのみ使用し, それ以外の部位には使用しない。
・塗布後6～10時間を目安に洗い流す。塗布時間の延長により, 重度の皮膚障害の可能性。
・疣贅に薄く塗り, クリームが見えなくなるまですり込む。
・使用期間は16週間まで。
日光角化症
・塗布後約8時間を目安に洗い流す。
・治療部位(25cm2までを目安)に最大1包塗り, クリームが見えなくなるまですり込む。
・4週間休薬後に効果不十分のため4週間の追加塗布及び経過観察後にも効果なければ, さらに本剤の塗布は行わずに他の治療に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 下記に使用しない。
尿道・膣内・子宮頸部・直腸・肛門内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な潰瘍, 糜爛, 紅斑, 浮腫, 表皮剥離等の皮膚障害(各頻度不明)。
2. 排尿困難(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 湿疹
皮膚 (塗布部位) 紅斑, 糜爛 表皮剥離, 落屑, 乾燥, 小水疱, 亀裂, 出血, 硬結, 丘疹, 毛包炎, 炎症, 浮腫, 湿潤, 滲出, 潰瘍, 痂皮, 異常感覚, 不快感, 疼痛, 刺激感, 掻痒感, 感染, 瘢痕, 腫脹, 色素沈着, 色素脱失 灼熱感, 圧痛, 刺痛, 過敏, 発疹, ピリピリ感, ざ瘡, 股部白癬, 疣贅の淡色化, 擦過傷, つっぱり感, 温感
その他 単純ヘルペス, 頭痛, 痔核の悪化, 排便痛, アトピー性皮膚炎の悪化, リンパ節症, リンパ節炎, 倦怠感, 筋肉痛, 悪心, 下痢, 発熱, 眩暈, 食欲不振 関節痛, 疲労, 無力症, 悪寒
(表終了)

ラミシール錠125mg（125mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6290005F1024
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】テルビナフィン塩酸塩
【メーカー】製)サンファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】54.8円/1T
【薬価収載日】1997/09/12
【標榜薬効】アリルアミン系抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮膚糸状菌(トリコフィトン属, ミクロスポルム属, エピデルモフィトン属), カンジダ属, スポロトリックス属, ホンセカエア属による下記感染症
外用抗真菌剤では治療困難な患者のみ
○深在性皮膚真菌症
白癬性肉芽腫, スポロトリコーシス, クロモミコーシス
○表在性皮膚真菌症
白癬 爪白癬, 手・足白癬, 生毛部白癬, 頭部白癬, ケルスス禿瘡, 白癬性毛瘡, 生毛部急性深在性白癬, 硬毛部急性深在性白癬
(注)手・足白癬は角質増殖型の患者及び趾間型で角化・浸軟の強い患者, 生毛部白癬は感染の部位・範囲より外用抗真菌剤を適用できない患者のみ
カンジダ症 爪カンジダ症
注意
罹患部位, 重症度及び感染の範囲より本剤の内服が適切な患者にのみ使用し, 外用抗真菌剤で治療可能な患者には使用しない。
【用法用量】成人 1回125mg 1日1回 食後 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 重篤な肝障害。
2. 汎血球減少, 無顆粒球症, 血小板減少等の血液障害。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用

6 病原生物に対する医薬品

1. 重篤な肝障害(肝不全, 肝炎, 胆汁うっ滞, 黄疸等)(0.01%)(発疹, 皮膚掻痒感, 発熱, 悪心・嘔吐, 食欲不振, 倦怠感等)。
2. 汎血球減少, 無顆粒球症, 血小板減少(各頻度不明)(咽頭炎, 発熱, リンパ節腫脹, 紫斑, 皮下出血等)。
3. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 急性全身性発疹性膿疱症, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK(CPK)上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
5. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
6. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
7. 亜急性皮膚エリテマトーデス(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0.1～1%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 ― 発疹, 蕁麻疹, 掻痒感, 紅斑 光線過敏性反応, 顔面浮腫, リンパ節腫脹, 多形紅斑, 水疱性皮膚炎 乾癬様発疹, 血清病様反応
筋・骨格系 ― ― 筋肉痛 関節痛
肝臓 γ－GTP上昇 AST, ALT, LDH, AI－Pの上昇 ― ―
血液 白血球減少 貧血 ― ―
消化器 胃部不快感 腹痛, 悪心, 下痢, 胃部膨満感, 食欲不振, 口渇 嘔吐, 舌炎 膵炎
精神神経系 ― 眩暈, ふらつき, 頭痛, 眠気 注意力低下, 不眠, しびれ錯感覚, 感覚鈍麻, 不安, 抑うつ
泌尿器 ― BUN上昇 頻尿 ―
感覚器 ― 味覚異常・味覚消失 耳鳴 嗅覚異常, 聴覚障害, 聴力低下, 霧視, 視力低下
その他 ― トリグリセライド上昇, 総コレステロール上昇, 疲労・倦怠感 動悸, 浮腫, 月経異常, 脱毛, 発熱, CK上昇 乾癬, 血管炎, インフルエンザ様疾患, 体重減少
(表終了)

ルコナック爪外用液5%(5%1g)

外 外用 流通

【YJコード】6290703Q1023
【薬効分類】6.2.9 その他の化学療法剤
【一般名】ルリコナゾール
【メーカー】製)佐藤製薬 販)サンファーマ
【薬価】663.6円/1g
【薬価収載日】2016/04/20
【標榜薬効】爪白癬治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
皮膚糸状菌(トリコフィトン属)
適応症
爪白癬
注意
1. 直接鏡検・培養等で爪白癬と確定診断された患者に使用。
2. 重症患者の有効性・安全性は未確認。
【用法用量】1日1回 罹患爪全体に塗布。
注意
長期間使用しても改善なければ中止を考慮等, 漫然と長期使用しない。臨床試験で48週を超えて使用時の有効性・安全性は未確認。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0.1～1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚乾燥, 接触皮膚炎, 湿疹, 皮膚炎, 皮膚刺激 皮膚剥脱, 紅斑, 過角化
その他 爪囲炎, 乾燥症 爪裂離 爪変色・その周囲の皮膚変色
(表終了)

6.3 生物学的製剤

6.3.9 その他の生物学的製剤

アクテムラ皮下注162mgオートインジェクター(162mg0.9mL1キット)

外 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】6399421G2029
【薬効分類】6.3.9 その他の生物学的製剤
【一般名】トシリズマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】32608円/1kit
【薬価収載日】2013/05/24
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヒト化抗ヒトIL－6レセプターモノクローナル抗体

■効能効果・用法用量
【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止含む)
高安動脈炎, 巨細胞性動脈炎
注意
関節リウマチ
1. 過去, 最低1剤の抗リウマチ薬による治療を行っても, 効果不十分時に投与。
高安動脈炎, 巨細胞性動脈炎
2. 副腎皮質ステロイド薬による治療を行っても疾患活動性を有する時, 副腎皮質ステロイド薬による治療の継続が困難時に投与。
【用法用量】1. 関節リウマチ
成人 1回162mg 2週間隔 皮下注。効果不十分時, 1週間まで投与間隔を短縮できる。
2. 高安動脈炎, 巨細胞性動脈炎
1回162mg 1週間隔 皮下注。
注意
効能共通
1. 血清中トシリズマブ濃度が維持されない状態で投与を継続すると, 抗トシリズマブ抗体が発現する可能性, 用法・用量を遵守。
2. 他の抗リウマチ生物製剤の併用について安全性・有効性は未確立なので併用を避ける。
関節リウマチ
3. 治療反応は, 開始から12週以内にあり。12週以内に治療反応がなければ, 治療計画の継続を再考。
4. 2週間隔投与の有効性は点滴静注用製剤より低い可能性, 2週間隔投与で効果不十分時は, 1週間まで投与間隔短縮又は点滴静注用製剤等への切りかえを考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な感染症の合併。
2. 活動性結核。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック(頻度不明), アナフィラキシー(0.3%)(血圧低下, 呼吸困難, 意識消失, 眩暈, 嘔気, 嘔吐, 掻痒感, 潮紅等)。
2. 重篤な感染症(肺炎(3.6%), 帯状疱疹(2.8%), 感染性胃腸炎(2.3%), 蜂巣炎(2.1%), 感染性関節炎(0.2%), 敗血症(0.3%), 非結核性抗酸菌症(0.3%), 結核(頻度不明), ニューモシスチス肺炎(頻度不明)等の日和見感染含む)。
3. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難等)。
4. 腸管穿孔(0.2%)。
5. 無顆粒球症(頻度不明), 白血球減少(7.3%), 好中球減少(6.4%), 血小板減少(1.8%)。
6. 心不全(頻度不明)。
7. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, ビリルビン等の上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
抵抗機構 ヘルペスウイルス感染, インフルエンザ 口腔カンジダ症, 耳下腺炎 創傷感染
呼吸器 上気道感染〔鼻咽頭炎, 上気道炎等〕(41.5%), 副鼻腔炎, 気管支炎, 咽喉頭疼痛, 咳嗽, 鼻炎 喘息, 胸膜炎, 鼻漏 咽頭不快感, 喀血, 咽頭紅斑, 鼻出血, 気管支拡張症, 鼻閉
代謝 コレステロール増加(12.7%), LDL増加, トリグリセリド増加, 高脂血症, HDL増加, 高コレステロール血症 LDH上昇, CK上昇, 血中尿酸増加, 糖尿病増悪, 血清フェリチン減少, 血中リン減少 高トリグリセリド血症, 総蛋白減少, 血中カリウム減少, 血糖増加, 血中リン増加, 血中カルシウム減少
肝臓 ALT上昇, γ－GTP上昇, AST上昇, 肝機能異常, ビリルビン増加, AI－P上昇 脂肪肝, 胆石症
循環器 高血圧, 血圧上昇 上室性期外収縮, 心室性期外収縮, ST部分下降, ST部分上昇, 血圧低下, 動悸 T波逆転, T波振幅減少, T波振幅増加
血液・凝固 貧血, 好酸球数増加, フィブリノゲン減少, リンパ球数減少 好中球数増加, 白血球数増加, リンパ節炎 フィブリン分解産物〔FDP, Dダイマー〕増加, ヘモグロビン減少, リンパ節腫脹, ヘマトクリット減少, 赤血球数減少, TAT増加
消化器 胃腸炎, 口内炎, 下痢, 腹痛, 便秘, 口唇炎, 嘔吐, 逆流性食道炎, 胃・腸ポリープ 痔核, 腹部不快感, 悪心, 腹部膨満, 胃潰瘍, 消化不良, 食欲不振, 舌炎 急性膵炎, 口渇
消化器 歯周病, 齲歯 歯痛
精神神経 頭痛, 浮動性眩暈, 不眠症 感覚減退, 末梢性ニューロパシー
耳 中耳炎, 眩暈 外耳炎, 耳鳴, 突発難聴 耳不快感
眼 結膜炎 結膜出血, 眼乾燥, 麦粒腫, 霰粒腫, 眼瞼炎, 硝子体浮遊物, 網膜出血 白内障
皮膚 発疹〔湿疹, 痒疹, 丘疹等〕, 掻痒症, 爪感染, 皮膚感染, 蕁麻疹, 紅斑, 白癬, 角化症, 脱毛症 皮下出血, 皮膚乾燥, 嵌入爪, 水疱, 皮膚潰瘍 皮膚嚢腫, ざ瘡
筋・骨格 背部痛 関節痛, 筋痛〔筋痛, 肩こり〕, 骨粗鬆症, 頚部痛, 骨

6 病原生物に対する医薬品

密度減少 四肢痛，若年性関節炎増悪
泌尿器 膀胱炎，尿中赤血球陽性，尿路感染 尿蛋白，腎盂腎炎，尿糖，頻尿 BUN増加，腎結石，NAG増加，尿中白血球陽性
生殖器 膣感染 性器出血 子宮頚管ポリープ
その他 注射部位反応〔紅斑，掻痒感，腫脹，出血，血腫，疼痛等〕，体重増加，発熱，アレルギー性鼻炎，膿瘍，浮腫 季節性アレルギー，胸痛，倦怠感，発汗障害，気分不良，胸部不快感，ほてり，悪寒 免疫グロブリンG減少，血栓性静脈炎，リウマチ因子陽性，DNA抗体陽性，抗核抗体陽性，潮紅，CRP増加
（表終了）

6．4 寄生動物用薬

6．4．2 駆虫剤

コンバントリン錠100mg（100mg1錠）

外 内服 流通

【YJコード】6429001F1036
【薬効分類】6．4．2 駆虫剤
【一般名】ピランテルパモ酸塩
【メーカー】製)佐藤製薬
【薬価】82.5円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】広域駆虫剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】回虫，鉤虫，蟯虫，東洋毛様線虫の駆除
【用法用量】10mg／kg 1回 内服。
注意
1．体重換算による服用量の概算。
（表開始）
体重(kg) 20 30 40 50以上
服用量(錠) 2 3 4 5
（表終了）
2．下剤使用の必要なし。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ピペラジン系駆虫薬(ピペラジンリン酸塩水和物)の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛 眩暈 嗜眠，不眠
消化器 腹痛，悪心・嘔吐 下痢，食欲不振
肝臓 AST上昇
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹
その他 倦怠感 冷汗，多汗
（表終了）

7 治療を主目的としない医薬品

7 治療を主目的としない医薬品

7．1 調剤用薬

7．1．2 軟膏基剤

プラスチベース（10g）

外 外用 流通

【YJコード】7129801X1027
【薬効分類】7．1．2 軟膏基剤
【一般名】ポリエチレン樹脂・流動パラフィン
【メーカー】製)大正製薬 販)大正富山医薬品
【薬価】100.4円/10g
【標榜薬効】炭化水素軟膏基剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軟膏基剤
【用法用量】軟膏基剤として調剤。

7．2 診断用薬（体外診断用医薬品を除く）

7．2．2 機能検査用試薬

メトピロンカプセル250mg（250mg1カプセル）

外 内服 流通

【YJコード】7223001M1035
【薬効分類】7．2．2 機能検査用試薬
【一般名】メチラポン
【メーカー】製)セオリアファーマ 販)武田薬品工業 販)ノバルティスファーマ
【薬価】1155.6円/1C
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】下垂体ACTH分泌機能検査薬，副腎皮質ホルモン合成阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下垂体ACTH分泌予備能の測定
2．クッシング症候群
注意
クッシング症候群
原疾患の治療は手術等の根治療法を第一に考慮。
【用法用量】下垂体ACTH分泌予備能の測定
成人 1回500～750mg 1日6回 4時間ごと 内服。
小児 1回15mg／kg 1日6回 4時間ごと 内服。1回の最少量 250mg。
クッシング症候群
成人・小児 1回250mg～1g 1日1～4回 内服。適宜増減。
注意
下垂体ACTH分泌予備能の測定
1．メトピロン・テストを行う前に全ての副腎皮質ステロイド療法を中止。
2．メトピロン・テスト実施期間中は，他剤は投与しない。
本テストに影響のある下記薬剤の報告あり。
フェニトイン，蛋白同化ステロイド，エストロゲン，クロルプロマジン，バルビツール酸誘導体，アミトリプチリン，抗甲状腺ホルモン剤，アルプラゾラム，シプロヘプタジン。
3．試験法
第1日目 対照期－24時間尿を集め，17－ヒドロキシコルチコステロイド（17－OHCS）又は，17－ケトジェニックステロイド（17－KGS）を測定。
第2日目 ACTH負荷試験（副腎皮質機能検査）を実施。
第3日目・第4日目 休薬。
第5日目 本剤投与。
第6日目 投与後の期間－24時間尿のステロイドを測定。最大の反応は，この日にみられる。
反応の判定
ACTH及び本剤に対する反応の判定は，対照期にみられるステロイド分泌と比較して，これらの薬剤に反応して生じる尿中の17－OHCS又は，17－KGSの増加に基づく。
本剤の反応は，内分泌性ACTHに対する副腎の反応性によるので，メトピロン・テスト前に投与したACTHに対して副腎の反応が弱ければ，下垂体の予備能を検査するメトピロン・テストを行っても無意味である。
尿中に排泄されるステロイドが最高値に達するのは，本剤投与後になる。24時間にわたって，経口的に本剤を投与すると，ステロイド排泄が頂点に達するのは，本剤投与終了に引続く24時間の採尿期間中である。
（1）．正常反応 下垂体機能が正常な時，本剤投与で，17－OHCS排泄が2～4倍に，又は17－KGS排泄が2倍に増加。
（2）．正常以下の反応 ACTHに正常に反応する患者で，本剤に対する反応が正常以下の時，下垂体機能の低下。
（3）．過剰反応 本剤投与後の17－OHCS又は17－KGSの正常範囲以上の過剰排泄は，副腎過形成を伴うクッシング症候群の可能性。この時，安静時にも尿中のステロイドの排泄が増加，ACTHや本剤に対して過剰の反応を示す。
クッシング症候群
4．血中・尿中コルチゾール値又は臨床症状により用量調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．副腎皮質機能不全。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）（血圧低下，冷汗，四肢冷却等）。
2．副腎皮質機能不全（頻度不明），急性副腎不全。
3．骨髄抑制（頻度不明）（汎血球減少，白血球減少，血小板減少，貧血等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒
循環器 低血圧，高血圧，QT延長
精神神経系 浮動性眩暈，頭痛，眠気，鎮静
消化器 腹部不快感，悪心・嘔吐，食欲減退，下痢，腹痛
皮膚 脱毛症，男性型多毛症，ざ瘡
代謝 低カリウム血症
肝臓 肝酵素上昇
（表終了）

7．9 その他の治療を主目的としない医薬品

7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品

ニコチネルTTS10（（17．5mg）10平方cm1枚）

外 外用 流通

【YJコード】7990712S1022
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】ニコチン
【メーカー】製)Haleonジャパン 販)アルフレッサファーマ 販)ノバルティスファーマ
【薬価】190.6円/1枚
【薬価収載日】2006/06/01
【標榜薬効】禁煙補助剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，医師により禁煙が必要と診断された禁煙意志の強い喫煙者が，医師の指導下で行う禁煙の補助
注意
1．禁煙意志が強く，循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，禁煙の困難な喫煙者に使用。
2．心疾患では，問診，心電図，血圧測定，運動負荷試験等により症状の安定を確認。
3．禁煙意志の強い喫煙者の禁煙補助を目的としていることを説明し，禁煙宣誓書等により禁煙意志の強いことを確認後使用。
4．禁煙の成功は，禁煙指導の質・頻度に依存，医師等の適切な禁煙指導下で禁煙計画・指導の補助として用いる。本剤使用後も禁煙を維持させるため，禁煙指導を実施。
【用法用量】ニコチネルTTS10（ニコチン 17．5mg含有），ニコチネルTTS20（ニコチン 35mg含有）又はニコチネルTTS30（ニコチン 52．5mg含有） 1日1回1枚 24時間貼付。最初の4週間はニコチネルTTS30から貼付 次の2週間はニコチネルTTS20を貼付 最後の2週間はニコチネルTTS10を貼付。最初の4週間に減量の必要時，ニコチネルTTS20を貼付。
10週間を超えて継続投与しない。
注意
1．減量時，予定の貼付期間を変更せず，一段階ニコチン含量の少ない同一製剤を使用。
2．就寝中に不眠等の睡眠障害の可能性，発現時中止。

■禁忌

【禁忌】1．非喫煙者。
2．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
3．不安定狭心症，急性期の心筋梗塞（発症後3ヵ月以内），重篤な不整脈，経皮的冠動脈形成術直後，冠動脈バイパス術直後。
4．脳血管障害回復初期。

7 治療を主目的としない医薬品

5. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(低血圧，頻脈，呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 － －次刺激性の接触皮膚炎(紅斑，掻痒) －次刺激性の接触皮膚炎(丘疹，腫脹，小水疱，刺激感)，皮膚剥離，色素沈着 －次刺激性の接触皮膚炎(熱感等)
精神神経系 神経過敏，錯感覚，振戦，不安，抑うつ気分 不眠 頭痛，眩暈，倦怠感，異夢，悪夢，集中困難 疲労，しびれ，眠気，易刺激性，感情不安定
消化器 － － 嘔気，嘔吐，腹痛，口内炎，下痢，食欲不振 胸やけ，便秘，消化不良
肝臓 － － ALT(GPT)，LDH，γ－GTP，総ビリルビン値の上昇 AST(GOT)上昇
循環器 － － 血圧上昇，動悸 不整脈
自律神経系 － － 口渇，ほてり，多汗 顔面蒼白，唾液過多
感覚器系 霧視 － 味覚倒錯(口中苦味感，味覚異常) 耳鳴
呼吸器系 咳嗽 － － 息苦しさ，咽頭違和感
筋・骨格系 背部痛 － － 筋肉痛，肩こり，関節痛
過敏症 － － 掻痒，発疹，アレルギー性接触皮膚炎，全身性蕁麻疹 粧糠疹(ふけの増加)
その他 － － 疼痛，ニコチン臭，トリグリセリド上昇，不快感 胸痛，浮腫，寒気，無力症，貼付上肢の重感
(表終了)

ニコチネルTTS20((35mg)20平方cm1枚)

外 外用 流通

【YJコード】7990712S2029
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】ニコチン
【メーカー】製)Haleonジャパン 販)アルフレッサファーマ 販)ノバルティスファーマ
【薬価】202.6円/1枚
【薬価収載日】2006/06/01
【標榜薬効】禁煙補助剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，医師により禁煙が必要と診断された禁煙意志の強い喫煙者が，医師の指導下で行う禁煙の補助
注意
1．禁煙意志が強く，循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，禁煙の困難な喫煙者に使用。
2．心疾患では，問診，心電図，血圧測定，運動負荷試験等により症状の安定を確認。
3．禁煙意志の強い喫煙者の禁煙補助を目的としていることを説明し，禁煙宣誓書等により禁煙意志の強いことを確認後使用。
4．禁煙の成功は，禁煙指導の質・頻度に依存，医師等の適切な禁煙指導下で禁煙計画・指導の補助として用いる。本剤使用後も禁煙を維持させるため，禁煙指導を実施。
【用法用量】ニコチネルTTS10(ニコチン 17．5mg含有)，ニコチネルTTS20(ニコチン 35mg含有)又はニコチネルTTS30(ニコチン 5
2．5mg含有) 1日1回1枚 24時間貼付。最初の4週間はニコチネルTTS30から貼付 次の2週間はニコチネルTTS20を貼付 最後の2週間はニコチネルTTS10を貼付。最初の4週間に減量の必要時，ニコチネルTTS20を貼付。
10週間を超えて継続投与しない。
注意
1．減量時，予定の貼付期間を変更せず，一段階ニコチン含量の少ない同一製剤を使用。
2．就寝中に不眠等の睡眠障害の可能性，発現時中止。

■禁忌

【禁忌】1．非喫煙者。
2．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
3．不安定狭心症，急性期の心筋梗塞(発症後3ヵ月以内)，重篤な不整脈，経皮的冠動脈形成術直後，冠動脈バイパス術直後。
4．脳血管障害回復初期。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(低血圧，頻脈，呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 － －次刺激性の接触皮膚炎(紅斑，掻痒) －次刺激性の接触皮膚炎(丘疹，腫脹，小水疱，刺激感)，皮膚剥離，色素沈着 －次刺激性の接触皮膚炎(熱感等)
精神神経系 神経過敏，錯感覚，振戦，不安，抑うつ気分 不眠 頭痛，眩暈，倦怠感，異夢，悪夢，集中困難 疲労，しびれ，眠気，易刺激性，感情不安定
消化器 － － 嘔気，嘔吐，腹痛，口内炎，下痢，食欲不振 胸やけ，便秘，消化不良
肝臓 － － ALT(GPT)，LDH，γ－GTP，総ビリルビン値の上昇 AST(GOT)上昇
循環器 － － 血圧上昇，動悸 不整脈
自律神経系 － － 口渇，ほてり，多汗 顔面蒼白，唾液過多
感覚器系 霧視 － 味覚倒錯(口中苦味感，味覚異常) 耳鳴
呼吸器系 咳嗽 － － 息苦しさ，咽頭違和感
筋・骨格系 背部痛 － － 筋肉痛，肩こり，関節痛
過敏症 － － 掻痒，発疹，アレルギー性接触皮膚炎，全身性蕁麻疹 粧糠疹(ふけの増加)
その他 － － 疼痛，ニコチン臭，トリグリセリド上昇，不快感 胸痛，浮腫，寒気，無力症，貼付上肢の重感
(表終了)

ニコチネルTTS30((52．5mg)30平方cm1枚)

外 外用 流通

【YJコード】7990712S3025
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】ニコチン
【メーカー】製)Haleonジャパン 販)アルフレッサファーマ 販)ノバルティスファーマ
【薬価】207.5円/1枚
【薬価収載日】2006/06/01
【標榜薬効】禁煙補助剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，医師により禁煙が必要と診断された禁煙意志の強い喫煙者が，医師の指導下で行う禁煙の補助
注意
1．禁煙意志が強く，循環器疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，代謝性疾患等の基礎疾患を持ち，禁煙の困難な喫煙者に使用。
2．心疾患では，問診，心電図，血圧測定，運動負荷試験等により症状の安定を確認。
3．禁煙意志の強い喫煙者の禁煙補助を目的としていることを説明し，禁煙宣誓書等により禁煙意志の強いことを確認後使用。
4．禁煙の成功は，禁煙指導の質・頻度に依存，医師等の適切な禁煙指導下で禁煙計画・指導の補助として用いる。本剤使用後も禁煙を維持させるため，禁煙指導を実施。
【用法用量】ニコチネルTTS10(ニコチン 17．5mg含有)，ニコチネルTTS20(ニコチン 35mg含有)又はニコチネルTTS30(ニコチン 5
2．5mg含有) 1日1回1枚 24時間貼付。最初の4週間はニコチネルTTS30から貼付 次の2週間はニコチネルTTS20を貼付 最後の2週間はニコチネルTTS10を貼付。最初の4週間に減量の必要時，ニコチネルTTS20を貼付。
10週間を超えて継続投与しない。
注意
1．減量時，予定の貼付期間を変更せず，一段階ニコチン含量の少ない同一製剤を使用。
2．就寝中に不眠等の睡眠障害の可能性，発現時中止。

■禁忌

【禁忌】1．非喫煙者。
2．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
3．不安定狭心症，急性期の心筋梗塞(発症後3ヵ月以内)，重篤な不整脈，経皮的冠動脈形成術直後，冠動脈バイパス術直後。
4．脳血管障害回復初期。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(低血圧，頻脈，呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 － －次刺激性の接触皮膚炎(紅斑，掻痒) －次刺激性の接触皮膚炎(丘疹，腫脹，小水疱，刺激感)，皮膚剥離，色素沈着 －次刺激性の接触皮膚炎(熱感等)
精神神経系 神経過敏，錯感覚，振戦，不安，抑うつ気分 不眠 頭痛，眩暈，倦怠感，異夢，悪夢，集中困難 疲労，しびれ，眠気，易刺激性，感情不安定
消化器 － － 嘔気，嘔吐，腹痛，口内炎，下痢，食欲不振 胸やけ，便秘，消化不良
肝臓 － － ALT(GPT)，LDH，γ－GTP，総ビリルビン値の上昇 AST(GOT)上昇
循環器 － － 血圧上昇，動悸 不整脈
自律神経系 － － 口渇，ほてり，多汗 顔面蒼白，唾液過多
感覚器系 霧視 － 味覚倒錯(口中苦味感，味覚異常) 耳鳴
呼吸器系 咳嗽 － － 息苦しさ，咽頭違和感

7 治療を主目的としない医薬品

筋・骨格系 背部痛 － － 筋肉痛，肩こり，関節痛
過敏症 － － 掻痒，発疹，アレルギー性接触皮膚炎，全身性蕁麻疹
粃糠疹（ふけの増加）
その他 － － 疼痛，ニコチン臭，トリグリセリド上昇，不快感 胸痛，浮腫，寒気，無力症，貼付上肢の重感
（表終了）

ニコチネルTTS30

8 麻薬

8．1 アルカロイド系麻薬（天然麻薬）

8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬

アヘンチンキ「タケダ」（10%1mL）

外 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8113001S1037
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】アヘンチンキ
【メーカー】製)武田薬品工業 販)塩野義製薬 販)住友ファーマ 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】193.2円/1mL
【標榜薬効】鎮痛・止瀉剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．激しい下痢症状の改善，術後等の腸管蠕動運動の抑制
2．激痛時の鎮痛・鎮静・鎮痙
3．激しい咳嗽発作の鎮咳
【用法用量】成人 1回0．5mL 1日1．5mL 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制。
2．気管支喘息発作中。
3．重篤な肝機能障害。
4．慢性肺疾患に続発する心不全。
5．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ジスルフィラム，シアナミド，プロカルバジン塩酸塩の投与患者。
10．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
4．無気肺（頻度不明），気管支痙攣（頻度不明），喉頭浮腫（頻度不明）。
5．麻痺性イレウス（頻度不明），中毒性巨大結腸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈，血圧変動，顔面潮紅
精神神経系 眠気，眩暈，不安，不穏，興奮，視調節障害，発汗，痛覚過敏，アロディニア
消化器 悪心，嘔吐，便秘，口渇
過敏症 発疹，掻痒感
その他 排尿障害，頭蓋内圧の亢進
（表終了）

コデインリン酸塩錠20mg「第一三共」（20mg1錠）

外 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8115001F1092
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】コデインリン酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)塩野義製薬 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】74.4円/1T
【薬価収載日】2008/11/21
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】各種呼吸器疾患の鎮咳・鎮静
疼痛時の鎮痛
激しい下痢症状の改善
【用法用量】成人 1回20mg 1日60mg 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制。
2．12歳未満の小児。
3．18歳未満で扁桃摘除術後・アデノイド切除術後の鎮痛。
4．気管支喘息発作中。
5．重篤な肝機能障害。
6．慢性肺疾患に続発する心不全。
7．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
8．急性アルコール中毒。
9．アヘンアルカロイドに過敏症。
10．出血性大腸炎。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱，せん妄（頻度不明）。
4．無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫（頻度不明）。
5．麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈，血圧変動，顔面潮紅
精神神経系 眠気，眩暈，視調節障害，発汗
消化器 悪心，嘔吐，便秘
過敏症 発疹，掻痒感
その他 排尿障害
（表終了）

8．2 非アルカロイド系麻薬

8．2．1 合成麻薬

デュロテップMTパッチ2．1mg（2．1mg1枚）

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219700S5026
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニル
【メーカー】製)ヤンセンファーマ 販)塩野義製薬 販)住友ファーマ 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】1649.6円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛（他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ）
○中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
○中等度から高度の慢性疼痛
注意
1．他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認され，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 3日ごと（約72時間）貼りかえ。
初回貼付用量は本剤投与前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，2．1mg（12．5μg／時），4．2mg（25μg／時），8．4mg（50μg／時），12．6mg（75μg／時）のいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
初回貼付用量として，本剤16．8mg（100μg／時）は推奨されない（初回貼付用量12．6mg（75μg／時）を超える使用経験はない）。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量90mg（坐剤1日45mg，注射 1日30mg），1日経口オキシコドン量60mg，1日経口コデイン量270mg以上，フェンタニル経皮吸収型製剤（1日貼付型製剤）1．7mg（フェンタニル 1日0．6mg）に本剤4．2mg（25μg／時（フェンタニル 1日0．6mg））へ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表（オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量） 癌疼痛の切りかえ
（表開始）
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg

定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
モルヒネ坐剤(mg／日) ＜30 30～69 70～112 113～157
モルヒネ注射剤(mg／日) ＜15 15～44 45～74 75～104
オキシコドン経口剤(mg／日) ＜30 30～89 90～149 150～209
フェンタニル注射剤(mg／日) ＜0．3 0．3～0．8 0．9～1．4 1．5～2
フェンタニル経皮吸収型製剤(注1)(1日貼付型製剤;貼付用量mg)
[定常状態の推定平均吸収量(mg／日)] 0．84 [0．3] 1．7 [0．6] 3．4 [1．2] 5 [1．8]
(表終了)
(注1)フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤を含まない。
換算表(オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量) 慢性疼痛の切りかえ
(表開始)
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg
定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
コデイン経口剤(mg／日) ＜270 270～ － －
(表終了)
(注2)本剤16．8mg(100μg／時)は，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は1日2．4mgに相当。
2．初回貼付時
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，初回貼付24時間後までフェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(注3)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(注3)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3．用量調整と維持
(1)．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2)．増量
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加されたオピオイド鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，2．1mg(12．5μg／時)から4．2mg(25μg／時)への増量時を除き，貼付用量の25～50%を目安として貼りかえ時に増量。1回貼付用量が50．4mg(300μg／時)を超える時は，他の方法を考慮。
(3)．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
(4)．投与の継続
慢性疼痛で，投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
4．投与中止
(1)．退薬症候を防ぐために漸減。
(2)．投与を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性(0．1%)(薬物依存)，退薬症候，死亡。
2．呼吸抑制(0．6%)(無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等)。
3．意識障害(0．13%)(意識レベルの低下，意識消失等)。
4．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
5．痙攣(頻度不明)(間代性，大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，高血圧，頻脈，低血圧 徐脈，チアノーゼ
精神神経系 傾眠，眩暈 不眠，不穏，せん妄，いらいら感，不安，うつ病，幻覚，健忘，錯乱，頭痛，味覚異常，振戦，激越，多幸症，記憶障害，回転性眩暈 錯感覚，感覚鈍麻，無感情，注意力障害，錐体外路障害，痛覚過敏，アロディニア
皮膚 貼付部位反応(掻痒感，紅斑，発疹，湿疹，皮膚炎)，掻痒，紅斑，湿疹，皮膚炎(接触性皮膚炎，アレルギー性皮膚炎含む)，発疹 貼付部位の小水疱，汗疹
消化器 嘔気，便秘，嘔吐 下痢，腹痛，イレウス，口渇，口内炎 胃部不快感，消化不良，痔核，食道運動障害
肝臓 肝機能異常
泌尿器 排尿困難，尿閉
眼障害 霧視 縮瞳，結膜炎，複視
感染症 膀胱炎，鼻咽頭炎 帯状疱疹
臨床検査 血中AI－P増加，AST増加，ALT増加 血中尿素窒素上昇，LDH増加，白血球数増加，γ－GTP増加，血小板数減少，総蛋白減少，体重減少，血中ビリルビン増加，血中カリウム減少 蛋白尿，尿糖陽性，白血球数減少
その他 倦怠感，食欲減退，薬剤離脱症候群，発熱，貧血，末梢性浮腫，筋痙縮，異常感，発汗，無力症，しゃっくり，筋骨格痛 性機能不全，勃起不全，疲労，インフルエンザ様疾患，冷感，体温変動感，体熱感，白血球増加症，耳鳴，背部痛，四肢痛，不正子宮出血，胸部不快感，胸痛，悪寒
(表終了)

デュロテップMTパッチ4．2mg (4．2mg1枚)

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219700S6022
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニル
【メーカー】製)ヤンセンファーマ 販)塩野義製薬 販)住友ファーマ 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】2868.4円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
○中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
○中等度から高度の慢性疼痛
注意
1．他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認され，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 3日ごと(約72時間)貼りかえ。
初回貼付用量は本剤投与前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，2．1mg(12．5μg／時)，4．2mg(25μg／時)，8．4mg(50μg／時)，12．6mg(75μg／時)のいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
初回貼付用量として，本剤16．8mg(100μg／時)は推奨されない(初回貼付用量12．6mg(75μg／時)を超える使用経験はない)。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量90mg(坐剤1日45mg，注射 1日30mg)，1日経口オキシコドン量60mg，1日経口コデイン量270mg以上，フェンタニル経皮吸収型製剤(1日貼付型製剤)1．7mg(フェンタニル 1日0．6mg)に本剤4．2mg(25μg／時(フェンタニル 1日0．6mg))へ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量) 癌疼痛の切りかえ
(表開始)
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg
定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
モルヒネ坐剤(mg／日) ＜30 30～69 70～112 113～157
モルヒネ注射剤(mg／日) ＜15 15～44 45～74 75～104
オキシコドン経口剤(mg／日) ＜30 30～89 90～149 150～209
フェンタニル注射剤(mg／日) ＜0．3 0．3～0．8 0．9～1．4 1．5～2
フェンタニル経皮吸収型製剤(注1)(1日貼付型製剤;貼付用量mg)
[定常状態の推定平均吸収量(mg／日)] 0．84 [0．3] 1．7 [0．6] 3．4 [1．2] 5 [1．8]
(表終了)
(注1)フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤を含まない。
換算表(オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量) 慢性疼痛の切りかえ
(表開始)
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg

定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
コデイン経口剤(mg／日) ＜270 270～ － －
(表終了)
(注2)本剤16．8mg(100μg／時)は，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は1日2．4mgに相当。
2．初回貼付時
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，初回貼付24時間後までフェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(注3)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(注3)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3．用量調整と維持
(1)．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2)．増量
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加されたオピオイド鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，2．1mg(12．5μg／時)から4．2mg(25μg／時)への増量時を除き，貼付用量の25～50%を目安として貼りかえ時に増量。1回貼付用量が50．4mg(300μg／時)を超える時は，他の方法を考慮。
(3)．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
(4)．投与の継続
慢性疼痛で，投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
4．投与中止
(1)．退薬症候を防ぐために漸減。
(2)．投与を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性(0．1%)(薬物依存)，退薬症候，死亡。
2．呼吸抑制(0．6%)(無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等)。
3．意識障害(0．13%)(意識レベルの低下，意識消失等)。
4．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
5．痙攣(頻度不明)(間代性，大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，高血圧，頻脈，低血圧 徐脈，チアノーゼ
精神神経系 傾眠，眩暈 不眠，不穏，せん妄，いらいら感，不安，うつ病，幻覚，健忘，錯乱，頭痛，味覚異常，振戦，激越，多幸症，記憶障害，回転性眩暈 錯感覚，感覚鈍麻，無感情，注意力障害，錐体外路障害，痛覚過敏，アロディニア
皮膚 貼付部位反応(掻痒感，紅斑，発疹，湿疹，皮膚炎)，掻痒，紅斑，湿疹，皮膚炎(接触性皮膚炎，アレルギー性皮膚炎含む)，発疹 貼付部位の小水疱，汗疹
消化器 嘔気，便秘，嘔吐 下痢，腹痛，イレウス，口渇，口内炎 胃部不快感，消化不良，痔核，食道運動障害
肝臓 肝機能異常
泌尿器 排尿困難，尿閉
眼障害 霧視 縮瞳，結膜炎，複視
感染症 膀胱炎，鼻咽頭炎 帯状疱疹
臨床検査 血中AlーP増加，AST増加，ALT増加 血中尿素窒素上昇，LDH増加，白血球数増加，γーGTP増加，血小板数減少，総蛋白減少，体重減少，血中ビリルビン増加，血中カリウム減少 蛋白尿，尿糖陽性，白血球数減少
その他 倦怠感，食欲減退，薬剤離脱症候群，発熱，貧血，末梢性浮腫，筋痙縮，異常感，発汗，無力症，しゃっくり，筋骨格痛 性機能不全，勃起不全，疲労，インフルエンザ様疾患，冷感，体温変動感，体熱感，白血球増加症，耳鳴，背部痛，四肢痛，不正子宮出血，胸部不快感，胸痛，悪寒
(表終了)

デュロテップMTパッチ8．4mg (8．4mg1枚)

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219700S7029
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニル
【メーカー】製)ヤンセンファーマ 販)塩野義製薬 販)住友ファーマ 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】5592.9円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
○中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
○中等度から高度の慢性疼痛
注意
1．他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認され，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 3日ごと(約72時間)貼りかえ。
初回貼付用量は本剤投与前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，2．1mg(12．5μg／時)，4．2mg(25μg／時)，8．4mg(50μg／時)，12．6mg(75μg／時)のいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
初回貼付用量として，本剤16．8mg(100μg／時)は推奨されない(初回貼付用量12．6mg(75μg／時)を超える使用経験はない)。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量90mg(坐剤1日45mg，注射 1日30mg)，1日経口オキシコドン量60mg，1日経口コデイン量270mg以上，フェンタニル経皮吸収型製剤(1日貼付型製剤)1．7mg(フェンタニル 1日0．6mg)に本剤4．2mg(25μg／時(フェンタニル 1日0．6mg))へ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量) 癌疼痛の切りかえ
(表開始)
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg
定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
モルヒネ坐剤(mg／日) ＜30 30～69 70～112 113～157
モルヒネ注射剤(mg／日) ＜15 15～44 45～74 75～104
オキシコドン経口剤(mg／日) ＜30 30～89 90～149 150～209
フェンタニル注射剤(mg／日) ＜0．3 0．3～0．8 0．9～1．4 1．5～2
フェンタニル経皮吸収型製剤(注1)(1日貼付型製剤;貼付用量mg)[定常状態の推定平均吸収量(mg／日)] 0．84 [0．3] 1．7 [0．6] 3．4 [1．2] 5 [1．8]
(表終了)
(注1)フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤を含まない。
換算表(オピオイド鎮痛剤1日使用量による推奨貼付用量) 慢性疼痛の切りかえ
(表開始)
本剤3日貼付用量 2．1mg 4．2mg 8．4mg 12．6mg
定常状態の推定平均吸収速度(注2)(μg／時) 12．5 25 50 75
定常状態の推定平均吸収量(注2)(mg／日) 0．3 0．6 1．2 1．8
↑ ↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤(mg／日) ＜45 45～134 135～224 225～314
コデイン経口剤(mg／日) ＜270 270～ － －
(表終了)
(注2)本剤16．8mg(100μg／時)は，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は1日2．4mgに相当。
2．初回貼付時
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，初回貼付24時間後までフェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(注3)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。

1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
（表終了）
（注3）経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3．用量調整と維持
（1）．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
（2）．増量
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加されたオピオイド鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，2．1mg（12．5μg／時）から4．2mg（25μg／時）への増量時を除き，貼付用量の25～50%を目安として貼りかえ時に増量。1回貼付用量が50．4mg（300μg／時）を超える時は，他の方法を考慮。
（3）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
（4）．投与の継続
慢性疼痛で，投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
4．投与中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．投与を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（0．1%）（薬物依存），退薬症候，死亡。
2．呼吸抑制（0．6%）（無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等）。
3．意識障害（0．13%）（意識レベルの低下，意識消失等）。
4．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
5．痙攣（頻度不明）（間代性，大発作型等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，高血圧，頻脈，低血圧 徐脈，チアノーゼ
精神神経系 傾眠，眩暈 不眠，不穏，せん妄，いらいら感，不安，うつ病，幻覚，健忘，錯乱，頭痛，味覚異常，振戦，激越，多幸症，記憶障害，回転性眩暈 錯感覚，感覚鈍麻，無感情，注意力障害，錐体外路障害，痛覚過敏，アロディニア
皮膚 貼付部位反応（掻痒感，紅斑，発疹，湿疹，皮膚炎），掻痒，紅斑，湿疹，皮膚炎（接触性皮膚炎，アレルギー性皮膚炎含む），発疹 貼付部位の小水疱，汗疹
消化器 嘔気，便秘，嘔吐 下痢，腹痛，イレウス，口渇，口内炎 胃部不快感，消化不良，痔核，食道運動障害
肝臓 肝機能異常
泌尿器 排尿困難，尿閉
眼障害 霧視 縮瞳，結膜炎，複視
感染症 膀胱炎，鼻咽頭炎 帯状疱疹
臨床検査 血中AlーP増加，AST増加，ALT増加 血中尿素窒素上昇，LDH増加，白血球数増加，γ－GTP増加，血小板数減少，総蛋白減少，体重減少，血中ビリルビン増加，血中カリウム減少 蛋白尿，尿糖陽性，白血球数減少
その他 倦怠感，食欲減退，薬剤離脱症候群，発熱，貧血，末梢性浮腫，筋痙縮，異常感，発汗，無力症，しゃっくり，筋骨格痛 性機能不全，勃起不全，疲労，インフルエンザ様疾患，冷感，体温変動感，体熱感，白血球増加症，耳鳴，背部痛，四肢痛，不正子宮出血，胸部不快感，胸痛，悪寒
（表終了）

フェントステープ1mg（1mg1枚）

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S1025
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【メーカー】製）久光製薬 販）協和キリン
【薬価】483.6円/1枚
【薬価収載日】2010/06/11

【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人
非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛（慢性疼痛は他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ）
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
中等度から高度の慢性疼痛
小児
非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛（他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ）
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
効能共通
1．オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用する時は，他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認された患者に使用。
癌疼痛
3．成人 貼付前にオピオイド鎮痛剤を使用していない癌疼痛には，経口オピオイド鎮痛剤に比べ治療が有益である時（内服が困難，経口剤による副作用発現のおそれ，多剤併用等により貼付剤の投与が望まれる等）にのみ使用。経口オピオイド鎮痛剤に比べ有効成分の血中濃度が徐々に上昇するため，至適用量を決定するまでに時間を要する可能性。
慢性疼痛
4．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，使用の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人
胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日（約24時間）ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の治療有無で下記を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
癌疼痛
貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用 0．5mgより開始。
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時 貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
慢性疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
小児
癌疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
小児（2歳以上） 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日（約24時間）ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，6歳以上は，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択し，2～6歳未満は，0．5mg，1mg，2mgのいずれかの用量を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時
癌疼痛
成人 初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない（初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない）。
6歳以上の小児 初回貼付用量として8mgは推奨されず，4mg・6mgは，慎重投与（6歳以上の小児の初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし）。
2～6歳未満の小児 初回貼付用量は換算表を目安に選択するが，2mgを超える用量は推奨されず，換算表よりも低用量への切りかえも考慮（2～6歳未満の小児は，成人に比べ血中フェンタニル濃度の上昇及び傾眠の発現割合の増加が認められており，初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし）。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg（坐剤1日30mg，注射 1日20mg），1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤）4．2mg（25μg／時；1日フェンタニル0．6mg）に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表（オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量）
癌疼痛
（表開始）
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 0．5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 0．15mg／日 0．3mg／日 0．6mg／日 1．2mg／日 1．8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤（mg／日） ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤（mg／日） － ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注（mg／日） ≦5 6～9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤（mg／日） オキシコドン経口剤（mg／日） ≦10 11～19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤；貼付

用量mg) フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) ― 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
(表終了)
(注)本剤8mgは, 初回貼付用量としては推奨されないが, 定常状態の推定平均吸収量は, 1日フェンタニル2. 4mgに相当。
慢性疼痛
初回貼付用量として, 本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量として6mgを超える使用経験は少ない)。初回貼付用量を選択する換算表は, 1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg, 注射 1日20mg), フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg/時;1日フェンタニル0. 6mg), 1日経口コデイン量180mg以上に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し, 過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
慢性疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 0. 5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 15mg/日 0. 3mg/日 0. 6mg/日 1. 2mg/日 1. 8mg/日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ経口剤(mg/日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) ― 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
使用前の鎮痛剤 コデイン経口剤(mg/日) ≦90 91～179 180～― ―
(表終了)
(注)本剤8mgは, 初回貼付用量としては推奨されないが, 定常状態の推定平均吸収量は, 1日フェンタニル2. 4mgに相当。
2. 初回貼付時
(1). 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛, 慢性疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時, フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため, 鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(a)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(a)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では, 鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し, 鎮痛効果が得られるまで, オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として, 切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。この場合, 速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2). 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため, 鎮痛効果が得られるまで時間を要す。鎮痛効果が得られるまで, 適時オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として, 経口剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg), 1日経口オキシコドン量10mgに相当。
3. 用量調整と維持
(1). 疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり, 疼痛管理されている患者で突出痛があれば, オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛, 慢性疼痛)
1回の追加量として, 切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。この場合, 速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
1回の追加量として, 経口剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。この場合, 速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg), 1日経口オキシコドン量10mgに相当。
(2). 増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量しない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時, 追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し, 下記の通り増量。1回貼付用量が24mg(1日7. 2mg)を超える時は, 他の方法を考慮。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時(癌疼痛, 慢性疼痛)
本剤を0. 5mg(1日0. 15mg), 1mg(1日0. 3mg), 1. 5mg(1日0. 45mg)又は2mg(1日0. 6mg)ずつ増量。0. 5mgから増量する時は1mg, 1mgから増量する時は1. 5mg又は2mg, 1. 5mgから増量する時は2mg, 2. 5mg又は3mgに増量。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後, 至適用量決定までは, 0. 5mgから1mgへ増量時除き貼付用量の50%を超えて増量しない。
以降は[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時により増量。
(3). 減量
連用中の急激な減量は, 退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は, 慎重に行う。
(4). 慢性疼痛への使用継続
貼付開始後4週間を経過しても効果なければ, 他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し, 使用の継続の必要性を検討。
4. 使用中止
(1). 退薬症候を防ぐために漸減。
(2). 使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には, 本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上(16. 75～45. 07時間)かかるため, 他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し, 鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症。
2. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(0. 5%)(無呼吸, 呼吸困難, 呼吸異常, 呼吸緩慢, 不規則な呼吸, 換気低下等)。
2. 意識障害(0. 2%)(意識レベルの低下, 意識消失等)。
3. 依存性(頻度不明), 退薬症候, 死亡。
4. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
5. 痙攣(頻度不明)(間代性, 大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)(癌疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈, 頭痛, 不眠, せん妄 幻覚, 気分変動 健忘, 不安, 易刺激性, 振戦, 不快気分, 感覚鈍麻, アカシジア, 失見当識, 構語障害, 悪夢, 痛覚過敏, アロディニア
循環器 上室性期外収縮 血圧上昇, 動悸, 心房細動, 徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒, 貼付部位の紅斑 発疹 紅斑, 貼付部位の皮膚炎, 湿疹, 蕁麻疹, 貼付部位の湿疹
呼吸器 咽頭痛, 呼吸困難 過換気, 口腔咽頭不快感
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘 下痢, 食欲不振 胃部不快感, 腹部膨満感, 胃炎, 腹痛, 味覚異常 腹部不快感, 消化不良, 口内炎, 憩室炎, 食道運動障害
肝臓 ALT, AST, γ－GTP, AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓 尿蛋白 排尿困難, BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 好中球増加, 単球増加, 白血球数増加 リンパ球減少, 白血球数減少, 血小板数増加, 好酸球増加
その他 倦怠感, 発熱 発汗, しゃっくり, 血中カリウム減少 口渇, 薬剤離脱症候群, 異常感, 末梢性浮腫, 血中カリウム増加, 鼻咽頭炎, 悪寒, 胸部不快感, 高血圧, 筋痙縮, 耳鳴, 挫傷
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(慢性疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠(23. 9%), 眩暈 頭痛, 不眠, 不安, 易刺激性, 振戦 不快気分, 感覚鈍麻, アカシジア, 失見当識, 構語障害, 悪夢 せん妄, 幻覚, 気分変動, 健忘, 痛覚過敏, アロディニア
循環器 血圧上昇, 動悸, 心房細動, 上室性期外収縮, 徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒, 貼付部位の紅斑, 貼付部位の皮膚炎 発疹, 湿疹, 蕁麻疹, 貼付部位の湿疹 紅斑
呼吸器 呼吸困難, 過換気, 口腔咽頭不快感 咽頭痛
消化器 悪心(21. 7%), 嘔吐, 便秘, 食欲不振 腹部不快感, 下痢 消化不良, 口内炎, 腹痛, 憩室炎 胃部不快感, 腹部膨満感, 胃炎, 味覚異常, 食道運動障害
肝臓 AI－P上昇 γ－GTP増加 ALT, AST, ビリルビンの上昇
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇 排尿困難 尿蛋白
血液 リンパ球減少, 白血球数増加, 白血球数減少, 好酸球増加, 好中球増加, 単球増加 血小板数増加
その他 薬剤離脱症候群 倦怠感, 異常感, 口渇, 発汗, 末梢性浮腫, 血中カリウム増加, 鼻咽頭炎 血中カリウム減少, 悪寒, 発熱, 胸部不快感, 高血圧, 筋痙縮, 耳鳴, 挫傷 しゃっくり
(表終了)

フェントステープ2mg (2mg1枚)

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S2021
【薬効分類】8. 2. 1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【メーカー】製)久光製薬 販)協和キリン
【薬価】900.5円/1枚
【薬価収載日】2010/06/11
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】成人
非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(慢性疼痛は他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
中等度から高度の慢性疼痛
小児
非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤か

8 麻薬

ら切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
効能共通
1. オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用する時は，他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認された患者に使用。
癌疼痛
3. 成人 貼付前にオピオイド鎮痛剤を使用していない癌疼痛には，経口オピオイド鎮痛剤に比べ治療が有益である時(内服が困難，経口剤による副作用発現のおそれ，多剤併用等により貼付剤の投与が望まれる等)にのみ使用。経口オピオイド鎮痛剤に比べ有効成分の血中濃度が徐々に上昇するため，至適用量を決定するまでに時間を要する可能性。
慢性疼痛
4. 慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，使用の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人
胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の治療有無で下記を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
癌疼痛
貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用 0. 5mgより開始。
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時 貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
慢性疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
小児
癌疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
小児(2歳以上) 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，6歳以上は，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択し，2～6歳未満は，0. 5mg，1mg，2mgのいずれかの用量を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
注意
1. 初回貼付用量
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時
癌疼痛
成人 初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない)。
6歳以上の小児 初回貼付用量として8mgは推奨されず，4mg・6mgは，慎重投与(6歳以上の小児の初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
2～6歳未満の小児 初回貼付用量は換算表を目安に選択するが，2mgを超える用量は推奨されず，換算表よりも低用量への切りかえも考慮(2～6歳未満の小児は，成人に比べ血中フェンタニル濃度の上昇及び傾眠の発現割合の増加が認められており，初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg，注射 1日20mg)，1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg／時;1日フェンタニル0. 6mg)に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
癌疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 0. 5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 15mg／日 0. 3mg／日 0. 6mg／日 1. 2mg／日 1. 8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤(mg／日) － ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注(mg／日) ≦5 6～9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤(mg／日) オキシコドン経口剤(mg／日) ≦10 11～19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2. 4mgに相当。
慢性疼痛
初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量として6mgを超える使用経験は少ない)。初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg，注射 1日20mg)，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg／時;1日フェンタニル0. 6mg)，1日経口コデイン量180mg以上に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
慢性疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 0. 5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 15mg／日 0. 3mg／日 0. 6mg／日 1. 2mg／日 1. 8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
使用前の鎮痛剤 コデイン経口剤(mg／日) ≦90 91～179 180～ － －
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2. 4mgに相当。
2. 初回貼付時
(1). 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(a)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(a)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2). 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。鎮痛効果が得られるまで，適時オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg)，1日経口オキシコドン量10mgに相当。
3. 用量調整と維持
(1). 疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
1回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg)，1日経口オキシコドン量10mgに相当。
(2). 増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量しない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，下記の通り増量。1回貼付用量が24mg(1日7. 2mg)を超える時は，他の方法を考慮。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
本剤を0. 5mg(1日0. 15mg)，1mg(1日0. 3mg)，1. 5mg(1日0. 45mg)又は2mg(1日0. 6mg)ずつ増量。0. 5mgから増量する時は1mg，1mgから増量する時は1. 5mg又は2mg，1. 5mgから増量する時は2mg，2. 5mg又は3mgに増量。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後，至適用量決定までは，0. 5mgから1mgへ増量時除き貼付用量の50%を超えて増量しない。
以降は[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時により増量。
(3). 減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
(4). 慢性疼痛への使用継続
貼付開始後4週間を経過しても効果なければ，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，使用の継続の必要性を検討。
4. 使用中止
(1). 退薬症候を防ぐために漸減。
(2). 使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上(16. 75～45. 07時間)かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始

フェントステープ2mg

し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症。
2. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(0. 5%)(無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等)。
2. 意識障害(0. 2%)(意識レベルの低下，意識消失等)。
3. 依存性(頻度不明)，退薬症候，死亡。
4. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
5. 痙攣(頻度不明)(間代性，大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)(癌疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈，頭痛，不眠，せん妄 幻覚，気分変動 健忘，不安，易刺激性，振戦，不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢，痛覚過敏，アロディニア
循環器 上室性期外収縮 血圧上昇，動悸，心房細動，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑 発疹 紅斑，貼付部位の皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹
呼吸器 咽頭痛，呼吸困難 過換気，口腔咽頭不快感
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢，食欲不振 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，腹痛，味覚異常 腹部不快感，消化不良，口内炎，憩室炎，食道運動障害
肝臓 ALT，AST，γ－GTP，AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓 尿蛋白 排尿困難，BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 好中球増加，単球増加，白血球数増加 リンパ球減少，白血球数減少，血小板数増加，好酸球増加
その他 倦怠感，発熱 発汗，しゃっくり，血中カリウム減少 口渇，薬剤離脱症候群，異常感，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎，悪寒，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(慢性疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠(23. 9%)，眩暈 頭痛，不眠，不安，易刺激性，振戦 不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢 せん妄，幻覚，気分変動，健忘，痛覚過敏，アロディニア
循環器 血圧上昇，動悸，心房細動，上室性期外収縮，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑，貼付部位の皮膚炎 発疹，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹 紅斑
呼吸器 呼吸困難，過換気，口腔咽頭不快感 咽頭痛
消化器 悪心(21. 7%)，嘔吐，便秘，食欲不振 腹部不快感，下痢 消化不良，口内炎，腹痛，憩室炎 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，味覚異常，食道運動障害
肝臓 AI－P上昇 γ－GTP増加 ALT，AST，ビリルビンの上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇 排尿困難 尿蛋白
血液 リンパ球減少，白血球数増加，白血球数減少，好酸球増加，好中球増加，単球増加 血小板数増加
その他 薬剤離脱症候群 倦怠感，異常感，口渇，発汗，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎 血中カリウム減少，悪寒，発熱，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷 しゃっくり
(表終了)

フェントステープ6mg（6mg1枚）

外 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S4024
【薬効分類】8. 2. 1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【メーカー】製)久光製薬 販)協和キリン
【薬価】2520.2円/1枚
【薬価収載日】2010/06/11
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(慢性疼痛は他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
中等度から高度の慢性疼痛
小児
非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
効能共通
1. オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用する時は，他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認された患者に使用。
癌疼痛
3. 成人 貼付前にオピオイド鎮痛剤を使用していない癌疼痛には，経口オピオイド鎮痛剤に比べ治療が有益である時(内服が困難，経口剤による副作用発現のおそれ，多剤併用等により貼付剤の投与が望まれる等)にのみ使用。経口オピオイド鎮痛剤に比べ有効成分の血中濃度が徐々に上昇するため，至適用量を決定するまでに時間を要する可能性。
慢性疼痛
4. 慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，使用の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人
胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の治療有無で下記を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
癌疼痛
貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用 0. 5mgより開始。
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時 貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
慢性疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
小児
癌疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
小児(2歳以上) 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，6歳以上は，0. 5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択し，2～6歳未満は，0. 5mg，1mg，2mgのいずれかの用量を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
注意
1. 初回貼付用量
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時
癌疼痛
成人 初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない)。
6歳以上の小児 初回貼付用量として8mgは推奨されず，4mg・6mgは，慎重投与(6歳以上の小児の初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
2～6歳未満の小児 初回貼付用量は換算表を目安に選択するが，2mgを超える用量は推奨されず，換算表よりも低用量への切りかえも考慮(2～6歳未満の小児は，成人に比べ血中フェンタニル濃度の上昇及び傾眠の発現割合の増加が認められており，初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg，注射 1日20mg)，1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg／時;1日フェンタニル0. 6mg)に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
癌疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 0. 5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 15mg／日 0. 3mg／日 0. 6mg／日 1. 2mg／日 1. 8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤(mg／日) － ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注(mg／日) ≦5 6～9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤(mg／日) オキシコドン経口剤(mg／日) ≦10 11～19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2. 4mgに相当。
慢性疼痛
初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量として6mgを超える使用経験は少ない)。初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg，注射 1日20mg)，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg／時;1日フェンタニル0. 6mg)，1日経口コデイン量180mg以上に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
慢性疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 0. 5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 15mg／日 0. 3mg／日 0. 6mg／日 1. 2mg／日 1. 8mg／日

↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
使用前の鎮痛剤 コデイン経口剤(mg／日) ≦90 91～179 180～
－ －
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2. 4mgに相当。
2. 初回貼付時
(1). 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(a)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(a)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2). 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。鎮痛効果が得られるまで，適時オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg)，1日経口オキシコドン量10mgに相当。
3. 用量調整と維持
(1). 疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
1回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0. 5mgは1日経口モルヒネ量15mg(注射剤 1日5mg)，1日経口オキシコドン量10mgに相当。
(2). 増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量しない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，下記の通り増量。1回貼付用量が24mg(1日7. 2mg)を超える時は，他の方法を考慮。
[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
本剤を0. 5mg(1日0. 15mg)，1mg(1日0. 3mg)，1. 5mg(1日0. 45mg)又は2mg(1日0. 6mg)ずつ増量。0. 5mgから増量する時は1mg，1mgから増量する時は1. 5mg又は2mg，1. 5mgから増量する時は2mg，2. 5mg又は3mgに増量。
[2]. 貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後，至適用量決定までは，0. 5mgから1mgへ増量時除き貼付用量の50%を超えて増量しない。
以降は[1]. 他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時により増量。
(3). 減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
(4). 慢性疼痛への使用継続
貼付開始後4週間を経過しても効果なければ，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，使用の継続の必要性を検討。
4. 使用中止
(1). 退薬症候を防ぐために漸減。
(2). 使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上(16. 75～45. 07時間)かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症。
2. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(0. 5%)(無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等)。
2. 意識障害(0. 2%)(意識レベルの低下，意識消失等)。
3. 依存性(頻度不明)，退薬症候，死亡。
4. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
5. 痙攣(頻度不明)(間代性，大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)(癌疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈，頭痛，不眠，せん妄 幻覚，気分変動 健忘，不安，易刺激性，振戦，不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢，痛覚過敏，アロディニア
循環器 上室性期外収縮 血圧上昇，動悸，心房細動，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑 発疹 紅斑，貼付部位の皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹
呼吸器 咽頭痛，呼吸困難 過換気，口腔咽頭不快感
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢，食欲不振 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，腹痛，味覚異常 腹部不快感，消化不良，口内炎，憩室炎，食道運動障害
肝臓 ALT，AST，γ－GTP，AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓 尿蛋白 排尿困難，BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 好中球増加，単球増加，白血球数増加 リンパ球減少，白血球数減少，血小板数増加，好酸球増加
その他 倦怠感，発熱 発汗，しゃっくり，血中カリウム減少 口渇，薬剤離脱症候群，異常感，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎，悪寒，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(慢性疼痛)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠(23. 9%)，眩暈 頭痛，不眠，不安，易刺激性，振戦 不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢 せん妄，幻覚，気分変動，健忘，痛覚過敏，アロディニア
循環器 血圧上昇，動悸，心房細動，上室性期外収縮，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑，貼付部位の皮膚炎 発疹，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹 紅斑
呼吸器 呼吸困難，過換気，口腔咽頭不快感 咽頭痛
消化器 悪心(21. 7%)，嘔吐，便秘，食欲不振 腹部不快感，下痢 消化不良，口内炎，腹痛，憩室炎 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，味覚異常，食道運動障害
肝臓 AI－P上昇 γ－GTP増加 ALT，AST，ビリルビンの上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇 排尿困難 尿蛋白
血液 リンパ球減少，白血球数増加，白血球数減少，好酸球増加，好中球増加，単球増加 血小板数増加
その他 薬剤離脱症候群 倦怠感，異常感，口渇，発汗，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎 血中カリウム減少，悪寒，発熱，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷 しゃっくり
(表終了)